

法学部 政策科学科 (2014年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 小林 道彦	1学期	1	2	1
	1年				
	異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	1学期	1	2	2
	1年				
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	1学期	1	2	3
	1年				
	国際学入門 IRL100F 伊野 憲治	1学期	1	2	4
	1年				
	生活世界の哲学 PHR110F 伊原木 大祐	1学期	1	2	5
	1年				
	日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	1学期	1	2	6
	1年				
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	7
	1年				
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	8
	1年				
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	1学期	1	2	9
	1年				
	可能性としての歴史 HIS200F 小林 道彦	2学期	2	2	10
	2年				
現代社会と文化 ANT210F 神原 ゆうこ	2学期	2	2	11	
2年					
言語と認知 LIN210F 漆原 朗子 他	1学期	2	2	12	
2年					
共生社会論 SOW200F 伊野 憲治	2学期	2	2	13	
2年					
共同体と身体 PHR210F 伊原木 大祐	2学期	2	2	14	
2年					
戦争論 PLS210F 戸蒔 仁司	2学期	2	2	15	
2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	生命科学と社会 BIO200F 日高 京子 他	1学期	2	2	16
		2年			
	情報社会を読む INF200F 浅羽 修丈	2学期	2	2	17
		2年			
	地域資源管理論 ENV200F 廣川 祐司	2学期	2	2	18
		2年			
■教養演習科目	教養基礎演習I GES101F 伊野 憲治 他	1学期	1	2	19
		1年			
	教養基礎演習I GES101F 日高 京子	1学期	1	2	20
		1年			
	教養基礎演習I GES101F 小林 道彦	1学期	1	2	21
		1年			
	教養基礎演習I GES101F 神原 ゆうこ	1学期	1	2	22
		1年			
	教養基礎演習I GES101F 徳永 政夫	1学期	1	2	23
		1年			
	教養基礎演習I GES101F 廣川 祐司	1学期	1	2	24
		1年			
	教養基礎演習I (防衛セミナー) GES101F 戸蒔 仁司	1学期	1	2	25
		1年			
	教養基礎演習I GES101F 伊原木 大祐	1学期	1	2	26
		1年			
	教養基礎演習I GES101F 高西 敏正	1学期	1	2	27
		1年			
教養基礎演習II GES102F 伊野 憲治 他	2学期	1	2	28	
	1年				
教養基礎演習II GES102F 眞鍋 和博 他	2学期	1	2	29	
	1年				
教養基礎演習II GES102F 日高 京子	2学期	1	2	30	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養基礎演習II GES102F 小林 道彦	2学期	1	2	31
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 神原 ゆうこ	2学期	1	2	32
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 徳永 政夫	2学期	1	2	33
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 稲月 正	2学期	1	2	34
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 廣川 祐司	2学期	1	2	35
		1年			
	教養基礎演習II (防衛セミナー) GES102F 戸蒔 仁司	1学期	1	2	36
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 伊原木 大祐	2学期	1	2	37
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 高西 敏正	2学期	1	2	38
		1年			
	教養演習AI GES201F 高西 敏正	1学期	2	2	39
		2年			
教養演習AI GES201F 伊野 憲治 他	1学期	2	2	40	
	2年				
教養演習AI GES201F 日高 京子	1学期	2	2	41	
	2年				
教養演習AI GES201F 小林 道彦	1学期	2	2	42	
	2年				
教養演習AI GES201F 神原 ゆうこ	1学期	2	2	43	
	2年				
教養演習AI (防衛セミナー) GES201F 戸蒔 仁司	1学期	2	2	44	
	2年				
教養演習AI GES201F 伊原木 大祐	1学期	2	2	45	
	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習 AII	2学期	2	2	46
	GES202F 伊野 憲治 他	2年			
	教養演習 AII	2学期	2	2	47
	GES202F 徳永 政夫 他	2年			
	教養演習 AII	2学期	2	2	48
	GES202F 日高 京子	2年			
	教養演習 AII	2学期	2	2	49
	GES202F 小林 道彦	2年			
	教養演習 AII	2学期	2	2	50
	GES202F 神原 ゆうこ	2年			
	教養演習 AII (防衛セミナー)	1学期	2	2	51
	GES202F 戸蒔 仁司	2年			
	教養演習 AII	2学期	2	2	52
	GES202F 稲月 正	2年			
	教養演習 AII	2学期	2	2	53
	GES202F 伊原木 大祐	2年			
教養演習 AII	2学期	2	2	54	
GES202F 二宮 正人	2年				
教養演習 B I	1学期	3	2		
GES301F 未開講	3年				
教養演習 B I	1学期	3	2		
GES301F 未開講	3年				
教養演習 B I	1学期	3	2		
GES301F 未開講	3年				
教養演習 B I	1学期	3	2		
GES301F 未開講	3年				
教養演習 B I	1学期	3	2		
GES301F 未開講	3年				
教養演習 B I (防衛セミナー)	1学期	3	2		
GES301F 未開講	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BⅠ GES301F 未開講	1学期	3	2	3年
	教養演習BⅡ GES302F 未開講	2学期	3	2	3年
	教養演習BⅡ GES302F 未開講	2学期	3	2	3年
	教養演習BⅡ GES302F 未開講	2学期	3	2	3年
	教養演習BⅡ GES302F 未開講	2学期	3	2	3年
	教養演習BⅡ GES302F 未開講	2学期	3	2	3年
教養演習BⅡ(防衛セミナー) GES302F 未開講	1学期	3	2	3年	
教養演習BⅡ GES302F 未開講	2学期	3	2	3年	
教養演習BⅡ GES302F 未開講	2学期	3	2	3年	
■テーマ科目	自然学のまなざし ENV002F 竹川 大介 他	1学期	1	2	55
	1年				
	動物のみかた ZOL001F 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	56
	1年				
	地球の生いたち GOL001F 長井 孝一	2学期	1	2	57
	1年				
自然史へのいざない BIO001F 九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子	2学期	1	2	58	
1年					
くらしと化学 CHM001F 秋貞 英雄	1学期	1	2	59	
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代人のこころ PSY003F 税田 慶昭 他	1学期	1	2	60
		1年			
	人間と生命 BIO002F 日高 京子	2学期	1	2	61
		1年			
	環境都市としての北九州 ENV001F 日高 京子	2学期	1	2	62
		1年			
	未来を創る環境技術 ENV003F 龍 有二 他	1学期	1	2	63
		1年			
	私たちと宗教 PHR006F 関 一敏	2学期	1	2	64
		1年			
	思想と現代 PHR004F 伊原木 大祐	1学期	1	2	65
		1年			
	文化と表象 MCC001F 真鍋 昌賢	2学期	1	2	66
		1年			
	言語とコミュニケーション LIN001F 漆原 朗子 他	2学期	1	2	67
		1年			
	芸術と人間 PHR001F 花田 伸一	2学期	1	2	68
		1年			
文学を読む LIT001F 福島 勲 他	2学期	1	2	69	
	1年				
現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	70	
	1年				
民主主義とは何か PLS002F 大澤 津 他	1学期	1	2	71	
	1年				
社会学的思考 SOC002F 堤 圭史郎	1学期	1	2	72	
	1年				
政治のなかの文化 ANT001F 神原 ゆうこ	2学期	1	2	73	
	1年				
人権論 SOC004F 柳井 美枝	1学期	1	2	74	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	ジェンダー論 GEN001F カ武 由美	1学期	1	2	75
		1年			
	障がい学 SOW001F 伊野 憲治 他	2学期	1	2	76
		1年			
	共生の作法 LAW001F 二宮 正人 他	1学期	1	2	77
		1年			
	法律の読み方 LAW002F 小野 憲昭 他	2学期	1	2	78
		1年			
	社会調査 SOC003F 稲月 正	2学期	1	2	79
		1年			
	市民活動論 RDE001F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	企業と社会 BUS001F 山岡 敏秀	1学期	1	2	80
		1年			
	現代社会と倫理 PHR002F 伊原木 大祐	1学期	1	2	81
		1年			
	現代社会と新聞ジャーナリズム SOC001F 西日本新聞社、基盤教育センター 神原ゆうこ	1学期	1	2	82
		1年			
	都市と地域 RDE002F 南 博 他	1学期	1	2	83
	1年				
現代の国際情勢 IRL003F 下野 寿子 他	1学期	1	2	84	
	1年				
開発と統治 IRL002F 三宅 博之 他	2学期	1	2	85	
	1年				
グローバル化する経済 ECN001F 前田 淳 他	1学期	1	2	86	
	1年				
テロリズム論 PLS001F 戸蔭 仁司	2学期	1	2	87	
	1年				
国際紛争と国連 IRL005F 二宮 正人	1学期	1	2	88	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	国際社会と日本 IRL004F 金 鳳珍	2学期	1	2	89
		1年			
	韓国の社会と文化 ARE010F チャン ユンヒャン	2学期	1	2	90
		1年			
	エスニシティと多文化社会 IRL001F 久木 尚志 他	1学期	1	2	91
		1年			
	歴史の読み方I HIS004F 八百 啓介	1学期	1	2	92
		1年			
	歴史の読み方II HIS005F 小林 道彦	1学期	1	2	93
		1年			
	そのとき世界は HIS002F 小林 道彦 他	2学期	1	2	94
		1年			
	戦後の日本経済 ECN002F 土井 徹平	2学期	1	2	95
		1年			
ものと人間の歴史 HIS003F 休講	1学期	1	2		
	1年				
人物と時代の歴史 HIS001F 山崎 勇治 他	1学期	1	2	96	
	1年				
ヨーロッパ道徳思想史 PHR005F 伊原木 大祐	2学期	1	2	97	
	1年				
■教職関連科目	日本史 HIS110F 内山 一幸	2学期	1	2	98
		1年			
	東洋史 HIS120F 藤野 月子	2学期	1	2	99
		1年			
	西洋史 HIS130F 疇谷 憲洋	1学期	1	2	100
		1年			
	人文地理学 GEO110F 外 护保 大介	2学期	1	2	101
	1年				
土地地理学 GEO111F 野井 英明	1学期	1	2	102	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	地誌学 GEO112F 外柙保 大介	1学期	1	2	103
	1年				
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 中島 俊介	1学期	1	2	104
	1年				
	メンタル・ヘルスII PSY002F 中島 俊介	2学期	1	2	105
	1年				
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 高西 敏正	1学期	1	2	106
	1年				
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 徳永 政夫	1学期	1	2	107
	1年				
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 加倉井 美智子	1学期	1	2	108
	1年				
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 高西 敏正	2学期	1	2	109
	1年				
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 徳永 政夫	2学期	1	2	110
	1年				
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 加倉井 美智子	2学期	1	2	111
	1年				
	自己管理論 HSS003F 山本 浩二	2学期	1	2	112
	1年				
フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	113	
1年					
フィジカル・エクササイズI (サッカー) HSS081F 磯貝 浩久	1学期	1	1	114	
1年					
フィジカル・エクササイズI (テニス) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	115	
1年					
フィジカル・エクササイズI (バレーボール) HSS081F 美山 泰教	1学期	1	1	116	
1年					
フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 鯨 吉夫	1学期	1	1	117	
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 山本 浩二	1学期	1	1	118
	1年				
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) HSS081F 加倉井 美智子	1学期	1	1	119
	1年				
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 磯貝 浩久	2学期	1	1	120
	1年				
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	121
	1年				
	フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	122
	1年				
	フィジカル・エクササイズII (バレーボール) HSS082F 美山 泰教	2学期	1	1	123
	1年				
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 美山 泰教	2学期	1	1	124
	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー) HSS082F 磯貝 浩久	2学期	1	1	125	
1年					
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 鯨 吉夫	2学期	1	1	126	
1年					
フィジカル・エクササイズII (サッカー) HSS082F 鯨 吉夫	2学期	1	1	127	
1年					
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 徳永 政夫	2学期	1	1	128	
1年					
■キャリア科目	キャリア・デザイン CAR100F 眞鍋 和博 他	1学期	1	2	129
	1年				
	キャリア・デザイン CAR100F 見館 好隆	1学期	1	2	130
	1年				
コミュニケーション実践 CAR111F 眞鍋 和博	2学期	1	2	131	
1年					
グローバル・リーダーシップ論 CAR112F 永田 公彦	2学期	1	2	132	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■キャリア科目	プロフェッショナルの仕事I CAR210F 見館 好隆	1学期	2	2	133
		2年			
	プロフェッショナルの仕事II CAR211F 見館 好隆	2学期	2	2	134
		2年			
	地域の達人 CAR212F 眞鍋 和博	2学期	2	2	135
		2年			
	サービスラーニング入門I CAR110F 坂本 毅啓	1学期	1	2	136
		1年			
	サービスラーニング入門II CAR180F 坂本 毅啓	2学期	1	2	137
		1年			
プロジェクト演習I CAR280F 見館 好隆	1学期	2	2	138	
	2年				
プロジェクト演習II CAR281F 見館 好隆	2学期	2	2	139	
	2年				
プロジェクト演習III CAR380F 未開講	1学期	3	2		
	3年				
プロジェクト演習IV CAR381F 未開講	2学期	3	2		
	3年				
■教養特講	教養特講I SPL001F 休講		1	2	
		1年			
	教養特講II (セクシュアル・ライツ) SPL002F 河嶋 静代	2学期	1	2	140
		1年			
	教養特講II (ホスピタリティ論) SPL002F 西澤 健次 他	2学期	1	2	141
		1年			
教養特講III (まなびと講座A) SPL003F 眞鍋 和博	1学期	1	2	142	
	1年				
教養特講IV (まなびと講座B) SPL004F 眞鍋 和博	2学期	1	2	143	
	1年				
■情報教育科目	データ処理 INF101F 佐々木 実	1学期	1	2	144
		政策1 - 1 . 再履			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■情報教育科目	データ処理 INF101F 中尾 泰士	1学期	1	2	145
		政策 1 - 2 . 再履			
	データ処理 INF101F 浅羽 修丈	2学期	1	2	146
		1 学期未修得者再履			
	情報表現 INF230F 中尾 泰士	2学期	2	2	147
		2 年			
	情報表現 INF230F 浅羽 修丈	2学期	2	2	148
		2 年			
	情報表現 INF230F 棚次 奎介	2学期	2	2	149
		2 年			
	情報メディア演習 INF330F 未開講		3	2	
		3 年			
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I (律政群 1 - A) ENG101F 下條 かおり	1学期	1	1	150
		律政群 1 - A			
	英語I (律政群 1 - B) ENG101F 葛西 宏信	1学期	1	1	151
		律政群 1 - B			
	英語I (律政群 1 - C) ENG101F 永末 康介	1学期	1	1	152
		律政群 1 - C			
	英語I (律政群 1 - D) ENG101F 石田 由希	1学期	1	1	153
		律政群 1 - D			
	英語I (律政群 1 - E) ENG101F 安丸 雅子	1学期	1	1	154
		律政群 1 - E			
英語I (律政群 1 - F) ENG101F 野上 良子	1学期	1	1	155	
	律政群 1 - F				
英語I (律政群 1 - G) ENG101F 酒井 秀子	1学期	1	1	156	
	律政群 1 - G				
英語I (律政 1 - H) ENG101F 十時 康	1学期	1	1	157	
	律政 1 - H				
英語I (律政群 1 - I) ENG101F 木梨 安子	1学期	1	1	158	
	律政群 1 - I				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語II (律政群 1 - A) ENG111F ホセ・クルーズ	2学期	1	1	159
		律政群 1 - A			
	英語II (律政群 1 - B) ENG111F 永末 康介	2学期	1	1	160
		律政群 1 - B			
	英語II (律政群 1 - C) ENG111F 葛西 宏信	2学期	1	1	161
		律政群 1 - C			
	英語II (律政群 1 - D) ENG111F 石田 由希	2学期	1	1	162
		律政群 1 - D			
	英語II (律政群 1 - E) ENG111F 安丸 雅子	2学期	1	1	163
		律政群 1 - E			
	英語II (律政群 1 - F) ENG111F 下條 かおり	2学期	1	1	164
		律政群 1 - F			
	英語II (律政群 1 - G) ENG111F 酒井 秀子	2学期	1	1	165
		律政群 1 - G			
	英語II (律政 1 - H) ENG111F 十時 康	2学期	1	1	166
		律政 1 - H			
	英語II (律政群 1 - I) ENG111F 木梨 安子	2学期	1	1	167
		律政群 1 - I			
	英語III (律政群 1 - A) ENG102F リズ・クレシーニ	1学期	1	1	168
		律政群 1 - A			
英語III (律政群 1 - B) ENG102F デビッド・アダム・ストット	1学期	1	1	169	
	律政群 1 - B				
英語III (律政群 1 - C) ENG102F ロバート・マーフィ	1学期	1	1	170	
	律政群 1 - C				
英語III (律政群 1 - D) ENG102F ダンカン・ウォトリイ	1学期	1	1	171	
	律政群 1 - D				
英語III (律政群 1 - E) ENG102F クリストファー・オサリバン	1学期	1	1	172	
	律政群 1 - E				
英語III (律政群 1 - F) ENG102F ホセ・クルーズ	1学期	1	1	173	
	律政群 1 - F				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語III (律政群 1-G) ENG102F デビット・ニール・マクレラン	1学期	1	1	174
		律政群 1 - G			
	英語III (律政 1-H) ENG102F 葛西 宏信	1学期	1	1	175
		律政 1 - H			
	英語III (律政群 1-I) ENG102F 船方 浩子	1学期	1	1	176
		律政群 1 - I			
	英語IV (律政群 1-A) ENG112F アレクサンダー・ボードナー	2学期	1	1	177
		律政群 1 - A			
	英語IV (律政群 1-B) ENG112F シェーン・ドイル	2学期	1	1	178
		律政群 1 - B			
	英語IV (律政群 1-C) ENG112F ロバート・マーフィ	2学期	1	1	179
		律政群 1 - C			
	英語IV (律政群 1-D) ENG112F ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	180
		律政群 1 - D			
	英語IV (律政群 1-E) ENG112F クリストファー・オサリバン	2学期	1	1	181
		律政群 1 - E			
	英語IV (律政群 1-F) ENG112F ホセ・クルーズ	2学期	1	1	182
		律政群 1 - F			
	英語IV (律政群 1-G) ENG112F マイケル・バーグ	2学期	1	1	183
		律政群 1 - G			
英語IV (律政 1-H) ENG112F ケネス・ギブソン	2学期	1	1	184	
	律政 1 - H				
英語IV (律政群 1-I) ENG112F 船方 浩子	2学期	1	1	185	
	律政群 1 - I				
英語V (律政群 2-A) ENG201F 薬師寺 元子	1学期	2	1	186	
	律政群 2 - A				
英語V (律政群 2-B) ENG201F 三宅 啓子	1学期	2	1	187	
	律政群 2 - B				
英語V (律政群 2-C) ENG201F 酒井 秀子	1学期	2	1	188	
	律政群 2 - C				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語V (律政群 2 - D) ENG201F 吉田 禎子	1学期	2	1	189
		律政群 2 - D			
	英語V (律政群 2 - E) ENG201F 十時 康	1学期	2	1	190
		律政群 2 - E			
	英語V (律政群 2 - F) ENG201F 安丸 雅子	1学期	2	1	191
		律政群 2 - F			
	英語V (律政群 2 - G) ENG201F 村田 希巳子	1学期	2	1	192
		律政群 2 - G			
	英語V (律政 2 - H) ENG201F 中島 美穂子	1学期	2	1	193
		律政 2 - H			
	英語V (律政群 2 - I) ENG201F 大塚 由美子	1学期	2	1	194
		律政群 2 - I			
	英語VI (律政群 2 - A) ENG211F デビッド・アンソニー・コフリン	2学期	2	1	195
		律政群 2 - A			
	英語VI (律政群 2 - B) ENG211F 三宅 啓子	2学期	2	1	196
		律政群 2 - B			
	英語VI (律政群 2 - C) ENG211F 酒井 秀子	2学期	2	1	197
		律政群 2 - C			
	英語VI (律政群 2 - D) ENG211F 吉田 禎子	2学期	2	1	198
	律政群 2 - D				
英語VI (律政群 2 - E) ENG211F 十時 康	2学期	2	1	199	
	律政群 2 - E				
英語VI (律政群 2 - F) ENG211F 安丸 雅子	2学期	2	1	200	
	律政群 2 - F				
英語VI (律政群 2 - G) ENG211F 村田 希巳子	2学期	2	1	201	
	律政群 2 - G				
英語VI (律政 2 - H) ENG211F 中島 美穂子	2学期	2	1	202	
	律政 2 - H				
英語VI (律政群 2 - I) ENG211F 大塚 由美子	2学期	2	1	203	
	律政群 2 - I				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語VII (律政群 2-A) ENG202F シェーン・ドイル	1学期	2	1	204
		律政群 2 - A			
	英語VII (律政群 2-B) ENG202F ホセ・クルーズ	1学期	2	1	205
		律政群 2 - B			
	英語VII (律政群 2-C) ENG202F アレクサンダー・ボードナー	1学期	2	1	206
		律政群 2 - C			
	英語VII (律政群 2-D) ENG202F ジャマール・ミラー	1学期	2	1	207
		律政群 2 - D			
	英語VII (律政群 2-E) ENG202F ケネス・ギブソン	1学期	2	1	208
		律政群 2 - E			
	英語VII (律政群 2-F) ENG202F アルバート・オスカー・モウ	1学期	2	1	209
		律政群 2 - F			
	英語VII (律政群 2-G) ENG202F マーニー・セイディ	1学期	2	1	210
		律政群 2 - G			
	英語VII (律政 2-H) ENG202F 船方 浩子	1学期	2	1	211
		律政 2 - H			
	英語VII (律政群 2-I) ENG202F 薬師寺 元子	1学期	2	1	212
		律政群 2 - I			
英語VIII (律政群 2-A) ENG212F シェーン・ドイル	2学期	2	1	213	
	律政群 2 - A				
英語VIII (律政群 2-B) ENG212F ホセ・クルーズ	2学期	2	1	214	
	律政群 2 - B				
英語VIII (律政群 2-C) ENG212F アレクサンダー・ボードナー	2学期	2	1	215	
	律政群 2 - C				
英語VIII (律政群 2-D) ENG212F ジャマール・ミラー	2学期	2	1	216	
	律政群 2 - D				
英語VIII (律政群 2-E) ENG212F ケネス・ギブソン	2学期	2	1	217	
	律政群 2 - E				
英語VIII (律政群 2-F) ENG212F アルバート・オスカー・モウ	2学期	2	1	218	
	律政群 2 - F				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語VIII (律政群 2 - G) ENG212F マーニー・セイディ	2学期	2	1	219
		律政群 2 - G			
	英語VIII (律政 2 - H) ENG212F ポール・ガラフ・スティール	2学期	2	1	220
		律政 2 - H			
	英語VIII (律政群 2 - I) ENG212F 薬師寺 元子	2学期	2	1	221
		律政群 2 - I			
	英語IX (済営律政 3 年) ENG301F 未開講	1学期	3	1	
		済営律政 3 年			
	英語X (済営律政 3 年) ENG311F 未開講	2学期	3	1	
		済営律政 3 年			
英語XI (済営律政 3 年) ENG302F 未開講	1学期	3	1		
	済営律政 3 年				
英語XII (済営律政 3 年) ENG312F 未開講	2学期	3	1		
	済営律政 3 年				
■第二外国語	中国語I CHN101F 有働 彰子	1学期	1	1	222
		律政群 1 年			
	中国語II CHN111F 有働 彰子	2学期	1	1	223
		律政群 1 年			
	中国語III CHN102F 王 占華	1学期	1	1	224
		律政群 1 年			
	中国語IV CHN112F 王 占華	2学期	1	1	225
		律政群 1 年			
中国語V CHN201F 有働 彰子	1学期	2	1	226	
	済営人律政群 2 年				
中国語VI CHN211F 有働 彰子	2学期	2	1	227	
	済営人律政群 2 年				
中国語VII CHN202F 蘇 小楠	1学期	2	1	228	
	済営人律政群 2 年				
中国語VIII CHN212F 蘇 小楠	2学期	2	1	229	
	済営人律政群 2 年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語I KRN101F 金 貞淑	1学期	1	1	230
		律政1年			
	朝鮮語II KRN111F 金 貞淑	2学期	1	1	231
		律政1年			
	朝鮮語III KRN102F チャン ユンヒャン	1学期	1	1	232
		律政1年			
	朝鮮語IV KRN112F 金 光子	2学期	1	1	233
		律政1年			
	朝鮮語V KRN201F チャン ユンヒャン	1学期	2	1	234
		済営比人律政群2年			
	朝鮮語VI KRN211F チャン ユンヒャン	2学期	2	1	235
		済営比人律政群2年			
	朝鮮語VII KRN202F チャン ユンヒャン	1学期	2	1	236
		済営比人律政群2年			
	朝鮮語VIII KRN212F 金 京姫	2学期	2	1	237
		済営比人律政群2年			
	ロシア語I RUS101F ナタリア・シエスタコーワ	1学期	1	1	238
		律政1年			
	ロシア語II RUS111F 芳之内 雄二	2学期	1	1	239
		律政1年			
ロシア語III RUS102F ナタリア・シエスタコーワ	1学期	1	1	240	
	律政1年				
ロシア語IV RUS112F ナタリア・シエスタコーワ	2学期	1	1	241	
	律政1年				
ロシア語V RUS201F ナタリア・シエスタコーワ	1学期	2	1	242	
	済営比人律政2年				
ロシア語VI RUS211F 芳之内 雄二	2学期	2	1	243	
	済営比人律政2年				
ロシア語VII RUS202F ナタリア・シエスタコーワ	1学期	2	1	244	
	済営比人律政2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ロシア語VIII RUS212F ナタリア・シエスタコーフ	2学期	2	1	245
		済営比人律政 2年			
	ドイツ語I GRM101F 古賀 正之	1学期	1	1	246
		律政 1年			
	ドイツ語II GRM111F 古賀 正之	2学期	1	1	247
		律政 1年			
	ドイツ語III GRM102F 山下 哲雄	1学期	1	1	248
		律政 1年			
	ドイツ語IV GRM112F 山下 哲雄	2学期	1	1	249
		律政 1年			
	ドイツ語V GRM201F 山下 哲雄	1学期	2	1	250
		済営比人律政 2年			
	ドイツ語VI GRM211F 山下 哲雄	2学期	2	1	251
		済営比人律政 2年			
	ドイツ語VII GRM202F 山下 哲雄	1学期	2	1	252
		済営比人律政 2年			
	ドイツ語VIII GRM212F 山下 哲雄	2学期	2	1	253
		済営比人律政 2年			
	フランス語I FRN101F 中川 裕二	1学期	1	1	254
		律政 1年			
フランス語II FRN111F 中川 裕二	2学期	1	1	255	
	律政 1年				
フランス語III FRN102F 山下 広一	1学期	1	1	256	
	律政 1年				
フランス語IV FRN112F 山下 広一	2学期	1	1	257	
	律政 1年				
フランス語V FRN201F 坂田 由紀	1学期	2	1	258	
	済営比人律政 2年				
フランス語VI FRN211F 坂田 由紀	2学期	2	1	259	
	済営比人律政 2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語VII FRN202F ドゥラボード・ブランシュ	1学期	2	1	260
		済営比人律政2年			
	フランス語VIII FRN212F ドゥラボード・ブランシュ	2学期	2	1	261
		済営比人律政2年			
	スペイン語I SPN101F 青木 文夫	1学期	1	1	262
		律政1年			
	スペイン語II SPN111F 青木 文夫	2学期	1	1	263
		律政1年			
	スペイン語III SPN102F 辻 博子	1学期	1	1	264
		律政1年			
	スペイン語IV SPN112F 辻 博子	2学期	1	1	265
		律政1年			
スペイン語V SPN201F 辻 光博	1学期	2	1	266	
	済営比人律政2年				
スペイン語VI SPN211F 辻 光博	2学期	2	1	267	
	済営比人律政2年				
スペイン語VII SPN202F 辻 博子	1学期	2	1	268	
	済営比人律政2年				
スペイン語VIII SPN212F 辻 博子	2学期	2	1	269	
	済営比人律政2年				
■留学生特別科目	日本語I JSL101F 小林 浩明	1学期	1	1	270
		留学生1年			
	日本語I JSL101F 小林 浩明	1学期	1	1	271
		留学生1年			
	日本語II JSL102F 清水 順子	1学期	1	1	272
		留学生1年			
	日本語II JSL102F 清水 順子	1学期	1	1	273
		留学生1年			
	日本語III JSL103F 徐 曉輝	1学期	1	1	274
		留学生1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本語III JSL103F 徐 暁輝	1学期	1	1	275
	留学生 1 年				
	日本語IV JSL111F 小林 浩明	2学期	1	1	276
	留学生 1 年				
	日本語IV JSL111F 小林 浩明	2学期	1	1	277
	留学生 1 年				
	日本語V JSL112F 則松 智子	2学期	1	1	278
	留学生 1 年				
	日本語V JSL112F 則松 智子	2学期	1	1	279
	留学生 1 年				
	日本語VI JSL113F 徐 暁輝	2学期	1	1	280
	留学生 1 年				
	日本語VI JSL113F 徐 暁輝	2学期	1	1	281
	留学生 1 年				
	日本語VII JSL104F 清水 順子	1学期	2	1	282
	留学生 2 年				
	日本語VII JSL104F 清水 順子	1学期	2	1	283
	留学生 2 年				
	日本語VIII JSL114F 清水 順子	2学期	2	1	284
	留学生 2 年				
日本語VIII JSL114F 清水 順子	2学期	2	1	285	
留学生 2 年					
日本事情 (人文) A JPS101F 則松 智子	1学期	1	2	286	
留学生 1 年					
日本事情 (人文) B JPS102F 清水 順子	2学期	1	2	287	
留学生 1 年					
日本事情 (社会) A JPS103F 山崎 勇治	1学期	1	2	288	
留学生 1 年					
日本事情 (社会) B JPS104F 山崎 勇治	2学期	1	2	289	
留学生 1 年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	法哲学		3	2	
	LAW310M 未開講	3年			
	日本法制史	2学期 (ペア)	2	4	290
	LAW312M 山口 亮介	2年			
	情報公開・個人情報保護法		3	2	
	LAW322M 未開講	3年			
	刑法犯罪各論I	1学期	2	2	291
	LAW230M 大杉 一之	2年			
	刑法犯罪各論II	2学期	2	2	292
	LAW330M 大杉 一之	2年			
	刑事司法政策I		3	2	
	LAW332M 未開講	3年			
	刑事司法政策II		3	2	
	LAW333M 未開講	3年			
	犯罪学		3	4	
	LAW232M 未開講	3年			
	社会法の現代的展開		3	2	
	LAW343M 未開講	3年			
	環境法		3	2	
	LAW342M 未開講	3年			
現代国際関係法		3	2		
LAW351M 未開講	3年				
親族法	1学期	2	2	293	
LAW264M 小野 憲昭	2年				
相続法	2学期	2	2	294	
LAW265M 小野 憲昭	2年				
民事法の実務的展開		3	2		
LAW361M 未開講	3年				
企業活動と法	2学期	2	2	295	
LAW273M 今泉 恵子	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	国際協力論I IRL211M 大平 剛	1学期	2	2	296
		2年			
	国際協力論II IRL212M 大平 剛	2学期	2	2	297
		2年			
	国際機構論I IRL312M 未開講		3	2	
		3年			
	国際機構論II IRL313M 未開講		3	2	
		3年			
	地球環境論 ENV200M 松本 治彦	1学期	2	2	298
		2年			
	国際関係の争点 IRL101M 大平 剛	2学期	1	2	299
		1年			
	国際関係の理論 IRL200M 阿部 容子	1学期	2	2	300
		2年			
	倫理学 PHR210M 清水 満	2学期	2	2	301
		2年			
	ミク口経済学I ECN112M 朱 乙文	2学期	1	2	302
		1年			
	ミク口経済学II ECN210M 朱 乙文	1学期	2	2	303
		2年			
マク口経済学I ECN113M 田中 淳平	2学期	1	2	304	
	1年				
マク口経済学II ECN211M 田中 淳平	1学期	2	2	305	
	2年				
経済地理学I ECN242M 柳井 雅人	1学期	2	2	306	
	2年				
経済地理学II ECN243M 柳井 雅人	2学期	2	2	307	
	2年				
地域経済I ECN244M 杉浦 勝章	1学期	2	2	308	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目	地域経済II ECN245M 杉浦 勝章	2学期	2	2	309
		2年			
	地域政策 ECN250M 休講		2	2	
		2年			
	国際経済論I ECN240M 末永 勝昭	1学期	2	2	310
		2年			
	国際経済論II ECN241M 末永 勝昭	2学期	2	2	311
		2年			
	産業組織論I ECN341M 未開講		3	2	
		3年			
	産業組織論II ECN342M 未開講		3	2	
		3年			
	財政学I ECN361M 未開講		3	2	
		3年			
	財政学II ECN362M 未開講		3	2	
		3年			
	公共経済学 ECN262M 未開講		3	2	
		3年			
	環境経済学 ECN340M 未開講		3	2	
		3年			
中国経済 ECN350M 未開講		3	2		
	3年				
アメリカ経済 ECN351M 未開講		3	2		
	3年				
地方財政論 ECN365M 未開講		3	2		
	3年				
経営組織論 BUS212M 山下 剛	1学期	2	2	312	
	2年				
経営戦略論 BUS213M 浦野 恭平	2学期	2	2	313	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
	備考					
■専門教育科目 ■選択科目	人的資源管理論		3	2		
	BUS310M 未開講	3年				
	中小企業論		3	2		
	BUS313M 未開講	3年				
	ビジネス英語研究		3	2		
	ENG232M 未開講	3年				
	■政策能力形成科目	政策科学入門	1学期	1	2	314
		PLC101M 榎原 真二 他	1年			
		政策分析入門	2学期	1	2	315
PLC115M 横山 麻季子 他		1年				
政策入門演習I		1学期	1	2	316	
SEM111M 大澤 津		1年				
政策入門演習I		1学期	1	2	317	
SEM111M 五月女 律子		1年				
政策入門演習I		1学期	1	2	318	
SEM111M 坂本 隆幸		1年				
政策入門演習I		1学期	1	2	319	
SEM111M 申 東愛		1年				
政策入門演習I		1学期	1	2	320	
SEM111M 榎原 真二		1年				
政策入門演習I		1学期	1	2	321	
SEM111M 狭間 直樹		1年				
政策入門演習I		1学期	1	2	322	
SEM111M 濱本 真輔		1年				
政策入門演習I	1学期	1	2	323		
SEM111M 三宅 博之	1年					
政策入門演習I	1学期	1	2	324		
SEM111M 森 裕亮	1年					
政策入門演習I	1学期	1	2	325		
SEM111M 横山 麻季子	1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■政策能力形成科目	政策入門演習II	2学期	1	2	326
	SEM112M 大澤 津	1年			
	政策入門演習II	2学期	1	2	327
	SEM112M 五月女 律子	1年			
	政策入門演習II	2学期	1	2	328
	SEM112M 坂本 隆幸	1年			
	政策入門演習II	2学期	1	2	329
	SEM112M 申 東愛	1年			
	政策入門演習II	2学期	1	2	330
	SEM112M 楢原 真二	1年			
	政策入門演習II	2学期	1	2	331
	SEM112M 狭間 直樹	1年			
	政策入門演習II	2学期	1	2	332
	SEM112M 濱本 真輔	1年			
	政策入門演習II	2学期	1	2	333
	SEM112M 三宅 博之	1年			
	政策入門演習II	2学期	1	2	334
	SEM112M 森 裕亮	1年			
	政策入門演習II	2学期	1	2	335
	SEM112M 横山 麻季子	1年			
演習I	1学期	2	2	336	
SEM211M 大澤 津	2年				
演習I	1学期	2	2	337	
SEM211M 五月女 律子	2年				
演習I	1学期	2	2	338	
SEM211M 坂本 隆幸	2年				
演習I	1学期	2	2	339	
SEM211M 申 東愛	2年				
演習I	1学期	2	2	340	
SEM211M 楢原 真二	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■政策能力形成科目	演習I SEM211M 狭間 直樹	1学期	2	2	341
		2年			
	演習I SEM211M 濱本 真輔	1学期	2	2	342
		2年			
	演習I SEM211M 三宅 博之	1学期	2	2	343
		2年			
	演習I SEM211M 森 裕亮	1学期	2	2	344
		2年			
	演習I SEM211M 横山 麻季子	1学期	2	2	345
		2年			
	演習II SEM212M 大澤 津	2学期	2	2	346
		2年			
	演習II SEM212M 五月女 律子	2学期	2	2	347
		2年			
	演習II SEM212M 坂本 隆幸	2学期	2	2	348
		2年			
	演習II SEM212M 申 東愛	2学期	2	2	349
		2年			
	演習II SEM212M 橋原 真二	2学期	2	2	350
		2年			
演習II SEM212M 狭間 直樹	2学期	2	2	351	
	2年				
演習II SEM212M 濱本 真輔	2学期	2	2	352	
	2年				
演習II SEM212M 三宅 博之	2学期	2	2	353	
	2年				
演習II SEM212M 森 裕亮	2学期	2	2	354	
	2年				
演習II SEM212M 横山 麻季子	2学期	2	2	355	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策能力形成科目	演習III		3	2	
	SEM311M 未開講	3年			
	演習IV		3	2	
	SEM312M 未開講	3年			
	政策実践プロジェクトI	2学期	2	1	356
	SEM280M 申 東愛	2年			
	政策実践プロジェクトI	2学期	2	1	357
	SEM280M 橋原 真二	2年			
	政策実践プロジェクトI	2学期	2	1	358
	SEM280M 狭間 直樹	2年			
	政策実践プロジェクトI	2学期	2	1	359
	SEM280M 濱本 真輔	2年			
	政策実践プロジェクトI	2学期	2	1	360
	SEM280M 三宅 博之	2年			
政策実践プロジェクトI	2学期	2	1	361	
SEM280M 森 裕亮	2年				
政策実践プロジェクトI	2学期	2	1	362	
SEM280M 横山 麻季子	2年				
政策実践プロジェクトII			3	1	
SEM380M 未開講	3年				
卒業論文			4	4	
STH410M 未開講	4年				
■政策理論科目	政治学	1学期	1	2	363
	PLS100M 濱本 真輔	1年			
	政治過程論	2学期	1	2	364
	PLS210M 濱本 真輔	1年			
西洋政治史	2学期	1	2	365	
PLS111M 五月女 律子	1年				
政党政治論	1学期	2	2	366	
PLS211M 五月女 律子	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策理論科目	現代政治思想 PLS212M 大澤 津	1学期	2	2	367
		2年			
	政策理論特講 PLS213M 松田 憲忠	集中	2	2	368
		2年			
	政治文化論 PLS215M 大澤 津	2学期	2	2	369
		2年			
	行政学 PAD100M 森 裕亮	2学期	1	2	370
		1年			
	行政組織論 PAD210M 横山 麻季子	1学期	2	2	371
		2年			
	政策構想論 PLC110M 大澤 津	1学期	1	2	372
		1年			
	比較政策論 PLC210M 坂本 隆幸	1学期	2	2	373
		2年			
	公共政策論 PLC211M 楢原 真二	1学期	2	2	374
		2年			
	政策過程論 PLC212M 申 東愛	1学期	2	2	375
		2年			
	政策評価論 PLC310M 楢原 真二 他	2学期	2	2	376
	2年				
都市環境論 PLC111M 三宅 博之	1学期	1	2	377	
	1年				
都市計画概論 PLC218M 内田 晃	2学期	2	2	378	
	2年				
福祉国家論 PLC112M 狭間 直樹	2学期	1	2	379	
	1年				
政策情報処理 PLC223M 横山 麻季子	1学期	2	2	380	
	2年				
外国文献研究A SEM391M 未開講		3	2		
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■政策実践科目	日本政治論 PLS110M 濱本 真輔	2学期	1	2	381
		1年			
	地方自治論 PAD211M 森 裕亮	1学期	2	2	382
		2年			
	地方行政改革論 PAD310M 森 裕亮	2学期	2	2	383
		2年			
	地域統合論 PLS214M 五月女 律子	2学期	2	2	384
		2年			
	アジア地域社会論 PLC222M 三宅 博之	2学期	2	2	385
		2年			
	応用政策特講 PAD214M 柳 至	集中	2	2	386
		2年			
	対外政策論 PLC213M 坂本 隆幸	2学期	2	2	387
		2年			
	自治体政策研究 PLC214M 楢原 真二	2学期	2	2	388
		2年			
	都市経済論 PLC113M 難波 利光	2学期	1	2	389
		1年			
	都市経営論 PAD213M 休講		2	2	
		2年			
都市政策論 PLC219M 古賀 哲矢	2学期	2	2	390	
	2年				
環境政策論 PLC216M 申 東愛	2学期	2	2	391	
	2年				
途上国開発論 PLC215M 三宅 博之	1学期	2	2	392	
	2年				
福祉政策論 PLC217M 狭間 直樹	1学期	2	2	393	
	2年				
公共経営論 PAD212M 狭間 直樹	2学期	2	2	394	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策実践科目	NPO論 PLC114M 植原 真二 他	1学期	1	2	395
	1年				
	政策実務特講 PLC220M 永田 賢介	1学期	2	2	396
	2年				
政策実践特講 PLC221M 青木 将幸	集中	2	2	397	
2年					
外国文献研究B SEM392M 未開講	3			2	
	3年				
■政策関連法科目	法学総論 LAW100M 山口 亮介	1学期	1	2	398
	1年				
	法社会学 LAW211M 林田 幸広	2学期	2	2	399
	2年				
	法思想史 LAW210M 重松 博之	1学期	2	2	400
	2年				
	日本国憲法原論 LAW120M 植木 淳	1学期	1	2	401
	1年				
	憲法人権論 LAW220M 中村 英樹	2学期	1	2	402
	1年				
	憲法機構論 LAW221M 中村 英樹	1学期	2	2	403
	2年				
	憲法訴訟論 LAW320M 植木 淳	2学期	2	2	404
	2年				
	行政法総論 LAW121M 福重 さと子	1学期(ヘア)	2	4	405
	2年				
行政争訟法 LAW222M 岡本 博志	2学期	2	2	406	
2年					
国家補償法 LAW321M 未開講	3			2	
	3年				
地方自治法 LAW223M 未開講	3			4	
	3年				

法学部 政策科学科 (2014年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策関連法科目	刑法犯罪論 LAW130M 山本 光英	2学期 (ペア)	1	4	407
	1年				
	社会法総論 LAW140M 津田 小百合	2学期	1	2	408
	1年				
	社会サービス法 LAW242M 津田 小百合	2学期	2	2	409
	2年				
	所得保障法 LAW243M 津田 小百合	2学期	2	2	410
	2年				
	雇用関係法 LAW240M 石田 信平	1学期	2	2	411
	2年				
	労使関係法 LAW241M 石田 信平	1学期	2	2	412
	2年				
	国際法I LAW250M 二宮 正人	1学期	2	2	413
	2年				
	国際法II LAW251M 二宮 正人	2学期	2	2	414
	2年				
	民法総則 LAW160M 矢澤 久純	1学期 (ペア)	1	4	415
	1年				
	物権法 LAW260M 藤野 博行	2学期	1	2	416
1年					
担保物権法 LAW261M 藤野 博行	2学期	2	2	417	
2年					
債権総論 LAW263M 矢澤 久純	1学期 (ペア)	2	4	418	
2年					
債権各論 LAW262M 福本 忍	2学期 (ペア)	1	4	419	
1年					
■自由科目	人間環境地理学 ENV240M 野井 英明	2学期	2	2	420
	2年				
	生態人類学 ANT210M 竹川 大介	1学期	2	2	421
2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■自由科目	日本の歴史と社会 HIS210M 八百 啓介	1学期	2	2	422
	2年				
	Advanced English I ENG353M 未開講		4	2	
	4年				
	Advanced English II ENG354M 未開講		4	2	
	4年				
■教職に関する科目 ■必修科目	教職論 EDU111M 黒田 耕司	1学期	1	2	423
	1年				
	教育原理 EDU110M 児玉 弥生	2学期	1	2	424
	1年				
	発達心理学 PSY222M 税田 慶昭	1学期	2	2	425
	2年				
	教育制度論 EDU227M 未開講	1学期	3	2	
	3年				
	教育課程論 EDU360M 未開講	1学期	3	2	
	3年				
	社会科教育法 A EDU240C 未開講	1学期	3	2	
	3年				
	社会科教育法 B EDU241C 未開講	2学期	3	2	
	3年				
	社会科教育法 C EDU242C 未開講	1学期	3	2	
	3年				
社会科教育法 D EDU243C 未開講	2学期	3	2		
3年					
公民科教育法 A EDU244C 未開講	1学期	3	2		
3年					
公民科教育法 B EDU245C 未開講	2学期	3	2		
3年					
道徳教育指導論 EDU262M 黒田 耕司	2学期	2	2	426	
2年					

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■必修科目	特別活動論	1学期	2	2	427
	EDU263M 楠 凡之	2年			
	教育方法学	1学期	2	2	428
	EDU260M 黒田 耕司	2年			
	生徒・進路指導論	2学期	2	2	429
	EDU261M 楠 凡之	2年			
	教育相談	1学期	2	2	430
	EDU264M 楠 凡之	2年			
	教育実習 1	2学期	3	2	
	EDU380C 未開講	3年			
	教育実習 2	1学期	4	2	
	EDU480C 未開講	4年			
	教育実習 3	1学期	4	2	
	EDU481C 未開講	4年			
教職実践演習 (中・高)	2学期	4	2		
EDU490C 未開講	4年				
■選択科目	教育心理学	2学期	2	2	431
	PSY220M 五十嵐 亮	2年			
	障害児の心理と指導	2学期	2	2	
	PSY223M 休講	2年			
	教育社会学	集中	2	2	432
	EDU225M 作田 誠一郎	2年			
	人権教育論	1学期	2	2	433
	EDU228M 弓野 勝族	2年			
生涯学習学	1学期	2	2		
EDU220M 休講	2年				
教育工学	2学期	2	2	434	
EDU265M 大塚 一徳	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 小林 道彦	2学期	1	2	435
	1年				
	異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	1学期	1	2	436
	1年				
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	1学期	1	2	437
	1年				
	国際学入門 IRL100F 伊野 憲治	1学期	1	2	438
	1年				
	生活世界の哲学 PHR110F 伊原木 大祐	2学期	1	2	439
	1年				
	日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	440
	1年				
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	441
	1年				
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	442
	1年				
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	2学期	1	2	443
	1年				
	可能性としての歴史 HIS200F (昼のみ開講)			2	2
2年					
現代社会と文化 ANT210F (昼のみ開講)			2	2	
2年					
言語と認知 LIN210F (昼のみ開講)			2	2	
2年					
共生社会論 SOW200F (昼のみ開講)			2	2	
2年					
共同体と身体 PHR210F (昼のみ開講)			2	2	
2年					
戦争論 PLS210F (昼のみ開講)			2	2	
2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	生命科学と社会 BIO200F (昼のみ開講)		2	2	
	2年				
	情報社会を読む INF200F (昼のみ開講)		2	2	
	2年				
	地域資源管理論 ENV200F (昼のみ開講)		2	2	
	2年				
■教養演習科目	教養基礎演習I GES101F 二宮 正人	1学期	1	2	444
	1年				
	教養基礎演習II GES102F (昼のみ開講)		1	2	
	1年				
	教養演習A I GES201F (昼のみ開講)		2	2	
	2年				
	教養演習A II GES202F (昼のみ開講)		2	2	
	2年				
	教養演習B I GES301F 未開講		3	2	
	3年				
	教養演習B II GES302F 未開講		3	2	
	3年				
■テーマ科目	自然学のまなざし ENV002F (昼のみ開講)		1	2	
	1年				
	動物のみかた ZOL001F (昼のみ開講)		1	2	
	1年				
	地球の生いたち GOL001F 休講	2学期	1	2	
	1年				
	自然史へのいざない BIO001F (昼のみ開講)		1	2	
	1年				
	暮らしと化学 CHM001F (昼のみ開講)		1	2	
	1年				
現代人のこころ PSY003F 森永 今日子	1学期	1	2	445	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	人間と生命 BIO002F 日高 京子	2学期	1	2	446
		1年			
	環境都市としての北九州 ENV001F (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	未来を創る環境技術 ENV003F (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	私たちと宗教 PHR006F (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	思想と現代 PHR004F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	文化と表象 MCC001F (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	言語とコミュニケーション LIN001F (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	芸術と人間 PHR001F (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
文学を読む LIT001F 休講	2学期	1	2		
	1年				
現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	447	
	1年				
民主主義とは何か PLS002F 休講	1学期	1	2		
	1年				
社会学的思考 SOC002F 堤 圭史郎	1学期	1	2	448	
	1年				
政治のなかの文化 ANT001F (昼のみ開講)		1	2		
	1年				
人権論 SOC004F 休講	1学期	1	2		
	1年				
ジェンダー論 GEN001F 休講	1学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	障がい学 SOW001F 伊野 憲治 他	2学期	1	2	449
		1年			
	共生の作法 LAW001F (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	法律の読み方 LAW002F (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	社会調査 SOC003F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	450
		1年			
	企業と社会 BUS001F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	現代社会と倫理 PHR002F 伊原木 大祐	1学期	1	2	451
		1年			
	現代社会と新聞ジャーナリズム SOC001F (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	都市と地域 RDE002F (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	現代の国際情勢 IRL003F 休講	1学期	1	2	
		1年			
開発と統治 IRL002F 休講	2学期	1	2		
	1年				
グローバル化する経済 ECN001F 前田 淳 他	1学期	1	2	452	
	1年				
テロリズム論 PLS001F (昼のみ開講)		1	2		
	1年				
国際紛争と国連 IRL005F 休講	2学期	1	2		
	1年				
国際社会と日本 IRL004F 金 鳳珍	2学期	1	2	453	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	韓国の社会と文化 ARE010F (昼のみ開講)		1	2	454
		1年			
	エスニシティと多文化社会 IRL001F (昼のみ開講)		1	2	455
		1年			
	歴史の読み方I HIS004F 小林 道彦	1学期	1	2	454
		1年			
	歴史の読み方II HIS005F 小林 道彦	2学期	1	2	455
		1年			
	そのとき世界は HIS002F (昼のみ開講)		1	2	456
		1年			
	戦後の日本経済 ECN002F (昼のみ開講)		1	2	457
		1年			
ものと人間の歴史 HIS003F (昼のみ開講)		1	2	458	
	1年				
人物と時代の歴史 HIS001F 山崎 勇治 他	1学期	1	2	456	
	1年				
ヨーロッパ道徳思想史 PHR005F 伊原木 大祐	2学期	1	2	457	
	1年				
■教職関連科目	日本史 HIS110F 内山 一幸	2学期	1	2	458
		1年			
	東洋史 HIS120F 藤野 月子	2学期	1	2	459
		1年			
	西洋史 HIS130F 疇谷 憲洋	1学期	1	2	460
		1年			
	人文地理学 GEO110F 外 柙保 大介	2学期	1	2	461
	1年				
土地地理学 GEO111F 野井 英明	1学期	1	2	462	
	1年				
地誌学 GEO112F 外 柙保 大介	1学期	1	2	463	
	1年				

法学部 政策科学科 (2014年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 中島 俊介	1学期	1	2	464
		1年			
	メンタル・ヘルスII PSY002F 中島 俊介	2学期	1	2	465
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 山本 浩二	1学期	1	2	466
		1年			
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	自己管理論 HSS003F (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 休講	1学期	1	1		
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 徳永 政夫	2学期	1	1	467	
	1年				
■キャリア科目	キャリア・デザイン CAR100F (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	コミュニケーション実践 CAR111F (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	グローバル・リーダーシップ論 CAR112F (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	プロフェッショナルの仕事I CAR210F (昼のみ開講)		2	2	
		2年			
	プロフェッショナルの仕事II CAR211F (昼のみ開講)		2	2	
		2年			
地域の達人 CAR212F (昼のみ開講)		2	2		
	2年				
サービスマナー入門I CAR110F (昼のみ開講)		1	2		
	1年				
サービスマナー入門II CAR180F (昼のみ開講)		1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
		備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■キャリア科目	プロジェクト演習I CAR280F (昼のみ開講)		2	2	2年	
	プロジェクト演習II CAR281F (昼のみ開講)		2	2		
	プロジェクト演習III CAR380F 未開講		3	2	3年	
	プロジェクト演習IV CAR381F 未開講		3	2		
	■教養特講	教養特講I SPL001F (昼のみ開講)		1	2	1年
		教養特講II SPL002F (昼のみ開講)		1	2	
		教養特講III SPL003F (昼のみ開講)		1	2	1年
		教養特講IV SPL004F (昼のみ開講)		1	2	
■情報教育科目		データ処理 INF101F 中尾 泰士	2学期	1	2	468 1学期未修得者再履
		データ処理 INF101F 廣渡 栄寿	1学期	1	2	
		情報表現 INF230F 浅羽 修丈	1学期	2	2	470 2年
		情報メディア演習 INF330F 未開講		3	2	
	■専門教育科目 ■選択科目	法哲学 LAW310M 未開講		3	2	3年
		日本法制史 LAW312M 休講		2	4	
		情報公開・個人情報保護法 LAW322M 未開講		3	2	3年

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■選択科目	刑法犯罪各論I		2	2	
	LAW230M 休講	2年			
	刑法犯罪各論II		2	2	
	LAW330M 休講	2年			
	刑事司法政策I		3	2	
	LAW332M 未開講	3年			
	刑事司法政策II		3	2	
	LAW333M 未開講	3年			
	犯罪学		3	4	
	LAW232M 未開講	3年			
	社会法の現代的展開		3	2	
	LAW343M 未開講	3年			
	環境法		3	2	
	LAW342M 未開講	3年			
	現代国際関係法		3	2	
	LAW351M 未開講	3年			
	親族法		2	2	
	LAW264M 休講	2年			
	相続法		2	2	
	LAW265M 休講	2年			
民事法の実務的展開		3	2		
LAW361M 未開講	3年				
企業活動と法		2	2		
LAW273M 休講	2年				
国際協力論I		2	2		
IRL211M 昼のみ開講	2年				
国際協力論II		2	2		
IRL212M 昼のみ開講	2年				
国際機構論I		3	2		
IRL312M 未開講	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■専門教育科目 ■選択科目	国際機構論II		3	2		
	IRL313M 未開講	3年				
	地球環境論		2	2		
	ENV200M 昼のみ開講	2年				
	国際関係の争点		1	2		
	IRL101M 昼のみ開講	1年				
	国際関係の理論		2	2		
	IRL200M 昼のみ開講	2年				
	倫理学		2	2		
	PHR210M 昼のみ開講	2年				
	ミクロ経済学I		1	2		
	ECN112M 休講	1年				
	ミクロ経済学II		2	2		
	ECN210M 休講	2年				
	マクロ経済学I		1	2		
	ECN113M 休講	1年				
	マクロ経済学II		2	2		
	ECN211M 休講	2年				
	経済地理学I		1学期	2	2	471
	ECN242M 杉浦 勝章	2年				
経済地理学II		2学期	2	2	472	
ECN243M 杉浦 勝章	2年					
地域経済I			2	2		
ECN244M 休講	2年					
地域経済II			2	2		
ECN245M 休講	2年					
地域政策		2学期	2	2	473	
ECN250M 松永 裕己	2年					
国際経済論I			2	2		
ECN240M 休講	2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	国際経済論II		2	2	
	ECN241M 休講	2年			
	産業組織論I		3	2	
	ECN341M 未開講	3年			
	産業組織論II		3	2	
	ECN342M 未開講	3年			
	財政学I		3	2	
	ECN361M 未開講	3年			
	財政学II		3	2	
	ECN362M 未開講	3年			
	公共経済学		3	2	
	ECN262M 未開講	3年			
	環境経済学		3	2	
	ECN340M 未開講	3年			
	中国経済		3	2	
	ECN350M 未開講	3年			
	アメリカ経済		3	2	
	ECN351M 未開講	3年			
	地方財政論		3	2	
	ECN365M 未開講	3年			
経営組織論		2	2		
BUS212M 休講	2年				
経営戦略論		2学期	2	2	474
BUS213M 山下 剛	2年				
人的資源管理論		3	2		
BUS310M 未開講	3年				
中小企業論		3	2		
BUS313M 未開講	3年				
ビジネス英語研究		3	2		
ENG232M 未開講	3年				

法学部 政策科学科 (2014年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策能力形成科目	政策科学入門		1	2	1年
	PLC101M 休講				
	政策分析入門		1	2	1年
	PLC115M 休講				
	政策入門演習I		1	2	1年
	SEM111M 休講				
	政策入門演習II		1	2	1年
	SEM112M 休講				
	演習I		2	2	2年
	SEM211M 休講				
	演習II		2	2	2年
	SEM212M 休講				
	演習III		3	2	3年
	SEM311M 未開講				
演習IV		3	2	3年	
SEM312M 未開講					
政策実践プロジェクトI		2	1	2年	
SEM280M 休講					
政策実践プロジェクトII		3	1	3年	
SEM380M 未開講					
卒業論文		4	4	4年	
STH410M 未開講					
■政策理論科目	政治学		1	2	1年
	PLS100M 休講				
	政治過程論		1	2	1年
	PLS210M 休講				
	西洋政治史		1	2	1年
PLS111M 休講					
政党政治論		2	2	2年	
PLS211M 休講					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■専門教育科目 ■政策理論科目	現代政治思想		2	2		
	PLS212M 休講	2年				
	政策理論特講		2	2		
	PLS213M 昼のみ開講	2年				
	政治文化論		2	2		
	PLS215M 休講	2年				
	行政学		1	2		
	PAD100M 休講	1年				
	行政組織論		2	2		
	PAD210M 休講	2年				
	政策構想論		1	2		
	PLC110M 休講	1年				
	比較政策論		2	2		
	PLC210M 休講	2年				
	公共政策論		1学期	2	2	475
	PLC211M 楢原 真二	2年				
	政策過程論		2	2		
	PLC212M 休講	2年				
	政策評価論		2	2		
	PLC310M 休講	2年				
都市環境論		1学期	1	2	476	
PLC111M 三宅 博之	1年					
都市計画概論		2	2			
PLC218M 休講	2年					
福祉国家論		1	2			
PLC112M 休講	1年					
政策情報処理		2	2			
PLC223M 休講	2年					
外国文献研究 A		3	2			
SEM391M 未開講	3年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策実践科目	日本政治論		1	2	1年
	PLS110M 休講				
	地方自治論		2	2	2年
	PAD211M 休講				
	地方行政改革論		2	2	2年
	PAD310M 休講				
	地域統合論		2	2	2年
	PLS214M 休講				
	アジア地域社会論		2	2	2年
	PLC222M 休講				
	応用政策特講		2	2	2年
	PAD214M 昼のみ開講				
	対外政策論		2	2	2年
	PLC213M 休講				
	自治体政策研究		2	2	2年
	PLC214M 休講				
	都市経済論		1	2	1年
	PLC113M 休講				
	都市経営論		2	2	2年
	PAD213M 休講				
都市政策論		2	2	2年	
PLC219M 休講					
環境政策論		2	2	2年	
PLC216M 休講					
途上国開発論		2	2	2年	
PLC215M 休講					
福祉政策論		2	2	2年	
PLC217M 休講					
公共経営論		2	2	2年	
PAD212M 休講					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策実践科目	NPO論		1	2	
	PLC114M 休講	1年			
	政策実務特講		2	2	
	PLC220M 休講	2年			
政策実践特講		2	2		
PLC221M 昼のみ開講	2年				
外国文献研究B			3	2	
	SEM392M 未開講	3年			
■政策関連法科目	法学総論		1	2	
	LAW100M 休講	1年			
	法社会学		2	2	
	LAW211M 休講	2年			
	法思想史		2	2	
	LAW210M 休講	2年			
	日本国憲法原論	1学期	1	2	477
	LAW120M 植木 淳	1年			
	憲法人権論		1	2	
	LAW220M 休講	1年			
	憲法機構論		2	2	
	LAW221M 休講	2年			
	憲法訴訟論		2	2	
	LAW320M 休講	2年			
行政法総論		2	4		
LAW121M 休講	2年				
行政争訟法		2	2		
LAW222M 休講	2年				
国家補償法		3	2		
LAW321M 未開講	3年				
地方自治法		3	4		
LAW223M 未開講	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策関連法科目	刑法犯罪論		1	4	1年
	LAW130M 休講				
	社会法総論		1	2	1年
	LAW140M 休講				
	社会サービス法		2	2	2年
	LAW242M 休講				
	所得保障法		2	2	2年
	LAW243M 休講				
	雇用関係法		2	2	2年
	LAW240M 休講				
	労使関係法		2	2	2年
	LAW241M 休講				
	国際法I		2	2	2年
	LAW250M 休講				
	国際法II		2	2	2年
	LAW251M 休講				
	民法総則		1	4	1年
	LAW160M 休講				
	物権法		1	2	1年
LAW260M 休講					
担保物権法		2	2	2年	
LAW261M 休講					
債権総論		2	4	2年	
LAW263M 休講					
債権各論		1	4	1年	
LAW262M 休講					
■自由科目	人間環境地理学		2	2	2年
	ENV240M 昼のみ開講				
	生態人類学		2	2	2年
ANT210M 昼のみ開講					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■自由科目	日本の歴史と社会		2	2	
	HIS210M 休講	2年			
	Advanced English I		4	2	
	ENG353M 未開講	4年			
	Advanced English II		4	2	
	ENG354M 未開講	4年			
■教職に関する科目 ■必修科目	教職論	1学期	1	2	478
	EDU111M 黒田 耕司	1年			
	教育原理	2学期	1	2	479
	EDU110M 児玉 弥生	1年			
	発達心理学	1学期	2	2	480
	PSY222M 税田 慶昭	2年			
	教育制度論	1学期	3	2	
	EDU227M 未開講	3年			
	教育課程論	1学期	3	2	
	EDU360M 未開講	3年			
	社会科教育法 A	1学期	3	2	
	EDU240C 未開講	3年			
	社会科教育法 B	2学期	3	2	
	EDU241C 未開講	3年			
	社会科教育法 C	1学期	3	2	
	EDU242C 未開講	3年			
	社会科教育法 D	2学期	3	2	
	EDU243C 未開講	3年			
	公民科教育法 A	1学期	3	2	
	EDU244C 未開講	3年			
公民科教育法 B	2学期	3	2		
EDU245C 未開講	3年				
道徳教育指導論	2学期	2	2	481	
EDU262M 黒田 耕司	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■必修科目	特別活動論	1学期	2	2	482
	EDU263M 楠 凡之	2年			
	教育方法学	1学期	2	2	483
	EDU260M 黒田 耕司	2年			
	生徒・進路指導論	2学期	2	2	484
	EDU261M 楠 凡之	2年			
	教育相談	1学期	2	2	485
	EDU264M 楠 凡之	2年			
	教育実習 1	2学期	3	2	
	EDU380C 未開講	3年			
	教育実習 2	1学期	4	2	
	EDU480C 未開講	4年			
	教育実習 3	1学期	4	2	
	EDU481C 未開講	4年			
教職実践演習 (中・高)	2学期	4	2		
EDU490C 未開講	4年				
■選択科目	教育心理学	2学期	2	2	
	PSY220M 休講	2年			
	障害児の心理と指導	2学期	2	2	486
	PSY223M 村上 太郎	2年			
	教育社会学	1学期	2	2	
	EDU225M 休講	2年			
	人権教育論	1学期	2	2	487
	EDU228M 弓野 勝族	2年			
	生涯学習学	1学期	2	2	488
	EDU220M 恒吉 紀寿	2年			
教育工学	2学期	2	2	489	
EDU265M 大塚 一徳	2年				

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史と政治
			PLS110F

授業の概要 /Course Description

明治憲法体制の成立（1889年）から崩壊（1945年）までの日本政治の歩みを概説します。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らなくて、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近現代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『児玉源太郎』（ミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

歴史と政治【昼】

履修上の注意 /Remarks

講義前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎【昼】

担当者名 /Instructor 杉原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			異文化理解の基礎
			ANT110F

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いかもしれない。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではごくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。毎回最後の10-15分は指定するトピック（次回のテーマに関するもの）についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。

本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：グローバルでローカルな世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 家族は普遍的な概念か？

第3回 生殖医療の時代の家族・親族関係を考える

第4回 近代家族 / 伝統的家族？

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと文化

第7回 伝統について：構築主義と本質主義

第8回 文化相対主義の考え方

第9回 中間試験

第II部 文化と世界観

第10回 現代社会における儀礼と文化的な空間認識

第11回 宗教紛争と日常の中の宗教

第12回 不幸への対処としての呪術

第13回 中間試験の講評 / 政教分離

第14回 現代社会のなかの呪術

第15回 講義のまとめ：人権と文化の独自性

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 30%、期末試験 70% を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。

※受講者の数によっては中間試験はレポートになることもあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 出席しただけでは評価しません。講義に9割出席していても、偶然1回休んだ日の内容がテストに出て回答できなければ、結果として単位を落とすこともあります（ほかの日の内容が完全に理解できているならばそんなことはありませんが）。出席することより理解することを心がけてください。質問は歓迎します。
- ・ 中間試験の無断欠席者および授業態度が目に残る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ 受講者が多い場合は受講制限をします。第1回目は来てください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化（新カリのみ）」とビジョンII「現代社会と文化（旧カリ：文化と政治）」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学 【昼】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		
			ことばの科学 LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』 大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生みだす本能(上)・(下)』 スティーヴン・ピンカー著、椋田 直子訳、NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門 IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		生活世界の哲学	
		PHR110F	

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ウェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ウェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (1) 【形式合理性】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (2) 【官僚制】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (3) 【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (4) 【物象化】
- 6回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (5) 【分業体制】
- 7回 確認テスト
- 8回 生活世界論のはじまり(1) 【ガリレオ・ガリレイと科学革命】
- 9回 生活世界論のはじまり(2) 【フッサールの近代批判】
- 10回 生活世界論のひろがり【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1) 【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2) 【古代ギリシャにおける公と私】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1) 【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2) 【社会との確執】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%
(第7回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生活世界の哲学【昼】

履修上の注意 /Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2回にわたって実施する試験は、いずれも難度の高いものであることをあらかじめ認識しておくこと（例年2～3割の受講者が不合格となっている）。単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。黒板に板書した情報はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

日本の防衛【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本の防衛
			PLS111F

授業の概要 /Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促したい。

なお、この授業の到達目標は、同分野における①総合的知識・理解の獲得、②課題発見・分析・解決力の獲得、③生涯学習力の獲得、に置かれている。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

日本の防衛【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2-3回 安全保障と防衛
安全保障を学ぶことの重要性、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム、安全保障の定義、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
- 第4回 わが国周辺の軍事的脅威(1)
有事の意識、三矢研究、有事の想定(国民保護「基本指針」)、わが国の地理的・地政学的特性、防空の基本(警戒・管制、領空と防空識別圏、領空侵犯対処とスクランブル、現況と今後)
- 第5回 わが国周辺の軍事的脅威(2)
海上警備の基本(空と海の違い、哨戒について、九州南西海域不審船事案)、北朝鮮の脅威について①(兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処)
- 第6回 わが国周辺の軍事的脅威(3)
北朝鮮の脅威について②(1993年ノドン発射、北朝鮮の保有する弾道ミサイルとノドンの重要性、1998年テポドン発射、弾道ミサイルと人工衛星、2006年ミサイル発射、米国のMD構想と日本のBMD)、2009年テポドン2発射と日本の対応、2012年ミサイル発射と日本の対応)
- 第7回 わが国周辺の軍事的脅威(4)
中国海空軍の脅威について(中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向と海上戦略、動的防衛力)ロシア軍の動向について(軍事再編の概況、極東の現況、ロシア海空軍の動向)
- 第8回 「平和主義」国の防衛(1)
いわゆる「軍隊のない国」はわが国の参考になるか、憲法9条と平和主義①(戦争放棄で放棄される「戦争」とは、自衛権について、「防衛戦争」と「防衛行動」、わが国が「自衛」で認められる範囲について)
- 第9回 「平和主義」国の防衛(2)
「戦力」と「防衛力」の違い、「必要最小限度の実力」と防衛力の限界、専守防衛とは何か、
- 第10回 「平和主義」国の防衛(3)
「防衛」の目的、攻撃の未然防止と「抑止」、「さらなる攻撃の阻止」と専守防衛、わが国の「拒否力」のあり方と動的防衛力、敵基地攻撃の可能性と限界)
- 第11回 国際平和協力
国際平和協力活動の枠組み、国際平和協法力について、主な取り組み、課題(武器使用基準、駆けつけ警護、集団的自衛権について)
- 第12回 海洋国家日本とシーレーン
シーレーンとは何か、シーレーン問題についての議論の推移、91年海自ペルシャ湾派遣の「目的」、海賊対処の重要性
- 第13回 防衛計画の大綱(1)
基盤的防衛力構想と51大綱、16大綱までの概略
- 第14回 防衛計画の大綱(2)
22大綱の特徴(基盤的防衛力構想からの離脱、動的防衛力とは何か、自衛隊の新体制と課題、わが国防衛はどこに向かってゆくのか)
- 第15回 予備

1回程度は、自衛官(高級幹部)をゲストで招き、講演してもらう予定。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。
安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生命と環境 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命と環境
			BI0100F

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。そもそも生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、遺伝子や生物の多様性と進化、それに影響を与えてきた生命を取り巻く環境について広く学び、生命と環境に関する身近な課題を自ら発見・解決するための基礎的な力を身につける。また、生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方の大切さについて理解することを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2011年(羊土社)2940円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)903円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高・中尾)
- 2回 ミクロとマクロの世界(日高・中尾)【物質の単位】【自然科学】
- 3回 宇宙に生まれた物質(中尾)【元素】【原子】【超新星爆発】
- 4回 生命と分子のなりたち(日高)【DNA】【タンパク質】
- 5回 生命の誕生・細胞(日高)【細胞膜】【共生説】
- 6回 単細胞から多細胞生物へ(日高)【地球環境の変化と生物】
- 7回 生物の分類と系統(日高)【種】【進化】
- 8回 生殖と生命多様性(日高)【有性生殖】【減数分裂】
- 9回 遺伝子につけられた名前(日高)【突然変異】【遺伝学】
- 10回 放射能と放射線(日高)【放射性同位元素】
- 11回 科学と似非科学(日高・中尾)【血液型】【星座】
- 12回 太陽と地球の環境(中尾)【太陽活動】【地球温暖化問題】
- 13回 人類の起源(日高)【ミトコンドリア】【ゲノム】
- 14回 映画鑑賞(日高)
- 15回 質疑応答とまとめ(日高)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 小テスト(3回~4回実施) 40%
- 期末テスト(または期末レポート) 40%
- 授業中の課題・授業への参加 20%

生命と環境 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していない者は参考書を入手し、授業に備えること。
2学期開講「人間と生命」を合わせて受講すると理解がより深まるでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

情報社会への招待【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考案することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会への招待
			INF100F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

情報社会への招待【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ

環境問題概論 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		環境問題概論 ENV100F	

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。本授業で基本的な環境に対する見方・考え方を身に付ける事によって、その後、環境問題に対し自立的に課題を発見し分析、解決することができる知識の充足を目指す。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション —環境問題を見る視点について—
- 第2回 沿岸海域の環境保全者としての漁業者 - 干潟の仕組み—
- 第3回 沿岸海域の環境保全者としての漁業者 - 海はだれのものか—
- 第4回 伝統的な農村部の生活と自然環境
- 第5回 農業の環境保全的機能と大規模集約型農業について
- 第6回 農業の可能性と第6次産業化
- 第7回 山を守る人々 - 守るために利用すること—
- 第8回 森林を焼き払う農業 —焼き畑農業は環境保全的か—
- 第9回 中間試験 (※中間試験の日程は前後する可能性があります)
- 第10回 日本人における自然観の変遷と考え方 - 環境倫理—
- 第11回 生物多様性と日本の草原
- 第12回 国際的枠組み —SATOYAMAイニシアティブの取り組み—
- 第13回 食物連鎖と地域内物質循環
- 第14回 なぜ環境問題は生じるのか - レポート試験の実施— (※レポート試験は日程が前後する可能性があります)
- 第15回 総括と復習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的参加姿勢：20%
不定期に何回か実施する試験（レポート試験含む）：80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

環境問題概論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / 到達目標 /Class クラス 2年 /

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史的過去の可能性に満ちた構造を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史的過去の可能性を発見し、歴史認識の多様性を理解することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史的過去の可能性を自立的に発見・分析し、解決への学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			可能性としての歴史
			HIS200F

授業の概要 /Course Description

「歴史にイフは禁物」とよく言われますが、本当にそうなのでしょうか？安易なイフの設定はたしかに禁物ですが、イフを上手に導入すれば、歴史の失われた可能性が見えてくるでしょう。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかのイフを導入して、日本近代史の別の可能性をみなさんとともに考えていこうと思います。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日清戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【陸奥宗光】
- 3回 日露戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【小村寿太郎】【日英同盟】
- 4回 伊藤博文が暗殺されなかったら？ - 韓国併合回避の可能性はあったか - 【山県有朋】
- 5回 明治天皇がもっと長生きしていたら？ - 2大政党制の誕生 - 【桂太郎】【大正政変】
- 6回 日本が第一次世界大戦に参戦しなかったら【ニカ条要求】
- 7回 原敬が暗殺されなかったら？ - 政党政治による軍部支配 - 【田中義一】
- 8回 張作霖爆殺 - その真の目的はなにか - 【護憲三派内閣】
- 9回 若槻礼次郎内閣が崩壊しなかったら？ - 満州事変は失敗していた？ - 【石原莞爾】
- 10回 2・26事件が未然に防げたら？ - 日中戦争回避の可能性 - 【高橋是清】
- 11回 1940年夏にフランスがドイツに勝利していたら？【ヒトラー】
- 12回 日独伊ソ四国協商が成立していたら？【独ソ戦】
- 13回 日米英戦争は不可避だったのか？【日独伊三国軍事同盟】
- 14回 鈴木貫太郎内閣がポツダム宣言を受諾しなかったら？【本土決戦】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

※学生諸君の理解度に鑑みて、講義内容を若干変更する可能性があります。「ただ聴くだけ」という受講態度は駄目です。最低限、高校教科書レベル+αの予習を毎回やってきて下さい。そのための文献は適宜指示します。相当量の板書をするので、ノートはこまめにとるように心がけて下さい。

可能性としての歴史【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と文化【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と社会に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と社会に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と文化
			ANT210F

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知ること」そのものが持つ政治性について講義を行い、後半は私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考へがちな身体に関する文化についての講義を行い、文化を理解することについて考察を深める。文化に関する外国の問題は解説をうのみにしてしまいがちであるが、前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

教科書 /Textbooks

以下の参考文献を各人の興味にあわせて読んでおくことが望ましい。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 池田光穂2010『看護人類学入門』文化書房博文社
- 浮ヶ谷幸代2010『身体と境界の人類学』春風社
- 太田好信編2012『政治的アイデンティティの人類学』
- 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
- 本多俊和ほか2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

現代社会と文化【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

第I部 現代社会において異文化を理解すること

第2回 文化を「知っている」とはどういうことか？

第3回 「未開の人々」へのエキゾチズム

第4回 植民地主義と文化

第5回 ナショナリズムと文化

第6回 先住民・少数民族の文化に関して

第7回 多文化主義の可能性と限界

第8回 分類の不明瞭さ：国籍・人種

第9回 中立・公平は可能か？

第10回 中間テスト

第II部 他者の内側

第11回 近代・ポスト近代という時代の認識

第12回 身体の近代化

第13回 中間テストの講評

第14回 普遍的な医療と普遍的でない身体

第15回 癒しの多様性

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験30%、期末試験70%

そのほか講義中に課した提出物なども平常点として評価に加える。受講人数によっては試験をレポートに変更することもある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 中間試験を無断欠席した学生は、評価割合をこえて厳しく減点することもあります。
- ・ 出席しただけでは評価しません。講義にはほとんど出席していても、偶然1回休んだ日の内容がテストに出て回答できなければ、結果として単位を落とすこともあります（ほかの日の内容が完全に理解できているならばそんなことはありませんが）。出席することより理解することを心がけてください。わからないことについての質問は歓迎します。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ ビジョン科目「異文化理解の基礎（旧カリ：人間と文化）」を受講済みの学生は、授業の理解度が高まります。
- ・ 履修上の注意では、厳しいことを書いていますが、記憶することは何もありません。講義で自分が学んだと思うことを用いて現代の文化に関する問題を自分なりに理解することが大切です。意欲的な学生の受講を歓迎します。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 中溝 幸夫 / NAKAMIZO SACHIO / 非常勤講師
杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語と認知に関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動や文献講読を通して言語と認知に関する課題を発見し、言語学・心理学・生物学などの手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語と認知に関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		
			言語と認知
			LIN210F

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序 (漆原・全員)
- 第2回 眼はどのように動いているか、それをどう測定するか (中溝)
- 第3回 文を読むとき、眼はどのように動いているのか (中溝)
- 第4回 言語活動時、脳のどこが働いているか (中溝)
- 第5回 ことばはどのように身につけられるのか (言語習得) (漆原)
- 第6回 ことばはどのように失われるのか (失語症・失文法) (漆原)
- 第7回 脳と心のなりたち (脳のはたらきを支配する遺伝子) (日高)
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか (言語と遺伝子) (日高)
- 第9回 特別講義 (外部講師)
- 第10回 概念と言葉 (概念におけるプロトタイプ効果など) (ストラック)
- 第11回 隠喩とは何か (隠喩論) (ストラック)
- 第12回 詩とほのめかし (アイコン性、phonaesthemesなど) (ストラック)
- 第13回 文の形と意味をつなぐもの (文法形式と意味の類像性) (杉山)
- 第14回 左右の区別がなかったら (ことばと思考・言語相対論) (杉山)
- 第15回 まとめ: 担当者によるパネル・ディスカッション (全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% レポート 16% x 5 = 80%
(すべての教員のレポートを提出しない限り評価不能(-)となります。)

言語と認知【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。
集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共生社会の成立を阻む要因に関して、様々な視点から考える能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会の様々なレベルの共生社会の成立を阻む要因の中で、何が最も問題となるかを理解する能力を養う。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	共生社会の実現に向けての新たな視座を習得する。
	コミュニケーション力		
		共生社会論	SOW200F

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げる中で、この問題に迫っていきたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共同体と身体 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共同体と身体との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	共同体と身体について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	共同体と身体に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			共同体と身体
			PHR210F

授業の概要 /Course Description

人間が自分（たち）の体について抱いている観念は、歴史を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体に対するイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを思想的な観点から考察する。継続的な受講により、共同体と身体との関係、さらには生活世界と自己との関係が以前よりも総合的に理解できるようになるだろう。また本授業は、古代から近代にかけての哲学的身体論の基本パターンを体系的に学べるようプログラムされている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業時にそのつど指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日本的身体のイメージ 1【九鬼周造】
- 3回 日本的身体のイメージ 2【溝口健二】
- 4回 近代哲学における心身二元論の成立
- 5回 古代ギリシャの身体観 1【プラトンからホメロスへ】
- 6回 古代ギリシャの身体観 2【『オイディプス王』】
- 7回 古代ギリシャの身体観 3【通時的総括】
- 8回 キリスト教共同体と身体
- 9回 ドイツ表現主義と身体
- 10回 現代社会と身体の規律 1【『メトロポリス』】
- 11回 現代社会と身体の規律 2【シユレーパー】
- 12回 現代社会と身体の規律 3【ヒトラー】
- 13回 現代社会と身体の規律 4【オーウェル】
- 14回 現代社会と身体の規律 5【『1984年』】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

共同体と身体 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業で扱われる内容は、1年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。
「生活世界の哲学」の単位を取得している場合は、本講義についていくのが比較的容易なはずである。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

期末テストは授業範囲すべてに関わるものであり、比較的密度の濃い内容となるので、(当たり前のことだが)休めば休むほど成績上不利になる。単位取得のためには、かなりの努力と忍耐力が求められるだろう。

キーワード /Keywords

心身二元論 身体像 規律と監視

戦争論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と戦争との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	戦争について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			戦争論
			PLS210F

授業の概要 /Course Description

戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。1年次ビジョン科目「日本の防衛」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 戦争概論
- 第3回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第4回 戦争の経歴(2)革命戦争
- 第5回 戦争の経歴(3)近代戦争
- 第6回 両大戦の特徴(1)総力化
- 第7回 両大戦の特徴(2)イデオロギー化
- 第8回 両大戦の特徴(3)全面化
- 第9回 日本と原爆(1)原爆の開発過程
- 第10回 日本と原爆(2)原爆の完成と投下
- 第11回 核兵器の構造
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)
- 第14回 核兵器の役割 (抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし。ただし、「日本の防衛」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「防衛セミナー」などを受講しておく、さらに深く理解できる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生命科学と社会【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 1学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / 到達目標 /Class クラス 2年 /

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の進歩およびその社会との関わりについて総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会の中の生命科学に関する課題について総合的に分析し、自らがとるべき行動を客観的に判断できる素養を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の中の生命科学に関する課題を自ら発見し、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命科学と社会
			BI0200F

授業の概要 /Course Description

遺伝情報であるDNAの構造が決定され、それから半世紀の間、生命科学は大きく進歩し、医療、食生活や健康など我々の社会に深く浸透している。生命科学とはどのようなもので、我々の生活をどのように変えてきたのだろうか。また、人間が遺伝子や生命を操作するとは具体的にはどのようなことであり、どこまで許されることなのだろうか。本講義では人間の社会や他の生物との関わりから生命科学を捉えることを目指し、そのための基礎知識を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 生命科学の歴史1【DNA二重らせん】
- 3回 生命科学の歴史2【ヒトゲノム】
- 4回 遺伝子操作とは【制限酵素】【ベクター】
- 5回 遺伝子組換え作物【カルタヘナ法】
- 6回 DNA鑑定とその限界【PCR】【足利事件】
- 7回 生物多様性はなぜ重要【生物資源】【医薬品】
- 8回 疾患と遺伝子【遺伝子診断】
- 9回 モデル生物と人間(外部講師)【ノックアウトマウス】
- 10回 人体と放射線(外部講師)【確率的影響】【がん】
- 11回 先端医療と生命科学【分子標的薬】【幹細胞】
- 12回 生命科学と家族(神原)【遺伝的つながり】
- 13回 ニュースの話題より【ノーベル賞】
- 14回 映画鑑賞
- 15回 質疑応答・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3〜4回実施) 40%
 期末テスト(またはレポート) 40%
 授業中の課題・授業への参加 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していない者は参考書入手し、授業に備えること。
2学期開講「人間と生命」を合わせて受講すると理解が深まるでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外部講師（放射線基礎医学等）および基盤教育センター・神原ゆうこ（文化人類学）とともに、さまざまな角度から生命と社会の問題を取り上げたいと思います。ニュースで扱われるような話題を自分で理解し、考える力を身につけましょう。

キーワード /Keywords

情報社会を読む【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年 /

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会の現在、及び、未来についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会を読む
			INF200F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、最新のICTやそれを応用したサービスについての理解を深めることで、現在の情報社会について概観し、その先の未来で待ち受けている情報社会の課題や可能性について考える力を身に付けることである。具体的には、以下のような項目について理解する。

- 情報社会を構成している最新のICTに関する基礎知識
- 最新のICTを応用したサービスと人間との関係性
- 未来の情報社会で起こりうる課題とその解決策
- 未来の情報社会で期待できるサービスの可能性

本授業では、講義（教員が教壇に立って説明することが中心）と演習（学生が与えられた課題に沿って主体的に学習活動することが中心）とを組み合わせながら進めていく。ときには、グループディスカッションを行いながら課題に取り組んでもらう。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 身の回りにあるICTと情報社会 【ガイダンス、ICT活用サービスの光と影】
- 2回 位置情報を利用したサービス 【ジオメディア、GPS】
- 3回 演習1：位置情報サービスがもたらす未来を読む
- 4回 SNSがもたらすコミュニケーションの変化と集合知 【ソーシャルメディア】
- 5回 SNSを利用したビジネスモデル 【ソーシャルコマース】
- 6回 演習2：SNSの未来を読む
- 7回 「雲」の向こう側にある情報 【クラウド、データセンター、共有】
- 8回 カメラは何を認識できるか 【画像処理、画像認識】
- 9回 新たな個人認証システム 【顔画像認証、指先静脈】
- 10回 演習3：画像認識の未来の活用法を読む
- 11回 本棚を持ち歩く時代 【電子書籍、著作権】
- 12回 「かざす」と何が起きるか 【RFID、非接触ICカード】
- 13回 現実に付加情報を加える拡張現実 【AR】
- 14回 演習4：RFIDやARを利用した未来のサービスを読む
- 15回 まとめ

情報社会を読む【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・ 40%
授業中に実施する課題・・・ 40%
レポート・・・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「情報社会への招待」を先に受講して、情報社会に関連する知識や技術をある程度把握していると受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

分からないところがある場合は、積極的に質問してもらいたい。授業中に実施する演習において、グループディスカッションを求めることもあるので、その時は積極的に議論に参加してもらいたい。また、この科目は、専門用語を覚えることに重点を置くのではなく、情報社会の未来はどうなるのかという発想やアイデアに重点を置くので、「未知のことについて考える力」を磨くことにチャレンジしてもらいたい。

キーワード /Keywords

情報社会の未来、ICT活用サービス、ICTと人間

地域資源管理論 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
										○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	「地域資源の管理」に関わる総合的な理解と、持続可能な社会づくりに関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域資源を管理しようとする際の根本的かつ総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	各自が所属する地域社会において、地域資源との望ましい関わり方を自ら発見し、持続可能な社会づくりのための学びを継続することができる。
			地域資源管理論
			ENV200F

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域資源を住民が主体となって管理していくための手法について、詳細に解説する。

本授業で扱う事例は大きく分けて、以下の4点である。

- ①東京都国立市の国立マンション訴訟 - まちの景観を住民は守ることができるのか -
- ②東京都稲城市の里山の大规模開発事業 - 平成たぬき合戦ボンポコの素材となった里山を事例に -
- ③滋賀県長浜市における黒壁スクエア事業 - まちづくり会社 (TMO) の役割と権利の集約 -
- ④地域コミュニティが潤う里山の資源管理 - 財産区制度の活用による地域自治の取り組み -

上記の事例を、いくつかの紛争事例・裁判事例を検証することで、地域資源を管理する、活用するための具体的手法について、法社会学の知見を活かし、分析する。

法社会学における基礎的な専門知識の習得とともに、地域住民が共同で地域資源を管理していくために必要な具体的知識を習得することを目的としている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 鈴木龍也, 富野暉一郎編著 (2006) 『コモンズ論再考』 晃洋書房
- 室田武, 三俣学著 (2004) 『入会林野とコモンズ: 持続可能な共有の森』 日本評論社
- 角谷 嘉則著 (2009) 『株式会社黒壁の起源とまちづくりの精神』 創成社

地域資源管理論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 ①東京都国立市の国立マンション訴訟 - まちの景観を住民は守ることができるのか -
: なぜこの問題が起きたのか? (問題背景)
- 第3回 ①東京都国立市の国立マンション訴訟 : 法的な解釈と住民たちの意識とのズレについて
- 第4回 ①東京都国立市の国立マンション訴訟 : 問題解決に向けた新たな法制度の提案
- 第5回 ②東京都稲城市の里山の大規模開発事業 - 平成たぬき合戦ボンポコの素材となった里山を事例にー: 問題の背景
- 第6回 ②東京都稲城市の里山の大規模開発事業 : 法社会学者が提起した解決の糸口とは?
- 第7回 ③滋賀県長浜市における黒壁スクエア事業 - まちづくり会社 (TMO) の役割と権利の集約ー: 問題の背景
- 第8回 ③滋賀県長浜市における黒壁スクエア事業 : 「まちづくり三法」と「まちづくり会社の役割」について
- 第9回 ③滋賀県長浜市における黒壁スクエア事業 : 伝統的文化である「長浜曳山祭り」の継承という役割
- 第10回 ③滋賀県長浜市における黒壁スクエア事業 : 新たな課題の出現とその解決策の提示
- 第11回 ④地域コミュニティが潤う里山の資源管理 - 財産区制度の活用による地域自治の取り組みー: 問題の背景
- 第12回 ④地域コミュニティが潤う里山の資源管理 : 地域コミュニティの財産をどのように守っていくのか?
- 第13回 ④地域コミュニティが潤う里山の資源管理 : 地域自治を目指すためのスキーム (方法) とは?
- 第14回 ④地域コミュニティが潤う里山の資源管理 : 財産区制度に頼らない、地域自活の道。現代法に則した新たな制度設計
- 第15回 総括と復習

成績評価の方法 /Assessment Method

専門的知識の習得度 (試験やレポートで確認) : 80 %
授業への積極的参加姿勢や貢献度 : 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、法社会学の基礎的な知見の習得を目指す。そのため、裁判の話 (判例) や法律の話に言及する機会が多々ある。平易な説明や解説を試みるため、あらかじめ必要な知識はないが、基礎的な法的思考能力を鍛える必要があるため、その旨、履修する者は理解してほしい。

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
		教養基礎演習 I	GES101F

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践に際してのマナーやPDCAサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習
第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
第11回・12回：活動報告
第13回・14回：振り返り学習
第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%
活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

関連活動に関する文献学習。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1)
- 3回 基本的事項の確認 (2)
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10% (配布するカードに記入した内容で評価する)、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

なし
希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジュメ（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジュメ」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジュメ」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジュメを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジュメの内容...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習が始まる前に大学図書館を見学しておいて下さい。
毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジュメを作ってもらいます。
小林担当の「教養基礎演習II」とセットで履修することを希望します。
この演習は2年生・3年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

大学での学び方入門：
本演習では、大学での勉強の仕方の基礎を学びます。最終的には、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことを目指す。前半では、テキスト『家事労働ハラスメント：生きづらさの根にあるもの』の批判的読解を試みることを通して、レジユメの作りかた、論点のを見つけ方を学び、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養う。後半では、自分で関連する文献をさらに探して、2000字程度のレポートを書くプロセスを報告しながら、受講者とともにより完成度の高いレポートの作成を目指す。

教科書 /Textbooks

竹信三恵子2013『家事労働ハラスメント：生きづらさの根にあるもの』岩波新書

タイトルだけでは、ジェンダーに関する本のようにみえますが、貧困、福祉、市場経済の社会の矛盾などさまざまな問題を提起してくれます。一人暮らしをすると（実家暮らしでも）、避けられない家事について考えてみましょう。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤望ほか(編)2006『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会(編)2009『知のツールボックス』専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：大学の授業とは
- 第2回 大学における本の読みかた・探し方
- 第3回 レジユメの作りかた
- 第4・5・6・7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
テキスト：『商店街はなぜ滅びるのか』
- 第8・9回 テーマのを見つけかた・レポートの書きかた
- 第10・11・12・13回 レポート構想報告
- 第14回 文章を推敲する：レポートの相互添削
- 第15回 文章のブラッシュアップ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、積極的な発言など)50%
(第14回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。)
ただし、報告者の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 出席者の報告を重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。
- ・ 第1回の授業は必ず出席してください。
- ・ 教養基礎演習IIも継続して受講することが望ましいです。
- ・ 問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。4月の段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部の学生でも怖気づかずに履修してください。ですが、演習の準備に時間がかかることは嫌がらないでください。

キーワード /Keywords

レポートの書き方、問題意識の発見、レポート作成

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。尚、本演習では野外活動特に「キャンプ」実習に力を入れ、学内では経験できない「レクリエーション種目」なども多数実践していきます。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 グループディスカッション(1)
- 2回 グループディスカッション(2)
- 3回 グループディスカッション(3)
- 4回 グループゲーム (1)
- 5回 グループゲーム (2)
- 6回 自分自身を理解する
- 7回 自分自身を人に理解させること
- 8回 野外活動とは？
- 9回 キャンプ実習についての講義(1)
- 10回 キャンプ実習についての講義(2)
- 11回 キャンプ実習についての講義(3)
- 12回 キャンプ実習の実施(1)
- 13回 キャンプ実習の実施(2)
- 14回 キャンプ実習の実施(3)
- 15回 キャンプ実習のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(キャンプ実習の参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

キャンプ実習は別途実習費(約4000円)がかかりますので注意してください。
キャンプ実習は、教養基礎演習I(担当:高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
										○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

この演習では、大学における学習や研究の方法を身につけることを目的とする。環境問題をテーマとして取り上げ、受講者の①レジュメ作成能力、②プレゼンテーション能力、③学術的コミュニケーション能力（対話・議論）、④知的好奇心の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

富山和子（2001）『環境問題とは何か』PHP新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：学習法・レジュメの作成方法・プレゼンテーション方法について
- 第3回：環境問題についての考え方について
- 第4回：テキストの輪読①
- 第5回：テキストの輪読②
- 第6回：テキストの輪読③
- 第7回：テキストの輪読④
- 第8回：テキストの輪読⑤
- 第9回：テキストの輪読⑥
- 第10回：テキストの輪読⑦
- 第11回：テキストの輪読⑧
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会+まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言・報告姿勢等）：40%
最終レポート：60%

（※最終レポートとは、第13回～第15回において各自の関心において作成したレポートに対し、参加者から寄せられた批判や修正点等をふまえ、改善をした上で学期末に提出するレポートである。）

教養基礎演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業には予めテキスト、ならびに事前に配布されるレジユメを精読してのぞむこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は、自分の考え方や意思を的確に相手に伝えることができるようになることを目指す。これは就職活動や社会に出ても必要な能力である。受講者の積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

大学における学習方法、レジユメ・レポート作成、コミュニケーション能力の向上

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意①】2014年度入学生、2013年度入学生（新1年生、新2年生）は、必ず、同じく1学期に開かれているビジョン科目「日本の防衛」とセットで受講すること。ただし、時間割の関係で「日本の防衛」が受講できない場合、「教養基礎演習II」（戸蒔）とセットで履修すること。また、新2年生で、既に「日本の防衛」の単位を取得している者は、この科目のみの履修を認める。

【注意②】2012年度以前入学の新3年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている戸蒔の「教養基礎演習II」、「演習AII」もしくは「演習BII」とセットで履修すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う（予定）。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（戸蒔）
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う予定。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% レポート...50%

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

準備などは特に必要ない。上記の注意を必ず守ること。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
		教養基礎演習 I	GES101F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、「倫理学」の基礎的な理解に役立つテキストを取り上げる予定である。

教科書 /Textbooks

未定。第1回の授業時に公表する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(人数調整、演習でのルール、成績評価法、テキストの説明)
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(議論・発言の積極性)...50% レポート...50%
(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回（ガイダンス）時に受講者数調整を実施する。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第1回の授業に出席する必要がある。仮に2年生以上が本基礎演習に登録していたとしても、第1回の授業を欠席した場合には登録を抹消するつもりである。
人数調整に際しては、【本演習に友人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者】を尊重したい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については7月頭に提示する予定）。この授業は、2年生以上の先輩も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

初めてあった人や普段話したことがない人の中にいたり、自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいのが困ったことなどはありませんか。そんな中、身体活動を通して、知らない人同士で自然に打ち解け、楽しみを感じたことはありませんでしたか。身体活動は、健康体力の増進のみならず、コミュニケーションづくりにも有効な方法なのです。本演習では、身体活動やグループワークを通して、どうしたら、コミュニケーション能力（人間関係力）を高めることができるかを焦点に考えていきたいと思います。
また、学内と離れた場所での野外活動(キャンプ実習)を通して、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養ってきたいと思います。

教科書 /Textbooks

適宜資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介と他己紹介
- 3回 人間関係力とは
- 4回 人間関係力演習(1)簡単なゲームを通して
- 5回 人間関係力演習(2)簡単なゲームを通して
- 6回 人間関係力演習(3)身体活動を通して
- 7回 人間関係力演習(4)身体活動を通して
- 8回 野外活動とは？
- 9回 キャンプ実習についての講義(1)
- 10回 キャンプ実習についての講義(2)
- 11回 キャンプ実習についての講義(3)
- 12回 キャンプ実習(1)
- 13回 キャンプ実習(2)
- 14回 キャンプ実習(3)
- 15回 キャンプ実習のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(キャンプ実習の参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

実習については、別途参加費がかかります(約4000円)。
キャンプ実習は、教養基礎演習I(担当：徳永)と同時期に実施をします。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、活動に際してのマナーやPDCAサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習
第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
第11回・12回：活動報告
第13回・14回：振り返り学習
第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%
活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

関連活動に関する文献学習。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

本講義は、株式会社スターフライヤーの協力を得て開講します。将来、社会人として求められる能力、特に対人接点を必要とする仕事に必要なコミュニケーション能力やホスピタリティについて学びます。航空業界、百貨店・小売業界、ホテル業界、ブライダル業界等を目指す学生にとって役に立つ講義です。

この講義を開講する理由は大きく三つあります。一点目は、昨今の企業が求める人材要件として、コミュニケーション能力が重視されていることです。単に同質な人との接点ではなく、多様な方々と円滑なコミュニケーションが取れることが求められています。二点目は、コミュニケーションやホスピタリティに関するスキル獲得だけでなく、それらを発揮するための素養を育む必要性があるからです。三点目は、上にあげた業界に就職したいと考えている学生にとってのチャンスを拡大するためです。

このような理由から、常に最高の接客コミュニケーションが求められるキャビンアテンダント教育の要素を取り入れたいと考え、株式会社スターフライヤーに協力をいただきます。日々業務を行っている実務家の講義は、現場に即した実践的な学びを学生の皆さんに提供します。

教科書 /Textbooks

授業開始時に説明します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始時に説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションとは？(1)【エアラインでの実例をもとに考察する】
- 3回 コミュニケーションとは？(2)【エアライン等、対人職において求められる人物像の考察】
- 4回 コミュニケーションとは？(3)【コミュニケーションスキル他】
- 5回 コミュニケーションとは？(4)
- 6回 マナーとホスピタリティ(1)【ホスピタリティの意味～今なぜホスピタリティなのか？】
- 7回 マナーとホスピタリティ(2)【ホスピタリティマインドとアクション】
- 8回 マナーとホスピタリティ(3)【ホスピタリティ溢れるポジティブマナーとは】
- 9回 マナーとホスピタリティ(4)
- 10回 コミュニケーション&マナー実践(5)【対人職に求められるコミュニケーションスキル実践】
- 11回 コミュニケーション&マナー実践(6)
- 12回 コミュニケーション&マナー実践(7)【サービス適正確認 実践(ロールプレー)】
- 13回 コミュニケーション&マナー実践(8)【苦情/クレームについて考える】
- 14回 コミュニケーション&マナー実践(9)【面接におけるマナー】
- 15回 まとめ

教養基礎演習II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

指定回に着用しての受講となります。
クラス定員を30名程度としますので、履修希望者多数の場合は抽選とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

主として客室乗務員研修（ホスピタリティ/サービス実践等）を軸に対人職に求められるパーソナリティや接客スキルを学び磨いていく講義です。
「生」、「現場」の情報をお届けしますので、客室乗務員やグランドスタッフ、ホテルコンシェルジュ等高い接客スキルが求められる職業を将来希望される学生にぜひ受講して頂きたいと思います。

キーワード /Keywords

コミュニケーション、ホスピタリティ、エアライン、ブライダル、ホテル

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1)
- 3回 基本的事項の確認 (2)
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10% (配布するカードに記入した内容で評価する)、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

なし

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

日本政治外交史に関するゼミ・レポートを書いてもらう（400字×10枚以上）。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』（平凡社新書、2001年、700円）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習運営方針に関する話し合い。
- 2～14回 各自の研究報告。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。
なお、ゼミ・レポート未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習が始まる前に大学図書館を見学しておいて下さい。
小林担当の「教養基礎演習I」とセットで履修することを希望します。
この演習は2年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

考えを深める訓練：

教養基礎演習Iの続きとして、一つのテーマについて考えを深める訓練を行います。レポートが書けることと、内容の濃い（＝評価される）レポートが書けることは違います。

本演習では、教養基礎演習Iの受講者の問題関心に近いテキストを輪読し、ディスカッションを通して、各自のテーマをさらに掘り下げることを通して課題発見能力を養います。その成果を活かし、学期末にはまとまった分量の程度度のレポートを書くことを目指します。この演習を通して、他の人の考えにコメントをつける、人からもらったコメントを活かす力を身につけることをめざし、問題の本質を探る能力、すなわち生涯にわたって役立つ基礎的な探求能力を身につけることを目的とします。

教科書 /Textbooks

教養基礎演習Iのレポート提出者の興味関心にあわせて第1回目の演習で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008 『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマを決めて文章を書くとはどういう事か？今学期のテキストについて
- 第2回 考えと深めるにはどうしたらいいか？：教養基礎演習Iのレポートの講評と反省
- 第3回 テーマを深めるための議論のしかた
- 第4回 テーマを深めるための議論のしかた
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポート構想報告
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 文章を推敲する：レポート相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップのために
- 第15回 報告会と演習のまとめ

教養基礎演習II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献（報告内容、演習中の発言、その他の提出物など）50%
レポートについては教養基礎演習Iのレポートからの発展性を評価する。
ただし、報告者の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・原則として教養基礎演習Iを受講した者を対象とします。ですが、レポートはとりあえず書けるけれど、いい（評価される）レポートとはどんなものか意欲的に考えてみたい方は教養基礎演習IIのみ受講しても構いません。自分がどのようにものに興味関心があるか考えをまとめて第1回目の授業に来てください。
- ・レポートは大変ですが、それは書く時間がかかるのではなく、それまでの準備に時間がかかります。本を探し、読む時間を計算に入れて準備しましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1学期は基本的な書き方を学ぶのに対し、2学期はより完成度の高いレポートを書くために、自分の意見を説得力をもって話し、議論することも重視します。積極的な発言を心がけてください。

キーワード /Keywords

議論、多角的視野、説得力のあるレポート

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。本演習においては、演習Iを踏まえ、自然克服型である「スキー」を実施する。「スキー」等において学内では経験できないスポーツ活動を体験し、さらに集団スポーツで求められるチームワークやコミュニケーション能力の強化を目指します。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自分自身を理解すること(1)
- 3回 自分自身を理解すること(2)
- 4回 自分自身を人に理解させること(1)
- 5回 自分自身を人に理解させること(2)
- 6回 人を理解すること(1)
- 7回 人を理解すること(2)
- 8回 スキー実習についての講義(1)(場所の選定)
- 9回 スキー実習についての講義(2)(スキーの安全性)
- 10回 スキー実習についての講義(3)(スキー技術)
- 11回 スキー実習についての講義(4)(スキー実習について)
- 12回 スキー実習の実施(1)
- 13回 スキー実習の実施(2)
- 14回 スキー実習の実施(3)
- 15回 スキー実習の実施(4)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(スキー実習への参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
スキー実習に参加ができない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

スキー実習は別途実習費が必要です。
スキー実習は、教養基礎演習II(担当・高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

社会的な視点と方法（特に質的調査）によって論文・レポートを書くことをめざす。具体的には、以下のことについて学習・習得する。

- (1) 「複眼思考」を身につける。
 - ・「常識」にとらわれず、「別の考え方」を模索する。
 - ・誤った因果関係を見破る。
 - ・ものごとを「実体論」的ではなく、「関係論」的にとらえる（ものごとは関係の中から構築される、という思考方法を身につける）。
 - ・「問い」そのものを「問う」という思考方法を身につける（メタ・レベルでの問いのたて方を身につける）。
- (2) 「質的調査」（インタビュー）の技法を身につける
 - ・質的調査と量的調査の違いを理解する。
 - ・インタビューをするためには、どのようなことが必要なかを学ぶ。
 - ・調査倫理について理解する。
- (3) インタビュー（聞き取り調査）を通して自分の関心のあるテーマ・問いについて何らかの解釈を行う。
 - ・自分が関心を持つできごと（社会現象）を設定し、「問い」をたてる。
 - ・どのような方法で、その「問い」に「答え」が導き出せるか、考える。
 - ・インタビューを用いて、何らかの解釈を行う。

演習形式で行うため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

荻谷剛彦著, 2002, 『知的複眼思考法』, 講談社 + α文庫

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○谷富夫・芦田徹郎編著, 2009, 『よくわかる質的社会調査 技法編』, ミネルヴァ書房

教養基礎演習II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション - 複眼思考とは何か
- 第2回 複眼思考を身につける(1) 批判的に読み、批判的に書く
- 第3回 複眼思考を身につける(2) 「問い」をたてる
- 第4回 複眼思考を身につける(3) 因果関係を設定する
- 第5回 複眼思考を身につける(4) 概念化しモデル化する
- 第6回 複眼思考を身につける(5) 関係論的思考、意図せざる結果、メタレベルの思考
- 第7回 質的社会調査の考え方
- 第8回 フィールドワークについて理解する
- 第9回 「問い」をたてる
- 第10回 資料・データを探す
- 第11回 インタビューの技法を身につける
- 第12回 インタビューの実際の流れを理解する
- 第13回 調査倫理について理解する
- 第14回 インタビュー計画をたてる
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...20% 課題(レポート)...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習形式を基本とするので、報告者はレジユメを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会学、実証研究、複眼思考、疑似相関、関係論的思考、意図せざる結果、メタレベルの問い、質的調査、インタビュー

教養基礎演習II 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

なぜ「生物多様性」を保つことが必要なのか、環境分野における基礎知識を充足させるとともに、「さとやま」が良好な地域資源として活用していくための社会づくり（社会制度の分析）について勉強する。
「さとやま」をキーワードとし、地域環境に関する課題をグループでディスカッションすることで、他者からの学びを行うとともに、地域社会が抱える根本的な課題を発見し、自立的に解決策を見つけ出すための考え方や思考方法を習得できるようにする。

教科書 /Textbooks

鷲谷いづみ（2011）『さとやま - 生物多様性と生態系模様 -』岩波書店（岩波ジュニア新書） ¥840 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：文系における環境問題と生物多様性の視点について
- 第3回：テキストの輪読①
- 第4回：テキストの輪読②
- 第5回：テキストの輪読③
- 第6回：テキストの輪読④
- 第7回：テキストの輪読⑤
- 第8回：テキストの輪読⑥
- 第9回：テキストの輪読⑦
- 第10回：テキストの輪読⑧
- 第11回：テキストの輪読⑨
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会 + まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言、レジュメ作成の出来） 20%
専門的基礎知識の理解度 30%
期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「生物多様性やさとやま」をキーワードとして、授業を進めていくが、生物学の知識は必要としない。
さとやまを保全・活用していくための社会制度や社会の仕組みについて、議論を行うのが中心である。

キーワード /Keywords

生物多様性、さとやま、農山漁村、過疎高齢化、持続可能な地域づくり

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意①】2012年度以前に入学したの新3年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習I」、「教養演習AI」もしくは「教養演習BI」のいずれかとセットで受講すること。

【注意②】新1年生および新2年生（2014年度・2013年度入学生）は、この科目と並行して「教養基礎演習I（防衛セミナー）」（もしくは「演習AI」）を履修した方が理解が増す。なお、「教養基礎演習I（防衛セミナー）」を履修せずに、この科目のみを履修しても、あまり利益はない。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回～14回 この授業は、各回の「教養基礎演習I」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養基礎演習I」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

準備などは特に必要ない。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『母性社会日本の病理』を取り上げる。日本をよりよく理解するために、西洋の文化・宗教との対比が欠かせないことを教えてくれる貴重な論考である。

教科書 /Textbooks

河合隼雄『母性社会日本の病理』、講談社、1997年、924円（税込）。
(※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(授業のルール、成績評価等の説明)
- 2回 読解と議論1
- 3回 読解と議論2
- 4回 読解と議論3
- 5回 読解と議論4
- 6回 読解と議論5
- 7回 読解と議論6
- 8回 読解と議論7
- 9回 読解と議論8
- 10回 読解と議論9
- 11回 読解と議論10
- 12回 読解と議論11
- 13回 復習と補助学習1
- 14回 復習と補助学習2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(予習・議論・発言の積極性)...50% レポート...50%
(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

教養基礎演習II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参加を希望する場合は、第2回の授業までに上記のテキスト（924円）を購入しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については12月後半に提示する予定）。この授業は、2年生以上の先輩も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいでしょうか。初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つけるスキルについて考えていきます。本演習では、身体活動を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることを主眼においています。

また、学内から離れた場所での野外活動（スキー実習）を通して、他人との協調や、新たな自己発見、自己開示能力についても養ってきたいと思います。

教科書 /Textbooks

適宜資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自分自身を理解するためには (1)
- 3回 自分自身を理解するためには (2)
- 4回 自分自身を人に理解させるためには (1)
- 5回 自分自身を人に理解させるためには (2)
- 6回 身体活動を用いた自己表現 (1)
- 7回 身体活動を用いた自己表現 (2)
- 8回 スキー実習についての講義 (1) (場所の選定)
- 1 3回 スキー実習についての講義 (2) (スキーの安全面)
- 1 4回 スキー実習についての講義 (3) (スキー技術)
- 1 1回 スキー実習についての講義 (4) (スキー実習について)
- 1 2回 スキー実習 (1)
- 1 3回 スキー実習 (2)
- 1 4回 スキー実習 (3)
- 1 5回 スキー実習 (4)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み（スキー実習の参加を義務付け）... 80% レポート... 20%
スキー実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

スキー実習については、別途参加費がかかります。
スキー実習は、教養基礎演習II(担当:徳永)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしたら自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。
また、キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リーダーとリーダーシップ
- 3回 安全性と有効性
- 4回 野外活動とは
- 5回 キャンプ実習の計画(1) リーダーとしての関わり
- 6回 キャンプ実習の計画(2) 安全性と有効性
- 7回 キャンプ実習の計画(3) プログラム作成
- 8回 キャンプ実習の計画(4) 野外炊飯
- 9回 キャンプ実習の計画(5) テント設営
- 10回 キャンプ実習の計画(6) グループゲーム
- 11回 キャンプ実習の計画(7) ネイチャーゲーム
- 12回 キャンプ実習の実施(1)
- 13回 キャンプ実習の実施(2)
- 14回 キャンプ実習の実施(3)
- 15回 キャンプ実習のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み（キャンプ実習の参加を義務付け） ... 80% レポート ... 20%
キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習 AI 【昼】

履修上の注意 /Remarks

キャンプ実習については、別途参加費がかかります。(約4000円)。
キャンプ実習は、教養基礎演習I(担当:徳永、高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 /Credits 2単位 /Semester 1学期 / 1学期 /Class Format 演習 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践的な企画力・運営力を養うことを目的とする。
特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画
第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
第11回・12回：活動報告
第13回・14回：振り返り学習
第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%
活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

関連活動に関する文献学習。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / Credits 2単位 / Semester 1学期 / 授業形態 /Class Format 演習 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1)
- 3回 基本的事項の確認 (2)
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10% (配布するカードに記入した内容で評価する)、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習 AI 【昼】

履修上の注意 /Remarks

なし
希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

小林担当の「教養演習 A II」とセットで履修することを希望します。
この演習は1年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

教養演習 AI 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 演習 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

異文化理解の基礎（応用編）：
本演習では、現代世界の宗教に関わる文化に広く問題に興味がある学生を対象とします。受講者の関心に応じて現代世界の宗教に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします。したがって、演習参加者には、輪読のテキストを批判的に読み、意見を述べるのが求められます。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、現代世界と宗教に関わる文化に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備しておくこと。
(候補：山中弘編『宗教とツーリズム』、吉田匡興ほか編『宗教の人類学』、島園進ほか『現代宗教とスピリチュアリティ』など)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること（講義）
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること（議論）
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について(講義)
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告を含む授業態度30%、期末レポート70%、報告の無断欠席は厳しく減点します。

教養演習 A1【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ビジョン|異文化理解の基礎(人間と文化)で、ここ数年学生の関心が高い宗教に関わる文化をテーマに演習を行います。担当者の授業を履修済みの受講者が来てくれると嬉しいですが、運悪く受講していなくても、このようなテーマに興味があれば歓迎します。

キーワード /Keywords

現代社会、異文化、宗教性

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意①】2013年度入学生（新2年生）は、必ず、同じく1学期に開かれているビジョン科目「日本の防衛」とセットで受講すること。すでに「日本の防衛」の単位を取得している者は、この科目のみの履修を認める。「日本の防衛」を未履修であるが、時間割の関係上、履修が出来ない者は、戸蒔の「教養基礎演習II」もしくは「教養演習AII」とセットで履修すること。

【注意②】2012年度以前入学の新3年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている「演習AII」もしくは「演習BII」とセットで履修すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う（予定）。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っている能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (戸蒔)
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1～2回は高級幹部（1佐・将補の司令クラス）を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う予定。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

準備などは特に必要ない。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

上記、注意①と注意②は必ず守ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、「倫理学」の基礎的な理解に役立つテキストを取り上げる予定である。

教科書 /Textbooks

未定。第1回の授業時に公表する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(人数調整、演習でのルール、成績評価法、テキストの説明)
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(議論・発言の積極性)...50% レポート...50%
(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意欲がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習 AI 【昼】

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回（ガイダンス）時に受講者数調整を実施する。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第1回の授業に出席する必要がある。すでに本演習に登録済みの場合でも、第1回の授業を欠席した場合にはその登録を抹消する。4年生であっても例外は認めない。
人数調整に際しては、【本演習に友人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者】を尊重したい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については7月頭に提示する予定）。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Class クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
		教養演習 A II	
		GES202F	

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践的な企画力・運営力を養うことを目的とする。
特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画
第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
第11回・12回：活動報告
第13回・14回：振り返り学習
第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%
活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

関連活動に関する文献学習。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年 /Credits 2単位 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 演習 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることに主眼をおく。さらに、身体活動を通して、初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいのかを見つける術について考えていく。
また、スキー実習（教養基礎演習II）のリーダーとして、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コミュニケーションゲーム (1)
- 3回 コミュニケーションゲーム (2)
- 4回 地域における健康ニーズ
- 5回 健康と体力
- 6回 地域住民に必要な体力とは
- 7回 健康増進プログラムの計画 (2) 安全性と有効性
- 8回 健康増進プログラムの計画 (3) プログラム作成
- 9回 スキー実習の計画 (1) 野外活動の意義
- 10回 スキー実習の計画 (2) 安全性と有効性
- 11回 スキー実習の計画 (3) プログラム作成
- 12回 スキー実習の実施 (1)
- 13回 スキー実習の実施 (2)
- 14回 スキー実習の実施 (3)
- 15回 スキー実習の実施 (4)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み（スキー実習への参加を義務付け） ... 80% レポート ... 20%
スキー実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習 A II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

スキー実習については、別途参加費がかかります。
スキー実習は、教養基礎演習II（担当：徳永、高西）と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1)
- 3回 基本的事項の確認 (2)
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10% (配布するカードに記入した内容で評価する)、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習 A II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

なし
希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第 1 回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は 2 学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 演習 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

ゼミ論文をかいてもらう（400字×20枚以上）。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』（平凡社新書、2001年）700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習運営方針に関する話し合い。
- 2～14回 各自の研究報告（同時並行的に論文執筆）。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論文未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎週こつこつと原稿を作っておいて下さい。
小林担当の「教養演習 AI」とセットで履修することを希望します。
AIを履修できない場合には、事前に相談して下さい。
この演習は1年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計で11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

問題関心を深めるために：

本演習では、自分の問題関心の深めかたについて学ぶ。ひとりで読んでもなかなか理解することが難しい現代社会または異文化に関する古典的な文献、または専門的ではあるけれどよく読まれている文献の輪読を行う。自分の興味関心について意見交換することを通じ、最終的に各自が設定したテーマに沿ってレポートを作成する（受講者によって多少の変更の可能性はある）。一学期と比較して二学期はより抽象的な文献に挑戦する。

教科書 /Textbooks

1学期の受講者の関心に合わせて現代社会または文化に関するテキストを読む。テキストについては受講者の希望を聞きながら第1回で決定する。
(候補：世界思想社社会学ベーシックシリーズ『自己・他者・関係』『政治・権力・公共性』から適宜。または、マルセル・ゴーシュ『民主主義と宗教』など)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること（講義）
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること（議論）
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 テキスト輪読と議論
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

教養演習 A II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物30%、期末レポート70%、
報告の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 現代社会に関する問題、文化に関する問題に興味ある学生の受講を歓迎します。
- ・ 担当者のほかの授業（教養基礎演習、異文化理解の基礎 / 人間と文化、現代社会と文化 / 文化と政治、政治のなかの文化）を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。
- ・ 2学期からの出席も歓迎します。

キーワード /Keywords

現代社会、文化

教養演習 A II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意①】新2年生（2013年度入学生）で「日本の防衛」の単位を未履修かつ今期の履修が不可能な者で、「防衛セミナー」の履修を希望する者は、この科目を履修しなければならない。

【注意②】2012年度以前入学の新3年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている戸蒔の「教養基礎演習I」、「教養演習AI」もしくは「教養演習BI」のいずれかとセットで履修すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていく能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回～14回 この授業は、各回の「教養演習AI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習AI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習 AII (防衛セミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

準備などは特に必要ない。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点と方法（特に質的調査）によって論文・レポートを書くことをめざす。具体的には、以下のことについて学習・習得する。

- (1) 「複眼思考」を身につける。
 - ・「常識」にとらわれず、「別の考え方」を模索する。
 - ・誤った因果関係を見破る。
 - ・ものごとを「実体論」的ではなく、「関係論」的にとらえる（ものごとは関係の中から構築される、という思考方法を身につける）。
 - ・「問い」そのものを「問う」という思考方法を身につける（メタ・レベルでの問いのたて方を身につける）。
- (2) 「質的調査」（インタビュー）の技法を身につける
 - ・質的調査と量的調査の違いを理解する。
 - ・インタビューをするためには、どのようなことが必要なかを学ぶ。
 - ・調査倫理について理解する。
- (3) インタビュー（聞き取り調査）を通して自分の関心のあるテーマ・問いについて何らかの解釈を行う。
 - ・自分が関心を持つできごと（社会現象）を設定し、「問い」をたてる。
 - ・どのような方法で、その「問い」に「答え」が導き出せるか、考える。
 - ・インタビューを用いて、何らかの解釈を行う。

演習形式で行うため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

荻谷剛彦著, 2002, 『知的複眼思考法』, 講談社 + α文庫

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○谷富夫・芦田徹郎編著, 2009, 『よくわかる質的社会調査 技法編』, ミネルヴァ書房

教養演習 AII 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション - 複眼思考とは何か
- 第2回 複眼思考を身につける (1) 批判的に読み、批判的に書く
- 第3回 複眼思考を身につける (2) 「問い」をたてる
- 第4回 複眼思考を身につける (3) 因果関係を設定する
- 第5回 複眼思考を身につける (4) 概念化しモデル化する
- 第6回 複眼思考を身につける (5) 関係論的思考、意図せざる結果、メタレベルの思考
- 第7回 質的社会調査の考え方
- 第8回 フィールドワークについて理解する
- 第9回 「問い」をたてる
- 第10回 資料・データを探す
- 第11回 インタビューの技法を身につける
- 第12回 インタビューの実際の流れを理解する
- 第13回 調査倫理について理解する
- 第14回 インタビュー計画をたてる
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...20% 課題 (レポート) ...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習形式を基本とするので、報告者はレジユメを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

複眼思考法と調査法 (たとえばインタビュー) の習得は、ゼミ論、卒論を書く際に役に立つだけでなく、よき市民の作法としても必要です。

キーワード /Keywords

社会学、実証研究、複眼思考、疑似相関、関係論的思考、意図せざる結果、メタレベルの問い、質的調査、インタビュー

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『母性社会日本の病理』を取り上げる。日本をよりよく理解するために、西洋の文化・宗教との対比が欠かせないことを教えてくれる貴重な論考である。

教科書 /Textbooks

河合隼雄『母性社会日本の病理』、講談社、1997年、924円（税込）。
(※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス (授業のルール、成績評価等の説明)
- 2 回 読解と議論 1
- 3 回 読解と議論 2
- 4 回 読解と議論 3
- 5 回 読解と議論 4
- 6 回 読解と議論 5
- 7 回 読解と議論 6
- 8 回 読解と議論 7
- 9 回 読解と議論 8
- 1 0 回 読解と議論 9
- 1 1 回 読解と議論 1 0
- 1 2 回 読解と議論 1 1
- 1 3 回 復習と補助学習 1
- 1 4 回 復習と補助学習 2
- 1 5 回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% レポート...50%
(2 回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全 1 5 回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

教養演習 A II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参加を希望する場合は、初回の授業までに上記のテキスト（924円）を購入しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については12月後半に提示する予定）。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

この授業は、中学校教諭一種免許状（社会）や高等学校教諭一種免許状（公民）の取得を目指し、4年次に教育実習に行きたいと考えている学生のために、開講します。
教育実習において、実習生は、実習先の学校で少なくとも数度の授業を担当することになります。塾などで実践経験を積み、自信满满で教育実習に臨む実習生もいるでしょうが、おそらく実習生の多くは、模擬授業を経験する十分な機会にも恵まれないまま、不安な気持ちを抱えながら、教育実習に臨むことになっているのではないのでしょうか。このクラスは、そのような不安を少しでも軽減するために、学習指導要領に対する理解を深めるとともに、模擬授業の実践と相互観察を通じ、受講生のティーチングスキルの向上を図ることを目的としています。
なおこのクラスでは、高等学校における「現代社会」の授業を題材にして、授業を展開していくこととします。

教科書 /Textbooks

高等学校学習指導要領 解説（公民編）
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000_4_1.pdf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は、初回の授業時に、紹介します。
また授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く① pp.6-19
- 第3回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く② pp.20-22, 59-61, 62-63
- 第4回 学習指導案の作成①【単元】【目標】【指導計画】【指導上の立場】
- 第5回 学習指導案の作成②【本時案の位置づけ・目標】【導入・展開・まとめ】【学習内容・学習活動】
- 第6回 学習指導案の発表と相互検討
- 第7回 模擬授業における相互観察のポイント【授業構成】【説明】【発問・指示】【板書】【レジュメ】
- 第8回 模擬授業と相互観察①：範囲「人権、国家主権、領土に関する国際法の意義」
- 第9回 模擬授業と相互観察②：範囲「人種・民族問題」
- 第10回 模擬授業と相互観察③：範囲「核兵器と軍縮問題」
- 第11回 模擬授業と相互観察④：範囲「我が国の安全保障と防衛および国際貢献」
- 第12回 模擬授業と相互観察⑤：範囲「南北問題など国際社会における貧困や格差」
- 第13回 模擬授業と相互観察⑥：範囲「国際平和、国際協力や国際協調を推進する上での国際的な組織の役割」
- 第14回 模擬授業と相互観察⑦：範囲「男女が共同して社会に参画することの重要性」
- 第15回 まとめ

教養演習 A II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、課題・模擬授業などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）によって総合的に評価することになります。

ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学習指導案の作成や模擬授業の準備等、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。

受講申請にあたってはこの点に注意してください。

①社会科教育法AまたはC，もしくは公民科教育法Aを受講していること、②社会科教育法BまたはD，もしくは公民科教育法Bを受講中であること、を受講の条件とします。

なお最大でも10人程度を予定しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員を目指す人、自分の夢に向かって、自分の力を磨いてください。

キーワード /Keywords

【公民】【現代社会】【学習指導要領】【教材研究】【学習指導案】【模擬授業】【相互観察】

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と人間の営みに関する基本的な視野を身につける。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文系・理系の視点を超えた自然学の論点から環境を考える。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	自然に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			自然学のまなざし	ENW002F

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

自然環境と人間の営みに対する総合的な理解をすることが達成目標となる

教科書 /Textbooks

- 『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田未寿

自然学のまなざし【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第1講 自然学で学ぶこと
- 第2講 今西錦司という人がいた
- 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
- 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
- 第5講 自然学における日常実践
- 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
- 第7講 風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
- 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
- 第9講 江戸時代の旅と自然
- 第10講 山と人の自然学1【山村と故郷論】
- 第11講 山と人の自然学2【自然観と森林観】
- 第12講 山と人の自然学3【竹と産業】
- 第13講 山と人の自然学4【竹と文化】
- 第14講 木竹資源利用の国際比較
- 第15講 第九講～第十四講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (竹川)
- 講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 15%
- 講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 15%
- 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 20%
- (岩松)
- 小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。

講義は教室の中だけでは終わりません。
そんなつもりで受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学のもっとも大学らしい自由な講義を心がけています。
教えられるのではなく覚えるのでもなく、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人と動物の関わりに関する諸問題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における自然のあり方を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生命との関わりを多様な視点で考え、人間の営みを再考する。
	コミュニケーション力		
			動物のみかた
			ZOL001F

授業の概要 /Course Description

動物園とそのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来的な姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

動物にかんする知識を深め、自然環境に関する知見を広げることが到達目標となる

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論 1
- 2回 動物園学概論 2
- 3回 キーパーの仕事 1
- 4回 キーパーの仕事 2
- 5回 キーパーの仕事 3
- 6回 キーパーの仕事 4
- 7回 キーパーの仕事 5
- 8回 キーパーの仕事 6
- 9回 校外実習 1
- 10回 校外実習 2
- 11回 獣医の仕事 1
- 12回 獣医の仕事 2
- 13回 動物園学まとめ 1
- 14回 動物園学まとめ 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 80% 平常の学習状況 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

動物のみかた 【昼】

履修上の注意 /Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球の生いたち【昼】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地球史を学ぶことを通して地球と人間とのあるべき関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地球と人間について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	地球と人間に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			地球の生いたち	GOL001F

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では、地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との共生の道をさぐる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』（日本放送協会）、1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』（岩波書店）、861円
田近英一著「地球環境46億年の大変動史」（化学同人）、1680円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目：生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目：生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目：地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目：地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目：先カンブリア時代末の大事変【全球凍結】
- 7回目：生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目：生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目：顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目：繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目：顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目：繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目：顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目：人間圏の成立と地球環境問題【人類と環境】
- 15回目：まとめと演習

地球の生いたち【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：90%，ミニレポート：10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない、可能であればシラバスに載せている参考書等を用いて、授業に関係する部分を適宜予習・復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球のしくみと地球史を学ぶ事を通して、地球と人間とのあるべき関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球のしくみ，地球史，生命と地球の共進化

自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と生物の関わりについて総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自然と生物について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然の中の生物に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			自然史へのいざない
			BI0001F

授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地であり、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している博物館を、まずみなさんに知ってもらおうことがこの授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的に行っています。講義では、海外の話題も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができます。よりグローバルな視点から自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各学芸員が担当する講義のテーマは下記の通りです（【 】内はキーワード、()内は担当学芸員名）。

- 1回 ガイダンス
- 2～3回 自然史博物館見学(1)～博物館を楽しもう
- 4回 二次的自然と哺乳類(馬場)【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
- 5回 アンモナイトの古生物学(御前)【化石】【進化】【古生態】
- 6回 鳥類の絶滅危惧と生物多様性の保全(武石)【絶滅危惧】【生物多様性】
- 7回 ヒスイが語る地下深部の世界(森)【岩石の模様・構造】【大地のダイナミクス】
- 8回 アラビアの砂漠に棲む生き物たち(山根)【アラビア半島】【人と自然と文化】
- 9回 化石記録が語るいのちのたび「絶滅と繁栄」(太田)【化石】【生命史】【絶滅】
- 10回 骨から知る脊椎動物進化(大橋)【系統進化】【形態と機能】【恐竜】
- 11回 深海生物～その形と適応的意義～(下村)【深海】
- 12回 昆虫の多様性と進化(葦島)【分類】【学名】
- 13回 森の移り変わりを考える(真鍋)【里山】【二次的自然】【生態遷移】
- 14回 化石が語る魚類の進化(藪本)【魚類化石】
- 15回 自然史博物館見学(2)～課題研究

※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ： <http://www.kmnh.jp/>

成績評価の方法 /Assessment Method

10回以上の出席をもって成績評価の対象とします。2回の博物館見学は必須となります。授業への積極的な参加(授業中の課題など)40%、期末レポート60%

自然史へのいざない【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

1回目の博物館見学は10月5日(日)、2回目は12月～1月のいずれかの日曜日を予定しています(変更の場合は掲示します)。
授業スケジュールについての説明がありますので、第1回目の授業には必ず出席するとともに、掲示物に注意してください。博物館までの交通費および入館料は自己負担となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学 【昼】

担当者名 /Instructor 秋貞 英雄 / Akisada Hideo / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	基礎的な化学知識と身近な問題との関わりを理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	基礎的な化学知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な化学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			くらしと化学
			CHM001F

授業の概要 /Course Description

化学物質と化学知識は生活に不可欠なものです。それらは生活を豊かにし、豊かな未来社会を展望するのに必要です。一方、地球環境汚染など否定的現象にも関わる知識です。また、工七科学を利用した詐欺的商法もあります。市民は其中で、単なる教養としてだけでなく、正しい判断のための正確な科学知識が必要とされます。

まず基礎的な化学知識を正確に掴む必要があります。そのために、基礎的な化学知識を学習します。次に化学的知識と身近な問題の関わりを認識し、化学への興味、関心を深め、それによる生活や環境に対する分析/理解能力を高めることがこの授業のねらいである。

物質（原子・分子）の構造や物性に関する基礎知識、自然界の現象で重要な物性である物質三態（気・液・固）を学習します。化学物質と身近な問題との関わりを、生活に必要な生体物質・食品・薬、環境に重要な放射能・地球温暖化に関連した事項に絞って解説をする。

教科書 /Textbooks

大場好弘著：「身のまわりの化学 - 物質・環境・生命 -」：化学同人：2012/4/15：¥1800+税：ISBN978-7598-1480-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「逆説：化学物質 - あなたの常識に挑戦する」 John Emsley著、渡辺正訳（丸善）¥2200円、ISBN 978-4-621-04227-4
- 「沈黙の春」 R. Carson著、青木 梁一訳（新潮社）
- 「奪われし未来」 T. Colbon, D. Dumanoski, P. Myers著、長尾 力著（翔泳社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1章 物質科学の基礎：元素、原子・分子、
- 第1章 物質科学の基礎：周期律、原子の性質、単体の性質
- 第2章 2.1-2.4 生活の中の無機化学
- 第2章 2.5 電池
- 第2章 2.2 有機化合物
- 第2章 2.3 生活の中の有機化合物・・・コロイド
- 第2章 2.3 生活の中の有機化合物・・・洗剤（補足資料）
- 第2章 2.3 生活の中の有機化合物・・・医薬品（補足資料）
- 第2章 2.7 日常の中の高分子
- 第3章 3.0 炭水化物、脂質（補足資料）
- 第3章 3.1 タンパク質
- 第3章 3.2 核酸
- 第4章 地球環境と化学（4.1節，4.2節，）
- 第4章 地球環境と化学 4.3 エネルギーの化学
- まとめ

くらしと化学 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

簡単レポートなど20%、期末試験80%で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校の理科、化学の教科書があると望ましい(手引き代わり)。教科書外の内容も講義する。それがテストの範囲になるので、プリントを受け取り、ノートはきちんととること。やむを得ない欠席時はノート模写をしておくが良い。教科書は事前事後どちらでもよいが目を通しておく。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞、雑誌、放送機関、インターネット等の科学情報に関心を持ち、質問するような姿勢が好ましい。質問には即答できないときは後日に答えるようにします。

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		
			現代人のこころ
			PSY003F

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人の取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

現代人のこころ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
心理学に対する誤解
- 第2回 心理学の研究法
心理学は科学である。【実験】【観察】【調査】
- 第3回 著名な心理学研究
人は命じられれば人を殺すのか？【ミルグラム実験】【スタンフォード監獄実験】【スモールワールド実験】
- 第4回 他分野との繋がり
心理学者はノーベル賞を取れるのか？【行動経済学】【人間工学】【プロファイリング】
- 第5回 人間の発達の心理学
人間の心理的な発達について学ぶ。主な発達理論の紹介と概念の説明。特に生涯発達の視点から人生を俯瞰する。【生涯発達】【エリクソンの発達論】
- 第6回 感情はコントロールできるか
精神の働き、「知・情・意」のなかの「情」を取り上げる。日常問題となる感情のさまざまを上手にマネジメントできるかなどを考えたい。【感情の法則】【3大陰性感情】
- 第7回 幸せの人間関係を求めて
私たちの悩みの多くは人間関係の悩みである。良好な人間関係を構築するためには何が大切か。どのようなスキルが望まれるかなどを学ぶ。【積極的傾聴法】【私メッセージ】
- 第8回 動物の自己意識
動物は自己像をどのように理解するのかを考える。【自己像認知】【マークテスト】
- 第9回 「自己」の発見
ヒトの自己意識の芽生えについて考える。【自己意識】【自己概念】
- 第10回 身体感覚のメカニズム
自分の身体を自分のモノとして感じるメカニズムについて考える。【身体保持感】【ラバーハンド錯覚】
- 第11回 「他者」への気づき
他者をどのように認識するのか、他者の情報をどのように検出するのかについて考える。【生物らしさ】【バイオロジカルモーション】
- 第12回 「他者」の心を読む
他者に共感する、推測する能力の発達について考える。【共感】【心の理論】
- 第13回 ロボットに心は宿るか
他者に心を見出すメカニズムについて考える。【メンタライジング】【ロボット】
- 第14回 心を読むことの難しさ
自閉症児の心の理解について考える。【マインドブラインドネス仮説】【誤信念課題】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 50% 課題(レポート) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

北方ひびきの連携科目になっています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と生命【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の基礎知識を獲得し、身近な問題との関わりを総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命科学に関する基礎知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	体や健康など、生命科学に関する身近な課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人間と生命
			BI0002F

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約60兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。それぞれの遺伝子はどのような働きをし、何をどこまで決めているのだろうか。遺伝子に傷がつくと細胞や個体にどのようなこと引き起こされるのだろうか。また、細胞が作る社会とはどのようなもので、個体はどのように成り立っているのだろうか。人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2011年(羊土社)2940円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- 「こころ」は遺伝子でどこまで決まるのか 宮川剛著 2011年(NHK出版新書)819円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 細胞とその構成成分【糖】【脂質】
- 3回 生命活動の主役・タンパク質【タンパク質】【アミノ酸】
- 4回 遺伝子とは何をするもの【核酸】【DNA】
- 5回 遺伝子が働くしくみ【RNA】【遺伝子の発現】
- 6回 遺伝子でどこまで決まるか【ゲノム】【体質】
- 7回 体はどのように作られるか【発生】【細胞の分化】
- 8回 細胞はどのように増えるか【細胞分裂】【細胞周期】
- 9回 細胞と個体の寿命【染色体】【テロメア】
- 10回 細胞のコミュニケーション【受容体】【シグナル】
- 11回 細胞社会の反逆者【がん遺伝子】
- 12回 万能細胞とは何か【ES細胞】【iPS細胞】
- 13回 体を守るしくみ【ウイルス】【抗体】
- 14回 映画鑑賞
- 15回 質疑応答・まとめ

人間と生命【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3〜4回実施) 40%
期末テスト(またはレポート) 40%
授業中の課題・授業への参加 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は参考書を入手して備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

環境都市としての北九州【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境に関する幅広い基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境にはさまざまな立場からの意見・考え方があることを理解し、自らがとるべき環境行動を判断できる素養を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も誰もが身近なところから環境行動に取り組むことができることを理解する。
	コミュニケーション力		
		環境都市としての北九州	ENW001F

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぶほか、環境関連施設（環境ミュージアム、エコタウンなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト 2012年 945円
<http://www.city.kitakyushu.lg.jp>

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (日高)
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～ (法学部・三宅)
- 3回 北九州の自然・生態系 (外部講師)
- 4回 北九州における環境政策 (外部講師)
- 5回 環境ビジネスとエコタウン事業 (マネジメント研究科・松永)
- 6・7回 施設見学1～エコタウン
- 8回 環境問題とソーシャルビジネス (外部講師)
- 9回 環境問題と市民の関わり (外部講師)
- 10・11回 環境関連施設見学2～環境ミュージアム
- 12回 北九州の環境経済 (経済学部・牛房)
- 13回 環境首都検定に向けて・小テスト (日高)
- 14回 環境問題と企業の取り組み (外部講師)
- 15回 社会が求める環境人材とは (外部講師)

成績評価の方法 /Assessment Method

10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。環境首都検定受検および2回の施設見学参加は原則必須とする。
環境首都検定の成績 (30%)、小テスト (30%)、期末レポート (20%)、授業への参加・授業中の課題など (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

環境都市としての北九州【昼】

履修上の注意 /Remarks

平成26年度の環境首都検定は12月14日(日)の予定。
エコタウン見学は11月5日(水)、環境ミュージアム見学は11月30日(日)を予定しているが、変更の可能性もある。授業スケジュールについては第1回目ガイダンス時に配布する予定。
環境ミュージアムおよび首都検定会場までの交通費は自己負担とする。
定員は200名とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

持続可能な社会を作るため、環境について一緒に勉強しましょう。
本講義は副専攻「環境ESD」のコア科目です。

キーワード /Keywords

未来を創る環境技術 【昼】

担当者名 /Instructor 龍 有ニ /Yuji RYU / 建築デザイン学科 (19~), 西浜 章平 / Syouhei NISHIHAMA / エネルギー循環化学科 (19~)
秋葉 勇 / Isamu AKIBA / エネルギー循環化学科 (19~), 大矢 仁史 / Hitoshi OYA / エネルギー循環化学科 (19~)
泉 政明 / Masaaki IZUMI / 機械システム工学科 (19~), 吉山 定見 / Sadami YOSHIYAMA / 機械システム工学科 (19~)
松永 良一 / Ryoichi MATSUNAGA / 機械システム工学科, 上原 聡 / Satoshi UEHARA / 情報システム工学科 (19~)
堀口 和己 / Kazumi HORIGUCHI / 情報システム工学科 (19~), 福田 展淳 / Hiroatsu FUKUDA / 建築デザイン学科 (19~)
城戸 将江 / Masae KIDO / 建築デザイン学科 (19~), 高 偉俊 / Weijun GAO / 建築デザイン学科 (19~)
櫻井 和朗 / Kazuo SAKURAI / 環境技術研究所, 森田 洋 / Hiroshi MORITA / 環境生命工学科 (19~)
野上 敦嗣 / Atsushi NOGAMI / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境問題や環境技術に関する正しい知識など、21世紀の市民として必要な基本的事項を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	授業で学ぶ環境技術の現状や展望を踏まえながら、社会・地域・生活など身の回りに隠れている環境的課題を発見し、課題の重要性や本質を明確化する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	環境問題について自主的・継続的に学習するための、環境技術に対する深い関心と環境への鋭敏な感受性を持つ。
	コミュニケーション力		
		未来を創る環境技術	
		ENV003F	

授業の概要 /Course Description

環境問題は、人間が英知を結集して解決すべき課題である。環境問題の解決と持続可能な社会の構築を目指して、環境技術はどのような役割を果たし、どのように進展しているのか、今どのような環境技術が注目されているのか、実践例を交えて分かりやすく講義する（授業は原則として毎回担当が変わるオムニバス形式）。

具体的なトピックは、バイオマスなどの新エネルギーや環境調和型材料の開発、高効率で安全な水・廃棄物処理技術、エネルギー効率及び資源効率を高めるための環境設計・製品開発、豊かで安全・安心な環境を創り出していくための情報技術、低環境負荷を実現する都市・ビル・住宅のデザイン、バイオテクノロジーや生態系保全技術、持続可能型社会のための環境マネジメント手法などである。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

未来を創る環境技術【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：社会における環境技術の役割
- 第2回：液液界面を利用した物質の分離技術
- 第3回：最先端テクノロジーにおける環境調和型プラスチック材料
- 第4回：リサイクルの必要性和現在使われているリサイクル技術の紹介
- 第5回：地球環境・エネルギー資源枯渇問題に対する技術的な解決策について（その1・燃料電池）
- 第6回：地球環境・エネルギー資源枯渇問題に対する技術的な解決策について（その2・エンジン、次世代発電システム）
- 第7回：環境に配慮した高精度高効率な精密加工法・最適設計法について
- 第8回：環境問題による被害を低減するための情報通信技術
- 第9回：環境にやさしい機器をつくる制御技術
- 第10回目：環境に配慮する建築デザイン
- 第11回目：地震の多い日本で安全な建物をつくり長く使うための技術
- 第12回目：都市・建築における省エネルギー・自然エネルギー利用と環境技術
- 第13回目：生物のしくみや材料を有効利用・応用して新しい材料や素材などを生み出すバイオテクノロジー
- 第14回目：生態系に配慮した科学技術、生態系の機能を背景にしたエコテクノロジーや環境管理手法について
- 第15回目：環境に配慮した社会を実現するための環境マネジメントと具体的取り組み

成績評価の方法 /Assessment Method

- 積極的な授業参加 20%
- レポートおよび小テスト30%
- 期末課題50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- 新聞・雑誌等の環境技術に関連した記事にも目を通すようにすること。
- 私語をしないこと。 ノートはこまめにとること。
- 都合により、授業のスケジュールを変更することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 文系学生にもわかりやすい授業内容です。

キーワード /Keywords

- 環境共生、持続可能型社会、エネルギー循環、機械システム、情報メディア、建築デザイン、環境生命工学

私たちと宗教【昼】

担当者名 /Instructor 関 一敏 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	宗教全般および日本の宗教に関する基本的知識を身につけ、総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	宗教全般および日本の宗教について総合的に分析し、自立的に理解を深めることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	宗教全般および日本の宗教に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			私たちと宗教
			PHR006F

授業の概要 /Course Description

宗教は、わたしたちの日常生活とかけはなれた存在ではない。それは日常の倫理や道徳を支え、わたしたちの生き方と死に方とを方向づける強い力をもっている。さらにまた、メディアの発達していない時代に宗教は文字文化の担い手であり、音楽や身体技法など、文化の貯蔵所のやくわりをはたしていた。かつまた、20世紀から21世紀にかけて民族とともに宗教が紛争と葛藤の焦点となり、原理主義の高まりとともに各地でさまざまな政治問題を生んでいることは、日々報道されるところである。

にもかかわらず、日本にあつてわたしたちは宗教とのつきあいを苦手だと感じるのはなぜだろうか。この講義では、そうした現代日本人の感受性そのものをも視野におさめて、過去から現在にいたる「宗教的なるもの」の根っこに迫ってみたい。

なお今年はトピックスごとに、諸宗教を横断的にとらえるところみをする。

教科書 /Textbooks

使用しない。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』ちくま文庫
堀一郎監修『宗教学辞典』東京大学出版

あとは講義のおりに適宜指示する。

私たちと宗教【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1. はじめに | 宗教について考える、宗教を分類する |
| 2. 神々の世界(日本) | 起源神話、異類婚姻譚 |
| 3. 神々の世界(世界) | 渾沌と秩序、塔と洪水 |
| 4. あの世(日本) | 極楽浄土、六道輪廻 |
| 5. あの世(世界) | 地獄と天国、煉獄と金、 |
| 6. 苦と悪 | 悪霊、神義論、四苦八苦 |
| 7. 出世間 | 修道院、荒野、出家とサンガ |
| 8. 聖者と菩薩 | 列聖、慈悲 |
| 9. 修行と戒律 | 身体、戒と律、聖地巡礼 |
| 10. 祭りと儀礼 | 年中行事、通過儀礼、祝祭日 |
| 11. 声と文字 | 声の文化と文字の文化、聖典 |
| 12. 物語 | 話法と話芸、伝説、昔話 |
| 13. 運命 | 予定説、宿命論、造悪論 |
| 14. 呪いと祝福 | 呪術、病治し、祈りと念仏 |
| 15. まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習よりも、復習よりも、講義の場で以下のことに力を注ぐこと。
 講義をよく聴く。
 配布資料をよく読む。
 資料をもとに、また講義や本をヒントに、自分で考える習慣をつける。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

宗教的なものは、その周辺にカルト的集団やオカルト的現象を生むことがある。神秘的な力にはよい方向とよくない方向がともに備わっており、わたしたちにはそのよい方向を識別する目をやしなう必要がある。なによりも宗教に関する正確な知識を心がけるよう、また距離を置いた受けとめ方のレッスンをかさねるよう、意識的な努力を心がけたい。
 なお講義一回ごとに大切なことをあらたにひとつ学べば、半期で最低10の知識を学習できる。そのようにして四年間を着実に過ごすならば、知らないうちに成長していることがあとになってわかるだろう。

キーワード /Keywords

上記授業計画を参照のこと。

思想と現代【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の人間と思想との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の思想について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の思想に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			思想と現代
			PHR004F

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、現代の人間と思想との関係を総合的に理解し、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社現代新書、2002年。
- 伊原木大祐『レヴィナス 犠牲の身体』創文社、2010年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴールの大衆批判】
- 4回 実存の思想(3)【キルケゴールの実存的宗教論】
- 5回 実存の思想(4)【ハイデガー】
- 6回 実存の思想(5)【サルトル】
- 7回 実存の思想(6)【メルロ=ポンティ】
- 8回 中間総括(確認テスト)
- 9回 精神分析の思想(1)【前期フロイト】
- 10回 精神分析の思想(2)【後期フロイト】
- 11回 精神分析の思想(3)【メラニー・クライン】
- 12回 フェミニズムの思想(1)【第一波~第二派】
- 13回 フェミニズムの思想(2)【日本のウーマン・リブ】
- 14回 フェミニズムの思想(3)【フレンチ・フェミニズム】
- 15回 フェミニズムの思想(4)【クエア】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト... 40% 期末テスト... 60%
(※確認テストを受験していない者は、期末テスト受験の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

第8回に確認テスト(第3回~第7回が試験範囲)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。テスト予定日は授業内で早めに通知するつもりである。原則としてこのテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ろくに事前連絡もなく、授業最終日になってから「いろいろ忙しくて確認テスト受けられませんでした」などと言いに来る者もいるが、この手のチープな言い訳はまったく通用しない。その場合は当然不合格となる。本授業に対しては、一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。また、たとえ全回出席してプリントを入手したとしても、ノートを取っていない、もしくは授業を聴いていないのであれば、単位の取得可能性は限りなくゼロに近いものとなるだろう。

キーワード /Keywords

文化と表象【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と表象の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	表象について課題を発見し、分析・解決することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	表象についての課題に向かい合い、その課題を解決するための学びを継続する態度を身につけている。
	コミュニケーション力		
		文化と表象	MCC001F

授業の概要 /Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることを目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明をおこなう。その後イメージとしての〈日本〉について歴史的視点から多様な素材を用いて言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 【表象論事始め】 理論的背景
- 3回 【表象の歴史的追尾】 イメージとしての〈日本〉①【開国】【風刺画】
- 4回 イメージとしての〈日本〉②【オリエンタリズム】
- 5回 イメージとしての〈日本〉③【演劇】
- 6回 イメージとしての〈日本〉④【映画】
- 7回 イメージとしての〈日本〉⑤【CM】
- 8回 イメージとしての〈日本〉⑥【オリンピック】
- 9回 イメージとしての〈日本〉⑦まとめ
- 10回 【表象分析事始め】 比較分析の有効性について
- 11回 映画を事例として①【活字から映像へ】
- 12回 映画を事例として②【原作とテーマ設定】
- 13回 映画を事例として④【作り手の複数性】
- 14回 映画を事例として⑥まとめ
- 15回 全体総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（課題・コメントカードなど） ... 20% 期末テスト ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習は特に必要ないが、毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められるので、緊張感をもった態度で受講してほしい。単位取得のためには、期末テストにおいて十分な準備が要求される。全体的にハードなプログラムであることを受講希望者は意識しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語とコミュニケーション【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師
 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科, 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語とコミュニケーションに関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語とコミュニケーションに関する課題を発見し、言語学・心理学・コミュニケーション論などの手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語とコミュニケーションに関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		
		言語とコミュニケーション	LIN001F

授業の概要 /Course Description

種としての「ヒト」は、「ことば」を用いてコミュニケーションできるという点において他の動物と大きく異なります。しかし、「ことば」によるコミュニケーションがすべてなのでしょうか。そもそもコミュニケーションとは何で、どのようにして行われるのでしょうか。「現代の若者はコミュニケーション力がない」などよく言われますが、コミュニケーションがうまく成立したり、しなかったりするのなぜなのでしょう。この講義では、コミュニケーション論、心理学、言語学、さらには情報科学における研究成果をふまえ、私たちの日常と関連づけながらそのような問いについて考えます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『コミュニケーションの心理学』松尾 太加志著、ナカニシヤ出版、1999年。
- 『異文化コミュニケーション』古田 暁著、有斐閣、1999年。
- 『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』田中 春美(他)著、ミネルヴァ書房、1996年。
- 『社会言語学入門-生きた言葉のおもしろさにせまる』東 照二著、研究社出版、1997年。
- 『ジェンダーの言語学』永原 浩行(他)編、明石書店、2004年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日程等により順番が変わる可能性があります。第1回授業時に予定表を配布します。

- 第1回 序：「ことば」とは(漆原)
- 第2回 コミュニケーションとことばの発達(松尾)
- 第3回 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション(松尾)
- 第4回 メディアを使ったコミュニケーション(松尾)
- 第5回 機械とのコミュニケーション(松尾)
- 第6回 外部講師による特別講義(予定)
- 第7回 語用論(山崎)
- 第8回 ことばと文化(山崎)
- 第9回 異文化間コミュニケーション(山崎)
- 第10回 会話の規則(平野)
- 第11回 日本語の方言(平野)
- 第12回 ことばのバリエーション(平野)
- 第13回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第14回 グローバル化とコミュニケーション(漆原)
- 第15回 まとめ(担当者によるパネル・ディスカッション)(全員)

言語とコミュニケーション【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% レポート...20% × 4
4名の担当教員のレポートをすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 花田 伸一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と芸術との関係を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	芸術について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			芸術と人間	PHR001F

授業の概要 /Course Description

現代美術を中心に国内外の芸術活動の事例を紹介します。それらを鑑賞・趣味の対象としてではなく、批評・実践のツールとして解釈・応用できるよう、アート・リテラシーの向上を促します。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

今道友信『美について』（講談社現代新書）
佐々木健一『美学への招待』（中公新書）
暮沢剛巳編『現代美術を知るクリティカル・ワーズ』（フィルムアート社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 美をめぐる言葉の整理：美×美術×美術館×美学
- 2回 作品のコンテキスト
- 3回 芸術作品に見るジェンダー 1：国内の事例
- 4回 芸術作品に見るジェンダー 2：海外の事例
- 5回 カワイイ文化と社会
- 6回 メイクと社会
- 7回 サブカルチャーと社会
- 8回 芸術とリアリティ
- 9回 引き算の美・足し算の美
- 10回 芸術と生活
- 11回 芸術の力×権力×暴力
- 12回 芸術と教育
- 13回 芸術と宗教
- 14回 北九州アートシーン
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

上記の講義内容は変更する場合があります。
また講義室内での受講にとどまらず、できる限り近隣の展覧会・レクチャー・トーク・ワークショップ等に足を運び、「現場」での体験と省察とを心がけること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学を読む【昼】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科, 岩本 真理子 / 比較文化学科
田部井 世志子 / Yoshiko Tabei / 比較文化学科, 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科
五月女 晴恵 / 比較文化学科, 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科
木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科, 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科
漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター, 永田 公彦 / グローバル人材育成推進室
渡瀬 淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と文学との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文学について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			文学を読む LIT001F

授業の概要 /Course Description

◎総合テーマ

大学に入るまでに私たちは「国語」という科目の中で「文学」に触れ、また自ら図書館や書店の棚で「文学」を手にとってきた体験があります。こうした「文学を読む」という行為は、人間にとって当たり前の営みだと感じられがちなのですが、それは本当なのでしょうか？さらには「古典」「名作」と名づけられた作品は、今なお読むに値するどのような意味・意義を有しているのでしょうか。一見自明に見える課題を再度問い直し、私たちにとって現実的な営みとしての「文学」を捉えなおすことが、この科目の目的です。

◎2014年のテーマ：「文学と青春」

ある文学作品との出会いによって、一人の人間の人生が大きく変わってしまうことがあります。

今年度の「文学を読む」では、青春を扱った文学、もしくは、青春に読んでおく文学作品について、そんな出会いを体験してしまった、かつての文学少年、文学少女たちが学部を越えて熱く語ります。青春の只中を現在進行形で生きている皆さんにとって、人生を変える一冊との出会いとなる、忘れぬ授業となることでしょう。

この授業の主な到達目標は、以下の通りです。

- ① 言語芸術に関する基本的・総合的な知識を獲得する。
- ② 「文学」という表現の深さや可能性について考え、自分で課題を設定し、解決する能力を磨く。
- ③ 修得した知識を今後の知的生活の中で応用できるようになる。

教科書 /Textbooks

特定のテキストを使用するのではなく、各教員が講義ごとにプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に各教員が指示します。

文学を読む【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入・文学と「青春」(福島 文学部比較文化学科)
- 2回 岩本(文学部比較文化学科)
- 3回 馬場(文学部比較文化学科)
- 4回 田部井(文学部比較文化学科)
- 5回 渡瀬(文学部比較文化学科)
- 6回 五月女(文学部比較文化学科)
- 7回 伊藤(外国語学部英米学科)
- 8回 木原(外国語学部英米学科)
- 9回 齊藤(外国語学部国際関係学科)
- 10回 漆原(基盤教育センター)
- 11回 神原(基盤教育センター)
- 12回 田村(経済学部経済学科)
- 13回 永田(グローバル人材育成推進室)
- 14回 特別講師
- 15回 特別講師

(各講義の題目や順番は変更になる場合があります。第1回に詳細な予定表を配布します。)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート2本・100%。(三分の二以上の出席がなければ評価対象外となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

私語と授業中の教室への出入りは厳禁します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代正義論
			PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。
 まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房）
- 平井亮輔編『正義』（嵯峨野書院）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社）
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』（法律文化社）

現代正義論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリパタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、理解すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変に役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科, 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			民主主義とは何か
			PLS002F

授業の概要 /Course Description

20世紀は「民主主義の世紀」と呼ばれたように、私たちには民主主義が当たり前になっているかもしれませんが、しかし、民主主義に対する評価は分かれ、人々はより良い統治のあり方をめぐって、古来より様々な思索、実験を重ねてきました。このように、民主主義という概念はその歴史も長く、様々な概念から構成されます。そのため、本講義では民主主義を構成する思想、制度を理解するとともに、民主主義の型と作動様式を学びます。

教科書 /Textbooks

講義時に適宜、紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 古代ギリシアの民主制
- 第3回 近代デモクラシーの基礎① 【ホブズ】【ロック】
- 第4回 近代デモクラシーの基礎② 【ルソー】【トクヴィル】
- 第5回 近代デモクラシーの基礎③ 【福澤諭吉】【中江兆民】
- 第6回 現代の民主主義理論 【討議デモクラシー】【ラディカル・デモクラシー】
- 第7回 現代日本の民主主義理論① 【境界線の政治学】
- 第8回 現代日本の民主主義理論② 【〈私〉時代のデモクラシー】
- 第9回 民主政治の形成と崩壊① 【自由民主主義体制】【権威主義体制】【全体主義体制】
- 第10回 民主政治の形成と崩壊② 【共存理論】【対立理論】【ポピュリストモデル】
- 第11回 民主主義と有権者① 【政治参加】【直接民主主義】【間接民主主義】
- 第12回 民主主義と有権者② 【エリート民主主義】【参加民主主義】
- 第13回 民主主義と選挙 【ダウズモデル】【メディアン定理】
- 第14回 民主主義と政党、議会 【代表 / 代理】【二院制】
- 第15回 2つの民主主義 【多極共存型民主主義】【多数主義型民主主義】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 (80%)、講義への参加態度 (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

民主主義とは何か 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

なし

社会学的思考 【昼】

担当者名 /Instructor 堤 圭史郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自らが帰属する社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			社会学的思考
			SOC002F

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、国内外の地域社会で生きる人々が抱える諸問題を社会的に解説していく力を身につけることにある。社会学とは、我々が生活している世界の中から、(1)「不思議」な社会現象を見つけだし、(2)その現象がいかなるものであるかを記述した上で、(3)なぜそのような「不思議」な社会現象が発生・存続しているのかを説明し、さらに(4)その社会現象が何らかの問題をはらんでいるものである場合には、その現象の発生・存続のメカニズムをふまえて、よりよいシステムを構想してゆく科学である。この授業では、まず、社会学に特徴的な社会現象の捉え方について社会学の古典的著作を例にとりあげながら紹介していく。ついで、「組織」、「家族」、「農山村」、「都市」、「階層」、「逸脱」、「国際化」といった社会の各領域に焦点をあて、社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。レジメ、資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『社会学がわかる事典』(森下伸也、日本実業出版社)
- 『社会学をつかむ』(西澤晃彦・渋谷望著、有斐閣)
- 『畏怖する近代』(左古輝人著、法政大学出版局)
- 『社会学』(長谷川公一、浜日出夫、藤村正之、町村敬志著、有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：本講義のテーマ、内容、構成の紹介
- 第2回：社会と個人、個人と社会(1)【E. デュルケム】
- 第3回：社会と個人、個人と社会(2)【M. ウェーバー】
- 第4回：集団と組織(1)【集団の諸類型、社会集団の構造と機能】
- 第5回：集団と組織(2)【官僚制と民主主義】
- 第6回：家族(1)【社会変動と家族】
- 第7回：家族(2)【家族問題と社会問題】
- 第8回：階層と社会移動(1)【階級・階層の捉え方】
- 第9回：階層と社会移動(2)【社会移動と教育】
- 第10回：都市と農村(1)【都市化とコミュニティ】
- 第11回：都市と農村(2)【社会変動と都市問題】
- 第12回：逸脱と統制(1)【正常と異常 / 同調と逸脱】
- 第13回：逸脱と統制(2)【逸脱の捉え方】
- 第14回：グローバル化とエスニシティ
- 第15回：まとめと課題

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70%、小レポート30%。講義内容の理解度と、問題意識の明確さに注目し評価する。

社会学的思考 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治のなかの文化【昼】

担当者名 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と政治に関する知識を学び、人間と「思想・文化」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と政治に関する既成概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			政治のなかの文化
			ANT001F

授業の概要 /Course Description

政治や経済に関する現象は世界の多くの地域で共通する事項が多いと考えられがちである。しかしながら、実際には多くの地域に多様な独自性が広がる。近代国家的な政治体制や経済体制が世界中に共有される以前から、さまざまな共同体において統治の方法があったし（これもまた文化のひとつである）、近代国家的な制度が共有されるようになって、その受け入れられ方は様々である。

本講義では、その土地に住む人々の政治や経済に関する固有の価値観や習慣について、過去と現在の状況を学ぶ。しかし、それは学問的な知識を蓄えることが目的なのではない。民主主義、資本主義、公共性、といった現在、世界共通に使用されているようにみえるこれらの概念の理解が地域依存的なものであることを知ることで、概念を問いかえすことが目的である。

教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しないが、以下の参考文献を各人の興味にあわせて一冊以上読んでおくことが望ましい。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- アンダーソン、ベネディクト1997『想像の共同体』NTT出版
- 織田竜也ほか(編)2009『経済からの脱出』春風社
- 春日直樹(編)2008『人類学で世界をみる』ミネルヴァ書房
- ピエール・ブルデュー1993『資本主義のハビトゥス』藤原書店
- 本多俊和ほか編2011『グローバリゼーションの人類学』

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

政治のなかの文化【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / グローバル化の時代と文化
第2回 理念の土着化

第3回 伝統社会のなかの政治の始まり
第4回 互酬性
第5回 伝統的社会における支配と近代的な社会における支配
第6回 国家に抗する社会
第7回 価値観と文化
第8回 資本主義への対抗
第9回 中間テスト

第10回 政治体制の変化が文化に与える影響①：社会主義と近代化
第11回 政治体制の変化文化に与える影響②：体制転換という経験
第12回 開発の現場における文化の差異
第13回 地域通貨の可能性 / 中間テストの講評
第14回 「求められる市民参加」の時代
第15回 講義のまとめ：公共性と文化

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テストまたはレポート30%、期末試験70% このほか適宜授業への積極的参加を加点する。
(受講者数に応じて配分を変更する場合もあるが、受講者数が決定次第講義中に通知する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 現代史や時事問題に自信がない受講生は、わからないことをそのままにしないようにしてください。高校の教科書(現代社会、世界史)は図書館にありますし、北九大図書館は主要な新聞の数年分が検索できるデータベースを契約しています。活用してください。
- ・ 出席しただけでは評価しません。講義にはほとんど出席していても、偶然1回休んだ日の内容がテストに出て回答できなければ、結果として単位を落とすこともあります(ほかの日の内容が完全に理解できているならばそんなことはありません)。出席することより理解することを心がけてください。質問は歓迎します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ ビジョン科目I「異文化理解の基礎」やビジョン科目II「現代社会の文化」を受講済み・受講中の学生は、授業の理解度が高まります。このテーマ科目では政治が働く空間の中での文化について学びます。
- ・ 履修上の注意では厳しいことを書いていますが、私の他の講義と同じく、覚えるべき事項はありません。理解できるかどうか、できなくてもしようとする努力がみられるかを評価します。異文化や外国のことに興味がある学生、政治学とは異なる視点からの政治に興味がある学生、教養を深めたい学生の受講を歓迎します。
- ・ 学際性が求められるビジョン科目では、講義に取り入れにくい現在の東欧の文化人類学的话题(担当者の専門です)などもこの講義では話したいと思います。

キーワード /Keywords

政治、公共性、文化、互酬性、国家

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会と人権との関係・歴史や社会の中における人権の重要性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる人権の意義・重要性について総合的に分析し、直面する課題を発見するとともに解決を模索する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の中での人権について、自ら課題を発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			人権論
			SOC004F

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

人権論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
- 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
- 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
- 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
- 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
- 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
- 7 「在日外国人と人権課題」：在日外国人の現状と人権課題を解説する。
- 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
- 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く日本社会の歴史や現状を解説する。
- 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
- 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
- 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
- 13 「平和と人権」：戦争・平和についての解説。
- 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50%
期末テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心を持ち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。
私語は厳禁
出席回数が基準を満たさない場合は期末テストの受験資格を失う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」
「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会とジェンダーとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会の理解に必要とされるジェンダーの考え方について総合的に分析し、課題を発見するとともに、解決策を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会においてジェンダーにかかわる課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			ジェンダー論
			GEN001F

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を理解し、使えるようになる。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ-女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2009）
 適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
 マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
 R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

ジェンダー論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

(1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておく。(2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させる。(3)プレゼンにはパワーポイント使用のためプレゼンおよびPPTスキルズを身につけておく。

キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狹間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する3つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		
			障がい学
			SOW001F

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定である。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回：障害の捉え方【障害の種類と区別】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉症とは【自閉症】
- 第6回：文化モデル的作品DVDの視聴【文化モデル的作品】
- 第7回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第8回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第9回：日本の福祉制度現状【法的現状】
- 第10回：日本の福祉制度の現状【制度的現状】
- 第11回：日本の福祉制度の現状【雇用問題を事例として】
- 第12回：日本の福祉制度の課題【福祉制度の課題】
- 第13回：共生社会へ向けての課題【共生社会】
- 第14回：自己への問いとしての障がい学【自己への問い】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科, 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科
今泉 恵子 / 法律学科, 植木 淳 / 法律学科
大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
高橋 衛 / 法律学科, 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
中村 英樹 / 法律学科, 福重 さと子 / SATOKO FUKUSHIGE / 法律学科
矢澤 久純 / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解	●	共生という概念と法との関係や共生における法の役割を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における共生の問題について、法の観点を踏まえ、総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	現代社会における共生に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			共生の作法	LAW001F

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、極めて複雑な様々な関係から成り立っている。われわれは個人としてどのような関係の中で生活しているのか、どのような関係の中で生活すればよいのかを考える必要がある。われわれの生活が、およそ一人では成り立たない以上、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係など様々な関係の中で成り立っていることを考えなければならない。

他者との共存ないし共生は我々の生活には不可欠なものであり、そのためお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いに守るべきルールやマナー（作法）を知ることが必要である。

今現在、そのような他者との関係がどのようになっているのかを考え、そして、これらの関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えることが、本講義の目的である。

この授業の到達目標は、以下のとおりである。

- ①法についての基本的な知識を獲得した上で、社会での共生に必要な理解力や思考力を鍛える。
- ②共生をめぐる現代社会の諸問題について、課題を発見しそれを分析したうえで解決する力を獲得する。
- ③修得した知識や思考力を自らのものとし、今後の社会実践の中でより深めていくことができるようにする。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示する。

共生の作法【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞, ガイダンス (二宮)
- 第2回 法と道徳について (重松)
- 第3回 障害のある人の権利 ~ 日本国憲法から (植木)
- 第4回 民主主義の限界 - 立憲主義との関係で (中村)
- 第5回 行政は「個人の権利」をもつか (福重)
- 第6回 規範意識とは何か (3銭の電気窃盗) (山本)
- 第7回 犯罪とは何か ~ 国家刑罰権をどのように制約するか (大杉)
- 第8回 契約について (契約の意義, 種類, 契約自由の原則等) (矢沢)
- 第9回 家族とは何か (小野)
- 第10回 商法とは何か (今泉)
- 第11回 企業形態と法 (高橋)
- 第12回 民事訴訟とは何か (小池)
- 第13回 社会保障の必要性和社会保険について考えよう (津田)
- 第14回 雇用とは何か (雇用関係の成立, 雇用関係の展開, 雇用関係の終了) (石田)
- 第15回 国際社会と日本, まとめ (二宮)

成績評価の方法 /Assessment Method

- レポートによる (100%, ④に注意)。
- ① 受講者は学籍番号に応じて指定されたテーマ群のなかから, テーマを1つ選び, レポートを1本作成して提出すること。
 - ② レポートの書式等は掲示により別途指示する。レポートは3000字以上とする。
 - ③ レポートには, 所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名等を明記した所定の表紙を必ず添付すること。
 - ④ 授業態度が著しく悪いと判断される受講者は, レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回のテーマについて事前に情報を収集し, 予習しておくとう理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は, 学籍番号に応じて選択することができる範囲 (テーマ群) が決まります。全ての授業に出席していないと書けないことになるので注意して下さい。各人が選択できる範囲 (テーマ群) は, 試験期間開始よりも前の適切な時期に掲示により指定します。

キーワード /Keywords

【現代社会】 【共生】 【作法】 【ルール】

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と法との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法的課題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	法と社会とのつながりを再確認し、その深い理解をもって社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			法律の読み方
			LAW002F

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどういう仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 民法を読む①【社会規範】【行為規範】【法律用語】【裁判所】
- 3回 民法を読む②【法解釈の方法】【文理解釈】【類推解釈】
- 4回 刑法を読む①【法規範の特性】【法の機能】【法の存在形式】【法源】【罪刑法定主義】
- 5回 刑法を読む②【刑事法】【法の適用】【憲法と刑事法の関係】【法の解釈】
- 6回 判例の読み方 【判例】【先例】【認定事実】【判決理由】
- 7回 民事判例を読む①【判例研究の方法】【判例部分の抽出】【判例研究の目的】
- 8回 民事判例を読む②【判例評価の方法】【生命保険金】【特別受益】
- 9回 刑事判例を読む①【判例集の名称】【判例集の調べ方】【判例集の体裁】
- 10回 刑事判例を読む②【刑事判例の勉強の仕方】【事実の概要】【判旨】【解説】【因果関係】
- 11回 民法の視点から社会を読む①【婚姻】【内縁】【パートナーシップ】
- 12回 民法の視点から社会を読む②【人工生殖】【親子関係】【相続権】
- 13回 刑法の視点から社会を読む①【一厘事件】【3銭電気窃盗事件】【窃盗罪の客体】
【可罰的違法性】【起訴便宜主義】
- 14回 刑法の視点から社会を読む②【裁判員制度】【刑事裁判の流れ】【公判の基本原則】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 定期試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

法律の読み方 【昼】

履修上の注意 /Remarks

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'13』信山社（1,000円）をお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解するため、社会調査の知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	社会的事象に関する量的・質的調査の基本的な考え方を身につける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会的な課題の発見、データに基づく解読、解決策の提示を可能とするための方法を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会における課題を自ら発見し、解決策を提示するための調査方法を継続して考える。
	コミュニケーション力		
			社会調査
			SOC003F

授業の概要 /Course Description

社会調査（主に量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。
 社会にはさまざまな「できごと」、すなわち社会現象が起こっている。社会現象は人々の「考え」や「行為」から構成されている。たとえば、「結婚しない」人が増えれば晩婚化や非婚化といった社会現象は生じる。だが、そうした「考え」や「行為」は人々を取り巻く経済、政治、文化、社会関係によっても影響を受けている。たとえば、晩婚化や非婚化は「結婚できない」から生じているのかもしれない。社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「そうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。
 そのためには、(1) 意味のある「問い」をたてること、(2) その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること、(3) 論証戦略に基づいてデータを集めること、(4) データを統計的に処理すること、(5) 結果に基づき解釈すること（最初に立てた「問い」に対して「答え」を導くこと）、が重要である。
 この授業では、このうち(1)～(4)、とりわけ(2)と(3)に力点をおいて考えていきたい。
 社会調査とは、単に「データを集計すること」ではない。繰り返しになるが、大切なことは「解釈」である。そして、その「解釈」を導くためには、きちんとした論証戦略に基づく調査の設計、調査票の作成、調査技法・データ分析手法の習得が必要である。それらを、演習を交えながら、学習・習得することを目指す。
 なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行う可能性がある。

教科書 /Textbooks

『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『ガイドブック社会調査(第2版)』、森岡清志編著、日本評論社、2007
 - 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』、谷富夫編著、世界思想社、2008
- その他、授業の中で紹介する。

社会調査【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディングと調査票の作成(1)
- 第6回 ワーディングと調査票の作成(2)
- 第7回 ワーディングと調査票の作成(3)
- 第8回 サンプルング
- 第9回 調査の実施とデータファイルの作成(1)
- 第10回 調査の実施とデータファイルの作成(2)
- 第11回 分布と統計量
- 第12回 検定の考え方
- 第13回 クロス集計
- 第14回 相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40% 期末レポート... 60%
(総合的に判断する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストをよく読んでくること。
課題をきちんと提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「授業の概要」にも書いた通り、社会調査とはデータを集めることにとどまるものではありません。きちんとした論証戦略に基づく、きちんとしたデータを集めること、そしてそれに基づいて社会を解釈することです。授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

キーワード /Keywords

量的調査、質的調査、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、検定、クロス表、相関、関連

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
			企業と社会
			BUS001F

授業の概要 /Course Description

我が国は、アジア太平洋戦争に敗北した。しかし、その後の日本は、日米同盟という軍事的・政治的・経済的枠組みのもとで、奇跡的とも言うべき復活・再生（高度成長から安定成長）を果たした。そして、その後の不況下の物価上昇というスタグフレーションをひとまず克服した日本経済は、欧米からジャパンアズナンバーワンとも賞賛された。しかし、こうした日本の企業社会であるが、その「ピーク＝破壊」たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた15年さらには20年とも評価されるにいたっている。

終身雇用（lifetime commitmentの日本語訳、広義には職場共同体という感覚）・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液状化して剥き出しの資本制経済の荒波（マーケット中心主義）にさらされている。日く、ワーキングプア（働いていても生活がいよいよ苦しい）・ネットカフェ難民（帰るべく家がない）・格差から貧困（経済的格差・貧困から意欲の格差が目目される）・99%対1%、そしてついにはブラック企業の台頭、等々である。

にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義（マーケット型資本主義）路線。すなわち「市場＝マーケット」万能路線である。ここでは、市場から脱落・排除（彼女／彼らはこれを退出という）された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである（例えば、退場をしたサッカー選手には、帰るべく家があるが、市場から退場を命じられた労働者に帰るべく家は必ずしも存在しない。さらには、待ち構えている企業そのものがブラック企業でもある。）。

だからこそ、これまでの日本経済においては、ケインズ型経済政策を基底にして、社会そのものがこうした人々を支えるセーフティネットをもってたと判断される（社会統合機能）。しかし、赤字財政と経済危機という観点から、いよいよ新自由主義なる路線が浸透しているかのようである（社会統合機能の麻痺と当該社会の正統性の危機）。

そうすると行き着くところ、社会（資本制経済あるいは資本家の生産社会）というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないかのように振る舞うことが可能なのだろうか？

こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。レジユメも配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 1、市場を扱った文献については、カール・ポランニー『市場社会と人間の自由』大月書店、2012』(○)
- 2、格差と貧困に関わるテーマを扱った文献については、①雑誌『世界』(○)・岩波新書等の最新の文献、②『私たちは“99%”だ』(岩波書店、2012)』(○)、③國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房(2009年)(○)、森岡孝二編『貧困社会ニッポンの断層』桜井書店、2012。ブラック企業関連の文献。
- 3、社会統合と社会の正統性に関する議論については、ハバースマとルーマンの議論を紹介した文献を参照。①山之内靖『システム社会の現代的位相』岩波書店、2011、②尾関周二『言語的コミュニケーションと労働の弁証法』大月書店、2002。

企業と社会【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商品に表された労働の二重性(現代社会の二重性)～「誠の恋は、何故、みのらないのか？」
- 2回 資本主義という俗語と市民社会という講学用語。【資本主義】【市民社会】
- 3回 市場とは～[私達]の振る舞いである「C(商品) - M(貨幣) - C(商品)」
- 4回 市場とは～[資本家]の振る舞いたる「M(貨幣) - C(商品) - M(貨幣)」
- 5回 商品流通の次元と平等～何故、格差・貧困・「99%対1%」なのか【格差】・【貧困】
- 6回 市民社会の歴史的創出～本源的蓄積過程【本源的蓄積過程】【賃労働関係】
- 7回 労働者および資本家の歴史的誕生。英国のケース。【本源的蓄積過程】【ゼントルマン資本主義】
- 8回 商品流通と生産過程・利潤の源泉【剰余価値】【利潤】【公表利益】
- 9回 長時間労働・過労死そして格差・貧困の発生そしてブラック企業【絶対的剰余価値】【相対的剰余価値】【労働組合】
- 10回 ブラック企業の台頭～日本という社会の脆弱性【衰退する既存の労働組合】【台頭する新たな労働組合】
- 11回 資本主義と危機=福祉国家(混合経済)の登場【福祉国家】
- 12回 福祉国家の危機=赤字財政というシステム統合危機。市場回帰の新自由主義の台頭【赤字財政】【新自由主義】
- 13回 新自由主義の台頭とセーフティネット装置の浸食。システム統合危機から社会統合危機へ【危機】【社会統合】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)【システム統合】【社会統合】【生活世界】
- 15回 まとめ～このかけがえのない個体としての私

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%。この配分を100点満点に換算して評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最近では、ブラック企業という言葉が頻りに聞きます(ホワイト企業という言葉もあります。それはともかく、白と黒という二重性にまず注目しましょう)。ブラック企業の台頭は就活にとって無視できません。私たちは、次々とこうした魔物にからめとられてしまうのでしょうか。だから、私達にとって社会とは、単なる観察対象ではなく、観察主体である自らも同時に、観察対象そのものであることを常に意識してもらいたい。

キーワード /Keywords

【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】【ブラック企業】
【福祉国家】【ケインズ政策】【新自由主義】【システム統合】【社会統合】【生活世界】

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代社会と倫理との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の倫理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の倫理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と倫理
			PHR002F

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』（山内友三郎・塚崎智監訳）、昭利堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』、東海大学出版会、1988年。
- 江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』、勁草書房、2011年。
- 安彦一恵『「道徳的である」とはどういうことか—要説・倫理学原論』、世界思想社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
- 3回 現代における人命の価値（1）【生命の神聖説】
- 4回 現代における人命の価値（2）【積極的行為と消極的行為】
- 5回 現代における人命の価値（3）【最大幸福原理】
- 6回 現代における人命の価値（4）【自己意識】
- 7回 現代における人命の価値（5）【FLO】
- 8回 現代における差別の問題（1）【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題（2）【差別反対論】
- 10回 現代における差別の問題（3）【種差別の基礎】
- 11回 現代における差別の問題（4）【種差別の諸相】
- 12回 現代における公平性の意義（1）【世界の貧困】
- 13回 現代における公平性の意義（2）【公平主義】
- 14回 現代における公平性の意義（3）【援助義務論】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業予定の詳細と参考文献の紹介は、第1回もしくは第2回の授業時に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生命 義務論 功利主義 公平性

現代社会と新聞ジャーナリズム 【昼】

担当者名 /Instructor 西日本新聞社、基盤教育センター 神原ゆうこ

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	新聞を通して人間、社会、マスメディアの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	新聞を通して人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	新聞をはじめとするマスメディアを通して現代社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
		現代社会と新聞ジャーナリズム SOC001F	

授業の概要 /Course Description

この講義は西日本新聞社による寄付講座である。毎回、新聞ジャーナリズムのさまざまな現場で活躍されている方々の講義を聞き、現代社会と人間の関係について総合的な理解を深めることを目的とする。受講者各自には、新聞を通して、現代社会が直面する課題を発見し、解決のために自ら学ぶ姿勢を持つことが求められる。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しないが、新聞が必要となる課題を出す予定なので、必要に応じて各自で新聞を購入すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて講義中に担当者が指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション/新聞ジャーナリズムの現状 (編集企画委員長)
- 第2回 ニュースの価値付け/見出しはこう決まる (編集センターデスク)
- 第3回 政治を見る目/取材現場で感じたこと (編集委員)
- 第4回 地域とともに/分権時代と地域紙 (編集企画委員)
- 第5回 災害報道の実際/東日本大震災から3年 (社会部記者)
- 第6回 アジアと九州を考える/国際報道の現場から (編集委員)
- 第7回 読者参加型の新聞づくり/地元「遺産」を取材して (編集委員)
- 第8回 デジタル時代の新聞/電子メディアへの挑戦 (q b i z 編集長)
- 第9回 キャンペーン報道の力/消防団と防災 (社会部デスク)
- 第10回 九州経済をどう見るか/経済記者の視点(経済部長)
- 第11回 スポーツ報道の世界/運動記者が伝えるもの (運動部デスク)
- 第12回 報道写真の力/カメラマンの心得とは(写真部記者)
- 第13回 北九州の現場から/半世紀を経た都市づくり (北九州本社記者)
- 第14回 地域文化を見つめて/文化部記者の仕事とは (文化部デスク)
- 第15回 新聞をデザインする/ビジュアルな紙面とは (デザイン部デスク)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート (3回) ・ ・ ・ 100%
ただし、出席回数が一定回数以下の受講生はレポートの出来にかかわらず、成績を不可 (D) とする。詳細は第1回目の講義で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

現代社会と新聞ジャーナリズム 【昼】

履修上の注意 /Remarks

日々の新聞をよく読み、世の中の動きに敏感になること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通じて社会とあなたがどうつながっているか、考えるきっかけにしてください。また、多メディア時代の新聞の役割について、少しでも理解を深めてくれればうれしいです。

キーワード /Keywords

メディアリテラシー

都市と地域【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所, 奥山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	都市と地域について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	都市と地域について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	都市と地域に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			都市と地域
			RDE002F

授業の概要 /Course Description

日本や海外における都市や地域についての紹介や、それらを捉えるための概念や枠組み、現状の課題や将来の展望などについて講義します。より幅広く俯瞰的な視点を持つことにより、都市や地域を違った形で捉え、そこから社会に対する新しい視点が生まれることを期待します。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜文献や資料を紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 【地域】 適宜文献や資料を紹介する。
- 【都市】 特になし。参考となる文献等については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 共通 : 授業及び講師紹介
- 2回 地域 1 : 地域の概念：世界と日本の事例
- 3回 地域 2 : 地域をどのように学問するか：地域学と地域科学
- 4回 地域 3 : 地域間という考え方
- 5回 地域 4 : 教官討論：北九大と地域（仮：予定）
- 6回 地域 5 : 地域事例紹介 1（国内事例予定）
- 7回 地域 6 : 地域事例紹介 2（海外事例予定）
- 8回 地域 7 : 課題レポート発表・討論
- 9回 都市 1 : 都市の概念（都市、都市化、都市圏とは何か）
- 10回 都市 2 : なぜ都市に人や産業が集まるのか
- 11回 都市 3 : 都市の衰退
- 12回 都市 4 : 北九州の街を考える（1）【都市経営】
- 13回 都市 5 : 北九州の街を考える（2）【にぎわいづくり】
- 14回 都市 6 : 都市と市民
- 15回 都市 7 : 今後の都市のあり方を考えていく際の視点

成績評価の方法 /Assessment Method

- 【地域】 全体の50%：クイズ...15% 授業内貢献...10% レポート...25%
- 【都市】 全体の50%：レポート35% 授業貢献15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

都市と地域【昼】

履修上の注意 /Remarks

【地域】前半の「地域」のどこかで数回、クイズ（小テスト）を行う（当日発表）。レポートは各自印刷の上、地域7の授業に持参し授業終了後の提出とする。授業内ディスカッションを活発に行うので、発言の無い学生は授業内貢献の評価が芳しくなくなる。

【都市】期末レポートは、電子メールにファイル添付して提出することを求める。その手法での提出が困難な場合は、個別に相談すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

【地域】「地域」という概念は多様であり、それらを理解することにより空間としての地域に対する自らの視点を形成することを期待する。

【都市】日常生活を送る中で、「この都市の良い／悪いところ」と感じたことを記憶に留め、「なぜ今のようになっているのか」「今後どうすべきか」等を考えることの習慣化を期待する。

キーワード /Keywords

地域科学、地域学、都市政策、にぎわい

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 大平 剛 / 国際関係学科
篠崎 香織 / 国際関係学科, 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科
白石 麻保 / 中国学科, 堀地 明 / 中国学科
尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科, 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科
横山 宏章 / Yokoyama Hiroaki / 社会システム研究科 博士後期課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代の国際情勢
			IRL003F

授業の概要 /Course Description

現代東アジアの国際情勢を政治・経済・思想などを中心に考察する。近年、国際関係分野において注目されている諸理論・現象を紹介しながら講義を進める。

教科書 /Textbooks

各担当教員が適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各担当教員が適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は複数の教員が各自の専門と関心からアジアと国際関係を論じるオムニバス授業である。授業テーマと担当者については初回授業で紹介するので、必ず出席すること。

※授業では出席をとることがある。

第1回オリエンテーション

第2回山本 アジアとヨーロッパ(1) 【近代国家、EU】

第3回 “ アジアとヨーロッパ(2) 【共同体、贈与】

第4回下野 グローバル化の中の中国 【改革開放、北京コンセンサス】

第5回 “ “

第6回堀地 北京と世界遺産【北京、世界遺産】

第7回白石 中国の持続的発展の可能性 【経済成長、SNA、投資】

第8回横山 東アジアの安全保障 【日中の領土問題】

第9回鄧紅 日中関係の過去と現在 【魏志倭人伝、漢字、日清戦争、満州事変、国交回復】

第10回尹 日本の経済交流パートナーとしての東アジア 【東アジア地域の特徴、日本と東アジア地域との経済関係】

第11回 “ 日本(九州)の東アジア戦略 【日本の経済連携の取り組み、環黄海地域での経済交流】

第12回大平 変容するアジア情勢と日本のODA【政府開発援助(OA)、米国のリバランス戦略、巡視船供与、第1・第2列島線】

第13回 “ “

第14回篠崎 東南アジア：「周縁」で形成される文明の新たなかたち(1) 【華人、中華世界】

第15回 “ 東南アジア：「周縁」で形成される文明の新たなかたち(2) 【イスラム教】

※都合により、講義の順番は変わることがある。

現代の国際情勢【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートで評価する（100％）。
レポートの本数・形式など詳細については初回のオリエンテーションで指示する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

適宜参考文献などを紹介するので自主的に読むこと。
平素から新聞や関連する本を読んで、授業内容への理解を深める努力をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	海外及び国内地域社会のガバナンス（協治）について総合的理解が可能となる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国内外のガバナンス（協治）の在り方を通しての課題を発見でき、その課題を解決するための方策が学習できる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	大学卒業後、地域社会で生活するにあたって積極的に社会作りに関わり、生涯学習としてその実践活動に携わることが可能となる。
	コミュニケーション力		

開発と統治

IRL002F

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（統治）」の意味を世界各地の国(ミャンマー、バングラデシュ、韓国、米国と日本が対象国)や地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて回答してもらいます。

以上の概要を通して、ガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、バングラデシュ、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	「開発と統治」をはじめるとして		担当：三宅
第2回	民主化問題を考える視座（1）	【民主化問題】	担当：伊野
第3回	民主化問題を考える視座（2）		担当：伊野
第4回	理論と現実-ミャンマーの民主化をめぐる	【ミャンマー】	担当：伊野
第5回	もっと知りたいアジア - ソーシャルビジネスとユニクロ	【ソーシャルビジネス】	担当：チョウドリ・三宅
第6回	お祭り騒ぎ・内戦模様の今年の総選挙を通して見たバングラデシュの政治活動	【バングラデシュ】	担当：チョウドリ・三宅
第7回	途上国と一村一品運動	【一村一品運動】	担当：チョウドリ・三宅
第8回	NGOs活動とし社会のガバナンスの変化	【BRAC】	担当：チョウドリ・三宅
第9回	韓国の民主化とガバナンスの形成過程	【韓国】	担当：申
第10回	アメリカにおけるガバナンスと環境	【米国】	担当：申
第11回	エネルギー問題にみるガバナンス形成	【エネルギー問題】	担当：申
第12回	地域社会から見たガバナンス	【地域社会】	担当：三宅
第13回	日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
第14回	ガバナンスについてのグループ・ワーク	【グループワーク】	担当：三宅
第15回	まとめ		担当：三宅

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20 % 試験...50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

開発と統治【昼】

履修上の注意 /Remarks

日ごろから世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報をキャッチしておくこと。また、時々、小課題を出すので、必要に応じて提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 バングラデシュ 米国 子供会 グループワーク

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
永田 公彦 / グローバル人材育成推進室, 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程, 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程
松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自立的に探求する姿勢が身につけている。
	コミュニケーション力		
			グローバル化する経済
			ECN001F

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン-グローバル化とは
- 2回 自由貿易 【比較優位】【貿易保護】
- 3回 企業の海外進出と立地 【直接投資】
- 4回 企業の海外進出と立地 【人件費】【為替レート】
- 5回 ICT技術と経済のグローバル化 【コンピュータ・ネットワーク】
- 6回 市場の世界化と地域経済 【グローバル】
- 7回 グローバル化と地方自治体 【自治体外交】【多文化共生】
- 8回 グローバル化の進展と国際会計ルール採用の意義 【IFRS】
- 9回 グローバル化とファイナンス 【アベノミクス】【金融市場】【外国人投資家】
- 10回 グローバル化時代の地域政策 【環境】【新産業】【地域振興】
- 11回 人と情報のボーダレス化 【多国籍組織】【ダイバーシティ】【世界同時情報共有】【ネットワーキング】
- 12回 グローバル文化と異文化マネジメント 【グローバルノマド】【グローバル人事】
- 13回 景気の国際間波及メカニズム 【GDP】【三面等価】
- 14回 景気の国際間波及メカニズム 【需要変動】【乗数】
- 15回 まとめと総復習-グローバル化の光と影

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

グローバル化する経済【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけましょう。授業ではプリントを多用します。学習支援フォルダにアップするので、予習・復習してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間とテロリズムとの関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	テロリズムについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	テロリズムに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			テロリズム論	PLS001F

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

なお、この科目では、テロリズムに関する総合的な知識の獲得、理解、この分野に関する課題発見・分析能力の獲得により、および生涯にわたりこの問題と向き合っていく基盤を提供します。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

テロリズム論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 テロリズムとは何か(1)
定義が困難な理由について
①「自由の戦士」という問題(祖国解放のための暴力使用はテロか?)
②テロの犯罪性の問題(佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか?)
③テロの政治性の問題(テロリストが身代金目的で行った誘拐事件はテロか?)
- 3回 テロリズムとは何か(2)
テロリズムの定義
①911の特殊性と国土安全保障の考え方
②アメリカ国内でのテロの定義の統一化
③テロリズムの定義
- 4回 テロリズムとは何か(3)
テロリズムの特徴 ①テロの目的 ②テロの標的 ③テロの主体
テロと犯罪のグレーゾーンについて
- 5回 テロの歴史(1)
テロの起源、19世紀のテロとアナキズム
- 6回 テロの歴史(2)
ナショナリズムとテロ(国粋主義、民族解放)
- 7回 現代テロ(1)
国際テロの登場(1968年エルアル機ハイジャック、スカイマーシャル)
反米テロの登場(TWA機ハイジャック)
補論(ハイジャックとは何か)
- 8回 現代テロ(2)
無差別・自爆テロの登場(日本赤軍、ロッド空港事件)
劇場型テロの登場(ミュンヘンオリンピック事件とGSG9、ダッカ事件とSAT)
- 9回 反近代・脱近代のテロ
オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回 無差別大量殺戮テロ(1)
「大量」殺戮テロの始まり
化学テロと生物テロ
化学兵器の特徴
- 11回 無差別大量殺戮テロ(2)
地下鉄サリン事件の概要
サリンについて
- 12回 無差別大量殺戮テロ(3)
地下鉄サリン事件の動機
- 13回 911米国同時多発テロ(1)
911の特異性
911の概要と計画性
- 14回 911米国同時多発テロ(2)
ビンラディンのプロファイル
アルカイダとテロ、米国の対応
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際紛争に対する国連の役割を考察することにより、人間と国際社会の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際紛争と国連に関する諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際紛争と国連に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			国際紛争と国連
			IRL005F

授業の概要 /Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類（Phase化）の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、Case Studyとしての事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界（改訂版）』（三修社・2007）○
その他の参考文献は、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 国連情報へのアクセス方法【ODS】【UNBISnet】【UN Journal】
- 第3回 国連を知る【国連の生立ち】【国連の目的】【国連の組織構造】
- 第4回 国際紛争を見る分析軸【DisputeとConflict】【紛争のPhase】
- 第5回 国連における紛争処理のメカニズム【国連憲章上の枠組み】
- 第6回 国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国【加盟国の地位の二重性】
- 第7回 国連による平和の創出【和平合意の形成】【勧告】【事務総長による周旋】
- 第8回 国連による平和の維持【国連平和維持活動（PKO）】
- 第9回 国連による平和の強制【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
- 第10回 Case Study①：湾岸戦争と国連【多国籍軍】
- 第11回 Case Study②：ソマリア問題と国連【平和執行型PKO】
- 第12回 Case Study③：リビア問題と国連【保護する責任】
- 第13回 国連による持続的平和の定着【和解】【国家再建】【平和構築】
- 第14回 Case Study④：アフガニスタン問題と国連【平和構築】
- 第15回 まとめ

国際紛争と国連【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。
成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際紛争】 【国連】 【平和創出】 【平和維持】 【平和強制】 【平和構築】

国際社会と日本【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会の動向と日本の関係について総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際社会に対する批判的省察をもとに、日本が直面する問題の分析を行い、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際社会と日本のあり方に関して課題を自ら発見し、解決していくために学び続けることができる。
	コミュニケーション力		
			国際社会と日本
			IRL004F

授業の概要 /Course Description

国際社会と日本のあり方や関係について、様々な視点から解説する。

教科書 /Textbooks

姜尚中編『ポストコロナリズム』(知の攻略 思想読本4)、作品社、2003(第3刷)、2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教科書の紹介、授業のガイダンス
- 2~3回 なぜ今、ポストコロナリズムなのか(1)(2) 【ポストコロナリズム】
- 4回 第Ⅴ部の総論 姜尚中論文
- 5回 第Ⅰ部の総論 本橋哲也論文 【ポスト構造主義】
- 6回 第Ⅰ部の「近代」 松葉祥一論文 【カルチュラル・スタディーズ】 【植民地主義】 【帝国】
- 7回 第Ⅰ部の「性・文化」 竹村・毛利論文 【フェミニズム】
- 8回 第Ⅰ部の「日本」 小森陽一論文 【自己植民地化】 【近代主義】 【ナショナリズム】
- 9回 第Ⅰ部の「第三世界」 小倉英敬論文
- 10回 第Ⅰ部の「国家」 響田竜蔵論文 【オリエンタリズム】
- 11回 第Ⅰ部の1、朴一・村井寛志論文
- 12回 第Ⅰ部の2、趙慶喜論文 【アイデンティティ】 【ジェンダー】
- 13回 第Ⅰ部の3、高橋哲也論文 【過去の克服】
- 14回 第Ⅰ部の4、野村浩也・鄭暎恵論文 【他者】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート2本~3本 80% 平常の学習状況 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習と復習、関連文献を自主的に読むこと

キーワード /Keywords

韓国の社会と文化【昼】

担当者名
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
										○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	韓国の社会と文化を理解するのに必要な知識を修得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	隣国理解に必要とされる総合的な考察をもとに日韓における諸問題を主体的に思考し、判断することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	韓国に対する興味関心を持続させ、隣国理解のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			韓国の社会と文化
			ARE010F

授業の概要 /Course Description

適宜映像などを用いながら韓国全般、とりわけ現代韓国の社会と文化に関する基本的な知識を習得し、韓国について理解を深める。これをベースに異文化理解とは何かについても考え、それをグローバルなコミュニティに活かしてみる。また、つねに日韓比較的な視点を念頭に入れながら自国文化について見つめなおす時間としたい。

教科書 /Textbooks

適宜プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業にて提示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 韓国について概観
- 3 韓国の文学
- 4 韓国の歴史と政治
- 5 ハングルの誕生とその仕組み、韓国人の名字と名前
- 6 現代韓国社会の特徴 (外部講師)
- 7 冠婚葬祭
- 8 韓国の伝統家屋
- 9 韓国の食文化
- 10 知韓派日本人の見た韓国 (外部講師)
- 11 遊び文化の過去と現在
- 12 在日の社会
- 13 韓国の公演文化と「韓流」について考える
- 14 異文化体験視点から日韓比較プレゼンテーション
- 15 まとめ

* 上記スケジュールはあくまでも目安であり、受講生の個性やニーズ、進行状況などにより変更となる場合もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 (ミニペーパーやプレゼンテーション) 50%
中間レポート 20%、期末レポート 30%

韓国の社会と文化【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- 毎回のテーマについて「調べ」て「考え」ること。
- ・ 初回の授業には必ず出席する。
 - ・ 欠席した回に配布されたプリントや資料については各自で解決する。
 - ・ 調べ事や発表等を積極的に行う。
 - ・ ウィキペディアの丸写しに近いレポート、無断引用（コピペ等）が発覚したレポートは0点とする。
 - ・ グループで異文化理解のプレゼンテーションを行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エスニシティと多文化社会 【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	エスニシティと多文化主義・多文化社会に関する総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	エスニシティと多文化主義・多文化社会に関する考察をもとに、世界が直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	多様化する社会における課題を発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

エスニシティと多文化社会	IRL001F
--------------	---------

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ、人種に関する議論も活発化している。これらは新しい政治現象であると思われるが、決してそうではない。この授業では、エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指すとともに、多文化主義に基づく社会の再編成がどのような経緯で進み、いかなる課題を負っているかを幅広い事例を取り上げて考察する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ヨーロッパにおけるエスニシティと社会
- 2回 イギリスにおけるエスニシティ 【連合王国】 【ロンドン同時爆破事件】
- 3回 イギリスにおける文化摩擦 【オルダム暴動】 【ブリクストン暴動】
- 4回 イギリスにおける多文化主義 【スカーマン報告】 【イスラム嫌い】
- 5回 フランスにおけるエスニシティ 【都市郊外暴動】 【サルコジ】
- 6回 フランスにおける文化摩擦 【スカーフ問題】 【ブルカ禁止法】
- 7回 フランスにおける同化主義 【ライシテ】 【共和国憲法】
- 8回 前半のまとめ
- 9回 アメリカ合衆国におけるエスニシティと社会
- 10回 同化・統合の諸概念 【るつぼ】 【サラダ・ボウル】
- 11回 黒人史と公民権運動 【アフリカ系アメリカ人】 【公民権運動】
- 12回 マイノリティをめぐる政策【アフターマティブ・アクション】 【バッキ判決】
- 13回 自らを知る：日系アメリカ人 【強制収容】 【第二次世界大戦】
- 14回 今日のエスニシティ状況 【ヒスパニック】 【不法移民】
- 15回 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(中間50%、期末50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

エスニシティと多文化社会 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方I【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方 I
			HIS004F

授業の概要 /Course Description

ここでは私たちの身のまわりの歴史に関する知識や常識や見過ごしがち些細な事柄に注目して歴史を見直すことを目的としています。

以上の理由から、この授業の内容は高校教科書より高い「歴史学入門」レベルとなっていますのでご了承ください。

- この授業は高校までの授業のような知識の習得を目的としたものではなく、考えることやものの見方を学ぶことを目的としています。したがって教科書のような通史を学ぶものではありません。
- この授業は一つの歴史的事実のさまざまな側面やさまざまな解釈から歴史の多様性の面白さを学ぶことを目的としているため、教科書のように事実は一つに限られてはいません。
- この授業では「日本」という国民国家が成立する以前の前近代の日本列島と東アジアの社会を学ぶため、今日の国家的枠組みとはことなる視点を必要とします。

注意：

この授業で使用する『ラスト・サムライ』『もののけ姫』の映像には一部残虐な暴力シーンが含まれているので、あらかじめご了承ください。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『想像の共同体』(NTT出版)
- 小熊英二『単一民族神話の起源』(新曜社)
- 新渡戸稲造『武士道』(岩波文庫)
- ルース・ベネディクト『菊と刀』(社会思想社)
- 野口実『武家の棟梁の条件』(中公新書)
- 佐伯真一『戦場の精神史』(NHKブックス)
- 勝田政治『廃藩置県～「明治国家」が生まれた日～』(講談社)
- イ・ヨンスク『国語という思想～近代日本の言語認識』(岩波書店)
- 網野善彦『日本社会の歴史(上)～(下)』(岩波新書)
- 門脇禎二『吉備の古代史』(NHKブックス)
- 鳥越信『桃太郎の運命』(ミネルヴァ書房)

歴史の読み方I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス①授業の進め方
- 2回 明治維新と国民国家
- 3回 『ラスト・サムライ』の誤解
- 4回 新渡戸稲造の『武士道』
- 5回 武士道の成立・・・『葉隠』と山鹿素行
- 6回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
- 7回 『平家物語』を読む②言葉戦としての「川中島」
- 8回 県名を読む①国郡制と幕藩制
- 9回 県名を読む②県名と県庁所在地
- 10回 県名を読む③戊辰戦争を「見直す」
- 11回 「国語」とは何か
- 12回 網野善彦と日本史の多様性
- 13回 『もののけ姫』を読む-網野史学と【縄文文化】
- 14回 「桃太郎」と吉備王国
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート・・・50%、筆記試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

シラバス・レジユメ・参考文献をよく読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方II HIS005 F

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された児玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その「立憲主義的軍人」としての生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『児玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房、3000円）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。その他、講義中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 徳山殉難七士事件 - 佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱・西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平を使いこなす -
- 第8回 政治への関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 統帥権問題と明治国家の危機 -
- 第12回 児玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 立憲主義的軍人
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

歴史の読み方II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと（必須）。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児玉源太郎 陸軍 統帥権 帷幄上奏 日露戦争 西南戦争 伊藤博文 山県有朋

そのとき世界は【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 岩本 真理子 / 比較文化学科
寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	世界史を同時代史として、グローバルに理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界史を同時代史として、グローバルに認識できる能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	世界史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			そのとき世界は HIS002 F

授業の概要 /Course Description

世界史を日本史・東洋史・西洋史に分けてとらえるのではなく、同時代に世界ではいったい何が起こっていたのか、そしてそれはどのように相互に関連していたのか、という観点から世界の動きをよりいきいきととらえて、新しい「世界史」を学生諸君に提示したいと思います。今年度は「1980年代の世界」というテーマを設定して、その時の世界の有様を日本、東南アジア、ドイツ、中国、アメリカ（順序不同）、といった地域での動きを中心にオムニバス方式で講義していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 インTRODクシヨN (小林)
第2・3・4回 日本 (小林) 【バブル経済】、【昭和の終焉】
第5・6・7回 東南アジア (伊野) 【ビルマの民主化運動】
第8・9回 ドイツ (岩本) 【ベルリンの壁崩壊】 【ドイツ統一】
第10・11回 アメリカ (寺田) 【レーガン政権】
第12・13回 中国 (下野) 【天安門事件】
第14・15回 ポーランド (スピルマン) 【「連帯」運動】 【ソ連崩壊】
以上、順序不同。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20%小テスト...40%レポート...40%
上の数値は一応の目安です。実際には、1、各教員担当講義の2コマ目の最後に、出席者に「小テスト」を課します。一回でも未受験があったら、単位は認定されません。2、レポート提出...6人の教員の中から任意の講義を2つ選び、それについてのレポートを提出してもらいます（課題は別途指示、1,200字×2本）。コピーは不正行為と見なします。3、適宜出欠を取ります。4、以上の総合評価で成績評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

※講義の順番や担当者（地域）は変更になることもあります。「ただ聴くだけ」という受講態度は駄目です。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

そのとき世界は【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦後の日本経済【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	戦後の日本経済の発展過程と特徴を理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本経済が抱える問題を発見し、分析する能力を身に付ける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	日本経済が抱える問題を認識し、解決のための学習を継続する意欲を持つことができる。
	コミュニケーション力		
			戦後の日本経済
			ECN002 F

授業の概要 /Course Description

“皆さんは、“Japan as No1”と言われた時代、つまり、世界の国々が見習うべき世界No1の経済大国と、日本が海外から称賛された時代があったことをご存知でしょうか。「バブル」以降に生まれた皆さんにとって、これは実感を抱けない言葉かもしれません。しかし私たちは、この時代の「遺産」を引き継ぎ、この時代に形作られた社会的・経済的基盤のうえで現在を生きています。そしてそのことが、私たち自身の価値観や行動様式を規定しているのです。したがって、“Japan as No1”と言われた時代（あるいはそれ以降の変化）を知ることは、私たちが生きる現代を理解することでもあります。本講義では、過去をもとに現代の社会・経済状況を理解することを目的として、第二次世界大戦後から現代に至る日本経済の推移と、その結果としての日本社会の変化についてお話しします。”

教科書 /Textbooks

毎週配布するレジユメに基づいて授業を行います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

戦後の日本経済【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- "第1回 歴史を学ぶ意義
第2回 ①敗戦と復興
第3回 ②“Japan as No1”と言われた時代 - 1950年代から70年代 -
1. 高度経済成長の経緯
第4回 2. 高度経済成長を可能とした諸要因
第5回 3. 戦後日本の産業構造の変化
第6回 ③高度経済成長と日本社会
1. 人口の変化と「人口問題」
第7回 2. 高度経済成長と生活様式の変化
第8回 3. 社会生活と企業 - 「企業社会」の発展 -
第9回 4. 高度経済成長がもたらした“歪(ひず)み”
第10回 ④「ロスジェネレーション」 - 1980年代以降の日本経済 -
1. 低成長時代から「バブル」の時代へ
第11回 2. 「バブル崩壊」と長期不況
第12回 3. 「痛みを伴う改革」がもたらしたもの
第13回 4. 「失われた世代」の就業環境 - 「非正規雇用」の歴史と現状 -
第14回 ⑤「豊かさ」と「貧しさ」の現在形
第15回 総括
"

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

高度経済成長 人口問題 企業社会 ロスジェネレーション バブル経済 非正規雇用

人物と時代の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 乗口 眞一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師
新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史上著名な人物を通じて、歴史の流れを理解するために必要な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史上重要な人物を特定し、その人物が果たした歴史的役割を見出す能力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身の回りの歴史と著名人物に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		
			人物と時代の歴史
			HIS001 F

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
三人の教員が、イギリス・アメリカ・日本・の代表的な人物について、人物と時代について語る。まず、イギリスについては1980年代の自由競争主義、民営化、ビッグバンなどグローバル化の基礎を築いたマーガレット・サッチャーについて述べる。
次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔（リンカーン、ケネディー、クリントン大統領）について。
最後は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道（Bushido）が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていなかったとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰（アイヌや南方諸島に残る）や弥生信仰に代わって、聖徳太子（厩戸皇子）は仏教を大和（やまと）の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

教科書 /Textbooks

教科書 /Textbooks 資料を配付します。（新村）
口述講義（山崎）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』（BUSHIDO）
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』（文春文庫）
- 中村彰彦『保科正之』（中公新書）
- 山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国一産業革命からサッチャー改革まで』（ミネルヴァ書房、2008年）

人物と時代の歴史【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- イギリス、アメリカ、日本の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする
- 第1回 イギリスとはどんな国かー日英交流史ー
 - 第2回 サッチャー登場の歴史的背景ーイギリス病に悩むイギリス経済ー
 - 第3回 サッチャーと炭鉱ストライキ
 - 第4回 サッチャーと民営化政策
 - 第5回 サッチャーとNHS改革
 - 第6回 サッチャーとビッグバン
 - 第7回 サッチャーの大学改革と北九州市立大のカーディフ大学誘致合戦
 - 第8回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
 - 第9回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
 - 第10回 歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)
 - 第11回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
 - 第12回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
 - 第13回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り越えたり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
 - 第14回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
 - 第15回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ヨーロッパ道徳思想史【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	ヨーロッパ道徳思想史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ヨーロッパ道徳思想史について課題を発見し、総合的に分析することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	ヨーロッパ道徳思想史に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			ヨーロッパ道徳思想史
			PHR005 F

授業の概要 /Course Description

西欧における道徳思想の変遷を哲学・文学・演劇・音楽・映画などを手がかりに読み解いてゆく。本授業は2年ごとに一部内容を入れ替える予定であり、古代を中心とするか、近代を中心とするかで議論のポイントが異なってくる。今年度は昨年度に引き続き、とくに近代以後の展開に力点を置く。15回の講義を通して、一定の世界史的教養を獲得するとともに、道徳的価値観の多様なありかたを理解することが可能となるだろう。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時にそのつど指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 古代ギリシャ人の道徳【徳について】
- 3回 古代ギリシャ人の道徳【国について】
- 4回 ルネサンスの道徳観(1)【運命と技量について】
- 5回 ルネサンスの道徳観(2)【シェイクスピア『マクベス』】
- 6回 革命前夜の道徳観(1)【アンシャン・レジームの崩壊】
- 7回 革命前夜の道徳観(2)【『フィガロの結婚』解説前半】
- 8回 革命前夜の道徳観(3)【『フィガロの結婚』解説後半】
- 9回 理性の道徳(1)【フランス革命期の思想】
- 10回 理性の道徳(2)【ドイツ哲学】
- 11回 理性の道徳(3)【イギリス哲学】
- 12回 道徳の黄昏(1)【道徳の破壊】
- 13回 道徳の黄昏(2)【戦慄の美学】
- 14回 道徳の黄昏(3)【革命と権力】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業中に聞いたことのない日本語や英語に出会った場合は、かならず国語辞典もしくは英和辞典を引く癖をつけてほしい。最低でもこれらの辞典は自宅に常備しておくこと。
本講義と連関するテーマについて更なる理解を深めたい学生諸君には、同担当者によるビジョン科目「生活世界の哲学」の履修を推奨する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語などの迷惑行為に対しては厳しい態度で臨む。履修にあたっては真摯な受講を求めたい。とりわけ学習意欲に欠けていると見受けられる学生（授業中に下を向いてスマートフォンをいじっている、最後部の席に座って漫画を読んでいる、隣同士で始終しゃべっている、等々）には即刻退席を命じる。

キーワード /Keywords

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	日本史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	日本史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	日本史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		日本史	HIS110F

授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」や「日本人」について理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』（講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年）
- 大石直正ほか編『周縁から見た中世日本』（講談社、2001年 / 講談社学術文庫、2009年）
- 小熊英二『「日本人」の境界』（新曜社、1998年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本史を学ぶこととは
- 第2回 「鎖国」と「開国」
- 第3回 蝦夷地とアイヌ
- 第4回 近代化とアイヌ社会
- 第5回 琉球の形成と環シナ海世界
- 第6回 琉球から沖縄へ
- 第7回 対馬からみた中世・近世初期の日朝関係
- 第8回 近世における日朝関係と対馬
- 第9回 台湾をめぐる同化と異化
- 第10回 韓国併合と「日本人」
- 第11回 満洲国と「民族協和」
- 第12回 南洋群島と委任統治
- 第13回 「大日本帝国」の解体
- 第14回 「外国」になった沖縄
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験(持ち込み不可の論述問題)... 90%
ミニツツペーパー... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

出席確認を行う。出席回数が2 / 3未滿の受講生については試験を受ける資格を付与しない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 /Instructor 藤野 月子 / FUJINO TSUKIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	東洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	東洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	東洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	東洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			東洋史
			HIS120F

授業の概要 /Course Description

本講義では、東アジアを中心としてその歴史的な変容を考察する。目標として、中国・朝鮮・日本をはじめとする東アジアの特異性について明らかにし、更には、それを通じて東アジアの今後の在り方を自らで模索出来る能力を養う事を目指す。
一般的に中国の歴史といえば、単に中国国内のみの問題と捉える傾向があるかもしれない。しかし、古来から中国は近隣諸民族を吸収・同化しつつ、変容を繰り返しているのである。また、近隣諸民族もその影響を受けつつ、オリジナルな国家形成を行っているのである。つまり、東アジアにおいて両者を巡るこのようなかわり合いは相互に密接なものを有しているといえよう。
よって、ここでは具体的に、中国における古代文明の誕生から隋唐による世界帝国の形成・衰退までを、中国のみにとどまる事なく、東アジアという包括的な視座に置き、北アジア・西アジア・東南アジアの諸地域をも含みつつ、各時代の政治・経済・外交・文化・思想等の多角的な方面から理解する事を掲げる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。講義では毎回プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

堀敏一『中国通史 - 問題史としてみる - 』（講談社学術文庫 2000年 1260円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに - 講義のガイダンス・東洋史と中国 -
- 第2回 秦の始皇帝による統一 - 古代文明の誕生から中華思想の形成まで -
- 第3回 秦漢と匈奴 - 中国と北方遊牧騎馬民族との関係 -
- 第4回 中国の外交政策 - 羈縻・冊封・互市・和蕃公主の降嫁 -
- 第5回 前漢の政治と思想 - 儒教との関係 -
- 第6回 後漢の政治と思想 - 外戚と宦官 -
- 第7回 三国志の時代 - 三国の領土拡大と卑弥呼の朝貢 -
- 第8回 西晋による三国統一 - 西晋の内乱と近隣諸民族の動向 -
- 第9回 東晋南朝の社会 - 貴族とは -
- 第10回 五胡十六国北朝の時代 - 北中国における民族の融合 -
- 第11回 南北朝と朝鮮・日本 - 朝鮮・日本の中国外交 -
- 第12回 隋唐による統一 - 世界帝国の成立と政治制度 -
- 第13回 隋唐と朝鮮・日本 - 中国の朝鮮政策と白村江の戦い -
- 第14回 唐代の外交 - 唐の近隣支配体制と商業活動 -
- 第15回 安史の乱以降における唐の滅亡 - 世界帝国の衰退と東アジアへの影響 -

東洋史 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習態度... 30%・定期試験... 70%
双方向の講義が目的であるため、毎回、出席感想カードを配布・回収する。
平常の受講態度を見るため、授業中に予告なく小テストを実施する事も有り得る。
特に、講師及び他の学生の集中力を削ぐ行為（私語・音楽を聴く等）は授業妨害とみなし、これを強く禁止すると共に、違反する者には厳しい措置を取る。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習としては、参考書として紹介しているものをあらかじめ読んでおく。
復習としては、講義中に配布するプリントを見直しておく。
出来れば高校において世界史B及び日本史Bを履修している事が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

先入観に振り回されず、
今後の世界に大きな影響を与える事が確実な中国の歴史について学ぶ事は、
必要であると同時に大変有益です。

キーワード /Keywords

東アジア 北アジア 西アジア 東南アジア 中国 朝鮮 日本 政治 経済 外交 文化 思想

西洋史【昼】

担当者名 嶋谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	西洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	西洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	西洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	西洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			西洋史
			HIS130F

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシヤス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人文地理学【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人文地理の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	人文地理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	人文地理の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	人文地理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		人文地理学	GE0110F

授業の概要 /Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 経済発展と人口移動(1) 【近世・近代日本の都市発展】
- 第3回 経済発展と人口移動(2) 【現代日本の都市発展】
- 第4回 農業立地と農村の変化(1) 【農業立地論】
- 第5回 農業立地と農村の変化(2) 【日本農村の構造的変化】
- 第6回 都市構造と都市システム(1) 【中心地理論】
- 第7回 都市構造と都市システム(2) 【都市の内部構造】
- 第8回 都市構造と都市システム(3) 【都市と郊外】
- 第9回 都市構造と都市システム(4) 【都市システム】
- 第10回 商業立地と流通システム(1) 【チェーンストアの配送】
- 第11回 商業立地と流通システム(2) 【大型店と商店街】
- 第12回 製造業の立地と集積(1) 【工業立地論】
- 第13回 製造業の立地と集積(2) 【空間分業】
- 第14回 製造業の立地と集積(3) 【産業集積の理論】
- 第15回 製造業の立地と集積(4) 【産業集積の実態】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学 【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と自然との関係性を地理学を通して理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	倫理観を自覚し、社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			土地地理学
			GE0111F

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面に生起する自然、人文の緒現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を学習・研究する場合、必ず必要になるのが地図です。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図を中心に学びます。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習も行って、地理学の研究手法を学ぶとともに、地理学的知見を高めることを目的とします。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。

人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。

地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。

倫理観を自覚し、社会において積極的に行動できる。

課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「日本列島地図の旅 付・地図の読み方入門」大沼一雄著 東洋選書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか
- 2回 地図の役割と地図の能力
- 3回 地図の歴史
- 4回 地図には、どのような種類があるか
- 5回 地図は、どのように作られるか
- 6回 地図記号と景観
- 7回 山の地形を地形図から描く1 (講義・実習)
- 8回 山の地形を地形図から描く2 (実習)
- 9回 地図を利用して地表を計測する
- 10回 地形図を利用して景観を読みとる1 (実習) 海岸砂丘の環境と土地利用を読む
- 11回 地形図を利用して景観を読みとる2 (実習) 歴史景観を読む
- 12回 リモートセンシングと空中写真の利用
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)
- 14回 衛星データを利用して地表の環境を調べる
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...40% 試験...60%

土地地理学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参考書や配布する資料などを読んでおくにより理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地誌の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地誌について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	地誌の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	地誌に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		地誌学	GE0112F

授業の概要 /Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。本年度は、様々な空間スケールにおける地誌の諸相をテーマとする。世界地誌、日本地誌、身近な地域の地誌を通じて、それぞれの地域の知識を得るとともに、地誌学に様々な表現方法があることを習得してもらいたい。必要に応じて、講義内容に関係する時事的事項を扱う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 世界地誌(1) 世界の自然・人文環境
- 第3回 世界地誌(2) 東アジア
- 第4回 世界地誌(3) 東南アジア
- 第5回 世界地誌(4) 南アジア・西アジア
- 第6回 世界地誌(5) アフリカ
- 第7回 世界地誌(6) ヨーロッパ
- 第8回 世界地誌(7) アングロアメリカ
- 第9回 世界地誌(8) ラテンアメリカ
- 第10回 世界地誌(9) オセアニア
- 第11回 日本地誌(1) 日本の自然環境
- 第12回 日本地誌(2) 日本の人文環境
- 第13回 身近な地域の地誌(1) 北九州地域の地誌
- 第14回 身近な地域の地誌(2) 筑豊地域の地誌
- 第15回 身近な地域の地誌(3) 下関地域の地誌

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを大きな目的とする。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1．自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。（自己管理）2．現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる（思考判断）3．卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる（生涯学習）。以上の到達を目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書はない。適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房
「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

メンタル・ヘルスI【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション，受講上の注意，講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
 - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
 - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤勉性と劣等感】
 - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
 - 6回 ライフスタイルの心理学【ライフスタイル】
 - 7回 青年前期の心理【葛藤と感情】
 - 8回 青年後期の同一性（アイデンティティ）の確立【こころの病】
 - 9回 適応と社会参加の心理学【組織的メンタルヘルス】【こころの健康管理】
 - 10回 こころと健康1【うつ病・神経症など】
 - 11回 こころと健康2【自己受容・自己開示・あるがまま】
 - 12回 成人期の心理【生きがい】【職場の人間関係】
 - 13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体が行く末について。【老いと死の受容】
 - 15回 まとめと今後の課題について【環境と心の健康】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身及び社会的健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルスII
			PSY002F

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な文化・人間性を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。時代は多文化共生の生き方を求めている。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスII」を勘案しながら、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域や平和や人権文化の視点から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1.自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。(自己管理) 2.現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる(思考判断) 3.卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる(生涯学習)。以上の到達を目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 特に設けない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 子安増生編「心が活きる教育に向かって...幸福感を紡ぐ心理学・教育学」ナカニシヤ出版
- ・ 古宮昇著「しあわせの心理学」ナカニシヤ出版

メンタル・ヘルスII【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
- 2回 心的態度と生き方のセルフチェック【自己分析のわな】
- 3回 暴力と非暴力1【ストーリーの心理】【児童虐待】
- 4回 暴力と非暴力2【戦争と平和】【非暴力コミュニケーション】
- 5回 人間の発達と自己形成【コフト理論】
- 6回 ネガティブ感情への対応1...感情の働きについて【不安と憂鬱感情】
- 7回 ネガティブ感情への対応2...感情の目的について【怒りの感情】
- 8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
- 9回 他者理解について。他人の価値観を理解する【人権感覚】
- 10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。【感謝】
- 11回 心が軽くなるとは。森田療法や東洋の人間観から【あるがまま】
- 12回 ライフスタイルについて。平和志向や非暴力、DV防止、人権文化について。【人権・平和】
- 13回 働くとはどういう事か。心理的健康と社会的健康。【社会的健康】【キャリアプランと心の健康】
- 14回 地域や世界の心の健康を考える。【ワークライフバランス】【環境】【格差】
- 15回 まとめと今後の課題【ボランティア活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

自己の心の健康のみならず、他者や地域、国家や地球の環境にまで視野を拡大することを望みたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。
実習の場合は、運動ができる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、
【笑顔】と【コミュニケーション】である。

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。
 この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks
 授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
 - 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
 - 4回 準備運動と整理運動
 - 5回 ストレッチング実習<実習>
 - 6回 自分にとって必要な体力とは?
 - 7回 運動処方
 - 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
 - 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
 - 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
 - 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
 - 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
 - 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
 - 14回 運動・スポーツの動機付け
 - 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義・演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。
 この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks
 授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 健康体力の理解
 - 3回 身体のケアについて メンタル面
 - 4回 身体のケアについて フィジカル面
 - 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
 - 6回 用具を使って身体を整える
 - 7回 セルフマッサージで身体を整える
 - 8回 テーピングによる簡単な予防
 - 9回 トレーニングによって身体を整える
 - 10回 ウェイトトレーニングの注意点
 - 11回 体脂肪を減らすトレーニング
 - 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
 - 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
 - 14回 腰痛と運動
 - 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。
実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、
【笑顔】と【コミュニケーション】である。

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康保持増進を行う。
	社会的責任・倫理観	●	人間の総合的理解を通して得られた責任感、倫理観を自覚し、その深い理解をもって社会で積極的に行動する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		自己管理論	HSS003F

授業の概要 /Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活することは容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 自己管理I 総論【心理学】：青年期の心と身体に関する問題を総論する
2. 防犯の心得【警察官】：安心・安全とはなにか。被害にあわないための具体的な自己防衛法について学ぶ
3. 若者に最も大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的に生活するために必要な栄養について学ぶ
4. 自己管理II 体の健康【保健師】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す
5. ストレスと健康【心理学】：ストレスに負けない身体・精神について学ぶ
6. コミュニケーション【社会学】：人間関係を円滑にするためのコミュニケーションについて学ぶ
7. 薬と健康【薬剤師】：医療薬の効果や、サプリメントなどの健康のための薬について学ぶ
8. 歯と口と健康を保つセルフケア【歯科技師】：歯および口腔のセルフケアについて学ぶ
9. 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ
10. 自己管理III 心の健康【臨床心理士】：心と身体の関係から起こる疾病の予防、対処法について学ぶ
11. 障害とノーマライゼーション【作業療法士】：障がい者の地域福祉、関係法、ケアマネジメントの基本理念、自立生活を支援するための資源、サービス、情報などを身近な事柄として紹介する。
12. 健康な体と性感染症【助産師】：自分で予防できる感染症の知識や命の尊さを学ぶ
13. 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害、ハラスメント防止などの知識と予防対策について学ぶ
14. 目標設定【心理学】：日常生活のさまざまな場面に応用できる目標設定理論について学ぶ
15. 自己管理IV まとめ【心理学】：小試験（選択、記述）、ポイントの復習などで総合的に理解を深める

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回のミニレポート・・・60% 小試験・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ①1回目の総論で「自己管理論」のプログラムを配布する。
- ②外部講師による講義のため、授業開始後20分には入室を禁止する。私語厳禁。
- ③毎回のミニレポートは出席確認としても取り扱う。
- ④欠席した場合には、自己管理論用欠席届を提出する。
- ⑤最終回の「自己管理IVまとめ」では、小試験をするため必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 キャッチボール (スローイング、キャッチング)
- 3回 ピッチング (ウインドミル)
- 4回 バッティング (トスバッティング)
- 5回 ゴロの捕球・フライの捕球
- 6回 守備練習
- 7回 フリーバッティング
- 8回 ベースランニング
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ゲーム (1) 内野の連係プレイ
- 12回 ゲーム (2) 内外野の連係プレイ
- 13回 ゲーム (3) 走者の進め方
- 14回 ゲーム (4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフense)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフense)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ストロークの基礎練習 (球出しによるフォアハンド練習)
- 3回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのフォアハンド練習)
- 4回 ストロークの基礎練習 (球出しによるバックハンド練習)
- 5回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのバックハンド練習)
- 6回 サービスの基礎練習
- 7回 ボレーの基礎練習
- 8回 スマッシュの基礎練習
- 9回 ルールの説明
- 10回 戦術の説明・実践
- 11回 シングルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 12回 シングルスゲーム (2) ゲームの実践
- 13回 ダブルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 14回 ダブルスゲーム (2) ゲームの実践
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
 なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
 - 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
 - 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
 - 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
 - 6回 サーブカット練習
 - 7回 アタック練習(1) <サイド>
 - 8回 アタック練習(2) <センター>
 - 9回 ルール説明
 - 10回 チーム練習
 - 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
 - 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
 - 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
 - 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
 - 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スポーツルール百科

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (受講上の注意)
- 2回 バレーボール (1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン (1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球 (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球 (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール (1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス (2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目 (1) 【バレーボール】 【卓球】
- 13回 選択種目 (2) 【バドミントン】 【ショートテニス】
- 14回 選択種目 (3) 【ソフトバレーボール】 【バドミントン】
- 15回 スキル獲得の確認 (選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動 (走る (ラン)・跳ぶ (ジャンプ)・投げる (スロー))
- 3回 ボールに慣れる (ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習 (レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習 (2対1)
- 6回 応用練習 (3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフense・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ (速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム (1) ゾーンディフェンス (2 - 3)
- 12回 ゲーム (2) ゾーンディフェンス (2 - 1 - 2)
- 13回 ゲーム (3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム (4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼 】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
- 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
 なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
 - 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
 - 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
 - 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
 - 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
 - 7回 サッカーの戦術(オフense)の説明
 - 8回 サッカーの戦術(オフense)の習得と応用ゲーム
 - 9回 サッカーの戦術の応用説明
 - 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
 - 11回 審判法の習得と試しのゲーム
 - 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
 - 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
 - 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
 - 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 サッカーの基本技術 (リフティング) の習得と試しのゲーム (1)
- 3回 サッカーの基本技術 (パス) の習得と試しのゲーム (2)
- 4回 サッカーの基本技術 (シュート) の習得と試しのゲーム (3)
- 5回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の説明
- 6回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術 (オフェンス) の説明
- 8回 サッカーの戦術 (オフェンス) の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用習得
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合 (1) パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合 (2) 戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合 (3) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 永田 公彦 / グローバル人材育成推進室
林 洋子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

※木曜日に開講される科目については、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

キャリア・デザイン【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありませんが、自分のキャリアは自分で考えるしかありません。積極的・主体的に授業に参加し、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。

①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

将来の進路に対する不安や迷いを解消するために、また有意義な大学生活を営むために、以下5点を獲得目標とし、グループワーク、個人ワーク、講義、先輩や社会人のゲストとのディスカッションなどを組み合わせて授業を進めていきます。最終授業では、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのかをプランしていただきます。

- ・ 自分を知る（アイデンティティの獲得）
- ・ 働くことを知る（業界や企業、働き方など）
- ・ 初対面の学生とのコミュニケーションに慣れる（多様な人々と協働する力を身に付けるために）
- ・ 社会人マナーを身につける
（社会で働く上でお互いが気持ちよく活動するための最低限のマナーや倫理感）
- ・ 学生生活の過ごし方を知る（将来の進路に向けて）

なお、授業の最終目標（4つのミッション）は以下です。

- ・ いつでも、どこでも、どんな人でも打ち解ける
- ・ 長いスパンで考えて、今しかできないことをする
- ・ 外へ出て視野を広げる
- ・ 失敗を恐れずとり返えず実践して、振り返る

皆さんと一緒に、無限の可能性を秘めた自分の将来について、じっくり考える時間にしたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

キャリア・デザイン【昼】

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。
以下書籍はその参考例です。

- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 大久保幸夫『キャリアデザイン入門1基礎力編』日本経済新聞社
- 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
- モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
- エドガー・H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社
- 平木典子『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな(自己表現)のために』金子書房
- 中原淳・長岡健『ダイアログ対話する組織』ダイヤモンド社
- 香取一昭・大川恒『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
- 金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
- J.D.克蘭ボルツ、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的やルール、キャリアの基本知識)
- 2回 学生生活とキャリア(社会で働く上で必要となる力、大学時代の過ごし方)
- 3回 自分を知る① (一皮むける経験、身の丈を超えた経験、経験学習、ライフライン)
- 4回 地域活動に挑戦する (地域活動を経験した先輩とのディスカッション)※先輩登壇
- 5回 社会人としての倫理やマナー①(傾聴、多様性理解)
- 6回 自分を知る② (働く価値観や仕事へのこだわり、セルフアセスメントの実施)
- 7回 働くということ (仕事を考える視点、仕事のやりがい)※社会人ゲストを予定
- 8回 社会人としての倫理やマナー②(アサーショントレーニング)
- 9回 知ろう!使おう!労働法 (雇用形態と生涯賃金、ブラック企業、知るべき労働法)
- 10回 社会人としての倫理やマナー③(ダイアログ、ワールドカフェ)
- 11回 社会人としての倫理やマナー④(グループディスカッション、リーダーシップ)
- 12回 就職活動を知る (就職活動を体験した先輩とのディスカッション)※内定者登壇
- 13回 大学生活を面白くする (計画された偶発性・セレンディピティ)
- 14回 まとめ&発表 (自分を振り返り、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのか)
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポートおよび授業への取り組み、宿題・・・90%
最終回のレポート・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

【基本事項】

※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。なお、火曜日2限のみ永田公彦先生にご担当頂きます。

※真鍋先生の「キャリアデザイン」(木曜・金曜)もほとんど同じ内容です。

※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私が、真鍋先生の「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。

※曜日や時限を間違っても履修しても出席にはなりませんので注意してください。

【履修者調整について】

※1年生が優先的に受講できます。ただし、教室のキャパシティに余裕がある場合には、2、3、4年生も受講可能です。また、優先的に受講できる1年生であっても受講希望者が多数であれば、受講者数調整の対象になります。

※真鍋先生の「キャリアデザイン」(木曜・金曜)と合わせて全9コマあります。グループワークの運営上、可能な限り各コマ均等な数に調整するため、第1回の授業で希望するコマを確認します。よって、第1回の授業に欠席した学生は履修できません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます。毎週、初対面の学生と話せて学内の知り合いが増えます。また、地域活動やインターンシップなど、自らのキャリア形成に役立つインフォメーションもあります。積極的にご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観

コミュニケーション実践【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分の将来を切り拓いていくためのコミュニケーション能力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		コミュニケーション実践	CAR111F

授業の概要 /Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でのポイントになります。しかし、コミュニケーションが得意であると感じている人は少ないのではないのでしょうか。この授業では、コミュニケーションに対する考え方から基本的技術、ディスカッション技法など、コミュニケーションにおける実践的な知識、技術をテーマとします。

コミュニケーションが苦手な人にとってはコミュニケーションへの抵抗感を軽減しコミュニケーションに慣れていただきます。それだけではなく、就職活動や将来社会で実践できるコミュニケーションについて体験します。

講師は企業研修等の実務を行っている方が担当します。講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングをします。したがって1クラスの人数を限定した講義となります。多数コマ開講していますので、都合のいい時間のコマに受講してください。

教科書 /Textbooks

レジュメを準備して進めていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

コミュニケーション実践【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス 【授業の目的、授業のルール、カリキュラム説明、評価方法、持参物など】
- 2回 コミュニケーション上手になるために
【名札作成、自己紹介、コミュニケーションとは、自分の価値観・固定観念の気づき、ミスコミュニケーションの原因など】
- 3回 聴くことの重要性
【「きく」の種類と重要性、聴く技術を磨く、あいづち、興味、関心を与える態度、安心を与える距離と位置と姿勢など】
- 4回 話す・伝えるテクニック
【効果的な表現力、伝えるときの態度、声を出す、目線・アイコンタクト、発声法、ジェスチャー、身振り・手振りなど】
- 5回 マナーおもてなしの心
【挨拶、言葉、笑顔、態度、身だしなみ、ホスピタリティマインドなど】
- 6回 美しい敬語をマスターする
【正しい日本語で話す、二セ丁寧語、若者言葉とはなど】
- 7回 障害をお持ちの方へのコミュニケーション
【高齢者、視覚状態体験、肢体不自由な方、杖をお持ちの方への歩行など】
- 8回 プレゼンテーションを磨く
【プレゼンテーションとは、効果的な伝え方、姿勢、目線、声、表現方法、構成方法 (PREP法) など】
- 9回 質問応対力 (面接)
【面接力強化の為に必要な力、評価の高い応え方、授業で実践した表現復習など】
- 10回 グループディスカッション①
【ワンワード、ウィッシュポエム、ワールドカフェなど】
- 11回 グループディスカッション②
【グループディスカッションとは、ディスカッションの流れ、評価基準など】
- 12回 ディベート
【ディベートとは、目的、流れなど】
- 13回 授業の振り返り
【授業の振り返り、コミュニケーションとは、みなさんへのメッセージなど】
- 14回 発表
【1人プレゼンテーション】
- 15回 まとめ
【授業のまとめ、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50%、授業の成果物...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありません。
講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。例年多数の履修希望者があり抽選となっています。まずは、履修登録をしていただきますが、その後の履修者調整の方法は掲示等でお知らせしますので、注意しておいてください。
また、抽選に当たったにも関わらず、授業を履修しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション、マナー、傾聴、プレゼンテーション

グローバル・リーダーシップ論【昼】

担当者名 永田 公彦 / グローバル人材育成推進室
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	グローバル社会の潮流を予測および的確に捉え、多様な文化・価値観をもつ人々と共に、仕事や人生のプロジェクトを成し遂げる力を養う。
	社会的責任・倫理観	●	グローバル（地球）およびローカル（地域）の視点から、文化・価値観の多様性を尊重し、社会と人間性の発展に貢献できる力をつける。
	生涯学習力	●	世界的な人的ネットワークを構築し、常に大局観をもって世界と地域でおこる出来事に関心を抱き、自らこれに積極的に関わっていく姿勢を養う。
	コミュニケーション力		
		グローバル・リーダーシップ論	CAR112F

授業の概要 /Course Description

世界そして日本に押し寄せるグローバル化の波が、皆さんの将来の就職先となる企業や各種団体、さらに皆さん個人の人生にどう影響を与えるかを考察し、学生時代に何をしておくべきかのヒントを与えます。

また将来、皆さんが、多様な文化価値観をもつ人々が集まるグローバル社会の中で、リーダーシップを発揮し、活躍するための基礎的な視点、心構え、能力、知識を習得します。

< 授業の進め方 >

皆さんの積極的な参加が求められます。つまり、「講師の話を一方向的に聞いて、メモして覚える」のではなく、「講師や仲間の話に傾聴し、主体的かつ積極的に質問と発言をしながら考える」ということです。

そのために、次の5つを取り混ぜたインタラクティブな（対話型）授業になります。

- ① 国際舞台で活躍する社会人の講演（国際事業・経営の体験談と皆さんへのメアドバイス等）
- ② 海外インターン（研修）をおこなった先輩の体験談や受入企業担当者の評価
- ③ ケーススタディ、ロールプレイ、ゲーム等
- ④ グループワーク（8名程度のグループで、調査、討議、レポート作成・提出、プレゼンテーション）
- ⑤ 個人ワーク（レポート作成・提出、プレゼンテーション）

教科書 /Textbooks

なし（適宜プリントを配布します）

参考書（図書館蔵書には ○） /References（Available in the library: ○）

- 『国際ビジネス入門1』（江夏健一・太田正孝・藤井健 編）中央経済社 ￥3,045
 『採用基準』（伊賀泰代著）ダイヤモンド社 ￥1,575 ○
 『日本人こそ見直したい、世界が恋する日本の美德』（永田公彦著）デイスカパー出版 ￥1,050

グローバル・リーダーシップ論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス

第2～14回 グローバル展開に積極的な企業・団体の第一線で働く社会人の講演とそれを補う講義で構成

(内訳) 社会人の講演(6回)～国際ビジネス・経営に関する体験談と皆さんへのアドバイス

講義(4回)～グローバル事業経営の全体像、異文化マネジメントの基本概念、グローバルリーダーシップの考察

先輩との交流(1回)～海外インターン体験

グループワーク(2回)～グローバル企業研究

第15回 個人ワーク(グローバルリーダーへの道)+総括

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 日常の授業へ取り組み(レポート、積極的な質問や発言)...80%
- ② グループワークへの取り組みおよび成果...10%
- ③ 最終回の個人ワークにおける成果...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業のルール(10箇条)～「積極的に、聴いて、質問して、発言する」

①～⑤は国際社会では当たり前です。⑥～⑩は社会人として最低限のマナーです。

- ① アクティブリスニング(相手の意見にしっかり耳を傾け反応する)
- ② 積極的に質問する(質問は恥ではなく糧だ～質問5個ルール)
- ③ 積極的に発言する(講義中やグループワーク時に、反論も含め自分の考えを発信する)
- ④ 授業に「出る」のではなく「参加する」
- ⑤ 答えは「人から知らされて覚える」のではなく「自分で考えてつくる」
- ⑥ 私語厳禁
- ⑦ 携帯電話メール厳禁(マナーモードでバッグの中)
- ⑧ 脱帽(事情がある場合は事前にご相談下さい)
- ⑨ 飲食は禁止(事情がある場合は事前にご相談下さい)
- ⑩ 作業時間は守る

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の主役は皆さんです。つまり皆さんのための皆さんがつくる授業です。講師は、そのための基本的な枠組みやヒントを与えサポートする脇役です。

キーワード /Keywords

グローバルビジネス、グローバル経営、グローバルリーダーシップ、ダイバーシティ、異文化マネジメント

プロフェッショナルの仕事【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	ロールモデルを参考に、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らを成長させるために、主体的・積極的に活動する力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会で働く上で必要となるマナーはもちろん、企業団体や自己の利益追求のみならず、自らの仕事で社会に何らかの形で貢献すべきことを学ぶ。
	生涯学習力	●	ロールモデルを参考に、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		
		プロフェッショナルの仕事 I	CAR210F

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの仕組み ②仕事の現実 ③将来の進路の手掛かりやヒント ④大学時代に何をすべきかを学びます。プレゼンテーションの流れは以下です。

1. 企業団体の概要（現在および今後の方向性について）
2. 仕事の概要（大卒の1年目、3年目、そして5年目の社員が就く仕事内容と、仕事のやりがい）
3. 大学時代にすべきこと・してほしいこと
（入社後貴社で活躍している人は、大学時代にどんな活動をしていたのかを、登壇者自身もしくは見本にしたい社員の学生時代を紐解きながら説明する）
4. 学生へのメッセージ（学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス）

<進め方> 講演者の企業や仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<期待される効果> 将来の自分の進路がイメージできない人は、様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くヒントを得ることができます。また、企業や団体の第一線でいきいきと輝いて働いている社会人の話を聴くことで、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解できます。

なお、企業・団体は先方の都合もあり毎年変わります。事情によってはビデオ上映の場合もあります。以下は過去の実績です。

<2013年度> 株式会社クロスカンパニー / 北九州市 / フリーアナウンサー長崎真友子氏 / TOTO株式会社 / 株式会社再春館製菓所 / ショーワグロブ株式会社 / アイ・ケイ・ケイ株式会社 / 株式会社スターフライヤー / コストコ ホールセール ジャパン株式会社 / 株式会社ベネッセコーポレーション / 株式会社ジェイアイエヌ / 山崎製パン株式会社 / RKB毎日放送株式会社 / ハウステンボス株式会社

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。企業・団体によっては会社案内などを当日配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページをみて予習してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート・・・90%
最終レポート・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

※履修者が多かった場合、履修者の調整を行います。その際、第1回の授業を欠席した学生の履修申請を取り消しますので、必ず第1回は出席するようにしてください。
※1年次に「キャリア・デザイン」を受講していることが望ましい。
※授業の特性上、出席しなければ点数は付きません。よって課外活動で欠席が多くなる学生は履修を避けてください。
※本務でお忙しい中、本学の学生のために、わざわざ来学していただいての講演です。よって、以下の7項目は特別な事情があるときを除き厳守してください。①遅刻厳禁 ②携帯操作厳禁(マナーモードでバッグの中に) ③脱帽 ④飲食禁止 ⑤私語厳禁 ⑥居眠り厳禁 ⑦講演者の方への感謝の気持ちを忘れない

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	アクティブラーニングを通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	アクティブラーニングを通して、社会で働く上で必要となるマナーや素養、能力を身につける。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		プロフェッショナルの仕事II	CAR211F

授業の概要 /Course Description

<目的> 地元企業団体の現場の課題を題材に、グループで課題解決案を策定・発表し、その企業団体から評価をもらうことで課題解決スキルを育成する。

<進め方> 以下のスキームで地元企業団体（3団体を予定）の課題に挑戦し、グランプリを競います。

1. 地元企業団体の社会人にご登壇頂き、現場で対峙しているリアルな課題を提示していただきます。
2. 提示された課題についての解決プランを作成します。
3. 地元企業団体の社会人に対し、解決プランを提示します。
ここで社会人の方から直接、修正・改善のフィードバックを頂きます。
4. フィードバックを手掛かりに、提示された課題についての解決プランの最終案を作成します。
5. 地元企業団体の社会人に対し、解決プランの最終案を提示します。
社会人の方が最終案の中から最も優れたプランを選び、グランプリが授与されます。

<期待される効果> 現場で働く社会人から自らがプランした案に対してフィードバックを頂くことで、企業団体に実際に働くことがイメージできます。また、そのイメージを手掛かりに、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解できます。なお、企業・団体は先方の都合もあり毎年変わります。

※本年度の予定：新聞社、テレビ局、地方公共団体、旅行会社、ホームセンター、メーカー、航空会社、不動産会社のうちいずれか。

教科書 /Textbooks

テキストはありませんが、企業団体の資料はその都度配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページおよび店舗訪問などして予習してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
第2～15回 各企業団体による、課題提示およびグループワーク、プレゼンテーションなど。

※講演者が所属する企業・団体および仕事について必ず予習をしてください。予習するポイントはその都度指示します。また、授業時間以外の時間も活用して、グループで話し合い、グランプリを競ってください。

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み…75%
プレゼンテーションに対する評価…20%
最終レポート…5%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

※履修者が多かった場合、履修者の調整を行います。
その際、第1回の授業を欠席した学生の履修申請を取り消しますので、必ず第1回は出席してください。
※1年次前期に「キャリアデザイン」を受講していることが望ましい。
※2年次前期に「プロフェッショナルの仕事1」を受講していることが望ましい。
※授業および、授業時間以外でのグループワークの参加が必須となります。
※本務でお忙しい中、本学の学生のために、わざわざ来学していただいたの講演です。よって、以下の7項目は特別な事情があるときを除き厳守してください。
①遅刻厳禁 ②携帯操作厳禁(マナーモードでバッグの中に) ③脱帽 ④飲食禁止 ⑤私語厳禁 ⑥居眠り厳禁 ⑦講演者の方への感謝の気持ちを忘れない

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動のスケジュールが変わり、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。しかし、インターンシップは必ずしも希望する学生全てが参加できません(受け入れ企業団体が少ないため)。ゆえに、「授業の中」に企業団体の課題に取り組む機会を作り込み、現場の仕事を体験することで、多くの学生が働くことをイメージすることを狙って設計した授業です。企業団体の方から、直接フィードバックをもらえる機会はなかなかありません。本授業での経験を手掛かりに、将来の見通しのヒントを得ることを願っています。

キーワード /Keywords

キャリア、成長、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、職業統合的学習、課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習

地域の達人【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	社会人からキャリアを構築するための思考様式、行動様式について学ぶ。	
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。	
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの必要性を理解し実践し続けることができる。	
	コミュニケーション力			
			地域の達人	CAR212F

授業の概要 /Course Description

この授業のコンセプトは、「もうひとつの名刺を持つ」

- ・ 会社組織やNPO法人などで、仕事として社会貢献・地域貢献活動を行っている方
- ・ 仕事以外で社会貢献・地域貢献活動を行っている方
- ・ 雇われないで個人として仕事をしている方
- ・ 会社やお店を営んでいる方

このような社会人をお招きし、以下の点についてお話しさせていただきます。

- ①どんな活動をしているのか
- ②活動のねらい、社会的意義、成果
- ③活動するとき乗り越えた壁
- ④人、組織をどう動かすのか
- ⑤将来ビジョン

企業に雇われて働くというキャリアが唯一のキャリアではありません。
この授業ではサラリーマン以外の道を歩まれている方から、自分でやること、社会や地域のためにやるべきこと、リーダーシップなどを学びます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～13回 地域の達人によるお話
- 第14回 達人を振り返る
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

地域の達人【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

履修上の注意 /Remarks

外部から講師をお招きします。遅刻や授業途中の入退室はしないでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO、NGO、地域貢献、社会貢献、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス、会社経営、起業、キャリア、まちづくり、個人事業主

サービスラーニング入門I【昼】

担当者名 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に関心を持ち、気づき、考えられるようになる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	地域で活動する上で求められる自己管理能力を身につける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。	
	コミュニケーション力			
			サービスラーニング入門I	CAR110F

授業の概要 /Course Description

本講義は、地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動へ参加する入門科目として、以下の6点をねらいとします。

- ①地域活動に関する実践的方法論の習得
- ②マッチング型などへの参加学生への指導
- ③プロジェクト型等は基盤演習
- ④実際に1つ以上の地域活動を体験することを通して、地域活動への参加意欲を高める
- ⑤既に地域活動に参加している学生によるシンポジウムを開催し、参加意欲を高める。
- ⑥地域活動家による講演会を開催し、地域活動への理解を深める。

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

サービスラーニング入門I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス
講義の目的、留意事項、421Lab.の紹介
- 第2回目 地域活動概論①
地域活動の紹介、北九州市への理解
- 第3回目 地域活動概論②
コミュニティワークの紹介と応用
- 第4回目 地域活動家特別講演会(予定)
- 第5回目 地域活動参加学生によるシンポジウム(予定)
- 第6回目 演習:基本的コミュニケーション技術
話し方、姿勢・立ち位置、表情
- 第7回目 プロジェクトドライブ①
情報収集
- 第8回目 プロジェクトドライブ②
企画作成
- 第9回目 プロジェクトドライブ③
模擬作成したプロジェクトのプレゼンテーション
- 第10回目 プロジェクトドライブ④
記録、報告、連絡、相談
- 第11回目 マナー講座①
- 第12回目 マナー講座②
- 第13回目 地域活動と価値観
- 第14回目 地域活動とキャリアプラン
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題(50点)+期末レポート試験(50点)=合計100点評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講を希望するものは、ボランティア活動、地域活動に関する文献を1冊以上は読んでおくこと。

詳細については、第1回目の講義時に資料を配布しますので、そちらを必ずご参考ください。地域活動に既に参加しているかどうか、受講中に参加するかは関係ありませんので、多くの方に履修していただきたいと考えています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は、全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。この講義を通して、地域活動に興味を持った方は、第2学期開講の「サービスラーニング入門2」も受講してください。より深く地域活動とおして学びたい方は、基盤教育の教養基礎演習、教養演習も履修していただきたいです。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、キャリア形成

サービスラーニング入門II【昼】

担当者名 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に気づき、考え、解決に向けて行動が起こせるようになる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。
	コミュニケーション力	●	他者とともに円滑な活動ができるために必要な、基礎的な力を身につける。
			サービスラーニング入門II
			CAR180F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターが担当する科目です。地域活動への参加を通して、学びを深めていくことを目的としています。この科目は、実際に何らかの地域活動に参加していただき、みんなでふりかえりながら、学びを深めるような授業内容となります。この科目を通して、1人でも多くの学生に地域活動に参加してもらいたいと思っています。

大きな柱は

- ①活動参加の目標設定
- ②活動への参加と記録
- ③ふりかえり
- ④報告集作成
- ⑤成果報告となります。

教科書 /Textbooks

レジメを配布。
講義時に随時紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1ガイダンス【目標・課題の設定】
- 2活動記録の方法
- 3ふりかえり①【グループワーク①】
- 4ふりかえり②【グループワーク②】
- 5ふりかえり③【グループワーク③】
- 6ふりかえり④【プロセスレコード作成】
- 7ふりかえり⑤【プロセスレコードの発表】
- 8ふりかえり⑥【活動の困りごと、課題の共有化】
- 9ふりかえり⑦【課題の解決方法を考える】
- 10ふりかえり⑧【体験のカタルシス】
- 11ふりかえり⑨【活動報告作成】
- 12ふりかえり⑩【活動報告のピアレビュー】
- 13活動報告会①
- 14活動報告会②
- 15まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の課題（50点）+ 活動報告提出（25点）+ 活動報告会での発表（25点）= 100点満点で評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

サービスラーニング入門1を受講しておいてください。地域共生教育センターが提供するプロジェクト型もしくはマッチング型の活動、まちなかESDセンターが提供するプロジェクト、地域のボランティアセンターが募集している活動等に、一つ以上参加することを求めます。実際に地域活動に参加し、それをふりかえることを趣旨とした科目だからです。詳しくは、初回の授業時に説明をします。何らかの地域活動に参加していただくことを前提としています。できれば、開講前の夏休みまでには、何からの活動を初めてください。もし受講開始時点で、まだ活動に参加できていない場合は、担当教員、421Lab.まで申し出てください。参加していただく活動を一緒に考えましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目は、「サービスラーニング入門1」を先に受講していることを前提としますので、必ず受講しておいてください。またこの科目を履修後は、発展的に「プロジェクト演習」を履修していただきたいです。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、ESD、キャリア

プロジェクト演習I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	初対面の人でもすぐに打ち解ける力を身につけるために、多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとるスキルを獲得する。
		プロジェクト演習 I	CAR280F

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2014年1月現在の、プロジェクト演習Iの対象プロジェクト：オープンキャンパスプロジェクト、キャリアーナ

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ※履修対象者は2年次以上です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。

プロジェクト演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習II【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	初対面の人でもすぐに打ち解ける力を身につけるために、多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとるスキルを獲得する。
		プロジェクト演習II	CAR281F

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。JOB×HUNTERのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2014年1月現在の、プロジェクト演習Iの対象プロジェクト：JOB×HUNTER、キャリアーナ

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

教養特講II (セクシュアル・ ライツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講II
			SPL002 F

授業の概要 /Course Description

性と人権は深く結び付いている。セクシュアル・ライツはあらゆる人間が生まれながらにして有する自由、尊厳、平等にもとづく普遍的権利である。21世紀に切り拓かれる人権の領域である。
本授業では性に関する多様なテーマについて取り上げながら、広く性と人権について考察していく。セクシュアル・ライツについて学ぶことで、自分や人を大切にできる意識や感性を醸成し、性的自己決定能力を向上させていくことがねらいである。
具体的には、セクシュアル・ハラスメントやデートDVの予防など、相互尊重のコミュニケーションやソーシャルスキルの習得できるように、ロールプレイなど一部体験学習を織り交ぜながら授業を進めていく。
本学教員と外部講師によるオムニバス形式での授業を行う。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に配布するプリントに記載

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、セクシュアル・ライツとは 【ジェンダー】 【セクシュアリティ】
- 2回 性の多様性とセクシュアル・マイノリティ 【性自認】 【性的指向】 【性の二元化】
- 3回 トランスジェンダー 【性同一性障害】
- 4回 性的自立とリプロダクティブ・ヘルス/ライツ 【性的自己決定】 【母体保護法】 【人工中絶と優生思想】
- 5回 メディアとジェンダー 【ジェンダー・バイアス】 【メディア・リテラシー】
- 6回 家族を持つ権利と生殖医療・法律 【養子】 【不妊治療】
- 7回 ケア役割とジェンダー 【ケアの女性化】
- 8回 セクシュアル・ハラスメントとデートDVの予防 【自尊感情】 【アサーション・トレーニング】
- 9回 性暴力被害とトラウマ 【性暴力裁判】 【強姦神話】 【フェミニスト・カウンセリング】
- 10回 日本における売春防止法と「婦人保護」 【公娼制度】 【売春の歴史】
- 11回 日本と諸外国の売買春をめぐる動向 【セックスワーカー】 【売春の合法化】
- 12回 戦争と性暴力 【軍事化】 【性支配】
- 13回 障害者と性 【ADL・QOL】 【性のケアと看護】
- 14回 子どもの性被害 【児童ポルノ禁止法】 【児童虐待防止法】
- 15回 これまでの振り返り

教養特講II (セクシュアル・ ライツ) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、課題60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講II (ホスピタリティ論) 【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科, 西澤 律子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講II
			SPL002 F

授業の概要 /Course Description

【授業の概要】

ホスピタリティという言葉は、昨今、日常用語として定着してきたが、実際にはサービスやおもてなしなどの言葉と同義に使われており、正しい理解を得ていないように思われる。現時点においては、ホスピタリティという言葉が先行して、その意味内容と思想の重要性が説明されていない。人と人との関係をさらに良いものへと変えていこうという考え方ないし思想は、営利団体や非営利団体を問わず、重要度を増しており、理論的側面においても実践面においても、十分に認識される必要がある。地方自治体と住民との関係、企業と顧客の関係といった＜関係性＞を深く考察し、良好な関係作りを模索することは、今後の社会の在り方において重要な示唆を与えてくれる。

【授業のねらい】

1. ホスピタリティという言葉が、いかに、サービスや、おもてなしなどの言葉と異なるか、歴史や言葉の起源を辿ることにより固有の意味内容を明らかにする。
2. 現時点において、ホスピタリティについてどのような議論や学説があるか、問題点を整理する。
3. 今後の社会生活において「ホスピタリティ」をどのように活かしていくべきか考察する。

【到達目標】

1. ホスピタリティに関する総合的知識を深める。
2. ホスピタリティの視点を持って広く社会生活や企業活動の問題を発見し、より深く分析し解決していく能力を身に付ける。
3. ホスピタリティの理論を学ぶことにより、以後の社会生活の中で実践していく。

教科書 /Textbooks

教科書はなし。
講義の際、レジュメを配布するので、各自保管すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「ホスピタリティ・マネジメント原論」 服部勝人著 (丸善株式会社)
「ホスピタリティ原論」 山本哲士著 (文化科学高等研究院出版局)
「真実の瞬間」 ヤン・カールソン著 (ダイヤモンド社)

教養特講II (ホスピタリティ論) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概要 【ホスピタリティの領域】【授業の進め方】【学習目標】【評価方法】
- 2回 ホスピタリティの歴史と文化 【ホスピタリティとは何か】【西洋のホスピタリティ文化】
- 3回 ホスピタリティとおもてなし 【東洋のホスピタリティ文化】【茶道】【仁】【おもてなし】
- 4回 ホスピタリティとサービスの語源と概念比較【ホスピタリティ】【サービス】
- 5回 ホスピタリティ産業の現状(その1) 【近年の航空事業の動向】【接客現場】【国際線業務】
- 6回 ホスピタリティと心理1 【EQ】
- 7回 ホスピタリティと心理2 【交流分析】
- 8回 ホスピタリティとコミュニケーション1 【ラポール】【言語非言語】【空間管理】【スマイル】
- 9回 ホスピタリティとコミュニケーション2 【聴き方の基本】【効果的な話し方】【敬意表現】
- 10回 中間のまとめ
- 11回 ホスピタリティとビジネス1 【プロ意識】【身だしなみ】【人間関係】【電話やメール】
- 12回 ホスピタリティとビジネス2 【顧客心理】【クレーム対応】【CS】
- 13回 ホスピタリティ産業の現状(その2) 【宿泊産業におけるホスピタリティ】
- 14回 ホスピタリティと企業1【職場環境】【内部顧客】【メンタルヘルス】【企業の社会的責任】
- 15回 ホスピタリティと企業2【企業の社会貢献】【ホスピタリティの意義と可能性】 【暗黙知と形式知】

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の取り組み 【①授業中に行う練習問題の取り組み ②中間のまとめ問題の提出】 50%

期末試験の成績 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

第1回目には、ｼﾞﾊﾞｽを持参のこと。

ホスピタリティを理解し、実践していくことを目的にしています。遅刻・途中退室・私語は慎んで下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ホスピタリティの講座は、宿泊産業、旅行業などのホスピタリティ産業に関心がある学生はもちろんのこと、それ以外の業種を考えている学生にとっても、直接的に関わる内容が豊富に含まれています。ホスピタリティの発揮が求められる場合は、学生生活、就職活動、企業での活躍の場、社会生活等無限に広がっていることを知って下さい。講義全体を通して、ホスピタリティの感覚を自然に自分の中に取り込み実践できるように導きます。

キーワード /Keywords

ホスピタリティ サービス おもてなし EQ 交流分析 暗黙知 コミュニケーション能力

教養特講Ⅲ (まなびと講座A) 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講Ⅲ
			SPL003 F

授業の概要 /Course Description

本授業では、ESD (持続可能な発展のための教育) に必要となる、様々な分野の領域を横断的に学習することによって、持続可能な社会を構築するための能力を育成することを目的とする。
 また、地域活動に必要な素養を身につけることも一つの狙いである。
 この講義は、大学間連携共同教育推進事業の一環で開設した「北九州まなびとESDステーション」で開講され、北九州市内の各大学の様々な分野の教員も担当する。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ESDとは何か？ (オリエンテーション) 【北九州市立大学】
- 第2回：まなびとESDステーション活動と地域協働①【北九州まなびとESDステーション特任教員】
- 第3回：まなびとESDステーション活動と地域協働②【北九州まなびとESDステーション特任教員】
- 第4回～第6回：ESDと地球環境～科学的視点から考える地球の自然～【九州女子大学】
- 第7回～第9回：生活の再考～ESDの視点から身近な生活を見つめ直す～【西南学院大学】
- 第10回～第12回：ESDと福祉 ～社会的弱者に対するケアの技法～【九州栄養福祉大学】
- 第13回：学習成果報告会に向けたワークショップ【北九州市立大学】
- 第14回・第15回：学習成果報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業の貢献度：10%
- ・ 小レポート×4回：40%
- ・ 学習成果報告会でのプレゼンテーション：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 本授業は、「まなびとESDステーション (小倉北区の魚町商店街内) 」にて開講される。
- ・ 横断的学習を行うに当たり、グループディスカッションや屋外活動および作業などが課されることもあります。

教養特講III (まなびと講座A) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

持続可能な社会を構築するためには、特定の分野のみの知識の習得だけでは限界があります。環境・福祉・生活学・国際理解等、様々な学問分野を横断的に学習する必要があります。本授業はESDに必要な素養を身につけるための基礎講座と位置づけられます。

キーワード /Keywords

ESD、大学間連携事業、地域活動、横断的学習

教養特講Ⅳ (まなびと講座 B) 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講Ⅳ
			SPL004F

授業の概要 /Course Description

本授業では、ESD（持続可能な発展のための教育）に必要な、様々な分野の領域を横断的に学習することによって、持続可能な社会を構築するための能力を育成することを目的とする。
また、地域活動に必要な素養を身につけることも一つの狙いである。
この講義は、大学間連携共同教育推進事業の一環で開設した「北九州まなびとESDステーション」で開講され、北九州市内の各大学の様々な分野の教員も担当する。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ESDとは何か？（オリエンテーション）【北九州市立大学】
- 第2回～第4回：地域社会をデザインする～ESDの視点からみた地域活性化の技法～
【西日本工業大学・九州工業大学・北九州市立大学】
- 第5回～第7回：ESDと国際理解～グローバル時代の国際協力～【九州国際大学】
- 第8回～第10回：ピオトープで考える生物多様性とESD【九州共立大学】
- 第11回～第12回：健康はお口から～口腔ケアから考えるESDの可能性～【九州歯科大学】
- 第13回：学習成果報告会に向けたワークショップ【北九州市立大学】
- 第14回・第15回：学習成果報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業の貢献度：10%
- ・ 小レポート×4回：40%
- ・ 学習成果報告会でのプレゼンテーション：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 本授業は、「まなびとESDステーション（小倉北区の魚町商店街内）」にて開講される。
- ・ 横断的学習を行うに当たり、グループディスカッションや屋外活動および作業などが課されることもあります。

教養特講Ⅳ (まなびと講座 B) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

持続可能な社会を構築するためには、特定の分野のみの知識の習得だけでは限界があります。環境・福祉・生活・次世代教育(子供)・生活学・国際理解等、様々な学問分野を横断的に学習する必要があります。本授業はESDに必要な素養を身につけるための基礎講座と位置づけられます。

キーワード /Keywords

ESD、大学間連携事業、地域活動、横断的学習

データ処理【昼】

担当者名 佐々木 実 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 政策1 - 1 . 再履
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」 日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む） ... 50%

データ処理 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておく受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 政策1 - 2 . 再履 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」 日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む） ... 50%

データ処理【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておく受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1学期未修得者再履
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 履

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
										○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」 日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む） ... 50%

データ処理 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておく受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身に付けている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

情報表現【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション ロジカルシンキング マルチメディア スライドデザイン

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 /Credits 2単位 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身に付けている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

情報表現【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション ロジカルシンキング マルチメディア スライドデザイン

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 棚次 奎介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身に付けている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

情報表現【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション ロジカルシンキング マルチメディア スライドデザイン

英語I (律政群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
思考・判断・表現	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
関心・意欲・態度	課題発見・分析・解決力		
	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, and writing skills. The class is designed to meet the needs of law and regional development majors in regards to communication. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to study English and communicate confidently. Student must ask questions in class. Student must be prepared to present 3 minute conversations in class as homework.

教科書 /Textbooks

Chris Valvona and Ayano Valvona, Lessons from Leaders, Cengage Learning, 2014 (Textbook must be brought to the first class).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionary: bilingual is preferable.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction, 3 minute conversations 日にち・順番決め
- 第2回 Friendship
- 第3回 The Future of Gaming
- 第4回 Inner Scorecard
- 第5回 The Definition of Success
- 第6回 Think Week
- 第7回 Better Yourself
- 第8回 The Fast Lane
- 第9回 The Newspaper Test
- 第10回 Make a Difference
- 第11回 Dynastic Fortunes
- 第12回 Expert Opinion
- 第13回 Learn from Your Mistakes
- 第14回 Tax and Responsibility
- 第15回 Lucky Ticket

成績評価の方法 /Assessment Method

English conversation test: 10%
Class work and assignments : 70%
Final examination : 20%
No credit will be given to students who are absent four or more times.
The student must bring a hospital receipt to the next class attended if he or she is absent because of sickness.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Homework is necessary for every class. Each student must be prepared to do present a 3 minute conversation in class as homework.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 1 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

重要な文法事項の確認と語彙力の増強を行いながら、英語の読解力と聴解力を養うことを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習を通して、TOEIC形式に慣れることも目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4、小テスト
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7、小テスト
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10、小テスト
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 小テスト、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(4回)... 85% 日常の授業への取り組み... 15%
(上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)受験の有無をあわせて最終評価を出します。)
TOEICスコアの成績への評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)受験の有無が最終評価に反映されます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、読む力（リーディング力）や聴く力（リスニング力）の向上を目指す。また、適宜、TOEIC形式の問題演習を通してTOEICに慣れることも目指す。

教科書 /Textbooks

大学生協のテキストリストに指定する。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...40%、平常の学習状況（小テストを含む）...60%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)受験の有無をあわせて最終評価を出します。
TOEICスコアの成績への評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
初回授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1-D) 【昼】

担当者名 /Instructor 石田 由希 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。また、テキストと併せて洋画のDVDを使用し、TOEIC関連の語句・表現を学ぶ。

教科書 /Textbooks

『Open the Gate for the TOEIC Test イラスト・図解で学ぶTOEIC®テストはじめの一步』
David P. Thompson / 仲川浩世 / 宮野智靖 金星堂 ¥2,100(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Pre-Test
- 3回 Unit2 Daily Life 品詞
- 4回 Unit3 Airport 時制
- 5回 Unit4 Traffic 自動詞・他動詞
- 6回 Unit5 Hotel 主語と動詞の一致
- 7回 Unit6 Bank 受動態
- 8回 Unit7 Office 不定詞・動名詞
- 9回 Unit8 Meeting 分詞
- 10回 Unit9 Employment 可算名詞・不可算名詞
- 11回 Unit10 Factory 代名詞
- 12回 Unit11 Order 関係詞
- 13回 Unit12 Contract 接続詞・前置詞
- 14回 Unit 13 Business 比較
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(40%)と筆記試験(60%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。平常点と筆記試験の配点比率を変更する際は、事前に告知する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

次週扱うユニットの問題を解いてくること。

英語I (律政群 1-D) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 1 - E /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 ●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力 ●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
		英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 ￥1995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 3回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 4回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 5回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 6回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 7回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 8回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 9回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 10回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 11回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 12回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 13回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 14回 Review Test 1 (Unit1 ~ 6)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 野上 良子 / NOGAMI YOSHIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 1 - F /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 ●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	自己管理能力		
関心・意欲・態度	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力 ●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
		英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

1979年に英語のコミュニケーション能力を測定する世界標準テストとして開発されたTOEIC (Test of English for International Communication) は特にビジネスの世界を中心に英語力を測るものさしとして使われている。日本においても、企業・団体・学校で採用され、各種英語検定試験の中でも社会的ニーズの高い試験となっている。授業では、TOEIC問題を通して英語の聴解力・文法力・読解力を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

More Step-up Skills for the TOEIC Test
編著者：北尾泰幸他
出版社：朝日出版社
定価：¥1,800 + 税
ISBN: 978-4-255-15553-1

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストは全14ユニットからなる。TOEICテストに準拠したPart1-7の問題とともに、語彙増強問題、文法および英語表現の解説も設けてある。各ユニットで取り上げるテーマと文法事項は次のようになっている。

- 〈第1回〉 Unit 1: Eating Out (動詞1)
- 〈第2回〉 Unit 2: Travel (動詞2)
- 〈第3回〉 Unit 3: Amusement (品詞)
- 〈第4回〉 Unit 4: Meetings (分詞)
- 〈第5回〉 Unit 5: Personnel (不定詞と動名詞1)
- 〈第6回〉 Unit 6: Shopping (不定詞と動名詞2)
- 〈第7回〉 Unit 7: Advertisement (仮定法)
- 〈第8回〉 Unit 8: Daily Life (受動態)
- 〈第9回〉 Unit 9: office Work (代名詞)
- 〈第10回〉 Unit 10: Business (数量詞)
- 〈第11回〉 Unit 11: Traffic (接続詞)
- 〈第12回〉 Unit 12: Finance and Banking (前置詞)
- 〈第13回〉 Unit 13: Media (語彙)
- 〈第14回〉 Unit 14: Health and Welfare
- 〈第15回〉 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、授業期間中に行う語彙を中心とした小テスト (30%)、定期試験 (70%) を基準とし、授業中の態度などを加味し総合的に判断して決定する。出席することは前提であるため、出席点はないが、正当な理由なく欠席を5回した者には単位は与えない。

英語I (律政群 1 - F) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習は必ずしておくこと。付属CDも利用しながら、本テキストを隅々まで活用されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

本講義は、TOEICについて、出題形式や問題の特徴の違いを踏まえ、語彙を学習するとともに、TEOICで必要とされる英語のリーディングカ・リスニング力の養成を図る。特にTOEICで出題されやすい文法事項及び語彙のうち、基本的な内容について復習を行い定着を図る。

教科書 /Textbooks

「TOEICテスト新公式問題集 vol. 5」 国際ビジネスコミュニケーション協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「TOEICテスト新公式問題集 vol. 4, vol. 3, vol. 2」 国際ビジネスコミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方
- 2回 TOEICテスト： Part 1~4 リスニングの概要
- 3回 TOEICテスト： Part 5~7 リーディングの概要
- 4回 Part 1, Part 5と関連する文法の学習
- 5回 Part 2, Part 5と関連する文法の学習
- 6回 Part 3, Part 5 と関連する文法の学習
- 7回 Part 4, Part 5と関連する文法の学習
- 8回 復習
- 9回 Part 5と関連する文法の学習、読解練習
- 10回 Part 6と関連する文法の学習、読解練習
- 11回 Part 7と関連する文法の学習 (1)
- 12回 Part 7と関連する文法の学習 (2)
- 13回 Part 5~7 総合復習
- 14回 Part 1~7 総合復習
- 15回 復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み...40% 単語テスト...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

英語I (律政群 1-G) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政 1 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

このコースではTOEIC Test対策をします。テストの形式を知り、それぞれに対してどのようなアプローチで解答すればよいかを実践的にトレーニングしていきます。

文法、語彙力など英語の「基礎体力」を身につけて、それらが「すぐに使える」状態にもっていくために、「問題を解いて終わり」ではなく、学習した英語を使ったトレーニングを実践していきます。

教科書 /Textbooks

『TOEICテスト新公式問題集<Vol. 5>』国際ビジネスコミュニケーション協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高校時代に使用した参考書

『TOEICテスト新公式問題集<Vol. 1~4>』国際ビジネスコミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 インタロダクション:授業進行の詳細、成績評価の詳細
- 2 TOEIC Testの概要 リスニングセクション
- 3 TOEIC Testの概要 リーディングセクション
- 4 パート1、パート5
- 5 パート2、パート5
- 6 パート1、パート5
- 7 パート2、パート5
- 8 パート1、2、5のレビュー
- 9 パート3、パート6
- 10 パート4、パート7
- 11 パート3、パート6
- 12 パート4、パート7
- 13 リスニングセクションのレビュー
- 14 リーディングセクションのレビュー
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(発言回数、家庭学習状況等):20%

毎回の小テスト:30%

期末試験:50%

最終の成績にはTOEIC Testの結果が反映されます。詳細は初回の授業で説明します。

英語I (律政 1 - H) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

この授業では、実践英語の習得に不可欠の基本文法の学習を基盤とし、英語運用4技能のうち「聴く・読む」技能の向上に重点を置いた学習を進めるとともに、毎授業で、基本文法の習得に必要な基礎問題のプリントを配布し、英語の基本ルールに関する知識の習得に重点を置いた指導を行っていく。

教科書 /Textbooks

北尾 泰幸他著 『Step-up Skills for the TOEIC Test いま始めようTOEICテスト』 朝日出版社 ￥1800

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

綿貫 陽, マーク・ピーターセン 「表現のための実践ロイヤル英文法」 旺文社 ￥1800
各個人の目標スコアにあったTOEIC問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション&実力確認テスト
- 2回 Unit 1 「動詞」
- 3回 Unit 2 「時制」
- 4回 Unit 3 「時制」
- 5回 Unit 4 「代名詞」
- 6回 Unit 5 「不定詞」
- 7回 Unit 6 「動名詞」
- 8回 Unit 7 「冠詞・名詞」
- 9回 復習テスト
- 10回 Unit 8 「冠詞・名詞」
- 11回 Unit 9 「仮定法」
- 12回 Unit 10 「分詞」
- 13回 Unit 11 「関係詞」
- 14回 Unit 12 「接続詞」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・40% 復習テスト・・・30% 小テスト・・・20% 授業への取り組み・・・10%
欠席2回まで。遅刻2回につき1回欠席とみなす。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No References

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speed
- Week 4 Repeat
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Speaking on Topics
- Week 7 Control Techniques 1
- Week 8 Control Techniques 2
- Week 9 Workarounds
- Week 10 Charting 1
- Week 11 Charting 2
- Week 12 Group Conversation 1
- Week 13 Group Conversation 2
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、読む力（リーディング力）や聴く力（リスニング力）の向上を目指す。また、適宜、TOEIC形式の問題演習を通してTOEICに慣れることも目指す。

教科書 /Textbooks

大学生協のテキストリストに指定する。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...40%、平常の学習状況（小テストを含む）...60%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)スコアをあわせて最終評価を出します。スコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
初回授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

重要な文法事項の確認と語彙力の増強を行いながら、英語の読解力と聴解力を養うことを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習を通して、TOEIC形式に慣れることも目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4、小テスト
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7、小テスト
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10、小テスト
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 小テスト、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(4回)... 85% 日常の授業への取り組み... 15%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)のスコアをあわせて最終評価を出します。スコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)のスコアが最終評価に反映されます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1-D) 【昼】

担当者名 /Instructor 石田 由希 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

英米の裁判をめぐる英文読解を通して、前期に学んだTOEICの関連語句を復習・補強する。

教科書 /Textbooks

『Legal Minds-15 Journeys in Law 大学生のための法律英語 15の裁判物語』
鳥飼慎一郎・溜箭将之・Brett Cumming 著 金星堂 ¥1,995(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

英語II (律政群 1-D) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Case 1 Shouldn't be That Hot!
訴訟社会アメリカ? ホットコーヒーやけど裁判の真実
- 3回 Case 2 Damages for a Five-Day Delay
『知らなかった』では済まされない?! 配達遅れで被った損害への支払い
- 4回 Case 3 A Brand New Car (Well, Almost)
高すぎる勉強代? 顧客がBMW 社に求めた一罰百戒
- 5回 Case 4 Chasing a Celebrity Murder Suspect, Live on TV
アメリカ中が熱狂した有名人の逃亡劇と世紀の裁判
- 6回 Case 5 Dangerous Driving
スピード違反のドライバーと警察のカーチェイスが生んだ悲劇
- 7回 Case 6 I Won't Tell You My Source!
CIA 工作員の身元暴露事件—国家機密の漏えいと報道の自由
- 8回 Case 7 A Fair Trial? Choosing the Jury
なぜこんなことに? 陪審員が全員女性の裁判はこうして始まった
- 9回 Case 8 Objection, Your Honor!
プロに徹して公平に裁けるか—当事者からの献金を受けた裁判官
- 10回 Case 9 Made the U.S. My Home
戦時中の強制収容と闘った日系アメリカ人フレッド・コレマツ
- 11回 Case10 Separate and Not Equal
人種差別の壁をなくすために裁判に挑んだ、父親の願い
- 12回 Case11 Reverse Discrimination?
白人だから不合格?! 人種の是正措置と大学入学判定
- 13回 Case12 Season's Greetings: Tradition or Violation?
市有地のクリスマスツリーが引き起こした政治と宗教の問題
- 14回 Case13 Stop Copying Our Products!
アップル対サムスン—特許を侵害したのはどちらの企業が
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(40%)と筆記試験(60%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。平常点と筆記試験の配点比率を変更する際は、事前に告知する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 ●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	自己管理能力		
関心・意欲・態度	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力 ●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
		英語 II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 ￥1995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 3回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 4回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 5回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 6回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 7回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 8回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 9回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 10回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 11回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 12回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 13回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 14回 Review Test 2 (Unit7 ~ 12)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語 II
			ENG111F

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is designed to meet the needs of law and regional development majors in regards to communication. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to study English and communicate confidently. Student must ask questions in class. Students must be prepared to present 3 minute conversations in class as homework.

教科書 /Textbooks

Pamela Hartmann, Nancy Douglas, and Andrew Boon, Inspire 2, Cengage Learning, 2014 (Textbook must be brought to the first class).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionary: bilingual is preferable.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction, 3 minute conversations 日にち・ 順番決め
- 第2回 Food
- 第3回 Festivals
- 第4回 Review 1 The Big Picture 1
- 第5回 Cities
- 第6回 Jobs
- 第7回 Review 2 The Big Picture 2
- 第8回 Music
- 第9回 Journeys
- 第10回 Review 3 The Big Picture 3
- 第11回 Family
- 第12回 Nature
- 第13回 Review 4 The Big Picture 4
- 第14回 Happiness
- 第15回 Conservation

成績評価の方法 /Assessment Method

English conversation test: 10%
Class work and assignments : 70%
Final examination : 20%
No credit will be given to students who are absent four or more times.
The student must bring a hospital receipt to the next class attended if he or she is absent because of sickness.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Homework is necessary for every class. Each student must be prepared to do present a 3 minute conversation in class as homework.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1-G) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

本授業は、英語で培ったTOEIC問題への取り組みに基づき、さらにTOEICの問題を利用し、英作文力や会話力の養成を図る。

教科書 /Textbooks

「TOEICテスト新公式問題集 vol. 5」 国際コミュニケーション協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「TOEIC 新公式問題集 vol. 4, vol. 3, vol. 2」 国際コミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方
- 2回 Part 1 の学習と英文構築 (1)
- 3回 Part 1 の学習と英文構築 (2)
- 4回 Part 2 の学習と会話練習 (1)
- 5回 Part 2 の学習と会話練習 (2)
- 6回 Part 3 の学習と読解練習 (1)
- 7回 Part 3 の学習と読解練習 (2)
- 8回 Part 4 の学習と読解練習 (1)
- 9回 Part 4 の学習と読解練習 (2)
- 10回 Part 5 の学習と読解練習 (1)
- 11回 Part 5 の学習と読解練習 (2)
- 12回 Part 6 の学習と読解練習 (1)
- 13回 Part 6 の学習と読解練習 (2)
- 14回 Part 7 の学習と読解練習 (1)
- 15回 Part 7 の学習と読解練習 (1)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み...40% 単語テスト...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政 1 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

このコースではTOEIC Test対策をします。テストの形式を知り、それぞれに対してどのようなアプローチで解答すればよいかを実践的にトレーニングしていきます。

文法、語彙力など英語の「基礎体力」を身につけて、それらが「すぐに使える」状態にもっていくために、「問題を解いて終わり」ではなく、学習した英語を使ったトレーニングを実践していきます。

教科書 /Textbooks

『TOEICテスト新公式問題集<Vol. 5>』国際ビジネスコミュニケーション協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高校時代に使用した参考書
『TOEICテスト新公式問題集<Vol. 1~4>』国際ビジネスコミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 インTRODクシヨン:授業進行の詳細、成績評価の詳細
- 2 TOEIC Testの概要 リスニングセクション
- 3 TOEIC Testの概要 リーディングセクション
- 4 パート1、パート5
- 5 パート2、パート5
- 6 パート1、パート5
- 7 パート2、パート5
- 8 パート1、2、5のレビュー
- 9 パート3、パート6
- 10 パート4、パート7
- 11 パート3、パート6
- 12 パート4、パート7
- 13 リスニングセクションのレビュー
- 14 リーディングセクションのレビュー
- 15 まとめ

英語II (律政 1-H) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(発言回数、家庭学習状況等):20%
毎回の小テスト:30%
期末試験:50%

最終の成績にはTOEIC Testの結果が反映されます。詳細は初回の授業で説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - I) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業では、英語の基本文法を扱ったテキストを使用し、英語習得に不可欠の文法知識の把握を基盤に、英語4技能の基礎知識の習得に力を入れていく。TOEIC問題に関しては、毎授業でプリントを配布し、2学期に受験するTOEICテストで1学期以上のスコアを取得できるよう指導していく。

教科書 /Textbooks

小中 秀彦 他著 『English Upgrade ベーシック・グラマーからリーディングへ』 成美堂 ￥1800

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

綿貫 陽, マーク・ピーターセン 「表現のための実践ロイヤル英文法」 旺文社 ￥1800
各個人の目標スコアにあったTOEIC問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1 文の成り立ち
- 3回 Unit 2 句・節・文
- 4回 Unit 4 時制
- 5回 Unit 5 時制
- 6回 Unit 8 進行形
- 7回 Unit 9 完了形
- 8回 Unit 9 完了形
- 9回 復習テスト
- 10回 Unit 10 助動詞
- 11回 Unit 11 受動態
- 12回 Unit 12 不定詞
- 13回 Unit 13 動名詞
- 14回 Unit 14 分詞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・40% 復習テスト・・・30% 小テスト・・・20% 授業への取り組み・・・10%
欠席2回まで。遅刻2回につき1回欠席とみなす。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

英語II (律政群 1 - I) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (律政群 1 - A) 【昼】

基盤教育科目
 外国語教育科目
 第一外国語

担当者名 /Instructor リズ・クレシーニ / Riz CRESCINI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description
 This is an English Communication course. Focus will be on improving the four major English skills-speaking, listening, reading and writing. Various communication activities, individual/group work, and presentations will be used in class to facilitate the acquisition of these skills. Upon completion of this course, students should have increased confidence in their ability to speak and understand English and communicate more confidently in English with those around them.

教科書 /Textbooks
 Interchange Book 2 with Audio CD (Third Edition) by Jack C. Richards (Cambridge University Press) as well as materials prepared by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 Students are encouraged to have both an English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 Week One: Course Introduction
 Week Two: Unit 1 "A Time to Remember" People; childhood; memories
 Week Three: Unit 1 "A Time to Remember" Practice and wrap up
 Week Four: Unit 13 "Good Book, Terrible Movie!" Entertainment; movies and books; reactions and opinions
 Week Five: Unit 13 "Good Book, Terrible Movie!" Practice and wrap up
 Week Six: Unit 16 "What's Your Excuse?" Requests; excuses; invitations
 Week Seven: Unit 16 "What's Your Excuse?" Practice and wrap-up
 Week Eight: Midterm Review
 Week Nine: Unit 5 "Going Places" Travel; vacations; plans
 Week Ten: Unit 5 "Going Places" Practice and wrap-up
 Week Eleven: Unit 11 "It's Really Worth Seeing!" Landmarks and monuments; world knowledge
 Week Twelve: Unit 11 "It's Really Worth Seeing!" Practice and wrap-up
 Week Thirteen: Unit 4 "I've Never Heard of That!" Food; recipes; instructions; cooking methods
 Week Fourteen: Unit 8 "Let's Celebrate!" Holidays; festivals; customs; celebrations
 Week Fifteen: Final Review

成績評価の方法 /Assessment Method
 Participation - 20%
 Reports - 20%
 Quizzes and Presentations - 20%
 Final Exam - 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Students are expected to bring the following to class: 1) textbook 2) notebook 3) clear file or folder 4) electronic dictionary. In addition, READ English books to increase your vocabulary. Write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation whenever you can. WATCH English movies and LISTEN to English music in order to create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an English Communication class, so all students are expected to speak English as much as possible. Your instructor will do the same. The instructor will provide a fun, learning environment for the students. Thomas Jefferson once said, "Nothing can stop the man with the right mental attitude from achieving his goal; nothing on earth can help the man with the wrong mental attitude." Having the right attitude for learning English will help the student achieve the goals for this class.

キーワード /Keywords

English communication

英語Ⅲ (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語Ⅲ
			ENG102F

授業の概要 /Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class.

教科書 /Textbooks

Hall & Blappert, First Class English for Tourism 1, Cengage, ISBN 0-534-83572-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Asking for personal information.
- 3 回 Talking about dislikes
- 4 回 Talking about travel jobs
- 5 回 Explaining facilities
- 6 回 Describing locations
- 7 回 Opening times
- 8 回 Talking about schedules
- 9 回 Reservation problems
- 1 0 回 Confirming reservations
- 1 1 回 Changing reservations
- 1 2 回 Asking about preferences
- 1 3 回 Checking in
- 1 4 回 Checking out
- 1 5 回 Student Presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 学期末試験...30% プレゼンテーション...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

トラベル英会話

英語Ⅲ (律政群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 1 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 1
 Optimal Levels! Project Book

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Introduction / Writing
- 第 2 回 Love-Introductions
- 第 3 回 Love-Building Skills
- 第 4 回 Love-Essay composition
- 第 5 回 Presentation
- 第 6 回 Justice-Introduction
- 第 7 回 Justice-Building Skills
- 第 8 回 Justice-Essay composition
- 第 9 回 Presentation
- 第 10 回 Humanity-Introduction
- 第 11 回 Humanity-Building Skills
- 第 12 回 Humanity-Essay Composition
- 第 13 回 Presentation
- 第 14 回 Composition
- 第 15 回 Discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (律政群 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

The course aims to develop skills in communicating in a foreign language using English. As the students already have a detailed knowledge of many useful grammatical and lexical features of English, the course aims to create situations where students can put that knowledge to use in creative ways using their own lives, opinions, research ideas as well as the contexts provided through the text and other core materials. Activities include keeping a weekly English journal, conversational pair-work, discussion and debate, small written responses as well as those activities provided in the course text-book, which also uses a mixed approach. Monthly Reviews will also be used as well as two elective activities where students can choose tasks that suit their learning styles and needs.

教科書 /Textbooks

Let's Talk 2 2nd edition Leo Jones
Cambridge

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 1
Week 3 Unit 2
Week 4 Unit 3
Week 5 Unit 4
Week 6 Unit 1-4 Expansion
Week 7 Discussion Planning
Week 8 Mid-Semester Review
Week 9 Unit 5 and Discussion 1
Week 10 Unit 6 and Discussion 2
Week 11 Unit 7 and Discussion 3
Week 12 Unit 8 and Discussion 4
Week 13 Units 5-8 Expansion
Week 14 Review
Week 15 Diary Interviews

成績評価の方法 /Assessment Method

Diary 20%
Diary Interview 10%
Class Discussion Presentation 20%
Mid Semester Review 20%
Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Write Diary and prepare to discuss contents
Assigned tasks from course textbook
Discussion and Review Preparation
Other assigned tasks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (律政群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

This course is a general English course that includes the four language skills. There will be plenty of chance for discussion, individual work, pair work, and occasionally group work. It is hoped that the students enjoy the various topics under discussion and try to participate as much as possible, thereby making the lesson fun, refreshing, and fulfilling.
During this course, students will be able to improve their English language communication skills using a variety of interesting topics.

教科書 /Textbooks

Gear Up, Student book 1, (Macmillan Language House) by Steven Gershon and Chris Mares

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)Introduction to the course
- 第2回Unit 1: Me and You
- 第3回Meeting new people
- 第4回Unit 2: We get along
- 第5回Talking about families
- 第6回Unit 3: Too scared to watch
- 第7回Talking about the movies you like
- 第8回Review of units 1-3
- 第9回Unit 4: Hanging out
- 第10回Talking about lifestyle
- 第11回Unit 5: Short of cash
- 第12回Talking about how we use money
- 第13回Unit 6: My new place
- 第14回Talking about where you live
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude. To be explained in more detail in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次 / 1学期 / Semester: 1学期 / 授業形態 /Class Format: 講義 / クラス /Class: 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation 1
- Week 13 Group Conversation 2
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.
Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Students are heavily advised to do Shadow Talking for at least five minutes before the start of each class. More information on Shadow Talking will be provided in class.
Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

Communicative English skills

教科書 /Textbooks

World English 1 (Heinle Cengage Learning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: Orientation
- 第 2 回: Timed speeches and Q&A - Introduction
- 第 3 回: Unit 1 and discussion in English (People)
- 第 4 回: Unit 2 and discussion in English (Work, Rest, and Play)
- 第 5 回: Unit 3 and discussion in English (Going Places)
- 第 6 回: Unit 4 and discussion in English (Food)
- 第 7 回: Unit 5 and discussion in English (Sports)
- 第 8 回: Unit 6 and discussion in English (Destinations)
- 第 9 回: Unit 7 and discussion in English (Communication)
- 第 10 回: Unit 8 and discussion in English (The Future)
- 第 11 回: Unit 9 and discussion in English (Shopping for Clothes)
- 第 12 回: Unit 10 and discussion in English (Lifestyles)
- 第 13 回: Unit 11 and discussion in English (Achievements)
- 第 14 回: Unit 12 and discussion in English (Consequences)
- 第 15 回: Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation and semester test

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

As directed by teacher
必修科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Lets enjoy learning English

キーワード /Keywords

Meet people \ Make friends \ Have fun!

英語III (律政 1 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政 1 - H /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

この授業では、聴解力及び読解力を伸ばすことによって、受講生のコミュニケーション能力を向上させることを目標とする。また、特定のテーマに関して、グループで調べ、プレゼンテーションをする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4、小テスト
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7、小テスト
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10、小テスト
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12、小テスト
- 14回 プレゼンテーション(1)
- 15回 プレゼンテーション(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(4回)... 7.5% プレゼンテーション... 15% 日常の授業への取り組み... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書の指定された箇所を十分に予習して、受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (律政群 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

TOEIC対策用テキストを用いての問題演習及び問題解説。
TOEICのスコアアップとともに実践的な英語力、コミュニケーション能力の向上を目標とする。

教科書 /Textbooks

“Stepping Stones for the TOEIC Test” 『TOEICテスト 着実にスコアアップ』（光富省吾共著）朝日出版社 ￥2,000 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、単語
- 2回 Unit 1 TOEIC出題形式および傾向と対策
- 3回 Unit 2 Travel & Airports、名詞・代名詞・冠詞
- 4回 Unit 3 Sightseeing & Hotels、形容詞・副詞
- 5回 Unit 4 Dining & Restaurants、時制(1)
- 6回 Unit 5 Sports & Entertainment、時制(2)
- 7回 Unit 6 Fashion & Shopping、助動詞
- 8回 Unit 7 School & Culture、他動詞・自動詞
- 9回 Unit 8 Review Test 1
- 10回 Unit 9 Transportation & Commuting、不定詞・動名詞
- 11回 Unit 10 Family Life & Home、現在分詞・過去分詞・受動態
- 12回 Unit 11 Computers & the Internet、仮定法
- 13回 Unit 12 Offices & Office Supplies、関係詞
- 14回 Unit 13 Jobs & Recruitment、接続詞
- 15回 Unit 14 Business, Accounting & Banking、前置詞・倒置、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題含む）：30%
ただし最終評価にはTOEIC受験の可否が反映されますので、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

次回授業のUnitは宿題として必ずやってくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (律政群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

Richmond, Stephen et al. Conversations in Class. Alma Publisher. 2009.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Explanation of the course. Unit 1A: Introductions - Starting a Conversation
 Week 2: Unit 1B: Getting someone to repeat. "Do you know where ___ is?"
 Week 3: Unit 1C: Using "but" to show contrast.
 Week 4: Sounding Natural 1: Silence and conversation strategies.
 Week 5: Unit 2A&B: Daily Life. "What time do you ___?" Showing interest with short responses.
 Week 6: Sounding Natural 2: Dynamic conversations. Longer answers and implicit questions. Talking about yourself.
 Week 7: Unit 3A&B: University Life. "What clubs are you in?" "What's your favorite subject?" Echo questions.
 Week 8: Unit 4A&B: Skills. "Do you play any sports?" Don't be over humble.
 Week 9: Unit 5A&B: Family. "Would you like to get married some day?" Asking personal questions.
 Week 10: Unit 2C: "How long does it take you to get here?" Rounding off numbers.
 Week 11: Unit 3C: "What do you think of this university?"
 Week 12: Unit 4C: "What do you think is a good way to study English?"
 Week 13: Unit 5C: Having children and getting married.
 Week 14: Review of units one to five.
 Week 15: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral assignments and class participation 70% Exam 30%
 No credit will be given to students who are absent four or more times.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

英語IV (律政群 1 - A) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

Read text in advance of class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 シェーン・ドイル / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 律政群 1 - B
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

Students in this course will learn how to express their ideas in English about a number of contemporary issues in today's society. Students will have the opportunity each week of increasing their communication skills through discussions in small groups and individual presentations and group presentations. At the end of the course student should be able to express their ideas in English with confidence.

教科書 /Textbooks

Ideas and Issues Intermediate Level by Olivia Johnston, Mark Farrell

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the Instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction to the Course
Week 2: Advertising
Week 3: Animal Rights
Week4: Art and Artists
Week 5: Beauty
Week 6: Beliefs
Week 7: Crime and Punishment
Week 8: Discipline
Week 9: Drink and Drugs
Week 10: Family
Week 11: Fashion
Week 12: Film and TV
Week 13: Presentations
Week 14: Presentations
Week 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

In class assessment 50%
Homework 20%
Discussions and presentations 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (律政群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。後期は加えて5段落エッセイを構成よくまとめる能力を養う。

教科書 /Textbooks

Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 2
Optimal Levels! Project Book 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing
- 第2回 Happiness-Introductions
- 第3回 Happiness-Building Skills
- 第4回 Happiness-Essay composition
- 第5回 Presentation
- 第6回 Religion-Introduction
- 第7回 Religion-Building Skills
- 第8回 Religion-Essay composition
- 第9回 Presentation
- 第10回 War-Introduction
- 第11回 War-Building Skills
- 第12回 War-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Composition
- 第15回 Discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (律政群 1-D) 【昼】

基盤教育科目
 外国語教育科目
 第一外国語

担当者名 /Instructor: ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	律政群 1 - D				
対象入学年度 /Year of School Entrance		2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅳ	ENG112F
-----	---------

授業の概要 /Course Description

The course aims to develop skills in communicating in a foreign language using English. As the students already have a detailed knowledge of many useful grammatical and lexical features of English, the course aims to create situations where students can put that knowledge to use in creative ways using their own lives, opinions, research ideas as well as the contexts provided through the text and other core materials. Activities include keeping a weekly English journal, conversational pair-work, discussion and debate, small written responses as well as those activities provided in the course text-book, which also uses a mixed approach. Monthly Reviews will also be used as well as two elective activities where students can choose tasks that suit their learning styles and needs.

教科書 /Textbooks

Let's Talk 2 2nd edition Leo Jones
 Cambridge

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction
- Week 2 Unit 9
- Week 3 Unit 10
- Week 4 Unit 11
- Week 5 Unit 12
- Week 6 Unit 9-12 Expansion
- Week 7 Discussion Planning
- Week 8 Mid-Semester Review
- Week 9 Unit 13 and Discussion 1
- Week 10 Unit 14 and Discussion 2
- Week 11 Unit 15 and Discussion 3
- Week 12 Unit 16 and Discussion 4
- Week 13 Units 13-16 Expansion
- Week 14 Review
- Week 15 Diary Interviews

成績評価の方法 /Assessment Method

Diary 20%
Diary Interview 10%
Class Discussion Presentation 20%
Mid Semester Review 20%
Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Write Diary and prepare to discuss contents
Assigned tasks from course textbook
Discussion and Review Preparation
Other assigned tasks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (律政群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

This course is a general English course that includes the four language skills. There will be plenty of chance for discussion, individual work, pair work, and occasionally group work. It is hoped that the students enjoy the various topics under discussion and try to participate as much as possible, thereby making the lesson fun, refreshing, and fulfilling.
During this course, students will be able to improve their English language communication skills using a variety of interesting topics.

教科書 /Textbooks

Gear Up, Student book 1, (Macmillan Language House) by Steven Gershon and Chris Mares

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)My summer vacation / true or false.
- 第2回Unit 7: Time to eat
- 第3回Talking about where to eat tonight
- 第4回Unit 8: I found a job!
- 第5回Talking about part-time jobs
- 第6回Unit 9: I can't cope
- 第7回Talking about stress in your life
- 第8回Review of units 7-9
- 第9回Unit 10: What's up?
- 第10回Talking about things you love and hate
- 第11回Unit 11: Who's your type?
- 第12回Talking about dating
- 第13回Unit 12: What tomorrow brings
- 第14回Talking about your future plans
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude. To be explained in more detail in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語III). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No References

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Orientation
Week 2	Shadow Talking
Week 3	Speed
Week 4	Repeat
Week 5	Conversation Style
Week 6	Speaking on Topics
Week 7	Control Techniques 1
Week 8	Control Techniques 2
Week 9	Workarounds
Week 10	Charting 1
Week 11	Charting 2
Week 12	Group Conversation 1
Week 13	Group Conversation 2
Week 14	Test Practice
Week 15	Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Students are heavily advised to do Shadow Talking for at least five minutes before the start of each class. More information on Shadow Talking will be provided in class.

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor マイケル・バーグ / michael berg / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class.

教科書 /Textbooks

First Class Service 1 (ISBN 9789814319430)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: Orientation
- 2: Asking someone's name
- 3: Travel jobs
- 4: Floor plans
- 5: Opening hours
- 6: Making reservations
- 7: Confirming reservations
- 8: Checking in
- 9: Taking calls
- 10: On tour
- 11: Ordering/taking orders
- 12: Checking information
- 13: Taking messages
- 14: Directions
- 15: Changing money/final review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 50%
 Final exam 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

Tourism

英語Ⅳ (律政 1 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

In this course the focus will be on improving discussion and writing skills. The students will discuss current world topics taken from an online source and later write a summary of their group's discussion from the notes they took in class. Discussion and writing formats will be provided and practiced as well as optional online listening practice for each topic.

Working well in a group will be very important in this class and will have a very large effect on the grade each student receives. Students must discuss the topics actively without notes!

教科書 /Textbooks

Handouts will be provided.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Course Orientation
2. Discussion Exercise #1
3. Writing Exercise #1
4. Discussion Exercise #2
5. Writing Exercise #2
6. Discussion Exercise #3
7. Writing Exercise #3
8. Mid-Term Activity
9. Discussion Exercise #4
10. Writing Exercise #4
11. Discussion Exercise #5
12. Writing Exercise #5
13. Discussion Exercise #6
14. Writing Exercise #6
15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- 33.33% Active Class Participation
- 33.33% Written Assignments
- 33.33% Final Evaluation

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

None
None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please be prepared to work in English in class discussing your ideas with other students and then putting them into writing. Using Japanese too much in your discussions will result in a poor grade or even failure of the class on your part.

キーワード /Keywords

writing, discussion, current topics

英語Ⅳ (律政群 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 ●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力 ●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
		英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

TOEIC対策用テキストを用いての問題演習及び問題解説。
TOEICのスコアアップとともに実践的な英語力の向上を目標とする。

教科書 /Textbooks

“Welcome to the TOEIC Test” 『TOEICテストへようこそ』（北原良夫著）朝日出版社 ￥1,800+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、単語
- 2回 Unit 1、動詞と時制(1)
- 3回 Unit 2、動詞と時制(2)
- 4回 Unit 3、動詞と時制(3)
- 5回 Unit 4、仮定法
- 6回 Unit 5、準動詞(1)
- 7回 Unit 6、準動詞(2)
- 8回 Midterm Testおよび解説
- 9回 Unit 7、準動詞(3)
- 10回 Unit 8、準動詞(4)
- 11回 Unit 9、形容詞・副詞と比較
- 12回 Unit 10、不定代名詞
- 13回 Unit 11、関係詞(1)
- 14回 Unit 12、関係詞(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：70%、Midterm Test：10%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題含む）：20%
最終評価にはTOEICのスコアが反映されるので、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

次回授業のUnitは宿題として必ずやってくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語V
			ENG201F

授業の概要 /Course Description

[授業の概要]

- ① 授業開始時に小テスト（10分）を実施。教科書及び新公式問題集より出題
- ② 教科書のポイントを押さえながら、Listening Section、Grammar Section、Reading Section の練習問題をやる。

[授業のねらい]

- ① 多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
特に、「ビジネス関連の語彙や表現」を習得し、「TOEICの出題形式」そのものに慣れること。
- ② TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。
また、ある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力を養成する。

教科書 /Textbooks

『Perfect Shot for the TOEIC Test』 著者：上條 武、Braven Smillie ¥1,900
出版社：金星堂 2013年1月発行

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテスト新公式問題集 Vol.5 (発行：財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Unit 1 Dining out [外食]
- 3回 Unit 2 Entertainment [娯楽]
- 4回 Unit 3 Housing and Property [住宅・不動産]
- 5回 Unit 4 Traveling [旅行]
- 6回 Unit 5 General Business [一般業務]
- 7回 Unit 6 Manufacturing [製造・生産]
- 8回 Unit 7 Purchasing [購買]
- 9回 Unit 8 Meeting and Office Procedures [会議・事務手続き]
- 10回 Unit 9 Personnel [人事]
- 11回 Unit 10 Finance [経済]
- 13回 Unit 11 Technical Areas [技術]
- 12回 Unit 12 News Reporting [ニュースレポート]
- 14回 Unit 13 Press Release [プレスリリース]
- 15回 Review

英語V (律政群 2 - A) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 小テスト、レポート(20%)
- ② 授業参加、授業貢献度(特に自発的、積極的な発表を評価する) (20%)
- ③ 期末考査 (60%) + TOEIC受験結果
最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ① 授業の準備を毎回十分にやること。
- ② 英和辞典、和英辞典、英英辞典を持参のこと。(電子辞書も可)

発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ作ること。
少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

以下の5項目に目標を設定してTOEICのスコアアップを目指す。

1. 語彙を増やす
2. リスニング力を強化する
3. 文法、語法の知識を身につける
4. 速読の能力を高める
5. 出題傾向を把握し、解答のコツを身につける

教科書 /Textbooks

More Step-up Skills for the TOEIC Test (Asahi Press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方、自宅学習の方法について説明する
- 第2回 Unit 1 Eating Out
- 第3回 Unit 2 Travel
- 第4回 Unit 3 Amusement
- 第5回 Unit 4 Meeting
- 第6回 Unit 5 Personnel
- 第7回 Unit 6 Shopping
- 第8回 Unit 7 Advertisement
- 第9回 Unit 8 Daily Life
- 第10回 Unit 9 Office Work
- 第11回 Unit 10 Business
- 第12回 Unit 11 Traffic
- 第13回 Unit 12 Finance and Banking
- 第14回 Unit 13 Media
- 第15回 Unit 14 Health and Welfare

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 20%、提出物 30%、期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Years
 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit
 学期 /Semester 1学期 / 1 Semester
 授業形態 /Class Format 講義 / Lecture
 クラス /Class 律政群 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

本授業は、TOEICについて、出題形式や問題の特徴の違いを踏まえ、基本的な文法・語彙を学習するとともに、TOEICで必要とされる英語のリーディング力・リスニング力の養成を図る。特にTOEICで出題されやすい文法事項及び語彙のうち、基本的な内容について復習を行い定着を図る。

教科書 /Textbooks

「TOEICテスト新公式問題集 vol. 4」 国際コミュニケーション協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「TOEICテスト新公式問題集 vo. 5, vol, 3, vol, 2」 国際コミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方
- 2回 TOEICテスト：Part 1~4 (リスニング) の概要
- 3回 TOEICテスト：Part 5~7 (リーディング) の概要
- 4回 Part 1, Part 5 と関連する文法の学習
- 5回 Part 2, Part 5 と関連する文法の学習
- 6回 Part 3, Part 5 と関連する文法の学習
- 7回 Part 4, Part 5 と関連する文法の学習
- 8回 リスニングの復習
- 9回 Part 6 と関連する文法の学習
- 10回 Part 7 と関連する文法の学習 (1)
- 11回 Part 7 と関連する文法の学習 (2)
- 12回 Part 7 と関連する文法の学習 (3)
- 13回 リーディングの復習
- 14回 総合復習 Part 1~Part 7
- 15回 模擬試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み...40% 単語テスト...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2-D) 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 禎子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Years
 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit
 学期 /Semester 1学期 / 1 Semester
 授業形態 /Class Format 講義 / Lecture
 クラス /Class 律政群 2 - D / Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 ●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	自己管理能力		
関心・意欲・態度	社会的責任・倫理観 生涯学習力		
	コミュニケーション力 ●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
		英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

① More Step-up Skills for the TOEIC Test

英語を用いた国際的なコミュニケーションの必要性が年々増加している現在、コミュニケーションに主眼を置いたTOEICテストは、英語力を測る物指しとして用いられている。TOEICは世界の約150ヶ国で実施され、日本では年間約230万余の人々が受験している。TOEICスコアは多くの会社の就職時、就職後に求められているのが現状です。本授業ではTOEICテストに準拠した問題を解きながら、語彙の練習、英語表現の解説、文法説明等を通して、英語の聴解力、文法力、読解力の向上を目指します。

② Styling Corporate Messages

経済のグローバル化が加速している今日、多くの日本企業は市場や生産拠点を求めて海外に進出している。一方、日本企業の動向に注目する海外の投資家も増加しています。こうした背景のなか、自社の製品・サービスの取引や資金調達を世界規模で推進するため、インターネットを利用した情報発信に力を注ぐ日本企業が、英語ウェブサイトにて英文情報を掲載している。授業ではこれらの掲載された英文情報を読み、企業や経済の動きに関わる情報を理解するのがねらいである。

教科書 /Textbooks

- ① More Step-up Skills for the TOEIC Test 『一歩上を目指すTOEICテスト』 北男泰幸著 朝日出版社 1,800円
- ② Styling Corporate Messages 『世界で活躍する日本の企業』 棕平淳著 成美堂 1,900円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、資料を配付する。

英語V (律政群 2-D) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキスト ①More Step-up Skills for the ToEIC Test

第1回Unit 1 Eating Out : 外食・動詞 (1) ガイダンス (テキスト、授業の流れ、自宅学習の方法、成績評価等)

第2回Unit 2 Travel : 旅行・動詞 (2)

第3回Unit 3 Amusement : 娯楽・品詞

第4回Unit 4 Meeting : 会議・分詞

第5回Unit 5 Personnel : 人事・不定詞と動名詞 (1)

第6回Unit 6 shopping : 買い物・不定詞と動名詞 (2)

第7回Unit 7 Advertisement : 広告・仮定法

第8回Unit 8 Daily Life : 日常生活・受動態

テキスト②Styling Corporate Messages

第9回Unit 1 美の世界基準をめざして — 花王

第10回Unit 2 世界制覇をめざしたブランド統一 — パナソニック

第11回Unit 3 自動車工場と自然環境の調和 — トヨタ

第12回Unit 4 創業100周年にむけたビジョン構築 — 三菱電機

第13回Unit 5 本業を活かした国際貢献 — コマツ

第14回Unit 6 フリート戦略: アジアNo.1の航空会社にむけて — ANA

第15回Unit 7 付加価値サービスとスケールメリットの自動車事業 — オリックス

成績評価の方法 /Assessment Method

定期考査・・・50% 小テスト・・・40% 日常の授業への取り組み・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業時には必ず辞書を持ってくる

予習の方法は第1回目の授業中に説明します

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

このコースではTOEIC Test対策をします。テストの形式を知り、それぞれに対してどのようなアプローチで解答すればよいかを実践的にトレーニングしていきます。

文法、語彙力など英語の「基礎体力」を身につけて、それらが「すぐに使える」状態にもっていくために、「問題を解いて終わり」ではなく、学習した英語を使ったトレーニングを実践していきます。

また法律関係に関する専門的な内容の英文も読んでいきます。「TOEICの対策で基本的な英語力をつけ、法律関係のリーディング教材で応用」というイメージで進めていきます。

教科書 /Textbooks

- ① 『TOEICテスト新公式問題集<Vol. 5>』 国際ビジネスコミュニケーション協会
- ② リチャード・パウエル 他 『英語で学ぶ日本の法、世界の法』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 高校時代に使用した参考書
- 『TOEICテスト新公式問題集<Vol. 1~4>』 国際ビジネスコミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション:授業進行の詳細、成績評価の詳細
- 2 ①TOEIC Testの概要 リスニングセッション / ② : chapter 1 わたしたちと法
- 3 TOEIC Testの概要 リーディングセッション / chapter 2 海外の法制度
- 4 パート1、パート5 / chapter 3 裁判所の構成、管轄
- 5 パート2、パート5 / chapter 1~3の内容のレビュー
- 6 パート1、パート5 / chapter 4 さまざまな法専門職
- 7 パート2、パート5 / chapter 5 近代法から現代法へ
- 8 パート1、2、5のレビュー / chapter 6 憲法
- 9 パート3、パート6 / chapter 4~6の内容のレビュー
- 10 パート4、パート7 / chapter 7 刑法
- 11 パート3、パート6 / chapter 8 民法
- 12 パート4、パート7 / chapter 9 刑事訴訟法と民事訴訟法
- 13 リスニングセッションのレビュー / chapter 7~9の内容のレビュー
- 14 リーディングセッションのレビューchapter 10 商法
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(発言回数、家庭学習状況等):20%
毎回の小テスト:30%
期末試験:50%

最終の成績にはTOEIC Testの結果が反映されます。詳細は初回の授業で説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - F /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 ￥1995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 3回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 4回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 5回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 6回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 7回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 8回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 9回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 10回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 11回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 12回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 13回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 14回 Review Test 1 (Unit1 ~ 6)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の読む、書く、聞く、3技能を総合的に鍛えることが必要である。この授業では、TOEICにおける高得点の獲得を目標に実際の訓練を行う。さらに小説を読んで、読解力を養う。

教科書 /Textbooks

『TOEIC TEST 基本レッスン』 by 今村洋美 野田恵剛 西村智 柳朋宏 鶴見書店
Wicked and Shuddering Tales by Yoko Hosokawa 開文社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1. 単語のテスト
2. Listening のディクテーションの答え合わせ。
3. 長文読解の答え合わせ。本文の読みを流暢になるまで練習する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Lesson 1 Trips and Transportation
- 3回 Lesson 2 Eating Out
- 4回 Lesson 3 Purchasing
- 5回 Lesson 4 Entertainment and Media
- 6回 Lesson 5 Climate and Health
- 7回 Lesson 6 Housing and Corporate Property
- 8回 Lesson 7 E-mail, Letters and Phoning
- 9回 Lesson 8 Personal Affairs
- 10回 Lesson 9 Meetings and Conferances
- 11回 Lesson 10 Finance and Budgeting
- 12回 Wicked and Shuddering Tales "The Canterville Ghost"
- 13回 Wicked and Shuddering Tales "The Canterville Ghost"
- 14回 Wicked and Shuddering Tales "The Canterville Ghost"
- 15回 Wicked and Shuddering Tales "The Canterville Ghost"

成績評価の方法 /Assessment Method

単語テスト 25% 試験 75%

4回以上の欠席は、受験資格を失う。

最終評価には、TOEICスコアが反映される。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

単語のテストの準備 CDを聞いてディクテーションをしてくる。長文を訳してくる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

初回の授業で、指定席を決めます。授業の説明もするので、必ず出席してください。

キーワード /Keywords

英語V (律政 2 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor 中島 美穂子 / nakashima mihoko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政 2 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

英語の4技能の習得、特に文法、語彙、リスニングを中心とします。

教科書 /Textbooks

TOEIC Bridge Lounge by Terry O'Brien, et al. 南雲堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

英文法解説 金子書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション
- 2回目 The Weather
- 3回目 Meeting & Messages
- 4回目 Health
- 5回目 Advertising & Sales
- 6回目 Investment & Office supplies
- 7回目 Telephone Messages
- 8回目 Jobs & Promotions
- 9回目 Flights & Traveling
- 10回目 Housing
- 11回目 New Products & Electrical Appliances
- 12回目 Media
- 13回目 Ordering & Shipping
- 14回目 Customer Services
- 15回目 The Environment

成績評価の方法 /Assessment Method

クラスへの参加度 20%、宿題 20%、クイズ 30%、期末試験 30%
TOEIC TESTを反映
TOEICスコアの成績への評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習、復習をすること 辞書持参

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語は多く接するほど上達します。

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
思考・判断・表現	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
関心・意欲・態度	課題発見・分析・解決力		
	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

日本でいま起きている問題を海外に紹介するNHK衛星放送の番組を教材に、英語ニュースを聴いて理解します。英語ニュースの内容を理解するのに必要な構文力や語彙力など、読解力の向上を図ります。シャドーイングやオーバーラッピングなどを通して、英語のリズムやイントネーションに慣れるようにします。社会の出来事に対して考察力をつけ、プレゼンテーションでは、自分の意見を簡潔な英語にまとめて発表すると同時に、クラスメートの意見に耳を傾けることで、視点の違いなどを認識し、自分の考えをさらに深めていくことを目指します。

教科書 /Textbooks

“What’s on Japan 8 : NHK English News Stories” 山崎達朗/ Stella M. Yamazaki 編著
金星堂 2014年 ISBN978-4-7647-3973-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction (授業の進め方)
Unit 1 Ramen Revolution (1)
- 2回 Unit 1 Ramen Revolution (2)
- 3回 Unit 2 Top Twitter
- 4回 Unit 2 Top Twitter
- 5回 Unit 3 Hope for the Future
- 6回 Unit 3 Hope for the Future
- 7回 Unit 4 How to Beat the Heat
- 8回 Unit 4 How to Beat the Heat
- 9回 Unit 5 Party, Brazilian-style
- 10回 Unit 5 Party, Brazilian-style
- 11回 Unit 6 Smart Phones, Smart Kidsnner Vision
- 12回 Unit 6 Smart Phones, Smart Kidsnner Vision
- 13回 Unit 7 Frozen Frontier
- 14回 Unit 7 Frozen Frontier
- 15回 Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、出席状況や授業への貢献度、学期末試験や課題などを考慮に入れ総合的に評価します。
平素の学習状況 (小テストを含む) と課題・・・ 30% 期末試験・・・ 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ①テキスト付属のDVDを活用し、必ず予習・復習をして授業に臨むこと。
- ②辞書を持参すること。
- ③やむを得ず欠席する場合は、連絡をすること。

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政群 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語VI
			ENG211F

授業の概要 /Course Description

This course will focus on the four main language skills, but mainly on writing and speaking. In addition to the text pages listed below, students will be required to do outlines and compositions, and to give speeches from the outlines they have made.

教科書 /Textbooks

Check it out Book 3 by Milada Broukai Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

none

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Getting acquainted and filling out student information cards.
- 2 回 Unit 1 Text 1~12
- 3 回 Unit 2 Text 13~24
- 4 回 Unit 3 Text 25~36
- 5 回 Grammar Review Test Units 1~3 & Conversation test
- 6 回 Introduction to outlining & making outline about student “Home Prefecture”
- 7 回 Using last weeks outline to create a composition
- 8 回 Unit 4 Text 39~50
- 9 回 Unit 5 Text 51~62
- 10 回 Unit 6 Text 63~74
- 11 回 Grammar Review Test Units 4~6 & Conversation test
- 12 回 Outlining about student’s personal preferences
- 13 回 Writing story about last week’s outline
- 14 回 Introduction to public speaking from outlines
- 15 回 Speeches from last Week’s outlines

成績評価の方法 /Assessment Method

70 % assignments 30% Final Examination
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Class preparation will vary according to the current assignment. Instruction about how to prepare will be given by the teacher on a weekly basis. Absence is not an excuse for not doing required classwork or homework. Every student is required to do all of the assignments.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Cooperation with the teacher and other students will make studying fun for everyone. It is also helpful if you feel free to ask questions about anything you don't understand. It is best to ask the teacher, because the student you ask may not understand either.

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 2学期 / 2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 Class クラス /Class 律政群 2 - B / 律政群 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語VI
			ENG211F

授業の概要 /Course Description

以下の5項目に目標を設定してTOEICのスコアアップを目指す。より実践的な方法で学習する。

1. 語彙を増やす
2. リスニング力を強化する
3. 文法、語法の知識を身につける
4. 速読の能力を高める
5. 出題傾向を把握し、解答のコツを身につける

教科書 /Textbooks

THE TOEIC TEST TRAINER Target 780" by B. A. Smith. (センゲージ ラーニング)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Pre-test
- 第2回 Unit 1 申し出一名詞・代名詞・冠詞
- 第3回 Unit 2 意見一スキヤニング
- 第4回 Unit 3 可能性一比較
- 第5回 Unit 4 お知らせ・通知・注意一主語と動詞の一一致
- 第6回 Unit 5 理由一フレーズリーディング
- 第7回 Unit 6 提案一分詞構文
- 第8回 Unit 7 口論一仮定法
- 第9回 Unit 8 天気予報一視野を広げる
- 第10回 Unit 9 依頼一動詞
- 第11回 Unit 10 雑談一並列法・倒置法
- 第12回 Unit 11 Wh疑問文一スキミング
- 第13回 Unit 12 発表・話一速読練習総合
- 第14回 Review
- 第15回 Post-test

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加度および課題 30%、小テスト 20%、期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

本授業は、TOEICテストについて、出題形式や問題の特徴の違いを踏まえ、基本的な文法・語彙を復習するとともに、TOEICで必要とされる英語のリーディング力・リスニング力の更なる養成を図る。また、英語で文章を作り、英語で会話する力も養成する。

教科書 /Textbooks

「TOEICテスト新公式問題集 vol. 4」 国際コミュニケーション協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「TOEICテスト新公式問題集 vol. 5, vol. 3, vol. 2」 国際コミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方
- 2回 Part 1 の学習と英文構築
- 3回 Part 2 の学習と会話の練習 (1)
- 4回 Part 2 の学習と会話の練習 (2)
- 5回 Part 3 の学習と読解の練習 (1)
- 6回 Part 3 の学習と読解の練習 (2)
- 7回 Part 4 の学習と読解の練習 (1)
- 8回 Part 4 の学習と読解の練習 (2)
- 9回 Part 5 の学習と文法の学習 (1)
- 10回 Part 5 の学習と文法の学習 (2)
- 11回 Part 6 の学習と文法の学習 (1)
- 12回 Part 6 の学習と文法の学習 (2)
- 13回 Part 7 の学習と文法の学習 (1)
- 14回 Part 7 の学習と文法の学習 (2)
- 15回 総合復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み...40% 単語テスト...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 禎子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 律政群 2 - D /Law School Group 2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

① More Step-up Skills for the TOEIC Test

英語を用いた国際的なコミュニケーションの必要性が増している現在、コミュニケーションに主眼を置いたTOEICテストは、英語力を測る物指しとして用いられている。TOEICは世界の約150ヶ国で実施され、日本では年間約230万余の人々が受験している。TOEICスコアは多くの企業の就職時、就職後に求められている。本授業ではTOEICテストに準拠した問題を解きながら、語彙の練習、英語表現の解説、文法説明等を通して英語の聴解力、読解力、文法力の向上を目指します。

② Styling Corporate Messages

経済のグローバル化が加速している今日、多くの日本企業は市場や生産拠点を求めて海外に進出している。一方、日本企業の動向に注目する海外の投資家も増加している。こうした背景のなか、自社の製品、サービスの取引や資金調達を世界規模で推進するために、インターネットを利用した情報発信に力を注ぐ日本企業が、英語ウェブサイトにて英文情報を掲載している。本授業では、これらの掲載された英文情報を読み、企業や経済の動きに関わる情報を理解するのがねらいである。

教科書 /Textbooks

① More Step-up Skills for the TOEIC Test 『一歩上を目指すTOEICテスト』 北野泰幸著 朝日出版社 1,800円

② Styling Corporate Messages 『世界で活躍する日本の企業』 椋平淳著 成美堂 1,900円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時参考資料を配付

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

① More Step-up skills for the TOEIC Test

第 1回 Unit 9 Office Work : オフィスワーク・ 代名詞

第 2回 Unit 10 Business : ビジネス・ 数量詞

第 3回 Unit 11 Traffic : 交通・ 接続詞

第 4回 Unit 12 Finance and Banking : 金融と銀行業務・ 前置詞

第 5回 Unit 13 Media : マスメディア・ 語彙

第 6回 Unit 14 Health and Welfare : 健康と福祉

② Styling Corporate Messages

第 7回 Unit 8 店舗の多様化による顧客拡大 — ローソン

第 8回 Unit 10 統合による相乗効果を求めて — J.フロント リテイリング

第 9回 Unit 11 地球温暖化への挑戦 — 東京海上グループ

第 10回 Unit 12 日本の空から世界の空へ — 三菱重工業・ 三菱航空機

第 11回 Unit 14 TOPVALU : 顧客の声から生まれたブランド — イオン

第 12回 Unit 15 先端的研究機関で業界をリードする — 参天製薬

第 13回 Unit 16 和風の‘うまみ’を西洋に — キッコーマン

第 14回 Unit 17 人材とともに成長する企業 — キーエンス

第 15回 Unit 18 トレンドを見通す独自の視点 — 博報堂

英語VI (律政群 2-D) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期考査・・・50% 小テスト・・・40% 日常の授業への取り組み・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業時には必ず辞書を持ってくる
予習の方法は第1回目の授業で説明

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

このコースではTOEIC Test対策をします。テストの形式を知り、それぞれに対してどのようなアプローチで解答すればよいかを実践的にトレーニングしていきます。

文法、語彙力など英語の「基礎体力」を身につけて、それらが「すぐに使える」状態にもっていくために、「問題を解いて終わり」ではなく、学習した英語を使ったトレーニングを実践していきます。

また法律関係に関する専門的な内容の英文も読んでいきます。「TOEICの対策で基本的な英語力をつけ、法律関係のリーディング教材で応用」というイメージで進めていきます。

教科書 /Textbooks

- ① 『TOEICテスト新公式問題集<Vol. 5>』 国際ビジネスコミュニケーション協会
- ② リチャード・パウエル 『英語で学ぶ日本の法、世界の法』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 高校時代に使用した参考書
- 『TOEICテスト新公式問題集<Vol. 1~4>』 国際ビジネスコミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション:授業進行の詳細、成績評価の詳細
- 2 ①TOEIC Testの概要 リスニングセッション / ②chapter 11 陪審員と裁判員
- 3 TOEIC Testの概要 リーディングセッション / chapter 12 国際法
- 4 パート1、パート5 / chapter 13 犯罪学
- 5 パート2、パート5 / chapter 11~13のレビュー
- 6 パート1、パート5 / chapter 14 ことばと法
- 7 パート2、パート5 / chapter 15 ジェンダーと人種の平等に関する法
- 8 パート1、2、5のレビュー / chapter 16 人権法
- 9 パート3、パート6 / chapter 14~16 のレビュー
- 10 パート4、パート7 / chapter 17 司法制度改革
- 11 パート3、パート6 / chapter 18 知的財産法
- 12 パート4、パート7 / chapter 19 家族法
- 13 リスニングセッションのレビュー / chapter 20 法と社会科学
- 14 リーディングセッションのレビュー / chapter 17~20のレビュー
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(発言回数、家庭学習状況等):20%
毎回の小テスト:30%
期末試験:50%
最終の成績にはTOEIC Testの結果が反映されます。詳細は初回の授業で説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - F /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 ●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	自己管理能力		
関心・意欲・態度	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力 ●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
		英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 ¥1995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 3回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 4回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 5回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 6回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 7回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 8回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 9回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 10回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 11回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 12回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 13回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 14回 Review Test 2 (Unit7 ~ 12)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - G /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の読む、書く、聞く、3技能を総合的に鍛えることが必要である。この授業では、TOEICにおける高得点の獲得を目標に実際の訓練を行う。さらに小説を読んで、読解力を養う。

教科書 /Textbooks

『TOEIC TEST 基本レッスン』 by 今村洋美 野田恵剛 西村智 柳朋宏 鶴見書店
Wicked and Shuddering Tales by Yoko Hosokawa 開文社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1. 単語のテスト
2. Listening のディクテーションの答え合わせ。
3. 長文読解の答え合わせ。本文の読みを流暢になるまで練習する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 模擬テスト Part 1 Part 2
- 3回 模擬テスト Part 3
- 4回 模擬テスト Part 3
- 5回 模擬テスト Part 4
- 6回 模擬テスト Part 4
- 7回 模擬テスト Part 5
- 8回 模擬テスト Part 6
- 9回 模擬テスト Part 7
- 10回 模擬テスト Part 7
- 11回 Wicked and Shuddering Tales "Shredni Vashtar"
- 12回 Wicked and Shuddering Tales "Shredni Vashtar"
- 13回 Wicked and Shuddering Tales "Shredni Vashtar"
- 14回 Wicked and Shuddering Tales "A Pair of Hands"
- 15回 Wicked and Shuddering Tales "A Pair of Hands"

英語VI (律政群 2-G) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

単語テスト 25% 試験 75%

4回以上の欠席は、受験資格を失う。

最終評価には、TOEICスコアが反映される。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

単語のテストの準備、リスニングのところをディクテーションしてくる。長文を訳してくる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (律政 2 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor 中島 美穂子 / nakashima mihoko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 2学期 / 2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 Class クラス /Class 律政 2 - H / 律政 2 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

英語の4技能の習得、特に文法、語彙、リスニングを中心とします。wilson

教科書 /Textbooks

The TOEIC Test CIRCUIT by Tomoyuki Tsuruoka & Matthew Wilson 松柏社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

英文法解説 江川泰三郎著 金子書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション
- 2回目 旅行①
- 3回目 オフィス①
- 4回目 レストラン
- 5回目 季節・天気
- 6回目 健康
- 7回目 旅行②
- 8回目 休暇
- 9回目 オフィス②
- 10回目 ショッピング
- 11回目 就職活動
- 12回目 娯楽
- 13回目 旅行③
- 14回目 オフィス③
- 15回目 会議

成績評価の方法 /Assessment Method

クラスへの参加度 20%、宿題 20%、クイズ 30%、期末試験 30%
TOEIC TESTを反映
TOEICスコアの成績への評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習、復習をすること 辞書持参
出席すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語は多く接するほど上達します。

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
思考・判断・表現	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
関心・意欲・態度	課題発見・分析・解決力		
	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

前期に続いて、日本でいま起きている問題を海外で紹介するNHK衛星放送の番組を教材に、英語ニュースを聴いて理解します。英語ニュースの内容を理解するのに必要な構文力や語彙力など、読解力の向上を図ります。シャドーイングやオーバーラッピングなどを通して、英語のリズムやイントネーションに慣れるようにします。社会の出来事に対して考察力をつけ、プレゼンテーションでは、自分の意見を簡潔な英語にまとめて発表すると同時に、クラスメートの意見に耳を傾けることで、視点の違いなどを認識し、自分の考えをさらに深めていくことを目指します。

教科書 /Textbooks

“What's on Japan 8 : NHK English News Stories” 山崎達朗/ Stella M. Yamazaki 編著
金星堂 2014年 ISBN978-4-7647-3973-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Unit 8 Top Skills on Display
- 2回 Unit 8 Top Skills on Display
- 3回 Unit 9 Reality Check
- 4回 Unit 9 Reality Check
- 5回 Unit 10 Saving the Rain Dance
- 6回 Unit 10 Saving the Rain Dance
- 7回 Unit 11 Building a Better Ball
- 8回 Unit 11 Building a Better Ball
- 9回 Unit 12 Clean-up Relay
- 10回 Unit 12 Clean-up Relay
- 11回 Unit 13 Music for a Silent World
- 12回 Unit 13 Music for a Silent World
- 13回 Unit 15 Sleeping Business
- 14回 Unit 15 Sleeping Business
- 15回 Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、出席状況や授業への貢献度、学期末試験や課題などを考慮に入れ総合的に評価します。
平素の学習状況 (小テストを含む) と課題・・・ 30% 期末試験・・・ 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ①テキスト付属のDVDを活用し、必ず予習・復習をして授業に臨むこと。
- ②辞書を持参すること。
- ③やむを得ず欠席する場合は、連絡をすること。

キーワード /Keywords

英語VII (律政群 2 - A) 【昼】

担当者名 シェーン・ドイル / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 律政群 2 - A
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VII	ENG202F

授業の概要 /Course Description

Students in this course will learn how to express their ideas in English about a number of contemporary issues in today's society. Students will have the opportunity each week of increasing their communication skills through discussions in small groups and individual presentations and group presentations. At the end of the course student should be able to express their ideas in English with confidence.

教科書 /Textbooks

Ideas and Issues: Upper Intermediate by Ken Wilson

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Introduction to the course
- Week 2: Adventure
- Week 3: Crime
- Week 4: Culture Clash
- Week 5: Ecology
- Week 6: Freedom
- Week 7: Globalization
- Week 8: Horror
- Week 9: Language
- Week 10: London Life
- Week 11: Love
- Week 12: Money
- Week 13: Presentations
- Week 14: Presentations
- Week 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

In class assessment 50%
Homework 20%
Presentations and Discussion 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (律政群 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次 / 2 Year
 単位 /Credits: 1単位 / 1 Credit
 学期 /Semester: 1学期 / 1 Semester
 授業形態 /Class Format: 講義 / Lecture
 クラス /Class: 律政群 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語VII	ENG202F

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation 1
- Week 13 Group Conversation 2
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.
 Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Students are heavily advised to do Shadow Talking for at least five minutes before the start of each class. More information on Shadow Talking will be provided in class.

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (律政群 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語VII
			ENG202F

授業の概要 /Course Description

This course aims to give students practice discussing contemporary issues in English. Students will learn strategies for initiating and actively participating in a conversation using topics in the news as well as timeless topics. There will be plenty of pair and group work.

教科書 /Textbooks

There is no textbook for this course. Handouts will be provided by the teacher based on current events.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1. Introduction to the course.
- Week 2. Topic 1. Pair conversation.
- Week 3. Asking open and closed questions.
- Week 4. Topic 2. Group discussion.
- Week 5. Communication Strategy. Repeating.
- Week 6. Topic 3. Pair conversation.
- Week 7. Giving long answers.
- Week 8. Topic 4. Group discussion.
- Week 9. Confirmation. Understanding the speaker.
- Week 10. Topic 5. Pair conversation.
- Week 11. Agreeing and disagreeing.
- Week 12. Topic 6. Discussion.
- Week 13. Interrupting. Getting a word in.
- Week 14. Topic 7. Pair conversation.
- Week 15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation: pair conversation and group discussion. 70%. Exam 30%.
Students who are absent four or more times will not receive a credit.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

英語VII (律政群 2-C) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (律政群 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor ジャマール・ミラー / JAMAR MILLER / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語VI
			ENG202F

授業の概要 /Course Description

This is an English communications course that develops the four English language skills of listening, speaking, reading, and writing. The main objective of this course is to help you improve each of these skills as presented in various different circumstances. The course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: 1. Using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and 2. listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

Advancing your English Text book 2 by Jay M Myler. Lulu Press. ISBN #: 978-0-557-99920-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

NA

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Teacher and Student self Introductions, and course review
2. Topic: Marriage / Grammar Focus : Past Participles
3. Topic: The New Eco Protocols / Grammar Focus ; Comparing with Adjectives and Nouns
4. Topic: Local wildlife threatened / Grammar Focus ; Present tense
5. Topic: Global warming / Grammar Focus ; Future tense
6. Topic: Water in China / Grammar Focus ; Prepositions
7. Topic: Climate change and fish populations / Grammar Focus ; Adverbs
8. Topic: Alexander The Great / Grammar Focus ; Conjunctions
9. Topic: The Taj Mahal / Grammar Focus ; Contractions
10. Topic: The king and his wives
11. Topic: Bill Gates
12. Topic: Kate Moss a fashion icon
13. Presentations Group A
14. Presentations Group B
15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking 35% Writing 15% Participation 40% Speaking Exam 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

EVERYONE MUST HAVE THEIR OWN TEXTBOOK

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

No credit will be given to students who are absent 5 or more times

キーワード /Keywords

英語VII (律政群 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - E /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introductions and Orientation
- 2 回 Text Unit 1 “Weekends”
- 3 回 Text Unit 2 “Excuses”
- 4 回 Text Unit 3 “Life Events”
- 5 回 Text Unit 4 “Travel”
- 6 回 Text Unit 5 “Culture Shock”
- 7 回 Text Unit 6 “Party Time”
- 8 回 Text Unit 7 “Describing People”
- 9 回 Game Day!
- 1 0 回 Text Unit 8 “Movies”
- 1 1 回 Text Unit 10 “Big Issues”
- 1 2 回 Text Unit 13 “Keepsakes”
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Quiz
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Active participation in class...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

Being late to class and being absent will lower your grade. Being absent more than 3 times will result in you failing the course.

No late homework will be accepted.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Homework must be completed every week before class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please be active and try to speak in class. You will be graded every class on how much you speak and how active you are.

キーワード /Keywords

英語VII (律政群 2 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - F /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VII	ENG202F

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English.

教科書 /Textbooks

World Link (Developing English Fluency) Intro – Susan Stempleski –Heinle Cengage (Textbook must be brought to the first class).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The student will need a Japanese/English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Unit 1: Greetings and Intros: Lesson A: Getting to know you
- 2 回 Unit 1: Greetings and Intros: Lesson B: People and things we like
- 3 回 Unit 2: Countries and Nationalities: Lesson A: Countries of the world
- 4 回 Unit 2: Countries and Nationalities: Lesson B: What is your city like?
- 5 回 Unit 3: Personal Items: Lesson A: Gift giving
- 6 回 Unit 3: Personal Items: Lesson B: Keepsakes
- 7 回 Unit 4: Activities and Interests: Lesson A: Everyday activities
- 8 回 Unit 4: Activities and Interests: Lesson B: At school
- 9 回 Unit 5: Food: Lesson A: Food and eating habits
- 1 0 回 Unit 5: Food: Lesson B: Food and health
- 1 1 回 Unit 6: My Family: Lesson A: This is my family!
- 1 2 回 Unit 6: My Family: Lesson B: Family relationships
- 1 3 回 Unit 7: Time: Lesson A: Time and schedules
- 1 4 回 Unit 7: Time: Lesson B: Free time
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 60% Final Examination 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week for use in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - G /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skill using basic English for business and communication.

教科書 /Textbooks

There is no textbook. Curriculum is based on teacher handouts, student generated materials and class projects.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

none

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 SYLLABUS REVIEW / CATCHING UP WITH SCHOOL FRIENDS
- 2 回 ANSWERING PERSONAL QUESTIONS / EXPANDING INFORMATION
- 3 回 UNDERSTANDING NEW NAMES / ASKING FOLLOW UP QUESTIONS
- 4 回 LESSON 1~3 EXPANSION ACTIVITY
- 5 回 OCCUPATIONS – JOBS IN THE GLOBAL COMMUNITY
- 6 回 DESCRIBING JOB RESPONSIBILITIES
- 7 回 DESCRIBING WORKPLACES
- 8 回 LESSON 5~7 EXPANSION ACTIVITY
- 9 回 ADDRESSING PEOPLE IN BUSINESS/SOCIAL SITUATIONS
- 1 0 回 ASKING ABOUT PERSONAL EXPERIENCES
- 1 1 回 ASKING & ANSWERING ABOUT COMPLETION OF TASKS
- 1 2 回 MONEY MATTERS: LARGE NUMBERS & PRICES
- 1 3 回 MONEY MATTERS: DOLLARS AND CENTS
- 1 4 回 SPECIAL PROJECT PREPARATION
- 1 5 回 SPECIAL PROJECT PRESENTATION

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation 40% Presentations & Quizzes 30% Homework & Assignments 10 % Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

英語VII (律政群 2-G) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

Japanese/English Dictionary required

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (律政 2 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政 2 - H /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 ●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力 ●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
		英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

TOEIC対策用テキストを用いての問題演習及び問題解説。
TOEICのスコアアップとともに実践的な英語力、コミュニケーション能力の向上を目標とする。

教科書 /Textbooks

“Stepping Stones for the TOEIC Test” 『TOEICテスト 着実にスコアアップ』（光富省吾共著）朝日出版社 ￥2,000 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、単語
- 2回 Unit 1 TOEIC出題形式および傾向と対策
- 3回 Unit 2 Travel & Airports、名詞・代名詞・冠詞
- 4回 Unit 3 Sightseeing & Hotels、形容詞・副詞
- 5回 Unit 4 Dining & Restaurants、時制(1)
- 6回 Unit 5 Sports & Entertainment、時制(2)
- 7回 Unit 6 Fashion & Shopping、助動詞
- 8回 Unit 7 School & Culture、他動詞・自動詞
- 9回 Unit 8 Review Test 1
- 10回 Unit 9 Transportation & Commuting、不定詞・動名詞
- 11回 Unit 10 Family Life & Home、現在分詞・過去分詞・受動態
- 12回 Unit 11 Computers & the Internet、仮定法
- 13回 Unit 12 Offices & Office Supplies、関係詞
- 14回 Unit 13 Jobs & Recruitment、接続詞
- 15回 Unit 14 Business, Accounting & Banking、前置詞・倒置、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題含む）：30%
ただし最終評価にはTOEIC受験の可否が反映されますので、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

次回授業のUnitは宿題として必ずやってくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (律政群 2 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 律政群 2 - 1 /Law and Politics Group 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語VII
			ENG202F

授業の概要 /Course Description

[授業の概要]

まず最初にWords and Phrasesで記事に記載されている単語と熟語を確認し、Summaryで記事の内容を予想する。次に記事を読解し、Multiple ChoiceとTrue or Falseで理解度をチェックする。最後にVocabularyで記事に関連した語法を学ぶ。

[授業のねらい]

- (1)The New York Times, International Herald Tribune, The Associated press等の英字新聞から社会、文化、政治経済、言語、教育等のあらゆる分野を網羅した、身近な世界のニュースに触れ、楽しみながら、多角的且つ複眼的に英語力を培う。
- (2)多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
- (3)特に英語のReading及びListeningの能力を養う。

教科書 /Textbooks

The Half-Edition of English through the News Media 『15章版 ニュースメディアの英語』 ￥1,200
編注者：高橋優身、伊藤典子、Richard Powell
出版社：Asahi Press
発行：2014年1月

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1 Tokyo Disneyland, now 30, still casts spell
- 第3回 Unit 2 Where the Internet arrives on a bicycle
- 第4回 Unit 3 Treasure Island Trauma
- 第5回 Unit 4 No, Greenland does not belong to China
- 第6回 Unit 5 Mobile devices are new black bags for physicians
- 第7回 Unit 6 Off-the-air TV drama in Iran
- 第8回 Unit 7 Boy attends New York school remotely via robot
- 第9回 Unit 8 Kagawa shines with hat trick, Manchester United captures 20th English League crown
- 第10回 Unit 9 'Abenomics' out of the gate
- 第11回 Unit 10 In Gabon, Lure of Ivory Is Hard for Many to Resist
- 第12回 Unit 11 U.S. border security is better. Is it enough?
- 第13回 Unit 12 Are there any Europeans left?
- 第14回 Unit 13 Geopolitics and the shale revolution
- 第15回 Sum up the main points of the text in conclusion

英語VII (律政群 2 - 1) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 授業参加、授業貢献度、発表 (20%)
- ② レポート、小テスト (20%)
- ③ 期末考査 (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

英和辞典、英英辞典、和英辞典は必ず持参のこと。(電子辞書可)
発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ作ること。
少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

キーワード /Keywords

英語VIII (律政群 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor シェーン・ドイル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2学期 /Semester 単位 /Credits 1単位 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

Students in this course will learn how to express their ideas in English about a number of contemporary issues in today's society. Students will have the opportunity each week of increasing their communication skills through discussions in small groups and individual presentations and group presentations. At the end of the course student should be able to express their ideas in English with confidence.

教科書 /Textbooks

Ideas and Issues: Upper Intermediate by Ken Wilson

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Introduction to the course
- Week 2: Adventure
- Week 3: Crime
- Week 4: Culture Clash
- Week 5: Ecology
- Week 6: Freedom
- Week 7: Globalisation
- Week 8: Horror
- Week 9: Language
- Week 10: London Life
- Week 11: Love
- Week 12: Money
- Week 13: Presentations
- Week 14: Presentations
- Week 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

In class assessment 50%
Homework 20%
Presentations and Discussion 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

英語VIII (律政群 2 - A) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (律政群 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 律政群 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語Ⅶ). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Orientation
Week 2	Shadow Talking
Week 3	Speed
Week 4	Repeat
Week 5	Conversation Style
Week 6	Speaking on Topics
Week 7	Control Techniques 1
Week 8	Control Techniques 2
Week 9	Workarounds
Week 10	Charting 1
Week 11	Charting 2
Week 12	Group Conversation 1
Week 13	Group Conversation 2
Week 14	Test Practice
Week 15	Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Students are heavily advised to do Shadow Talking for at least five minutes before the start of each class. More information on Shadow Talking will be provided in class.

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (律政群 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 律政群 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

This course aims to give students practice discussing contemporary issues in English. Students will learn strategies for initiating and actively participating in a conversation using topics in the news as well as timeless topics. There will be plenty of pair and group work.

教科書 /Textbooks

There is no textbook for this course. Handouts will be provided by the teacher based on current events.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1. Introduction to the course.
Week 2. Topic 1. Pair conversation.
Week 3. Organizing Ideas.
Week 4. Topic 2. Group discussion.
Week 5. Criteria Evaluation.
Week 6. Topic 3. Pair conversation.
Week 7. Signposting and signal words.
Week 8. Topic 4. Group discussion.
Week 9. Comparing and contrasting.
Week 10. Topic 5. Pair conversation.
Week 11. In depth details.
Week 12. Topic 6. Discussion.
Week 13. Summarizing arguments.
Week 14. Topic 7. Pair conversation.
Week 15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation: pair conversation and group discussion. 70%. Exam 30%.
Students who are absent four or more times will not receive a credit.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

英語VIII (律政群 2 - C) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (律政群 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor ジャマール・ミラー / JAMAR MILLER / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

This is an English communications course that develops the four English language skills of listening, speaking, reading, and writing. The main objective of this course is to help you improve each of these skills as presented in various different circumstances. The course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: 1. Using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and 2. listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

Advancing your English Textbook by Jay M Myler. Rising Sun Press. ISBN #: 978-0-557-88920-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

NA

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Teacher and Student self Introductions, and course review
2. Topic: Love / Grammar Focus : Past Participles
3. Topic: The Enviroment / Grammar Focus ; Comparing with Adjectives and Nouns
4. Topic: Wildlife / Grammar Focus ; Present tense
5. Topic: Green House Effect / Grammar Focus ; Future tense
6. Presentations Group A
7. Presentations Group B
8. Topic: Writing Practice 1 / Grammar Focus ; Conjunctions
9. Topic: Writing Practice 2 / Grammar Focus ; Contractions
- 10.Topic: The Great Kings
- 11.Topic: Tech Giants
12. Topic: Fashion and Fame
13. Topic: At the Movies
14. Topic: Pop
15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking 35% Writing 15% Participation 40% Speaking Exam 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

EVERYONE MUST HAVE THEIR OWN TEXTBOOK

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

No credit will be given to students who are absent 5 or more times

キーワード /Keywords

英語VIII (律政群 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - E /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語VIII	ENG212F

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation “My Summer”
- 2 回 Text Unit 15 “Sports”
- 3 回 Text Unit 18 “Mysteries”
- 4 回 Text Unit 19 “Shopping”
- 5 回 Text Unit 21 “Long Life”
- 6 回 Text Unit 22 “Job Share”
- 7 回 Game Day!
- 8 回 Text Unit 24 “Take a Risk”
- 9 回 Text Unit 26 “On the Go”
- 1 0 回 Christmas Lesson
- 1 1 回 Text Unit 27 “Behave Yourself”
- 1 2 回 Text Unit 28 “Jobs”
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Quiz
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance & Classroom Work...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Homework assignments will be required for each class.
Being late to class or being absent will lower your grade. Being absent more than three times will result in you failing the course.
No late homework will be accepted.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (律政群 2 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - F /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English.

教科書 /Textbooks

World Link (Developing English Fluency) Intro – Susan Stempleski –Heinle Cengage (Textbook must be brought to the first class).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The student will need a Japanese/English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Class opening: Getting ready
- 2 回 Unit 7: Time:Lesson A: Time and Schedules
- 4 回 Unit 7: Time:Lesson B: Free time
- 3 回 Unit 8: Special Occasions:Lesson A: Holidays and celebrations
- 5 回 Unit 8: Special Occasions:Lesson B: Festivals!
- 6 回 Unit 9: Person to Person:Lesson A: Living with others
- 7 回 Unit 9: Person to Person:Lesson B: Modern dating
- 8 回 Midterm Exam
- 9 回 Unit 10: Home Sweet Home:Lesson A: Housing
- 1 0 回 Unit 10: Home Sweet Home:Lesson B: Decorate a room
- 1 1 回 Unit 11: Clothing:Lesson A: Shopping for clothes
- 1 2 回 Unit 11: Clothing:Lesson B: Clothing dos and don'ts
- 1 3 回 Unit 12: Jobs and Ambitions:Lesson A: Jobs
- 1 4 回 Unit 12: Jobs and Ambitions:Lesson B: Getting a job
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 60% Midterm and Final Examinations 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week for use in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 2学期 / 2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 Class クラス /Class 律政群 2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語Ⅷ
			ENG212F

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skills in using English for discussion and debate. Students will practice critical thinking and language skills, which will then be applied to the discussion of socially relevant topics.

教科書 /Textbooks

There is no textbook. Curriculum is based on teacher handouts, student generated materials and class projects.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 HOW WAS YOUR SUMMER? – SIMPLE PAST TENSE, FOLLOW UP QUESTION & ANSWER PRACTICE
- 2 回 CRITICAL THINKING – LISTENING FOR KEY WORDS AND ANALYZING IDEAS
- 3 回 CRITICAL THINKING – AGREEING, DISAGREEING AND PROVIDING REASONS
- 4 回 CRITICAL THINKING – POINT/COUNTERPOINT PRACTICE
- 5 回 DEBATE TOPIC 1 – MATCHING PRO AND CON ARGUMENTS/NUANCED DISAGREEING
- 6 回 DEBATE TOPIC 1 – PRESENTATION OF DEBATE TOPIC 1
- 7 回 DEBATE TOPIC 2 – MATCHING IDEAS AND PERSUADING
- 8 回 DEBATE TOPIC 2 – PRESENTATION OF DEBATE TOPIC 2
- 9 回 DEBATE TOPIC 3 – STARTING A DISCUSSION / ENDING A DISAGREEMENT
- 1 0 回 DEBATE TOPIC 3 – WRITING AN ORIGINAL DEBATE
- 1 1 回 DEBATE TOPIC 3 – PRESENTATION OF ORIGINAL DEBATE 1
- 1 2 回 DEBATE TOPIC 4 – PRESENTATION OF ORIGINAL DEBATE 2
- 1 3 回 REVIEW
- 1 4 回 FINAL TEST PREPARATION I
- 1 5 回 FINAL TEST PREPARATION II

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation 40% Presentations & Quizzes 30% Homework & Assignments 10 % Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Japanese / English Dictionary required

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (律政 2 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政 2 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

This course aims to improve the communicative and listening abilities of the students through various textbook exercises. The students will be expected to take an active part in the classes and express their opinions about the issues brought up in the textbook

教科書 /Textbooks

Interchange third edition, Book 2 Jack C. Richards, Jonathan Hull and Susan Proctor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

To use a dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introducing yourself
Week 2: Past tense; used to
Week 3: Writing a paragraph
Week 4: Talking about transportation
Week 5: Adverbs of quantity
Week 6: Syllable stress
Week 7: Writing a letter
Week 8: Housing and apartments
Week 9: Comparisons and evaluations
Week 10: Unpronounced vowels
Week 11: Writing e-mails
Week 12: Food, recipes and instructions
Week 13: Simple past vs. present perfect
Week 14: Writing a recipe
Week 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

100% exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (律政群 2 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

[授業の概要]

まず最初にListening と Readingにより本文の内容を把握する。次に、Let's Skimで重要な情報を大まかに得る。更に、Dialogでエッセイに関連した会話を聞きとることによって、本文の理解をより深める。最後に、Vocabulary Review で日常使える用語の練習をし、発信型英語の基礎作りを図る。

[授業のねらい]

- (1)日本文化に対する理解を深めると同時に、読解力を向上させ、英文の基本的な論述の形式を身に付ける。
- (2)多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
- (3)英語の Reading及びListeningの能力を養う。

教科書 /Textbooks

Let's Introduce Japanese Culture! 『日本文化を世界に!』 ￥1,800
編著者：肥川絹代、薬師寺元子、David Farnell
出版社：栄宝社
発行：2014年1月

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に説明する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1 The Spirit of Japanese Hospitality
- 第3回 Unit 2 Superb! Tokyo Skytree
- 第4回 Unit 3 Japanese Seasonal Charms: The Bewitching Beauty of Kimono
- 第5回 Unit 4 Japanese High-Quality technology
- 第6回 Unit 5 Healthy and Colorful Japanese Cuisine
- 第7回 Unit 6 Destruction and Creation: Japanese Stage Art
- 第8回 Unit 7 Hospitality and Peace in Japanese Robots
- 第9回 Unit 8 Samurai Spirit
- 第10回 Unit 9 Anime: A Japanese Soft Power
- 第11回 Unit 10 Hot Springs: Let's Become Healthy and Beautiful!
- 第12回 Unit 11 Video Games for Everyone
- 第13回 Unit 12 Tranquility and Dynamism in Competitive Calligraphy
- 第14回 Unit 13 Kawaii Going Global
- 第15回 Sum up the main points of the text in conclusion

英語VIII (律政群 2 - 1) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 授業参加、授業貢献度、発表 (20%)
- ② レポート、小テスト (20%)
- ③ 期末考査 (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ① 英和辞典、英英辞典、和英辞典を必ず持参のこと。(電子辞書も可)
- ② 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ① 日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ作ること。
- ② 少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅰ	CHN101 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語 II	CHN111 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
- (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅲ	CHN102F

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話文を身につけることを目標とする。先ず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

- 『比較中国語（実用・基礎編）』（王占華 著 駿河台出版社）
- 『中国語コミュニケーションステップ24』（胡金定 他著 白帝社）
- 『中国を歩こう』（陳淑梅 他著 金星堂）
- [総合編集のコピー配布]

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 中国語概説・単母音と声調
2. 子音1と複母音1
3. 子音2と複母音2・基本挨拶
4. 鼻母音・音節と音便・教室用語
5. 発音の復習とまとめ
6. 「自己紹介」（判断文・疑問文1・人称代名詞）
7. 復習と実用練習
8. 「空港で」（授受表現・存在表現・疑問文2）
9. 復習と実用練習
10. 「両替」（願望表現・数字・場所）
11. 復習と実用練習
12. 「道を尋ねる」（方位表現・移動表現・禁止表現）
13. 復習と実用練習
14. 「乗り物に乗る」（動作の進行・状態の持続・動作の実現）
15. 復習と実用練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト(4割)、定期試験の成績(6割)で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅳ	CHN112 F

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話文を身につけることを目標とする。先ず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

- 『比較中国語（実用・基礎編）』（王占華 著 駿河台出版社）
- 『中国語コミュニケーションステップ24』（胡金定 他著 白帝社）
- 『中国を歩こう』（陳淑梅 他著 金星堂）
- [総合編集のコピー配布]

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 「中国語Ⅲ」についての復習・中国語で夏休みについての話
2. 「宿泊」（可能表現・時点・時量）
3. 復習と実用練習
4. 「食事」（数量表現・形容詞述語文・程度表現）
5. 復習と実用練習
6. 「ショッピング」（指示表現・仮定表現・比較表現）
7. 復習と実用練習
8. 「ツアーでの旅行」（方向補語・使役表現・受身表現）
9. 復習と実用練習
10. 「友達を作る」（意向確認・難色を示す・ことわる）
11. 復習と実用練習
12. 「会社見学」（必要表現・可能補語・経験表現）
13. 復習と実用練習
14. 「電話を掛ける」（方向補語・処置表現・複文）
15. 復習と実用練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト(4割)、定期試験の成績(6割)で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅴ	CHN201 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語VI	CHN211F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|------|------------|
| 1回 | 第九課 | ポイント説明 |
| 2回 | 第九課 | 宮島と下関（本文） |
| 3回 | 第十課 | ポイント説明 |
| 4回 | 第十課 | 九州（本文） |
| 5回 | 第十一課 | ポイント説明 |
| 6回 | 第十一課 | 福岡（本文） |
| 7回 | 第十二課 | ポイント説明 |
| 8回 | 第十二課 | 佐賀（本文） |
| 9回 | 第十三課 | ポイント説明 |
| 10回 | 第十三課 | 長崎（本文） |
| 11回 | 第十四課 | ポイント説明 |
| 12回 | 第十四課 | 四国（本文） |
| 13回 | 第十五課 | ポイント説明 |
| 14回 | 第十五課 | 仙台と北海道（本文） |
| 15回 | 総合練習 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 蘇 小楠 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅶ	CHN202 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書(CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 蘇 小楠 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅷ	CHN212F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関（会話）
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州（会話）
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡（会話）
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀（会話）
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎（会話）
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国（会話）
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道（会話）
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅰ	KRN101 F

授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書 /Textbooks

巖基珠 他 『韓国語の初歩 改訂版』、白水社(2010年3月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』 小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音 【基本母音】
- 3回 基本子音字(平音)とその発音 【基本子音】
- 4回 基本子音字(平音)とその発音 【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音 【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音 【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音 【派生母音】
- 8回 終声子音字とその発音 【バッチム】
- 9回 終声子音字とその発音 【バッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化 【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化 【音の変化】
- 12回 辞書を引いてみよう 【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介 【指定詞の丁寧形】
- 14回 自己紹介 【指定詞の丁寧形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
定期試験50% / 平常点50% (小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作成すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく書きましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅱ	KRN111F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語の初級文法・基本語彙などを習得し、簡単な文章が書けるようになること、また同程度の読解力ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

巖基珠 他 『韓国語の初歩 改訂版』、白水社（2010年3月）、2,200円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 会社員ではありません【体言否定】
- 3回 どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
- 4回 どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
- 5回 暑くありません【用言の否定形】
- 6回 誕生日はいつですか【打ち解けた丁寧形】【漢数詞】
- 7回 誕生日はいつですか【固有数詞】【時間の言い方】
- 8回 どこで住んでいますか【動詞の連用形】
- 9回 どこで住んでいますか【動詞の連用形】
- 10回 先生、いらっしゃいますか【敬語】
- 11回 何をしましたか【過去形】
- 12回 何をしましたか【過去形】
- 13回 何を召し上がりますか【意志・推量形】
- 14回 何を召し上がりますか【意志・推量形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
定期試験50% / 平常点50% (小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく書きましょう！

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 律政1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
										○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅲ	KRN102F

授業の概要 /Course Description

まず、基本の文字習得や発音の法則は文法の授業と重なる部分があるが、聞き取りや学習者一人一人の発音の指導及び学んだ言葉を話す練習を主にしてコミュニケーション能力を高めていくのを教育方針とする。もっとも重要なことはハングル（文字）と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に聴いて書くことができるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な質問に返事できることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ！韓国語』（白水社）、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習長（朝日出版社）
 日谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
- 6回 発音の法則【連音化】【激音化】ドリル
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】ドリル
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】ドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【体の部分名称】【単語カード】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】
- 12回 韓国文化紹介【民族衣装】【民族遊び体験】【日韓交流のサブカルチャ紹介】
- 13回 存在詞、場所名、ゼスチュア一位置名詞暗記【教室にある物と無いもの】【～に】
- 14回 指示代名詞、人称代名詞、疑問詞【ヘアで指示代名詞の質問と応答】【皆に家族紹介】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この講義と朝鮮語Ⅰの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多くのアクティビティを含んだ授業を目指してやっていますので、楽しい韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	
技能	情報リテラシー	
	数量的スキル	
	英語力	
	その他言語力	● 朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
関心・意欲・態度	自己管理能力	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅳ
		KRN112 F

授業の概要 /Course Description

日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法においての類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現において異なる状況での必要な言葉遣いを学習、簡単に意見交換に必要な会話ができるためのコミュニケーション能力を学習することを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ！韓国語』（白水社）、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習帳（朝日出版社）
油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの学習内容確認、丁寧形1【自己紹介】【授業に必要な言葉】
- 2回 助詞1【助詞の例文を会話に用いる】、漢数字1【【おいくらですか】【買い物】】
- 3回 助詞2、漢数字2【電話番号を教えてください】【誕生日は何月何日？】
- 4回 時制表現【昨日は何曜日ですか】【一週間の予定表】
- 5回 丁寧形2【해오体】動詞・形容詞の丁寧形ドリル
- 6回 丁寧形2【해오体】文章に於いての丁寧形ドリル
- 7回 「해오体」の不規則、固有数字1【一つ、二つ...】
- 8回 「해오体」のドリル、固有数字2【おいくつですか】
- 9回 時刻【(固有数字)時(漢数字)分】【何時ですか】
- 10回 数量単位名詞【人・物を数える】【相づち表現】
- 11回 希望表現【将来何になりたいですか】【週末友達は何をしたがっていますか】
- 12回 否定及び不可能表現【ベアの質問と応答練習】【못~, ~지 못해요】
- 13回 過去形【きのう何をしましたか】【前置き表現】
過去形の否定及び不可能表現【~지 않았어요.】【~지 못했어요.】
- 14回 会話テスト(韓国語でグループ発表)、民族遊び
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生はこの講義と朝鮮語Ⅱの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。
韓国語で発表をする形で会話テストがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アクティビティを多く含んだ授業を行いますので、楽しく韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor: チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅴ	KRN201 F

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざ意および漢字語を習得するように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習も行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

教科書 /Textbooks

楽しくできる韓国語初級II、李志暎外1、アスク出版社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 第1課 動詞の現在連体形
- 3回 第1課 動詞の現在連体形
- 4回 第2課 動詞の過去連体形
- 5回 第2課 動詞の過去連体形
- 6回 第3課 動詞の未来連体形
- 7回 第3課 動詞の未来連体形
- 8回 第4課 形容詞の現在連体形
- 9回 第5課 接続語尾 -는데
- 10回 第5課 接続語尾 -는데
- 11回 第6課 ㄷ不規則活用
- 12回 第7課 ㄹ不規則活用
- 13回 第8課 ㄴ不規則活用
- 14回 第8課 ㄴ不規則活用
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。朝鮮語Ⅶと並行して進行するので、同時に受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済営比人律政群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 2年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
										○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語VI	KRN211F

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざおよび漢字語を習得できるように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習を行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

教科書 /Textbooks

「楽しくできる韓国語初級II」、李志暎外1、アスク出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 第9課 ㄷ不規則活用
- 3回 第9課 ㄷ不規則活用
- 4回 第10課 ㅌ不規則活用
- 5回 第10課 ㅌ不規則活用
- 6回 第11課 話者の意思・約束
- 7回 第11課 話者の意思・約束
- 8回 第12課 状態の継続
- 9回 第12課 禁止命令
- 10回 第13課 推量表現
- 11回 第13課 推量表現
- 12回 第14課 前後の話法
- 13回 第16課 時間の経過
- 14回 第16課 意向伝達
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。朝鮮語VIIと並行して進行するので、同時に受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor: チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅶ	KRN202 F

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。基礎レベルの範囲で多彩な文型を無理なく駆使できるようになる。

教科書 /Textbooks

ちょこっとチャレンジ！韓国語、金順玉外2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション、シラバス紹介
2. インタビューする
3. インタビューする
4. 自己紹介する
5. 自己紹介する
6. 自己紹介する
7. 決まりを言う
8. 決まりを言う
9. 約束をする
10. 約束をする
11. 約束をする
12. 道案内をする
13. 道案内をする
14. 道案内をする
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。
朝鮮語Ⅴと並行して進行するので、同時に受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく韓国語で多くのことを話し合いましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語VIII	KRN212 F

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

教科書 /Textbooks

ちよこっとチャレンジ！韓国語、金順玉外2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 感想を言う
- 3回 感想を言う
- 4回 買い物をする
- 5回 買い物をする
- 6回 買い物をする
- 7回 プレゼントをする
- 8回 プレゼントをする
- 9回 体の具合を言う
- 10回 体の具合を言う
- 11回 体の具合を言う
- 12回 勉強の仕方を話す
- 13回 勉強の仕方を話す
- 14回 勉強の仕方を話す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。
朝鮮語Vと並行して進行するので、同時に受講すること。
期末に韓国語発表会形式の会話テストを行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語で多くのことを話しましょう。

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力		●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力		●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			ロシア語 I	RUS101 F

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声音と無声音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

2-3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

ロシア語I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅱ	RUS111F

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

ロシア語II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor: ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅲ	RUS102 F

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ¥1,400
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション 【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え 【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 第1課① 【挨拶】、【紹介】
- 6回 第1課② 【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
- 7回 第1課③ 会話
- 8回 第2課① 【教室でロシア語】
- 9回 第2課② 【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
- 10回 第2課③ 【趣味】、【私はロシア語を話します】
- 11回 第3課① 【家族の紹介】
- 12回 第3課② 【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
- 13回 第3課③ 【形容詞】、【これは新しい車です】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor: ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅳ	RUS112F

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ￥1,400
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後に私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor: ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅴ	RUS201 F

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練習しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。
到達目標は、辞書を使って中級の読み物が理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「百万人のロシア語」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 < СКОРО ПЕРВОЕ СЕНТЯБРЯ > 名詞の性、不規則変化動詞、形容詞前置格
- 2 回 < МАМА И ФУТБОЛ > 多義動詞の用法、関係副詞構文、形容詞短語尾、全否定構文
- 3 回 < МАТЬ > 関係副詞構文、関係代名詞構文、不規則変化動詞、名詞単数・複数の使分け
- 4 回 < САЛЮТ > 複文の種類と構造、不規則変化動詞、第二生格
- 5 回 < ГИПНОЗ > 不定人称文、「・・する」の後結合、完了動詞・不完了動詞
- 6 回 < ВАЖНЫЙ РАЗГОВОР > 願望を意味する動詞と複文、運動の動詞の派生語
- 7 回 < ТРУДНЫЙ ЭКЗАМЕН > 動詞の格支配、複文、否定生格
- 8 回 < ДОМ ОТДЫХА > 時の表現、動詞の体
- 9 回 < БАБУШКА И ВОВКА > 動詞の格支配、不規則変化動詞
- 10 回 < ВТОРАЯ МОЛОДОСТЬ > 複文、動詞の体
- 11 回 < О ЧЁМ ДУМАЕТ МАРАБУ > 年月日表現、年齢表現、形容詞格変化復習
- 12 回 < КАК Я ВСТРЕЧАЛ НОВЫЙ ГОД > 不定法構文、無人称文
- 13 回 < ЛЮБИМЫЙ ПРАЗДНИК > 個数詞 + 形容詞 + 名詞の語結合、所有形容詞
- 14 回 < ЭТО СЛУЧИЛОСЬ В ВОЗДУХЕ > 「互いに」の表現、運動の動詞、不定代名詞
- 15 回 まとめと復習：構文

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語VI	RUS211F

授業の概要 /Course Description

会話テキスト「ロシアでの一ヶ月」の読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。
到達目標は、ノーマルなスピードのやさしい会話が理解できるようになること。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「ロシアでの一ヶ月」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА	その1	読み、訳、練習問題
2回	ГОСТИНИЦА	その2	読み、訳、練習問題
3回	СТОЛОВАЯ	その1	読み、訳、練習問題
4回	СТОЛОВАЯ	その2	読み、訳、練習問題
5回	ГАСТРОНОМ		読み、訳、練習問題
6回	УНИВЕРМАГ		読み、訳、練習問題
7回	ТРАНСПОРТ		読み、訳、練習問題
8回	ПОЧТА		読み、訳、練習問題
9回	ТЕЛЕФОН		読み、訳、練習問題
10回	ВОКЗАЛ		読み、訳、練習問題
11回	ПОЛИКЛИНИКА		読み、訳、練習問題
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ		読み、訳、練習問題
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その1	読み、訳、練習問題
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その2	読み、訳、練習問題
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その3	読み、訳、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅶ	RUS202 F

授業の概要 /Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り・会話」と「作文」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ￥1,400
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課① 【天候】、【КАКАЯ СЕГОДНЯ ПОГОДА ?】
- 2回 第7課② 【気温】、【雨が降る】
- 3回 第7課③ 【四季】、【КАКОЕ ВРЕМЯ ГОДА ВЫ ЛЮБИТЕ ?】
- 4回 ビデオ学習① 【В ГОСТИНИЦЕ】
- 5回 ビデオ学習② 会話練習
- 6回 第8課① 【病気と健康】、【ЧТО У ВАС БОЛИТ ?】
- 7回 第8課② 【必要性】、【可能】、【不可能】、【許可】、【禁止】
- 8回 第8課③ 【ЧТО ВЫ ДОЛЖНЫ СДЕЛАТЬ ЧЕРЕЗ НЕДЕЛЮ ?】
- 9回 ビデオ学習③ 【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
- 10回 ビデオ学習④ 会話練習【У ВРАЧА】
- 11回 ビデオ学習⑤ 作文【Я И СПОРТ】
- 12回 第9課① 【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ ?】
- 13回 第9課② 【買い物】、【値段】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅷ 【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 /Credits

1単位

学期 /Semester

2学期

授業形態 /Class Format

講義

クラス 済営比人律政 2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
										○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅷ	RUS212 F

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練習しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ¥ 1,400
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオ学習① 【В ГОСТЯХ】
- 2回 ビデオ学習② 会話練習【В ГОСТЯХ】
- 3回 ビデオ学習③ 作文【КАК ПРИГЛАШАЮТ В ГОСТИ В ЯПОНИИ】
- 4回 第10課①【モスクワの町】
- 5回 第10課②【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、
【КАКАЯ ГОРА САМАЯ ВЫСОКАЯ?】
- 6回 第10課③【モスクワの町】、【単文と複文】
- 7回 第10課④【ことわざ】、【МОЙ РОДНОЙ ГОРОД】
- 8回 ビデオ学習④【ИСТОРИЯ С УЧЕБНИКОМ ИСТОРИИ】
- 9回 ビデオ学習⑤ 会話【В МАГАЗИНЕ】、【ПОКУПКА КНИГИ】
- 10回 ビデオ学習⑥ 作文
- 11回 読み物 【СОВЕТ ВРАЧА】
- 12回 読み物 【ДВА ТОВАРИЩА】
- 13回 読み物 【ЛЕГЕНДА ОБ АНГАРЕ】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題 ... 30% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅰ	GRM101F

授業の概要 /Course Description

現代のドイツは拡大するEU（ヨーロッパ連合）の政治、経済、文化の中心として重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に用いているドイツ語を学習することを通して、ドイツ語圏とヨーロッパへの関心、知識および理解を深めていきます。学生の到達目標は、基本単語を用いて口頭による日常的なコミュニケーションがとれるようになること。初歩的な文法を理解し、運用できるようになること。さらに、ドイツ語圏の社会と文化について簡単な説明ができるようになることです。

教科書 /Textbooks

『アプファールト スキットで学ぶドイツ語』 飯田道子・江口直光 三修社 2,400円＋税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞書は当分の間不要です。授業開始後に参考書とともに紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマ：あいさつ(1) 文法：人称代名詞
- 第2回 テーマ：人と知り合う 文法：動詞の現在人称変化(規則動詞, sein)
- 第3回 テーマ：紹介(名前・出身地・居住地・職業・趣味) 文法：疑問文の種類と答え方
- 第4回 テーマ：時刻/あいさつ(2)/時を表す表現 文法：動詞の現在人称変化(haben)
- 第5回 テーマ：人を誘う/アドレスと携帯番号 文法：動詞の現在人称変化(不規則動詞)
- 第6回 テーマ：食べ物と飲み物/メール 文法：定動詞第2位の原則, 疑問文の語順
- 第7回 テーマ：道の尋ね方・答え方 文法：duとSie/命令形
- 第8回 テーマ：位置・方向を表す語/建物など 文法：名詞の性/定冠詞と不定冠詞
- 第9回 テーマ：～してください 文法：冠詞と名詞の格変化(1・4格)
- 第10回 テーマ：持つてる? 持つてない? 文法：否定冠詞と所有冠詞(1・4格)
- 第11回 テーマ：買い物/値段 文法：名詞と冠詞の3格/複数形
- 第12回 テーマ：プレゼント 文法：人称代名詞の格変化
- 第13回 テーマ：気に入った? 文法：前置詞(1)
- 第14回 テーマ：家族・親戚 文法：否定の語を含む疑問文とその答え方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%
日常の授業への取り組み 50%

ドイツ語I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

次回の授業で用いる会話表現の意味を確認し、覚えておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な会話テキストを通して、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。

キーワード /Keywords

パートナー練習 役割練習 正確な発音と初級文法の習得

ドイツ語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅱ	GRM111F

授業の概要 /Course Description

ドイツ語学習を通じてドイツとヨーロッパに対する関心や理解を深めます。具体的にはドイツ語の基礎的な技能（初級文法に関する知識およびコミュニケーション力）の習得を目指します。

教科書 /Textbooks

『アプファールト スキットで学ぶドイツ語』 飯田道子・江口直光 三修社 2,400円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマ：週末や休暇の予定 文法：分離動詞 / 前置詞と定冠詞の融合形
- 第2回 テーマ：天候 文法：話法の助動詞 / 非人称のes
- 第3回 テーマ：一日の行動・日常生活 文法：分離動詞に似た使い方をする表現 / 形容詞
- 第4回 テーマ：過去のできごと(1) 文法：過去分詞
- 第5回 テーマ：時を表す表現(2) 文法：現在完了
- 第6回 テーマ：過去のできごと(2) 文法：過去基本形 / 過去時制
- 第7回 テーマ：位置の表現 文法：前置詞(2)
- 第8回 テーマ：～がある / 遅刻 / メルヒエン 文法：es gibt...
- 第9回 テーマ：修理 / 家事 文法：受動文
- 第10回 テーマ：開店時間・閉店時間 文法：再帰代名詞と再帰動詞
- 第11回 テーマ：料理 / 比較の表現 文法：比較級・最上級
- 第12回 テーマ：病気 / 色彩 文法：zu不定詞句
- 第13回 テーマ：ふたつの文をひとつにする 文法：従属の接続詞と副文
- 第14回 テーマ：非現実の仮定 文法：接続法2式(非現実話法)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

今回の授業で取り上げるドイツ語表現の意味を教科書で確認し、暗誦できるまでになっていることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な会話テキストを通して、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。

キーワード /Keywords

パートナー練習 役割練習 正確な発音と初級文法の習得

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅲ	GRM102 F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

ドイツ語III 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅳ	GRM112F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 済営比人律政 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅴ	GRM201 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他 (Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生日祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済営比人律政 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語VI	GRM211F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他 (Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅶ	GRM202 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫びて話しかけると、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探すと、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済営比人律政 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅷ	GRM212F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

ドイツ語VIII 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語 I	FRN101 F

授業の概要 /Course Description

初級フランス語学習の常として、基本的な文法事項の把握を目的にして講義を行います。同時にフランス語を正確に読み、発音できるようになってほしいと思います。発音を学ぶにあたっては、調音点・調音法など音声学的な分類をふまえながら、図あるいはCDを使い、目からも耳からも理解できるようにしたいと考えています。そうしてフランス語の音の学習を重ねていく過程で、我々が日常用いる言葉の構成要素である音の、ふだん意識されることのない側面を認識してもらえればと思います。またフランス映画を何度か鑑賞し、学習の成果を確認します。

教科書 /Textbooks

ラ・トゥールー フランス語初級文法と会話ー (CD付)、山口俊洋 他著、駿河台出版社刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 フランス語の子音と母音
- 2回 フランス語の挨拶(名詞の性と数、冠詞)
- 3回 自己紹介(主語人称代名詞、動詞être、形容詞〈1〉、否定文)
- 4回 年齢、趣味(動詞avoir、疑問文、疑問形容詞)
- 5回 質問〈1〉(第一群規則動詞、疑問代名詞)
- 6回 質問〈2〉(疑問副詞、人称代名詞強勢形)
- 7回 ものや人の説明〈1〉(形容詞〈2〉、指示形容詞)
- 8回 ものや人の説明〈2〉(所有形容詞)
- 9回 復習と確認(フランス映画の鑑賞)
- 10回 予定(前置詞と定冠詞の縮約形、近接未来と近接過去)
- 11回 報告〈1〉(第二群規則動詞、複合過去〈1〉)
- 12回 報告〈2〉(複合過去〈2〉)
- 13回 時間と天候(非人称構文)
- 14回 依頼(命令法)
- 15回 復習と確認(フランス映画鑑賞)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に課す課題(50%)、学期末試験の結果(50%)を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には、別途考慮します。また6月の実用フランス語技能検定試験5級に合格した者は、本講義の単位認定を申請することができます(最低合格点Cを保証)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この講義は復習を前提としています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語は国連公用語のひとつであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語であることは間違いありません。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅱ	FRN111F

授業の概要 /Course Description

1学期よりも高いレベルで基本的な文法事項の把握を目的にして講義を行います。同時にフランス語を1学期以上に正確に読み発音できるようになってほしいと思います。前期と同様にフランス映画を鑑賞し、それまでの学習の成果を確認します。

教科書 /Textbooks

ラ・トゥールー フランス語初級文法と会話（CD付き）、山口俊洋 他 著、駿河台出版社刊

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 贈り物〈1〉(補語人称代名詞)
- 第2回 贈り物〈2〉(中性代名詞)
- 第3回 日常の行動〈1〉(代名動詞)
- 第4回 日常の行動〈2〉(代名動詞の複合過去)
- 第5回 旅行(関係代名詞)
- 第6回 過去〈1〉(半過去)
- 第7回 過去〈2〉(複合過去と半過去、大過去)
- 第8回 復習と確認(フランス映画鑑賞)
- 第9回 未来の計画〈1〉(単純未来と前未来)
- 第10回 未来の計画〈2〉(比較級)
- 第11回 未来の計画〈3〉(最上級)
- 第12回 街中(現在分詞とジェロンデフ)
- 第13回 夢(条件法現在と過去)
- 第14回 感情表現(接続法現在と過去)
- 第15回 復習と確認(フランス映画鑑賞)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に課す課題(50%)、学期末試験の結果を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には別途考慮します。また11月の実用フランス語技能検定4級に合格した者は、本講義の単位認定を申請することができます(最低点Cを保証します)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この講義は復習を前提としています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語は国連公用語のひとつであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語であることは間違いありません。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅲ	FRN102 F

授業の概要 /Course Description

フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。1学期は「実用フランス語検定5級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2520）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則二回で1課ずつ進み、1学期は第6課まで終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍・職業をいう
- 3回 主語人称代名詞と動詞 etre の使い方
- 4回 名前・持ち物をいう
- 5回 動詞 avoir と冠詞の使い方
- 6回 友人・家族を紹介する
- 7回 第一群規則動詞と所有形容詞の使い方
- 8回 疑問文の作り方
- 9回 人・物を説明する
- 10回 形容詞の使い方
- 11回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 12回 指示形容詞、人称代名詞強勢形の使い方
- 13回 人、物、場所、時についてたずねる
- 14回 疑問詞の使い方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

なお、1年生の1学期中に実用フランス語検定試験5級に合格した者は、本講義の単位認定を申請することができる。ただし申請を希望する者は、以下の三点について注意すること。

- 1 検定の合格は単位認定の最低点を保証するものであり、成績はあくまでも日常の授業への取り組みならびに期末試験の結果による。
- 2 検定に合格した場合も必ず期末試験を受験すること。期末試験を受験しない場合、単位認定はできない。
- 3 検定合格の通知(コピー可)を必ず期末試験日(当日を含む)までに提示すること、期末試験当日に成績を出すため、以後の連絡には応じない。なお、期末試験の日時が検定の合格通知に先行する場合は、最終講義日までにその旨を申し出ること。

フランス語Ⅲ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること。

遅くとも3回目の講義までには教科書を用意しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅳ	FRN112F

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。2学期は「実用フランス語検定4級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2520）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って2学期は第7課から第12課まで。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 食べ物・飲み物について
- 2回 部分冠詞・数量の表現について
- 3回 時刻・天候について
- 4回 疑問形容詞と命令形
- 5回 非人称構文と第二群規則動詞について
- 6回 人・物を比較する
- 7回 比較級と最上級の表現
- 8回 人を紹介する
- 9回 補語人称代名詞の使い方
- 10回 代名動詞について
- 11回 過去のことを話す
- 12回 複合過去形の作り方
- 13回 未来のことを話す
- 14回 単純未来形の作り方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

なお、1年生の2学期中に実用フランス語検定試験4級に合格した者は、本講義の単位認定を申請することができる。ただし申請を希望する者は、以下の三点について注意すること。

- 1 検定の合格は単位認定の最低点を保証するものであり、成績はあくまでも日常の授業への取り組みならびに期末試験の結果による。
- 2 検定に合格した場合も必ず期末試験を受験すること。期末試験を受験しない場合、単位認定はできない。
- 3 検定合格の通知(コピー可)を必ず期末試験日(当日を含む)までに提示すること、期末試験当日に成績を出すため、以後の連絡には応じない。なお、期末試験の日時が合格通知に先行する場合は、最終講義日までにその旨を申し出ること。

フランス語Ⅳ 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること。
教科書は1回目の講義から用意しておくこと。
1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

フランス語を生きた言葉として実感

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅴ	FRN201 F

授業の概要 /Course Description

初級で習得した基礎知識をもとに、さらに詳しく文法を学びフランス語らしい表現力アップを目標とします。

教科書 /Textbooks

高橋信良 他著 『フランス語ブルー2 トリコロール文法編』 朝日出版社 2014年 1200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回目	1課	関係代名詞と中性代名詞
2回目	2課	補語人称代名詞
3回目	3課	非人称構文
4回目	4課	現在分詞とジェロンディフ
5回目	5課	知覚動詞
6回目	5課	使役動詞
7回目	6課	直説法大過去
8回目	7課	直説法単純未来
9回目	8課	関係代名詞 le quel
10回目	9課	条件法現在
11回目	9課	条件法過去
12回目	10課	間接話法
13回目	10課	感嘆文
14回目	11課	接続法 形と用法 1
15回目	12課	接続法の用法 2

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50% 日常の授業への取り組み30% 小テスト20% なお6月に実施される実用フランス語技能検定試験3級に合格した者は、本講義の単位認定を申請することが出来る。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

動詞 単文と複文 法

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語VI	FRN211F

授業の概要 /Course Description

1学期に学習した事項をもとに作文の練習をして、よりフランス語らしい表現力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

星埜守之 他著 『フランス語プラン2 トリコロール 作文編』 朝日出版 1200円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 1課 関係代名詞 qui que
- 2回目 1課 関係代名詞 ce qui ce que
- 3回目 2課 関係代名詞 ou dont
- 4回目 2課 前置詞がつく関係代名詞
- 5回目 3課 現在分詞
- 6回目 3課 ジェロンディフ
- 7回目 4課 知覚構文
- 8回目 5課 使役文
- 9回目 6課 無生物主語
- 10回目 7課 強調構文
- 11回目 8課 非人称構文
- 12回目 9課 さまざまな接続詞 並列文
- 13回目 10課 さまざまな接続詞 複文
- 14回目 11課 間接話法
- 15回目 12課 直説法か接続法か

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50% 日常の授業への取り組み30% 小テスト20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

単文と複文 日本語とフランス語の同異

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor ドウラボード・ブランシュ / Blanche Delaborde / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅶ	FRN202 F

授業の概要 /Course Description

Ce cours a pour objectif de développer les capacités de l'étudiant à parler en français dans des situations courantes. L'accent sera mis sur l'acquisition d'un vocabulaire varié et le développement d'une expression fluide. Nous aborderons non seulement les compétences linguistiques à développer, mais également les caractéristiques de la communication en France et de la société française. Nous utiliserons principalement comme support le manuel "En Scène II". Il sera demandé chaque semaine d'apprendre par cœur une petite liste de vocabulaire de base. Deux séances seront consacrées aux présentations faites en français par les étudiants à partir des phrases apprises durant le cours. この授業の目標は、日常的なシーンでのフランス語会話力を培うことです。語彙を豊かにし、流暢に使えるようにすることに重点を置きます。フランス語の習得だけではなく、フランスでのコミュニケーションやフランス社会の特徴についても解説していきます。指定の教科書を主に使い授業を進めます。毎週、語彙の小テストを行います。最後の2回の授業では、学習した表現を使って簡単な発表をしてもらう予定です。授業はフランス語と日本語で行います。

教科書 /Textbooks

『EN SCENE II』(高橋百代、Brigitte Moser Hori) 三修社 2900¥

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 - Présentation des étudiants 自己紹介
- 2 - Révisions des bases (1) 基本の復習 1
- 3 - Se repérer dans l'espace (1) 位置関係 1
- 4 - Se repérer dans l'espace (2) 位置関係 2
- 5 - Au restaurant (1) レストランにて 1
- 6 - Au restaurant (2) レストランにて 2
- 7 - Les transports et les voyages 交通機関と旅行 1
- 8 - Les transports et les voyages 交通機関と旅行 2
- 9 - Le corps et la santé (1) 身体と健康 1
- 10 - Le corps et la santé (2) 身体と健康 2
- 11 - Les vacances (1) バカンス 1
- 12 - Les vacances (2) バカンス 2
- 13 - Exposés 発表
- 14 - Exposés 発表
- 15 - Récapitulatif まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

30% contrôles de vocabulaire 語彙の小テスト(8回)
30% exposé 発表
40% examen final 定期試験

なお、該当期間中に実用フランス語技能検定試験の3級に合格した者は、本講義の単位認定を申請することができる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor ドウラボード・ブランシュ / Blanche Delaborde / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 2学期 / 2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年 / 2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅷ	FRN212 F

授業の概要 /Course Description

Ce cours a pour objectif de développer les capacités de l'étudiant à parler en français dans des situations courantes. L'accent sera mis sur l'acquisition d'un vocabulaire varié et le développement d'une expression fluide. Nous aborderons non seulement les compétences linguistiques à développer, mais également les caractéristiques de la communication en France et de la société française. Nous utiliserons principalement comme support le manuel "En Scène II". Il sera demandé chaque semaine d'apprendre par cœur une petite liste de vocabulaire de base. Deux séances seront consacrées aux présentations faites en français par les étudiants à partir des phrases apprises durant le cours. この授業の目標は、日常的なシーンでのフランス語会話力を培うことです。語彙を豊かにし、流暢に使えるようにすることに重点を置きます。フランス語の習得だけではなく、フランスでのコミュニケーションやフランス社会の特徴についても解説していきます。指定の教科書を主に使い授業を進めます。毎週、語彙の小テストを行います。最後の2回の授業では、学習した表現を使って簡単な発表をしてもらう予定です。授業はフランス語と日本語で行います。

教科書 /Textbooks

『EN SCENE II』 (高橋百代、Brigitte Moser Hori) 三修社 2900¥

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 - A la Poste (1) 郵便局にて 1
- 2 - A la Poste (2) 郵便局にて 2
- 3 - L'environnement (1) 生活と環境 1
- 4 - L'environnement (2) 生活と環境 2
- 5 - La vie quotidienne : la famille (1) 日常生活 : 家族 1
- 6 - La vie quotidienne : la famille (2) 日常生活 : 家族 2
- 7 - La vie quotidienne : le week-end (1) 日常生活 : 週末の過ごし方 1
- 8 - La vie quotidienne : le week-end (2) 日常生活 : 週末の過ごし方 2
- 9 - Rêves de futur (1) 将来の夢 1
- 10 - Rêves de futur (2) 将来の夢 2
- 11 - Les sentiments (1) 様々な感情 1
- 12 - Les sentiments (2) 様々な感情 2
- 13 - Exposés 発表
- 14 - Exposés 発表
- 15 - Récapitulatif まとめ

フランス語VIII 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

30% contrôles de vocabulaire 語彙の小テスト(8回)
30% exposé 発表
40% examen final 定期試験

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【昼】

担当者名 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 律政1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			スペイン語 I	SPN101 F

授業の概要 /Course Description

スペイン語を公用語とする国は、ヨーロッパに1つ、アフリカに1つ、中南米に19（含む1自治領）あり、その話者の数は、アメリカ合衆国にいる hispanicの人たちも含めると4億をはるかに超え、英語、中国語、ヒンズー語に続くと言われていています。ラテン語（ローマ帝国の言語）を起源とし、イタリア語、ポルトガル語、フランス語、ルーマニア語とともにロマンス語と呼ばれる仲間に入ります。コロンブスのアメリカ大陸発見（1492年）以降、スペイン語は中南米の植民地の言語になったので、現在のように多くの中南米の国で使われています。その特徴は、これだけ広い地域で用いられているのに、コミュニケーションの妨げになるほどの差がないことです。その広大な文化圏のドアを開けるための第1歩として、スペイン語の基礎を学びましょう。未知の世界が広がっていくはずですよ。
具体的には、スペイン語の初級から中級程度の文法を学びながら基本的な表現をマスターします。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（第2版）
青木文夫・辻博子・マリア エルナンデス（共著）、弘学社

スペイン語I【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：
スペイン語中辞典(小学館)
新スペイン語(研究社)
現代スペイン語辞典(白水社)
プログレッシブスペイン語辞典(小学館)
パスポート初級スペイン語辞典(白水社)
他多数有。
白水社の別の西和辞典(高橋編)は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典：
和西辞典(宮城、コントレラス監修：白水社)
クラウン和西辞典(三省堂)
その他
図説スペインの歴史(川成洋、中西省三編：河出書房新社)
スペインの歴史(立石、関、中川、中塚著：昭和堂)
スペイン(増田監修：新潮社)
スペインの社会(寿里、原編：早稲田大学出版)
スペインの政治(川成、奥島編：早稲田大学出版)
スペインの経済(戸門、原編：早稲田大学出版)
スペイン語とつきあう本(寿里著：東洋書店)
スペイン語基礎文法(口ボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション)
電子辞書も奨めます。辞書については最初の講義で詳しく説明するので、辞書の購入はそれまで待っててください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 導入：スペイン語とはこんな言語
- 2 発音の仕組み
- 3 発音の仕組み
- 4 発音の練習と簡単なテスト
- 5 性数の一致：冠詞と名詞
- 6 性数の一致：冠詞と名詞
- 7 規則動詞の現在形とその用法
- 8 規則動詞の現在形とその用法
- 9 規則動詞の現在形練習問題
- 10 規則動詞の現在形の活用
- 11 serとestarの活用と用法
- 12 serとestarの練習問題
- 13 serとestarの練習問題
- 14 serとestarの練習問題
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は下で述べる平常点を一切加味せず定期試験の点数だけで評価します。その1/3の条件を満たしている範囲での欠席は構いません。なお、クラブ活動など一切欠席届は認めません。
定期試験が60点以上ならば無条件で単位を認定しますが、60点を下回る場合にも平常点を加味して評価します。もちろん60点を超えている場合も平常点を加算して、成績を決めます。平常点は普段の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を半期に亘って数値化します。その年度によって若干の差異はありますが、最大で30点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないとか、授業中答えていないなど)で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学、学習その他なんでも相談OKです！
メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅱ	SPN111F

授業の概要 /Course Description

初級から中級程度のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします。具体的にはスペイン語Ⅰのテキストの続きをある程度複雑な文や、スペイン語に独特な文を作るようなレベルまで進みます。英語にない文のパターンも、最初は複雑だと思かもしれませんが、慣れてくると簡潔な表現で多くの情報が伝わる面白さが理解できるでしょう。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』青木・辻・エルナンデス共著 弘学社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図説スペインの歴史(川成洋、中西省三編:河出書房新社)
 スペインの歴史(立石、関、中川、中塚著:昭和堂)
 スペイン(増田監修:新潮社)
 スペインの社会(寿里、原編:早稲田大学出版)
 スペインの政治(川成、奥島編:早稲田大学出版)
 スペインの経済(戸門、原編:早稲田大学出版)
 スペイン語基礎文法(口ボ、大森、広康共訳:ピアソンエデュケーション)
 辞書についてはスペイン語Ⅰで述べたのを参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 2回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 3回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 4回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 5回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 6回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 7回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 8回 日付の表現
- 9回 時刻
- 10回 天気表現
- 11回 不定語について
- 12回 スペイン語圏の国々について:視聴覚教材を用いて
- 13回 スペイン語圏の国々について:視聴覚教材を用いて
- 14回 まとめ
- 15回 スペイン語のさらなる習得に向けて

スペイン語II【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。定期試験に今述べた平常点を最大30点まで加算します。もちろん60点を超過している場合でも、平常点を加味して成績を算定します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

前期に比べて少し複雑な内容になると思いますが、ロマンス語（スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、フランス語など）に共通する文法の基礎にもなるので、しっかりと取り組んで、将来の学習につなげましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅲ	SPN102 F

授業の概要 /Course Description

スペイン語の発音・読み方から始め、テキストの簡単な会話表現を覚えていきます。スペイン語の発音は日本語話者に易しいので、テキストの単語を発音しながらスペイン語の音に慣れましょう。
文法事項を押さえながら学ぶ会話表現なので、理解しやすくスペイン語の基礎固めになります。

教科書 /Textbooks

粕谷てる子『オラ！<改訂版>』第三書房、2014

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和辞書については開講時に指示しますが、薦めるものとしては『クラウン西和辞典』三省堂2005、
『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とスペイン語圏について、アルファベットの読み方
- 2回 挨拶、スペイン語の発音、「じゃあね！」
- 3回 アクセントについて、ser動詞、「私はマリです」
- 4回 国籍・職業・出身地、「彼女は学生です」
- 5回 形容詞、指示詞、「この本は面白い」
- 6回 - ar動詞、- er動詞、- ir動詞、「スペイン語を話せる？」
- 7回 数字1-15、「どこに住んでいるの？」
- 8回 tener、数字16 - 100、「私は18歳です」
- 9回 所有詞、hacer、poner、decir、「家族」
- 10回 estar動詞、「どこにあるの？」
- 11回 hay、「この辺にバルはありますか？」
- 12回 querer、「スペインを旅行したい」
- 13回 poder、「今日はサッカーができません」
- 14回 目的格人称代名詞、「私に写真を見せてくれる？」
- 15回 不規則動詞・目的格人称代名詞のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80%、 日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

スペイン語Ⅲ【昼】

履修上の注意 /Remarks

なし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅳ	SPN112F

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲの続きから、更に表現を学んでいきます。Ⅲと同様、文法項目を押さえながら学ぶ会話表現です。理解したうえで聞き取り、会話表現を発展させていきます。

教科書 /Textbooks

Ⅲと同じテキストを使用。
粕谷てる子『オラ！＜改訂版＞』第三書房、2014

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞書についてはⅢの開講時に指示したものと同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Ⅲの復習
- 2回 ir/venirの表現「明日東京へ行きます。」
- 3回 「スペイン語を勉強するつもりです。」
- 4回 天候表現「今日はいい天気ですね。」
- 5回 時間表現「何時ですか？」
- 6回 gustar構文「私はバルサが好きです。」
- 7回 gustar型動詞「頭がいたいのか？」
- 8回 再帰動詞「私はマリといいます。」
- 9回 「もう行っちゃうの」
- 10回 比較級「フアのほうが背が高い。」
- 11回 「フアはクラスで一番絵が上手だ。」
- 12回 現在完了「楽しかった！」
- 13回 現在分詞「今掃除中です。」
- 14回 スペイン語でDVDを見る
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80%、 日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

動詞の活用、既出単語などは授業前に覚えてきてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン語圏、スペイン、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅴ	SPN201 F

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅰ・Ⅱを復習・継続し、初級の文法を完了します。

教科書 /Textbooks

スペイン語Ⅰ・Ⅱと同じ(青木・辻・マリア J. 共著『スペイン語で表現しよう』第2版、弘学社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。西和辞典又は電子辞書必携。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 接続法とは何か
- 2回 接続法現在・規則活用
- 3回 接続法現在・不規則活用
- 4回 接続法現在の用法
- 5回 命令法・命令形
- 6回 感嘆文
- 7回 比較級
- 8回 相対・絶対最上級
- 9回 不定詞を用いた放任・使役の動詞
- 10回 不定詞を用いた忠告・命令・許可・禁止の動詞
- 11回 S Eの受身文
- 12回 S Eの無人称文
- 13回 接続法の過去・現在完了・過去完了
- 14回 接続法の用法(独立文)
- 15回 接続法の例文

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

スペイン語Ⅰ・Ⅱを良く理解・学習しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席は好ましくありません。

スペイン語Ⅴ【昼】

キーワード /Keywords

スペイン語圏

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語VI	SPN211F

授業の概要 /Course Description

スペインの文化・風土・歴史などを織り込んだ中級程度のスペイン語の文章を読みます。スペイン語及びスペインに関する幅広い知識を身に付けます。

教科書 /Textbooks

青木文夫・辻光博共著『現代スペイン語：文法と表現』（弘学社）の、講読部分（別冊。500円）。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。西和辞典又は電子辞書必携。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

* スペイン語講読・説明・解説

- 1回 第一課 【位置】
- 2回 第二課 【風土】
- 3回 第三課 【行政】
- 4回 第四課 【生活】
- 5回 第五課 【バルセローナ】
- 6回 第六課 【マドリード】
- 7回 第七課 【中世文学】
- 8回 第八課 【レコンキスタ】
- 9回 第九課前半 【古代ローマ治下】
- 10回 第九課後半 【イスラーム治下】
- 11回 第十課 【セビージャ】
- 12回 第十一課前半 【レコンキスタの完了】
- 13回 第十一課後半 【スペイン帝国】
- 14回 第十二課 【ドン・キホーテ】
- 15回 第十三課 【バスク自治州】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

スペイン語I・II・Vを良く理解・学習しておくことが望ましい。

スペイン語VI 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席は好ましくありません。

キーワード /Keywords

古代ローマ帝国 イスラーム レコンキスタ

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅶ	SPN202 F

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ（会話表現）を更に発展させていきます。スペイン語テキストの文法事項を押さえ、いろいろな場面に応じた会話表現を学んでいきます。また、適宜音声教材やDVD教材などを使用し、ネイティブの話すスペイン語理解（聞き取り）も行います。

教科書 /Textbooks

前年度と同じテキストを使用します。（『コミュニケーションのためのスペイン語 三訂版』坂東・仲井・太田・ガジェゴ共著、第三書房、2010、2版（三訂版）
他、プリント配布

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。
辞書については開講時に指示します。西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、
『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語Ⅲ・Ⅳの復習
- 2回 自己紹介、その他不規則動詞
- 3回 現在分詞、不定語と否定語「スペイン語を勉強しています。」
- 4回 過去分詞、現在完了「どうしましたか？」
- 5回 ser・estarの受身「泥棒は警察に逮捕された」
- 6回 接続法現在の活用
- 7回 接続法、名詞節「できたらこの本を送ってほしい」
- 8回 点過去「昨日パエージャを食べた」
- 9回 se受身、se無人称「アパート貸します」
- 10回 線過去「昨日食事をしていたとき・・・」
- 11回 命令「口をあけて」
- 12回 比較「マリアは私より背が高い」
- 13回 相対・絶対最上級「高すぎる！」
- 14回 DVDなど視聴覚教材
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 60%、日常の授業への取り組み 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

スペイン語VII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。

スペイン語初級 (I・II・III・IV) の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語Ⅷ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2年次
単位 /Credits 1単位 / 1単位
学期 /Semester 2学期 / 2学期
授業形態 /Class Format 講義 / 講義
クラス /Class 済営比人律政 2年 / 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅷ	SPN212F

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅶを更に発展させていきます。いろいろな場面に応じた会話表現を学んでいきます。また、適宜音声教材やDVD教材などを使用し、ネイティブの話すスペイン語理解（聞き取り）も行います。

教科書 /Textbooks

スペイン語Ⅶと同じテキスト『スペイン語でコミュニケーション 三訂版』（坂東・仲井・太田・ガジェゴ共著、第三書房、2010、三訂版2版）をそのまま使用します。他、プリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。
辞書についてはスペイン語Ⅶに同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅶの復習
- 2回 関係詞「今朝来た人はなんていう名前？」
- 3回 関係副詞「バレンシアはよく米を食べる地域です」
- 4回 接続法の用法（形容詞節・副詞節）
- 5回 直説法未来「今度新しい車を買うだろう」
- 6回 直説法過去未来「昨日、今度新しい車を買うと言った」
- 7回 接続法過去「飛行機で旅行するよう勧めた」
- 8回 条件文「お金があったらもう一軒別荘を買うのに」
- 9回 短編教材と聞き取り
- 10回 短編教材と会話練習
- 11回 「自分の好きな有名人」
- 11回 「スペイン語圏で私が興味あること」
- 13回 スペイン語でDVDなどを見る(1)
- 14回 スペイン語でDVDなどを見る(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 60% 日常の授業への取り組み 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語 (I・II・III・IV・V・VII) の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

日本語I【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Iでは、特に「大学生活へのオリエンテーション」と「日本語発想力・表現力」に焦点を当てる。「大学生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。「日本語発想力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
 - 2回 大学生活(1)【高校・日本語学校と大学の違い・ 大学・学部・学科について学ぶ】
 - 3回 大学生活(2)【キャンパスツアー】
 - 4回 大学生活(3)【大学教員・職員との付き合い方】
 - 5回 大学生活(4)【図書館ツアー】
 - 6回 大学生活(5)【大学生活のデザイン】
 - 7回 大学生活(6)【講義の上手な受け方】
 - 8回 大学生活(7)【演習に参加するコツ】
 - 9回 大学生活(8)【大学の定期試験】
 - 10回 論理的思考力(1)【大学生と論理的思考力・リストアップする】
 - 11回 論理的思考力(2)【マッピングする・キーワードを繋げる】
 - 12回 論理的思考力(3)【イラストから読み取ったことを表現する】
 - 13回 論理的思考力(4)【定義をする】
 - 14回 論理的思考力(5)【日本語の語順に沿って考える・時間軸に沿って考える】
 - 15回 論理的思考力(6)【主張に理由や具体例を加えて表現する・論理的に考えて表現する】
- 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %
ポートフォリオ評価 ... 70%(学習者評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。
日本語Iと日本語IIと日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) 日本語表現力 論理的思考

日本語I【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Iでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」と「日本語発想力・表現力」に焦点を当てる。「大学生生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。「日本語発想力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
 - 2回 大学生生活(1)【高校・日本語学校と大学の違い・ 大学・学部・学科について学ぶ】
 - 3回 大学生生活(2)【キャンパスツアー】
 - 4回 大学生生活(3)【大学教員・職員との付き合い方】
 - 5回 大学生生活(4)【図書館ツアー】
 - 6回 大学生生活(5)【大学生生活のデザイン】
 - 7回 大学生生活(6)【講義の上手な受け方】
 - 8回 大学生生活(7)【演習に参加するコツ】
 - 9回 大学生生活(8)【大学の定期試験】
 - 10回 論理的思考力(1)【大学生と論理的思考力・リストアップする】
 - 11回 論理的思考力(2)【マッピングする・キーワードを繋げる】
 - 12回 論理的思考力(3)【イラストから読み取ったことを表現する】
 - 13回 論理的思考力(4)【定義をする】
 - 14回 論理的思考力(5)【日本語の語順に沿って考える・時間軸に沿って考える】
 - 15回 論理的思考力(6)【主張に理由や具体例を加えて表現する・論理的に考えて表現する】
- 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %
ポートフォリオ評価 ... 70%(学習者評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。
日本語Iと日本語IIと日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) 日本語表現力 論理的思考

日本語II 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとっては、第二言語である日本語で自己表現を行うためには、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

教科書 /Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
TAE「ウォーミングアップ編」【フェルトセンス】【リラクスのワーク】
- 2回 「ウォーミングアップ編」【色模様のワーク】
- 3回 「ウォーミングアップ編」【オノマトペのワーク】
- 4回 「ウォーミングアップ編」【比喩のワーク】
- 5回 「ウォーミングアップ編」【花束のワーク】
- 6回 「初級編」【コツのワーク】【共同詩のワーク】
- 7回 「初級編」【励ます言葉のワーク】
- 8回 「初級編」【マイセンテンス】
- 9回 「中級編」【パターンを見つける】
- 10回 「中級編」【パターンを交差させる】
- 11回 「中級編」【自己PR文を作ろう】
- 12回 「中級編」【資料を使って論じよう】
- 13回 「中級編」【経験から論じよう】
- 14回 「中級編」【感想文を書こう】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定です。
日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払ってください。
日本語Iと日本語IIと日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

TAE 身体を感じ 日本語の私 母語の私

日本語II 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとっては、第二言語である日本語で自己表現を行うためには、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

教科書 /Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
TAE「ウォーミングアップ編」【フェルトセンス】【リラクスのワーク】
- 2回 「ウォーミングアップ編」【色模様のワーク】
- 3回 「ウォーミングアップ編」【オノマトペのワーク】
- 4回 「ウォーミングアップ編」【比喩のワーク】
- 5回 「ウォーミングアップ編」【花束のワーク】
- 6回 「初級編」【コツのワーク】【共同詩のワーク】
- 7回 「初級編」【励ます言葉のワーク】
- 8回 「初級編」【マイセンテンス】
- 9回 「中級編」【パターンを見つける】
- 10回 「中級編」【パターンを交差させる】
- 11回 「中級編」【自己PR文を作ろう】
- 12回 「中級編」【資料を使って論じよう】
- 13回 「中級編」【経験から論じよう】
- 14回 「中級編」【感想文を書こう】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定です。
日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払ってください。
日本語Iと日本語IIと日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

TAE 身体を感じ 日本語の私 母語の私

日本語III 【昼】

担当者名 /Instructor 徐 暁輝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIIでは、実際に日本語を使う場面で、文字によるコミュニケーション(書く)の能力を伸ばす。「対人性」と「場面性」を理解することで、適切な文章構成・日本語表現ができるようになる。そして、「自己推敲能力」を伸ばすために、自分の書いたものを自己評価し、より良いものに修正する。

教科書 /Textbooks

『中級からの日本語プロフィシエンシーライティング』(由井紀久子他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『日本語Eメールの書き方』(築晶子他、The Japan Times)
『外国人のためのケータイメール@にっぽん』(笠井淳子他、アスク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【文のスタイル】【配慮】【負担】【良好な関係】【今後のこと】
- 2回 アポイントをとる【PCメール】
- 3回 問い合わせる【PCメール】
- 4回 授業についてのコメントを書く【コメント用紙】
- 5回 伝言する【メモ】
- 6回 誘う・誘われる【携帯メール】
- 7回 依頼する・依頼される【携帯メール】
- 8回 謝る【PCメール】
- 9回 お礼を言う【PCメール】
- 10回 報告する【PCメール】
- 11回 なくさめる・一緒に喜ぶ【携帯メール】
- 12回 経験についての感想を書く【原稿用紙】
- 13回 募集する【チラシ】【掲示】
- 14回 自己PRを書く【原稿用紙】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み(発表や課題を含む)・・・30% 試験・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。日本語Iと日本語IIは、日本語IIIと授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロフィシエンシー 書く 対人性 場面性

日本語III 【昼】

担当者名 /Instructor 徐 暁輝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIIでは、実際に日本語を使う場面で、文字によるコミュニケーション(書く)の能力を伸ばす。「対人性」と「場面性」を理解することで、適切な文章構成・日本語表現ができるようになる。そして、「自己推敲能力」を伸ばすために、自分の書いたものを自己評価し、より良いものに修正する。

教科書 /Textbooks

『中級からの日本語プロフィシエンシーライティング』(由井紀久子他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『日本語Eメールの書き方』(築晶子他、The Japan Times)
『外国人のためのケータイメール@にっぽん』(笠井淳子他、アスク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【文のスタイル】【配慮】【負担】【良好な関係】【今後のこと】
- 2回 アポイントをとる【PCメール】
- 3回 問い合わせる【PCメール】
- 4回 授業についてのコメントを書く【コメント用紙】
- 5回 伝言する【メモ】
- 6回 誘う・誘われる【携帯メール】
- 7回 依頼する・依頼される【携帯メール】
- 8回 謝る【PCメール】
- 9回 お礼を言う【PCメール】
- 10回 報告する【PCメール】
- 11回 なくさめる・一緒に喜ぶ【携帯メール】
- 12回 経験についての感想を書く【原稿用紙】
- 13回 募集する【チラシ】【掲示】
- 14回 自己PRを書く【原稿用紙】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み(発表や課題を含む)・・・30% 試験・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。日本語Iと日本語IIは、日本語IIIと授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロフィシエンシー 書く 対人性 場面性

日本語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Ⅳでは、留学生が主体的に日本語の学習に取り組めるようにチュートリアルを行う。留学生が大学を卒業するためには、ある程度決まったレベルの高い日本語力が求められるが、それを獲得する道筋は人それぞれである。個別のニーズに応じた授業を提供して他の授業と相補関係を作ることで、より大きな教育効果を狙っている。

教科書 /Textbooks

『アカデミック・ジャパニーズ・ポートフォリオ(試作版)』を配布予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション【チュートリアルの意義】
- 第2回 学習計画を立てる(1)知る【大学生に必要な日本語能力】【パフォーマンス・チェック】【学習評価】
- 第3回 学習計画を立てる(2)意識する【学習目標】【理想の自分】
- 第4回 学習計画を立てる(3)計画する【学習方法】【学習リソース】【評価方法】
- 第5回 実践する(1)試してみる【実践を評価する】
- 第6回 実践する(2)修正する【学習計画の修正】
- 第7回 チュートリアル(1)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第8回 チュートリアル(2)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第9回 チュートリアル(3)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第10回 振り返る(1)【自己評価】【学習計画の修正】
- 第11回 チュートリアル(4)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第12回 チュートリアル(5)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第13回 チュートリアル(6)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第14回 チュートリアル(7)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第15回 振り返る(2)総括【全体の振り返り】【評価表】【自己評価】【ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

教師の観察による評価...30% 評価表に基づく評価...70%(自己評価...40% ピア評価...30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。
日本語Ⅳは、日本語Ⅴと日本語Ⅵと授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

チュートリアル 学習者オートノミー 理想の自分 学習計画 自己評価

日本語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Ⅳでは、留学生が主体的に日本語の学習に取り組めるようにチュートリアルを行う。留学生が大学を卒業するためには、ある程度決まったレベルの高い日本語力が求められるが、それを獲得する道筋は人それぞれである。個別のニーズに応じた授業を提供して他の授業と相補関係を作ることで、より大きな教育効果を狙っている。

教科書 /Textbooks

『アカデミック・ジャパニーズ・ポートフォリオ(試作版)』を配布予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『自律を目指すことばの学習 : さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション【チュートリアルの意義】
- 第2回 学習計画を立てる(1)知る【大学生に必要な日本語能力】【パフォーマンス・チェック】【学習評価】
- 第3回 学習計画を立てる(2)意識する【学習目標】【理想の自分】
- 第4回 学習計画を立てる(3)計画する【学習方法】【学習リソース】【評価方法】
- 第5回 実践する(1)試してみる【実践を評価する】
- 第6回 実践する(2)修正する【学習計画の修正】
- 第7回 チュートリアル(1)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第8回 チュートリアル(2)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第9回 チュートリアル(3)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第10回 振り返る(1)【自己評価】【学習計画の修正】
- 第11回 チュートリアル(4)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第12回 チュートリアル(5)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第13回 チュートリアル(6)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第14回 チュートリアル(7)【学習の日記】【学習アドバイジング】
- 第15回 振り返る(2)総括【全体の振り返り】【評価表】【自己評価】【ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

教師の観察による評価...30% 評価表に基づく評価...70%(自己評価...40% ピア評価...30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。日本語Ⅳは、日本語Ⅴと日本語Ⅵと授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

チュートリアル 学習者オートノミー 理想の自分 学習計画 自己評価

日本語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Ⅴでは、特に「スタディスキル」と「日本語読解力」に焦点を当てる。「スタディスキル」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。「日本語読解力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○一橋大学留学生センター『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』スリーエーネットワーク

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生に求められる読む力・自己評価
- 3回 絵やイラストを読む・表やグラフを読み取る
- 4回 表やグラフ以外のものを読み取る
- 5回 マッピングしながら読む・図解で考える
- 6回 文章を読んで図や表にする
- 7回 登場人物になったつもりで読む・どちらがいいかを考えながら読む
- 8回 理由を考えながら読む・前後の文脈から推論しながら読む
- 9回 資料を探す(スキミングとスキミング)
- 10回 資料を読む(批判的な読み方)
- 11回 レポートの特徴・ブックレポートを書く
- 12回 レジюмеを作成する
- 13回 パソコンを使ったプレゼン・ポスターを使ったプレゼン
- 14回 日本語で読むことと自分について考える
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語Ⅳと日本語Ⅴと日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

日本語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Ⅴでは、特に「スタディスキル」と「日本語読解力」に焦点を当てる。「スタディスキル」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。「日本語読解力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ: トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○一橋大学留学生センター『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』スリーエーネットワーク

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生に求められる読む力・自己評価
- 3回 絵やイラストを読む・表やグラフを読み取る
- 4回 表やグラフ以外のものを読み取る
- 5回 マッピングしながら読む・図解で考える
- 6回 文章を読んで図や表にする
- 7回 登場人物になったつもりで読む・どちらがいいかを考えながら読む
- 8回 理由を考えながら読む・前後の文脈から推論しながら読む
- 9回 資料を探す(スキミングとスキミング)
- 10回 資料を読む(批判的な読み方)
- 11回 レポートの特徴・ブックレポートを書く
- 12回 レジюмеを作成する
- 13回 パソコンを使ったプレゼン・ポスターを使ったプレゼン
- 14回 日本語で読むことと自分について考える
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語Ⅳと日本語Ⅴと日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

日本語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 徐 暁輝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIでは、学生が学び手として互いに協力し合い、課題達成に向けて取り組めるようになることを目指す。具体的には、「自己目標の明確化」を目指すために活動(1)「自己PR」を行う。そして、「能動的読解」のために活動(2)「ブック・トーク」を行い、「外部から得た情報や知識を適切に配列し、引用表現を用いて自分の意見と区別しながら書く」ことを目指すために活動(3)「ブック・レポート」を行う。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション：プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己PR(1)【自分を伝える】
- 3回 自己PR(2)【情報を整理する】
- 4回 自己PR(3)【スピーチの準備をする】
- 5回 自己PR(4)【スピーチをする】
- 6回 自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
- 7回 ブック・トーク(1)【情報を探す】
- 8回 ブック・トーク(2)【情報を読んで伝える】
- 9回 ブック・トーク(3)【アウトラインを書く】
- 10回 ブック・トーク(4)【ポスター発表を準備する】
- 11回 ブック・トーク(5)【発表する】
- 12回 ブック・レポート(1)【書く】
- 13回 ブック・レポート(2)【内容を検討する】
- 14回 ブック・レポート(3)【表現や形式を点検する】
- 15回 総括【全体を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・ラーニング 相互リソース化 批判的思考の獲得 社会的関係の構築

日本語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 徐 暁輝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIでは、学生が学び手として互いに協力し合い、課題達成に向けて取り組めるようになることを目指す。具体的には、「自己目標の明確化」を目指すために活動(1)「自己PR」を行う。そして、「能動的読解」のために活動(2)「ブック・トーク」を行い、「外部から得た情報や知識を適切に配列し、引用表現を用いて自分の意見と区別しながら書く」ことを目指すために活動(3)「ブック・レポート」を行う。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション：プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己PR(1)【自分を伝える】
- 3回 自己PR(2)【情報を整理する】
- 4回 自己PR(3)【スピーチの準備をする】
- 5回 自己PR(4)【スピーチをする】
- 6回 自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
- 7回 ブック・トーク(1)【情報を探す】
- 8回 ブック・トーク(2)【情報を読んで伝える】
- 9回 ブック・トーク(3)【アウトラインを書く】
- 10回 ブック・トーク(4)【ポスター発表を準備する】
- 11回 ブック・トーク(5)【発表する】
- 12回 ブック・レポート(1)【書く】
- 13回 ブック・レポート(2)【内容を検討する】
- 14回 ブック・レポート(3)【表現や形式を点検する】
- 15回 総括【全体を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・ラーニング 相互リソース化 批判的思考の獲得 社会的関係の構築

日本語VII【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIでは、日本語で読むことを中心とする。特に、大学で必要なクリティカル・リーディング(批判的な読み)ができるようになることを目標とする。書かれたテキストに対して正確に読み取った上で、さらに複眼的な視点から検討するための思考技術を養成する。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『読む力(中上級)』(奥田純子他、くろしお出版)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【クリティカル・リーディング/複眼思考レッスン】
- 2回 私のニュースの読み方
- 3回 価値の一様性
- 4回 言葉の起源をもとめて
- 5回 経済学とは何か
- 6回 思いやり
- 7回 住まい方の思想
- 8回 決まった道はない。ただ行き先があるのみだ
- 9回 メディアがもたらす環境変容に関する意識調査
- 10回 改訂 介護概論
- 11回 ことばの構造、文化の構造
- 12回 観光で行きたい国はどこ
- 13回 化粧する脳
- 14回 クリティカル・リーディングを磨こう
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% 課題...40% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えていてください。
日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

クリティカル・リーディング ピア・ラーニング 複眼的思考

日本語VII【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIでは、日本語で読むことを中心とする。特に、大学で必要なクリティカル・リーディング(批判的な読み)ができるようになることを目標とする。書かれたテキストに対して正確に読み取った上で、さらに複眼的な視点から検討するための思考技術を養成する。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『読む力(中上級)』(奥田純子他、くろしお出版)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【クリティカル・リーディング/複眼思考レッスン】
- 2回 私のニュースの読み方
- 3回 価値の一様性
- 4回 言葉の起源をもとめて
- 5回 経済学とは何か
- 6回 思いやり
- 7回 住まい方の思想
- 8回 決まった道はない。ただ行き先があるのみだ
- 9回 メディアがもたらす環境変容に関する意識調査
- 10回 改訂 介護概論
- 11回 ことばの構造、文化の構造
- 12回 観光で行きたい国はどこ
- 13回 化粧する脳
- 14回 クリティカル・リーディングを磨こう
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% 課題...40% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えてみてください。
日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

クリティカル・リーディング ピア・ラーニング 複眼的思考

日本語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIIでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけでなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る/課題の条件を確認する】
- 2回 レポートとは何かを考える【論証型レポート/根拠の大切さを知る】
- 3回 レポートのテーマを考える【構想マップ/練る】
- 4回 情報をカード化する【情報の信頼性/調べる】
- 5回 目標を仮に規定する【情報の整理/絞る】
- 6回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 7回 パラグラフライティング【中心文/説明文・指示文】
- 8回 パラグラフライティング【引用/引用文献リスト】
- 9回 文章を点検する【校正/表現の点検】
- 10回 文章を点検する【形式の点検/ピア・レスポンス】
- 11回 レポートの完成【体裁】
- 12回 発表を準備する【発表の意義・レジユメの作成】
- 13回 発表する【話し手/聴き手/司会】
- 14回 発表を踏まえてレポートを修正する【最終稿提出】
- 15回 学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% 課題...40% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えてみてください。
日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

日本語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIIでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけでなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る/課題の条件を確認する】
- 2回 レポートとは何かを考える【論証型レポート/根拠の大切さを知る】
- 3回 レポートのテーマを考える【構想マップ/練る】
- 4回 情報をカード化する【情報の信頼性/調べる】
- 5回 目標を仮に規定する【情報の整理/絞る】
- 6回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 7回 パラグラフライティング【中心文/説明文・指示文】
- 8回 パラグラフライティング【引用/引用文献リスト】
- 9回 文章を点検する【校正/表現の点検】
- 10回 文章を点検する【形式の点検/ピア・レスポンス】
- 11回 レポートの完成【体裁】
- 12回 発表を準備する【発表の意義・レジユメの作成】
- 13回 発表する【話し手/聴き手/司会】
- 14回 発表を踏まえてレポートを修正する【最終稿提出】
- 15回 学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% レポート・発表...40% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えていてください。
日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、3つの論文を題材とする。これらの題材をクラス内で議論しながら、最終的には一人ひとりが自分にとっての文化をレポートとしてまとめていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上弘美 『あるようなないような』 中公文庫
河合隼雄 「『母性』と『父性』の間をゆれる」 『国語総合』 大修館書店
細川英雄 『日本語教育と日本事情 - 異文化を超える - 』 明石書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「境目」を読む
- 3回 「境目」について話し合う
- 4回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
- 5回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
- 6回 「ことばと文化を結ぶために」を読む
- 7回 「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
- 8回 文化観を比較する
- 9回 レポートの作成(1)私にとって文化とは何か
- 10回 ピア・リーディング(1)クラスメートのレポートを読んでコメントする
- 11回 授業外学生とのレポート交換活動
- 12回 ピア・リーディング(2)授業外学生からのコメントを読む
- 13回 レポートの作成(2)修正する
- 14回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50% 自己評価 ... 30% ピア評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講者が多数の場合、2年次以上の学生を優先します。
授業外学生との作文交換活動を行います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化 比較 交換

日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

日本事情(人文)Bでは、現代日本人に通ずる伝統文化「茶道」「歌舞伎」を通して、「日本社会・日本文化・日本人とは何か」を考える。そして、文化を理解する視点を持つことで、グローバル化した現代社会の中で、時代に流されない生き方を模索する。具体的には、日本の伝統芸能である「茶道」や「歌舞伎」を主たる題材として、体験学習を行う。その過程で立ち昇る日本文化について、クラス内で議論を重ねて行く。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをもう一つのねらいとする。授業では、日本語の古語があまり得意ではない受講者のために、できるだけ視覚的聴覚的に工夫を凝らすことで理解を促進する。

教科書 /Textbooks

毎回プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『茶の湯六ヶ国語会話』(淡交社編集局、淡交社)
- 『「お茶」の学びと人間教育』(梶田勲一、淡交社)
- 『表千家茶道十二月』(千宗左、日本放送出版協会)
- 『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏、雄山閣出版)
- 『歌舞伎登場人物事典』(古井戸秀夫、白水社)
- 『歌舞伎のびっくり満喫図鑑』(君野倫子、小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【伝統文化】【現代生活】
- 2回 茶道(1)茶道の世界をのぞく【茶室】【茶道具】【わびさびの世界】
- 3回 茶道(2)茶道から歴史を学ぶ【千利休】
- 4回 茶道(3)現代に続く伝統【工芸】【作法】
- 5回 茶道(4)体験する【薄茶をいただく】
- 6回 歌舞伎(1)歴史【江戸の町と町民文化】
- 7回 歌舞伎(2)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵大序】
- 8回 歌舞伎(3)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵三段目】
- 9回 歌舞伎(4)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵四段目】
- 10回 歌舞伎(5)現代のサムライ【切腹】【武士道】
- 11回 歌舞伎(6)忠臣蔵と現代社会【世界観】【義】
- 12回 歌舞伎(7)魅力【大衆性】【芸術性】
- 13回 伝統文化と現代社会(1)日本へ与えた影響【文化の伝承】【サブカルチャー】
- 14回 伝統文化と現代社会(2)外国へ与えた影響【文化の融合】【新しい文化】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ... 60% 自己評価 ... 20% ピア評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学期終了後ではあるが、2月に博多座へ歌舞伎鑑賞に行く予定である(希望者のみ)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から伝統的な文化(日本文化や自国文化を問わず)に興味を持っていると授業を楽しみやすいと思う。

キーワード /Keywords

茶道 歌舞伎 日本文化 自文化 異文化 伝統文化 現代生活 サブカルチャー 文化の伝承

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

授業概要

第二次世界大戦後、日本経済はどのようにして発展してきたか、発展の過程でどんな問題が生じたかを知り、今後の日本経済のあり方について考えることがこの講義の目標である。日本が経済大国になった高度経済成長の時代、石油ショックとそれを克服した時代、その後のバブル経済とその崩壊、そして“失われた10年”からの回復から現代にいたる問題をとりあげ考えていく。

到達目標

1. 第二次世界大戦後、日本経済がどのような経過をたどって現在に至ったかを理解できる。
2. 1973年、1979年の石油ショックを契機に、日本経済が大きく変わったことを理解できる。
3. 1985年のプラザ合意以降、急激な円高に直面し、対外進出を強めたことを理解できる。
4. バブル経済とその崩壊後の日本経済の諸問題について理解できる。
5. 今後の日本経済のゆくえについて述べるができる。

教科書 /Textbooks

口講義のため指定の教科書なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考図書等

- 半藤利一『昭和史』平凡社、2004年、『昭和史 戦後篇』平凡社2006年
- 井村喜代子『現代日本経済論』(有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 戦後の荒廃から復興へ

- ①第2次世界大戦後の日本経済 - 戦災と経済の混乱

第2回 ②経済復興へ - 戦後の諸改革

省エネ・省力、ファクトリー・オートメーション、貿易・経済摩擦

第3回 ③占領下の経済から復興へ

第4回 2. 高度経済成長

- ① 高度経済成長へ

第5回 ②重化学工業の発展、国土開発政策の展開

第6回 ③経済発展と公害、四大公害訴訟

- ④円高と対外直接投資の増大・日本企業の対外進出

第7回 3. 石油ショックと低成長

- ① 石油ショックとその影響

第8回 ②“重厚長大”から“軽薄短小”へ

第9回 ③貿易・経済摩擦

第10回 ④円高と対外直接投資の増大・日本企業の対外進出

第11回 4. バブル崩壊、不況

- ①バブル経済、バブル崩壊と不況、不良債権問題

第12回 ②長引く不況 - 失業の増加、非正規労働者(パートタイマー、派遣労働者、フリーター等)の増加

第13回 ③アジア諸国、中国経済の発展と日本経済

第14回 5. 現在の日本経済の諸問題

- ①少子高齢化社会保障

第15回 ②財政危機と国民生活

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度20%、レポート30%、期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ

- ・新聞の経済、政治、社会面を毎日読むようにしてほしい。重要な内容の記事は、切り抜いてレポート、報告等に利用する。
- ・講義であげる参考文献を読むようにしてほしい。

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

日本は公的医療制度たる国民皆保険制度のおかげで、世界一の長寿国となった。男性は79歳、女性は86歳である。しかし医療費が年間30兆円を超えて財政難に直面している。

日本の将来の公的医療制度は如何にあるべきか。解答を得るために世界各国から来ている留学生に自国の公的医療制度を語ってもらう。その上でどの医療制度が我が国に最適かについて考えることができるようになる。

教科書 /Textbooks

留学生の説明を元に講義を行うので教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示するが、さしあたり、池上直己『ベーシック 医療問題』(日本経済新聞社)を挙げておく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本、イギリス、アメリカの医療制度の特徴
- 第2回 イギリスのNHS(ナショナル・ヘルスサービス)の歴史展開過程
- 第3回 第2次世界大戦とヘバリッジ報告書
- 第4回 大戦後のアトリー労働政権と福祉国家政策
- 第5回 ベバン保健大臣とNHS発足
- 第6回 NHSの組織とヘルスセンターの役割
- 第7回 サッチャー政権とNHS改革(1)
- 第8回 サッチャーの経済改革(2)
- 第9回 トニー・ブレア労働党のNHS改革
- 第10回 アメリカの医療制度
- 第11回 クリントンの医療改革
- 第12回 戦後日本経済史
- 第13回 国民皆保険制度の確立とその特徴
- 第14回 国民会保険制度の問題点
- 第15回 老人介護

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度20%、レポート20%、定期試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

新聞を毎日読んで 自国の政治や経済、社会文化に目を通しておくこと。特に公的医療制度の変更事項には注意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本法制史【昼】

担当者名 /Instructor 山口 亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本法制史の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本法制史上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、それらを検討する中で、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	社会が抱える諸問題に対する自らの関心を高め、歴史的な日本法の考え方や制度を学ぶことにより、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本法制史

LAW312M

授業の概要 /Course Description

本講義は、わが国における「法」のあり方、すなわち成文の法規・法典と呼ぶべきものだけでなく、それぞれの時代において「法」なるものがどのように考えられていたかについて、古代から近現代に至るまでのそれぞれの時代における国家や社会のあり方にも意識を置きつつ見通していく。またあわせて、諸外国法のわが国に与えた影響や、それらの法と我が国の法との比較にも積極的に触れていく。

教科書 /Textbooks

浅古弘・伊藤孝夫・植田信廣・神保文夫編『日本法制史』(青林書院・2010年)
※基本的にレジュメ(資料)と板書によって講義を進め、適宜上記テキストを参照する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

水林彪・大津透・新田一郎・大藤修編『法社会史』(山川出版社・2001年)
※このほか、講義中に適宜紹介していく。

日本法制史【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス (この講義について)
- 2 古代(1)【「法」の起源】
- 3 古代(2)【律令法】
- 4 古代(3)【公家朝廷法】
- 5 中世(1)【中世の土地と国家】
- 6 中世(2)【鎌倉幕府の法】
- 7 中世(3)【鎌倉幕府の訴訟とその手続】
- 8 中世(4)【室町期の法と裁判】
- 9 中世(5)【戦国期の法と裁判】
- 10 近世(1)【江戸幕府の法源と統治組織】
- 11 近世(2)【土地制度】
- 12 近世(3)【親族・相続法】
- 13 近世(4)【刑事法】
- 14 近世(5)【裁判制度】
- 15 前近代法から近代法へ
- 16 幕末～明治期の西欧法の受容
- 17 中央権力機構の形成と法
- 18 近代司法制度
- 19 近代裁判制度
- 20 明治憲法の形成
- 21 明治憲法体制の展開
- 22 刑事法(1)【近代刑法の形成】
- 23 刑事法(2)【明治時代の罪と罰】
- 24 陪審法制
- 25 訴訟法制の近代化
- 26 民事法(1)【民法典の編纂・民法典論争】
- 27 民事法(2)【土地法制・財産法制】
- 28 社会法制の形成と展開
- 29 近代法から現代の法へ
- 30 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

以下の諸点を総合的に判断し、評価を行う。

1. 平常の学習状況 (進行により、理解度を調べるためコメントカードを用いて小テストを行うことがある) (全体の30%)
2. 講義全体の内容についての期末テスト (全体の70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各時代につき、まず自分がその時代の「法」についてどのようなイメージを持っているかについて(漠然とでよいので)思い浮かべた上で、参考図書を読み解きながら、当初のイメージと「法」のあり方について比較検討を試みられたい。

- ・ 受講のマナーを守るよう心がけること。場合によっては、減点の対象とする。
- ・ 質問・相談はオフィスアワー等で随時受け付ける。eメールで問い合わせる場合は、ウェブメール(Hotmailやgmail等)あるいは大学メールアドレス等を利用し、件名欄に用件を簡潔に明記すること(携帯キャリアのメールの利用はこちらからの返信の際にエラーが発生する可能性があるため、使用を控えること)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法犯罪各論I【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑法各論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における犯罪の成否に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法犯罪各論I

LAW230M

授業の概要 /Course Description

「刑法各論の体系的展開」(Criminal Law in Particular Crimes)

この講義が対象とする刑法各論は、殺人罪や窃盗罪という個別の具体的な犯罪の成立要件を、個々の犯罪ごとに明らかにする法領域である。刑法犯罪各論Iにおいては、個人的法益に対する罪のうち人身に対する罪（財産罪を除く。）と国家的法益に対する罪を取り上げる。具体的事例をもとに、刑法各論の基本概念、および各犯罪類型の要件解釈論を検討して、その重要問題を考察するとともに、論理的思考力を修得することを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメとワークシートを配布する。テキストの選択は受講者の任意に委ねる。各自が現在使用している基本書（著者を問わない。）、および『法学六法』（信山社出版）、『デイリー六法』（三省堂）、『ポケット六法』（有斐閣）といった「最新の」六法を必携のこと（種類・出版社を問わない。）。

《推奨》山中敬一『刑法概説II各論』（東京：成文堂・2008.10）。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library:○)

《入門書》

○井田良『基礎から学ぶ刑事法（有斐閣アルマ）』5版（東京：有斐閣・2013.12）。

○山口厚『刑法入門（岩波新書）』（東京：岩波書店・2008.06）。

《刑法各論》

井田良『入門刑法学・各論（法学教室Library）』（東京：有斐閣・2013.12）。

○西田典之『刑法各論（法律学講座双書）』6版（東京：弘文堂・2012.03）。

《刑法総論》

井田良『入門刑法学・総論（法学教室Library）』（東京：有斐閣・2013.12）。

○山中敬一『刑法概説I総論』（東京：成文堂・2008.10）。

○井田良『講義刑法学・総論』（東京：有斐閣・2008.12）。

《論点集・判例集》

○西田典之 / 山口厚〔編〕『刑法の争点（新・法律学の争点シリーズ）』（東京：有斐閣・2007.10）。

○阿部純二ほか〔編〕『刑法基本講座 1～6巻』（東京：法学書院・1992.10～1994.10）。

曾根威彦 / 日高義博〔編〕『基本判例5 刑法総論』2版（東京：法学書院・2006.07）。

曾根威彦 / 日高義博〔編〕『基本判例6 刑法総論』2版（東京：法学書院・2006.07）。

西田典之 / 山口厚 / 佐伯仁志〔編〕『刑法判例百選I総論（別冊ジュリスト189号）』6版（東京：有斐閣・2008.02）。

西田典之 / 山口厚 / 佐伯仁志〔編〕『刑法判例百選II各論（別冊ジュリスト190号）』6版（東京：有斐閣・2008.03）。

刑法犯罪各論I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1) レジユメとワークシートを配布する(ウェブサイトから各自がダウンロードする。)
 (2) テキスト(基本書)の該当箇所を熟読したうえで、疑問点、よく判らない箇所にマーキングをし、できれば講義該当箇所の記載内容を要約して講義に臨んで欲しい。
 (3) 各回の講義テーマから重要な論点を選択し、具体的事例を提示する。ワークシートでは、その事例を解決するために考えなければならない「問題」を提示するので、関連事項を調べて問題に解答しておいて欲しい。講義においては、それらの「問題」を履修者に問い、対話のなかで論理的思考力を養っていきたいと考えている。履修者の活発な発言に期待する。

※履修者の理解度その他の理由により進捗状況が前後することがある。

- 1回 ガイダンス・刑法各論の基礎
- 2回 生命に対する罪(1)殺人罪・墮胎罪(人の始期と終期)
- 3回 生命に対する罪(2)自殺関与罪
- 4回 生命に対する罪(3)遺棄罪(遺棄概念と遺棄罪の種類)
- 5回 身体に対する罪(1)暴行罪と傷害罪①(暴行行為の性質・傷害概念)
- 6回 身体に対する罪(2)暴行罪と傷害罪②(傷害罪の故意・同時傷害の特例)
- 7回 自由に対する罪(1)逮捕監禁罪・脅迫罪・略取誘拐罪
- 8回 自由に対する罪(2)強姦罪・強制わいせつ罪
- 9回 私生活の平穩に対する罪 住居侵入罪・秘密侵害罪
- 10回 名誉・信用に対する罪(1)名誉毀損罪と侮辱罪
- 11回 名誉・信用に対する罪(2)信用毀損罪・業務妨害罪
- 12回 国家の存立に対する罪 内乱罪・外患誘致罪・私戦予備陰謀罪
- 13回 国家の作用に対する罪(1)公務執行妨害罪・逃走罪・犯人蔵匿罪・証拠隠滅罪
- 14回 国家の作用に対する罪(2)偽証罪・虚偽告訴罪・職権濫用罪
- 15回 国家の作用に対する罪(3)賄賂罪の基礎・収賄罪の諸類型・贈賄罪

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%
 随時実施する小テストの成績を成績評価において考慮する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

レジユメとワークシートを配布する予定である。講義に臨んでしっかりとノートを取ることはもちろんのこと、予習(基本書の該当箇所を熟読してから講義に臨む)・復習(講義ノートを整理して、不足事項を基本書で補う)を十分に行うようにしよう。
 この講義では、「刑法総論」を理解していることを前提に講義を行う。そこで、この科目を受講する前に、前提とされる「刑法犯罪論」を受講しておくことを強く推奨する。また、この科目を承継する「刑法犯罪各論II」、および関連する他の刑事法系科目を受講することを勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

犯罪の成否とその根拠という共通の関心についても、種々の考え方があることを知り、どのようにして問題を説得的に説明していくのか、その方法の一端を学んで頂ければと思います。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 刑法各論 犯罪論

刑法犯罪各論II 【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑法各論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における犯罪の成否に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法犯罪各論II

LAW330M

授業の概要 /Course Description

「刑法各論の体系的展開」(Criminal Law in Particular Crimes)

この講義が対象とする刑法各論は、殺人罪や窃盗罪という個別の具体的な犯罪の成立要件を、個々の犯罪ごとに明らかにする法領域である。刑法犯罪各論IIにおいては、刑法犯罪各論Iに続けて、個人的法益に対する罪のうち財産罪と社会的法益に対する罪を取り上げる。具体的事例をもとに、刑法各論の基本概念、および各犯罪類型の要件解釈論を検討して、その重要問題を考察するとともに、論理的思考力を修得することを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメとワークシートを配布する。テキストの選択は受講者の任意に委ねる。各自が現在使用している基本書（著者を問わない。）、および『法学六法』（信山社出版）、『デイリー六法』（三省堂）、『ポケット六法』（有斐閣）といった「最新の」六法を必携のこと（種類・出版社を問わない。）。

《推奨》山中敬一『刑法概説II各論』（東京：成文堂・2008.10）。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library:○)

《入門書》

○井田良『基礎から学ぶ刑事法(有斐閣アルマ)』5版(東京：有斐閣・2013.12)。

○山口厚『刑法入門(岩波新書)』(東京：岩波書店・2008.06)。

《刑法各論》

井田良『入門刑法学・各論(法学教室Library)』(東京：有斐閣・2013.12)。

○西田典之『刑法各論(法律学講座双書)』6版(東京：弘文堂・2012.03)。

《刑法総論》

井田良『入門刑法学・総論(法学教室Library)』(東京：有斐閣・2013.12)。

○山中敬一『刑法概説I総論』(東京：成文堂・2008.10)。

○井田良『講義刑法学・総論』(東京：有斐閣・2008.12)。

《論点集・判例集》

○西田典之/山口厚〔編〕『刑法の争点(新・法律学の争点シリーズ)』(東京：有斐閣・2007.10)。

○阿部純二ほか〔編〕『刑法基本講座 1～6巻』(東京：法学書院・1992.10～1994.10)。

曾根威彦/日高義博〔編〕『基本判例5 刑法総論』2版(東京：法学書院・2006.07)。

曾根威彦/日高義博〔編〕『基本判例6 刑法総論』2版(東京：法学書院・2006.07)。

西田典之/山口厚/佐伯仁志〔編〕『刑法判例百選I総論(別冊ジュリスト189号)』6版(東京：有斐閣・2008.02)。

西田典之/山口厚/佐伯仁志〔編〕『刑法判例百選II各論(別冊ジュリスト190号)』6版(東京：有斐閣・2008.03)。

刑法犯罪各論II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1) レジユメとワークシートを配布する (ウェブサイトから各自でダウンロードする。)。
 (2) テキスト (基本書) の該当箇所を熟読したうえで、疑問点、よく判らない箇所にマーキングをし、できれば講義該当箇所の記載内容を要約して講義に臨んで欲しい。
 (3) 各回の講義テーマから重要な論点を選択し、具体的事例を提示する。ワークシートでは、その事例を解決するために考えなければならない「問題」を提示するので、関連事項を調べて問題に解答しておいて欲しい。講義においては、それらの「問題」を履修者に問い、対話のなかで論理的思考力を養っていきたいと考えている。履修者の活発な発言に期待する。

※履修者の理解度その他の理由により進捗状況が前後することがある。

- 1 回 ガイダンス・ 財産罪 (1) 財産罪の基礎と窃盗罪①
- 2 回 財産罪 (2) 財産罪の基礎と窃盗罪②
- 3 回 財産罪 (3) 毀棄隠匿罪
- 4 回 財産罪 (4) 強盗罪
- 5 回 財産罪 (5) 強盗罪の諸問題 (事後強盗・ 強盗致死傷罪)
- 6 回 財産罪 (6) 詐欺罪・ 恐喝罪
- 7 回 財産罪 (7) 詐欺罪の諸類型
- 8 回 財産罪 (8) 横領罪・ 背任罪
- 9 回 財産罪 (9) 盗品関与罪
- 1 0 回 公共危険罪 (1) 騒乱罪・ 多衆不解散罪・ 出水罪・ 水利妨害罪・ 往来妨害罪
- 1 1 回 公共危険罪 (2) 放火罪・ 失火罪 (放火罪の基礎・ 焼損)
- 1 2 回 公共危険罪 (3) 放火罪・ 失火罪 (公共危険の発生とその認識)
- 1 3 回 公共の信用に対する罪 (1) 文書偽造罪 (文書偽造罪の基礎・ 文書概念・ 偽造概念)
- 1 4 回 公共の信用に対する罪 (2) 通貨偽造罪・ 有価証券偽造罪
- 1 5 回 風俗に対する罪 わいせつ罪・ 重婚罪・ 賭博罪・ 死体損壊遺棄罪

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 1 0 0 %
 随時実施する小テストの成績を成績評価において考慮する場合もある。

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

レジユメを配布する予定である。講義に臨んでしっかりとノートを取ることはもちろんのこと、予習 (基本書の該当箇所を熟読してから講義に臨む。) ・ 復習 (講義ノートを整理して、不足事項を基本書で補う。) を十分に行うようにしよう。
 この講義では、「刑法総論」を理解していることを前提に講義を行う。そこで、この科目を受講する前に、前提とされる「刑法犯罪論」および「刑法犯罪各論I」を受講しておくことを強く推奨する。また、この科目を受講した後に、「刑事訴訟法総論・ 各論」、「犯罪学」および「刑事司法政策I・ II」を、さらに関連する他の刑事法系科目を受講することも勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

犯罪の成否とその根拠という共通の関心についても、種々の考え方があることを知り、どのようにして問題を説得的に説明していくのが、その方法の一端を学んで頂ければと思います。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 刑法各論 犯罪論

親族法 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 親族法に関わる諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 親族法をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、親族法の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

親族法

LAW264M

授業の概要 /Course Description

民法第四編親族が主な講義の内容です。民法第五編相続の概要も説明します。婚姻、離婚、親子、親権、後見、扶養、相続を規律の対象とする家族法（親族法・相続法）はとても身近な内容をもっています。それだけに、人はともすると、一般常識によって問題を解決できると思いがちです。民法は、長い間の人間の経験の積み重ね、歴史の所産ですから、われわれは現行制度の歴史的位置づけを学ばなければなりませんし、判例を通じて生きた法の姿を学ぶ努力を怠ってはなりません。

教科書 /Textbooks

木幡文徳他著『講読親族法・相続法[第2版]』不磨書房 / 信山社 2007年 3,000円
水野紀子他編著『家族法判例百選（第7版）』有斐閣 2008年 2,286円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 泉久雄『親族法』有斐閣 1997年 3,500円
- 泉久雄他編著『家族法基本判例32選』信山社 2005年 2,625円
- 窪田充見『家族法』有斐閣 2011年 4,000円
- 中川善之助＝泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣 2000年 6,000円
- 有地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社 2005年 3,800円
- 二宮周平『家族法（第3版）』新世社 2009年 3,200円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 家族法を学ぶための基礎知識【家族の機能】【家族法の独自性】【親族関係】
- 2回 婚姻制度①【婚姻制度史】【婚約】
- 3回 婚姻制度②【内縁】【婚姻の成立】
- 4回 婚姻制度③【婚姻の効果】
- 5回 離婚制度①【離婚制度史】【協議離婚】
- 6回 離婚制度②【裁判離婚】【裁判離婚】
- 7回 離婚制度③【離婚の一般的效果】【親権者決定】【面会交流】
- 8回 離婚制度④【離婚の財産的效果】【財産分与】
- 9回 親子制度①【実子】【嫡出推定】【認知】
- 10回 親子制度②【養子】
- 11回 親子制度③【親権】【後見】
- 12回 扶養制度【扶養義務】【生活保持】【生活扶助】
- 13回 法定相続制度①【相続人】【相続分】【相続財産】
- 14回 法定相続制度②【単純承認】【相続放棄】【遺産分割】
- 15回 遺言相続制度【遺言】【遺言執行】【遺留分】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20% 定期試験... 80%

親族法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「法律の読み方」「民法総則」、「物権法」「債権各論」を履修している場合は、本講義の内容の理解を一層深めることができます。「債権総論」と併せて受講することを勧めます。
講義には必ず六法を持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

キーワード /Keywords

親族、婚姻、婚約、内縁、協議離婚、裁判離婚、実子、養子、親権、後見、扶養、相続人、相続分、遺産分割、遺言、遺留分

相続法 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 相続法に関する諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 相続法をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える民法に関する諸問題に対して、相続法の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相続法

LAW265M

授業の概要 /Course Description

民法第五編相続が講義の内容です。家族法（親族・相続法）の後半部分にあたります。現行の法定相続制度や遺言相続制度の歴史的位置づけを明らかにするとともに、判例理論や学説の紹介を織り込みながら、現行相続法上の問題点をできるだけ平易に解説します。

教科書 /Textbooks

木幡文徳他著『講読親族法・相続法[第2版]』不磨書房 / 信山社 2007年 3,000円
水野紀子他編著『家族法判例百選（第7版）』有斐閣 2008年 2,286円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中川善之助＝泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣 2000年 6,000円
- 泉久雄他編著『家族法基本判例32選』信山社 2005年 2,625円
- 窪田充見『家族法』有斐閣 2011年 4,000円
- 有地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社 2005年 3,800円
- 二宮周平『家族法（第3版）』新世社 2009年 3,200円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 相続制度の意義、相続の形態【法定相続】【遺言相続】【相続の機能・根拠】
- 2回 相続人①【法定相続人】【相続欠格】
- 3回 相続人②【廃除】【代襲相続】【相続人不存在】【特別縁故者】
- 4回 相続分①【指定相続分】【法定相続分】
- 5回 相続分②【特別受益者】【寄与分】【相続分の譲渡】
- 6回 相続の承認と放棄①【相続の仕方】【熟慮期間】【単純承認】
- 7回 相続の承認と放棄②【限定承認】【相続放棄】
- 8回 相続回復請求・相続財産①【相続回復請求権】【遺産承継の原則】【遺産の範囲】
- 9回 相続財産②【遺産の範囲】【遺産承継の例外】
- 10回 相続財産③【遺産の共有】【遺産管理】
- 11回 遺産分割①【遺産分割の前提問題】【遺産分割の方法】
- 12回 遺産分割②・財産分離【遺産分割禁止】【遺産分割の効力】【第一種財産分離】【第二種財産分離】
- 13回 遺言【遺言の方式】【遺言の効力】
- 14回 遺言の執行【遺言書の検認】【遺言執行者】
- 15回 遺留分【遺留分の算定】【遺留分減殺請求権】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20% 定期試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

相続法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「民法総則」、「物権法」「債権各論」「債権総論」「親族法」を履修していると理解が一層深まります。また、「担保物権法」と併せて受講することを勧めます。
講義には必ず六法を持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。
「親族法」も受講することによって、家族法の全体像を理解し、現在の家族、これからの家族関係のあるべき姿を考えていただきたいと思っています。

キーワード /Keywords

相続人、相続欠格、相続人の廃除、代襲相続、特別縁故者、指定相続分、法定相続分、特別受益、寄与分、単純承認、限定承認、放棄、相続回復請求、遺産共有、遺産管理、遺産分割、財産分離、遺言、遺贈、遺言執行、遺留分

企業活動と法 【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 企業法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱えている、企業法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業活動と法

LAW273M

授業の概要 /Course Description

ビジネスには様々な法律が関係してきます。「商法」は、企業法として、個人であれ、法人であれ、およそビジネスを行う主体やその活動自体を規律する法です。

本講義のねらいは、『商法典』という法体系の中から、特に、「商法総則」「商行為編」部分、『会社法典』中の「会社法総則」部分に関わる重要な法律問題（課題）をいくつか取り上げ、これらにつき法解釈論上ならびに立法論上の解説を行うことです。また、必要な限りで、『不正競争防止法』などが特別に定めているルールについても触れる予定です。

以上を通して、現代型企業ビジネスが抱えている問題に関心をもち、法解釈や立法でどのような解決が可能であるかについて、自ら考える能力を高めることが最終目標となります。

教科書 /Textbooks

テキストについては、最初の講義で指示します。

六法については、最新版であることが望ましいです（毎回、必ず持参してください）。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、最初の講義時、ならびに、必要に応じて随時、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概略、以下の順で進みますが、受講生の理解度等により進度・順番が変わりうることをご了解願います。

(【 】はキーワード)

- 第1回 商法の学習法—新聞を読もう！ 民法との関連を見よう！ 条文に立ち返ろう！
- 第2回 民法に対する商法の特徴は？【営利性】【外観主義】【公示主義】
- 第3回 企業活動と消費者（1）【普通取引約款の利用】
- 第4回 商人とは何か【固有の商人】【擬製商人】【会社】
- 第5回 商行為とは何か【絶対的商行為】【相対的商行為】【附属的商行為】
- 第6回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール（1）【商号・商標】
- 第7回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール（2）商法総則・会社法総則による保護
- 第8回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール（3）不正競争防止法上の保護【周知性・著名性】
- 第9回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール（4）名板貸人の責任
- 第10回 現代型取引と名板貸制度【フランチャイズ】【ショッピングモール】
- 第11回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題（1）【商業使用人とは何か】
- 第12回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題（2）【支配人の権限】【支配人の権限濫用】
- 第13回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題（3）【表見支配人】【その他の商業使用人】【支配人の義務】
- 第14回 営業・事業譲渡をめぐる法律問題
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義期間中に実施予定の小テスト・レポート20% 期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

企業活動と法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本講義が対象とする「商法」は、私人間の取引活動を規律する基本法としての『民法』を、ビジネス世界により適合するように、補完・修正したものです。従って、民法の財産法に関わる科目をすでに受講しているか、または、並行して受講する場合は、本講義の理解がより容易にかつ深いものになります。
配布される資料は、必ず、ファイリングした上で、前回以前に受領したのもも持参の上、講義を受けるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力論I【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際政治経済の一領域として国際協力を捉え、専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	国際協力分野における情報を収集し、分析や調査ができる。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際協力論 I

IRL211M

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際開発援助の視点から途上国が抱える諸課題について学習します。まずは、政府開発援助の仕組みとその役割、国際開発援助レジームの発展についての専門的知識を学びます。次に、個別の 이슈ごとによどのような取り組みが行われているのかを学びます。

教科書 /Textbooks

○勝間靖編『テキスト国際開発論』ミネルヴァ書房、2012年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

下村恭民他『開発援助の経済学(第4版)』有斐閣、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 国際開発援助の歴史的発展 1 (1960年代～1970年代)
- 第2回 国際開発援助の歴史的発展 2 (1980年代～現在)
- 第3回 国際開発援助レジームの発展と限界
- 第4回 日本のODAの仕組みと働き
- 第5回 日本のODAの理念と問題点
- 第6回 貧困問題を捉える視点
- 第7回 貧困の克服に向けた取り組み
- 第8回 飢餓と食糧安全保障
- 第9回 健康問題と感染症
- 第10回 途上国における教育問題
- 第11回 途上国におけるジェンダーの問題
- 第12回 国際開発における国連の役割
- 第13回 国際開発におけるNGOの役割
- 第14回 援助を超える議論 - BOP、CSR -
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回) ... 30% 学期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

国際協力論I 【昼】

履修上の注意 /Remarks

国際協力機構（JICA）や経済開発協力機構（OECD）のホームページを日頃から参照しておく、本講義の内容が理解しやすくなります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。遅刻や途中退室も他の受講生の迷惑になるので禁止します。

キーワード /Keywords

国際協力論II 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	平和構築における開発の役割について理解し、専門的知識を有している。
技能	専門分野のスキル	●	平和構築における開発の役割について情報を収集し、分析することができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際協力論II

IRL212M

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力として取り組むべき課題のなかでも、1990年代以降活発に議論されている平和構築について学習し専門的知識を身につけます。また、国際社会が新たな脅威に対してどのように対応しているのか、その際にどのような課題があるのかについても学習します。後半部分では紛争再発予防における開発の役割に焦点を当てます。

教科書 /Textbooks

篠田英朗『平和構築入門』ちくま新書、2013年。
○月村太郎『民族紛争』岩波新書、2013年。
○リンダ・ボルマン『クライシス・キャラバン - 紛争地における人道援助の真実』東洋経済新報社、2012年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○メアリー・B・アンダーソン『諸刃の援助 - 紛争地での援助の二面性』明石書店、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 冷戦の終結と新しい戦争
- 第2回 国家の破綻と崩壊1 - ユーゴスラヴィアのケース①【ユーゴ崩壊の過程】
- 第3回 国家の破綻と崩壊1 - ユーゴスラヴィアのケース②【ユーゴ崩壊の要因】
- 第4回 国家の破綻と崩壊1 - ユーゴスラヴィアのケース③【ビデオ】【ディスカッション】
- 第5回 国家の破綻と崩壊2 - ルワンダのケース①【ルワンダ内戦の経緯】
- 第6回 国家の破綻と崩壊2 - ルワンダのケース②【ビデオ】【ディスカッション】
- 第7回 国家の破綻と崩壊3 - ソマリアのケース①【ソマリア内戦の経緯】
- 第8回 国家の破綻と崩壊3 - ソマリアのケース②【ビデオ】【ディスカッション】
- 第9回 P K Oの妾容と限界
- 第10回 「人道的介入」から「保護する責任」論へ
- 第11回 平和構築アプローチ
- 第12回 紛争後復興における開発の役割
- 第13回 Do No Harm原則①
- 第14回 Do No Harm原則②
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 (レポート) ... 3 0 % 学期末試験... 7 0 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

国際協力論II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

新書や文庫で紛争地のルポルタージュなどを読んでおくと講義の理解に役立ちます。
JICAのホームページから『課題別指針 平和構築』（2009年）をダウンロードして読んでおくと、講義の後半部分の理解に役立ちます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。遅刻や途中退室も他の受講生の迷惑になるので禁止します。

キーワード /Keywords

地球環境論 【昼】

担当者名 松本 治彦 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地球環境に関して、専門的な知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	地球環境についての情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地球環境論

ENW200M

授業の概要 /Course Description

最近の新聞で話題となっていること、例えば「ヒッグス粒子発見と発表?」「暗黒物質が見つかるか?」「生命起源は地球外?」「地球温暖化問題は本当?」「太陽活動が低下?」「人類最古のDNA解読」「炭素革命から水素革命へ」「PM2.5?」「ナノマシン?」などの記事が載っています。これらの内容をどのように理解すればよいのか?難しい世の中になりました。「理系の人間だからこれくらいのことには理解しているでしょう」とか、「文系の人間だから知らなくて当然です」と言いたくなるかもしれませんが、しかし、今の社会では、これら情報の理解度と真偽の判断が、各人のその後の人生に影響を及ぼすことがあります。

そこで、この授業では、受講する皆さんが地球の環境(地球の現在・過去・未来)について考える際に、知っておくべき自然科学系の話をします(もちろん、社会科学系の話もします)。この授業の最も重要なことは「事実と意見」の区別と「時間と空間のスケール」を常に考えながら話を聞いていただくことです。なるべく、数式や化学式を使わないように話していきますが、これらを利用する際には、基本的な話からはじめて、理解しやすいように工夫をしています。この授業の受講後には、新聞で毎日のように取り上げられている自然科学系(地球の環境も含めて)の記事の内容がある程度、理解できるようになることを期待しています。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しません。配布資料に沿って授業を進めます(パワーポイントを利用します)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書については、第1回目の講義で資料を基に説明します。

地球環境論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回「地球の歴史、何がわかっているの？そして、未来は？」【事実と意見の区別】【科学の特徴】【時間と空間のスケール】【基本単位を知る】【授業概要】【参考図書を紹介】
- 2 回「宇宙の始まり」【ビックバンとインフレーション】【自然の大きさ】【質量と重さ】【素粒子】【4つの力】【電磁波】
- 3 回「地球の誕生・生物の誕生」【年代測定】【ウイルスとの共生】【ミドルワールドの世界】【光合成生物】【カンブリア爆発】【スノーボール・アースイベント】【恐竜の絶滅】
- 4 回「人間社会の形成」【ヒトの進化】【人間活動】【自然生態系と人工生態系】
- 5 回「熱収支と四季」【太陽放射と地球放射】【温室効果】【1日の最高気温は何時？】【1年で最も寒い月は？】
- 6 回「水と大気の大循環」【大気鉛直構造】【温度とは？】【大気の大循環】【海洋の深層大循環】
- 7 回「森林消失と生物種絶滅」【熱帯林の破壊】【乾燥地帯の農業】【再生への対処法】
- 8 回「オゾン層破壊・PM2.5」【紫外線】【オゾンとフロン】【オゾンホール】【光化学スモッグ】【PM2.5とは？】
- 9 回「温暖化モデルとIPCC」【スーパーコンピュータとカオス】【IPCCの作業原則】【温暖化モデルの現状】【予防原則】【最近の気温は？】
【私の見解】【天気予報】
- 10 回「間氷期・氷期サイクルと太陽活動」【南極・グリーンランドの氷床】【氷期サイクル】【ミランコビッチサイクル】【太陽活動の異変】
- 11 回「海洋・大気の周期的変動」【北極振動】【太平洋・大西洋の数十年周期の振動】【偏西風の蛇行】【エルニーニョ・ラニーニャ・南方振動】【黒潮の蛇行】
- 12 回「化石燃料から再生可能エネルギーへ」【石油・石炭・天然ガス】【シェールガス】【メタンハイドレート】【水力】【バイオ燃料】【地熱】【太陽電池】【風力】【波力】【原子力】
- 13 回「炭素社会から水素社会に」【燃料電池】【水素発電所】【水素ステーション】【人工光合成】
- 14 回「未来予測」【2050年までの取り組みが大事】【宇宙のこと】【イノベーション加速】【人口予測】【遺伝子工学】【コンピュータ技術】【軌道エレベータ】【ナノマシン】【レプリケーター】【テラフォーミング】
- 15 回「まとめ」

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で配布する質問カードへの記入（感想、質問等を記入する）30%、学期末試験70%で総合評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、授業の終わりに質問カードに質問・感想等を記入する時間を取ります。しかし、5～10分程度の短い時間ですので、皆さんは短時間で疑問点や感想を箇条書きできるように、日頃から心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、概要・授業計画をみると分かるように、広範囲な地球の環境について取り上げています。前半は自然科学系の基本的な知識を中心に理解を深めてもらいます。中ほどでは最近、話題となっている地球環境に影響を与えている自然現象や人間活動などについて「その真偽」を中心に話をします。後半は、基礎知識、最近の現象を踏まえて、これから望ましいエネルギー、社会構造、および未来の予測について、私の考えを述べます。なお、受講生の皆さんが高校の時に理系科目をあまり勉強していなくても、この授業を理解できるように工夫（たとえば、質問カードの記入）をしています。分からないことは遠慮せずにこのカードに書いてください。次回の授業では、質問に答えることが始まります。

キーワード /Keywords

「事実と意見の区別」「ミクロ・ミドル・マクロの区別」「時間・場所的スケール」「地球温暖化予測モデルの精度」「炭素社会から水素社会へ」

国際関係の争点【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 複雑な現代の国際社会の諸相を捉え、その相互関連性について理解している。
技能	専門分野のスキル	● 国際社会が抱える課題について情報を収集し、分析や調査ができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際関係の争点

IRL101M

授業の概要 /Course Description

この講義では、現代の国際社会が抱える様々な課題を取り上げ、その課題を解決するために取り組まれている諸活動を概観します。その際、単に諸問題の表層を捉えるのではなく、解決を困難にしている要因を歴史的な脈絡からも分析します。また、様々な課題が互いに関連し合っていることを横断的に捉え直すことで、複雑な現代世界の諸相を捉える視点を養います。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。随時、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

細谷千博監修、滝田賢治・大芝亮編『国際政治経済 - 「グローバル・イシュー」の解説と資料』有信堂高文社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「変化する国際政治経済秩序」【新興国】【BRICS】【G20】
- 第2回 「東アジアにおける安全保障環境の変化」(1)【米軍のリバランス戦略】【中国の海洋進出】【尖閣問題】
- 第3回 「東アジアにおける安全保障環境の変化」(2)【国家安全保障会議】【武器輸出三原則】【集団的自衛権】
- 第4回 「新しい安全保障観」【人間の安全保障】
- 第5回 「保護する責任」(1)【人道的介入】【NATO空爆】【国家主権】
- 第6回 「保護する責任」(2)【アラブの春(リビア、シリア)】
- 第7回 「人の非自発的移動」【難民】【国内避難民】
- 第8回 「アフリカ情勢」(1)【経済成長とガバナンス】
- 第9回 「アフリカ情勢」(2)【内戦と資源の罅】
- 第10回 「ジェンダー」【ジェンダー・ギャップ・インデックス】
- 第11回 「食と環境」【遺伝子組み換え作物】
- 第12回 「エネルギー問題」【原子力】【再生可能エネルギー】
- 第13回 「感染症」【HIV/AIDS】【結核】【マラリア】
- 第14回 「国家間貿易」【WTOレジーム】【TPP】【FTA/EPA】
- 第15回 「公正な貿易」【フェアトレード】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回)・・・30% 学期末試験・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

平素から新聞を読んだり、関連の新書を読むように心がけると授業内容の理解に役立ちます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。他の受講生の迷惑になりますので、途中入退室は原則として禁止します。

国際関係の争点【昼】

キーワード /Keywords

国際関係の理論【昼】

担当者名 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際関係の理解に必要な基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際関係に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際関係の理論

IRL200M

授業の概要 /Course Description

国際化やグローバル化の進展は国際関係に大きな変容をもたらしました。それは、紛争の形態が国家間戦争から内戦、テロといった錯綜した状況へと移行したこと、国家以外のアクター（国際機関や多国籍企業、国際NGO）の影響力が増大したこと、各国が単独では解決しえない「グローバル・アジェンダ」への対応の必要性に注目が集まるようになったことなどで表されます。

この授業では、このような国際社会の新たな動向と課題を理解するための方法と基礎知識の獲得をめざします。具体的には、第二次世界大戦後の冷戦期からポスト冷戦期である今日に至るまでの国際関係の流れや国際問題に焦点をあてながら、国際関係の主要な理論について学習します。

教科書 /Textbooks

テキストは特に指定せず、毎回レジユメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山田高敬、大矢根聡 [編] 『グローバル社会の国際関係論』 [新版] (有斐閣、2011年)。
- 村田晃嗣、君塚直隆、石川卓、他 [著] 『国際政治学をつかむ』 (有斐閣、2009年)
山影進 『国際関係論講義』 (東京大学出版会、2012年)
- 田中明彦、中西寛 [編] 『新・国際政治経済の基礎知識』 [新版] (有斐閣、2010年)

その他の文献・論文については授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

1. 国際関係学の誕生と展開【理想主義、現実主義】
2. 国際社会と主権国家【主権、国民国家】
3. 国際関係の分析視角【自由主義、現実主義、マルクス主義】
4. リアリズム【パワー・ポリティクス、勢力均衡】
5. ネオリアリズム【アナーキー 囚人のジレンマ】
6. リベラリズム【相互依存、機能主義】
7. ネオリベラリズム【国際レジーム・制度】
8. 前半の総括
9. コンストラクティヴィズム【理念、間主観性、アイデンティティ】
10. 安全保障体制(1)：冷戦の始まりと終焉【安全保障のジレンマ、CTBT】
11. 安全保障体制(2)：冷戦の終結と人道的介入【強制措置、人道的介入】
12. 国際貿易体制の成立と変容【GATT、WTO、FTA】
13. 国際通貨体制の成立と変容【ブレトンウッズ体制、IMF】
14. アクターとしてのNGO【規範起業家、プライベート・レジーム】
15. 講義のまとめ【グローバル化と国際社会】

国際関係の理論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト：30% ミニレポート：20% 期末試験：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日頃から国際関係に関する出来事について関心を持ち、日々新聞を読む習慣を身につけておくことを期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倫理学 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 満 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 倫理学について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 倫理に関する情報を収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

倫理学

PHR210M

授業の概要 /Course Description

社会倫理の必要性が叫ばれている現代、古代から現代に至る倫理思想の基礎を学ぶことで、グローバルな視野をもち、公正な倫理観を獲得した人材の育成に資する。社会と個人、国家と個人との関係を倫理的にとらえることに重点を置き、現代にふさわしい社会倫理を各人が確立することを意図している。

教科書 /Textbooks

各回でレジメ、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が毎回、参考文献を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン 倫理学とは何か。
- 第2回 古代ギリシャの倫理(1) ソクラテスとプラトンの倫理思想 【徳と国家】
- 第3回 古代ギリシャの倫理(2) アリストテレスの倫理思想 【賢慮と公共性】
- 第4回 キリスト教の倫理(1) イエスの倫理思想 【ユダヤ教イエス派】
- 第5回 キリスト教の倫理(2) パウロの倫理思想 【普遍化と信仰義認】
- 第6回 キリスト教の倫理(3) アウグスティヌスと聖フランチェスコの倫理思想 【信と知】
- 第7回 キリスト教の倫理(4) ルターの倫理思想 【召命と信仰義認】
- 第8回 近代の倫理思想(1) ホッブズの倫理思想 【リヴァリアンと市民】
- 第9回 近代の倫理思想(2) スピノザの倫理思想 【ラディカルな啓蒙】
- 第10回 近代の倫理思想(3) カントの倫理思想 【定言命法と人格主義】
- 第11回 近代の倫理思想(4) フィヒテの倫理思想 【自覚と相互承認】
- 第12回 近代の倫理思想(5) ヘーゲルの倫理思想 【国家と理性】
- 第13回 近代の倫理思想(6) マルクスの倫理思想 【疎外と物象化】
- 第14回 現代の倫理思想 ハーバマスの倫理思想 【討議とコミュニケーション理性】
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習状況(リアクシヨン・ペーパーを含む) 40パーセント
講義で紹介した参考文献のどれかを読んで書く期末レポート 60パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で配布した資料を読み、自分なりの整理をしておく。毎回リアクシヨン・ペーパーを書き、理解度を見るので、しっかり聴講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画を見るとむづかしそうですが、わかりやすい講義を心がけますので、わかりにくい場合にはどんどん質問して下さい。

キーワード /Keywords

ミクロ経済学I【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● ミクロ経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ミクロ経済学 I

ECN112M

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済学の入門的知識を解説する。具体的に、本講義は、「希少性から引き起こされる資源配分の問題がどのように解決されるか」という基礎的な問いに対して、基本的なミクロ経済分析ツールを用いて解答を提示し、市場メカニズムの働きやその意義などについての理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済（○）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社（○）
・ J. E. スティグリッツ（藪下史郎ほか訳）『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社（○）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：「ミクロ経済学」とは
- 2回 【市場メカニズム】（復習）、経済学と数学など
- 3回 需要、供給、および政府の施策（1）：【価格規制】
- 4回 需要、供給、および政府の施策（2）：【課税】
- 5回 市場と厚生（1）：【余剰】
- 6回 市場と厚生（2）：市場の【効率性】
- 7回 需給分析の応用（1）：【価格規制の余剰分析】
- 8回 需給分析の応用（2）：【課税の余剰分析】
- 9回 市場と企業行動(1):【生産】【費用】【長期と短期】
- 10回 市場と企業行動(2):【限界分析】【限界収入】【限界費用】
- 11回 市場と企業行動(3):【利潤最大化】、供給曲線の導出
- 12回 様々な【市場構造】
- 13回 ミクロ経済学の展開（1）：【市場メカニズムの限界】
- 14回 ミクロ経済学の展開（2）：「ミクロ経済学II」、他の分野との関連
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「経済学入門A・B」の授業内容を十分に理解しておく、本講義内容がより深く理解できるようになる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生証を持参すること。

キーワード /Keywords

経済学的考え方、市場均衡、比較静学、余剰分析、市場の効率性、市場構造、限界分析

ミクロ経済学II 【昼】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● ミクロ経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ミクロ経済学II

ECN210M

授業の概要 /Course Description

本講義は、「ミクロ経済学I」もしくは「ミクロ経済学」（旧カリ科目）の内容をベースにし、ミクロ経済学の基礎的な知識をより深く理解することを目的とする。具体的に、ここでは、消費者行動の理論と生産者行動の理論を中心に、個別経済主体の最適行動の決定から出発するミクロ経済学の論理と基本的分析手法を理解する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ編』 東洋経済 (○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子 『グラフィック ミクロ経済学』 新世社 (○)
- ・ J. E. スティグリッツ (戴下史郎ほか訳) 『スティグリッツ ミクロ経済学』 東洋経済新報社 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション: 経済と経済分析手法
- 2回 ミクロ経済学と数学: 微分・積分
- 3回 家計の理論【消費者行動の理論】(1): 消費と選好、効用
- 4回 家計の理論【消費者行動の理論】(2): 無差別曲線、予算線
- 5回 家計の理論【消費者行動の理論】(3): 【最適消費の決定】と需要曲線の導出など
- 6回 家計の理論【消費者行動の理論】(4): 需要の決定要因
- 7回 【消費者行動の理論】とその応用
- 8回 企業の理論【生産者行動の理論】(1): 企業の目的、生産、費用、利潤
- 9回 企業の理論【生産者行動の理論】(2): 等量曲線、等費用線
- 10回 企業の理論【生産者行動の理論】(3): 【最適生産の決定】と供給曲線の導出など
- 11回 【生産者行動の理論】とその応用
- 12回 市場と市場の効率性(1): 【パレート最適】
- 13回 市場と市場の効率性(2): 「厚生経済学」の基本的考え方
- 14回 ミクロ経済学再考、展開
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

新カリの受講者は「ミクロ経済学I」の授業内容を、また旧カリ（中級ミクロ経済学）の受講者は、「ミクロ経済学」の授業内容を十分に理解しておくとともに高校レベルの数学（微分・積分）の基礎的な知識について復習しておく、本講義内容がより深く理解できるようになる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生証を持参すること。

キーワード /Keywords

消費者行動理論、生産者行動理論、パレート最適、厚生経済学

マクロ経済学I【昼】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● マクロ経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マクロ経済学 I

ECN113M

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、その主要目的は景気循環や経済成長といった諸現象の解明にある。この講義では、マクロ経済学の基礎理論の解説を通じて、一国の景気の良し悪しを決定する要因は何か、株価などの資産価格の水準やその変動を規定する要因は何か、といった問題に対する理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(1) 【金融取引と金融市場】
- 3回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(2) 【株式の適正価値】
- 4回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(3) 【割引現在価値計算】
- 5回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(4) 【株式市場の機能】
- 6回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(5) 【資産価格バブル】
- 7回 GDPとマクロ経済循環(1) 【GDP】【付加価値】【最終財】
- 8回 GDPとマクロ経済循環(2) 【三面等価】【貯蓄投資バランス】
- 9回 GDPとマクロ経済循環(3) 【GDPデフレーター】
- 10回 GDP決定理論(1) 【潜在的GDP】【有効需要原理】
- 11回 GDP決定理論(2) 【均衡GDP】
- 12回 GDP決定理論(3) 【乗数効果】【節約のパラドックス】
- 13回 GDP決定理論(4) 【財政政策】
- 14回 GDP決定理論(5) 【外国貿易乗数】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済学入門A・Bの講義内容を十分に理解しておくこと、本講義の内容をより深く理解できるようになる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学II 【昼】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● マクロ経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マクロ経済学II

ECN211M

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学Iに引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。取り上げるテーマは、ケインズのな財政政策の有効性、貨幣流通量がマクロ経済に与える影響、IS-LMモデル、経済成長のメカニズムなどである。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 財政政策の有効性(1) 【45度線モデルの復習】
- 3回 財政政策の有効性(2) 【均衡予算乗数】【ケインズの財政政策の問題点】
- 4回 財政政策の有効性(3) 【消費・貯蓄決定の合理的選択理論】
- 5回 財政政策の有効性(4) 【リカードの中立命題】
- 6回 流動性選好理論(1) 【資産選択】【貨幣と債券】【流動性】
- 7回 流動性選好理論(2) 【貨幣供給】【貨幣需要】【均衡利子率】
- 8回 流動性選好理論(3) 【中央銀行】【公開市場操作】
- 9回 流動性選好理論(4) 【貨幣乗数】【コールレート】
- 10回 IS-LMモデル(1) 【IS曲線】【LM曲線】
- 11回 IS-LMモデル(2) 【財政政策】【金融政策】
- 12回 経済成長の基礎理論(1) 【マクロ生産関数】【成長会計】
- 13回 経済成長の基礎理論(2) 【新古典派成長理論】
- 14回 経済成長の基礎理論(3) 【収束】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

マクロ経済学Iと連続した内容なので、マクロ経済学Iでの学習内容を十分復習しておいてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済地理学I【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地理的な経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地理的な経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自らの地域における地理的な経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	自らの地域における地理的な経済の諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済地理学 I ECN242M

授業の概要 /Course Description

経済地理学Iは、基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。学生は、経済地理学Iを履修することによって、経済活動を空間や地域という観点から理解することの重要性を認識でき、立地論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる問題を発見し、その解決をはかることができるようになる。また企業活動が様々な経済活動を巻き込みながら地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を養う基礎的な知識を得ることができる。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】、【地域構造論】
- 2回 産業構造と産業立地。【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
- 3回 企業の立地行動(I)・・・市場圏モデル 【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
- 4回 企業の立地行動(II)・・・市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
- 5回 商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
- 6回 1～5回の復習とまとめ 【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
- 7回 企業の立地行動(III)・・・最小コストモデル 【ウェーバー】、【輸送費】、【集積】
- 8回 素材/装置型工業の立地行動 【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
- 9回 企業の立地行動(IV)・・・労働力指向立地 【マッセイ】【バーノン】【空間分業】
- 10回 先端/組立型工業の立地行動 【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
- 11回 6～10回の復習とまとめ 【輸送費理論】【企業内空間分業】
- 12回 企業の立地行動(V)・・・集積とネットワーク 【スコット】【マークセン】【ポーター】
- 13回 在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
- 14回 現代の立地行動 【空間克服】【接触の利益】【波及効果】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10% 期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済地理学IIや地域経済I・IIなどを受講すると相互理解が深まります。
3、4、7、9、12、14回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

経済地理学I【昼】

キーワード /Keywords

立地論、企業立地、産業配置

経済地理学II 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地理的な経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地理的な経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における地理的な経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	地域における地理的な経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済地理学II

ECN243M

授業の概要 /Course Description

経済地理学IIは、日本の都市、地域構造と立地政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。学生は、経済地理学Iで学習した内容をふまえて、オフィス立地を学習したうえで都市内・都市間システムの理論を学ぶことになる。これによって立地論や都市論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる問題を発見し、その解決をはかることができるようになる。都市の構造や都市間の相互作用を系統的に学習でき、地域構造の成り立ちを深く認識できることになる。後半では立地のメカニズムをもとに政策的な活用策を検討する。地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を養う基礎的な知識を得ることができる。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】【都市】【地域】【地域政策】
- 2回 オフィスの立地論 【オフィス】【本社立地】【支店立地】【フェイス・トゥ・フェイス】
- 3回 地点をめぐる立地競争 【チューネン】【付け値曲線】【土地利用】
- 4回 都市内システム 【都市】【バージェス】【ホイット】
- 5回 都市間システムと中枢管理機能 【中枢管理機能】【プレッド】【地方中枢管理都市】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 企業活動と地域 【企業機能】【地域間システム】【生活圏】
- 8回 立地政策(1)・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業 【全総】【拠点開発方式】
- 9回 立地政策(2)・・・三全総と組立型産業 【定住圏構想】【テクノポリス】
- 10回 立地政策(3)・・・四全総 【中枢管理機能】【東京一極集中】【世界都市】
- 11回 6～10回の復習とまとめ
- 12回 産業立地と今後の地域構造・・・グランドデザイン 【多軸型国土構造】【産業創出の風土】
- 13回 立地から見た地域構造の変遷(1) 【立地論】【立地要因】【基礎的地域構造】
- 14回 立地から見た地域構造の変遷(2) 【現代の地域構造】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10% 期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済地理学Iや地域政策などを受講していると相互理解が深まります。
2、3、4、5、8、9、10、12回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

経済地理学II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、都市システム、立地政策

地域経済I【昼】

担当者名 /Instructor 杉浦 勝章 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域経済の分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域経済に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	地域経済に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域経済 I ECN244M

授業の概要 /Course Description

地域経済およびそれを取り巻く環境が大きく変化していることを理解するために、国と地域のあり方、それぞれの政策などについて解説する。この講義ではとくに基礎的な理論、考え方に焦点を当てていく。そしてそうした動きが我々の日常生活とどのように関係しているのかを考えてもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田知弘・鈴木誠・川瀬光義・富樫幸一『国際化時代の地域経済学(第3版)』有斐閣、2007年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 経済の変化と地域(講義の概要)
- 2回 地域経済の構成【企業立地】、【家計】、【社会資本】
- 3回 地域問題の発生メカニズム【地域間格差】、【ナショナルミニマム】
- 4回 九州地域の産業構造と経済【食糧基地】、【分工場経済】
- 5回 北九州市の産業構造と経済【基礎素材産業】、【公害問題】、【環境政策】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 地方分権の動向(1)・・・権限委譲【地方自治】、【権限委譲】、【規制緩和】
- 8回 地方分権の動き(2)・・・大都市制度【政令指定都市】、【中核市】、【特例市】
- 9回 地方分権の動き(2)・・・税源委譲【三位一体の改革】、【地方交付税】、【補助金】
- 10回 地域再生計画【地域再生】、【特区】
- 11回 7～10回の復習とまとめ
- 12回 市町村合併(1)・・・歴史と背景【合併特例法】、【生活圏と行政圏】
- 13回 市町村合併(2)・・・効果と課題【行財政改革】、【合併特例債】
- 14回 道州制の動向【道州制】、【連邦制】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

『経済地理学I,II』を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどでの地域経済に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は『地域経済II』『地域政策』の基礎となっている。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域経済I【昼】

キーワード /Keywords

地域問題、地方分権、市町村合併

地域経済Ⅱ【昼】

担当者名 杉浦 勝章 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域経済の分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地域経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの地域経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの地域経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域経済Ⅱ

ECN245M

授業の概要 /Course Description

地域が現在直面している問題について、具体的なテーマをもとにして解説する。そうした問題の背景にあるもの、地域経済に対して与える影響、解決するためにとられている政策などを幅広い観点から理解してもらうことを目的としている。これまでに学んだ経済学の考え方が、地域経済にどのように適用されるかについても検討してもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田知弘・鈴木誠・川瀬光義・富樫幸一『国際化時代の地域経済学(第3版)』有斐閣、2007年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域経済を取り巻く環境の変化(講義の概要)
- 2回 都市計画【まちづくり3法】、【商業集積】
- 3回 中心市街地活性化【中心市街地】、【集客戦略】
- 4回 観光産業の振興とまちづくり(1)【マスツーリズム】、【インバウンド振興】
- 5回 観光産業の振興とまちづくり(2)【新しい観光の形態】、【グリーンツーリズム】
- 6回 1~5回の復習とまとめ
- 7回 地域の環境問題(1)【公害問題】、【地球環境の変化】
- 8回 地域の環境問題(2)【エコタウン政策】
- 9回 産業クラスター戦略(1)【産業集積】、【クラスター】
- 10回 産業クラスター戦略(2)【イノベーション】、【知識と情報】
- 11回 7~10回の復習とまとめ
- 12回 人口減少の影響と地域経済(1)【少子高齢化】
- 13回 人口減少の影響と地域経済(2)【中山間地域】、【限界集落】
- 14回 人口減少の影響と地域経済(3)【コンパクトシティ】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

『地域経済Ⅰ』、『経済地理学Ⅰ,Ⅱ』を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどでの地域経済に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は『地域政策』の基礎となっている。

地域経済II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方分権、環境政策、観光政策、産業クラスター、人口減少

国際経済論I【昼】

担当者名 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論 I

ECN240M

授業の概要 /Course Description

本講義では、国際経済論を学ぶ上で必要な「基礎概念」と「基本理論」をできる限り平易に説明することを目的としている。特に、経済のグローバル化が急速に進んでいる状況下、海外との経済取引（貿易や資本取引-国際金融&国際投資-）と日本経済について分析していくことが重要となる。ここでは、国際経済論を日本経済を基軸にして考察する。

また講義では、「国際経済の動きと今後の展望」について、具体的な統計データを示しながら分かりやすく解説していく予定である。

本講義を受けることで、「国際経済の動き」を日本経済の視点から理解することができ、また「日本経済が抱える課題」を国際経済の動向と結び付けて解明することが出来るようになる。

< 本講義の到達目標 >

1. 国際経済の動向と諸課題を理解するための「基礎概念」と「基礎理論」を身につける。
2. 国際経済の新しい動きと日本経済の課題について、解説できること。
3. 国際資本の流れ-国際金融の視点-から日本経済を分析できること。

* 日本経済新聞を読むようになればなお良い。

教科書 /Textbooks

末永勝昭著 『国際マクロ経済学』 税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社
- (2) 末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

国際経済論I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション-経済のグローバル化と日本経済の動向-
- 第2回 国際経済の現状 (I) : 国際経済の新潮流-グローバル経済化と新興経済諸国 (BRICs) -
【東西冷戦の終焉】 【資源大国】 【国際資本】
- 第3回 国際経済の現状 (II) : アメリカ経済の動向と今後-その変遷と戦略-
【レーガノミクス】 【クリントノミクス】 【IT革命】 【ニュー・エコノミー】 【ドル基軸通貨】 【双子の赤字】
- 第4回 国際経済の現状 (III) : 欧州連合 (EU)と通貨統合 (統一通貨ユーロ) 【欧州連合】 【ユーロ】
- 第5回 国際経済と日本経済 (I) : 戦後の日本経済の変遷とその特徴
【経済の民主化政策】 【政府主導の成長政策】 【高度経済成長】 【オイルショック】 【バブル崩壊と低成長】
- 第6回 国際経済と日本経済 (II) : 外需 (輸出) 主導型の経済成長と円高デフレ - ション
【ブラザ合意】 【円高不況】 【経常収支の黒字】 【外貨準備高】
- 第7回 国際経済と日本経済 (III) : 国際金融市場の動きと日本経済
【ジャパン・マネー】 【オイル・マネー】 【国際資本】
- 第8回 国際貿易の基礎理論 (I) -基本構造 (メカニズム) と基本理念- 【国際分業】 【交易条件】
- 第9回 国際貿易の基礎理論 (II) -自由貿易と比較優位 (生産費) の理論-
【リカード】 【比較生産費】 【ヘクシャー=オーリンの理論】 【国際競争力】
- 第10回 貿易政策の基礎分析 (I) : 貿易摩擦と保護政策 【日米貿易摩擦】 【市場開放】 【非関税障壁】
- 第11回 貿易政策の基礎分析 (II) : 保護政策の具体的手段とその効果 【関税政策】 【数量割当政策】
- 第12回 戦後の国際貿易制度: GATT&WTO、及びFTA (EPA)
- 第13回 TPP (環太平洋戦略的経済連携協定) と日本経済 【関税撤廃】 【市場開放】 【高コスト構造の是正】
- 第14回 グローバル経済化と直接投資-日本経済の問題点: 対外直接投資と対内直接投資-
【対外純資産】 【産業の空洞化】 【産業構造の変化】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験・・・ 80%
- (2) 日常の授業への取り組み・・・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- (1) 日本経済や世界経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- (2) 授業を受けるにあたっては、教科書や授業中に配布する資料etcをよく読んでおいて下さい。

キーワード /Keywords

グローバル経済 BRICs 資源大国 国際資本 基軸通貨 ドル ユーロ 円高 経常収支 資本収支
外貨準備 国際分業 比較優位 交易条件 国際競争力 関税障壁 市場開放
対外債権 対外債務 対外純資産 対外直接投資 対内直接投資 産業の空洞化

国際経済論II 【昼】

担当者名 /Instructor 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論II

ECN241M

授業の概要 /Course Description

国際経済論は、世界の様々な国々・地域の経済動向について学び、国際経済の動き（趨勢）を的確に把握すると同時に、国の対外的な経済活動、すなわち「貿易や資本取引」（国際金融&国際投資）、「企業の国際的な事業展開」（多国籍企業の動向、外資系企業の活動）等々を学ぶ分野である。

本講義では、1学期の「国際経済論I」の講義内容を前提に、国際経済の動きをよりの確・理論的に理解するために外国為替市場を通じた国際的経済取引（貿易や資本取引）のメカニズムについて解説していく。なお、国際経済論では、海外との経済取引を前提とした一国全体の経済問題が対象となるので、「国際収支表」「国際収支の諸概念」等々のマクロ経済指標（統計データ）の動きについても適宜解説していく予定である。

教科書 /Textbooks

末永勝昭著 『国際マクロ経済学』 税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1)伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社：○
- (2)末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：世界経済と資金の流れ
- 第2回 国際収支表と国際収支の諸概念 …… 【経常収支】 【資本収支】 【外貨準備】
- 第3回 国際収支と日・米経済関係（I）：世界経済の不均衡問題 …… 【経常赤字と財政赤字】 【双子の赤字】
【資本収支の黒字】 【債務大国：アメリカ】
- 第4回 国際収支と日・米経済関係（II）：資本輸出国日本 …… 【経常収支の黒字】 【資本輸出】 【対外投資】
【資本収支の赤字】 【債権大国：日本】
- 第5回 経常収支と「貯蓄・投資のマクロ・バランス」 …… 【貯蓄超過】 【財政収支赤字】 【経常収支黒字】
- 第6回 国際通貨制度とその変遷 …… 【金本位制度】 【管理通貨制度】 【IMF 体制】
- 第7回 外国為替取引と為替レート …… 【円建て】 【ドル建て】
- 第8回 外国為替制度：固定相場制度 …… 【平価】 【為替介入】 【固定レート】
- 第9回 外国為替制度：変動為替相場（フロート）制度 …… 【市場レート】 【円高】 【円安】
- 第10回 変動為替相場制度と為替介入（I） …… 【管理フロート制】 【通貨当局】 【為替介入】 【外貨準備高】
- 第11回 変動為替相場制度と為替介入（II） …… 【FB：政府短期証券】 【外国為替資金特別会計】
- 第12回 外国為替レートとマクロ経済政策の効果 …… 【財政政策】 【金融政策】 【金利の動き】 【為替変動】
【不胎化介入】 【非不胎化介入】
- 第13回 固定相場制と変動相場制度：経済政策の効果分析 …… 【IS曲線】 【LM曲線】 【BP曲線】
- 第14回 グローバル経済化と自由な国際資本移動 …… 【マンデル＝フレミング・モデル】 【資本移動】
- 第15回 まとめ -世界経済の動向と今後の展望-

国際経済論II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験 80%
- (2) 日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- (1)世界経済や日本経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- (2)授業を受けるにあたっては、教科書や授業中に配布する資料をよく読んでおいて下さい。
- (3)日本経済新聞を読めるようになって下さい。

キーワード /Keywords

経常収支 資本収支 外貨準備高 総需要と総供給 マクロ均衡と不均衡 輸出超過 輸入超過 内需・外需
国際通貨制度 MF体制 円建レート ドル建レート 市場レート 円高・円安 通貨当局 管理フロート制 外為特会
FB・政府短期証券 平価 為替介入 不胎化介入 非不胎化介入 マクロ経済政策
財政政策 金融政策 国際資本移動

経営組織論 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 経営組織の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経営組織に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 経営組織に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営組織論

BUS212M

授業の概要 /Course Description

現代は組織社会と呼ばれます。組織なしで生きていくことが出来る者は一人もいないと言っていい現代において、組織は社会に対して絶大な影響力をもちながら存在しています。本講義では、組織の根本的な性格について考えながら、そうした組織が、現代においてどのように成り立ち、運営されているか、またどのように運営されることが求められているかについて考えることを目的とします。

教科書 /Textbooks

中野裕治・貞松茂・勝部伸夫・嵯峨一郎編『はじめて学ぶ経営学』ミネルヴァ書房、2007年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

C.I.バーナード(山本安次郎・田杉競・飯野春樹訳)『[新版]経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年(○)
三戸公『随伴的結果』文真堂、1994年(○)
岸田民樹編『組織論から組織学へ-経営組織論の新展開』文真堂、2009年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 【現代社会における組織】
- 第2回 組織とは何か 【組織の概念】【組織の3要素】【有効性と能率】
- 第3回 組織の3要素と管理① 【誘因の方法】【説得の方法】
- 第4回 組織の3要素と管理② 【組織と個人】【専門化】【道徳的創造性】
- 第5回 組織の3要素と管理③ 【コミュニケーションの手段】【権威と権限】
- 第6回 意思決定 【機会主義的側面】【道徳的側面】【意思決定過程】
- 第7回 現代組織の諸特徴① 【官僚制】【支配の3類型】
- 第8回 現代組織の諸特徴② 【法・規則の機能性】【科学的管理】
- 第9回 現代組織の諸特徴③ 【科学的管理の現在】【官僚制の抑圧性】
- 第10回 モチベーション論の展開 【X-Y理論】【動機づけ・衛生理論】
- 第11回 組織構造① 【分業】【ライン組織】【管理者の育成】
- 第12回 組織構造② 【職能部門制組織】【事業部制組織】
- 第13回 現代組織と意思決定① 【随伴的結果】【責任】
- 第14回 現代組織と意思決定② 【コンフリクト】【統合】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...80% 小レポート・レポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「経営学入門」「マネジメント論基礎」の内容を復習しておいてください。
状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

経営組織論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、授業中にいろいろと質問します。積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

【組織の3要素】 【環境適応】 【随伴的結果】 【自由と責任】

経営戦略論【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 経営戦略の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経営戦略に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 経営戦略に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営戦略論

BUS213M

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営戦略論の基本的な考え方を理解してもらい、それに基づいて経営戦略策定・実行に関する理論を体系的に示すとともに、事例研究を行います。
本講義の受講をつうじて、さまざまな企業経営や社会に関する諸問題を解決するために必要とされる、経営戦略についての知識を身に付けることをねらいとしています

教科書 /Textbooks

講義はレジュメを中心に進めますが、事例の検討に使用するため、以下の文献をテキスト（必携本）に指定します。
東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学[新版]』有斐閣、2008年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年。(○)
大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智『経営戦略(新版) - 論理性・創造性・社会性の追求-』有斐閣、1997年。(○)
井上善海・佐久間信夫編『よく分かる経営戦略論』ミネルヴァ書房、2008年。
石井淳三・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論(新版)』有斐閣、1996年。(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび「経営戦略とは」
- 第2回 経営戦略論の議論の歴史1【成熟化とイノベーション】、【多角化の戦略】
- 第3回 経営戦略論の議論の歴史2【競争の戦略】、【プロセス戦略論】、【RBV】
- 第4回 ドメインの定義【事業構造の転換】、【ドメインギャップ】
- 第5回 事業ポートフォリオの選択【関連・非関連型】、【シナジー効果】、【コアコンピタンス】
- 第6回 新規事業分野への進出【社内ベンチャー】、【提携】、【M&A】
- 第7回 プロダクトポートフォリオマネジメント【PPM】、【PLC】、【経験曲線】、【マトリックス】
- 第8回 競争の戦略1【5フォースズ】、【基本戦略】、【バリューチェーン】。
- 第9回 競争の戦略2【市場地位】、【リーダー】、【チャレンジャー】、【ニッチャー】、【フォロアー】
- 第10回 事例研究【競争戦略】、【差別化】、【ビジネス・モデル】
- 第11回 ビジネスシステム戦略【ビジネスシステム】、【設計と情報・資源】
- 第12回 経営戦略と組織1【組織形態】、【事業部制組織】、【マトリックス組織】
- 第13回 経営戦略と組織2【組織革新】、【組織学習】、【知識創造】。
- 第14回 事例研究【組織文化】、【組織構造】、【インセンティブシステム】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果(80%)と学期中の小レポートの結果(20%)によります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「マネジメント論基礎」で受講した内容を復習しておいて下さい。
前期に「経営組織論」を履修しておくこと、より学習効果が上がります。

経営戦略論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習・復習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

政策科学入門 【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政策科学の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策科学入門

PLC101M

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、政策科学科の新入生がこれから政策を考察・研究するうえで必要となる基礎的な知識・視点・方法論を提供することです。その際、現代における政治・経済・社会的な変容の具体例を取り上げて、それらの変容が引き起こす社会問題はどのように捉えられて、それらの問題に対処する政策案はどのように研究されているかに焦点を当てます。「政策科学」という響きは極めて難解なものに聞こえるかもしれませんが、政策について考察・研究することはとても重要で面白い活動です。そこでは、いろいろな視点や方法が求められ、知的刺激が満載です。本講義を通じて、政策を考察・研究することのイメージを掴み、その面白さを感じ取ってください。

教科書 /Textbooks

今のところ指定するテキストはありません。詳細は第一回目の講義で説明いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN-政策科学とは？
- 2回～6回 事例から政策を考えてみよう
 - ①中心市街地の空洞化・衰退-アメリカの都市
 - ②日本の地方都市における中心市街地の空洞化-北九州市（特に黒崎）
 - ③中心市街地の活性化の成功例-アメリカのコロラド州デンバー等
 - ④コンパクト・シティ-青森市（青森市新町商店街の活性化策等も含む）
 - ⑤再開発を考える（行政主導の再開発ビル）
- 7回 データから政策を考えてみよう

-地方自治体の政策の比較，少子化問題等-
- 8回～10回 国際的要因の国内政策への影響を考えてみよう

-貿易・資本の国際化，国際競争，企業統治，国内経済政策等
- 11回～13回 現代の社会問題を政策的に考えてみよう
 - ①一億総中流から格差社会へ-日本における貧困を考えてみよう
 - ②格差社会のなかの日本-日本のセーフティネットを考えてみよう
 - ③公共事業における「公共性」とは-「鉄の三角形」を基にして考えてみよう
- 14回 政策過程モデルの検討(時間に応じて変更することがあります)
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50%；授業貢献度...50%。 詳細は第1回目の講義で説明いたします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

政策科学入門【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ◆予習用の読物として論文や記事等が指定されている場合は、授業前に目を通してきてください。
- ◆授業で配布された資料等を、授業後あらためてじっくり読み込んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策分析入門 【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科, 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 質的・量的な社会科学的分析手法の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 政策の立案や改善に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 政策課題を見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策分析入門

PLC115M

授業の概要 /Course Description

この授業では、社会で起きている様々な現象や問題を分析するための技術の習得を目的とします。
人間同士のコミュニケーションが多様であるように、現代社会とのコミュニケーション、すなわち社会的な問題や人間がつくった組織や制度、政策、法律といったものへの「近付き方」も様々です。この社会への「近付き方」を知り、変化する「人間がつくったもの」への改善策や解決策を提示するための基礎を構築する、具体的には社会科学的分析手法を体系的に学ぶ授業となります。
分析手法を大きく質的な方法と量的な方法に分けて検討していきますが、ひとつの「近付き方」が唯一無二の方法ではないこと、また分析したい対象をいかに明確するのか、どれだけ客観的に考察するのか、さらに出てきた結果をどう読み解くのか、といったことを3人の教員がそれぞれ、ダイナミックに扱っていきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示、また必要に応じてレジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中道寿一ほか(2011)『政策研究：学びのガイダンス』福村出版
 - 佐藤郁哉(2002)『フィールドワークの技法：問いを育てる、仮説をきたえる』新曜社
 - 小池和男(2000)『聞きとりの作法』東洋経済新報社
 - 松田憲忠・竹田憲史(2012)『社会科学のための計量分析入門：データから政策を考える』ミネルヴァ書房
 - 谷岡一郎(2007)『データはウソをつく：科学的な社会調査の方法』筑摩書房
 - 増山幹高・山田真裕(2004)『計量政治分析入門』東京大学出版会
- その他、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 分析方法を知る前に(1) 【演繹と帰納】【理論と実証】
- 3回 分析方法を知る前に(2) 【リサーチ・クエスト】【因果関係】
- 4回 質的な分析(1) フィールドワークにでかけよう
- 5回 質的な分析(2) 観察結果の比較
- 6回 質的な分析(3) 聞きとりの技法
- 7回 質的な分析(4) 分厚い記述・薄い記述
- 8回 質的研究と量的研究の「交差点」
- 9回 量的な分析(1) 数字の意味をとらえよう
- 10回 量的な分析(2) 数値データの利用と構築I【集合データ】【個票データ】【操作化】
- 11回 量的な分析(3) 数値データの利用と構築II【社会調査】【キャリーオーバー効果】【ダブル・バーレル】
- 12回 量的な分析(4) 計量的なデータ分析I【データの整理】【視覚化】
- 13回 量的な分析(5) 計量的なデータ分析II【記述統計量】【度数分布】
- 14回 分析方法の選択
- 15回 まとめ

政策分析入門 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加・貢献度合い40%、課題60%
(遅刻厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「政策科学入門」「政策入門演習I」で学んだことをふまえて、本授業では色々な分析方法を扱っていきます(「政策科学入門」「政策入門演習I」を履修済みであることが受講条件ということではありません)。特段の準備は必要ありませんが、現状を把握したいとき、課題を解決するための方策を探りたいとき、その関心や方向性がひとによって多様であるように、分析方法もまた様々です。2014年度入学生および2013年度生には必修の科目で、毎回の出席が大前提の講義となります。2年次から始まるゼミでの活動の土台をこの授業で作っていきましょう。2012年度以前に入学された方にとっては選択必修の科目(政策理論科目)のひとつとなりますが、基本的に授業は積み上げ方式、すなわち前回以前の内容を受講生の共通理解として進めていきますので、休まず受講することが肝要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習Ⅰ【昼】

担当者名 大澤 津 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策入門演習Ⅰ

SEM111M

授業の概要 /Course Description

この授業では、大学レベルでの学習と研究に必要とされる「話すこと・発表すること」に関するスキルの基礎を身に着けることを目指します。実際に討論や発表を準備し、授業中に行い、互いに評価しあうことで、着実にスキルを向上させていきます。加えて、授業レポートを書く際に必要な知識やスキルも学びます。なお、授業の内容は、履修者の要望やスキル習得の状況に合わせて変更することがあります。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントなどを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』、松本茂・河野哲也 著、玉川大学出版部。
『アカデミック・スキルズ-大学生のための知的技法入門 (第2版)』、佐藤望他 著、慶應義塾大学出版会。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 大学で学ぶこと・研究すること
- 第2回 自分に必要なスキルはなにかを考える
- 第3回 討論はなぜ必要か・討論のテーマを考える
- 第4回 討論のスキル
- 第5回 討論の実践Ⅰ
- 第6回 討論の実践Ⅱ
- 第7回 討論の実践Ⅲ
- 第8回 レポートとは何かを考える
- 第9回 レポートを書く上で必要な知識
- 第10回 発表の目的と種類・発表するテーマを考える
- 第11回 発表のスキル
- 第12回 発表の実践Ⅰ
- 第13回 発表の実践Ⅱ
- 第14回 発表の実践Ⅲ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み、討論・発表などの課題...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

討論・発表など課題の準備。
授業では積極的に疑問・要望を知らせてください。

政策入門演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習Ⅰ【昼】

担当者名 五月女 律子 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策入門演習Ⅰ

SEM111M

授業の概要 /Course Description

この授業では、受講者が発表、発言等を行い積極的に参加する「演習」形式の授業における技法を学ぶことを目指す。1学期の政策入門演習Ⅰでは、口頭発表や議論といった、大学の演習で必要とされる技法を身につけることを目的とする。授業で扱うテーマは、国際的または世界的な問題・課題のみであり、日本国内の政治や政策は対象としない。配布する資料を授業前に予習として読み、担当学生がテーマに沿った口頭発表をグループで行い、議論を進める。

教科書 /Textbooks

授業時に資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○森靖雄『大学生の学習テクニック』（大月書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 大学での学び方
- 第2回 図書館、資料室の使い方
- 第3回 口頭発表のやり方
- 第4回 議論のやり方
- 第5回 学生によるグループ発表と議論（1）（各回異なる国際的な問題・課題をテーマとする）
- 第6回 学生によるグループ発表と議論（2）
- 第7回 レポートの書き方
- 第8回 指定テーマでの学生による議論
- 第9回 学生によるグループ発表と議論（3）
- 第10回 学生によるグループ発表と議論（4）
- 第11回 学生によるグループ発表と議論（5）
- 第12回 学生によるグループ発表と議論（6）
- 第13回 学生によるグループ発表と議論（7）
- 第14回 学生によるグループ発表と議論（8）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への参加（50%）、口頭発表（50%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

政策入門演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業中に携帯電話を使用しないこと。
- ・ 事前に配付した資料・文献は、発表者以外も授業までに必ず読んでくること。
- ・ 発表担当学生は、事前に十分な準備を行うこと。
- ・ 口頭発表を担当する授業を無断欠席した場合には、当該発表を0点とする。
- ・ 口頭発表時には、本、論文、雑誌など、インターネット以外の媒体を参考文献に用いること。
- ・ インターネットのホームページの文章・構成を丸写しした口頭発表は0点とする。
- ・ 万が一、授業時に携帯電話を操作した場合、操作時間は授業に参加していないものとみなす。
- ・ 授業回数の3分の1以上欠席した場合（携帯電話の操作時間・居眠り時間も含む）、「不可」とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 1年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策入門演習Ⅰ

SEM111M

授業の概要 /Course Description

このクラスでは、社会科学分野での研究の方法論の基礎を学び、アカデミック・リテラシーを身につけてもらう。Research questionとは何か、どのように設定すればよいか、研究はどんなことを考慮しながら行うべきか、どのような研究手法があるか、概念をいかに使うか、概念をいかに操作化するか、どのようにデータを集めるか・分析するか、などを学ぶことを通じて、科学的研究・調査はいかに行うべきかを学ぶ。

ここで学ぶものは、大学4年間の学業生活を通して使える、問題発見・解決の有益な技能・知識であり、さらに大学生活後のプロフェッショナル・ライフ、人生で、より生産的なキャリアを構築することを可能にする技能・知識である。

教科書 /Textbooks

Ted Palys, Research Decisions: Quantitative and Qualitative Perspectives, 2nd edition. Toronto, Canada: Harcourt Brace, 1997. (なぜ英語のテキストを使うのかも含めて、私のクラスについては、http://www.geocities.jp/sakamoto_pol/basicideas.htmを参照)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日指定

政策入門演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにした質疑応答・検証を行い、学生と教員が互いに理解を深める。学生は毎週、テキストの指定箇所を事前に読み終えて授業に臨む。積極的な授業への参加なしでは単位を取得できない。「参加」とは「出席」とは同義語ではない。参加とは、毎週の課題・活動に積極的・建設的に参加・貢献することである。また、問題について建設的、批判的に考え、発言することである。

このクラスではたくさん勉強してもらいますので、そのつもりで履修登録してください。ただし、本気で一生懸命勉強すれば、授業についてこれると思いますので、本クラスのサブジェクトに関心がある人は、しりごみしないで受講してください。

1学期は、学期の3分の2くらいを使って、テキストの講読・理解を通して科学的研究調査の基礎を学ぶ。そして残りの期間で、前半で学んだ知識を用いて実際に研究・調査を行ってもらおう。2学期は1学期に学んだ知識・技能を用いて発展させ、個々の学生が政策分野の中からひとつを選び、その分野でのresearch questionを設定し、研究・調査を進め、クラスでの発表・討論を行う。個々の学生の研究プロジェクトを教材として使い、個々のプロジェクトを考察し、討議し、より良いデータ収集、分析方法、分析結果の解釈などを考えることによって、研究・分析・調査の方法を体感的に学習し、身につけてもらう。(政策分野とはたとえば、雇用、経済成長、福祉、教育、財政、医療、金融、社会保障、競争政策など)。

毎週のreading assignmentについては後日アナウンスする。

1. イントロ
2. 科学的研究とは何か
3. 科学的研究とは何かII (extension)
4. 科学的方法(1)定量的方法、定性的方法
5. 科学的方法(2)いかなる方法によって科学的な知識を得るか
6. 科学的方法(3)仮説とそのテスト、理論とデータI
7. 科学的方法(3)仮説とそのテスト、理論とデータII (extension)
8. 研究のタイプと研究のデザイン (研究計画書の作成)
9. 研究のタイプと研究のデザインII (extension)
10. 研究課題・理論的問題の設定、リサーチ・デザインの構築、研究結果のまとめ方 (レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方)
11. 研究課題・理論的問題の設定、リサーチ・デザインの構築、研究結果のまとめ方 (extension)
12. 応用・実践 - 研究の実行と研究経過報告・討論 (1・2人目)
13. 応用・実践 - 研究の実行と研究経過報告・討論 (3・4人目)
14. 応用・実践 - 研究の実行と研究経過報告・討論 (5・6人目)
15. 応用・実践 - 研究の実行と研究経過報告・討論 (7・8人目)

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1)テキストの講読・理解、授業での発言・参加が40%、(2)研究論文あるいは期末総合テストが60%(どちらかひとつ)。研究論文とテストのどちらを行うかは、授業の進度や受講学生の学習の進歩を見て学期中に担当教員が決める。(1)の授業での発言・参加と(2)の論文/テストのどちらが欠けても単位は取得できない。(1)はどれだけよくテキストを指定の授業日まで読み、積極的にクラスでの検証に参加しているかによって決まる。(2)は、研究論文の場合、学期末提出の論文の質で決まる。テストの場合は、学期中に学習・分析した内容をどれだけ良く理解したかを総合的に問うテストの結果をもって評価する。

論文の場合、A4紙にダブルスペースで13枚程度。研究の内容は、テキストや講義で学んだ内容を発展させる、あるいは検証するものにする。ゆえにテキストを読まずに研究を進めることはできない。研究論文であるので、時事批評や感想文、哲学論は受け付けない。研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと：(1)オリジナルな研究、論文にする、(2)理論や説明の論理的整合性、(3)理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。言うまでもなく、既存の図書、雑誌などからの不正あるいは不適切な引用・抜粋は禁止。また、他者が書いたものと同一のレポートの提出や、過去において自己・他者が書いたレポートの提出も禁止。これら不適切あるいは不正な行為発生の場合は不可。

総合テストの場合は、テキストや授業で学んだ内容をどれだけ良く理解しているかを、総合的に問い、論文形式で答えてもらう。

また、学期半ばに研究の計画書を提出してもらおう。研究の課題、研究方法・計画・参考文献の概要を記したアウトラインを提出する。学生はこのアウトラインに沿って研究を進める。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎週の授業前までには、教科書の指定箇所を必ず読み終えていること。この講読で得た知識をベースに授業を進める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なにがとも、必死になって頑張れば、なんとかなりますので、必死になって頑張ってください。

キーワード /Keywords

研究方法論、アカデミック・リテラシー、社会科学、分析方法、データ収集・分析、研究結果報告

政策入門演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策入門演習Ⅰ

SEM111M

授業の概要 /Course Description

事実・社会的事実の違い、価値と事実、主観性・客観性など、社会科学の概念、社会科学の方法論と調査方法論、研究対象の捉え方について検討する。また、論理的考え方の向上が狙いである。

演習Ⅰのキーワード：社会科学の概念、社会科学の方法論と調査方法論、研究対象の捉え方。

演習Ⅰの目標：①社会現象や問題を発見し、資料を調べ、レポートを書く。

②人間と社会の関係、政治、政策、経済現象について調べ、プレゼンテーションし、議論する。

③新聞記事を読んできて、それについて話してみる（毎週、約3-4分程度で）。

演習Ⅰの具体的内容：

- ①自我と他人間の関係・自我と社会との関係・事実とデータの関係、そして科学と考えることの意味について知ってもらう
- ②仮説・因果関係・論証の進め方、見方について知ってもらう。
- ③調査方法について勉強し、研究テーマに関するリサーチ・デザインを行う。
- ④新聞記事を読んできて、それについて話してみる（毎週、約3-4分程度で）。
- ⑤以上のことを踏まえ、各自、毎週、1500字位のレポートを書き、それを基に発表する。
発表後、互いにチェックして、返す（考える能力・書く能力・話す能力を高め、また、相手の書いたものをチェックすることで、自分の書き方などの問題点を改善していく。）

演習Ⅰの活動：学生自らの活動が多い（コンパ、よそのまちの探検、学生自らの議論、他大学ゼミとの交流など）

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『自分で調べる技術-市民のための調査入門』（宮内泰介著 岩波書店 ￥777）

『考えることの科学』（市川伸一著 中公新書 ￥693）

『フィールドワークの技法-問いを育てる、仮説をきたえる』（佐藤郁哉著 新曜社 ￥3,045）

『参加型ワークショップ入門』（野田直人著 明石書店 ￥2,940）

『社会学研究法リアリティの捉え方』（今田高俊編 有斐閣アルマ ￥2,415）

政策入門演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 資料の探し方や読み方
- 3回 社会科学方法と調査方法論I
- 4回 社会科学方法と調査方法論II
- 5回 社会科学方法と調査方法論III
- 6回 論文の書き方とディベートのやり方
- 7回 ディベートのやり方(司会・ワークショップの進行)
- 8回 新聞記事の3 - 4分プレゼンテーションI
- 9回 新聞記事の3 - 4分プレゼンテーションII
- 10回 社会問題について司会として議論を進めていく
- 11回 社会問題について司会として議論を進めていく
- 12回 社会問題について司会として議論を進めていく
- 13回 パワーポイントによるプレゼンテーション
- 14回 パワーポイントによるプレゼンテーション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告と議論(80%)、授業への貢献(20%)

レポートの書き方の例

私は「夫婦別姓は正しくない」と思う。なぜならば夫婦別姓は家族間の一体感を低下させる恐れがあると考えられるからである。

船橋洋一(朝日新聞コラムニスト)は、夫婦別姓が未婚女性の結婚率を高める方法であると論じている。船橋洋一はここ数年20-30代女性の結婚忌避現象に関して、結婚による改姓をその主原因としている。具体的には、、、

これに対して私は反対する。夫婦別姓は、社会的な安定感を崩壊させるとともに、家族間の同一感を低下させる。これは、、、、、、、、からである。

また、夫婦とは、、、家族とは、、社会の中で一番重要な単位であり、基礎でもある。

これに関して、、、、福岡太郎は、、、、と論じている。桃太郎の指摘のとおり、家族の、、社会的、文化的な機能や意味から、私は、、に同感する。反面、船橋洋一は、、面を軽視していると考えられる。従って、私は「夫婦別姓が正しくない」、と思う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ゼミ生の活動・授業内容については、

ゼミホームページ <http://shinzemi.wiki.fc2.com/>

申 ホームページ <http://www.kitakyu-u.ac.jp/law/faculty/personal/shin/DongAeRink.htm>

を参照し、準備する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「本を読み、人に会え、旅をしろ」という言葉があります。

大学時代はまさにこれでした。数え切れないほどの試行錯誤がありました。

いま振り返れば、一番の黄金時代でした。

「大学」という「時」を過ごしている君達に言えることは、

まさに、これ、「チャレンジ」です。

キーワード /Keywords

政策入門演習Ⅰ【昼】

担当者名 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策入門演習Ⅰ

SEM111M

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、これから政策科学を研究する学生が1年生の時に学習しておくべき基礎的事項を身につけてもらうことにあります。大学で研究することは高度な内容も当然含んでいますが、基本的には「読み、書き、話す」といったことの延長線上にあります。したがって、特に1学期には、大学で「読み、書き、話す」にはどうすればよいかということについて、本演習担当者の経験をまじえて演習で学んでいただきます。

また、これをふまえて①社会科学における「仮説」型思考の重要性、②（結果の暗記ではなく）創造するプロセスの重要性、③創造の方法論、④物事を多角的にみることの重要性、などについても基礎的な作業をしたいと考えています。

教科書 /Textbooks

刈谷剛彦『複眼的思考法 - 誰でも持っている創造力のスイッチ』（講談社、2002年）
小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書、2009年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法』（東京大学出版会、2011年）
高根正昭『創造の方法学』（講談社、1979年）
川喜田二郎『発想法-創造性開発のために』（中央公論新社、1967年）
竹内薫『99.9%は仮説-思い込みで判断しないための考え方』（光文社新書、2006年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入 - 自己紹介および発声練習？
 - 2回 (図書館ツアー) 及び図書館の使い方 (指示に従って図書館を使ってもらいます)
 - 3回 大学で研究するとは？大学で「読み、書き、話す」
 - 4回 プレゼンテーション(1) - 自分の身近なことを時間内に発表する
 - 5回 プレゼンテーション(2) - 新聞記事等の話題をまとめて発表する
 - 6回 プレゼンテーション(3) - 同上
 - 7回 「読んで」「発表する」(1) - 社会科学(政策科学)の文献の輪読をかねて
 - 8回 「読んで」「発表する」(2) - 社会科学(政策科学)の文献の輪読をかねて
 - 9回 「読んで」「発表する」(3) - 社会科学(政策科学)の文献の輪読をかねて
 - 10回 「読んで」「発表する」(4) - 社会科学(政策科学)の文献の輪読をかねて
 - 11回 レポートを書く(1) - 引用注の付け方等レポートについて
 - 12回 レポートを書く(2) - 実際に書いてみる
 - 13回 デイバート(1) - ルールの説明等
 - 14回 デイバート(2) - デイバートの実践1
 - 15回 デイバート(3) - デイバートの実践2
- * 上記のスケジュールは、受講生の理解度等によって変更することもあります。あくまで予定として考えてください。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・授業貢献度... 70 % レポート等 ... 30 %

政策入門演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業に際しては、割り当てられたところを必ず準備して参加するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策入門演習Ⅰ

SEM111M

授業の概要 /Course Description

この演習では、政治や行政をめぐる様々な問題を対象として、情報収集・整理、分析、プレゼンテーション、討論など、社会科学の分野のみならず実社会でも求められる基本能力のトレーニングを一緒に進めていきます。受講生の関心に合わせて題材はできるだけ広く設定したいと思っています。

①「公立図書館と指定管理者制度」、②「学校選択制」、③「首相公選制」などについて報告と議論を行う予定です。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しません。図書・雑誌論文・新聞などを組み合わせて用いたいと思っています。必要部分をコピーし配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方、成績評価について
- 第2回 資料収集方法(図書館等の利用案内含む)、レジュメの作り方、報告の仕方
- 第3回 受講生による報告と議論① 公立図書館と指定管理者制度
- 第4回 受講生による報告と議論① 学校選択制
- 第5回 受講生による報告と議論① 首相公選制
- 第6回 受講生による報告と議論② 公立図書館と指定管理者制度
- 第7回 受講生による報告と議論② 学校選択制
- 第8回 受講生による報告と議論② 首相公選制
- 第9回 中間まとめ
- 第10回 中間まとめ
- 第11回 討論 公立図書館と指定管理者制度
- 第12回 討論 学校選択制
- 第13回 討論 首相公選制
- 第14回 最終報告
- 第15回 最終報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容・討論内容...100% 欠席1回につき、10点程度減点

* 受講態度が極めて悪い場合、出席を認めない場合があります。また報告内容が一定の水準に達しない場合、再報告や追加課題を求める場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

政策入門演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

特になし。

政策入門演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

*政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策入門演習Ⅰ

SEM111M

授業の概要 /Course Description

本演習の到達目標は、以下の通りである。

- ① 受講者が発表、発言等を行い積極的に参加する「演習」形式の授業における技法を学ぶこと
- ② 情報収集・整理、分析、プレゼンテーション、討論

広く世の中の出来事や図書を題材として、社会科学の分野のみならず実社会でも求められる基本能力のトレーニングを一緒に進めていきます。受講生の関心に合わせて、題材はできるだけ広く設定します。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

酒井聡樹 (2007) 『これからレポート・卒論を書く若者のために』 共立出版。
 刈谷剛彦 (2002) 『知的複眼思考法：誰でも持っている創造力のスイッチ』 講談社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習の進め方について
- 第2回 資料収集方法 (図書館等の利用案内含む)
- 第3回 レジユメの作り方、報告の仕方
- 第4回 プレゼンテーション①身近なことを報告
- 第5回 プレゼンテーション②新聞記事等から社会問題を報告
- 第6回 文献輪読①【思考法】
- 第7回 文献輪読②【読書術】
- 第8回 文献輪読③【言葉】
- 第9回 文献輪読④【文章術】
- 第10回 文献輪読⑤【議論】
- 第11回 グループ報告①福祉問題
- 第12回 レポートの書き方①【テーマ】
- 第13回 レポートの書き方②【剽窃】
- 第14回 グループ報告②環境問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への参加 (50%)、口頭発表 (50%)
 * 授業回数数の3分の1以上欠席した場合は「不可」となる

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

政策入門演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

なし

政策入門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策入門演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

本授業は政策入門演習IIと抱き合わせの科目です。

大学生の学習方法は高校の暗記中心の受験勉強とはかなり異なります。大学でもっと自分を開花させることを念頭においてください。本授業では、まず、大学生としての自覚を持てるための学習を行い、その中では、自分が何に興味があるのかを探り、方法論を勉強し、結果を導き出すという作業を行います。同時に、グループワークやインタビューを通じてのコミュニケーション能力やファシリテーション能力をつける必要があります。次に、政策科学科に属している以上、政策科学の学習は非常に重要でそのことを学習します。

大学の4年間の1年目をきちんと学習するかしないかで、それ以降の学年の学習態度や生活態度が決定されるといっても過言ではありません。自分のしっかりとした目標をたて、その実現に向かって頑張ってください。本授業では、単に知識を頭に入れるだけでなく、現場での実践や体験も重んじます。

教科書 /Textbooks

- * 中道寿一編『政策研究』福村出版、2011年
- * 森時彦『ファシリテーターの道具箱』ダイヤモンド社、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 森靖男『大学生の学習テクニク』大月書店、1994年
- * グループワーク用の教材・資料（自ら準備の必要なし）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「政策入門演習I」の目的・内容説明、アイスブレイキング（自分探しと相手への理解）
- 第2回 大学生としての心得1～勉学、生活やアルバイトやなど
- 第3回 大学生としての心得2～コミュニケーションやマナーなど & ゼミ合宿に向けての準備
- 第4回 若園地区ESD協議会との交流～地域問題を考える1
- 第5回 その振り返り & ファシリテーション技法の取得1
- 第6回 ファシリテーション技法の取得2
- 第7回 コミュニケーション技法の取得1
- 第8回 若園地区ESD協議会との交流～地域問題を考える2
- 第9回 その振り返り & コミュニケーション技法の取得2
- 第10回 教科書政策研究の実際1の輪読と議論
- 第11回 教科書政策研究の実際2の輪読と議論
- 第12回 若園地区ESD協議会との交流～地域問題を考える3
- 第13回 その振り返り
- 第14回 韓国・海洋大学との交流に関する準備
- 第15回 まとめ

課外授業：藍島でのフィールドワーク、4月か5月にゼミ合宿、
夏季休暇中に韓国プサンの海洋大学の学生との合同グループワーク調査活動

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...50% 小試験（指定資料の読了事前確認用）...20% グループワークへの参加度...30%

政策入門演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

藍島（小倉北区）でのフィールド・ワーク、4月か5月のゼミ合宿、夏季休暇中の韓国プサンへのスタディ・ツアーを実施する予定です。そのため準備・事後学習をしてもらいます。輪読用指定図書の読了。
屋外での活動については危険に遭遇する機会が屋内に比べて多いので、自ら安全には徹底して留意しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な、主体的な政策入門ゼミにかかわってほしい。夏季休暇は重要なので、完全に大人としての自覚を持てるような生活を送ってほしい。

キーワード /Keywords

主体性、フィールドワーク、グループワーク、大学生としての学習方法

政策入門演習Ⅰ【昼】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策入門演習Ⅰ

SEM111M

授業の概要 /Course Description

本演習は、大学生生活・研究活動に必要なスキルと能力を学んでもらうことを目的としています。大学にはどんな施設があるのか、そして勉強するときどのような情報をどのように調べればよいのかを知っておいたほうがいろいろと便利だろうし、また演習のような授業では“レジュメ”を作ったり、レポートを書いたり、またみんなの前で研究内容を発表したり、それについて議論したりといろいろな知識と技術が必要になってきます。こうした大学生として立派に成長できるようにサポートするのがこの演習の主題です。また、年間を通じて「読書課題」に取り組んでもらいます。

教科書 /Textbooks

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめまして【メンバーの特徴を確認する】【大学生の心得】
- 2回 大学を旅しよう【キャンパスふしぎ発見】
- 3回 大学を旅しよう【キャンパス不思議発見の報告】
- 4回 大学生として羽ばたこう①【図書館を知る】
- 5回 大学生として羽ばたこう②【情報を集める】
- 6回 大学生として生き延びよう①【レジュメづくり】【レジュメとは】
- 7回 大学生として生き延びよう①【レジュメを作ってください】
- 8回 大学生として生き延びよう②【プレゼンテーション基礎】
- 9回 大学生として生き延びよう②【プレゼンの準備】
- 10回 大学生として生き延びよう②【プレゼン大会】
- 11回 大学生として生き延びよう③【文献に慣れよう】
- 12回 大学生として生き延びよう③【文献を読んでみよう】
- 13回 大学生として成長しよう【政策立案】【チーム編成】
- 14回 大学生として成長しよう【政策立案の準備】
- 15回 大学生として成長しよう【政策立案プレゼン大会】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に臨む積極性、報告の仕方・内容などを基準に判断します。何事にもがむしゃらで一生懸命な人は評価されます。また、「読書課題」は必須の要件です。
積極参加点+読書課題・・・100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

政策入門演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

とにかく前向きに取り組んでみよう。毎回休まないように健康に気をつけましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

"No pain, no gain"・・・ただ、それだけです。

キーワード /Keywords

政策入門演習Ⅰ【昼】

担当者名 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策入門演習Ⅰ

SEM111M

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、大学における講義・演習・実習において必要な技法を習得することです。具体的には、日常生活や社会現象のなかにある問題の発見、情報・資料・データ等の収集・整理、レジュメの作成、プレゼンテーション、議論を受講生が実際に行うことで、これらの技術を身に付けることを目指します。

実際の演習では、情報収集の仕方（図書館の使い方等を含む）と合わせてレポート・論文の書き方を学び、その後、受講生のみなさん自身の興味関心に基づいて政策や制度、地方自治に関する文献を選んでもらい、レジュメを作成し、報告をする、といったことを行う予定です。報告担当以外の受講生も、事前に論文を読むなどの準備をし、演習に臨んでください。また、受講生が作成したレジュメや報告の仕方、議論への貢献についてなどを互いに講評することで、スキルアップもはかりたいと考えています。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。
必要に応じて適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 酒井聡樹(2007)『これからレポート・卒論を書く若者のために』共立出版
- 河野哲也(2002)『レポート・論文の書き方入門 第3版』慶應義塾大学出版会
- 菊池誠ほか(2011)『もうダメされないための「科学」講義』光文社新書
- 荻谷剛彦(2002)『知的複眼思考法：誰でも持っている創造力のスイッチ』講談社+α文庫
(議論や発表に必要な文献については適宜指示します)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス・第1回目の課題についての説明
2回	課題①の報告 【みんなにすすめたいこの一冊】
3回	レポート・論文を書く前に 【大学の勉強とは？プレゼンテーションとは？レポート・論文とは？】
4回	レポート・論文の書き方(1) 【なぜ書くのか？どうやって書くのか？】【情報収集の方法】
5回	課題②の報告 【最近特に気になった新聞記事を紹介】
6回	レポート・論文の書き方(2) 【なぜ「先行研究」の検討は必要？】【仮説とは？】【レジュメの作成】
7回	レポート・論文の書き方(3) 【参考文献】【引用の仕方】
8回	文献探し
9回	文献報告
10回	文献報告
11回	文献報告
12回	文献報告
13回	文献報告の講評
14回	レポート課題についての説明
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題50%、議論・質疑応答への参加50%
(無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

政策入門演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

入門演習Iを受講するにあたっての特別な準備は必要ありません。ただ、世の中で起きている事件・事象に関心を持ち、それに対して自分はどう考えるのか等、常にアンテナを張った生活をするのが、この演習の目指す「大学における講義・演習・実習において必要な技法の習得」に役立つと思います。また演習の醍醐味は議論です。恥ずかしがらず、積極的に自分の意見や疑問を述べることに是非、慣れて下さい。なお上記スケジュールは受講生の人数や希望により変更することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎年、第一回目の課題として、「みんなにすすめたいこの一冊」を発表してもらっています。小説・ノンフィクション・伝記・絵本・漫画など、ジャンルも多様、またその本との出会い方・思い入れも「子どもの時から何度も何度も読み続けている」「部活の先輩から教わった自分のバイブル」「入試の勉強中に読み、続きが知りたくて塾の帰りに本を探した」「辛いことがあったときに泣くために読む」「高校の時、担任の先生が熱く語ってくれた思い出の一冊」...本当に様々で興味深いことこの上ありません。この発表に際し、いつも思うのは「活字の威力」とそれに触れたみなさんの「想像力の豊かさ」。入門演習でも多くの文献を読み、議論をしますが、「活字の威力」の長所と短所、「想像力」の素晴らしさと限界、受講生とともに私も学んでいきたいと思っています。

キーワード /Keywords

政策入門演習II 【昼】

担当者名 大澤 津 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策入門演習II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

この授業では、大学レベルでの学習と研究に必要とされる「読むこと・書くこと」に関するスキルの基礎を身に付けることを目指します。演習などで必須となる輪読を実際に行い、また短い論文を書くことによって、スキルの着実な向上を目指します。なお、授業の内容は、履修者の要望やスキル習得の状況に合わせて変更することがあります。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントなどを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』、松本茂・河野哲也 著、玉川大学出版部。
『アカデミック・スキルズ-大学生のための知的技法入門 (第2版)』、佐藤望他 著、慶應義塾大学出版会。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 輪読の方法
- 第2回 輪読の実践I
- 第3回 輪読の実践II
- 第4回 輪読の実践III
- 第5回 輪読の実践IV
- 第6回 輪読の実践V
- 第7回 輪読の実践VI
- 第8回 輪読の実践VII
- 第9回 輪読の実践VIII
- 第10回 論文作成の方法
- 第11回 論文作成の実践I
- 第12回 論文作成の実践II
- 第13回 論文作成の実践III
- 第14回 論文作成の実践IV
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み、輪読、論文作成などの課題...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

輪読・論文などの課題の準備。
授業では積極的に疑問・要望を知らせてください。

政策入門演習II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習Ⅱ【昼】

担当者名 五月女 律子 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

*政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策入門演習Ⅱ

SEM112M

授業の概要 /Course Description

この授業では、1学期の政策入門演習Ⅰで学んだことを踏まえて、世界の各地域の国際関係や政治について考えることを目指す。授業で扱うテーマは、国際的な課題や日本以外の国の国際関係および政治であり、日本国内の政治や政策は対象としない。前半は、受講者全員が文献を読み、担当学生が文献の内容に関する口頭発表を行い、議論を進める。後半は、受講者が各自で自由にテーマを設定し（ただし日本以外の国の政治や国際問題に関するテーマ）、情報・資料収集や調査を自主的に行い、研究発表をする。

教科書 /Textbooks

授業時に文献を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○森靖雄『大学生の学習テクニック』（大月書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方の説明
- 第2回 指定文献の発表のやり方
- 第3回 自由テーマの研究発表のやり方
- 第4回 指定文献の口頭発表と議論（1）（各回異なる国際的な問題・課題をテーマとする）
- 第5回 指定文献の口頭発表と議論（2）
- 第6回 指定文献の口頭発表と議論（3）
- 第7回 指定文献の口頭発表と議論（4）
- 第8回 指定文献の口頭発表と議論（5）
- 第9回 まとめ
- 第10回 学生による自由テーマの研究発表と議論（1）
- 第11回 学生による自由テーマの研究発表と議論（2）
- 第12回 学生による自由テーマの研究発表と議論（3）
- 第13回 学生による自由テーマの研究発表と議論（4）
- 第14回 学生による自由テーマの研究発表と議論（5）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への参加（50%）、口頭発表（50%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

政策入門演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業中に携帯電話を使用しないこと。
- ・ 発表担当学生は、事前に十分な準備を行うこと。
- ・ 発表を担当する授業を無断欠席した場合には、当該発表を0点とする。
- ・ 発表担当学生以外も、指定文献を精読してくること。
- ・ 自由テーマの研究発表時には、本、論文、雑誌など、インターネット以外の媒体を参考文献に用いること。
- ・ インターネットのホームページの文章・構成を丸写しした研究発表は0点とする。
- ・ 万が一、授業時に携帯電話を操作した場合、操作時間は授業に参加していないものとみなす。
- ・ 授業回数の3分の1以上欠席した場合（携帯電話の操作時間・居眠り時間も含む）、「不可」とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策入門演習II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

このクラスでは、社会科学分野での研究の方法論の基礎を学び、アカデミック・リテラシーを身につけてもらう。Research questionとは何か、どのように設定すればよいか、研究はどんなことを考慮しながら行うべきか、どのような研究手法があるか、概念をいかに使うか、概念をいかに操作化するか、どのようにデータを集めるか・分析するか、などを学ぶことを通じて、科学的研究・調査はいかに行うべきかを学ぶ。

ここで学ぶものは、大学4年間の学業生活を通して使える、問題発見・解決の有益な技能・知識であり、さらに大学生活後のプロフェッショナル・ライフ、人生で、より生産的なキャリアを構築することを可能にする技能・知識である。

教科書 /Textbooks

Ted Palys, Research Decisions: Quantitative and Qualitative Perspectives, 2nd edition. Toronto, Canada: Harcourt Brace, 1997.

(なぜ英語のテキストを使うのかも含めて、私のクラスについては、http://www.geocities.jp/sakamoto_pol/basicideas.htmを参照)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日指定

政策入門演習II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにした質疑応答・検証を行い、学生と教員が互いに理解を深める。学生は毎週、テキストの指定箇所を事前に読み終えて授業に臨む。積極的な授業への参加なしでは単位を取得できない。「参加」とは「出席」とは同義語ではない。参加とは、毎週の課題・活動に積極的・建設的に参加・貢献することである。また、問題について建設的、批判的に考え、発言することである。

このクラスではたくさん勉強してもらいますので、そのつもりで履修登録してください。ただし、本気で一生懸命勉強すれば、授業についてこれると思いますので、本クラスのサブジェクトに関心がある人は、しりごみしないで受講してください。

1学期は、学期の3分の2くらいを使って、テキストの講読・理解を通して科学的研究調査の基礎を学ぶ。そして残りの期間で、前半で学んだ知識を用いて実際に研究・調査を行ってもらおう。2学期は1学期に学んだ知識・技能を用いて発展させ、個々の学生が政策分野の中からひとつを選び、その分野でのresearch questionを設定し、研究・調査を進め、クラスでの発表・討論を行う。個々の学生の研究プロジェクトを教材として使い、個々のプロジェクトを考察し、討議し、より良いデータ収集、分析方法、分析結果の解釈などを考えることによって、研究・分析・調査の方法を体感的に学習し、身につけてもらう。(政策分野とはたとえば、雇用、経済成長、福祉、教育、財政、医療、金融、社会保障、競争政策など)。

つまり、1・2学期を通して概念的に学んだ研究の方法論に関する技能・知識を実践に移し、技能・知識習得を促し、社会科学分野の研究なら今学期以降いつでも遂行できるようにする。

スケジュールは、毎週学生の研究について検討・討論し、いかにその研究が最善の方法で遂行されるかについて学ぶ。教科書やその他資料が補足的に用いられる。学生の発表と討論を中心に毎週授業を進める。

1. 問題設定、運営計画策定
2. 報告、考察、批評、提言(1人目、2人目)
3. 報告、考察、批評、提言(2人目、3人目)
4. 報告、考察、批評、提言(3人目、4人目)
5. 報告、考察、批評、提言(4人目、5人目)
6. 報告、考察、批評、提言(5人目、6人目)
7. 報告、考察、批評、提言(6人目、7人目)
8. 報告、考察、批評、提言(7人目、8人目)
9. 報告、考察、批評、提言(8人目)、再分析、再考察、最終作業(1人目)
10. 再分析、再考察、最終作業(2人目、3人目)
11. 再分析、再考察、最終作業(4人目、5人目)
12. 再分析、再考察、最終作業(6人目、7人目)
13. 再分析、再考察、最終作業(8人目)
14. 最終報告
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1)テキストの講読・理解、授業での発言・参加が40%、(2)研究論文が60%。(1)の授業での発言・参加と(2)の論文のどちらが欠けても単位は取得できない。(1)はどれだけよくテキストなどの教材を指定の授業日までに読み、積極的にクラスでの検証に参加しているかによって決まる。(2)は、学期末提出の研究論文の質で決める。

論文は、A4紙にダブルスペースで13枚程度。研究の内容は、テキストや講義で学んだ内容を発展させる、あるいは検証するものにする。ゆえにテキストを読まずに研究を進めることはできない。研究論文であるので、時事批評や感想文、哲学論は受け付けない。研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと：(1)オリジナルな研究、論文にする、(2)理論や説明の論理的整合性、(3)理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。いずれにせよ、thoughtfulな分析にすること。言うまでもなく、既存の図書、雑誌などからの不正あるいは不適切な引用・抜粋は禁止。また、他の者が書いたものと同じレポートの提出や、過去において自己・他者が書いたレポートの提出も禁止。これら不適切あるいは不正な行為発生の場合は不可。

また、学期前半に、加筆修正された研究計画書の最新版を提出してもらおう。研究の課題、研究方法・計画・参考文献・経過報告の概要を記したアウトラインを提出する。学生はこのアウトラインに沿って研究を進める。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎週の授業前までには、教科書の指定箇所を必ず読み終えていること。この講読で得た知識をベースに授業を進める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なにがとも、必死になって頑張れば、なんとかなりますので、必死になって頑張ってください

キーワード /Keywords

キーワード /Keywords

研究方法論、アカデミック・リテラシー、社会科学、分析方法、データ収集・分析、研究結果報告

政策入門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策入門演習II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

事実・社会的事実の違い、価値と事実、主観性・客観性など、社会科学の概念、社会科学の方法論と調査方法論、研究対象の捉え方について検討する。また、論理的考え方の向上が狙いである。

演習IIのキーワード：社会科学の概念、社会科学の方法論と調査方法論、研究対象の捉え方。

演習IIの目標：①社会現象や問題を発見し、資料を調べ、レポートを書く。

②人間と社会の関係、政治、政策、経済現象について調べ、プレゼンテーションし、議論する。

③新聞社説と論壇を読んできて、それについて話してみる（毎週、約3-4分程度で）。

演習IIの具体的内容：

- ①自我と他人間の関係・自我と社会との関係・事実とデータの関係、そして科学と考えることの意味について知ってもらう。
- ②仮説・因果関係・論証の進め方、見方について知ってもらう。
- ③調査方法について勉強し、研究テーマに関するリサーチ・デザインを行う。
- ④新聞社説と論壇を読んできて、それについて話してみる（約3-4分程度）。
- ⑤以上のことを踏まえ、各自、毎週、1500字位のレポートを書き、それを基に発表する。
発表後、互いにチェックして、返す（考える能力・書く能力・話す能力を高め、また、相手の書いたものをチェックすることで、自分の書き方などの問題点を改善していく。）

演習IIの活動：学生自らの活動が多い（コンパ、よそのまちの探検、学生自らの議論、他大学ゼミとの交流など）

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『自分で調べる技術-市民のための調査入門』（宮内泰介著 岩波書店 ￥777）
- 『考えることの科学』（市川伸一著 中公新書 ￥693）
- 『フィールドワークの技法-問いを育てる、仮説をきたえる』（佐藤郁哉著 新曜社 ￥3,045）
- 『参加型ワークショップ入門』（野田直人著 明石書店 ￥2,940）
- 『社会学研究法リアリティの捉え方』（今田高俊編 有斐閣アルマ ￥2,415）

政策入門演習II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 新聞記事の3 - 4分プレゼンテーションI
- 3回 新聞記事の3 - 4分プレゼンテーションII
- 4回 レポート作成・発表・ディベート
- 5回 レポート作成・発表・ディベート
- 6回 レポート作成・発表・ディベート
- 7回 レポート作成・発表・ディベート
- 8回 社会問題のワークショップ
- 9回 社会問題のワークショップ
- 10回 聞き取り調査
- 11回 聞き取り調査
- 12回 司会・ワークショップの進行
- 13回 パワーポイントによるプレゼンテーション
- 14回 パワーポイントによるプレゼンテーション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告と議論 (80%)、授業への貢献 (20%)

レポートの書き方の例

私は「夫婦別姓は正しくない」と思う。なぜならば夫婦別姓は家族間の一体感を低下させる恐れがあると考えられるからである。

船橋洋一（朝日新聞コラムニスト）は、夫婦別姓が未婚女性の結婚率を高める方法であると論じている。船橋洋一はここ数年20-30代女性の結婚忌避現象に関して、結婚による改姓をその主原因としている。具体的には、、、

これに対して私は反対する。夫婦別姓は、社会的な安定感を崩壊させるとともに、家族間の同一感を低下させる。これは、、、、、、、、からである。

また、夫婦とは、、、家族とは、、社会の中で一番重要な単位であり、基礎でもある。

これに関して、、、、福岡太郎は、、、、と論じている。桃太郎の指摘のとおり、家族の、、社会的、文化的な機能や意味から、私は、、に同感する。反面、船橋洋一は、、面を軽視していると考えられる。従って、私は「夫婦別姓が正しくない」、と思う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ゼミ生の活動・授業内容については、

ゼミホームページ <http://shinzemi.wiki.fc2.com/>

申ホームページ <http://www.kitakyu-u.ac.jp/law/faculty/personal/shin/DongAeRink.htm>

を参照し、準備する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「本を読み、人に会え、旅をしろ」という言葉があります。

大学時代はまさにこれでした。数え切れないほどの試行錯誤がありました。

いま振り返れば、一番の黄金時代でした。

「大学」という「時」を過ごしている君達に言えることは、

まさに、これ、「チャレンジ」です。

キーワード /Keywords

政策入門演習Ⅱ【昼】

担当者名 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策入門演習Ⅱ

SEM112M

授業の概要 /Course Description

1学期に身につけた知識・スキルを基に、2学期には「まちづくり」「福祉政策」等の現代日本における様々な政策課題をゼミで①ディベートしたり（議論したり）、②実際にグループに分かれて調査し、③政策提言するうえでの方法論を学ぶなど、より政策科学的な演習を行います。本年度は、「超高齢社会」「無縁社会」「単身急増社会」といったキーワードを中心にして、大きく変わろうとしている日本社会とこれからの公共政策の在り方について考察していきたいと思っています。

また、NPOや実際に政策が実施されている現場に視察にいて、実際に政策運営に携わっているアクターにインタビューするなど、より実践的内容の演習を行います。視察に行く上でアポイントメントをとったり、調査票の質問項目を作るといったことは容易に思えていざやろうとするとなかなかうまくいかないものです。演習ではこのような実践的側面を含め知識を深めていただこうと思います。

（* 希望者には榎原主催の「政策調査」に調査員として参加することも可能です。）

教科書 /Textbooks

荻谷剛彦『複眼的思考法-誰でも持っている創造力のスイッチ』（講談社、2002年）
小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書、2009年）
新川達郎編『政策学入門-私たちの政策を考える』（法律文化社、2013年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法』（東京大学出版会、2011年）
辻新六・有馬昌宏『アンケート調査の方法-実践ノウハウとパソコン支援』（朝倉書店、1987年）
大谷信介ほか編著『新・社会調査へのアプローチ-論理と方法』（ミネルヴァ書房、2013年）
小池和男『聞き取りの作法』（東洋経済新報社、2000年）

政策入門演習II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 デイベート(1)-天下り
- 2回 デイベート(2)-脱原発
- 3回 デイベート(3)-格差社会など
- 4回 今週の公共政策(1)-自分の興味のある公共政策について発表する
- 5回 今週の公共政策(2)-発表と議論
- 6回 今週の公共政策(3)-これまでのまとめ
- 7回 公共政策のケース・スタディーケース・スタディとは何か
- 8回 公共政策のケース・スタディーケース・スタディの実践
- 9回 今週の公共政策(4)-公共政策の分析
- 10回 今週の公共政策(5)-解決策の提案
- 11回 研究発表の仕方
- 12回 論文の書き方-注の付け方等の復習等
- 13回 インタビューの仕方を考える
- 14回 現代日本の政策課題(1)-割り当てられた部分の発表
- 15回 現代日本の政策課題(2)-分析・検討

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度... 60% レポートや課題... 40 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題として指定されたところは必ず準備して授業にのぞんでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策入門演習II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

「政策入門演習I」に引き続いて、情報収集・整理、分析、プレゼンテーションなど基本能力のトレーニングを進めていきます。Iでは、本の読み方、資料収集、レジュメ作成が中心になりますが、IIでは、レポートの作成方法、討論などを中心に進めていきます。受講生の関心に合わせて題材はできるだけ広く設定したいと思っています。

①「公立保育所民営化」、②「ニート」、③「夫婦別姓」について、報告と議論を行う予定です。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しません。図書・雑誌論文・新聞などを組み合わせて用いたいと思っています。必要部分をコピーし配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方、成績評価について
- 第2回 レポートの書き方
- 第3回 受講生による報告と議論① 公立保育所民営化
- 第4回 受講生による報告と議論① ニート
- 第5回 受講生による報告と議論① 夫婦別姓
- 第6回 受講生による報告と議論② 公立保育所民営化
- 第7回 受講生による報告と議論② ニート
- 第8回 受講生による報告と議論② 夫婦別姓
- 第9回 中間まとめ
- 第10回 中間まとめ
- 第11回 討論 公立保育所民営化
- 第12回 討論 ニート
- 第13回 討論 夫婦別姓
- 第14回 最終報告
- 第15回 最終報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容・討論内容...100% 欠席1回につき、10点程度減点

* 受講態度が極めて悪い場合、出席を認めない場合があります。また報告内容が一定の水準に達しない場合、再報告や追加課題を求める場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

政策入門演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

特になし。

政策入門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

*政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策入門演習II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

本演習の到達目標は、以下の通りである。

- ① 受講者が発表、発言等を行い積極的に参加する「演習」形式の授業における技法を学ぶこと
- ② 情報収集・整理、分析、プレゼンテーション、討論

広く世の中の出来事や図書を題材として、社会科学の分野のみならず実社会でも求められる基本能力のトレーニングを一緒に進めていきます。受講生の関心に合わせて、題材はできるだけ広く設定します。IIでは、Iよりも受講者による研究報告、文献報告とディベートを中心に進めていきます。課題は、受講者の関心を踏まえつつ、設定します。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習時に適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 プレゼンテーションの技法
- 第3回 研究報告①
- 第4回 研究報告②
- 第5回 文献輪読①【思考法】
- 第6回 文献輪読②【文章術】
- 第7回 文献輪読③【地方議員】
- 第8回 ディベート①政治制度関係
- 第9回 文献輪読④【選挙制度】
- 第10回 文献輪読⑤【ポジティブアクション】
- 第11回 文献輪読⑥【社会保障】
- 第12回 ディベート②社会問題関係
- 第13回 研究報告③
- 第14回 研究報告④
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への参加 (30%)、口頭発表 (30%)、レポート (40%)

* 授業回数の3分の1以上欠席した場合は「不可」となる

* レポートを提出しない場合は「不可」となる

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

政策入門演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

なし

政策入門演習II 【昼】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策入門演習II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

本授業は政策入門演習Iと抱き合わせの科目です。

政策入門演習Iで習った大学生の学習方法を次は実践する番です。グループワークで自らの関心に基づき、テーマを決め、最終的には報告書（もしくは論文）の完成にまで皆さん方の能力を高めていってまいります。私が積極的に指導できる教育内容は、政策科学、ESD（持続可能な開発のための教育）、環境教育や国際協力の分野などです。そこで、自分の課題の性格・内容に応じて、必要であれば、グループワーク、インタビューやファシリテーション能力の獲得を行ってまいります。目標をたて、その実現に向かって頑張ってください。本授業では現場での実践や体験も重んじます。

教科書 /Textbooks

* グループワーク用の教材・資料（自ら準備の必要なし）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- * 降旗信一・高橋正弘編『現代環境教育入門』筑波書房、2009年
- * 武田邦彦『偽善エコロジー-「環境生活」が地球を破壊する』幻冬舎新書、2008年
- * 池上彰『そうだったのか!現代史〈パート2〉』集英社文庫、2008年
- * 小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』現代講談社新書、2009年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「政策科学入門II」の目的・内容説明、自らの学習テーマの設定
- 第2回 一学期に学んだ政策研究の基本についての復習
- 第3回 夏季休暇に行った韓国・海洋大学との交流を通じての成果の発表
- 第4回 若園地区ESD協議会との交流～地域問題を考える4
- 第5回 その振り返り ESDについての学習1 ～まなびとESDプロジェクト（藍島プロジェクト）を通して
- 第6回 ESDについての学習2 ～まなびとESDプロジェクト（まるごと韓国プロジェクト）を通して
- 第7回 ESDについての学習3 ～カンボジア支援プロジェクトを通して
- 第8回 若園地区ESD協議会との交流～地域問題を考える5
- 第9回 その振り返り
- 第10回 環境教育についての学習1
- 第11回 環境教育についての学習2
- 第12回 藍島プロジェクトが対象とする子ども会の保護者との話し合い
- 第13回 各ゼミ生のテーマ学習の成果発表1
- 第14回 各ゼミ生のテーマ学習の成果発表2
- 第15回 まとめ

10月には水俣もしくは若松区へのスタディツアーの実施、11月下旬ごろ1泊2日で1年生から4年生までの合同合宿の開催予定、まなびとESDセッションでのプロジェクトの手伝い

政策入門演習II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...50% 小試験(指定資料の読了事前確認用)...10% グループワークを通しての報告書づくりとその成果発表...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

輪読用指定図書を読了、藍島(小倉北区)でのフィールドワーク、水俣または若松区環境モデル地区研修旅行への参加、合宿参加できるだけ現場を楽しむ心構えを持つこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会人になる手前として大学にて教育を受けるが、実践活動と同時に生きるための知恵がつくような幅広い教養を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

政策研究、ESD(持続可能な開発のための教育)、環境教育、フィールドワーク、スタディツアー、若園地区ESD協議会との交流、まなびとESDステーション

政策入門演習II 【昼】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策入門演習II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

本演習は、大学生生活・研究活動に必要なスキルと能力を学んでもらうことを目的としています。大学にはどんな施設があるのか、そして勉強するときどのような情報をどのように調べればよいのかを知っておいたほうがいろいろと便利だろうし、また演習のような授業では“レジュメ”を作ったり、レポートを書いたり、またみんなの前で研究内容を発表したり、それについて議論したりといろいろな知識と技術が必要になってきます。こうした大学生として立派に成長できるようにサポートするのがこの演習の主題です。IIではIで培った知識と技術を踏まえて、皆様の成長をサポートします。

教科書 /Textbooks

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 真剣勝負！ディベート大会！！①【ガイダンス】
- 2回 真剣勝負！ディベート大会！！②【1つ目のテーマについて】
- 3回 真剣勝負！ディベート大会！！③【2つ目のテーマについて】
- 4回 真剣勝負！ディベート大会！！④【3つ目のテーマについて】
- 5回 真剣勝負！ディベート大会！！【ディベートの反省会】
- 6回 政策との出会い①【グループワークのガイダンス】
- 7回 政策との出会い②【調査】【データ収集】【解決策の立案】【プレゼン】【準備】
- 8回 政策との出会い③【調査】【データ収集】【解決策の立案】【プレゼン】【発表本番】
- 9回 レポートへの挑戦①【レポートの書き方】
- 10回 レポートへの挑戦②【テキストの輪読】【基礎】
- 11回 レポートへの挑戦③【テキストの輪読】【応用】
- 12回 レポートテーマの報告①【構想発表】
- 13回 レポートテーマの報告②【経過報告】
- 14回 来年に向けて【将来の夢を語り合おう】
- 15回 1年の反省【政策入門演習の反省と来年の激励】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に臨む積極性、報告の仕方・内容などを基準に判断します。何事にもがむしゃらで一生懸命な人は評価されます。ただ、「読書課題」は必須の要件です。

積極参加点+読書課題・・・50%、期末レポート・・・50%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

政策入門演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

今回は政策入門演習Iと違い、事前準備が結構大変です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

"No pain, no gain"・・・ただ、それだけです。

キーワード /Keywords

政策入門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策入門演習II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

本演習は、政策入門演習Iで学んだ情報収集の仕方、資料や文献の読み込み、レジユメの作成、プレゼンテーションの仕方などのスキルを、ディベートによってさらに磨くことを目的とします。ディベートはテーマごとに、その賛否・可否のどちらかの立場に分かれて行う班対抗戦となりますが、ある個人の力量に頼るのではなく、同じチームのメンバー全員が議論の土台を作り、質疑を行うことを前提とします。また、ディベートを傍聴して、いずれの班の討論に説得されたか、というジャッジも受講生が互いに行うことで、議論の仕方・質疑の仕方についての客観的な意見の交換も行います。

また2学期のレポート課題のテーマは「私のキャリア・デザイン」を予定しています。自分の将来を想像し、どんな人生を送りたいのか、何をすれば希望の進路がとれるのか、を1年生の終わりに考えてみましょう。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。
必要に応じて適宜レジユメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 望月和彦(2003)『ディベートのすすめ』有斐閣選書
- 茂木秀昭(2001)『ザ・ディベート：自己責任時代の思考・表現技術』ちくま新書
- 酒井聡樹(2007)『これからレポート・卒論を書く若者のために』共立出版
- 菊池誠ほか(2011)『もうダメされないための「科学」講義』光文社新書
(ディベートなどに必要な文献については適宜指示します。)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス・ディベート班分け
2回	ディベート(I期)のテーマの設定・対戦チーム決定
3回	ディベート(I期)のための準備(テーマについての情報収集・役割分担等)
4回	ディベートI期 第一試合
5回	ディベートI期 第二試合
6回	ディベートI期 第三試合
7回	ディベート(I期)の講評・ディベート(II期)の構成・テーマの設定
8回	ディベート(II期)のための準備(テーマについての情報収集・役割分担等)
9回	ディベートII期 第一試合
10回	ディベートII期 第二試合
11回	ディベートII期 第三試合
12回	ディベートの講評
13回	レポート課題についての説明：自分の進路について考えよう【キャリア・デザイン】【キャリア・パス】
14回	プレゼンテーションについて：プレゼンテーションに必要なスキルとは？【シンプル】【明瞭】【整然】
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題50%、議論・質疑応答への参加50%
(無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

政策入門演習II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

入門演習IIを受講するにあたっての特別な準備は必要ありません。ただ入門演習Iと同様に、社会で起きていることに常に関心を持って生活して欲しいと思います。ごく身近なことでもいいですし、自分とは直接関係はない事柄でも構いません。外の世界に興味を持つこと、疑問を抱くこと、自分で調べてみる、ひとに聞いてみる、ここから大学における勉強のすべてが始まるといっても過言ではありません。あなたの好奇心、これがこの演習でも活かされるはずですよ。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ディベートという特殊な議論の仕方を通じて、各自、自分にとっての得意と苦手を自覚できればと思っています。主張も質問も反論も、すべて最初から上手である必要はありません。どのように話せば第三者を説得できるのか、どのような準備をしてくればディベート本番で困惑しないのかといったことに加え、どうすれば自分は最も心地よく安定した状態で議論ができるのか、というコミュニケーション上のヒントを掴んでもらえればベストです。また2学期のレポート課題のテーマは「私のキャリア・デザイン」。入門演習で主に扱ってきた社会的な問題を考えるという観点とはちょっと趣が違ふ、と思われるかもしれませんが、自分の将来を描き、なりたい人になる、就きたい職業に就くためには何が必要なのかを考えることも「社会科学」につながります。

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 大澤 津 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。
※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。			演習 I SEM211M

授業の概要 /Course Description

演習Iでは、政治思想史・現代政治理論に関する文献の輪読・報告と討論を行い、これらの分野に関する深い理解と、高度な問題発見能力・論理展開能力を身に付けることを目指します。テキストは履修者との相談の上で決定し、できる限り履修者の問題関心に沿った研究課題を採用します。また、政治思想史、現代政治理論や社会の政策的諸課題に関する研究課題を各人で決定し、レポートの執筆を行います。

教科書 /Textbooks

履修者と相談の上、決定します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

輪読・研究課題に応じて適宜選択します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 近代政治思想から現代政治理論へ
- 第2回 近代政治思想I 【ホブズ】
- 第3回 近代政治思想II 【ロック】
- 第4回 近代政治思想III 【ルソー】
- 第5回 研究進展のためのテーマ・ディスカッション
- 第6回 現代政治理論の基礎I 【ロールズI】
- 第7回 現代政治理論の基礎II 【ロールズII】
- 第8回 現代政治理論の基礎III 【ロールズIII】
- 第9回 研究進展のためのテーマ・ディスカッション
- 第10回 現代政治理論の基礎IV 【ノージックI】
- 第11回 現代政治理論の基礎V 【ノージックII】
- 第12回 現代政治理論の基礎VI 【ノージックIII】
- 第13回 現代政治理論の基礎VII 【サンデルI】
- 第14回 現代政治理論の基礎VIII 【サンデルII】
- 第15回 研究進展のためのテーマ・ディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み、討論への参加、報告、個人研究...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この演習では、なぜ権力は必要なのか、よい民主主義とはどのようなものか、福祉はどこまで要求されるのか、「正しい戦争」はあるのか、などといった、政治と社会のあり方に関する多様な問いについて、政治思想史や現代政治理論の観点から多角的に考察をしていきます。

どのような政策論議も、あるべき政治・社会についての何らかのビジョンを前提にしています。しかし、その背景にある思想の由来や価値の根拠については、あやふやなまま論議が進むことも多く、それが政策論争を感情的にし、不毛にすることも多く見られます。民主主義の政治とは、対立をあおって人々を分断させるのではなく、説得と納得によって人々を結合していくことであると考えられます。そうであれば、政治思想史や現代政治理論を知ることは、実りある政策論議と意思決定のために、大変に役に立つでしょう。履修者には、このような役割を持つ政治思想史や現代政治理論の研究に、実践的な問題関心を持ちながら、熱意をもって取り組んでほしいと思います。

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 五月女 律子 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。
※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。			演習 I SEM211M

授業の概要 /Course Description

ヨーロッパ諸国およびEUを中心として、先進国の政治経済に関わる幅広い問題を取り上げ、現代のヨーロッパにおける諸問題について考察することを目的とする。具体的なテーマは、ヨーロッパの政党政治、欧州統合における諸問題、各国の対外政策などを予定している。

教科書 /Textbooks

受講生の希望を考慮し、授業時に指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 演習の進め方、スケジュールの説明
 - 2回 世界の中のヨーロッパ【外交・対外政策】
 - 3回 ヨーロッパの政治【政党政治】
 - 4回 ヨーロッパの諸問題【雇用・移民】【男女平等】
 - 5回 学生による指定文献の発表(1)
 - 6回 学生による指定文献の発表(2)
 - 7回 学生による指定文献の発表(3)
 - 8回 学生による指定文献の発表(4)
 - 9回 ヨーロッパの挑戦【成長戦略】
 - 10回 学生のレポートのアウトライン発表
 - 11回 学生による研究発表(1)
 - 12回 学生による研究発表(2)
 - 13回 学生による研究発表(3)
 - 14回 学生による研究発表(4)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

口頭発表 ... 30% 議論への参加 ... 40% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業中に携帯電話を使用しないこと。
- ・ 発表担当学生は、事前に十分な準備を行うこと。
- ・ 無断で欠席・遅刻をしないこと。口頭発表を担当する授業を無断欠席した場合には、当該発表を0点とする。
- ・ 口頭発表時には、本、論文、雑誌など、インターネット以外の媒体を参考文献に用いること。
- ・ インターネットのホームページの文章・構成を丸写しした口頭発表は0点とする。
- ・ 万が一、授業時に携帯電話を操作した場合、操作時間は授業に参加していないものとみなす。
- ・ 授業回数の3分の1以上欠席した場合（携帯電話の操作時間・居眠り時間も含む）、「不可」とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 授業前に指定文献を精読し、毎回の演習で必ず発言することが求められる。
- ・ 研究発表とレポートの執筆に当たっては、数多くの本および論文を読むことが必要となる。

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。
※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。			演習 I SEM211M

授業の概要 /Course Description

このクラスは、先進諸国が様々な政策分野で、どのような政策を実行し、政策がどのような結果を創出するかを検証する。分析対象の政策分野は、経済、教育、労働、福祉、規制、財政、貿易、産業、競争、金融、家族政策など。違う政策が、国の経済パフォーマンスや人々の福祉に、どのような肯定的・否定的影響を与えるかを検証し、どのような政策のセットが経済成長、雇用、平等、幸福などを達成する際に望ましいかを考察する。言葉を変えて言うと、人々や社会を幸せで豊かなものにするには、どのような政策が有効か、望ましいかを理論とデータを使って考える。

教科書 /Textbooks

Jonas Pontusson. 2005. Inequality and Prosperity: Social Europe vs. Liberal America. Ithaca: Cornell University Press.

小林由美 2006. 超格差社会アメリカの真実. 日経BP社.

堀内 都喜子 2008. フィンランド豊かさのメソッド. 集英社新書.

(なぜ英語のテキストを使うのかも含めて、私のクラスについてはhttp://www.geocities.jp/sakamoto_pol/basicideas.htmを参照)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日指定

演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにした質疑応答・検証を行い、学生と教員が互いに理解を深める。学生は毎週、テキストの指定箇所を事前に読み終えて授業に臨む。積極的な授業への参加なしでは単位を取得できない。「参加」とは「出席」とは同義語ではない。参加とは、毎週の課題・活動に積極的・建設的に参加・貢献することである。また、問題について建設的、批判的に考え、発言することである。同時に学生は個々で選ぶ政策・問題に関して研究を進め、クラスで発表・討論し、論文を執筆する。

このクラスではたくさん勉強してもらいますので、そのつもりで履修登録してください。ただし、本気で一生懸命勉強すれば、授業についてこれると思いますので、本クラスのサブジェクトに関心がある人は、しりごみしないで受講してください。

毎週のreading assignmentについては後日アナウンスする。

1. イントロ
2. 問題定義: 経済成長と平等
3. 成長と平等II (extension)
4. 資本主義経済の諸類型
5. 雇用・失業の様態
6. 雇用・失業の様態II (extension)
7. 雇用保護・解雇規制と雇用
8. 積極的労働市場政策と雇用、教育政策、職業教育、格差
9. 積極的労働市場政策と雇用、教育政策、職業教育、格差II (extension)
10. 福祉政策、所得再分配、経済成長
11. 福祉政策、所得再分配、経済成長II (extension)
12. 福祉国家の縮小とデータ
13. 福祉国家の縮小とデータII (extension)
14. 遅れをカバーするための授業
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1) テキストの講読・理解、授業での発言・参加が40%、(2) 研究論文あるいは期末総合テストが60% (どちらかひとつ)。研究論文とテストのどちらを行うかは、授業の進度や受講学生の学習の進歩を見て学期中に担当教員が決める。(1) の授業での発言・参加と(2) の論文/テストのどちらが欠けても単位は取得できない。(1) はどれだけよくテキストを指定の授業日まで読み、積極的にクラスでの検証に参加しているかによって決まる。(2) は、研究論文の場合、学期末提出の論文の質で決める。テストの場合は、学期中に学習・分析した内容をどれだけ良く理解したかを総合的に問うテストの結果をもって評価する。

論文の場合、A4紙にダブルスペースで13枚程度。研究の内容は、テキストや講義で学んだ内容を発展させる、あるいは検証するものにする。ゆえにテキストを読まずに研究を進めることはできない。研究論文であるので、時事批評や感想文、哲学論は受け付けない。研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと：(1) オリジナルな研究、論文にする、(2) 理論や説明の論理的整合性、(3) 理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。いずれにせよ、thoughtfulな分析にすること。言うまでもなく、既存の図書、雑誌などからの不正あるいは不適切な引用・抜粋は禁止。また、他の者が書いたものと同一のレポートの提出や、過去において自己・他者が書いたレポートの提出も禁止。これら不適切あるいは不正な行為発生の場合は不可。

総合テストの場合は、テキストや授業で学んだ内容をどれだけ良く理解しているかを、総合的に問い、論文形式で答えてもらう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎週の授業前までには、教科書の指定箇所を必ず読み終えていること。この講読で得た知識をベースに授業を進める。また、条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計を勉強することを強く勧める。

この演習を取る年度に、「比較政策論」あるいは「対外政策論」を履修することが限りなく望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なにごとも、必死になって頑張れば、なんとかなりますので、必死になって頑張ってください

キーワード /Keywords

比較政策分析、比較政治経済、福祉政策、経済政策、教育政策、労働政策、国際政治経済、比較政治、雇用、経済成長、平等、福祉、市民、政府、政治家、利益集団

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。
※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。			演習 I SEM211M

授業の概要 /Course Description

人間と社会、そして環境の関係を理解、分析する。また、環境問題の原因やその構造を発見し、その問題を解決する能力（政策形成能力）を高める。

講義全体のキーワードは、環境、地域、アジアの環境問題（日本、韓国、中国）、アメリカ、ドイツとEUの環境問題、住民参加、そしてエネルギー（原子力、再生エネルギー）である。

環境ゼミで扱うテーマは以上の通りであるが、これ以外に各自、興味のあるテーマを決めてもよい。

教科書 /Textbooks

適宜レジメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法』（伊藤修一郎著 東京大学出版会 ￥2,940）
- 『新環境学が分かる』（アエラムック46 朝日出版社 ￥1,260）
- 『環境問題の社会史』（飯島伸子著 有斐閣 ￥2,310）

演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テーマ

- ①中央省庁、自治体における環境関連の財政、組織、法律、環境への取り組み。
- ②環境を通じた地域再生、公共事業と地域再生。
- ③環境会計；これは資格証がもらえ、就職しやすい。
- ④エコファンド；投資者が環境に優しい企業のファンドを買い（投資）、企業の環境活動、取り組みを誘導する方法の研究（欧米では進んでいる）。
- ⑤環境コンサルタント；環境紛争、対立、技術に関するコンサルタントとして起業可能な分野で、そのための方法、研究。
- ⑥アジアの環境政策1（比較研究、日本、韓国、中国；特に中国環境問題・市場はかなり可能性がある）
- ⑦アジアの環境政策2
- ⑧車リサイクル政策、容器包装リサイクル、家電リサイクル、p cリサイクル。
- ⑨エコタウン；全国のエコタウンの実態からエコタウンの可能性と課題の研究。
- ⑩地球温暖化問題・CO2問題、京都議定書、これらの問題に関する国際的取り組み、動向。
- ⑪エコマネーとエコビジネスとリサイクル市場の国際的取引
- ⑫環境リスク管理（環境リスク管理資格証がもらえる分野）
日本では始まったばかりの制度。おススメ；大阪大学環境リスク管理プログラムとの連携も可能である。
- ⑬環境社会アセスメント；環境会計、環境報告書
- ⑭自治体の環境政策と評価（環境自治体）
- ⑮環境メディア；環境に関するメディアの報道、実態、問題点、あり方など。

ゼミ活動

7月には、勉強した内容を、各自、パワーポイントを使って発表する。

ゼミ発表集を仕上げる。

特別講演会を行う。

国内大学（西南大学、九大）との共同発表会、外国大学（ソウル、中国大連大学）との交流を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告と議論（80%）、授業への貢献（20%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ゼミ生の活動・授業内容については、

ゼミホームページ <http://shinzemi.wiki.fc2.com/>

申 ホームページ <http://www.kitakyu-u.ac.jp/law/faculty/personal/shin/DongAeRink.htm>

を参照し、準備する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

18世紀のイギリス産業革命以降、アメリカの急成長と繁栄として象徴された20世紀、しかし、今後、21世紀は、優秀な人材、知識と技術そして文化・多様性・共存といった考え方に基づくアジアの時代とも言われている。この切り口が、まさに、環境である。環境は、大量生産と消費を作り出したアメリカ型の石油文明から、経済活動と人間、社会と文化が共存できるパラダイムである。各社会や経済主体ごとの違いはあれ、今後、人間社会を取り巻くあらゆるシステムが、環境をキーワードにし、再編されることになる。

「環境」について知ることを通じ、自分のライフそして仕事を探る旅に出てみませんか！

キーワード /Keywords

人間生活と環境、環境と経済、環境問題と政策、産業公害型環境問題、都市生活型環境問題、科学技術・リスク型環境問題、グローバルとローカル。

演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。
<small>※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		演習Ⅰ SEM211M

授業の概要 /Course Description

ゼミの目的は、政策研究を通じて地域（社会）貢献をすること、ゼミ生の到達目標としては、個人及びグループで現状分析（政策リサーチ）を行い、政策提言ができるようになることを目標としています。また、ゼミ終了時まで基礎的なアンケート調査やインタビューができるようになることも到達目標としています。

政策提言ができるためには現状分析（調査）ができなければなりません。本学期には、政策研究に関する専門文献を輪読しながら、政策提言をするに際して必要な現状分析の方法さらには「政策案を策定するための基礎となる知識を生み出す」にはどうすればよいかについて学びます。

そして、次にユージン・バーダック『政策立案の技法-問題解決を「成果」に結びつける8つのステップ』を輪読して、政策提言をするに際して必要となる基本的な手順や方法について学びます。

なお、この間、授業で取り上げたテーマや日本の政策過程で生じた政策課題については随時ゼミの始めの時間をとって議論したいと思います。

教科書 /Textbooks

伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法』（東京大学出版会、2011年）
ユージン・バーダック『政策立案の技法-問題解決を「成果」に結びつける8つのステップ-』（東洋経済新報社、2012年）
大谷信介他編著『新・社会調査へのアプローチ-論理と方法-』（ミネルヴァ書房、2013年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献はその都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 導入-公共政策研究について
2. リサーチ・クエスチョンをたてる
3. 仮説をたてる
4. 資料・データの収集
5. 仮説を検証する
6. 政策リサーチの補充説明
7. 今週の公共政策
8. 政策リサーチから政策提言へ
9. ユージン・バーダックの8つのステップ(1)-問題を定義する-
10. ユージン・バーダックの8つのステップ(2)-政策案をつくる-
11. ユージン・バーダックの8つのステップ(3)-政策案の評価基準-
12. ユージン・バーダックの8つのステップ(4)-まとめ-
13. 政策を提案する-バーダックの方法を用いた演習-
14. 政策を提案する（応用）
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度(60%)とレポート(40%)によって評価する。

演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。
※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。			演習 I SEM211M

授業の概要 /Course Description

年金、医療、介護、保育、障害者福祉（就労支援・作業所）といった社会保障関連の政治・行政・政策に関心を持っている人を歓迎します。演習では受講生が自分で「調べて、考えて、そして発表する」ことを目標とします。演習Iでは「福祉経営」「社会起業家」をテーマにして、障害者福祉、障害者の雇用を中心に議論します。社会福祉サービスにおける政府と市場の役割を理解するのが目標です。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しません。図書・雑誌論文・新聞などを組み合わせて用いますが、必要部分をコピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方・班分け。課題の提示
- 第2回 障害の概念①
- 第3回 障害の概念②
- 第4回 障害者と雇用①
- 第5回 福祉NPO①
- 第6回 中間まとめ
- 第7回 障害の概念③
- 第8回 障害の概念④
- 第9回 障害者と雇用②
- 第10回 福祉NPO②
- 第11回 中間まとめ
- 第12回 作業所見学まとめ
- 第13回 討論
- 第14回 討論
- 第15回 討論

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容・討論内容...100% 欠席・遅刻1回につき、10点程度減点

* 受講態度が極めて悪い場合、出席を認めない場合があります。また報告内容が一定の水準に達しない場合、再報告や追加課題を求める場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

特になし。

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。
※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。			演習 I SEM211M

授業の概要 /Course Description

本演習は、受講生各自がそれぞれのテーマに沿って研究を進めることを目的とします。演習IIの最後には、ゼミ論文を執筆します。そのため、演習Iでは科学や方法に関する文献輪読を中心に進めます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

各自の問題関心に即して、適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 各自の問題意識の報告
- 第3回 問題を考える①【概念】
- 第4回 問題を考える②【理論】【モデル】
- 第5回 理論、仮説とは何か？
- 第6回 説明するとは何か？
- 第7回 卒業論文を読む①【制度分析】
- 第8回 卒業論文を読む②【政策分析】
- 第9回 論文の構成
- 第10回 量的調査法
- 第11回 質的調査法
- 第12回 文献輪読①【制度】
- 第13回 文献輪読②【行為】
- 第14回 文献輪読③【政策】【組織】
- 第15回 研究報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 (50%)、ゼミへの積極的な参加 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ゼミでの討論に積極的に参加すること。

毎週、新聞評論もしくは書評を提出してもらいます。
ゼミの報告を踏まえた、研究計画を提出してもらいます。

演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。
※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。			演習 I SEM211M

授業の概要 /Course Description

三宅ゼミの特徴は、現場に出かけ、自ら調査して、事業計画を立て実践することです。北九州ESD協議会、まなびとESDステーションと連携して行っています。ESD（持続可能な開発のための教育）の骨子となる領域である環境・地域開発・国際協力（国際理解教育）・人権をテーマに、それぞれの領域に精通するための学習を行います。具体的には、指定された教科書の輪読と工口検定受験のための学習です。環境に関する一般的な知識を身につけます。その際、政策実践プロジェクトも同時受講してください。本ゼミは現場からの政策・事業計画作りを重視していますが、それに必要な知識や情報がなければなりません。連続して履修する演習IIでは現場感覚を養う授業を行い、コミュニケーション能力を養います。

教科書 /Textbooks

- * 東京商工会議所編『改訂版eco検定公式テキスト』日本能率協会マネジメントセンター、2009年、2500円
- * 生方秀紀他編『ESDをつくる～地域でひらく未来への教育』ミネルヴァ書房、2010年、2800円
- * 小田康徳『公害・環境問題史を学ぶ人のために』世界思想社、2008年、2000円
- * 中野民夫『ファシリテーション革命』岩波アクティブ新書、2003年、740円
- * 堀公俊・加藤彰『ワークショップ・デザイン～知をつむぐ対話の場づくり』日本経済新聞出版社、2008年、2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 白谷秀一・朴相権『実践初めての社会調査』自治体研究社、2007年、1900円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「演習I」の授業内容の紹介とねらいの説明
- 第2回 ESDに関する文献『ESDをつくる』第1章の輪読、ファシリテーション技術の習得
- 第3回 ESDに関する文献『ESDをつくる』第3章の輪読、工口検定過去問模擬テスト
- 第4回 ESDに関する文献『ESDをつくる』第4章の輪読
- 第5回 ESDに関する文献『ESDをつくる』第5・6章の輪読
- 第6回 ESDに関する文献『ESDをつくる』第7章の輪読 工口検定過去問模擬テスト
- 第7回 学習教材用のESDアクティビティに対する討論
- 第8回 ファシリテーション技術の取得～『ワークショップ・デザイン』（前半）の輪読・発表
- 第9回 ファシリテーション技術の取得～『ワークショップ・デザイン』（中半）の輪読・発表
- 第10回 ファシリテーション技術の取得～『ワークショップ・デザイン』（後半）の輪読・発表
- 第11回 ファシリテーション技術の取得のおさらい～『ファシリテーション革命』を通して
- 第12回 インドの小学校教科書『環境学習』の内容の検討 1回目
- 第13回 インドの小学校教科書『環境学習』の内容の検討 2回目
- 第14回 インドの小学校教科書『環境学習』の内容の検討 3回目
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表文献のまとめ方・プレゼンテーションの仕方評価...60 % 討論における参加態度...20% 工口検定結果...20 %

演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

輪読用指定資料の読了、日常的なグループ課題探求作業
土・日曜日はフィールド・ワークに充てることもあるので(事前に日時指定を行い、連絡)、極力バイトなどを入れないようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

とにかく忙しくなると思います。各種能力以外に、積極性、協調性などが身に着きます。

キーワード /Keywords

ESD、ファシリテーション技術、ワークショップ、エコ検定

演習I【昼】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。
※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		演習 I SEM211M

授業の概要 /Course Description

本演習は、地方自治にかかわるテーマに興味を持った学生の皆さんを対象としている。基本的には演習Iから演習IVを通じた2年間の調査研究プロジェクトの形式をとり、調査研究のテーマにそって、文献研究をしたり、フィールドワークを実践したり、そして最終的には報告書を執筆する。とくに演習Iでは、調査研究のテーマ設定とそれに関する文献研究が中心となる。

教科書 /Textbooks

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス【演習の心得】
- 2回 調査研究テーマの決定【テーマについての講義】
- 3回 調査研究テーマの決定【テーマについての議論】
- 4回 調査研究の準備【文献講読：基本書1冊目前半】
- 5回 調査研究の準備【文献講読：基本書1冊目後半】
- 6回 調査研究の準備【文献講読：基本書2冊目前半】
- 7回 調査研究の準備【文献講読：基本書2冊目後半】
- 8回 調査研究の準備【文献講読：専門的文献1冊目前半】
- 9回 調査研究の準備【文献講読：専門的文献1冊目後半】
- 10回 調査研究の準備【文献講読：専門的文献2冊目前半】
- 11回 調査研究の準備【文献講読：専門的文献2冊目後半】
- 12回 調査研究の準備【文献講読：専門的文献3冊目前半】
- 13回 調査研究の準備【文献講読：専門的文献3冊目後半】
- 14回 調査研究の準備【基本書のまとめ】
- 15回 調査研究の準備【専門的文献のまとめ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業、調査研究への参加意欲、文献講読の準備の度合い... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

まじめに頑張ろうという姿勢がまず求められる。文献研究では膨大な文献を講読するので、事前の予習が不可欠となる。地方自治論等の講義を前もって受講しておくこと文献講読が理解しやすくなります。

演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。
※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		演習 I SEM211M

授業の概要 /Course Description

本演習では、日常生活で感じる身近な事柄から政策を考え、実際に社会調査を実施することで、問題の背景などの現状を把握する技術を学ぶことを目的とします。また現状を理解し、仮説の検証を行い、政策提言のできるまでの分析手法を習得し、さらに調査結果の発表を通じ、他者に伝えるスキルを身に付けることもゼミの目的となります。演習Iでは、調査テーマや聞きたい項目の検討や分析の実習を行いながら、社会調査に関する知識を習得します。

また個人の研究活動としては、日本または海外諸国の行政・地方自治の分野から探究したいテーマを各自設定し、それぞれのリサーチ・クエスチョンに従って論文を完成させるために必要な基礎的な土台の構築を目指します。受講生の論文のテーマが定まるまでの間は、行政・地方自治に関する文献を輪読し、議論を行います。また研究テーマの決定までに、受講生は全員、自身のテーマやそれについて調べたことなど、その経過についての報告をし、これについての討論も行います（報告・質疑とも内容・表現が悪い場合にはやり直してもらうことがあります）。

教科書 /Textbooks

適宜指示、また必要に応じてレジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 酒井聡樹(2007)『これから卒論・レポートを書く若者のために』共立出版
 - 菊池誠ほか(2011)『もうダメされないための「科学」講義』光文社新書
 - 伊藤修一郎(2011)『政策リサーチ入門：仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会
 - 久米郁男(2013)『原因を推論する：政治分析方法論のすゝめ』有斐閣
 - 鮑戸弘(1987)『社会調査ハンドブック』日本経済新聞社
 - 谷岡一郎(2007)『データはウソをつく：科学的な社会調査の方法』筑摩書房
 - 増山幹高・山田真裕(2004)『計量政治分析入門』東京大学出版会
 - 松田憲忠・竹田憲史(2012)『社会科学のための計量分析入門：データから政策を考える』ミネルヴァ書房
- その他、適宜指示します。

演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス
2回	調査企画と論文作成のために：テーマの設定、情報収集、計画
3回	文献輪読 【社会科学的分析方法とは？】
4回	文献輪読 【先行研究の検討はなぜ必要か】
5回	文献輪読 【リサーチクエスション】【仮説】【検定】
6回	文献輪読 【量的分析】
7回	実習 【データの整理】
8回	実習 【統計的な処理】
9回	調査テーマの検討と議論
10回	調査テーマの決定
11回	研究テーマについての報告と質疑・議論
12回	研究テーマについての報告と質疑・議論
13回	研究テーマの再検討：質疑を受けたうえでのテーマの妥当性の検証
12回	調査テーマに関するレビューの報告・整理
13回	調査項目についての議論
14回	調査計画についての整理
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、議論への参加・貢献50%
(無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミ全体の活動(調査設計)と個人の活動(ゼミ論文のための研究)の両方が同時進行する慌ただしいゼミですが、両活動に共通する文献を輪読していく予定です。また「現場」に行くことと「机上」でじっくり考えること、どちらも大切だということを是非、実感して欲しいと思っています。

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。
※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。			演習II SEM212M

授業の概要 /Course Description

演習Iに引き続き、政治思想史・現代政治理論に関する文献の輪読・報告と討論を行います。また各人の研究を進め、レポートの執筆を行います。

教科書 /Textbooks

履修者と相談の上、決定します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

輪読・研究課題に応じて適宜選択します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 研究進展のためのテーマ・ディスカッション
- 第2回 現代政治理論の展開I 【正戦論】
- 第3回 現代政治理論の展開II 【フェミニズム】
- 第4回 現代政治理論の展開III 【多文化主義】
- 第5回 現代政治理論の展開IV 【グローバルな正義】
- 第6回 研究進展のためのテーマ・ディスカッション
- 第7回 現代政治理論の展開V 【生命の倫理】
- 第8回 現代政治理論の展開VI 【ベーシック・インカム】
- 第9回 日本と西洋の政治思想・理論
- 第10回 日本社会と政治理論I 【戦争・テロリズム】
- 第11回 日本社会と政治理論II 【領土紛争】
- 第12回 研究進展のためのテーマ・ディスカッション
- 第13回 日本社会と政治理論III 【医療と福祉】
- 第14回 日本社会と政治理論IV 【ナショナリズム】
- 第15回 政治と倫理の間

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み、討論への参加、報告、個人研究...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習II 【昼】

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 五月女 律子 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習II

SEM212M

授業の概要 /Course Description

ヨーロッパ諸国およびEUを中心として、先進国の政治経済に関わる幅広い問題を取り上げ、現代のヨーロッパにおける諸問題について考察することを目的とする。具体的なテーマは、ヨーロッパの安全保障、欧州統合における諸問題、各国の対外政策などを予定している。

教科書 /Textbooks

ヨーロッパ諸国とEUに関するテキスト（英語論文）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 演習の進め方、スケジュールの説明
 - 2回 現在のヨーロッパ 【世界の中におけるヨーロッパ】
 - 3回 学生による指定文献(英語)の発表(1)
 - 4回 学生による指定文献(英語)の発表(2)
 - 5回 学生による指定文献(英語)の発表(3)
 - 6回 学生による指定文献(英語)の発表(4)
 - 7回 ヨーロッパの課題 【安全保障】
 - 8回 ヨーロッパの挑戦 【国内政治・対外政策】
 - 9回 学生のレポートのアウトライン発表
 - 10回 ヨーロッパを取り巻く国際環境【近隣諸国】
 - 11回 学生による研究発表(1)
 - 12回 学生による研究発表(2)
 - 13回 学生による研究発表(3)
 - 14回 学生による研究発表(4)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

口頭発表 ... 30% 議論への参加 ... 40% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習II【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 発表担当学生は、事前に十分な準備を行うこと。
- ・ 無断で欠席・遅刻をしないこと。口頭発表を担当する授業を無断欠席した場合には、当該発表を0点とする。
- ・ 口頭発表時には、本、論文、雑誌など、インターネット以外の媒体を参考文献に用いること。
- ・ インターネットのホームページの文章・構成を丸写しした口頭発表は0点とする。
- ・ 万が一、授業時に携帯電話を操作した場合、操作時間は授業に参加していないものとみなす。
- ・ 授業回数の3分の1以上欠席した場合（携帯電話の操作時間・居眠り時間も含む）、「不可」とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 授業前に指定文献を精読し、毎回の演習で必ず発言することが求められる。
- ・ レポートの執筆に当たっては、数多くの本および論文を読むことが必要となる。

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習II

SEM212M

授業の概要 /Course Description

このクラスは、先進諸国が様々な政策分野で、どのような政策を実行し、政策がどのような結果を創出するかを検証する。分析対象の政策分野は、経済、教育、労働、福祉、規制、財政、貿易、産業、競争、金融、家族政策など。違う政策が、国の経済パフォーマンスや人々の福祉に、どのような肯定的・否定的影響を与えるかを検証し、どのような政策のセットが経済成長、雇用、平等、幸福などを達成する際に望ましいかを考察する。言葉を変えて言うと、人々や社会を幸せで豊かなものにするには、どのような政策が有効か、望ましいかを理論とデータを使って考える。

教科書 /Textbooks

演習Iで読む下記の教科書に加え、複数の学術論文、報告のサーベイを予定している。演習Iのテキストは:

Jonas Pontusson. 2005. Inequality and Prosperity: Social Europe vs. Liberal America. Ithaca: Cornell University Press.

小林由美 2006 . 超格差社会アメリカの真実. 日経BP社.

堀内 都喜子 2008. フィンランド豊かさのメソッド. 集英社新書.

(なぜ英語のテキストを使うのかも含めて、私のクラスについてはhttp://www.geocities.jp/sakamoto_pol/basicideas.htmを参照)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日指定。

演習II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにした質疑応答・検証を行い、学生と教員が互いに理解を深める。学生は毎週、テキストの指定箇所を事前に読み終えて授業に臨む。積極的な授業への参加なしでは単位を取得できない。「参加」とは「出席」とは同義語ではない。参加とは、毎週の課題・活動に積極的・建設的に参加・貢献することである。また、問題について建設的、批判的に考え、発言することである。同時に学生は個々で選ぶ政策・問題に関して研究を進め、クラスで発表・討論し、論文を執筆する。

このクラスではたくさん勉強してもらいますので、そのつもりで履修登録してください。ただし、本気で一生懸命勉強すれば、授業についてこれると思いますので、本クラスのサブジェクトに関心がある人は、しりごみしないで受講してください。

毎週のreading assignmentについては後日アナウンスする。

基本的にこのクラスでは、演習Iで学んだ内容を発展・拡大・応用していく。同時に学生は個々で選ぶ政策・問題に関して研究を進め、クラスで発表・討論し、論文を執筆する。

1. 問題設定、運営計画策定
2. 報告、考察、批評、提言（1人目）
3. 報告、考察、批評、提言（1人目、2人目）
4. 報告、考察、批評、提言（2人目、3人目）
5. 報告、考察、批評、提言（3人目、4人目）
6. 報告、考察、批評、提言（4人目、5人目）
7. 報告、考察、批評、提言（5人目）
8. 中間報告、考察、批評、提言
9. 再分析、再考察、最終作業（1人目）
10. 再分析、再考察、最終作業（1人目、2人目）
11. 再分析、再考察、最終作業（2人目、3人目）
12. 再分析、再考察、最終作業（3人目、4人目）
13. 再分析、再考察、最終作業（4人目、5人目）
14. 再分析、再考察、最終作業（5人目）
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1)テキストの講読・理解、授業での発言参加が50%、(2)研究論文が50%。授業での発言・参加と論文提出のどちらが欠けても単位は取得できない。(1)はどれだけよくテキストを指定の授業日までに読み、どれだけ積極的にクラスでの検証に参加しているかによって決まる。(2)は学期末提出の研究論文の質で決まる。研究論文はA4紙にダブルスペースで10枚程度。また、学期中の早い時期に研究の計画書を提出してもらう。研究の課題、研究方法・計画の概要・参考文献を記したアウトラインを提出する。学生はこのアウトラインに沿って研究を進め、研究結果報告書として論文をまとめる。

研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと：(1)オリジナルな研究、論文にする、(2)理論や説明の論理的整合性、(3)理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。いずれにせよ、thoughtfulな分析にすること。

当然のことながら、既存の図書、雑誌などからの不正あるいは不適切な引用・抜粋は禁止。また、他の者が書いたものと同一のレポートの提出や、過去において自己・他者が書いたレポートの提出も禁止。これら不適切あるいは不正な行為発生の場合は不可。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎週の授業前までには、教科書の指定箇所を必ず読み終えていること。この講読で得た知識をベースに授業を進める。また、条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計を勉強することを強く勧める。

この演習を取る年度に、「比較政策論」あるいは「対外政策論」を履修することが限りなく望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なにがとも、必死になって頑張れば、なんとかなりますので、必死になって頑張ってください。

キーワード /Keywords

比較政策分析、比較政治経済、福祉政策、経済政策、教育政策、労働政策、国際政治経済、比較政治、雇用、経済成長、平等、福祉、市民、政府、政治家、利益集団

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。
※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。			演習II SEM212M

授業の概要 /Course Description

人間と社会、そして環境の関係を理解、分析する。また、環境問題の原因やその構造を発見し、その問題を解決する能力（政策形成能力）を高める。

講義全体のキーワードは、環境、地域、アジアの環境問題（日本、韓国、中国）、アメリカ、ドイツとEUの環境問題、住民参加、そしてエネルギー（原子力、再生エネルギー）である。

環境ゼミで扱うテーマは以下の通りであるが、これ以外に各自、興味のあるテーマを決めてもよい。

教科書 /Textbooks

適宜レジメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『公共政策学の基礎』（秋吉貴雄外著 有斐閣ブックス ¥2,730）
- 『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法』（伊藤修一郎著 東京大学出版会 ¥2,940）
- 『環境問題の社会史』（飯島伸子著 有斐閣 ¥2,310）
- 『フィールドワークの技法-問いを育てる 仮説をきたえる』（佐藤郁哉著 新曜社 ¥3,045）
- 『社会調査法入門』（盛山和夫著 有斐閣 ¥2,415）

演習II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テーマ

- ①中央省庁、自治体における環境関連の財政、組織、法律、環境への取り組み。
- ②環境を通じた地域再生、公共事業と地域再生。
- ③環境会計；これは資格証がもらえ、就職しやすい。
- ④エコファンド；投資者が環境に優しい企業のファンドを買い（投資）、企業の環境活動、取り組みを誘導する方法の研究（欧米では進んでいる）。
- ⑤環境コンサルタント；環境紛争、対立、技術に関するコンサルタントとして起業可能な分野で、そのための方法、研究。
- ⑥アジアの環境政策1（比較研究、日本、韓国、中国；特に中国環境問題・市場はかなり可能性がある）
- ⑦アジアの環境政策2
- ⑧車リサイクル政策、容器包装リサイクル、家電リサイクル、p cリサイクル。
- ⑨エコタウン；全国のエコタウンの実態からエコタウンの可能性と課題の研究。
- ⑩地球温暖化問題・CO2問題、京都議定書、これらの問題に関する国際的取り組み、動向。
- ⑪エコマネーとエコビジネスとリサイクル市場の国際的取引
- ⑫環境リスク管理（環境リスク管理資格証がもらえる分野）
日本では始まったばかりの制度。おススメ；大阪大学環境リスク管理プログラムとの連携も可能である。
- ⑬環境社会アセスメント；環境会計、環境報告書
- ⑭自治体の環境政策と評価（環境自治体）
- ⑮環境メディア；環境に関するメディアの報道、実態、問題点、あり方など。

ゼミ活動

1月には、勉強した内容を、各自、パワーポイントを使って発表する。

ゼミ論を仕上げ、製本する。

特別講演会を行う。

国内大学（西南大学、九大）との共同発表会、外国大学（ソウル、中国大連大学）との交流を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告と議論（80%）、授業への貢献（20%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ゼミ生の活動・授業内容については、

ゼミホームページ <http://shinzemi.wiki.fc2.com/>

申 ホームページ <http://www.kitakyu-u.ac.jp/law/faculty/personal/shin/DongAeRink.htm>

を参照し、準備する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

18世紀のイギリス産業革命以降、アメリカの急成長と繁栄として象徴された20世紀、しかし、今後、21世紀は、優秀な人材、知識と技術そして文化・多様性・共存といった考え方に基づくアジアの時代とも言われている。この切り口が、まさに、環境である。環境は、大量生産と消費を作り出したアメリカ型の石油文明から、経済活動と人間、社会と文化が共存できるパラダイムである。各社会や経済主体ごとの違いはあれ、今後、人間社会を取り巻くあらゆるシステムが、環境をキーワードにし、再編されることになる。

「環境」について知ることを通じ、自分のライフそして仕事を探る旅に出てみませんか！

キーワード /Keywords

人間生活と環境、環境と経済（構造）、制度（政策）・知識（技術）・人口（排出者・汚染者・消費者）・資源、産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題、グローバルとローカル。

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習II

SEM212M

授業の概要 /Course Description

学期の前半では、社会(政策)調査について学び、基礎的なアンケート調査やインタビューができるようにしたいと考えています。後半では、これから何を研究していくか(研究テーマ)をおおよそ決定し、現時点で研究したいと考えているテーマについて簡単な研究発表をしてもらいます。

また、政策実践プロジェクトに関連した政策調査を企画して実施してもらうか、あるいは榎原の企画した調査に参加してもらいたいと考えています。希望学生はSPSSの使用も可能です。

1学期・2学期を通じて、基礎的なアンケート調査やインタビューの手法を習得し、現状分析を行い、政策提言することができる能力を養います。

教科書 /Textbooks

大谷信介他編著『新・社会調査へのアプローチ-論理と方法-』（ミネルヴァ書房、2013年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献はその都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 導入-2学期に何をするか-
2. 社会調査の論理
3. 調査票の作成
4. サンプリング
5. 調査結果の分析(1)単純集計等
6. 調査結果の分析(2)クロス表
7. 聞き取り調査
8. 参与観察法
9. 研究発表の仕方
10. 研究発表(1)
11. 研究発表(2)
12. 研究発表(3)
13. 研究発表(4)
14. 研究発表(5)
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度(60%)とレポート(40%)で評価する予定。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習II【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。
※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。			演習II SEM212M

授業の概要 /Course Description

年金、医療、介護、保育、障害者福祉（就労支援・作業所）といった社会保障関連の政治・行政・政策に関心を持っている人を歓迎します。演習では受講生が自分で「調べて、考えて、そして発表する」ことを目標とします。演習IIでは、①年金、②医療、③少子化、④刑務所民営化、についてグループに分かれてより良い政策を討論してもらいます。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しません。図書・雑誌論文・新聞などを組み合わせて用いますが、必要部分をコピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方・グループ分け。課題の提示
- 第2回 報告と討論 年金編
- 第3回 報告と討論 医療編
- 第4回 報告と討論 少子化編
- 第5回 報告と討論 刑務所民営化編
- 第6回 中間まとめ
- 第7回 報告と討論 年金編
- 第8回 報告と討論 医療編
- 第9回 報告と討論 少子化編
- 第10回 報告と討論 刑務所民営化編
- 第11回 政策提案
- 第12回 政策提案
- 第13回 政策提案
- 第14回 政策提案
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容・討論内容...100% 欠席・遅刻1回につき、10点程度減点

* 受講態度が極めて悪い場合、出席を認めない場合があります。また報告内容が一定の水準に達しない場合、再報告や追加課題を求める場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習II【昼】

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

特になし。

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習II

SEM212M

授業の概要 /Course Description

本演習の主な到達目標は、以下の通りです。

- ①受講生各自がそれぞれのテーマに沿って学術論文を読みこなす能力を向上させること
- ②ゼミ論文の執筆・提出すること
- ③プレゼンテーションの技量を向上させること

以上の目的を達成するため、演習Iよりも研究報告の機会を増やし、学期中、少なくとも2回程度は研究についての報告を行ってまいります。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の問題関心に即して、適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 研究報告①
- 第2回 研究報告②
- 第3回 研究報告③
- 第4回 文献輪読①【執政制度】
- 第5回 文献輪読②【選挙制度】
- 第6回 文献輪読③【議会制度】
- 第7回 文献輪読④【マスメディア】
- 第8回 文献輪読⑤【政治参加】
- 第9回 文献輪読⑥【投票行動】
- 第10回 文献輪読⑦【利益集団】
- 第11回 文献輪読⑧【リーダーシップ】
- 第12回 文献輪読⑨【地方政治】
- 第13回 研究報告④
- 第14回 研究報告⑤
- 第15回 研究報告⑥

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 (30%)、ゼミへの積極的な参加 (50%)、研究計画 (20%)

* ゼミ論を提出しない場合は単位を認定しません。

演習II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ゼミでの討論に積極的に参加すること。

毎週、新聞評論もしくは書評を提出してもらいます。
2月のゼミ論提出以前にも、草稿を提出してもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / Credits 2単位 / Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 演習 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習II

SEM212M

授業の概要 /Course Description

演習IでESD（持続可能な開発のための教育）に係る知識や情報を獲得した後、今年度は少しオーストラリアやニュージーランドなどで展開されている価値教育（Values Education）や環境教育について学習します。それらの知識を中心とした学習成果を実践の場で生かしてもらいます。戸外の現場では北九州市内の子ども会の活動に参加（北九州市の子ども会の大半は組織力・活動力の衰退に直面しています）、さらに小倉北区の藍島での子どもたちとの環境教育実習を行います。そのためには、計画作り、アポとり、インタビュー内容を整理し、最終的にはそれをゼミ論集で報告としてまとめます。これらの理論学習や体験実習などを通じて、常に環境に配慮した行動ができる人材の育成を目的としています。

教科書 /Textbooks

- * 生方秀紀他『ESDをつくる～地域でひらく未来への教育』ミネルヴァ書房、2010年、2800円
- * 福岡県環境教育学会編『福岡県環境教育学会10周年記念誌』福岡県環境教育学会、2007年、500円
- * 中野民夫『ファシリテーション革命』岩波アクティブ新書、2003年、740円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- * 家本芳郎編『小学校学級担任アイデアブック』民衆社、2000年
- * 佐藤郁哉『フィールドワーク - 書をもって街に出かけよう』新曜社、1992年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「演習I」のレビューと「演習II」の授業計画の確認
- 第2回 ESD学習の復習～『ESDをつくる』を通して
- 第3回 価値教育に関する文献学習
- 第4回 価値教育に関する英語文献学習
- 第5回 事業計画作り（アクティビティ作りを含む）～グループワーク
- 第6回 事業計画作り
- 第7回 アクティビティの検証～子どもたちの環境教育にどこまで有効か？
- 第8回 子どもがおかれている現状把握の学習～全員による文献調査結果の発表
- 第9回 藍島に関する学習と島民からの聞き取り調査
- 第10回 藍島へ子どもたちを連れて行き、藍島でのアクティビティの実施
- 第11回 藍島へ子どもたちを連れて出かけ、藍島でのアクティビティの実施
- 第12回 藍島での子どもたちの参加によるESD活動の評価
- 第13回 八幡東区環境ミュージアム訪問と北九州ESD協議会との協議
- 第14回 報告書作成
- 第15回 報告書作成

* 10月が11月に水俣へのスタディ・ツアーを行います。

演習II【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

各種能力取得評価...40% グループ探求課題の遂行度(報告書作成を含む)...40% 小試験...10% 報告書...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

輪読用指定資料の読了、日常的なグループ課題探求作業
予習を怠らないこと、グループ活動では協調性・積極性に留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

とにかく、たくましさの中に積極性を養いたい。子どもとの接触があるので、くれぐれもけがをしないよう注意を払う。

キーワード /Keywords

E S D (持続可能な開発のための教育)、ファシリテーション技術、参加型手法、子ども会、藍島

演習II【昼】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習II

SEM212M

授業の概要 /Course Description

本演習は、地方自治にかかわるテーマに興味を持った学生の皆さんを対象としている。基本的には演習Iから演習IVを通じた2年間の調査研究プロジェクトの形式をとり、調査研究のテーマにそって、文献研究をしたり、フィールドワークを実践したり、そして最終的には報告書を執筆する。とくに演習IIでは、演習Iで決定した調査研究のテーマにそって、文献研究のまとめ、そしてフィールドワーク等の調査を開始する。また、合宿による研究会も実施する。

教科書 /Textbooks

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 調査プロジェクト開始にあたっての議論
- 2回 調査プロジェクトの概要決定【調査対象、方法論の決定】
- 3回 調査プロジェクトの概要決定【調査内容の決定】
- 4回 調査対象の文献収集・報告【インターネット情報】【図書館等の情報】
- 5回 調査対象の文献収集・報告【統計データ収集】
- 6回 調査準備【調査票の作成準備】
- 7回 調査準備【調査票の作成】
- 8回 調査結果の報告①【原データの報告】
- 9回 調査結果の報告②【修正リクエスト後の報告】
- 10回 報告書の大枠決定
- 11回 報告書の執筆内容決定
- 12回 報告書の執筆状況報告①【原稿の突き合わせ】
- 13回 報告書の執筆状況報告②【修正リクエスト後の原稿つきあわせ】
- 14回 報告書の執筆状況報告③【全体のまとめ】
- 15回 研究のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業や調査、調査報告書作成への参加積極性... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

まじめに頑張ろうという姿勢がまず求められる。文献研究では膨大な文献を講読するので、事前の予習が不可欠となるし、フィールドワーク等の調査結果を報告する場合は講義で発表する前にそれをまとめてくる作業が重要である。演習Iをまじめに取り組んだ方は、演習IIの作業を素早く深く理解できます。

演習II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。
※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。			演習II SEM212M

授業の概要 /Course Description

本演習では、日常生活で感じる身近な事柄から政策を考え、実際に社会調査を実施することで、問題の背景などの現状を把握する技術を学ぶことを目的とします。また現状を理解し、仮説の検証を行い、政策提言までできるまでの分析手法を習得し、さらに調査結果の発表を通じ、他者に伝えるスキルを身に付けるということもゼミの目的となります。演習IIでは、調査票を作成し、実際に調査・分析を行います。また個人の研究活動としては、日本または海外諸国の行政・地方自治の分野から探究したいテーマを各自設定し、それぞれのリサーチ・クエスチョンに従って論文を完成させるために必要な基礎的な土台の構築を目指します。演習Iで定めた各自のテーマに関するリサーチを行い、その経過についての報告をし、これについての討論も行います（報告・質疑とも内容・表現が悪い場合にはやり直してもらうことがあります）。演習II最終日までに、次年度の研究計画の完成を目指します。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 酒井聡樹(2007)『これから卒論・レポートを書く若者のために』共立出版
 - 菊池誠ほか(2011)『もうダメされないための「科学」講義』光文社新書
 - 伊藤修一郎(2011)『政策リサーチ入門：仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会
 - 久米郁男(2013)『原因を推論する：政治分析方法論のすゝめ』有斐閣
 - 今田高俊[編](2000)『社会学研究法：リアリティの捉え方』有斐閣アルマ
 - 小池和男(2000)『聞きとりの作法』東洋経済新報社
 - 佐藤郁哉(2002)『フィールドワークの技法』新曜社
 - 鮑戸弘(1987)『社会調査ハンドブック』日本経済新聞社
 - 谷岡一郎(2007)『データはウソをつく：科学的な社会調査の方法』筑摩書房
 - 増山幹高・山田真裕(2004)『計量政治分析入門』東京大学出版会
 - 松田憲忠・竹田憲史(2012)『社会科学のための計量分析入門：データから政策を考える』ミネルヴァ書房
- その他、受講生の関心や研究テーマに従って、参考となる文献を適宜紹介します。

演習II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス
2回	調査票の作成(1)仮説の設定、質問項目、選択肢についての検討
3回	調査票の作成(2)分析方法の想定、質問文・選択肢の確認
4回	プリテストの実施と調査票の修正
5回	研究テーマに基づく報告(各自の研究テーマに関する文献報告・調査報告等)
6回	研究テーマに基づく報告(各自の研究テーマに関する文献報告・調査報告等)
7回	調査実施
8回	回収した調査票の確認と結果の入力
9回	結果の分析(1)データ全体の把握
10回	結果の分析(2)解析、仮説の検討
11回	結果の分析(3)解釈と結論
12回	結論の検討と議論
13回	結果・結論の報告
14回	研究計画の提示・報告
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告40%、議論への参加・貢献40%、学期末の課題(研究計画書の作成・提出)20%
(無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本演習では、随時読むべき文献・参考となる資料や論文を示していく予定ですが、受講生には常日ごろから活字を読む習慣をつけておいて欲しいと思います。様々な事象について、ひとの考えを鵜呑みにするのではなく、自分で理解しようと努めること、またそれを自分の言葉で表現することを意識して議論に参加するよう心がけて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミ全体の活動(調査実施)と個人の活動(ゼミ論文のための研究)の両方が同時進行する慌ただしいゼミですが、両活動に共通する文献を輪読していく予定です。また「現場」に行くことと「机上」でじっくり考えること、どちらも大切だということを是非、実感して欲しいと思っています。

キーワード /Keywords

政策実践プロジェクトI【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策実践プロジェクトI

SEM280M

授業の概要 /Course Description

政策が国、地域社会に及ぼす影響、意味、環境、住民とのかかわりなど、幅広い視点から、政策とそのあり方に関して議論・事例の調査を行う。そのための実習調査の方法などを詳しく勉強し、レポートを作成・プレゼンテーションを行う。

政策調査対象の例；低炭素社会関連の取り組み
福岡アジア都市構想計画
アイランドシティー整備事業（福岡）
水俣市の環境モデル都市関連の聞き取り調査
自然再生、地域再生事業、北九州市の公害防止協定など

教科書 /Textbooks

- 『環境学の技法』（石弘之著 東京大学出版会 ¥3,360）
- 『社会調査法入門』（盛山和夫著 有斐閣 ¥2,415）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『フィールドワークの技法-問いを育てる 仮説をきたえる』（佐藤郁哉著 新曜社 ¥3,045）
- 『考えることの科学』（市川伸一著 中公新書 ¥693）
- 『公共事業の正しい考え方』（井堀利宏著 中公新書 ¥735）
- その他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テーマの検討と理解、テーマの決定
- 3回 新聞記事、資料集めと討論
- 4回 調査計画の発表、
- 5回 調査計画の発表
- 6回 テーマと問題意識の検討I
- 7回 テーマと問題意識の検討II
- 8回 グループごとの調査方法I
- 9回 グループごとの調査方法II
- 10回 グループごとの調査方法III
- 11回 地域専門家の招待
- 12回 現地調査
- 13回 レポート作成・パワーポイントによるプレゼンテーションI
- 14回 レポート作成・パワーポイントによるプレゼンテーションII
- 15回 まとめ・評価

政策実践プロジェクトI【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

報告と議論 (80%)、授業への貢献 (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ゼミ生の活動・授業内容については、
ゼミホームページ <http://shinzemi.wiki.fc2.com/>
申 ホームページ <http://www.kitakyu-u.ac.jp/law/faculty/personal/shin/DongAeRink.htm>
を参照し、準備する。

私の開講している「演習II」とあわせて受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

調査方法、科学、個人・社会・国家の関係、構造、変数、説明

政策実践プロジェクトI【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策実践プロジェクトI

SEM280M

授業の概要 /Course Description

本ゼミにおける政策実践プロジェクトの目的は、①地方公共政策を研究する学生が必要とする基本的なフィールドワーク等の知識や方法を身につけること、さらに②実際に調査した内容に基づき政策提言をし、地域社会に貢献することにある。

そのため、本年度は、第1に、北九州市において高齢化率が33.3%を超える超高齢コミュニティの調査を行い、アンケート調査の設計からインタビューの仕方などを身につけてもらう。特にアンケート調査で重要となるワーディングについては学生相互の話し合いを行いしっかり学んでもらうことにしたい。

第2に、政策コンペなどを通じて、地域社会の問題を解決するための調査から政策提言へといたる一連の作業を学ぶことにより、地域社会に貢献することにしたい。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大谷信介ほか編著『新・社会調査へのアプローチ-論理と方法』(ミネルヴァ書房、2013年)。
辻新六・有馬昌宏『アンケート調査の方法-実践ノウハウとパソコン支援』(朝倉書店、1987年)。
伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法』(東京大学出版会、2011年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 入門
- 第2回 なぜ、調査する必要があるのか考える
- 第3回 調査設計(1)-調査対象を決める
- 第4回 調査設計(2)-調査方法【質的調査】
- 第5回 調査設計(3)-調査方法【量的調査】
- 第6回 調査設計(4)-調査票を作成する
- 第7回 調査設計(5)-サンプリング等
- 第8回 社会調査に関する文献の輪読(1)
- 第9回 社会調査に関する文献の輪読(2)
- 第10回 現地調査
- 第11回 現地調査-補充調査
- 第12回 調査結果の集計
- 第13回 調査結果の分析・検討
- 第14回 調査結果をまとめる
- 第15回 調査報告書の作成

政策実践プロジェクトI【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

調査等への参加・貢献度... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必ず準備（予習）をしてから調査等には参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策実践プロジェクトI【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策実践プロジェクトI

SEM280M

授業の概要 /Course Description

年金、医療、介護、保育、障害者福祉（就労支援・作業所）といった社会保障関連の政治・行政・政策に関心を持っている人を歓迎します。「福祉経営」「福祉ビジネス」をテーマにして、実践的な活動を行います。政策実践プロジェクトIでは、市内の福祉NPO団体（障害者福祉事業所）の活動支援に参加してもらいます。福祉NPOの経営の現状を調査し、商品販売や知名度向上のための企画を行ってください。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しません。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 福祉NPO、障害者福祉事業所の文献研究
- 第2回 福祉NPO、障害者福祉事業所の文献研究
- 第3回 調査の計画
- 第4回 訪問調査
- 第5回 訪問調査
- 第6回 訪問調査
- 第7回 訪問調査
- 第8回 訪問調査
- 第9回 訪問調査
- 第10回 企画の検討
- 第11回 企画の検討
- 第12回 関係団体との調整
- 第13回 事業の実施
- 第14回 事業の実施
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容・・・40% 議論への積極的な参加・・・60%

* 受講態度が極めて悪い場合、出席を認めない場合があります。また報告内容が一定の水準に達しない場合、再報告や追加課題を求める場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

政策実践プロジェクトI【昼】

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

特になし。

政策実践プロジェクトI【昼】

担当者名 /Instructor 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。
※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		政策実践プロジェクトI	SEM280M

授業の概要 /Course Description

本実習は、濱本担当の演習とペアで行います。（地方）政治の分野で、研究したいテーマを設定し、それぞれのリサーチ・クエスチョンに従って聞きとり、アンケートなど、実践的な調査を行います。さらに、結果を分析、結論を報告することを授業の目的とします。受講生の希望・関心によって、公的な機関（地方議会）の視察や議員の方へのインタビューといった活動も視野に入れ、適宜、必要となる調査方法・分析方法の講義を盛り込んでいく予定です。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 調査テーマの検討
- 第3回 調査テーマの設定
- 第4回 仮説と操作化
- 第5回 調査計画の作成：調査にむけての準備①【母集団】【サンプリング】
- 第6回 調査計画の作成：調査にむけての準備②【質問文・選択肢】
- 第7回 調査計画の作成：調査にむけての準備③【パイロット調査】
- 第8回 調査の実施
- 第9回 データ入力
- 第10回 調査結果の報告と議論①【単純集計】
- 第11回 調査結果の報告と議論②【クロス集計】
- 第12回 調査結果の報告と議論③【相関】
- 第13回 調査結果の報告と議論④【回帰分析】
- 第14回 結論と課題の検討
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

調査等への参加度合い（70%）、調査結果の報告（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

政策実践プロジェクトI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

なし

政策実践プロジェクトI【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 何が政策課題であるかを見極め、社会科学的分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。
<small>※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		政策実践プロジェクトI
		SEM280M

授業の概要 /Course Description

演習Ⅰ・Ⅱと抱き合わせの形でこの授業を行います。三宅ゼミは北九州ESD協議会のユースプロジェクトチームとの連携を持ちつつ（藍島プロジェクト、国際プロジェクト）、独自の実践活動としては本学に隣接する若園地区のESD協議会のメンバーとの一か月に一度の交流と同協議会と協力して地区内の問題解決に協力しています。さらに、水俣へのスタディツアーやアジアの途上国へのスタディツアーを行っています。このように多くの実践活動が準備されていますが、ゼミ生は、これらの中から自らのテーマを決め、文献調査を終えた後に、実習に入ります。その際、各事業の中心的な役割を担ってまいります。そこでは、プロジェクトマネジメント能力を十分養い、最終的には報告書を作成する能力、発表する能力の開発へとつながっていきます。

教科書 /Textbooks

- * 中野民夫『ファシリテーション革命』岩波アクティブ新書、2003年
- * 関係図書館や現地ですぐ入手可能な資料

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- * 佐藤郁哉『フィールドワーク - 書をもって街に出かけよう』新曜社、1992年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ~ 第4回 (第1段階)
三宅ゼミがかかわる各プロジェクトの紹介と簡単な体験 (昨年の報告書・ビデオ・写真を元にした復習、基本文献学習、現地調査の方法・内容決定、現地受入先との連絡)
- 第5回 ~ 第11回 (第2段階)
プロジェクトの選択と演習Ⅰ・Ⅱで学習したプロジェクトマネジメントに関する選択プロジェクトへの適用
- 第12回 ~ 第15回 (第3段階)
選択プロジェクト実践後のまとめ作業 (各自のプロジェクト分析と報告書の作成) と発表

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加態度 (プロジェクトマネジメント能力開発過程・結果を含む) ... 50%、 指定資料の読了・報告書作成作業 ... 40% 成果の発表...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

指定資料の読了、事前準備作業への参加
現場に出かけるので、普段から体力を鍛えておく。同時に安全には注意を傾けておくこと。現地の人々からの聞き取りの際にはインフォーマント (情報提供者) に不快を感じさせないよう言葉づかいや態度には極力気を付けること。

政策実践プロジェクトI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

とにかく、現場からの学習とはどのようなものか？ 生活感覚をベースにしたESDとはどのようなものかを的確にとらえるように努めてほしい。グループワークになるので、常に協調性を念頭に置いておくこと。しかし、遠慮することはなく、積極的に取り組んでもらいたい。

キーワード /Keywords

インフォーマント、北九州ESD協議会ユースプロジェクトチーム、現場（フィールド）、ESD（持続可能な開発のための教育）

政策実践プロジェクトI【昼】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策実践プロジェクトI

SEM280M

授業の概要 /Course Description

フィールドワークというのは、簡単にできるように見えて意外に難しく、一定の技法が必要です。また、技法だけでなく、マナーというのもフィールドワークにとって欠かせない要素です。本調査実習では、フィールドワークの技法と基礎知識を身につけることをねらいとします。きちんとした調査技法やマナーを踏まえないければ、「調査公害」だけを生む結果となります。そうならないためにも、調査を始めるときに必要な技法、調査をしているときに気をつけたいといけないこと、調査が終わってからの作業などを、ここでは学びます。

教科書 /Textbooks

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 - 5回 調査研究の準備【文献講読】【調査対象についての情報収集】
- 6回 - 10回 フィールドワーク報告等【調査結果の報告】
- 11回 - 15回 研究のまとめ【調査報告書】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業や調査への参加積極性と報告書提出... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

まじめに頑張ろうという姿勢がまず求められる。調査に出かけるときは、講義時間外の準備が必要である。たとえば、事前調査や調査先で問う質問をまとめる必要がある。また調査結果のまとめについては毎回の授業で内容のチェックをするため、授業までにある程度の文章をまとめておくことが不可欠である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策実践プロジェクトI【昼】

担当者名 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。
※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		政策実践プロジェクトI	SEM280M

授業の概要 /Course Description

本実習は、横山担当の演習とペアで行います。行政・地方自治の分野から研究したいテーマを各自もしくは数名からなるグループで設定し、それぞれのリサーチ・クエスチョンに従って聞きとり、アンケートなど、実践的な調査を行い、結果を分析、結論を報告することを授業の目的とします。受講生の希望・関心によって、公的な機関の視察や現地調査といった活動も視野に入れ、適宜、必要となる調査方法・分析方法の講義を盛り込んでいく予定です。調査実習そのものの重要性もさることながら、得られた生のデータを分析し、自ら設定した疑問に答えを出し、それを報告する、という一連の作業過程を通じて、受講生のスキルアップをはかりたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テーマに従って、適宜、紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テーマに従って、適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 個人ないしグループでの調査テーマの検討・設定
- 3回 個人ないしグループでの調査テーマの検討・設定
- 4回 調査計画の作成：調査にむけての準備（事前調査・先行研究の検討など）
- 5回 調査計画の作成：調査にむけての準備（事前調査・先行研究の検討など）
- 6回 調査の実施
- 7回 調査結果の報告と議論
- 8回 追加・補足調査
- 9回 追加・補足調査
- 10回 調査結果の分析
- 11回 結論と課題の検討
- 13回 調査結果のまとめ
- 14回 調査結果の報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

調査・議論への参加度合い70%、調査結果の報告30%
(無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

政策実践プロジェクトI【昼】

履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありません。ただ受講生の人数にもよりますが、忙しい日程で調査を行うことが予想されます。時間外での下調べや準備等を厭わないという覚悟を持った参加者を歓迎します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

カリキュラムは異なりますが、参考までに過年度のテーマは「ゆるキャラ比較」「外交：特に日中関係」「震災復興」「北九州市のまちづくり」「地域・住民・自治体に影響を与える政策」です。

キーワード /Keywords

政治学 【昼】

担当者名 /Instructor 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治学の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政治上の課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	政治現象が抱える課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政治学

PLS100M

授業の概要 /Course Description

本講義では、①現代政治に至るまでの国家と社会の変化、②構築されてきた制度、③制度の設計・維持に関わる人々（議員や市民）、④地方・国・国際等の異なるレベルの政治の関係を扱います。本講義を通じて、受講生が政治学の基礎的な概念を理解し、政治に対する理解を深めることを目指します。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ（A3で2 - 3枚）を配布します。テキストについては講義の初回に紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	イントロダクション	
第2回	政治とは何か？	【権力】【権威】【正統性】
第3回	国家と社会①	【市民革命】【議会主義】【大衆社会】
第4回	国家と社会②	【行政国家】【福祉国家】
第5回	民主主義と自由主義	【民主主義】【自由主義】【自由民主主義】
第6回	政治制度①	【議院内閣制】【大統領制】【半大統領制】
第7回	政治制度②	【小選挙区制】【比例代表制】【中選挙区制】【混合型】
第8回	政治制度③	【一院制】【二院制】
第9回	制度の視点	【集権】【分権】【制度補完性】
第10回	デモクラシーと代表①	【代表性】【政党】
第11回	デモクラシーと代表②	【政党システム】【二大政党制】【多党制】
第12回	デモクラシーと代表③	【政治参加】【政治的社会化】
第13回	地方自治	【団体自治】【住民自治】【ガバナンス】
第14回	国際政治	【グローバリゼーション】
第15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

試験（70%）、講義への参加態度（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

なし

政治過程論 【昼】

担当者名 /Instructor 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治過程の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政治過程の視座から政策課題を見極め、政策的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	政治過程上の課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政治過程論

PLS210M

授業の概要 /Course Description

政治に関わる人々は、何を考え、どのように行動しているのだろうか。人々の行動を左右する制度や文化にはどのようなものがあるのだろうか。本講義では、政治制度、政治に参加する人々（有権者、マスメディア、政党、利益集団、官僚制、首相・大統領）への理解を深めることに重点をおきます。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ（A3で2-3枚）を配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参照した教科書、関連する内容を含んだ、より詳細な文献の案内を講義中に行います

伊藤光利編『ポリティカルサイエンス事始め - 第3版 - 』有斐閣、2009年。
久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛児・真淵勝『政治学』有斐閣、2011年。
伊藤光利・田中愛治・真淵勝『政治過程論』有斐閣、2000年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	イントロダクション	【政治システム】【権力】
第2回	民主政治の諸制度(1)	【デュベルジェの法則】【機械的效果】【心理的效果】
第3回	民主政治の諸制度(2)	【議会の機能】【変換型議会】【アリーナ型議会】
第4回	政治文化	【政治的社会化】【脱物質的価値観】
第5回	マスメディア	【疑似環境】【議題設定効果】【プライミング効果】
第6回	政治参加・投票行動(1)	【制度的参加】【非制度的参加】
第7回	政治参加・投票行動(2)	【コロンビアモデル】【ミシガンモデル】【業績投票】
第8回	政治家・政党(1)	【大衆政党】【包括政党】【カルテル政党】
第9回	政治家・政党(2)	【ダウンスモデル】【連合理論】
第10回	利益集団(1)	【利益集団】【集合行為論】
第11回	利益集団(2)	【権力構造論】
第12回	官僚制	【政治行政二分論】【政治行政融合論】【逆機能】
第13回	政治システム	【利益表出機能】【利益集約機能】
第14回	首相・大統領	【リーダーシップ】【PM理論】
第15回	地方政治・ガバナンス	【ガバナンス】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験（70％）、日常の授業への取り組み（30％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

政治過程論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「政治学」をすでに履修している場合は、本講義の理解がより深いものになります。
「政治過程論」は政治学の理論やモデルの紹介に重点があります。そのため、日本政治への適用や日本の特徴については、「日本政治論」で詳しく講義します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

なし

西洋政治史【昼】

担当者名 五月女 律子 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 西洋政治史の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

西洋政治史

PLS111M

授業の概要 /Course Description

この講義では、17世紀から現代までのヨーロッパ地域の国際関係と西洋諸国の政治史を学ぶ。受講者は、授業前に予習としてテキスト（日本語および英語）を読み、授業に積極的に参加することが求められる。必要に応じて、視聴覚資料なども随時利用する。

教科書 /Textbooks

岡義武『国際政治史』岩波現代文庫、2009年。
ペーター・ガイス、ギョーム・ル・カントレック『ドイツ・フランス共通歴史教科書【現代史】』明石書店、2008年。
Richard Sakwa and Anne Stevens (eds.), Contemporary Europe, 3rd ed. Palgrave Macmillan, 2012.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

- 第1回 ガイダンス、ヨーロッパにおける国際社会の成立
- 第2回 絶対王政期のヨーロッパ【外交】【傭兵制】【勢力均衡】
- 第3回 国民国家形成期のヨーロッパ【フランス革命】【ウィーン体制】【イギリス】
- 第4回 帝国主義の時代【植民地】【東方問題】【独仏関係】
- 第5回 第一次世界大戦【バルカン半島】【三国同盟】【三国協商】
- 第6回 ヴェルサイユ体制と新しい国際対立【アメリカ】【ヴェルサイユ条約】【国際連盟】
- 第7回 第二次世界大戦【世界恐慌】【ファシズム】
- 第8回 冷戦期(1)【東西対立】【マーシャル・プラン】
- 第9回 冷戦期(2)【ドイツ問題】【NATO】【ヨーロッパ統合】
- 第10回 ポスト冷戦【東西ドイツ統一】【東欧諸国】【EU】
- 第11回 ヨーロッパ政治の多様性の変遷(1)【キリスト教】【国家】
- 第12回 ヨーロッパ政治の多様性の変遷(2)【市民】【市場】
- 第13回 ヨーロッパ政治の多様性の変遷(3)【社会主義】【域外要因】
- 第14回 ヨーロッパ統合の歴史【ECSC】【EEC】【EC】【EU】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(40%)と授業参加(60%)による。受講者数が多い場合には、小テスト(40%)と期末筆記試験(60%)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当教員に関する情報、講義の進め方、成績評価方法について第1回の授業で説明するので、履修予定者は必ず出席すること。
学生が授業前にテキスト（日本語・英語）の該当部分を読んでいることを前提として、学生に発言を求める形で授業を進める予定である。
授業時の小テストで、不正行為（インターネットに掲載されている文章を転記する等）を行った場合、全ての小テストの点数を0点とする。
学生の希望に添って授業の速度を落とした場合、予定した内容の全てを扱うことはできなくなる点に留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義に出席せず、勉強せずに単位を取得することはできません。

キーワード /Keywords

政党政治論 【昼】

担当者名 五月女 律子 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政党政治の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政党政治論

PLS211M

授業の概要 /Course Description

この講義では、西欧諸国を中心として、特に政党と政党システムを中心に比較検討を行う。西欧諸国の政党および政党システムには、どのような類似点や相違点があるのかを考察する。さらに、各国の政党組織や政府形成の特徴についても検討を行う予定である。

教科書 /Textbooks

森井裕一編『ヨーロッパの政治経済・入門』（有斐閣）、2012年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

- 第1回 授業の進め方の説明、政党とは何か 【大衆政党】【包括政党】【政党の機能】
- 第2回 政党のイデオロギーと組織(1) 【自由主義】【民主主義】【自由民主主義】【権威主義】
- 第3回 政党のイデオロギーと組織(2) 【社会主義】【社会民主主義】【新保守主義】【第三の道】
- 第4回 選挙制度と政党システム 【二党制】【穏健な多党制】【小選挙区制】【比例代表制】
- 第5回 イギリス(1) 【二党制】【小選挙区制】
- 第6回 イギリス(2) 【ブレア】【連立政権】
- 第7回 フランス(1) 【ゴリスト】【中央集権】
- 第8回 フランス(2) 【大統領】【コアビタシオン】
- 第9回 ドイツ(1) 【連邦制】【5%条項】
- 第10回 ドイツ(2) 【連立政権】【ドイツ統一】
- 第11回 オランダ・ベルギー(1) 【地域】【多文化主義】
- 第12回 オランダ・ベルギー(2) 【連立政権】【多極共存デモクラシー】
- 第13回 イタリア 【多党】【分極化】
- 第14回 北欧諸国 【社会民主主義】【合意】【女性・若者】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 40%、 期末筆記試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当教員に関する情報、講義の進め方、成績評価方法について第1回の授業で説明するので、履修予定者は必ず出席すること。
授業内容を自分でまとめてノートに取る訓練をすること。
授業時の小テストで、不正行為(インターネットに掲載されている文章を転記する等)を行った場合、全ての小テストの点数を0点とする。
学生の希望に添って授業の速度を落とした場合、予定した内容の全ては講義できない点に留意すること。

政党政治論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義に出席せず、勉強せずに単位を取得することはできません。

キーワード /Keywords

現代政治思想 【昼】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代政治思想の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代政治思想にかかわる政策的諸問題を見極め、適切に分析し、現実的な解決策を提案しかつ評価する能力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代政治思想についての関心を高める。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代政治思想

PLS212M

授業の概要 /Course Description

私たちが政治や政策について語る時、それは常に、いかに政治と社会はあるべきかということについてのビジョンに基づいています。このビジョンを背景から支える価値を理論化するのが、政治思想の役割です。政治のビジョン・価値は多様であり、それらが互いに異なる政治上の立場を支持することで、現実政治のダイナミズムが生まれます。

この授業は、履修者が政治や社会に関する多様な思想を理解した上で、価値と現実の緊張関係から生まれる様々な政治現象をこの観点から分析・理解できるようになることを目指します。

教科書 /Textbooks

『現代政治理論（新版）』（川崎修・杉田敦 編、有斐閣）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 政治とは何か
- 第2回 権力とは何か（1） 【権力の種類】
- 第3回 権力とは何か（2） 【意図と権力】 【構造と権力】
- 第4回 リベラリズムの基礎（1） 【自然権】 【功利主義】 【人格発展】
- 第5回 リベラリズムの基礎（2） 【適者生存】 【ニュー・リベラリズム】
- 第6回 リベラリズムの発展と批判 【福祉国家】
- 第7回 自由とは何か（1） 【二つの自由】 【自律】
- 第8回 自由とは何か（2） 【共同体】 【共和主義】
- 第9回 自由とは何か（3） 【権力と自由】
- 第10回 平等と正義（1） 【ロールズの正義論】
- 第11回 平等と正義（2） 【リバタリアニズム】
- 第12回 平等と正義（3） 【コミュニタリアニズム】
- 第13回 平等と正義（4） 【資源の平等】
- 第14回 平等と正義（5） 【潜在能力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80%、授業への取り組み...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策理論特講 【昼】

担当者名 /Instructor 松田 憲忠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政策と関連する様々な理論の体系的な理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策理論特講

PLS213M

授業の概要 /Course Description

政策は、社会問題に対する解決策として定義されます。政策に関する知識、政策についての研究の進め方、政策をめぐる議論のあり方を理解し習得することは、社会が直面する問題を発見し、その問題に対する解決策を考案・評価するために欠かすことができません。そこで、本講義は、政策が必要とされる要因、政策を取り巻く環境や政策の捉え方の変化等を概説することから始めます。そのうえで、政策について研究するのは如何なる活動なのかに焦点を当てます。最後に、現代社会において議論が有する重要性を描出し、政策に関する議論のあり方に論及します。本講義の到達目標は、政策に関する基礎的な概念等を理解することと、社会問題を発見し、その問題に対する解決策を考案・評価するために欠かせない社会科学的視点を習得することです。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

第一回授業で紹介・説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

01. イントロダクション—政策とは？政策分析とは？
02. 政策について考える①—問題解決策としての政策
03. 政策について考える②—政策を取り巻く環境
04. 政策について考える③—政策をめぐる新たな展開
05. 政策について考える④—政策と市民
06. 政策研究について考える①—政策研究の科学性
07. 政策研究について考える②—政策研究のプロセス
08. 政策研究について考える③—政策研究における計量分析と事例研究
09. 政策研究について考える④—政策研究における演繹的・数理的考察
10. 政策研究について考える⑤—政策研究における規範的・哲学的考察
11. 政策研究について考える⑥—政策研究と政策決定
12. 政策研究について考える⑦—政策研究と知識活用
13. 政策議論について考える①—現代社会における議論
14. 政策議論について考える②—議論の構造
15. 総括

※ 受講生の人数や理解度等に応じて、上記スケジュールは変更される可能性があります。

政策理論特講 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート

- ※ レポート試験では、社会問題やその問題に対する政策的対応等について進められている諸研究を、本講義で提供された知識や社会科学的思考を活用して、比較し評価することが求められます。
- ※ 受講生の人数（厳密には出席者数）によっては、ディスカッション形式も取り入れて、ディスカッションへの貢献度を成績評価基準の一つにする可能性があります（初回の授業で、受講生と相談のうえで、結論します）。その場合は、ディスカッションに貢献した学生は、ディスカッション貢献度が成績評価のなかで大きな比重を占めて、レポート評価の比重が小さくなる一方で、ディスカッションに貢献できていない学生についてはレポート評価のみに基づいて成績評価を行います。因みに、「ディスカッションへの貢献」に基づく基準では、質的、量的な基準のいずれかを満たすことが求められます（即ち、回数は少なくとも質の高い貢献を行った場合も、質的には十分でなかったとしても回数多く貢献した場合も、どちらにおいても高い評価が得られます）。
- ※ 詳細については授業中に説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

現代社会が直面する問題やその問題への解決策をめぐる議論に、常に目を向けることを心掛けてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治文化論 【昼】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治文化の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政治文化にかかわる政策的諸問題を見極め、適切に分析し、現実的な解決策を提案しかつ評価する能力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	政治文化についての関心を高める。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政治文化論

PLS215M

授業の概要 /Course Description

政治全体を社会の問題解決のための大きなシステムと考えた時、人々が政治システムに対して様々な態度をとるのはなぜでしょうか。欧米諸国では多くの人々が民主主義を通じて政治システムに積極的に関わりますが、日本ではそうではありません。このような人々の態度を決めるものの一つに、政治文化を考えることができます。この授業では、「政治に参加しよう」という意識の根底にある「ものの見方・考え方」とはどのようなものかを、民主主義を発展させた欧米諸国と日本の思想的比較を通じて、考えていきます。そして、政治文化が現実政治に果たす役割を理解し、日本の民主主義政治の将来について深く考える力を養うことを目指します。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 政治システムと政治文化
- 第2回 ヨーロッパ中世の世界観・社会観（1）【グレゴリウス改革】
- 第3回 ヨーロッパ中世の世界観・社会観（2）【法の支配】【存在のヒエラルヒー】
- 第4回 「特殊」の発展
- 第5回 ルネサンス・国家理性・主権
- 第6回 宗教改革の時代
- 第7回 ホブズ社会契約論
- 第8回 ロック社会契約論
- 第9回 文化芸術の発展とルソー
- 第10回 ルソー社会契約論
- 第11回 フランス革命後の展開
- 第12回 福沢諭吉の政治・社会観
- 第13回 丸山真男の超国家主義論
- 第14回 丸山真男の古層論
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80%、授業への取り組み...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし。

政治文化論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政学 【昼】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	行政学の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政学

PA0100M

授業の概要 /Course Description

行政とはなにか、なぜ行政がわたしたちの生活に不可欠な存在なのか、行政はどのように形づくられているのか、そしてその問題点とは何か。行政の歴史的展開、現代の行政の仕事、そして改革される行政、今後の行政の姿など総合的に行政について考えていきたい。

教科書 /Textbooks

今村都南雄（2009）『ホーンブック基礎行政学』北樹出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 西尾勝（2001）『行政学』有斐閣
- 真淵勝（2009）『行政学』有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方・授業の目的などのガイダンス
- 2回 行政の歴史①【市民革命】【自由主義】
- 3回 行政の歴史②【行政国家化】
- 4回 行政の歴史③【行政改革】【新自由主義】
- 5回 行政学史①【官僚制の理論】
- 6回 行政学史②【アメリカ行政学】【科学的管理法】【機械的行政学】
- 7回 行政学史③【機能的行政学】【人間関係論】
- 8回 行政学史④【現代組織論】【バーナード】【サイモン】
- 9回 行政統制①【行政の責任】【FF論争】
- 10回 行政統制②【議院内閣制】【大統領制】
- 11回 行政統制③【鉄の三角形】【影響力】
- 12回 行政統制④【政治的任命職】
- 13回 行政統制⑤【公務員制度】【公務員改革】
- 14回 「官から民へ」の意味①【住民と行政の関係変化】
- 15回 「官から民へ」の意味②【市民がつくるパブリック】【ガバナンス】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%（試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政、国家、ガバナンス、公務員制度、民主主義

行政組織論 【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 行政組織論の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 行政学の視座から政策課題を見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政組織論	PAD210M
-------	---------

授業の概要 /Course Description

企業・大学・政府・町内会・ボランティア団体、と周囲に溢れる組織は数え切れないほどで、誰しも皆、幾つかの組織に所属し、自分が属する組織や他の組織からの影響を受けずに生活することは不可能です。また1990年代以降、日本の中央省庁や地方自治体といった行政組織の変化には著しいものがあります。このようななか、組織論を学ぶことは、複雑な現代社会を理解する一助になると考えています。特に政策の形成・決定・実施・評価と関連、あるいは各過程において主体として行動する場合もある行政組織に着目することで、過去から現在までの制度・政策の変化や内容に関する関心・洞察を深めることにつながるのではないのでしょうか。講義全体のキープレーズは、「組織論を通じてみるひとと社会」です。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。毎回レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 桑田耕太郎・田尾雅夫(2010)『組織論：補訂版』有斐閣アルマ
 - ステイブーン・P・ロビンス[高木晴夫訳](2009)『組織行動のマネジメント：入門から実践へ』ダイヤモンド社
 - 西尾勝(2001)『新版行政学』有斐閣
- その他、適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 組織の定義と概念
- 3回 組織と環境・組織構造
- 4回 官僚制の誕生と変容
- 5回 官僚制：その原則と逆機能
- 6回 日本の行政組織(1)【官吏】【公務員】【任用と身分】
- 7回 日本の行政組織(2)【行政改革】
- 8回 中間テスト
- 9回 中間テストの解説と復習
- 10回 ストリート・レベルの官僚制、組織文化
- 11回 組織のリーダーシップ
- 12回 ひとのモチベーション
- 13回 組織における学習
- 14回 行政サービスを担う組織
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト20%、期末試験80%
(遅刻入室は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

行政組織論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

受講するにあたって、特別に必要なことはありません。「行政組織」を軸に、組織の歴史的な流れや社会的な背景、あるいは組織のリーダーや構成員のモチベーションといった人間の意識・行動に関することを交えつつ、学んでいきます。本講義で扱うこれらについては、「日本行政論」や「地方行政改革論」、「公共経営論」などの科目と合わせて履修することで、みなさんの理解はさらに深まるものと考えています。なお、講義の進行により、上記スケジュールを変更することがあります（特に中間テストの実施日については、授業中にアナウンスする予定なので要注意）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策構想論 【昼】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 政策構想の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 政策構想にかかわる政策的諸問題を見極め、適切に分析し、現実的な解決策を提案しかつ評価する能力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 政策構想についての関心を高める。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策構想論

PLC110M

授業の概要 /Course Description

政策構想とは、社会の諸問題に政策を通じて適切に対処するために、様々な価値観に基づいて「あるべき未来の社会」を構想することです。履修者が自分自身の価値観に立って自分自身の政策構想を作り上げるための基礎力を身に着けることが、最終的な授業の目的です。授業では、まず、政策と価値はどのように関わっているのかを学びます。その上で、現代の政策の価値理論として最も参照されることの多い、リベラルな平等・リバタリアニズム・コミュニタリアニズムの基礎理論を学びます。そして、現代日本の具体的な問題について、これらの立場からどのような政策構想が可能かを考えていきます。

教科書 /Textbooks

レジユメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 政策構想とは何か
- 第2回 政策の構造と価値
- 第3回 社会設計と政策構想
- 第4回 デモクラシーと政策構想
- 第5回 功利主義と政策構想
- 第6回 功利主義への批判
- 第7回 リベラルな平等の基礎理論I 【不平等の意味】
- 第8回 リベラルな平等の基礎理論II 【正義の二原理】
- 第9回 リベラルな平等の展開 【財産所有のデモクラシー】
- 第10回 リバタリアニズムの基礎理論I 【最小国家論】
- 第11回 リバタリアニズムの基礎理論II 【自己所有権】
- 第12回 コミュニタリアニズムの基礎理論 【負荷なき自己と共同体】
- 第13回 日本の格差：正規・非正規雇用
- 第14回 格差問題への政策構想
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80%、授業への取り組み...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし。

政策構想論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

政策には様々な価値観が織り込まれています。その仕組みや内容を学び取り、現代の日本において、実りある政策論議がどのように可能か、考えてみてください。

キーワード /Keywords

比較政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	比較政策論の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較政策論

PLC210M

授業の概要 /Course Description

このクラスは、先進諸国が様々な政策分野で、どのような政策を実行し、政策がどのような結果を創出するかを検証する。分析対象の政策分野は、経済、教育、労働、福祉、規制、財政、貿易、産業、競争、金融、家族政策など。違う政策が、国の経済パフォーマンスや人々の福祉に、どのような肯定的・否定的影響を与えるかを検証し、どのような政策のセットが経済成長、雇用、平等、幸福などを達成する際に望ましいかを考察する。言葉を変えて言うと、人々や社会を幸せで豊かなものにするには、どのような政策が有効か、望ましいかを理論とデータを使って考える際に、その分析の基礎となる分析的枠組みを学ぶ。また、これらの政策の相違は、諸国の政治経済体制の種類に呼応していることを学ぶ。

これらのサブジェクトの学習により、比較政治経済、比較福祉政策、比較政治学の基礎知識を得る。

教科書 /Textbooks

Jessica R. Adolino and Charles H. Blake. 2007. Comparing Public Policies: Issues and Choices in Six Industrialized Countries. Washington, D.C.: CQ Press.

(なぜ英語のテキストを使うのかも含めて、私のクラスについては、http://www.geocities.jp/sakamoto_pol/basicideas.htmを参照)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日指示。

比較政策論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにした質疑応答・検証を行い、学生と教員が互いに理解を深める。学生は毎週、テキストの指定箇所を事前に読み終えて授業に臨む。積極的な授業への参加なしでは単位を取得できない。「参加」とは「出席」とは同義語ではない。参加とは、毎週の課題・活動に積極的・建設的に参加・貢献することである。また、問題について建設的、批判的に考え、発言することである。

このクラスではたくさん勉強してもらいますので、そのつもりで履修登録してください。ただし、本気で一生懸命勉強すれば、授業についてこれると思いますので、本クラスのサブジェクトに関心がある人はしりごみしないで受講してください。

毎週のreading assignmentについては後日アナウンスする。

1. イントロ
2. 政策決定のモデル
3. 政策決定の理論I (経済)
4. 政策決定の理論II (政治)
5. 政策の規定要因 - 制度・アクターI (経済)
6. 政策の規定要因 - 制度・アクターII (政治)
7. 先進各国の政治システム
8. 社会・福祉政策
9. Catch-up
10. 財政政策
11. 教育政策
12. 税政策
13. Catch-up and review
14. 国際化の中の政策決定
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1) テキストの講読・理解、授業での発言・参加が40%、(2) 研究論文あるいは期末総合テストが60% (どちらかひとつ)。研究論文とテストのどちらを行うかは、授業の進度や受講学生の学習の進歩を見て学期中に担当教員が決める。(1)の授業での発言・参加と(2)の論文/テストのどちらが欠けても単位は取得できない。(1)はどれだけよくテキストを指定の授業日までに読み、積極的にクラスでの検証に参加しているかによって決まる。(2)は、研究論文の場合、学期末提出の論文の質で決める。テストの場合は、学期中に学習・分析した内容をどれだけ良く理解したかを総合的に問うテストの結果をもって評価する。

論文の場合、A4紙にダブルスペースで13枚程度。研究の内容は、テキストや講義で学んだ内容を発展させる、あるいは検証するものにする。ゆえにテキストを読まずに研究を進めることはできない。研究論文であるので、時事批評や感想文、哲学論は受け付けない。研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと：(1) オリジナルな研究、論文にする、(2) 理論や説明の論理的整合性、(3) 理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。いずれにせよ、thoughtfulな分析にすること。言うまでもなく、既存の図書、雑誌などからの不正あるいは不適切な引用・抜粋は禁止。また、他の者が書いたものと同一のレポートの提出や、過去において自己・他者が書いたレポートの提出も禁止。これら不適切あるいは不正な行為発生の場合は不可。

総合テストの場合は、テキストや授業で学んだ内容をどれだけ良く理解しているかを、総合的に問い、論文形式で答えてもらう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎週の授業前までには、教科書の指定箇所を必ず読み終えていること。この講読で得た知識をベースに授業を進める。また、条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計を勉強することを強く勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なにがとも、必死になって頑張れば、なんとかなりしますので、必死になって頑張ってください

キーワード /Keywords

比較政策分析、比較政治経済、福祉政策、経済政策、教育政策、労働政策、国際政治経済、比較政治、雇用、経済成長、平等、福祉、市民、政府、政治家、利益集団

公共政策論【昼】

担当者名 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	公共政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が公共政策の課題であるか見極め、公共政策の基本的な分析能力を身につけ、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共政策論

PLC211M

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにある。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにした。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えている。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのである。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えている。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからである。受講者には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はどのような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通じてそうした問題意識をもつことを望む。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。毎回、プリント教材を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示する予定。とりあえず以下のものをあげておく。

秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』（有斐閣、2010年）

伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法』（東京大学出版会、2011年）

ユージン・バーダック著、白石賢司ほか訳『政策立案の技法-問題解決を「成果」に結び付ける8つのステップ』（東洋経済新報社、2012年）。

阿部彩『子どもの貧困-日本の不平等を考える』（岩波書店、2008年）

阿部彩『子どもの貧困II-解決策を考える』（岩波書店、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および受講者へのアンケート
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命（社会起業家論）
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策
- 4回 子どもの貧困（1）・・・貧困とは何か、子どもの貧困とは何か
- 5回 子どもの貧困（2）・・・日本における子どもの貧困を考える
- 6回 子どもの貧困（3）・・・子どもの貧困をどうするか、大学生の状況は？
- 7回 子どもの貧困（4）・・・比較の視座から考える子どもの貧困
- 8回 子どもの貧困（5）・・・解決策を考える
- 9回 循環型社会（1）・・・リサイクルは環境に優しいのか？
- 10回 循環型社会（2）・・・ペットボトルのリサイクル
- 11回 介護保険（1）・・・導入
- 12回 介護保険（2）・・・現状分析
- 13回 介護保険（3）・・・問題点とその検討
- 14回 介護保険（4）・・・介護保険の改革
- 15回 まとめ

公共政策論【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50 %、授業貢献度など...50%。毎回講義の終了後、小用紙を配布し講義内容に対する質問・意見のある学生には、書いてもらい成績評価に加える。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回配付するレジュメ、参考資料、論文、新聞記事等をしっかり読んで、次の授業に参加すること。
本年度は授業内容（循環型社会の回数等）を変更する可能性があるため、第一回目の講義には必ず参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しないと何も始まりません。担当者もそれなりの準備をして授業にのぞみますので必ず授業に出席するようにしてください。

キーワード /Keywords

公共政策、社会起業家、子どもの貧困、循環型社会、リサイクル、介護保険

政策過程論 【昼】

担当者名 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政策と政策過程の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策現象とその課題を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策問題に対する自らの関心を高め、日頃の市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策過程論

PLC212M

授業の概要 /Course Description

政策現象に関する理解と政策知識の取得

- ①政策学の範囲とその目的、公私の問題、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)
- ②政策の分類 (Lowiによる分類)・ 政策の便益と費用 (J.Q.Wilson)について知ってもらう。

政策過程に関する専門知識の取得：

- ①政策の決定 (Elite論・ 多元主義論と Issue Network・ 制度論と合理的決定： Path dependence・ Idea・ Game theory etc.・ ゴミ箱決定Garbage Can Model、 無意思決定Non-Decision Making, Agenda-Setting, Joining of Issues & Streams、 政策の窓 [Policy Window]) や政策実施・ 調整 (Policy Learning &Changes)、そして政策終了・ 評価について学習する。
- ②政策過程におけるアクターの参加 (首相・ 内閣・ 官僚・ 国会・ 首長・ 専門家組織・ 世論とメディア・ 裁判・ NPO・ 国際機構)とその構造 (補助金・ Rent-Seekingのような利益誘導型政治・ 首相の Leadership、集権的政策決定システム・ 官僚[Downs・ Niskanenの官僚利益追求論・ 政府間関係] について理解してもらう。

教科書 /Textbooks

- 『政策過程論』 (早川純一外著 学陽書房 ¥ 2,730)
- 『公共政策学の基礎』 (秋吉貴雄・ 伊藤修一郎・ 北山俊哉著 有斐閣ブックス ¥ 2,730)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『現代日本の政策過程』 (中野実著 東京大学出版会 ¥ 2,940)
- 『政治過程論』 (伊藤光利・ 真淵勝・ 田中愛治著 有斐閣 ¥ 2,625)
- 『日本政治の政策過程』 (中村昭雄著 芦書房 ¥ 3,568)
- 『政策過程分析入門』 (草野厚著 東京大学出版会 ¥ 2,625)

政策過程論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業や本の紹介など
- 2回 政策の対象、政策の必要性、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)、費用と利益、政策の種類など
- 3回 政策参加者、政策資源 (事例：川辺川ダムの決定を巡る各アクターの利害関係、ビデオ)
- 4回 政策過程の理論1 (政策過程論・ Elite論・ 多元主義論とIssue Network・ 制度論と合理的決定 Path dependence・ Idea・ Game theory etc.)
- 5回 政策過程と事例分析1 (新聞、インターネットで検索した事例分析)
- 6回 政策過程の理論2 (アジェンダ形成・ ゴミ箱決定Garbage Can Model・ 政策の窓)
- 7回 政策過程の理論3 (無意思決定論、相互浸透理論など)
- 8回 政策過程と事例分析2 (新聞、インターネットで検索した事例分析)
- 9回 政策事例のポスター発表I
- 10回 政策実施、政策調整 (実施過程の政策変数、官僚と国会、集権的政策システム・ Top-Down Approach & Street Bureaucracy Approach)
- 11回 政府間関係と自治体の政策I (政府間関係、利益誘導政治)
- 12回 政府間関係と自治体の政策II (地方の変革・ 事例：名古屋市)
- 13回 本のレポート発表
- 14回 政策終了・ 政策評価と市民参加
- 15回 関心のある政策 (個別事業) を選び、その政策過程を分析、検討

成績評価の方法 /Assessment Method

ポスター発表-30%、本のレポート-20%、 期末試験-50%
(レポートの未提出者・ 発表をしていない学生は期末試験を受けることができない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ゼミ生の活動・ 授業内容については、
ゼミホームページ <http://shinzemi.wiki.fc2.com/>
申 ホームページ <http://www.kitakyu-u.ac.jp/law/faculty/personal/shin/DongAeRink.htm>
を参照し、準備する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公私、社会的ディレンマ、
公共政策、政策問題、政策の決定、実施、政策調整、終了、
利益・ 価値、制度、アクター、選択、メディアの役割、ガバナンス、市民社会、
ネットワーク。

政策評価論 【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 政策評価の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 政策評価のために必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、政策を体系に評価するための基礎的で総合的な評価方法を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策評価論

PLC310M

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、政策評価について、学部レベルで理解しておくべき基礎的な知識を提供することにある。ただし、基礎的といっても評価研究は、理解しづらいところもあるので、そのつもりで参加するようにしていただきたい。

講義では、まず、アメリカを中心とした評価研究や評価手法を分析・検討する。その際、「セオリー評価」あるいは「ロジック・モデル」を中心として説明を行い、次に説明する「行政評価」の基礎的な知識を提供することにした。

次に、現代日本で最も頻繁に行われている行政評価やその問題点を検討し、今後日本の行政評価のあり方や新しい評価手法についてみていくことにしたい。

教科書 /Textbooks

教科書は用いない。ほぼ、毎回プリント教材を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 石原俊彦編著『自治体行政評価ケーススタディ』（東洋経済新報社、2005年）
- 龍慶昭・佐々木亮『「政策評価」の理論と技法』（多賀出版、2004年）
- 安田節之・渡辺直登『プログラム評価研究の方法』（新曜社、2008年）
- 古川俊一・北大路信郷『新版・公共部門評価の理論と実践 - 政府から非営利組織まで』（日本加除出版株式会社、2004年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入-「評価」とは何か？
- 第2回 「実験としての改革」-アメリカのプログラム評価の古典の意味するものは何か？！
- 第3回 実際に評価してみよう！（演習形式で）
- 第3回 セオリー評価（ロジック・モデル）
- 第4回 より複雑なロジック・モデルについて
- 第5回 プロセス評価
- 第7回 前半のまとめ-ロジック・モデル再考（NPOとの関連で）
- 第8回 「行政評価」とは何か-最近15年の動向・潮流を中心に
- 第9回 先進事例の検討（三重県など）
- 第10回 「事務事業評価表」の批判的な考察
- 第11回 「評価結果」の評価
- 第12回 評価者が必要なものとは何か？
- 第13回 評価システムを支える外部評価制度？（1）-全国市区の外部評価の実態
- 第14回 評価システムを支える外部評価制度？（2）-外部評価がもたらすもの
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 70 % 授業貢献度...30% ただし、授業に出席しない学生には単位は与えない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

政策評価論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

配布するプリント教材の復習を必ず行うこと。また、授業に際しては前もって教材の指定した箇所を予習して授業に参加すること。毎回の講義の復習をしない学生は授業についていくことが難しくなるので十分に注意されたい。
履修に際しては、行政学、地方自治論、公共政策論、自治体政策研究、政策調査論などの講義を受講しておくことがのぞましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

評価、セオリー評価、ロジック・モデル、アウトカム、行政評価、業績測定 (パフォーマンス・メジャーメント)

都市環境論 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 都市環境（水・大気・廃棄物など）に関しての体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 都市環境に関する政策課題を見極め、政策的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える都市環境の政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市環境論

PLC111M

授業の概要 /Course Description

回収された家庭からのゴミはどう処理されるのか？ また、街路樹の落ち葉の清掃、家庭からの排水の行方、水道水の水源など一般生活に必要な知識を私たちはもっていません。本授業では、基礎的な都市の環境保全や環境教育を学びます。中でも九州の学生に知っておいてほしいのは、環境問題や環境教育の原点とも言われる水俣病です。水俣病の問題がなぜいまだに解決を見ていないのか、歴史を紐解き、その中身をじっくり見る必要があります。また、ペットボトルに入ったミネラル・ウォーターが本当にうまいと感じるのか、感じるとすればなぜなのかなど実際に水を飲む「利き水大会」といった環境教育アクティビティを多用します。

「環境未来都市」北九州市に居住・通学する人間としての自覚を最終的には持つことができるようになってください。ここでは、私たちの日常生活を取り巻く都市生活環境についての知識を吸収し、きちんと理解し、「環境未来都市」北九州市に居住する市民としてそれにふさわしい生活態度や行動に連動させていくといった実践力を養います。これを起点として、私たちが持続可能な都市生活を続けるためにも本分野を生涯にわたって学習するという姿勢に連動することを望みます。

教科書 /Textbooks

特に指定しませんが、その都度資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 日本環境学会編集委員会編『新・環境科学への扉』有斐閣コンパクト、2001年
- * 多田満『レイチエル・カーソンに学ぶ環境問題』東京大学出版会、2011年
- * 北九州市環境局『北九州市の環境 平成24年度版』（北九州市役所HP掲載）
- * 原田正純『水俣学講義』日本評論社、2004年
- * 政野淳子『四大公害病』中公新書、2013年
- * 朝岡幸彦編『新しい環境教育の実践』高文堂出版社、2005年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	「都市環境論」の授業内容とねらいの説明【環境意識】	
第2回	環境目標の設定、環境教育とESD（持続可能な開発のための教育） ：簡単な環境意識度チェック	【ESD】
第3回	三宅ゼミの水俣研修旅行の記録報告と水俣について	【環境学習旅行】
第4回	水俣病とは？ 水俣学とは？ 多角的検証	【水俣病】
第5回	日本の環境政策の歴史と課題	【環境政策】
第6回	北九州市の環境の現状	【北九州市】
第7回	廃棄物管理 その原理と現状～一般廃棄物、産業廃棄物、3R	【廃棄物管理】
第8回	食と農～健康の源＝自らの食を見直そう	【食農】
第9回	下水処理をめぐって～下水処理の原理	【水質汚濁】
第10回	下水処理をめぐって～途上国インドのし尿処理問題	【途上国のし尿問題】
第11回	上水道 ；：（アクティビティ＝きき水比べ）	【おいしい水】
第12回	大気汚染～汚染の原理と現状、PM2.5の正体とは？	【大気汚染】
第13回	大気汚染～身近な生活からの実験を通して 二酸化炭素吸収度の算定	【CO2計測】
第14回	環境保全・環境教育に取り組む人々＝エコツーリズムに関わろう！	【エコツーリズム】
第15回	まとめ	

都市環境論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む日常的な姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 期末試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

時々の小課題の実施

授業2回目に、エコライフ・チェックの調査結果に基づいて各自の環境目標を立ててもらうので、できるだけ2回目の授業の欠席は避けてください。また、北九州市の環境に興味のある受講生は、教養科目の北九州学（北九州市と環境）の同時受講も勧めておきます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境保全は楽しむことの中で実践できればいいと考えています。そのような方法も学びますので、他の機会にでも実践してください。

キーワード /Keywords

E S D (持続可能な開発のための教育)、各自の環境教育目標、環境教育アクティビティ

都市計画概論 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 都市計画の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市計画概論

PLC218M

授業の概要 /Course Description

本講義では、都市計画に関する重要事項を広範囲に取り上げ、その基本的事項について具体的な事例を交えながら概説し、都市計画の目的である良好な市街地形成を実現するための体系・手法を学びます。建築・土木分野の馴染みのない専門用語も多数出てきますが、国内外の先進的な取り組み等を紹介しながら分かりやすく解説します。

教科書 /Textbooks

なし（適宜、レジュメや参考資料を配付）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 萩島哲編『新建築学シリーズ10 都市計画』朝倉書店
- 都市計画教育研究会編『都市計画教科書第3版』彰国社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 都市計画の概念及び歴史上の都市計画・都市デザイン【都市問題】、【中世都市】、【近代都市計画】
- 3回 都市計画の法体系と都市の基本計画【総合計画】、【都市計画マスタープラン】
- 4回 土地利用の概念【土地利用計画】、【人口配分】
- 5回 土地利用計画の実現【都市計画区域】、【市街化区域】、【用途地域】
- 6回 都市の再開発手法と事例【土地区画整理事業】、【市街地再開発事業】
- 7回 住環境整備の手法と事例【建築協定】、【地区計画】、【土地利用規制】
- 8回 ドイツにおける持続可能なまちづくり【サステナブル】【カーシェアリング】【ユニバーサルデザイン】
- 9回 都市の交通計画【パーソントリップ】、【交通需要予測】、【交通需要管理】
- 10回 都市の賑わいと公共交通【街路】、【トランジットモール】
- 11回 都市景観と景観まちづくり【視点場】、【景観法】、【景観計画区域】
- 12回 都市計画の支援ツールと都市調査【データベース】、【GIS】、【数量化理論】
- 13回 住民参加のまちづくり【ワークショップ】、【市民参加】
- 14回 都市計画・まちづくりのトピックス【最新動向】【復興まちづくり】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・レポート等... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

新聞、TVなどの報道で都市計画・まちづくりに関する情報はあふれています。常にこのような情報に接して、情報収集に努めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉国家論 【昼】

担当者名 狭間 直樹 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	福祉国家、社会保障制度の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会保障制度の問題点を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	社会保障制度が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉国家論

PLC112M

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会保険・公的扶助を中心に日本の福祉国家の特徴とそのあり方を考えます。テーマは次の2つです。①日本の社会保険・公的扶助の制度概要・政策動向（どのような課題があり、どのような解決策が議論されているのか？）、②日本の社会保険の特徴（諸外国と比較してどのような特徴があると言えるか？）。なるべく身近な事例から、これらのテーマを考えていくのが、この講義のねらいです。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

毎回、B4版のレジュメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回「自由と平等の規範」 個人の責任、国家の責任
- 第2回「社会保障の行財政」 社会保障の行政組織、社会保障給付費
- 第3回「年金保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第4回「年金保険」 財政悪化と空洞化
- 第5回「年金保険」 世代間格差と世代内格差
- 第6回「年金保険」 改革の論点
- 第7回「医療保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第8回「医療保険」 年金と共通する問題
- 第9回「医療保険」 診療報酬をめぐる問題
- 第10回「医療保険」 医療サービスの量と質
- 第11回「生活保護」 原理・原則
- 第12回「生活保護」 扶助の種類
- 第13回「生活保護」 保護の透明性
- 第14回「福祉国家の類型」 3つの福祉国家
- 第15回「福祉国家の類型」 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・100%

原則として、毎回、出席をとります。欠席1回につき、期末試験得点より2点程度減点します。

*ただし、教室定員に対して受講生数が著しく多い場合は、出席による評価を変更する可能性があります。
確定された成績評価基準は、第1回目の授業でお知らせします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

福祉国家論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

年金や医療について関心をもっておいください。
私語は厳しく注意します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

政策情報処理 【昼】

担当者名 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 統計分析の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析するための、統計処理の基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 政策課題を見極め、統計的な分析・解釈と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策情報処理

PLC223M

授業の概要 /Course Description

この授業の目的は、政策科学の研究のために必要なスキルのひとつである、統計処理・データ解析の方法を習得し、受講生が統計的な手法を用いた分析を行えるようになることです。「そもそも数字が意味するものは...?」を出発点に、統計の基本的な概念や様々な分析手法およびその特性などを学びながら、実際のデータを用いて統計的な処理・解析を行うという、講義・実習の両形式から成る実践的な授業となります。なお、具体的には地方自治体に関する数値等、実データを主として用いる予定です。
また情報処理の手法を身に付けるという目的のほか、「調査・統計処理の結果」として世の中にあふれる数字をどのように見るべきなのか、その一助となる授業にしたいと考えています。
なおSPSSという統計パッケージを使用することを想定しており、ソフトの数量に限りがあるため、受講者数を制限する場合がありますので、受講希望者は必ず初回ガイダンスに出席するようにしてください。

教科書 /Textbooks

テキストは特には指定しません。必要に応じてレジユメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 松田憲忠・竹田憲史(2012)『社会科学のための計量分析入門：データから政策を考える』ミネルヴァ書房
 - 増山幹高・山田真裕(2004)『計量政治分析入門』東京大学出版会
 - 村瀬洋一ほか(2007)『SPSSによる多変量解析』オーム社
 - 佐伯胖・松原望編(2000)『実践としての統計学』東京大学出版会
 - 石村貞夫(2007)『SPSSによる統計処理の手順 第5版』東京図書
 - 谷岡一郎(2007)『データはウソをつく：科学的な社会調査の方法』筑摩書房
- その他、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-----|--|
| 1回 | ガイダンス 【情報リテラシー】 【「数」の不確実性】 |
| 2回 | 統計の基礎(1) 【データの種類】 【変数】 【尺度】 |
| 3回 | 統計の基礎(2) 【データの視覚化】 【度数分布表】 【記述統計量】 |
| 4回 | 統計的有意性【検定】 【帰無仮説】 【有意水準】 |
| 5回 | クロス集計【複数の変数の関係性】 |
| 6回 | 相関分析【複数の変数の関係性】 【相関関係】 |
| 7回 | 中間テスト |
| 8回 | 中間テストの解説とここまでの復習 |
| 9回 | 回帰分析(1) 【因果関係の想定】 【単回帰分析】 【係数】 |
| 10回 | 回帰分析(2) 【重回帰分析】 |
| 11回 | 回帰分析(3) 【ロジスティック回帰分析】 |
| 12回 | パス解析【共分散構造分析】 【潜在変数】 【パス係数】 |
| 13回 | 統計分析の結果を用いた論文の書き方 |
| 14回 | 授業で扱った手法の復習とその他の手法の紹介【主成分分析】 【クラスター分析】 【テキストマイニング】 |
| 15回 | まとめ |

政策情報処理 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト20%、期末試験80%
(遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本授業では統計の基礎から講義・実習を行いますので、履修しておくべき科目等は特にありませんが、「データ処理」「政策分析入門(3年生以上は「政策調査論」)」等、基本的な情報処理科目を履修済みであれば理解はより深まります。パソコン教室での授業となるので、受講生は各自、学内のパソコンを使用できるように(ログインできるように)しておいて下さい。
受講希望者が多数の場合には、受講者数調整を行う場合があります。これについては初回のガイダンスにて説明しますので、履修したい学生は4月上旬の受講申告期間に履修登録をしたうえ、必ず第1回目の授業にご出席ください(どうしても初回ガイダンスに出席できないという場合には事前にメールにて横山まで連絡をすること)。また受講者数調整について、およびその結果については随時掲示板にも貼り出します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義半分、実習半分の授業となります。
実習を行うため、受講生の人数等によってスケジュールは多少変更される場合があります(特に中間テストについては講義中に実施日の決定等についてアナウンスしますので注意してください)。

キーワード /Keywords

日本政治論 【昼】

担当者名 /Instructor 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本政治の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本政治上の政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本の政治が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

*政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本政治論

PLS110M

授業の概要 /Course Description

なぜ日本では首相の交代が多いのだろうか。なぜ自民党は長期間、政権を担っていたのだろうか。一方で、(多くの)人々はなぜ自民党を支持し、2009年には政権交代を選択し、2012年には再び自民党を支持したのだろうか。これらの問いは、本講義で扱う内容の一部である。

本講義では、日本政治に関する様々な問いを提示しながら、戦後日本政治への理解を深めることを目的とする。そのため、講義では①戦後日本政治の歴史、②比較の中で日本政治の特徴を理解することに重点をおく。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ (A3で2-3枚程度) を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に本講義の参考文献、関連する文献の紹介を行う。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	イントロダクション	
第2回	戦後から55年体制の形成	【占領改革】【冷戦構造】【吉田路線】【55年体制】
第3回	60年安保と高度経済成長	【60年安保】【高度経済成長】【革新自治体】
第4回	一党優位政党制	【一党優位政党制】【危機と補償】【補助金と規制】
第5回	自民党の組織的特徴	【後援会】【派閥】【族議員】【国対政治】
第6回	行政・司法	【省庁代表制】【天下り】【司法の独立】
第7回	社会集団	【利益団体】【二環構造】
第8回	投票行動	【バッファープレイヤー仮説】【業績投票】【争点投票】
第9回	冷戦構造の崩壊と政治改革	【規制緩和】【政権交代】【小選挙区比例代表並立制】
第10回	構造改革と政権交代	【構造改革】【小さな政府】【イデオロギー】
第11回	民主党の組織的特徴	【リクルートメント】【グループ】【旧党派】
第12回	民主党の政策的特徴	【裁量的政策】【普遍的政策】
第13回	市民社会	【自治会】【企業】【NPO】
第14回	政治参加・マスメディア	【制度的参加】【政治忌避感】【テレポリティクス】
第15回	日本政治の課題	【制度補完性】【リーダーシップ】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (70%)、日常の授業への取り組み (30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本政治論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「政治学」をすでに履修している場合は、本講義の理解がより深いものになります。

「政治過程論」は、政治学の理論やモデルの紹介に重点があります。本講義では、日本政治に関する事実の理解に重点があります。そのため、「政治過程論」と共に履修することで、より理解が深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

事実と比較に重点のある講義です。時事問題を取り上げることは多くありませんが、最近の問題との関連性を考える上での基礎的知識を提供することに力点があります。映像資料も複数回使用し、受講者の理解を深めます。

キーワード /Keywords

なし

地方自治論 【昼】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方自治論

PA0211M

授業の概要 /Course Description

この授業は、受講生のみなさんに地方自治についての基本的な知識を理解してもらうことを目的とする。地方自治の理念から始まって、わが国における地方自治の沿革、地方自治制度のしくみ、そして近年の地方分権改革の様相、今後のあるべき地方自治の姿を考えることにいたるまで、幅広く地方自治についての基礎理解をめざす。

教科書 /Textbooks

山本隆・難波利光・森裕亮『ローカルガバナンスと地方行財政』（2008年）ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治の理念【地方自治とは】
- 3回 自治体首長と中央地方関係①【明治・大正時代の地方自治史】
- 4回 自治体首長と中央地方関係②【機関委任事務のしくみ】
- 5回 自治体首長と中央地方関係③【首長と議会】【二元代表制】
- 6回 自治体首長と中央地方関係④【中央地方関係】
- 7回 自治体首長と中央地方関係⑤【地方分権改革】【法定受託事務】
- 8回 自治体広域化と地方自治①【自治体の規模論】
- 9回 自治体広域化と地方自治②【市町村合併】
- 10回 自治体広域化と地方自治③【自治体内分権】
- 11回 地方財政と地方自治①【地方財政の基礎編】
- 12回 地方財政と地方自治②【地方債の役割】
- 13回 地方財政と地方自治③【各地の財政改革と住民参加】
- 14回 これからの地方自治【パートナーシップ】【住民自治】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%（試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。日本行政論をとっておくとより理解が深まる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地方自治論 【昼】

キーワード /Keywords

地方自治、地方自治体、中央地方関係、地方分権

地方行政改革論【昼】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方行政改革の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方行政改革論

PA0310M

授業の概要 /Course Description

この授業では、地方行政改革がなぜ必要とされているのか、そこでの改革手法としてどのような手法が用いられているのか、現在進む地方行政改革の実態と課題を論じたい。改革の最前線についてその事例を紹介しつつ、改革を推し進めている背景となっている理論や思想についても触れたい。

教科書 /Textbooks

真山達志編著『ローカルガバメント論—地方行政のルネサンス』ミネルヴァ書房、2012年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治体の組織【官僚制の理論】
- 3回 地方自治体の組織【自治体の特性】
- 4回 組織改革①【自治体組織の改革：総論】
- 5回 組織改革②【自治体組織の改革：フラット化、人事評価】
- 6回 職員改革①【人材育成】【政策形成】
- 7回 職員改革②【ネットワークのマネジメント】
- 8回 公共サービスの質と民間化①【グレーゾーン】
- 9回 公共サービスの質と民間化②【民間移管】【サービスの質】
- 10回 行政と住民の関係改革①【地域自治組織】【自治体内分権】
- 11回 行政と住民の関係改革②【コミュニティ運営協議会】【行政の支援】
- 12回 政府間関係改革①【都道府県と市町村】
- 13回 政府間関係改革②【市町村と市町村】
- 14回 議会と行政【議会改革】
- 15回 議会と行政【議会の政策形成】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期レポート試験...89% 特定課題...11%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。
この授業を受講する場合は、地方自治論をすでに履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難易度の高い授業になるので心して受講すること。特に3年生になってから受講されたほうが内容の理解が深まると思います（もちろん、2年生でも受講は可能です）。また、公務員受験を本気で考えている方は是非受講してください。

キーワード /Keywords

地方自治体、公務員、行政改革

地域統合論 【昼】

担当者名 五月女 律子 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域統合の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域統合論

PLS214M

授業の概要 /Course Description

ヨーロッパ統合を分析する理論的側面として地域統合論を解説し、ヨーロッパ統合を現実に押し進めることになった理念とともに、EUの組織・機構や意思決定過程について学が予定である。また、EUにおける各分野の政策に関して、その発展過程を理解するとともに、成果と問題点を考察することを目指す。国際社会において、EUがアメリカとは異なる政策や立場を選択する事例や、国際組織やアジアとの関係についても触れ、ヨーロッパの統合過程において現れはじめている課題についても考えたい。

教科書 /Textbooks

森井裕一編『ヨーロッパの政治経済・入門』（有斐閣）、2012年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○坂井一成編『ヨーロッパ統合の国際関係論』[第2版] (芦書房)、2007年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 内はキーワード)
- 第1回 授業の進め方の説明、EUの概要(1)【加盟国】
 - 第2回 EUの概要(2)【成果】
 - 第3回 地域統合論【地域】【統合】【新機能主義】【交流主義アプローチ】
 - 第4回 ヨーロッパ統合の理念と歴史【ECSC】【EURATOM】【EEC】【EC】【EU】
 - 第5回 EUの組織・機構と意思決定過程(1)【欧州委員会】【欧州理事会】
 - 第6回 EUの組織・機構と意思決定過程(2)【欧州議会】【閣僚理事会】
 - 第7回 域内市場政策【単一欧州議定書】【域内市場統合】【共通通商政策】
 - 第8回 単一通貨政策(1)【ウエルナー】【ECB】【ユーロ】
 - 第9回 単一通貨政策(2)【加盟国の財政政策】【通貨危機】
 - 第10回 共通農業政策(1)【CAP】【補助金】
 - 第11回 共通農業政策(2)【財政問題】【発展途上国】
 - 第12回 共通外交・安全保障政策【CFSP】【ESDP】【CSDP】
 - 第13回 国際社会における主体としてのEU【環境問題】【ASEM】【国連】
 - 第14回 ヨーロッパ統合における課題【拡大疲れ】【エリートvs. 大衆】【外国人排斥】
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 40%、 期末筆記試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

地域統合論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当教員に関する情報、講義の進め方、成績評価方法について第1回の授業で説明するので、履修予定者は必ず出席すること。
授業時の小テストで、不正行為（インターネットに掲載されている文章を転記する等）を行った場合、全ての小テストの点数を0点とする。
授業内容を自分でまとめてノートに取る訓練をすること。
「西洋政治史」および「政党政治論」を履修することにより、ヨーロッパの国際関係や国内政治に関する知識を身につけておくこと効果的な学習ができる。
学生の希望に添って授業の速度を落とした場合、予定した内容の全てを講義することはできない点に留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義に出席せず、勉強せずに単位を取得することはできません。

キーワード /Keywords

アジア地域社会論 【昼】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アジア諸国の地域社会の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、アジアの地域社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	アジアの地域社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		
※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。			アジア地域社会論 PLC222M

授業の概要 /Course Description

今日、アジア諸国の経済成長は目覚ましく、今世紀の世界をリードしていくのは確実視されています。グローバル化の中でそのような経済成長が続いていますが、経済同様、アジア諸国の社会の動きも活発化しています。元来、担当教員は、バングラデシュ地域研究に研究の焦点を絞っていましたが、2007年以降バングラデシュ人にとって海外出稼ぎ労働の対象国として人気のある韓国に数多く足を運んで調査研究を繰り返すようになりました。ゆえに、本授業では、担当教員の研究に非常に関係のあるアジア2カ国、バングラデシュと韓国を対象に、同国の文化・生活・社会の断面を紹介していきます。担当教員の体験や関心から出発しているので、若干（かなりかも）、マニアックになるのはお許しください。アジア大好き人間になり、学生時代には一度は韓国に出かけてください。アジアに少しでも興味ある学生なら誰でも歓迎です。北九州市、福岡市や福岡県が自らをアジアのゲートウェイと位置づけ、積極的に経済面社会面でアジアとの交流・協力を進めている現在、なおさらのこと、本授業を通して羽ばたいてください。

本授業では、以上のことから、バングラデシュと韓国の社会文化に関する知識の吸収はもとより、公正・平等・信頼といった価値観の形成を目標としています。また、両国に興味を持つことによって、直接出かけるという実践力・行動力が現れることも期待しています。

教科書 /Textbooks

その都度配布

○三宅博之『開発途上国の都市環境 - バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

* 大橋正明・村山真弓編『バングラデシュを知るための60章【第2版】』明石書店、2009年

* バク・ジョンヒュン『韓国人を愛せますか?』講談社+α新書、2008年、840円

* 棚瀬孝雄『市民社会と法～変容する日本と韓国の社会』ミネルヴァ人文・社会科学叢書、2007年、5775円

* クォン・ヨンスク『「韓流」と「日流」～文化から読み解く日韓新時代』NHK出版、2010年、1100円

アジア地域社会論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	「アジア地域社会論」に関する授業方針と内容の説明	
第2回	韓国とバングラデシュへのスタディ・ツアーの写真から韓国社会とバングラデシュ社会を読み解く	【スタディツアー】
第3回	統計数値、絵本を通しての両国の生活・文化の比較説明	【統計数値】
第4回	バングラデシュの農村社会～イスラーム教の紹介を含む	【イスラーム】
第5回	バングラデシュの都市社会（隣人関係）	【隣人関係】
第6回	バングラデシュ小ネタ集～教員の仰天体験を通して？	【小ネタ】
第7回	バングラデシュの都市社会（清掃人・ウェイストピッカー・有価廃棄物回収児童）	【雑業層】
第8回	韓国の1960～70年代の政治・社会と現在～映画「クラシック」を通して（1）	【映画鑑賞】
第9回	韓国の1960～70年代の政治・社会と現在～映画「クラシック」を通して（2）	【映画鑑賞】
第10回	韓国におけるバングラデシュ人労働者	【バングラデシュ人労働者】
第11回	韓国における多文化家族に見る社会	【多文化家族】
第12回	韓国の現代史	【現代史】
第13回	韓国の宗教と文化	【価値教育】
第14回	韓国社会の国際化（移民政策・多文化共生政策）＝他国との比較	【多文化政策】
第15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への日常的な取り組みの姿勢...15% 小課題の提出 ... 25% レポート ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

時々の小課題の実施
上記アジア2国はかなり異なっている。面白く、興味深い授業を心掛けたいので、笑う時は笑い、泣く時は泣き（映画鑑賞では泣きません）、考えるべき時は考え、なにごとにも真剣に取り組んでいただきたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州から韓国は本当に近いので、もっともっと韓国のことを知り、複数回の韓国訪問を果たしてほしい。

キーワード /Keywords

アジア、バングラデシュ、韓国、スタディツアー、韓国映画『ラブストーリー（原題「クラシック」）』

応用政策特講 【昼】

担当者名 柳 至 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政策と関連する様々な領域の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

応用政策特講

PAD214M

授業の概要 /Course Description

政策過程の理論と事例について講義し、議論を行う。授業を通じて、公共政策がいかにして議題にあがるか、決定されるのか、実施されるのか、評価されるのか、廃止されるのかを説明することができるようになることを目標とする。授業は教員による講義パートと受講者も交えたディスカッションパートにより構成される。

教科書 /Textbooks

なし。プリントを配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉(2010)『公共政策学の基礎』有斐閣
その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 政策過程の理論
- 3回 議題設定について
- 4回 議題設定について議論【小グループでのディスカッション】
- 5回 議題設定について議論【全体でのディスカッション】& 政策決定について【概要】
- 6回 政策決定について【具体例】
- 7回 政策決定について議論【小グループでのディスカッション】
- 8回 政策決定について議論【全体でのディスカッション】& 政策実施について【概要】
- 9回 政策実施について【具体例】
- 10回 政策実施について議論【小グループでのディスカッション】
- 11回 政策実施について議論【全体でのディスカッション】& 政策評価について
- 12回 政策廃止について
- 13回 政策廃止について議論【小グループでのディスカッション】
- 14回 政策廃止について議論【全体でのディスカッション】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッションへの貢献 60%
小レポート(4回) 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ディスカッションに際しては事前にこちらが指定する研究論文を読み、ディスカッションに備えた小レポートを作成して準備する必要がある。
単位取得には、ディスカッションへの参加と小レポートの提出が不可欠となる。

応用政策特講 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ディスカッションでは、研究論文を批判的に検討し、政策過程の理論と事例について自ら考察することが求められます。応用的な授業となりますが、公共政策に関心を持つ学生の受講を歓迎します。

キーワード /Keywords

政策過程、議題設定、政策決定、政策実施、政策評価、政策廃止

対外政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 対外政策論の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

対外政策論

PLC213M

授業の概要 /Course Description

このクラスでは、資本・貿易・経済の国際化などの国際システム・レベルの要因が、先進諸国の経済政策にどのような影響を与えるのか、つまり各国は国際経済の制約下どのような経済政策を実行し、そしてその経済政策が今度は国際システムや自国・他国経済にどのような影響を及ぼすのかを検証する。まず資本・貿易・経済の国際化がどのような経済環境を創出したかを概観し、次にこの環境が諸国にいくつもの制約を課するかを分析する。そしてその制約下、各国政府がいくつもの経済政策を施行し、その経済政策が自国・他国経済にどのような影響を与えるのかを検証する。

ここでいう「経済政策」とは、広い意味での経済政策で、具体的には雇用、経済成長、福祉、財政、教育、貿易、金融、通貨などの政策を含む。このクラスは、言葉を変えて言えば、「国際化された経済から、先進諸国はどのような影響を受け、それに各国政府がどのように対応し、どのような政策を実行するか。また、その政策が各国の社会経済（社会や人々の生活、企業など）にどのような影響を与えるのか」についてのクラスである。

教科書 /Textbooks

Thomas Oatley. 2011. International Political Economy: Interests and Institutions in the Global Economy, 5th ed. New York: Pearson Longman.

(なぜ英語のテキストを使うのかも含めて、私のクラスについては、http://www.geocities.jp/sakamoto_pol/basicideas.htmを参照)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日指示

対外政策論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにした質疑応答・検証を行い、学生と教員が互いに理解を深める。学生は毎週、テキストの指定箇所を事前に読み終えて授業に臨む。積極的な授業への参加なしでは単位を取得できない。「参加」とは「出席」とは同義語ではない。参加とは、毎週の課題・活動に積極的・建設的に参加・貢献することである。また、問題について建設的、批判的に考え、発言することである。

このクラスではたくさん勉強してもらいますので、そのつもりで履修登録してください。ただし、本気で一生懸命勉強すれば、授業についてこれると思いますので、本クラスのサブジェクトに関心がある人は、しりごみしないで受講してください。

毎週のreading assignmentについては後日アナウンスする。

1. イントロ
2. 国際政治経済とは何か
3. Political Economy of International Trade Cooperation
4. Society-Centered Approach to Trade Politics
5. State-Centered Approach to Trade Politics
6. International Monetary System
7. International Monetary Arrangements
8. Society-Centered Approach to Monetary and Exchange-Rate Policy
9. State-Centered Approach to Monetary and Exchange-Rate Policy
10. Catch-Up and Review
11. Catch-Up and Review
12. International Finance
13. Import Substitution Industrialization
14. Market Reform
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1) テキストの講読・理解、授業での発言・参加が40%、(2) 研究論文あるいは期末総合テストが60% (どちらかひとつ)。研究論文とテストのどちらを行うかは、授業の進度や受講学生の学習の進歩を見て学期中に担当教員が決める。(1)の授業での発言・参加と(2)の論文/テストのどちらが欠けても単位は取得できない。(1)はどれだけよくテキストを指定の授業日までに読み、積極的にクラスでの検証に参加しているかによって決まる。(2)は、研究論文の場合、学期未提出の論文の質で決める。テストの場合は、学期中に学習・分析した内容をどれだけ良く理解したかを総合的に問うテストの結果をもって評価する。

論文の場合、A4紙にダブルスペースで13枚程度。研究の内容は、テキストや講義で学んだ内容を発展させる、あるいは検証するものにする。ゆえにテキストを読まずに研究を進めることはできない。研究論文であるので、時事批評や感想文、哲学論は受け付けない。研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと：(1) オリジナルな研究、論文にする、(2) 理論や説明の論理的整合性、(3) 理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。いずれにせよ、thoughtfulな分析にすること。言うまでもなく、既存の図書、雑誌などからの不正あるいは不適切な引用・抜粋は禁止。また、他の者が書いたものと同一のレポートの提出や、過去において自己・他者が書いたレポートの提出も禁止。これら不適切あるいは不正な行為発生の場合は不可。

総合テストの場合は、テキストや授業で学んだ内容をどれだけ良く理解しているかを、総合的に問い、論文形式で答えてもらう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎週の授業前までには、教科書の指定箇所を必ず読み終えていること。この講読で得た知識をベースに授業を進める。また、条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計、国際関係論、国際経済論を勉強することを強く勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なにごとも、必死になって頑張れば、なんとかなりますので、必死になって頑張ってください

キーワード /Keywords

比較政策分析、比較政治経済、福祉政策、経済政策、教育政策、労働政策、国際政治経済、比較政治、雇用、経済成長、平等、福祉、市民、政府、政治家、利益集団

自治体政策研究【昼】

担当者名 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治体における公共政策の体系的理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地方自治体において何が政策課題を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	地方自治体が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

自治体政策研究

PLC214M

授業の概要 /Course Description

現代日本の地方自治体における公共政策を考える上で、①人口減少社会の到来、②少子高齢化、③巨額の財政赤字、④単身世帯の急増、といった問題は避けて通れない最重要課題であるといえる。本講義では、まず、こうした課題を①コンパクトシティ、②中山間地域の限界集落、③都市の限界コミュニティといった視点から分析・検討し、これから地方自治体が直面する（あるいは直面している）政策課題について、先進的取り組みを含め議論することにした。

次に、現代日本で進行中の地方分権改革の中で、地方自治体が「分権の受け皿」として、政策過程のなかで積極的かつ効果的な役割を担っているのか（あるいは担うことができるのか）といった問題について触れることにしたい。そして、これまで中央政府で決定された公共政策の単なる実施機関としての位置づけが濃かった日本の自治体が、自ら「政策形成の担い手」になりうるかどうかといった問題を、政策プロセスにおける住民参加の問題やNPOの問題などを含め多角的視点から検討・考察し、現代日本におけるいわば「政策自治体」の可能性・ありかたを模索することにした。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。毎回、プリント教材（レジュメおよびリーディング・テキスト）を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 海道清信『コンパクトシティ - 持続可能な社会の都市像を求めて』（学芸出版社、2001年）
- 鈴木浩『日本版コンパクトシティ - 地域循環型都市の構築』（学陽書房、2007年）
- 大野晃『山村環境社会学序説 - 現代山村の限界集落化と流域共同管理』（農村漁村文化協会、2005年）
- 大野晃『限界集落と地域再生』（高知新聞社、2008年）
- 芳賀祥泰編著『福祉の学校』（エルダーサービス、2010年）
- 大西隆ほか『集落再生-「限界集落」のゆくえ』（ぎょうせい、2011年）
- 山下祐介『限界集落の真実-過疎の村は消えるのか?』（ちくま書房、2012年）

自治体政策研究【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起と本講義の目的
- 2回 人口減少期のまちづくり-コンパクトシティ構想(青森市、富山市など)
- 3回 富山市のコンパクトシティ構想-くしとお団子のコンパクトシティ構想
- 4回 紫川マイタウンマイリバー整備事業
- 5回 限界集落(1)-限界集落とは何か
- 6回 限界集落(2)-限界集落の事例、綾部市の「水源の里」条例
- 7回 限界集落(3)-限界集落の再生、「集落支援員制度」等の検討
- 8回 都市の「限界コミュニティ」-限界コミュニティとは
- 9回 北九州市の局地的高齢化
- 10回 限界コミュニティとコミュニティ再生
- 11回 北九州市における超高齢コミュニティと対策
- 12回 北海道伊達市の移住政策
- 13回 フードデザート、買い物難民(買い物弱者)を考える
- 14回 福岡県宗像市の条例によるまちづくり(1)-市民参加と協働
- 15回 福岡県宗像市の条例によるまちづくり(2)-コミュニティ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 授業貢献度...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回配付するレジュメ、論文、新聞記事などを読んだうえで講義に参加していただきたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業には毎回必ず参加してください。授業に参加しなければ始まりません。

キーワード /Keywords

人口減少社会、高齢化、コンパクトシティ、限界集落、限界コミュニティ、買い物難民(買い物弱者)

都市経済論 【昼】

担当者名 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方財政の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地方財政の諸課題を認識し、課題解決に必要な判断力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	地域経済への関心を高め、市民生活と地方財政制度とのつながりを再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市経済論

PLC113M

授業の概要 /Course Description

戦後の経済成長に伴い都市化が急速に進行し、大都市へ人口が流入してきた。それにより、都市の問題が生じてきている。本講義では、都市における問題による地方における問題を都市化の経緯と共に現代の問題を説明する。

講義の内容は、大きく2つに分かれる。前半は都市経済の理論的説明、後半は理論を基にして具体的な都市政策を説明した後に実践例を取り上げる。本講義は、都市における問題を捉えると共に地方都市と大都市との関係性についても述べるため、マクロ、ミクロ、メゾな目線から都市問題を説明する。

本講義を受講することにより、行政による都市政策を理解することができ、民間における不動産および住宅産業や観光産業の今後の在り方についても触れるため、公務員志望者やデベロッパ関連企業志望者には特に考える機会が与えられると考えている。

教科書 /Textbooks

中村良平『まちづくり構造改革 - 地域経済構造をデザインする』日本加除出版株式会社 2014年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

金本良嗣『都市経済学』東邦経済新報社 1997年
林宜嗣『都市問題の経済学』日本経済新聞社 1993年
西山八重子編『分断社会と都市ガバナンス』日本経済評論社 2011年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 都市経済とは何か
3. まちづくりの経済原則
4. いま、まちの経済は？
5. まちの経済構造、どこが問題
6. まちの経済の成り立ちは？
7. まちの経済のどこを見る？
8. 中間試験
9. 実践例 観光資源による都市（函館市・いわき市）
10. 実践例 歴史活用による都市（高梁市・真庭市）
11. 実践例 再生エネルギー事業による都市（瀬戸内市・真庭市）
12. 実践例 福祉事業による都市（柏市）
13. 実践例 大型店進出による中心市街地への影響（岡山市）
14. 実践例 観光地と商店街による中心市街地（下関市）
15. まとめ

都市経済論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 50% 期末試験50%
試験は、テキスト、配付資料、手書きノートの持ち込み可能。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 都市の政策に関する専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 都市の諸課題と政策を理解し、新たな政策提案等を行う力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 都市に対する関心を高め、市民生活と政策とのつながりを理解する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市政策論

PLC219M

授業の概要 /Course Description

日本社会が激変している中で、多くの地方都市は経済的に疲弊しており、同時に都市再生を模索して様々な動きを始めている。

この講義では、多様な人材・施設・機能が集積する都市において、地方自治体が、住民・企業・団体の様々なニーズに応えながら、都市機能を高め、地域経済の活性化を進めるためにどのような政策手法が有効であるかを学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 地方都市における各種の政策課題や、その解決のために取り組まれている政策を理解する。
- ② 地方自治体の産業政策の重要性を理解する。

教科書 /Textbooks

レジュメを提供する
(大学のホームページから受講者がダウンロードすること)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 牛嶋正著『現代の都市経営』(1999)有斐閣ブックス
- 吉田民雄著『都市行政の新しい設計』(1995)中央経済社
- 小林英夫著『産業空洞化の克服 - 産業転換期の日本とアジア』(2003)中公新書
- 中沢孝夫著『<地域人>とまちづくり』(2003)講談社現代新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市政策論とは何か
- 2回 都市が直面する課題
- 3回 都市政策の前提とこれからの都市政策
- 4回 都市政策と人材確保
- 5回 魅力ある都市づくり
- 6回 国の産業政策・地域振興政策
- 7回 産業集積の理論と実態
- 8回 産業クラスター政策と課題
- 9回 中小企業振興の取組み
- 10回 新産業創出の取組み
- 11回 企業誘致の実態とその課題
- 12回 小売り商業と商店街の実態と課題
- 13回 中心市街地の再生
- 14回 雇用政策
- 15回 まとめ

都市政策論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	環境政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題とその構造を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える環境問題に対する自らの関心を高め、市民生活と経済活動そして政策とのつながりを再認識する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境政策論

PLC216M

授業の概要 /Course Description

人間と社会経済、そして環境との関係について理解し、原因を分析する（分析能力の習得）。

- ① 日本における環境問題と歴史、環境問題の特性と環境問題の要素（環境、社会構造と制度、技術、自然、人口）について理解する。
- ② われわれの日常生活・消費がもたらす環境への影響とその関係についても考えてみる。
- ③ 地球温暖化、国境のない環境問題（黄砂現象、ごみの国家間移動、放射能の大気汚染）について理解し原因を分析する。

環境政策に関する専門知識の取得と政策形成能力の向上。

- ① 環境問題の変化：産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題について考え、環境政策を比較、考察する。
- ② 環境問題におけるグローバルな要素、ローカルな要素について考え、環境政策を比較分析する。
- ③ エネルギーと生活の関係について考え、持続可能なエネルギー政策を形成する（再生エネルギーと地域活性化）。
- ④ アメリカ、ドイツ、韓国、中国の環境政策を比較調査する。

教科書 /Textbooks

『環境社会学』（船橋晴俊著 成文堂 ¥2,700）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『再生可能エネルギーの政治経済学』（大島堅一著 東洋経済新報社 ¥3,990）
- 『環境問題の社会史』（飯島伸子著 有斐閣 ¥2,310）
- 『自動車の社会的費用』（宇沢弘文著 岩波新書 ¥735）
- 『環境保護の法と政策』（山村恒年著 信山社 ¥7,748）
- 『環境共同体としての日中韓』（東アジア環境情報発信所著 集英社 ¥735）
- 『欧州のエネルギーシフト』（脇坂紀行著 岩波新書 ¥840）

環境政策論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業や本の紹介など(自分の環境概念について、書いてもらう)
- 2回 公害、環境(問題)とその構造(被害者、加害者等)
環境問題の特性とその構造(環境、社会構造と制度、技術、自然=資源、人口)
- 3回 日本の環境問題と歴史
環境権、環境政策の特徴1(日本、アメリカ、ドイツとEU、韓国、中国)
- 4回 各国の環境組織、予算 利害関係者とアクター
- 5回 環境権、環境政策の特徴2(日本、アメリカ、ドイツとEU、韓国、中国)
- 6回 環境政策の手段(間の比較分析)1;補助金、賦課金、税金、規制、取引権、買い上げ等
- 7回 環境政策の手段(間の比較分析)2;有料化、road pricing等
- 8回 発表会
- 9回 自治体の環境政策(環境計画、公害防止規制、横だし、上乘せの条例等)、環境自治体
- 10回 廃棄物はどこにいくのか(アジアへ、私の食卓へ、そして体へ)
- 11回 自動車と道路、ダイオキシン問題、大気汚染
- 12回 地球温暖化とエネルギー政策
- 13回 企業の環境対策とISO、環境ビジネス
- 14回 水・川・ダムによる水資源、干潟、地域再生
- 15回 まとめ(試験などの質問)

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 - 30%、レポート - 20%、期末試験 - 50%
(レポートの未提出者は期末試験を受けることができない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ゼミ生の活動・授業内容については、
ゼミホームページ <http://shinzemi.wiki.fc2.com/>
申 ホームページ <http://www.kitakyu-u.ac.jp/law/faculty/personal/shin/DongAeRink.htm>
を参照し、準備する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

以前、ゼミ生と一緒に、小倉駅で、原発事故とエネルギーに関するアンケートを取った。その調査では、「電力量に対する認識の差」、「原発事故等に関する話し合いの有無」、「参加意志にみえる政治参加システム」について意味深い傾向が読み取れた。ある高校生は、迷うことなく、電力不足に引き続き、原発必要論にマルを付けた。こういう傾向は、女性より男性の方に多く、若いほど電力不足論に票を入れている。これに対し、「40代」の「女性」の方では、電力は不足なんかしない(原発なくても)と答えた。同じ時間軸にいる人々のなかでも、現況を把握するのに、これほどの差が出る。これは、な～ぜ～!!

あなたは、どう思う？

では、エネルギーで地域経済を支えるって本当!!
また、エネルギーなしで生活できないって、だったら、地域エネルギーで就職もできるの??

キーワード /Keywords

環境、環境問題、環境政策(政策手段)、環境影響、国際環境問題、
産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題、
地域エネルギーと原子力、
グローバルな要素、ローカル要素。

途上国開発論 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 途上国が直面している諸課題と解決に関して体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 途上国において何が政策課題を見極め、政策的な分析と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 途上国が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、日本人の市民生活と日本政府の政策とどのようにつながっているかを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

途上国開発論

PLC215M

授業の概要 /Course Description

グローバル化の波によって、めまぐるしく変化している現在の世界において、今世紀は開発途上国がその中心舞台に躍り出ることが予想されています。そのテーマといえば、貧困問題、環境問題、人口問題、民族紛争、人権問題など枚挙にいとまがないほどです。本講義では、途上国の開発と環境に焦点を絞り（事例としてはバングラデシュ）、数々のテーマと切り口で臨みます。日本の若者が海外に出ていくことを躊躇していると言われていますが（隣国の韓国とは大違い）、同じ地球に生きる人間として途上国の問題にも真正面からぶつかり、世間で言われる途上国の違った側面を捉えることに挑戦してください。最後に、本授業は、日本の過去・現在・将来において重要な関係を持つ途上国の諸問題の知識の吸収や理解に重点を置き、卒業以前に途上国そのものを自らの眼で見極めるといった実践力、卒業後も、途上国に関心を持ち学習するといった能力を培うことを主な目標としています。

教科書 /Textbooks

特に教科書は指定せずに各回に配布する資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ジェニファー・エリオット著、古賀正則訳『持続可能な開発』古今書院、2003年
- * 三宅博之『開発途上国の都市環境～バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年
- * 中村尚司『人びとのアジア - 民衆学の視座から』岩波新書、1994年
- * 菊地京子編『開発学を学ぶ人のために』世界思想社、2001年、1900円
- * 恩田守雄『開発社会学 理論と実践』ミネルヴァ書房、3800円
- * Robert B.Potter et al., Geographies of Development 3rd ed. Pearson Education, Harlow, 2008

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|---|---------------|
| 第1回 「途上国開発論（途上国の開発政策）」のねらい、担当教員の途上国での体験からの受講生への問題提起 | |
| 第2回 開発概念の検討～歴史的推移と「持続可能な開発（SD）」の定義 | 【持続可能な開発（SD）】 |
| 第3回 成長概念と貧困概念～貧困線をめぐって | 【貧困概念】 |
| 第4回 アマルティア・センと社会・人間開発 | 【アマルティア・セン】 |
| 第5回 人口問題～中国の1人っ子政策と先進国の少子化対策 | 【一人っ子政策】 |
| 第6回 都市問題～インフォーマルセクターの存在 | 【インフォーマルセクター】 |
| 第7回 居住問題～スラム・スクオッタ居住区 | 【スクオッタ居住区】 |
| 第8回 資源分配をめぐって（エネルギー技術のあり方） | 【資源配分】 |
| 第9回 環境問題～森林破壊、海洋汚染など | 【森林破壊】 |
| 第10回 環境問題～都市問題、特に廃棄物管理問題を中心に | 【廃棄物管理問題】 |
| 第11回 保健・医療問題 ～感染症、下痢を中心に | 【感染症】 |
| 第12回 途上国での農漁村での農業・漁業の在り方 | 【農業・漁業】 |
| 第13回 途上国の諸問題の解決への取り組みと結果～国連とODA | 【ODA】 |
| 第14回 台頭するNGO～インド・バングラデシュの事例より | 【NGO】 |
| 第15回 まとめ | |

途上国開発論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の内容にかかわる日常的姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

時々小課題の提出を求めます。努めて途上国に関する様々なテレビ番組を視聴してください。
英語の文章も少しは読むので、日頃から英語の勉強も怠りなりのないようしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

途上国の現実を知り、興味深い事象を探し、もっと足を踏み入れてほしい。

キーワード /Keywords

開発途上国、アマルティ・セン、環境問題、持続可能な開発 (SD)

福祉政策論 【昼】

担当者名 狭間 直樹 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会福祉サービスに関わる政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会福祉サービスの政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 社会福祉サービスが抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉政策論

PLC217M

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会福祉サービス（高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉サービスなど）の制度概要と政策動向を解説し、その日本の特質を考えます。政府体系（政治行政関係、中央地方関係、政府民間関係）や行政管理など行政学・政策科学の視点から、社会福祉サービスの現状と課題を考えます。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回、B4版のレジユメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「社会福祉の意味」
- 第2回 「社会福祉の行財政」 社会福祉の専門機関
- 第3回 「高齢者福祉と介護保険」 介護保険のしくみ、在宅・施設サービス
- 第4回 「高齢者福祉と介護保険」 介護サービスと民間企業
- 第5回 「高齢者福祉と介護保険」 自治体間の保険料格差
- 第6回 「高齢者福祉と介護保険」 介護は社会化されたか？
- 第7回 「児童福祉」 児童福祉のサービス
- 第8回 「児童福祉」 保育所改革（公立保育所民営化など）
- 第9回 「児童福祉」 男女共同参画をめぐる議論
- 第10回 「児童福祉」 児童虐待
- 第11回 「障害者福祉」 障害の定義
- 第12回 「障害者福祉」 障害者福祉のサービス
- 第13回 「障害者福祉」 障害者の雇用
- 第14回 「利用者保護制度」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・100%
毎回、出席をとります。欠席1回につき、期末試験得点から2点程度減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。
私語は厳しく注意します。

福祉政策論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

公共経営論【昼】

担当者名 狭間 直樹 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政府民間関係の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	公共サービスの民営化等の課題をふまえ、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	公共サービスの民営化などが抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共経営論

PA0212M

授業の概要 /Course Description

この講義では、公共経営（パブリック・マネジメント）という考え方をもとに、政府と民間の関係という視点から、様々な公共サービス分野の改革動向を学びます。公共サービスの民営化・民間委託を中心に、市場原理・企業の経営手法を取り入れた公共サービス改革の可能性と問題点を考えます。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回、B4版のレジユメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「新公共経営の理論」 NPM (New Public Management)
- 第2回 「新公共経営の理論」 能率と責任、政策手法
- 第3回 「教育編①図書館」 図書館のしくみ
- 第4回 「教育編②図書館」 指定管理者制度
- 第5回 「教育編③図書館」 PFI
- 第6回 「教育編④図書館」 PFIの問題点
- 第7回 「教育編⑤学校」 学校のしくみ
- 第8回 「教育編⑥学校」 学校選択制
- 第9回 「道路編①」 道路のしくみ
- 第10回 「道路編②」 道路公団民営化
- 第11回 「道路編③」 道路の必要性
- 第12回 「道路編④」 入札改革
- 第13回 「公共サービス従事者編①」 非正規職員
- 第14回 「公共サービス従事者編②」 特殊法人、天下りをめぐる議論
- 第15回 「まとめ」

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート・・・100%
毎回、出席をとります。欠席1回につき、期末レポート得点から2点程度減点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。
私語は厳しく注意します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

NPO論【昼】

担当者名 /Instructor 檀原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科
狭間 直樹 / 政策科学科, 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	NPOの理解に必要な基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	市民社会が抱える課題に対する自らの関心を高め、市民社会と政策・NPOとのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

NPO論

PLC114M

授業の概要 /Course Description

NPOという言葉は、今日いたるところで耳にすることと思います。しかしながら、NPOとは何かについて本当に理解しているかという点必ずしもそうとはいえないのではないのでしょうか。本講義の目的は、NPOとは何かについての基本的知識を提供することにあります。

本講義は、①4人の担当する講師による「講義」、②NPO関係者を招いての講演会（2人×6回程度予定）、③希望者によるNPO現場の視察、④社会貢献・奉仕プログラムなどから構成されます。また、本講義の受講者は、学部・学科等多様であることが予想されますので、なるべくわかりやすい説明および映像などを取り入れたものにしたいと考えています。

教科書 /Textbooks

早瀬昇・松原朗『NPOがわかるQ&A』（岩波書店、2004年）（変更する可能性がありますので学期が始まってからの指示に従ってください）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○檀原真二編集代表『北九州NPOハンドブック [第5版]』（2010年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入-講義のすすめかた、成績評価、自己紹介など
- 2回 NPOの基礎知識(1)
- 3回 第1回講演会
- 4回 NPOの基礎知識(2)
- 5回 第2回講演会
- 6回 福祉NPO(1)
- 7回 第3回講演会
- 8回 福祉NPO(2) -社会福祉法人
- 9回 第4回講演会
- 10回 環境NPO(1)
- 11回 第5回講演会
- 12回 環境NPO(2)
- 13回 第6回講演会
- 14回 NPOと政治(1)【利益団体】【政治過程と参加】
- 15回 NPOと政治(2)【アドボカシーの意義と課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度 ... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

それぞれの担当教員の指示にしたがって前もってテキストを読む等をして授業に参加してください。
教科書は変更する可能性もありますので第1回の講義には必ずご参加ください。また、本年は担当教員が4人のため、授業内容の変更等がありますのでご了解下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO、NGO、福祉NPO、アドボカシーNPO、ミッション、寄付

政策実務特講 【昼】

担当者名 /Instructor 永田 賢介 / NAGATA KENSUKE / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● NPOやソーシャル・ビジネス等に関する専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	● NPOやソーシャルビジネス等が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策実務特講

PLC220M

授業の概要 /Course Description

本授業では、社会の課題を創造的な事業とビジネスの手法によって解決し、変革と新しい社会をもたらす組織「ソーシャル・ベンチャー」と、その中心人物たる「社会起業家」を取り扱います。
一般的な営利のビジネスは金銭的な儲けや資本の増大を評価基準にしますが、ソーシャル・ベンチャーにおいて利益をあげる事はあくまで事業継続の手段でしかなく、どれだけ社会を変化させたかを価値とします。NPOが株式会社かなどといった法人形態も様々です。
社会起業家は、自分自身の「これはおかしい」「こうだったら良いのに」という経験や思いから当事者意識を持ち、望む社会の姿をイメージし、それを実現していきます。実際に大きなインパクトを発揮している海外・東京の事例、また福岡で活動するゲストを通じて、皆さんと一緒に学んでゆきます。
本授業内では学生の到達目標、また成績の評価基準として、知識の量や回答の優秀性よりも、「社会と自分のつながりを想像する力」「自分の意見を持ち言語化する力」の2点を重視します。

教科書 /Textbooks

岡田斗司夫 『「世界征服」は可能か?』 筑摩書房 2007年 ¥798
他、適宜プリント等を使用します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

渡辺奈々 『チェンジメーカー 社会起業家が世の中を変える』 日経BP社 2005年 ¥1,680
渡辺奈々 『社会起業家という仕事 チェンジメーカー2』 日経BP社 2007年 ¥1,680

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回:オリエンテーション / 社会起業家の概要と歴史
- 2回:ソーシャル・ベンチャーの収益構造類型
- 3回:ソーシャル・ベンチャーの事例(1)【福祉】
- 4回:ソーシャル・ベンチャーの事例(2)【国際協力】
- 5回:ソーシャル・ベンチャーの事例(3)【教育】
- 6回:「悪の秘密結社」に見るビジョンとミッション
- 7回:「世界征服」というイノベーション
- 8回:福岡の社会起業家ゲストスピーカーによる特別講義(1)【環境】
- 9回:福岡の社会起業家ゲストスピーカーによる特別講義(2)【国際協力】
- 10回:福岡の社会起業家ゲストスピーカーによる特別講義(3)【教育】
- 11回:誰にでもある起業家精神
- 12回:持ち寄り / 寄り合い型の経営とマネジメント
- 13回:市場と労働環境としてのソーシャル・ベンチャー
- 14回:寄附集めの意義と本質
- 15回:NPO法人アカツキの実践

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...60% 日常の授業への取り組み...40%

政策実務特講 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

自分の日常の中にある違和感と小さな気付き、「これはおかしい」や「こうだったら良いのに」と思うことにアンテナを張り巡らせ、「自分がアクションできる事はあるか?」と考えるクセをつけておいてください。
また社会に「必ず正しい答え」というものはありません。常識に縛られずに、自由に自分の意見を考えてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ソーシャル・ベンチャーで働く、また社会起業家と呼ばれるような人たちは、特別社会貢献意識が高かったり、特殊なカリスマや高いスキルを持っていたりするのでしょうか?数々の事例や文献によると、どうやらそうとも限らないようです。
自己犠牲的な善ではなく、自分の現在や将来の事を本気で考え、ワガママになればなるほど、見知らぬ他者や社会といった「公益」の領域にアプローチせざるを得なくなります。
気付き、動き出すことから、みなさんも一緒に「新しい社会」を考えていきましょう。

キーワード /Keywords

ソーシャル・ベンチャー 社会起業家 社会変革 起業家精神 NPO 寄附

政策実践特講 【昼】

担当者名 青木 将幸 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● ファシリテーション等のスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策実践特講

PLC221M

授業の概要 /Course Description

政策の形成過程をはじめ、教育、芸術、国際交流などの場面で注目を集めている「ファシリテーション」について、体験を通じて学ぶ。

教科書 /Textbooks

青木将幸著『市民の会議術 ミーティング・ファシリテーション入門』 ハンズオン埼玉出版部 2012年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

青木将幸著『アイスブレイク・ベスト50 リラックスと集中を一瞬でつくる』 ほんの森出版 2013年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ファシリテーションとは？
- 第2回 よい授業とは？ を考える
- 第3回 ファシリテーションの実際 場づくり
- 第4回 ファシリテーションの実際 場をひらく
- 第5回 ファシリテーションの実際 場を読む
- 第6回 ファシリテーションの実際 場を閉じる
- 第7回 ファシリテーションと政策との関連
- 第8回 ファシリテーションを体験する(1) 田の字法
- 第9回 ファシリテーションを体験する(2) グラデーション挙手
- 第10回 ファシリテーションを体験する(3) グループサイズ
- 第11回 ファシリテーションを体験する(4) 3cm投票
- 第12回 ファシリテーションを体験する(5) MM法、その他
- 第13回 ファシリテーションをやってみよう(1) イメージする
- 第14回 ファシリテーションをやってみよう(2) すずめる
- 第15回 ファシリテーションをやってみよう(3) ふりがえる

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の授業態度 50点 ファシリテーションをやってみよう(実習) 50点にて評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

遅刻はしないで下さい。途中入室を禁じます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3日間の集中講義です。聞いてばかりの一方的な講義ではなく、実践的に、みなさんの将来役立つ手法を体験を通して学びます。

キーワード /Keywords

ファシリテーション ワークショップ 参加型社会 市民参加

法学総論 【昼】

担当者名 /Instructor 山口 亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法学の理論的・基礎的な問題の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学総論

LAW100M

授業の概要 /Course Description

本講義は、これから法学部において広く法学を学んでいく上での基礎となる知識や考え方を身に付けることを目的とする総論科目である。
 1. 社会生活を営む上で、わたしたちは常に様々な「法」に接している。本講義は「法」というものが一体どのような形で存在し、運用されているか、またそれらはわたしたちの生活においていかなる意味を持っているのかについて理解を深めることを目指す。
 2. こうした学習を通じ、社会に対して常に意識的に関心を寄せて「法」をはじめとした情報を読み解き、みずからの考えをもとに判断する素養を得ることを目指す。これにより、自学自習を行う上でのトレーニングを行うと同時に、高年次の専門科目・演習の受講に向けた基礎体力を養う。

教科書 /Textbooks

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門[第4版]』（有斐閣・2005年）
 井上正仁・能見善久編『ポケット六法 平成26年版』（有斐閣・2013年）
 ※基本的にレジユメに沿って講義を行い、適宜教科書六法を参照する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

星野英一『法学入門』（有斐閣・2010年）(図書館蔵書：○)
 ※このほか、講義中に板書・レジユメ等で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ・ 第1回 ガイダンス
 - ・ 第2回 法とは何か（1）【法の存在形式】
 - ・ 第3回 法とは何か（2）【法と道徳】【法と正義】
 - ・ 第4回 法とは何か（3）【法と強制】【法の機能】
 - ・ 第5回 裁判と法（1）【裁判制度と裁判手続】
 - ・ 第6回 裁判と法（2）【法の解釈】
 - ・ 第7回 裁判と法（3）【国民の司法参加】
 - ・ 第8回 国家と法（1）【憲法とは何か】【近代憲法の原理】
 - ・ 第9回 国家と法（2）【日本国憲法の基本構造】
 - ・ 第10回 刑事法【刑法の基本原則】【犯罪と法】
 - ・ 第11回 民事法（1）【財産と法】【契約の主体と客体】
 - ・ 第12回 民事法（2）【家族関係と法】
 - ・ 第13回 資源配分と法【社会法】【経済法】【環境法】
 - ・ 第14回 国際社会と法【国際法の諸原則】
 - ・ 第15回 講義のまとめ
- ※ 進捗等の事情により、実施回・実施内容の調整を行う場合がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 以下の諸点を総合的に判断し、評価を行う。
1. 平常の学習状況（進行により、理解度を調べるためコメントカードを用いて小テストを行うことがある）（全体の30%）
 2. 講義全体の内容についての期末テスト（全体の70%）

法学総論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本シラバスや講義中に紹介した参考図書を読み解くとともに、新聞・雑誌・各種ニュースなどによって普段から意識的に「法」やそれを巡る社会の問題につきチェックする習慣を身につけられたい。

- ・ 受講のマナーを守るよう心がけること。場合によっては、減点の対象とする。
- ・ 質問・相談はオフィスアワー等で随時受け付ける。eメールで問い合わせる場合は、ウェブメール(Hotmailやgmail等)あるいは大学メールアカウント等を利用し、件名欄に用件を簡潔に明記すること(携帯キャリアのメールの利用はこちらからの返信の際にエラーが発生する可能性があるため、使用を控えること)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法社会学【昼】

担当者名 林田 幸広 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法社会学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法社会学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法社会学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法社会学

LAW211M

授業の概要 /Course Description

法社会学は、実定法解釈学とは異なる視角から、広い意味での法現象を観察・分析し、言語化する学問です。

みなさんが普段学んでいる法解釈学が、法システムの「内部」に関する学知だとするなら、

法社会学は、法システムをその「外部」から意味づけていく学知であるといえ、

法や規範が、社会の中で、いかなる意味を纏っているのかにつき、

多様なアプローチを用いつつ考察していくのが大きな特徴です。

「自明（＝当たり前）」と思っていたことでも、ちょっとだけ視点をずらせば、まったく違った見え方になる—こういった経験は、多少なりとも、みなさんお持ちではないでしょうか。それと同じように、法社会学というメガネを通して眺めてみれば、日々の現実が、実は、さまざまな仕組みの複雑な関係の上に成立していることが見えてきます。本講義を通じて、まずはこの「自明性を相対化する思考」を実感していただければと思います。

でもそれは、社会の裏側を知るためでも黒幕（！）を暴くためでもありません。ましてや、他人を批判・非難するためのもでもありません。わたしたちの社会のなかで生じる現象は、どんな些細なことであれ、決して一枚岩ではないことを知ること、そして現実への単純な意味づけを求めてしまいがちな自分自身の感性をリフレクシヴに高めていくこと、さらにそうした現実に応答しうるための柔軟な思考を磨くこと、これらをみなさんが日々主体的に実践していくことをいくらかでもお手伝いできれば、本講義の目的の大半は達成されたことになります。

もし私たちの社会が単純明快に見えるとすれば（ちなみに「実は裏で〇×が糸を引いている！」類の陰謀観もまた、ある意味究極の明快さ＝単純さを持ってますよね）、それを自明視させている「仕掛け」こそが問われるべきでしょうし、ひょっとしてそれは観察者自身のメガネが曇っているからなのかもしれません。

目先の効用・有効性とは距離をとった地点から、法的・社会的現象を理論的に思考する。「何でそんなことを考える必要があるのか」「決まりきっているではないか」という地点を「あえて」踏み越え / 追い込み考えてみる。そんな知的 / 時間的余裕をもてることこそ「大学生の特権」だとすれば、本講義はまさにその「特権」を最大限に行使してゆく、ということになるでしょうか。このように、講義のねらいはいささか抽象的です。少なくとも、定型の正しい情報の教授 / 暗記を期待する向きにはそぐわないと思います。ポイントは、講義を聴き終えた時に「多様で柔軟な思考」のノリや勘どころをどのくらい「実感」できるか—ですが最終的には、それはみなさん方一人ひとりの日常「実践」にかかっています。

受講生には、こうした法社会学的思考の多元性やその意義を理解してもらい、それを以って法解釈学的な知見を豊饒化してもらおうとともに、日々の生活の中での問題発見・問題構築の力を養っていくことを望んでいます。

教科書 /Textbooks

江口厚仁 / 林田幸広 / 吉岡剛彦編、『圏外からの法 / 理論』、ナカニシヤ出版、2012年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

法社会学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(講義の進め方等についての説明)
- 2回 法社会学的観察とは何か(1)【法システムの「内部」と「外部」】という視点
- 3回 法社会学的観察とは何か(2)【法社会学的アプローチの多元性】
- 4回 法社会学的観察とは何か(3)【法社会学の学問的出自と歴史的系譜】
- 5回 フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽(1)【フリーライダー問題の「かたち」】
- 6回 フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽(2)【「正解」の出ない社会問題への対処】
- 7回 フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽(3)【ゲーム理論】を援用した対処とその問題
- 8回 日本型法化論を考える(1)【近代法】から【現代法】へ
- 9回 日本型法化論を考える(2)【米系の法化論】
- 10回 日本型法化論を考える(3)【独系の法化論】
- 11回 法の領分を考える(1)【命日払い判決】の位置価
- 12回 法の領分を考える(2)【自省的法】における主体性と従属性
- 13回 法の領分を考える(3)【アーキテクチャ】規制と法規制
- 14回 法の領分を考える(4)【公共空間】と法
- 15回 近代法主体像の臨界【たばこ病訴訟】にみる近代法主体像の臨界

成績評価の方法 /Assessment Method

論述式の定期試験(70%)と毎講義ごとのレスポンスペーパー(30%)により評価します(より詳しくは初回講義時に説明します)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ テキストの該当箇所を事前に通読したうえで講義に臨んでください。
 - ・ 抽象的・論理的思考を厭わないでください。いつけん「あたりまえなこと」を前に、それが「なぜ/いかにして」あたりまえになっているかを、折に触れて考えるようにしてください。
- 初回の講義において、講義の運営方法や法社会学という学問分野の「ノリ」の一端を紹介しますので、お聞き逃しの無いように願います。そのうえで、あなた自身が本講義にどのように取り組んでいくのかにつき、自己決定してください。なお、補助資料(プリント)を配布することがありますが、再配布はいたしませんので、その都度の配布時に受けとるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、法学の隣接科目に興味があり抽象思考を厭わない方々を歓迎します。また、(授業)理解と(情報)暗記を同一視される向きには全くそぐいません(蛇足ながら、この点前もってつよくお伝えしておきます)。正解を憶えるのではなく、アレコレ考えてゆくことにやぶさかでない方、いっしょに「頭の柔軟体操」をしましょう。

キーワード /Keywords

法思想史【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法思想史の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法思想史上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	社会が抱える諸問題に対する自らの関心を高め、様々な法思想の歴史を学ぶことにより、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法思想史

LAW210M

授業の概要 /Course Description

本講義では、古代から中世、近代を経て現代に至る西洋法思想の伝統をたどることにより、法と正義をめぐる基礎的な視座を探究する。具体的には、「自然法論と法実証主義」という伝統的な法思想上の思考枠組や現代正義論との関連などを意識しながら、各時代の代表的な法思想家の説をとりあげ検討することによって、その探究のための手掛かりを得ることとする。各時代の代表的な法思想との対比によって、現代に生きるわれわれが有している法的思考様式の特徴を捉えたうえでそれを相対化することもまた、可能となってくるであろう。

教科書 /Textbooks

○竹下賢・角田猛之・市原靖久・桜井徹編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010年）、2800円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 深田三徳、濱真一郎編『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007年）
- 田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史[第2版]』（有斐閣、1997年）
- 中山竜一『二十世紀の法思想』（岩波書店、2000年）
- 三島淑臣『法思想史[新版]』（青林書院、1993年）
- F・ハフト『正義の女神の秤から』（木鐸社、1995年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 法思想史とは
- 第2回 法思想史とは(続) ~ 「法典論争」など
- 第3回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想① ~ J・ロックの自然権論
- 第4回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想② ~ 近代的自然法論
- 第5回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想③ ~ 古典的自然法論(トマス・アクィナスなど)
- 第6回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想④ ~ ケルゼンの純粹法学
- 第7回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想⑤ ~ ハートの法の概念
- 第8回 法と正義① J・ロールズの正義論 ~ 功利主義批判の関連から
- 第9回 法と正義② J・ロールズの正義論 ~ 正義の二原理
- 第10回 法と正義③ R・ノージックのリバタリアニズム ~ J・ロールズとの関連から
- 第11回 法と正義④ R・ノージックのリバタリアニズム ~ J・ロックとの関連から
- 第12回 法と正義⑤ R・ドゥオーキンの権利論
- 第13回 法と正義⑥ 現代正義論の前史
- 第14回 法と正義⑦ 共同体主義 ~ アリストテレスとの関連から
- 第15回 法思想史のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義前には、テキストの該当箇所を読み、講義後には各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、理解すること。
「現代正義論」を1年次に受講していれば、より理解しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然法論 法実証主義 正義論

日本国憲法原論【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法全体の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法学的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える憲法に関わる諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本国憲法原論

LAW120M

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのてがかりにしていきたい。講義全体のキーワードは【立憲主義】と【民主主義】である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室（全訂第2版）』（日本評論社・2006年）
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法（第5版）』（岩波書店・2011年）
- 長谷部恭男『憲法（第5版）』（新世社・2011年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法の意義
- 第2回 憲法の展開
- 第3回 人権論① 【人権保障と人権制約】
- 第4回 人権論② 【幸福追求権・平等原則】
- 第5回 人権論③ 【精神的自由の保障】
- 第6回 人権論④ 【社会権保障の課題】
- 第7回 統治機構論① 【国民主権・権力分立】
- 第8回 統治機構論② 【日本の選挙制度】
- 第9回 平和主義論① 【憲法9条の制定・意義】
- 第10回 平和主義論② 【平和主義の現実と未来】
- 第11回 平和主義論③ 【憲法9条と裁判所】
- 第12回 地方自治 【新しい地方自治の姿と課題】
- 第13回 憲法保障 【憲法保障・憲法改正・憲法変遷】
- 第14回 日本憲法史 【大日本帝国憲法の興亡】
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

昨年度までに植木担当の「憲法人権論」を履修されている方は、夜間開講の「日本国憲法原論」の履修をお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法人権論【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法学における人権分野の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える人権に関する諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法人権論

LAW220M

授業の概要 /Course Description

憲法学の中の、人権論と呼ばれる領域を学ぶ。
人権という概念をめぐる思想史、体系論などの総論を踏まえた上で、類型化された憲法上の権利の検討へと進んでいく。特に原理論的考察を重視する。
それらを通じて、人権が憲法上の権利として保障されていることの意義、具体的適用のあり方、社会における問題状況等への理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

安藤高行編『エッセンス憲法』（法律文化社、2012年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 野中俊彦ほか『憲法I 第5版』『憲法II 第5版』（有斐閣、2012年）
- 芦部信喜『憲法（第5版）』（岩波書店、2011年）
- 長谷部恭男『憲法（第5版）』（新世社、2011年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人権思想史-人権と憲法上の権利
- 第2回 憲法上の権利の類型
- 第3回 権利の享有主体
- 第4回 制約原理-公共の福祉
- 第5回 幸福追求権
- 第6回 平等権
- 第7回 思想・良心の自由と表現の自由①
- 第8回 思想・良心の自由と表現の自由②
- 第9回 信教の自由①
- 第10回 信教の自由②-政教分離原則
- 第11回 職業選択の自由と財産権
- 第12回 受益権
- 第13回 社会権①
- 第14回 社会権②
- 第15回 参政権

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による（100％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書を指定しているので、次回講義の該当箇所を事前に読んでおくことが望ましい。

憲法人権論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基本的人権 憲法上の権利

憲法機構論 【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法学における統治機構分野の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代政治における諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法機構論

LAW221M

授業の概要 /Course Description

日本国憲法が規定する、国家の統治権行使の仕組み、すなわち統治機構について概説する。国民主権、民主主義、権力分立といった基本概念を把握した上で、国会、内閣、裁判所、地方自治など統治機構の全体構造や相互関係を理解することを目指す。
また、現実の政治動向などへの関心も喚起するような内容としたい。

教科書 /Textbooks

安藤高行編『エッセンス憲法』（法律文化社、2012年）
適宜、資料を配付する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 芦部信喜『憲法（第5版）』（岩波書店、2011年）
- 長谷部恭男『憲法（第5版）』（新世社、2011年）
- 安念潤司編著『論点日本国憲法』（東京法令、2010年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 総論 -全体の導入
- 第2回 国民主権と民主主義
- 第3回 象徴天皇制
- 第4回 内閣(国の行政組織)① -内閣と行政権
- 第5回 内閣(国の行政組織)② -議院内閣制
- 第6回 内閣(国の行政組織)③ -内閣と行政各部
- 第7回 内閣(国の行政組織)④ -内閣の運営と責任
- 第8回 国会① -国会の地位
- 第9回 国会② -衆議院と参議院
- 第10回 国会③ -国会の活動
- 第11回 国会④ -国会議員
- 第12回 国会⑤ -政党と会派
- 第13回 裁判所① -司法権と裁判所
- 第14回 裁判所② -違憲審査制
- 第15回 地方自治

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

憲法機構論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国民主権 民主主義 権力分立 国会 内閣 裁判所 地方自治

憲法訴訟論 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法訴訟の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法学的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える憲法訴訟に関わる諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法訴訟論

LAW320M

授業の概要 /Course Description

日本国憲法81条は、裁判所が特に国家による行為の合憲性を審査する違憲審査制の存在を規定している。しかし、我が国における違憲審査は、刑事・民事・行政の具体的な事件に付随して行われることとされているため、いわゆる「憲法訴訟」に関する理解・運用のためには訴訟法的な角度からの検討を行うことが必須となる。そのため、本講義は、特に「憲法人権論」で学習した内容を基盤にしたうえで、日本の憲法訴訟を実体法と訴訟法の両面から考察するものである。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○長谷部恭男他編『憲法判例百選I・II(第6版)』(有斐閣・2013年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法訴訟論総論① - 憲法訴訟の意義 / 司法権の範囲と限界
- 第2回 憲法訴訟論総論② - 違憲審査制
- 第3回 憲法訴訟論総論③ - 憲法判断の方法
- 第4回 刑事訴訟における憲法判断① - 法令・適用の合憲性
- 第5回 刑事訴訟における憲法判断② - 憲法適合的な法令解釈
- 第6回 刑事訴訟における憲法判断③ - 裁判制度・捜査公判手続の違憲性
- 第7回 民事訴訟における憲法判断① - 民事実体法・手続法の違憲性
- 第8回 民事訴訟における憲法判断② - 法律行為・事実行為に関する憲法判断
- 第9回 行政訴訟における憲法判断① - 抗告訴訟の訴訟要件
- 第10回 行政訴訟における憲法判断② - 抗告訴訟における法令審査
- 第11回 行政訴訟における憲法判断③ - 抗告訴訟における裁量審査
- 第12回 行政訴訟における憲法判断④ - 客観訴訟における憲法判断
- 第13回 国賠請求訴訟における憲法判断① - 公務員の加害行為の違法性
- 第14回 国賠請求訴訟における憲法判断② - 立法行為の国賠法上の違法性
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本講義は「応用科目」であり、特に「憲法人権論」に関する知識・理解が前提となって講義が進行します。そのため、本講義では受講者に対して一定程度の予習(「憲法人権論」の復習)を求めます。具体的に必要な予習範囲に関しては講義内で適宜アナウンスいたします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法総論【昼】

担当者名 福重 さと子 / SATOKO FUKUSHIGE / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	行政法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える行政法学上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法総論

LAW121M

授業の概要 /Course Description

〈授業の概要〉

行政法は、国や地方公共団体など、公益を実現する機関がいかなる活動をしうかの限界を明らかにする学問です。行政法総論では、様々な問題の検討を通して、この目的のために考慮すべき基本的な事柄が何であるかを学びます。

この授業の主な到達目標は、以下の通り。

- ①いくつかの行政法の基礎的な概念を理解し、説明することができる。
- ②習得した知識を用いて事案を検討することができる。
- ③行政法学の基本的な関心事である個人の自由の保障の必要性を理解する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

宇賀克也ほか編『行政判例百選Ⅰ(第6版)』(有斐閣)定価2,400円
 宇賀克也ほか編『行政判例百選Ⅱ(第6版)』(有斐閣)定価2,400円
 原田尚彦『行政法要論(全訂第7版補訂2版)』(学陽書房)定価3,465円
 石川敏行ほか『はじめての行政法(第2版)』(有斐閣)
 藤田宙靖『行政法入門(第5版)』(有斐閣)
 櫻井敬子=橋本博之『行政法(第3版)』(弘文堂)
 塩野宏『行政法Ⅰ(第5版)』(有斐閣)
 芝池義一『行政法読本(第2版)』(有斐閣)
 宇賀克也『行政法概説Ⅰ(第4版)』(有斐閣)
 藤田宙靖『行政法Ⅰ総論(第4版)』(青林書院)

行政法総論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、行政法の基礎概念
 - 第2回 行政の役割
 - 第3回 規制の方法（1）事前規制
 - 第4回 許可と特許
 - 第5回 規制の方法（2）事後規制
 - 第6回 経過規定
 - 第7回 法の種類
 - 第8回 行政組織法概論（1）- 総説、国の行政組織
 - 第9回 行政組織法概論（2）- 地方公共団体の行政組織
 - 第10回 行政の裁量（1）根拠
 - 第11回 行政の裁量（2）裁量統制の技術
 - 第12回 行政の裁量（3）裁量基準
 - 第13回 取消しと撤回
 - 第14回 行政手続（1）基礎理論
 - 第15回 行政手続（2）行政手続法
 - 第16回 行政上の義務履行確保（1）- 概論
 - 第17回 行政上の義務履行確保（2）- 具体的検討
 - 第18回 行政指導の意義
 - 第19回 行政指導の実効性確保
 - 第20回 信頼の保護
 - 第21回 行政立法
 - 第22回 委任立法の限界
 - 第23回 補助金の交付
 - 第24回 行政手続による第三者の保護
 - 第25回 情報公開
 - 第26回 法律の留保
 - 第27回 行政行為の概念と特別な訴訟手続
 - 第28回 取消訴訟と国家賠償法
 - 第29回 無効の行政行為
 - 第30回 行政行為の効力
- ※ただし、授業の進度によって、各回の内容を変更することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法、行政法総論、行政手続法

行政争訟法 【昼】

担当者名 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 行政争訟法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える行政争訟法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政争訟法

LAW222M

授業の概要 /Course Description

行政活動に対する不服や不満を解決する手続としての行政上の不服申立ておよび違法な行政活動の是正と救済を求める手続としての行政訴訟について理解することをねらいとする。
授業では、行政上の不服申立ておよび行政訴訟について基本的知識を体系的に理解すること、問題発見・分析と解決方法についての基礎的能力を養い、社会における問題について法的な観点からの関心を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

手島孝・中川義朗編『新基本行政法学』（2011年、法律文化社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小早川光郎ほか編『行政判例百選II（第6版）』（2012年、有斐閣）
- 塩野宏『行政法II（第五版補訂版）』（2013年、有斐閣）
- 宇賀克也『行政法概説II（4版）』（2013年、有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 行政上の不服申立て制度の概要
- 第 2 回 不服申立ての提起
- 第 3 回 不服申立ての審理
- 第 4 回 不服申立ての裁決
- 第 5 回 行政訴訟総説
- 第 6 回 行政事件の種類
- 第 7 回 抗告訴訟(1) 抗告訴訟の種類
- 第 8 回 抗告訴訟(2) 取消訴訟の訴訟要件
- 第 9 回 抗告訴訟(3) 取消訴訟の審理
- 第 10 回 抗告訴訟(4) その他の抗告訴訟
- 第 11 回 抗告訴訟(5) 判決と仮の救済
- 第 12 回 当事者訴訟
- 第 13 回 民衆訴訟
- 第 14 回 機関訴訟
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 80% 課題 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

行政争訟法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

当然ながら予習・復習が必要である。
(復習のための課題提出を求める。)
行政法総論を履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法犯罪論【昼】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑法総論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における犯罪の成否に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法犯罪論

LAW130M

授業の概要 /Course Description

刑法総論の基本的概念を理解し、重要問題を考察するとともに、体系的思考力・法学的な思考力を身につけることを目的とする。講義全体のキーワードは、体系的思考力・刑法的思考力を身につけるということである。

教科書 /Textbooks

山中敬一著『刑法概説[総論]』（成文堂）2008年10月、2500円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ジュリスト別冊芝原・西田・山口編『刑法判例百選[総論 [第5版] 』（有斐閣）平成15年4月、2105円＋税

立石二六編『刑法総論30講』（成文堂）平成19年3月（出版予定）、2800円＋税

齊藤誠二編『演習ノート刑法総論（全訂第3版）』（法学書院）平成15年3月

船山・清水・中村編『ケースメソッド刑法総論』（不磨書房）平成15年3月、2000円＋税

刑法犯罪論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】内はキーワード
- 第1回 刑法典の沿革【公事方御定書から現行刑法典の歴史】
 - 第2回 犯罪とは？【犯罪の意義・意味】
 - 第3回 刑法学派の争い①【主観主義刑法理論】
 - 第4回 刑法学派の争い②【客観主義刑法理論】
 - 第5回 罪刑法定主義とその派生原則①【類推解釈】【遡及処罰の禁止】【慣習法の排斥】【絶対的不定期刑・不定期刑の禁止】
 - 第6回 罪刑法定主義とその派生原則②【構成要件の明確性】【実体的デュープロセス】
 - 第7回 犯罪の分類【結果犯】【挙動犯】【実質犯】【形式犯】【侵害犯】【危険犯】【即成犯】【状態犯】【継続犯】
 - 第8回 犯罪論の体系【行為】【構成要件】【違法】【責任】
 - 第9回 行為論①【作為】【不作為】【作為犯】【不作為犯】【不真正不作為犯】
 - 第10回 行為論②【不真正不作為犯】【作為義務】
 - 第11回 構成要件論①【構成要件の概念】
 - 第12回 構成要件論②【認識根拠説】【实在根拠説】
 - 第13回 違法論①【違法の本質】【主観的違法性説】【客観的違法性説】
 - 第14回 違法論②【結果無価値】【行為無価値】【可罰的違法性】【社会的相当性】【許可された危険】
 - 第15回 違法性阻却事由①【正当行為】【正当防衛】【対物防衛】【過剰防衛】【挑発防衛】【誤想防衛】
 - 第16回 違法性阻却事由②【緊急避難】【過剰避難】【攻撃的緊急避難】【防御的緊急避難】
 - 第17回 違法性阻却事由③【自救行為】【被害者の承諾】
 - 第18回 責任論①【責任能力】【原因において自由な行為】
 - 第19回 責任論②【故意】【過失】
 - 第20回 責任論③【錯誤】【事実の錯誤】【法律の錯誤・違法性の錯誤】
 - 第21回 未遂論①【実行の着手】【離隔犯】【間接正犯】【原因において自由な行為】
 - 第22回 未遂論②【不能犯】【中止犯】
 - 第23回 共犯論①【共犯学説】【共犯の処罰根拠】
 - 第24回 共犯論②【共同正犯】【共謀共同正犯】【教唆犯】【従犯】
 - 第25回 共犯論③【共犯独立性】【共犯従属性】【間接正犯】
 - 第26回 共犯論④【共犯と身分】【構成的身分】【加減的身分】
 - 第27回 共犯の諸問題①【承継的共犯】【片面的共犯】【必要的共犯】
 - 第28回 共犯の諸問題②【不作為と共犯】【結果的加重犯と共犯】【共犯と錯誤】
 - 第29回 共犯の諸問題③【共犯と中止犯】【予備の共犯】
 - 第30回 罪数論【本来の一罪】【科刑上一罪】【包括一罪】【併合罪】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験（学期末試験100％）で評価する。授業態度が悪い場合、減点の対象とする場合がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

他の科目との関連：法学、刑法犯罪各論、刑事訴訟法を履修すると本講座の学習が効率的になります。法学はすべての法律学を学習する上で基本になる科目ですし、また、刑法犯罪各論、刑事訴訟法は同じ刑事法に属する科目ですから、強く関連しているからです。法学は本講座を履修する前に、刑法犯罪各論、刑事訴訟法は本講座を履修した後かまたは同時に履修するとよいでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教科書のみならず、種々の参考文献を読んで、予習・復習することが必要です。判例は、自分で読んでおきましょう。

キーワード /Keywords

社会法総論 【昼】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会法の基本的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える社会法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会法総論

LAW140M

授業の概要 /Course Description

私たちが生きていくためには、「社会」との関係は切り離すことはできない。「社会」という概念は広範にわたるものであるため、「社会法」というと、法と呼ばれるもの全部が社会法ということもできるかもしれない。しかし、法学分野で「社会法」と捉えられているものは、主として労働法及び社会保障法である。本講義では、2年次生から専門的に学ぶことになるこれら2領域の基本的な問題について理解を深める。一般に「社会人」と呼ばれる人々はどういう人々だろうか？皆さんは「学生」で「社会人」とは呼ばれない（むしろ、中には「社会人」の方々もおられるが）。つまり、一般には、「社会人」とは、働いている＝労働している人々を指していると考えられる。この講義では、雇用労働に就いた労働者の職業活動をめぐる様々な問題（労働法領域）や、我々が生活を送っていく上で遭遇する諸問題（社会保障法領域）に対し、法がどのように関わっていくのかについて、できる限り具体的な例を提示しながら理解を深める。

教科書 /Textbooks

使用しない。適宜レジュメを配布し、これに従って進行する。
ただし、法律科目であるので、講義中（試験も含め）関係する法律の条文を引くことになるため、関係諸法律が掲載されている六法を用意してもらうことになる。詳細は、初回講義時に説明するので、受講者は必ず出席すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。必要に応じ、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

労働法、社会保障法領域における基礎的な知識の修得を目的とする。具体的には、雇用労働の場において労働者と使用者との間を規律するルールにはどのようなものがあるのか、それはどのような考え方に基づくものであるのか、労働と緊密な関係にある各種社会保険制度（特に労働保険領域）では、労働者の生活を守るためにどのような仕組みが作られているのか、そこではどのような個別具体的な問題が生じているのか、などについて講義する。

おおよその予定は以下の通りであるが、受講生の反応・希望により変更する可能性もある。

- 第1回 イントロダクション～「社会法」とは？
- 第2回 労働法の世界①～労働法の主要アクターと労働条件の決定
- 第3回 労働法の世界②～採用プロセスの規制と平等原則【採用内定】【試用】
- 第4回 労働法の世界③～賃金・労働時間の規制
- 第5回 労働法の世界④～休憩・休日等の規制【時間外労働】【三六協定】
- 第6回 労働法の世界⑤～休業等の規制【年次有給休暇】
- 第7回 労働法の世界⑥～解雇に関する規制【解雇権濫用法理】
- 第8回 社会保障法の世界①～労災保険って？
- 第9回 社会保障法の世界②～業務災害【業務起因性】、通勤災害
- 第10回 社会保障法の世界③～労災を起こした使用者の責任【労災民訴】
- 第11回 社会保障法の世界④～雇用保険って？
- 第12回 社会保障法の世界⑤～基本手当①【支給要件】
- 第13回 社会保障法の世界⑥～基本手当②【給付内容】
- 第14回 労働法・社会保障法領域における近年の動向
- 第15回 まとめ

社会法総論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として期末試験により評価する。
* 期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この講義を受講した後、「雇用関係法」「労使関係法」「社会サービス法」「所得保障法」の講義を受講すると、社会法領域の知識をまんべんなく修得できる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会サービス法【昼】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会サービス法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える社会サービス法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会サービス法

LAW242M

授業の概要 /Course Description

「社会サービス法」に関する諸制度は、法分野としては「社会保障法」の一部をなすものであるが、日本には、「社会保障法」という名称の単独立法は存在しない。そのため、個々の制度をどのように分類するかについての統一的な分類方法・基準はないのが現状である。

本講義では、「社会保障法」と捉えられる分野の中で、「社会サービス法」という枠組みとして、主に、医療、社会福祉サービスに関する基本的な構造を理解し、そこで露呈する理論的な諸問題について「法的」視点からの概観・検討を行う。

近年、社会保障関連法は、社会構造の変化、人口構成の変動などにより、大きな転換期を迎えている。「社会サービス法」領域においても、障害者自立支援法の改正（障害者総合支援法）や介護保険との統合問題、福祉領域における契約制度導入による危険負担の変化など、制度の根本的改革が行われたことによる問題も多く出現してきており、また、医療保障をめくっても増大する国民医療費の負担に各制度がどのように対応すべきであるのかなど積み残された課題も多い。

本講義では、まず第一に、各制度を概観し仕組みを理解することが必要であるが、制度自体を知ることが目的ではなく、その知識を前提に具体的な法的紛争が生じた場合に「法」はどのように対処することになるのかを知ることに主眼がある。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず配布レジュメで進行予定。

ただし、社会保障関連法が掲載されている六法を使用する（初回講義時に指示するので必ず出席すること）。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義の進行計画としては、おおよそ以下のように予定しているが、受講者の理解・反応等を見ながら進度を調整することもある。

- 第1回 インTRODクション～「社会サービス法」とは？
- 第2回 医療保障① ～医療供給体制～
- 第3回 医療保障② ～医療保険の保険関係（保険者・被保険者）～
- 第4回 医療保障③ ～保険医療の仕組み～
- 第5回 医療保障④ ～医療保険の保険給付①～
- 第6回 医療保障⑤ ～医療保険の財政①～
- 第7回 医療保障⑥ ～医療保険の財政②、高齢者医療～
- 第8回 社会福祉① ～社会福祉の法体系とその展開～
- 第9回 社会福祉② ～社会福祉の給付方式～
- 第10回 社会福祉③ ～サービス利用の法律関係～
- 第11回 社会福祉④ ～福祉サービスの提供体制～
- 第12回 社会福祉⑤ ～権利擁護システム～
- 第13回 社会福祉⑥ ～不服申立制度～
- 第14回 質問事項に対する講義（医療・福祉）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、期末試験の成績のみで評価する（期末試験...100%）。

社会サービス法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 「社会保障法」としての体系的な理解をするためには、「所得保障法」との同時受講が望ましい。
- ・ 応用科目としての性格が非常に強いので、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「行政法総論」「憲法人権論」などの基礎科目（憲法・民法・行政法領域）を履修していることが望ましい。特に他学部生にとってはより高度な内容になると考えられるので、上記基礎科目等を履修していることが一層望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

所得保障法 【昼】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	所得保障法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える所得保障法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

所得保障法

LAW243M

授業の概要 /Course Description

「所得保障法」に関する諸制度は、法分野としては「社会保障法」に属するものであるが、日本には、「社会保障法」という名称の単独立法は存在しない。そのため、これら各制度をどのように分類するかについての統一的な分類方法・基準はないのが現状である。

本講義では、「社会保障法」と捉えられる分野の中で、「所得保障法」という枠組みとして、年金、公的扶助（生活保護）等についての基本的な構造理解、「法的」諸問題の概観・検討を行う。

近年、社会保障関連法は、社会構造の変化、人口構成の変動などにより、大きな転換期を迎えている。「所得保障法」領域においても、年金制度の統合問題や財政負担問題等についての検討も行なわれているし、芸能ニュースでも話題になった生活保護の不正受給や保護基準の問題なども議論となっている。

本講義では、単なる制度の概観だけにとどまらず、「法的」角度からの社会保障への理解を深める。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず配布レジюмеで進行予定。

ただし、社会保障関連法が掲載されている六法を使用する（初回講義時に指示するので必ず出席すること）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

大まかには以下のような予定で進行するが、受講者の反応や希望等により前後・変更することもある。

第1回 インTRODクシヨン～「所得保障法」とは？

第2回 年金保険① ～公的年金保険の構造～

第3回 年金保険② ～公的年金保険の保険関係～

第4回 年金保険③ ～公的年金保険の保険給付①（老齢給付・障害給付）～

第5回 年金保険④ ～公的年金保険の保険給付②（遺族給付）～

第6回 年金保険⑤ ～公的年金保険の保険給付③（年金給付の調整・離婚分割）～

第7回 年金保険⑥ ～公的年金保険の財政及び不服申立～

第8回 年金保険⑦ ～公的年金制度と私的年金制度～

第9回 公的扶助① ～我が国における公的扶助制度、生活保護制度の基本原則①（生保1・2条）～

第10回 公的扶助② ～生活保護制度の基本原則②（生保4条）～

第11回 公的扶助③ ～生活保護実施に関する4つの原則～

第12回 公的扶助④ ～保護の種類と方法～

第13回 公的扶助⑤ ～保護の実施機関とプロセス～

第14回 公的扶助⑥ ～不服申立制度～

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として期末試験のみで評価する（期末試験...100％）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

所得保障法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 「社会保障法」としての一体的な理解のためには、「社会サービス法」との同時受講が望ましい。
- ・ 応用科目としての性格が強いため、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「行政法総論」「憲法人権論」などの基礎科目（憲法・民法・行政法領域）を履修していることが望ましい。特に他学部生にとってはより高度な内容になると考えられるので、上記基礎科目等を履修していることが一層望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

雇用関係法 【昼】

担当者名 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 雇用関係法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 雇用関係法と社会のつながりを確認し、雇用関係法をめぐる現代的な諸問題に対する関心を高める。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

雇用関係法

LAW240M

授業の概要 /Course Description

労働法の体系は、一般的には、個別的労働関係法（雇用関係法）、集団的労働関係法（労使関係法）、労働市場法の三つの分野に区分して理解されます。本講義は、以上のうち、個別的労働関係法に焦点を当てます。個別的労働関係法は、労働組合（労働者集団）と使用者の関係を規制する集団的労働関係法と異なり、労働契約の成立、展開、終了にかかわる個別の労働者と使用者の関係を規制するものです。本講義の目的は、多くの人が企業社会の中で遭遇するであろう具体的な問題を通じて、労働基準法や労働契約法をはじめとした個別的労働関係法の基本事項に関する知識を身に付けること、個別的労働関係における現代的諸課題に関する基本的な分析の視点を養うこと、これらを通じて雇用社会に対する関心を高めること、にあります。

教科書 /Textbooks

石橋洋・古川陽二・唐津博・有田謙司編『ニューレクチャー労働法』（成文堂、2012年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○菅野和夫『労働法 第10版』（弘文堂、2012年）
土田道夫『労働法概説 第2版』（弘文堂、2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「就労」の意義と労働法の役割
- 2回 労働契約関係の成立
- 3回 労働条件決定の法的仕組み
- 4回 労働時間規制
- 5回 休暇、休日、休業
- 6回 健康と安全
- 7回 懲戒処分
- 8回 人事異動
- 9回 労働条件の変更
- 10回 労働契約の終了
- 11回 期間の意義と定年制
- 12回 労働者派遣の法規制
- 13回 雇用差別禁止法
- 14回 企業組織の変動と労働関係
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験（100％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

雇用関係法【昼】

履修上の注意 /Remarks

教科書は必ず購入して下さい。労使関係法でも同じ教科書を使用します。当たり前のことですが、講義中の私語は厳禁です。
レジュメは学習支援フォルダにアップします。各自で印刷して授業に持参するようにして下さい。
労使関係法とセットで履修することが望ましいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仕事は、多くの人にかかわる活動です。将来、どのように働きたいか、日本人にはどのような働き方があっているかを考えて講義に臨んでいただきたいと思います。

キーワード /Keywords

労使関係法 【昼】

担当者名 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 労使関係法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 労使関係法と社会のつながりを確認し、労使関係法をめぐる現代的な諸問題に対する関心を高める。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労使関係法

LAW241M

授業の概要 /Course Description

労働法の体系は、一般的には、個別的労働関係法（雇用関係法）、集団的労働関係法（労使関係法）、労働市場法の三つの分野に区分して理解されます。本講義は、以上のうち、集団的労働関係法に焦点を当てます。集団的労働関係法は、労働組合と使用者の関係を規律する労働組合法を中心とするものですが、労働組合の組織率の低下により、そのあり方が問われています。本講義の目的は、多くの人が企業社会の中で遭遇するであろう具体的な問題を通じて、労働組合法を中心とする集団的労働関係法の基本事項を身に付けるとともに、集団的労働関係法の将来像を模索することを通じて、雇用社会への関心を高めるところにあります。

教科書 /Textbooks

石橋洋・古川陽二・唐津博・有田謙司編『ニューレクチャー労働法』（成文堂、2012年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○菅野和夫『労働法 第10版』（弘文堂、2012年）
土田道夫『労働法概説 第2版』（弘文堂、2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 労使関係法の意義と目的
- 2回 労働組合の歴史と機能
- 3回 団体交渉の仕組みとその主体
- 4回 団体交渉の目的と態様
- 5回 争議行為
- 6回 組合活動
- 7回 労働協約
- 8回 不当労働行為制度（1）【不利益取扱いと支配介入】
- 9回 不当労働行為制度（2）【制度の趣旨とその主体】
- 10回 労働組合による労働者の統制
- 11回 労働組合の衰退と合同労組
- 12回 公共部門の労使関係法
- 13回 従業員代表制度
- 14回 労使関係法の将来
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験（100％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書は必ず購入して下さい。雇用関係法でも同じ教科書を使用します。当たり前のことですが、講義中の私語は厳禁です。レジュメは学習支援フォルダにアップします。各自で印刷して講義に持参するようにして下さい。雇用関係法とセットで履修することが望ましいです。

労使関係法 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仕事は、多くの人にかかわる活動です。将来、どのように働きたいか、日本人にはどのような働き方があっているかを考えて講義に臨んでいただきたいと思います。

キーワード /Keywords

国際法I【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法 I

LAW250M

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。

教科書 /Textbooks

杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、2009年） 1500円＋税
講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 横田洋三編『国際法入門（第2版）』（有斐閣・2005）○
参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際社会における法律作り，国内社会における国際法」

- 第2回 条約の締結
- 第3回 条約への留保
- 第4回 条約の国内的効力と国内適用
- 第5回 まとめ

第II部「特別法と一般法」

- 第6回 条約と第三国
- 第7回 慣習国際法の成立
- 第8回 慣習国際法の法典化
- 第9回 条約の無効
- 第10回 まとめ

第III部「国際社会における秩序の維持」

- 第11回 国際責任
- 第12回 紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止
- 第13回 自衛権
- 第14回 国際司法裁判所(ICJ)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。

課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%

なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

国際法I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。
「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】

国際法Ⅱ【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法Ⅱ

LAW251M

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

教科書 /Textbooks

杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、2009年） 1500円＋税
講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 横田洋三編『国際法入門（第2版）』（有斐閣・2005）○
参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際法上の国家」

- 第2回 国家と承認制度：国家承認・政府承認
- 第3回 国家の基本的権利
- 第4回 国家の基本的義務
- 第5回 まとめ

第II部「陸・海・空と国際法」

- 第6回 陸と国際法：領土取得の権原・領域主権
- 第7回 海と国際法：海上交通
- 第8回 海と国際法：海洋資源
- 第9回 空と国際法
- 第10回 まとめ

第III部「国際法主体としての個人」

- 第11回 人権の国際的保障：枠組み・基準設定
- 第12回 人権の国際的保障：監視・技術支援
- 第13回 国際犯罪
- 第14回 国際刑事裁判所(ICC)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。

課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%

なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

国際法II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は学習支援フォルダーで確認してください。
「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system)の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

キーワード /Keywords

【国家の要件】 【承認】 【国家の基本的権利・義務】 【領域】 【個人】 【管轄権の競合と調整】 【国際法によるコントロール】

民法総則 【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	民法に共通する諸概念や基本的考え方の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民法通則上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法総則

LAW180M

授業の概要 /Course Description

民法は、最も生活に密着した法律であり、「民法総則」という授業は、法学部における基本中の基本科目です。民法だけでなく、すべての法律科目の基本となる科目であるため、法学部生であれば、極力すべての人が、この民法総則を理解することが望まれます。この講義は、1年生のほとんどが履修することが予想されるため、他の科目では講じられない法令用語についても、なんらかの形で時間を割いて説明します。この科目を学習することで、法的な分析と論理的な思考により課題を解決する判断力を身につけ、法と社会とのつながりを再確認することができます。

教科書 /Textbooks

山田卓生他『民法1 総則 Sシリーズ』(有斐閣)の最新版

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回(週) 1, 民法とは、民法には何が書いてあるか、2, 市民法の基本原理、法令用語
- 2回(週) 3, 【意思能力】、4, 【未成年者】
- 3回(週) 5, 【成年被後見人】他、6, 【無効】と【取消】
- 4回(週) 7, 【法人】概説、8, 法人の理事の行為
- 5回(週) 9, 【物】、10, 【法律行為】概説、慣習
- 6回(週) 11, 法律行為の有効要件、12, 【公序良俗】
- 7回(週) 13, 【心裡留保】、14, 【虚偽表示】
- 8回(週) 15, 【錯誤】、16, 【詐欺・強迫】
- 9回(週) 17, 不動産登記との関係、18, 意思表示の到達
- 10回(週) 19, 【代理】、20, 【無権代理】概説
- 11回(週) 21, 無権代理と相続、22, 【表見代理】
- 12回(週) 23, 【条件】、【期限】、24, 【期間】
- 13回(週) 25, 【時効】概説、26, 【取得時効】
- 14回(週) 27, 取得時効と登記、28, 【消滅時効】
- 15回(週) 29, 【除斥期間】、30, まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 100 % (詳細は6月中に掲示する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

六法(最新版)は必ず持参して下さい。有斐閣の『ポケット六法』が最も信頼でき、お勧め。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

民法総則

物権法 【昼】

担当者名 /Instructor 藤野 博行 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	物権法に関わる諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	物権法をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、物権法の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

物権法

LAW260M

授業の概要 /Course Description

この科目は、民法第二編「物権」（民法175条～398条の22）について解説をする。物権とは、物を直接支配し、その利益を排他的・独占的教授する権利のことをい、大きく「物権法」部分（物権法総論、占有権、所有権、用益物権）と「担保物権法」（典型担保、非典型担保）部分に分かれる。本講義では前者（教科書P1～P202）を中心に講義を行い、後者（教科書P203～）については概説にとどめる。

教科書 /Textbooks

- ・ 淡路剛久ほか『民法II-物権』有斐閣Sシリーズ（有斐閣、第三版補訂、2011年）1900円＋税
- ・ 田中裕康ほか『民法判例百選I』別冊ジュリストNO.195（有斐閣、第6版、2009年）2095円＋税
- ・ 六法（小型のもので良い）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 生熊長幸『物権法』三省堂テミス（三省堂、2013年）2500円＋税 ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、物権法序論
- 第2回 物権の効力
- 第3回 物権の変動
- 第4回 不動産物権変動における公示①（序論、公示方法としての登記）
- 第5回 不動産物権変動における公示②（登記を必要とする物権変動）
- 第6回 不動産物権変動における公示③（第三者の範囲）
- 第7回 動産物権変動における公示
- 第8回 立木等の物権変動と明認方法、物権の消滅
- 第9回 占有権、所有権（意義・性質、内容）
- 第10回 所有権（所有権の取得、共有、区分所有）
- 第11回 用益物権（地上権、永小作権、地役権、入会権）
- 第13回 抵当権
- 第14回 不動産譲渡担保、質権
- 第15回 動産譲渡担保、所有権留保、留置権、先取特権、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

評価は、期末試験ならびに提出物の点数を合計して行う。配点は以下のとおりである。

- ・ 期末試験（60点）
- ・ 提出物評価（40点）
提出物には、毎回行う事前学習問題（10回を予定）、講義中に行うテスト（5回を予定）の二種類がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

物権法 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

物権法，担保物権法に存在する数多くの論点のうち，民法の他分野を学ぶにあたり特に重要かつ必要な論点について重点的に解説します。また，その論点にちなんだ演習問題を解くことにより，論理的思考力や知識を活用する力を養っていただこうと考えています。

キーワード /Keywords

担保物権法 【昼】

担当者名 藤野 博行 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 担保物権法に関する諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 担保物権法をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、担保物権法の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

担保物権法

LAW261M

授業の概要 /Course Description

この科目は、民法第二編「物権」（民法175条～398条の22）のうち、担保物権部分について解説をする。物権とは、物を直接支配し、その利益を排他的・独占的教授する権利のことをい、大きく「物権法」部分（物権法総論、占有権、所有権、用益物権）と「担保物権法」（典型担保、非典型担保）部分に分かれる。本講義では後者（教科書P203～）について解説をする。

教科書 /Textbooks

- ・ 淡路剛久ほか『民法II-物権 有斐閣Sシリーズ』（有斐閣，第三版補訂，2011年）1900円＋税
- ・ 田中裕康ほか『民法判例百選I』（有斐閣，第6版，2009年）2095円＋税
- ・ 六法（小型のもので良い）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

生熊長幸『担保物権法』三省堂テミス（三省堂，2013年）2500円＋税 ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス，担保物権法序論（担保物権の意義，種類，効力，性質）
- 第2回 留置権，先取特権
- 第3回 質権
- 第4回 抵当権①（意義，法的性質，被担保債権の範囲，被担保債権の範囲）
- 第5回 抵当権②（抵当権と物上代位 前編）
- 第6回 抵当権③（抵当権と物上代位 後編）
- 第7回 抵当権④（優先弁済的効力）
- 第8回 抵当権⑤（法定地上権 前編）
- 第9回 抵当権⑥（法定地上権 後編）
- 第10回 抵当権⑦（抵当権の処分と消滅），共同抵当
- 第11回 根抵当権
- 第12回 非典型担保序論，仮登記担保
- 第13回 譲渡担保①（社会的機能，種類，設定と公示方法，対内的効力）
- 第14回 譲渡担保②（対外的効力，実行，消滅）
- 第15回 所有権留保，まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 期末試験（60点）
- ・ 提出物評価（40点）
提出物には、毎回行う事前学習問題（10回を予定），講義中に行うテスト（5回を予定）の二種類がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担保物権法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

担保物権法に存在する数多くの論点のうち，民法の他分野を学ぶにあたり特に重要かつ必要な論点について重点的に解説します。また，その論点にちなんだ演習問題を解くことにより，論理的思考力や知識を活用する力を養っていただこうと考えています。

キーワード /Keywords

債権総論【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 債権総論に関わる諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 債権総論をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、債権総論の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

債権総論

LAW263M

授業の概要 /Course Description

私たちの生活においては、常に何らかの債権が発生しています。(例えば、スーパーで買い物をした場合など)。この講義では、債権について一般的に規定している「債権総論」と呼ばれる部分について学習します。債権総論分野の諸問題・諸課題について学習することで、法的な分析や論理的思考に基づいて、解決方法を提示することができるようになると良いでしょう。また、債権総論分野の諸問題を学習することで、民法と(現代)社会とのつながりも再確認できるでしょう。

なお、近時、債権法の改正が私法の専門家の間で話題となっていますが、学生としては、まずは現行民法をきちんと学ぶことが重要です。従って、債権法改正の議論は、必要に応じて、若干触れる程度に止めることとします。

教科書 /Textbooks

有斐閣のSシリーズの『債権総論』最新版

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回(週) 1, 民法典の債権編の概観、2, 債権とは何か(物権との違い)
- 2回(週) 3, 債権に基づく妨害排除請求の可否、4, 債務と責任
- 3回(週) 5, 種類債権、6, 利息債権
- 4回(週) 7, 履行の強制、8, 債務不履行(履行遅滞)
- 5回(週) 9, 債務不履行(履行不能)、10, 債務不履行(不完全履行)、安全配慮義務
- 6回(週) 11, 債務不履行の現代的問題(範囲の拡張等)、12, 損害賠償の範囲
- 7回(週) 13, 損害賠償の調整、14, 受領遅滞
- 8回(週) 15, 債権者代位権、16, 債権者代位権の転用
- 9回(週) 17, 詐害行為取消権の法的性質・要件、18, その効果
- 10回(週) 19, 債権の消滅一般、弁済、20, 債権の準占有者に対する弁済
- 11回(週) 21, 相殺の要件、22, 差押えと相殺
- 12回(週) 23, 債権の譲渡性、24, 債権譲渡の対抗要件
- 13回(週) 25, 異議を留めない承諾、26, 多数当事者の債権関係
- 14回(週) 27, 連帯債務、28, 保証債務
- 15回(週) 29, 債権法改正の議論、30, まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

俗に言うレジュメ等は、一切、配布しないので、とにかく自分で、ノートや教科書に、担当者が話したことを書くことをお勧めする。「民法総則」及び「物権法」が履修済である方が、理解しやすい。また、「債権各論」や家族法(親族・相続)の学習もお勧めする。

債権総論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

債権

債権各論【昼】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	債権各論に関わる諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	債権各論をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、債権各論の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

債権各論

LAW262M

授業の概要 /Course Description

わが国の民法典は、その第三編 債権 第二章～第五章(民法521条～724条)において、「債権の発生原因」である、①契約、②事務管理、③不当利得、および④不法行為に関する諸規定を設けている。本講義のねらいは、これら①～④の法制度の基本構造およびこれらの法制度を定める重要条文に関わる解釈(論)について、要点を絞った解説を加えることで、「債権の発生原因」であるこれらの法制度が現代社会において、どのような機能を実際に果たしているかということについて、理解を深めてもらうことにある。とりわけ、我々の日常生活の一部を形成しているとすらいえる「契約(たとえば、コンビニでおにぎりを1つ買ったということとは、おにぎりについての売買契約を締結し、そこから発生する義務(おにぎりの引渡しと代金支払い)が履行されたということになる。)」および現代社会において不可避免的に発生する「不法行為(たとえば、交通事故が代表例。)」の解説(判例〔最高裁判所や大審院がその判決理由の中で示した規範〕・学説の解析)に重点を置く。

教科書 /Textbooks

- ①川井健『民法概論4(債権各論)(補訂版)』(有斐閣、2010年); 定価(4,700円+税)
- ②松本 恒雄=潮見 佳男(編)『判例プラクティス民法II債権』(信山社、2010年); 定価(3,600円+税)
- ③最新版(年度)の小型六法
- ※上記「3点セット」を必ず購入・持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※参考書については、講義の際に配布するレジユメの【文献案内】欄で紹介する。

債権各論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※レジュメを配布するが、教科書での予習・復習は必須である。レジュメはあくまで「補助教材」でしかないことに注意すること。

- 第1回：序論（債権各論で学ぶこと、債権の発生原因としての契約、事務管理、不当利得、そして不法行為）
- 第2回：契約総論①；序説（契約の意義・社会的機能、契約自由の原則とその制限、契約の種類・分類）
- 第3回：契約総論②；契約締結上の過失、申込みと承諾の合致、事情変更の原則
- 第4回：契約総論③；同時履行の抗弁（権）
- 第5回：契約総論④；同時履行の抗弁（権）に関わる判例の検討
- 第6回：契約総論⑤；危険負担（存続上の牽連性、債務者主義と債権者主義）
- 第7回：契約総論⑥；危険負担（債権者主義危険負担の問題点など）
- 第8回：契約総論⑦；第三者のためにする契約
- 第9回：契約総論⑧；契約の解除（基礎理論、要件論）
- 第10回：契約総論⑨；完；契約の解除（要件論のつづき、効果論、約定解除・合意解除）
- 第11回：契約各論①；契約の分類の復習、贈与、交換
- 第12回：契約各論②；売買（意義および成立要件、予約、手付）
- 第13回：契約各論③；売買（担保責任概説）
- 第14回：契約各論④；売買（瑕疵担保責任〔論〕）
- 第15回：契約各論⑤；消費貸借（民法上の規定を中心に）
- 第16回：契約各論⑥；消費貸借（利息制限法など特別法、業法を中心に）、使用貸借
- 第17回：契約各論⑦；質貸借（民法上の規定）
- 第18回：契約各論⑧；質貸借（借地借家法概説）
- 第19回：契約各論⑨；請負
- 第20回：契約各論⑩；委任、雇用
- 第21回：契約各論⑪；完；寄託、組合、終身定期金、和解
- 第22回：法定債権関係入門；事務管理を中心に
- 第23回：法定債権関係①；不当利得（給付利得、侵害利得、非債弁済）
- 第24回：法定債権関係②；不当利得（不法原因給付、転用物訴権）
- 第25回：法定債権関係③；不法行為（不法行為制度の目的、一般的不法行為の要件〔序論〕）
- 第26回：法定債権関係④；不法行為（一般的不法行為の要件：故意・過失、責任能力、権利・利益侵害、事象的因果関係、損害の発生）
- 第27回：法定債権関係⑤；不法行為（一般的不法行為の要件のまとめ、不法行為の効果〔序論〕）
- 第28回：法定債権関係⑥；不法行為（不法行為の効果～損害賠償の範囲を中心に～、過失相殺など）
- 第29回：法定債権関係⑦；不法行為（特殊的不法行為：使用者責任、工作物責任、共同不法行為など）
- 第30回：法定債権関係⑧；完；不法行為（特殊的不法行為の残りの部分）および「まとめ」

成績評価の方法 /Assessment Method

※期末定期試験の成績（80分間）...100%のみで評価する。

【注意】いわゆる「一夜漬け」による単位取得は100%不可能と心得よ。学問に王道なし。「思考」を常に働かせるべし。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「予習・復習」を常に心がけること。教科書①および②の頁を指示するので、次の週までに熟読（無理な場合は、ざっと目を通すだけでもよい。）してこよう。

なお、「民法総則」を履修済みであれば、本講義の理解は、より確実なものとなろう。さらに、「物権法」も併せて履修すれば、本講義の理解が一層深まるであろう。反対に、「民法総則」を全く学習していない場合、本講義の理解はきわめて困難なものとなろう。よって、自学習でもよいから、「民法総則」の内容全般をフォローしておくことを強く勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

オフィス・アワー等を利用して、積極的に質問をして下さい。また、教科書（基本書）選びも勉強の内です。上記指定教科書以外にも、図書館蔵書や書店等で、「債権各論」の様々な文献を紐解いてみましょう！

キーワード /Keywords

債権の発生原因、契約、事務管理、不当利得、不法行為

人間環境地理学【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人間と自然との関係の基本的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と自然との関係に内在する諸問題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	人間と自然との関係に問題意識を持ち主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

*人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人間環境地理学

ENV240M

授業の概要 /Course Description

私たちは、豊かで穏やかな自然の中にいる時には自然を安息と感じ、荒れ狂う自然の中では自然を猛威と感じます。穏やかな自然も荒れ狂う自然も共に自然の営みであり、私たちは、そのような自然の営みの中で生活しています。しかしながら、このような認識は、当たり前のように、実感として理解するまでには至らないことが多いと思われます。この科目では、自然と自然の猛威を学ぶことを通して、私たちの生活の場を地球規模で考えます。また同時に、自然の猛威がもたらす災害と防災・減災についても考えます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は、以下の通りです。

人間と自然との関係の基礎的な概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につける。
人間と自然との関係に内在する諸問題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
人間と自然との関係に問題意識を持ち、主体的に学習できる。

教科書 /Textbooks

ありません。授業中にプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「自然災害を読む」(小島圭二著 岩波書店)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自然の中の私たち 【自然の猛威が私たちの住む場所を作っている。】
- 2回 自然の猛威とはなにか。【私たちは、自然の中で生活している。】
- 3回 地球上の自然の猛威の分布 1。【変動帯】【安定帯】
- 4回 地球上の自然の猛威の分布 2。【地震】【火山噴火】
- 5回 気象に由来する自然の猛威。【熱帯低気圧】【竜巻】
- 6回 干ばつと砂漠化 【世界中で最も被害が大きいのは干ばつである。】
- 7回 日本は災害の国 【日本列島では様々な自然の猛威が繰り返しやって来る。】
- 8回 島原大変 【日本列島の災害の縮図のような災害。】
- 9回 火山の巨大噴火 【日本では歴史上、巨大噴火は経験していないが、有史以前には多くの巨大噴火が発生している。】
- 10回 火山の噴火と気候変動 【気候変動は文明に大きな影響を与えた。】
- 11回 巨大地震と津波 【巨大地震は繰り返し発生する自然の営みでもある。】
- 12回 集中豪雨 【近年、集中豪雨は毎年のようにその強度を増している。】
- 13回 河川の防災 【最近の治水の方針は、いままでとは大きく異なっている。】
- 14回 自然の猛威とのつきあいかた【私たちは、自然とうまく付き合っていく必要がある。】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 80% 小レポートまたは小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人間環境地理学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

参考文献や授業中に配布する資料、授業内容に関連する新聞記事などを読む、また関連するテレビ番組を見るなどするとより理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生態人類学【昼】

担当者名 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	さまざまな事例をもとに人間の本質についての理解を深める。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	人間の普遍的な特性から諸社会問題を考察する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	身体と自然という内と外の環境の相互行為を理解し、人間の社会や文化を考える。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

生態人類学

ANT210M

授業の概要 /Course Description

人間の多様性について幅広く考えることで、他者の価値観を理解しよう。キーワードは差異と共感。

人間の文化の多様性はどこから生まれてくるのだろうか。この授業では人類学と生態学の知識を援用しながら、多様な環境における人間の適応と社会システムについて考察を進める。

たとえばテーマの一つとして取り上げるのは人間の「食」である。人は食べ物を手に入れるためにどんな行動をおこなってきたのか、視覚や味覚に関する認知能力の進化、そして多様な食文化の基本にあるもの。味覚を攪乱させる現代社会の添加物や化学物質。食に興味がある人おいしいものが好きな人はどうぞ。

フィールドワークの感覚を身につけるために、ドキュメンタリー映像をみて、そこから問題提起をします。次にその問題について資料を集めてきてもらいます。これらの資料をもとにディスカッションを行います。

この授業の主な到達目標は
人間関係に関する専門的知識の習得のみならず、自分から課題を発見し実践の中でそれを考えることができるようになることです。

教科書 /Textbooks

講義中にみるドキュメンタリー映像

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

以下はほんの一部である

- 「生態人類学を学ぶ人のために」秋道 智彌、市川 光雄、大塚 柳太郎(編) 世界思想社
- 「イブの7人の娘たち」ブライアン・サイクス(ヴィレッジブックス)
- 「ヒューマン なぜヒトは人間になれたのか」NHKスペシャル取材班
- 「人間らしさとはなにか? 人間のユニークさを明かす科学の最前線」マイケル・S. ガザニガ: インターシフト
- 「共感の時代へ 動物行動学が教えてくれること」フランス・ドゥ・ヴァール: 紀伊國屋書店

生態人類学 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

人類学に関係のふかい人間の営みに関する研究について、受講者の興味に応じて「食」「性」「死」「遊び」「宗教」のような感じで、おおよそ3回くらいひとつの単元にして討論をおこなう。討論の深度によって、日程は柔軟に変更する。

- 第1講 課題のテーマと講義の概要。受講者の分担決め
- 第2講 課題1の問題提起
- 第3講 課題1のプレゼンテーション
- 第4講 課題1のディスカッション
- 第5講 課題2の問題提起
- 第6講 課題2のプレゼンテーション
- 第7講 課題2のディスカッション
- 第8講 課題3の問題提起
- 第9講 課題3のプレゼンテーション
- 第10講 課題3のディスカッション
- 第11講 課題4の問題提起
- 第12講 課題4のプレゼンテーション
- 第13講 課題4のディスカッション
- 第14講 総論
- 第15講 最終討論

成績評価の方法 /Assessment Method

発表とディスカッションをもとにした自己採点 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

提示されたテーマに関して資料をあたりまとめてくる。
自分なりに毎回講義の前にイメージトレーニングし議論にすぐに参加できるように準備する。

ディベートとディスカッションが主体の講義なので、ほかの人の意見をきき、理解し、自分の意見を意見を発言できることが、最低限の履修の要件である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いろいろな意見を交わすことは楽しい。その過程を通して人間とは何かを考え、他者の価値観の多様性を理解することも人間関係学科でこの講義をおこなう重要な理由です。

キーワード /Keywords

フィールドワーク
人類学
環境
他者理解

日本の歴史と社会【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	教科書の限界を踏まえて新しい視点から江戸時代という時代を見ることができる。
技能	専門分野のスキル	●	研究史の論点を理解する技能を育て、史料の主観性を批判する「規範」と「実態」という複眼的視野から歴史的事実を認識できる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	与えられた文章の表面的な理解にとどまらず「行間」を読むことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		身の回りの事象を常に歴史的背景と因果関係という歴史の視点から考察することができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本の歴史と社会

HIS210M

授業の概要 /Course Description

「江戸時代」は我々にとって最も「日常的な歴史」になっていますが、それゆえにそこには多くの誤解や先入観がまかり通っています。江戸時代は260年間続きましたが、その間変化がなかったわけではありません。18世紀の中頃の社会の変化によって、その前半と後半は一つの時代とはいえないほど大きく社会と経済が変化をしています。また同じ時代でも武士と町人や農民の庶民では身分が違えば社会や言葉も違っています。それはまだ「日本」や「日本人」という近代の概念が成立する以前の社会なのです。ここでは女性の地位や農村の社会を中心に「江戸時代」という時代を検証してみたいと思います。

教科書 /Textbooks

レジュメ・プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 脇田晴子編『日本女性史3 近世』（吉川弘文館1982年）
- 近世女性史研究会編『論集近世女性史』（吉川弘文館1986年）
- 脇田晴子編『ジェンダーの日本史 下』（東京大学出版会1995年）
- 高木侃『三下り半-江戸時代の離婚と女性たち-』（平凡社1987年）
- 高木侃『三下り半と縁切寺』（講談社現代新書1992年）
- 網野善彦『無縁・公界・楽』（平凡社1978年）
- 山本英二『慶安の触書は出されたか』（山川出版社日本史リブレット）他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 【近世】という時代
- 3回 【三行半】を読み直す①江戸時代の女性の地位
- 4回 【三行半】を読み直す②江戸時代の離婚
- 5回 【三行半】を読み直す③離婚理由と再婚許可文言
- 6回 『【女大学】』と『和俗童子訓』①作者と成立時期
- 7回 『【女大学】』と『和俗童子訓』②貝原益軒と女子教育
- 8回 【好色物】と女性の社会進出
- 9回 【縁切寺】の歴史
- 10回 【慶安御触書】を読み直す①榎本宗次説
- 11回 【慶安御触書】を読み直す②丸山雍成説
- 12回 【慶安御触書】を読み直す③木崎良美説
- 13回 【慶安御触書】を読み直す④神崎直美説
- 14回 【慶安御触書】を読み直す⑤山本英二説
- 15回 まとめ

日本の歴史と社会【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート...50% 筆記試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

シラバス・レジюме・参考文献をよく読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）、等に関する教職に関する基本的な知識を獲得し、教職についての理解を深め、教職についての課題を発見し、思考し、教職についての意欲や適性等を熟考し、「学生が教員としての適格性を持つためにどのような努力をしていけばよいのか」ということを含めて、進路選択に資する各種の機会の提供等の指導を受ける。

（以下、平成26年度以降入学生）

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし（授業中に適宜紹介する）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

（【】内はキーワード）

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1回 学校教育と教職の意義 | 【学校教育】【教職】 |
| 2回 学校教育と教員の役割 | 【学校】【教育】【教員の役割】 |
| 3回 学校教育の「目的」 | 【教育目的論】 |
| 4回 学校教育の「内容」と「方法」 | 【教育課程】【教育課程の編成原理】 |
| 5回 教員の職務内容と生徒指導 | 【教員の職務】【生徒指導の伝統】 |
| 6回 キャリア教育と進路選択 | 【職業選択の基礎理論】【進路選択】 |
| 7回 教員の使命 | 【教育の論理】【生活の論理】 |
| 8回 「生きる力」と教員の資質と適格性 | 【青少年の意識】【愛と要求】 |
| 9回 「自主的な問題解決」と教員の役割 | 【自主性】【生徒の意識】 |
| 10回 「いのちの教育」と教員の役割 | 【生と死の教育課程】 |
| 11回 「身体教育」と教員の役割 | 【健康管理】【食教育】【排便教育】 |
| 12回 「喫煙防止」と教員の役割 | 【未成年者喫煙防止法】 |
| 13回 「掃除」と教員の役割 | 【学校掃除】【掃除の指導】 |
| 14回 「評価」「懲戒」と「体罰」の相違 | 【評価の種類】【体罰】 |
| 15回 教員の「資質」と「適格性」/まとめ | 【指導】【管理】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストを含む） 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：教育とは何か
- 2回 教育の関係：教育のモデル
- 3回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 4回 発達段階と発達課題：思春期・青年期
- 5回 家庭教育の課題：社会化
- 6回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 7回 教育思想②：日本の教育思想
- 8回 教育史①：西洋教育史
- 9回 教育史②：日本教育史
- 10回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：教材・方法
- 13回 職業と教育：進路形成
- 14回 国際化と教育：言語・文化
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 10% 課題 30% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

配布したレジユメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

キーワード /Keywords

発達心理学【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著

『発達心理学 周りの世界とかわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3)』

ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」

その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達的特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解①【発達障害の基本的理解】
- 第14回 児童生徒の心理と理解②【発達障害と思春期】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育指導論【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、「学習指導要領」に規定されている学校教育（中学校・高等学校の教育；参考のために小学校の教育も含む）における道徳教育の理念と道徳の指導法、及び学習指導案の作成について学習する。

教科書 /Textbooks

文部科学省『中学校学習指導要領』（平成20年）＜中学校教諭免許状の取得希望者＞、文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成21年）＜高等学校教諭免許状の取得希望者＞

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 「学校教育」における道徳教育の構造	【学校教育の全領域】
2回 「各教科」と道徳教育	【陶冶】【訓育】【教育活動全体を通じて行う指導】
3回 「特別活動」と道徳教育	【学級活動】【生徒会活動】【学校行事】
4回 「総合的な学習の時間」と道徳教育	【横断的・総合的な学習】【活動】
5回 道徳教育の目標と内容	【道徳の時間の指導内容】【全体計画】
6回 「道徳の時間」の計画と指導	【指導方法】
7回 学習指導案の内容と作成と指導	【学習指導案】【指導技術】
8回 「道徳の時間」と「モラルジレンマ」	【ジレンマ教材】【対立・葛藤】
9回 「道徳の時間」と「役割演技」	【動作化】【ロール・プレイ】
10回 「道徳の時間」と「アサーション」	【主張】
11回 「道徳の時間」と「エンカウンター」	【出会い】【構成的グループエンカウンター】
12回 「道徳の時間」と「作文」	【教育的リアリズム】【教育的ヒューマニズム】
13回 「道徳の時間」と「体験」	【自然体験】【社会体験】【家庭や地域社会との連携】
14回 「道徳の時間」の「模擬授業」	【道徳教育の評価】
15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストを含む）100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動論 【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

1. 文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。
2. 学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画の作成方法を理解する。(特別活動の指導案の作成など)
3. 子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。
4. 生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説 「特別活動編」(平成20年9月)
高等学校学習指導要領 「特別活動」

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
高旗正人他編 「新しい特別活動指導論」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 特別活動の教育的意義
- 2回 学級活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章第1節他)
- 3回 学級活動の実際 その1 中学校の実践
- 4回 学級活動の実際 その2 高等学校の実践
- 5回 生徒会活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章2節他)
- 6回 学校行事の目標・内容と指導計画(テキスト第3章3節他)
- 7回 学校行事の実際 - 合唱コンクールの取り組み
- 8回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その1 対立解決プログラムについて
- 9回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その2 傾聴のスキル、アサーティブネス
- 10回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その3 ウイン・ウイン型の問題解決
- 11回 生徒の実態を捉えた学級経営と学級経営案
- 12回 学級の荒れを克服し、お互いを大切に作る人間関係を築く学級活動の取り組み
- 13回 困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
- 14回 指導計画の作成と内容の取扱い(テキスト第4章)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点(課題レポートなど) 期末試験 80点
なお、出席回数全体が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画の作成、学級活動の実際

教育方法学【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、各教科等を実際に指導する場面を想定し、学習指導案の作成や教材研究等を組み入れて、将来の高度情報社会に生きる生徒に必要な資質を養うための、教育方法についての基本的な知識を獲得し、理解し、教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）の理論と基本的なスキルを獲得するとともに、教育方法についての課題を発見し、思考する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし (授業中に適宜紹介する)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 「教育の方法」とは何か	【教育の方法の形態】【比喩・モデル】
2回 20世紀までの「教育の方法」の遺産	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「現代」の「教育の方法」	【連続と非連続】【現代化】
4回 「新しい時代」の教師の「指導技術」	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
5回 情報機器及び教材の活用	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
6回 「情報化社会」における生徒の指導	【情報化社会】【インターネット】
7回 「学習遅滞」の指導	【学習遅滞】【SHELLモデル】
8回 教師と生徒の「コミュニケーション」	【話す】【聞く】
9回 「学習規律」を育てる指導方法	【出席と参加】【学習規律】
10回 各教科指導の「具体的システム」	【学習指導要領】【学習のシステム】
11回 各教科指導の「構想」と「教材研究」	【授業の三角形モデル】【事前の教材解釈】
12回 各教科指導の「学習指導案」の作成	【指導】【学習活動】【指導上の留意点】
13回 各教科指導の「展開過程」における「指導技術」	【発問】【説明】【指示】【助言】
14回 各教科指導における「評価」	【授業評価】【自己評価】
15回 「模擬授業」 - 各教科指導に向けて -	【実践的な指導】【各教科の授業】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストを含む) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生徒・進路指導論【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導に関する家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境等の何らかの要因による困難な課題を抱える子どもの自立を支援する生徒指導の取り組みについて学習すること。
- ④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。
- ⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
- 嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 (高文研)
- 文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
- 児美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
- キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 生徒指導の意義と原理(テキスト第1章他)
- 3回 教育課程と生徒指導(テキスト第2章他)
- 4回 学級活動・学校行事と生徒指導 - 中学校1年生の実践報告
- 5回 学級活動・学校行事と生徒指導 - 中学校3年生の実践報告
- 6回 生徒指導に関する法制度等(テキスト第7章他)
- 7回 生徒指導における家庭・地域・関係機関との連携(テキスト第8章他)
- 8回 我が子の非行と向き合う親たちの会の方の講演
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 11回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
- 12回 進路指導、キャリア教育における職場体験学習の意義を考える
- 13回 個別の課題を抱える生徒への指導 その1 (テキスト 第6章2節他)
- 14回 個別の課題を抱える生徒への指導 その2 養育環境に困難さを抱える生徒の問題(テキスト第6章10節他)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受け身的な受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。

生徒・進路指導論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、激しい行動化を表出する生徒への指導、進路指導

教育相談【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談)、教育相談の学校体制、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談の基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

教科書 /Textbooks

春日井敏之・伊藤美奈子編 「よくわかる教育相談」 ミネルヴァ書房
文科省編 「生徒指導提要」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 教育相談の意義
- 2回 教育相談の担い手としての教師(テキスト 第1章 生徒指導提要第4章)
- 3回 子どもの発達課題と教育相談(テキスト 第2章)
- 4回 教育相談の基本的な理念について - 人間に内在する力への信頼、受容、共感的理解
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれた質問と直面化
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ体験
- 7回 子どもの「問題行動」と教育相談 その1 不登校問題など(テキスト 第3章)
- 8回 子どもの「問題行動」と教育相談 その2 摂食障害、性的問題行動など(テキスト 第3章)
- 9回 子どもの「問題行動」と教育相談 その3 薬物問題(外部講師)
- 10回 特別支援教育と教育相談(テキスト 第4章)
- 11回 予防・開発的取り組みと教育相談(テキスト 第5章)
- 12回 保護者への支援と教育相談(テキスト 第7章)
- 13回 教育相談の学校体制とスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどとの連携(テキスト第IX章)
- 14回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 文科省の通知(H25.10.15)内容と学生の体験報告を踏まえて
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%

なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストはできるだけ授業の前に読んでおくこと。

教育相談【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、予防・開発的教育相談、問題解決的教育相談

教育心理学【昼】

担当者名 五十嵐 亮 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、学校教育現場や地域社会、家庭における子どもの「学び」と、それらを育む学習教育環境（教育測定・評価、教師、カリキュラム、学級集団など）の在り様に関して、主に心理学的側面に注目しながら理解を深めていく。

本講義では、子どもの「学び」に関わる理論や実践例を、代表的な研究者の考え方、日常的な具体例を取り上げながら学習することを通して、上記の問題に関して、「心理学的視点から自分の考えを持てるようになること」を目標とする。

講義を中心としながら、日常的な具体例を通して実際の関わり方を考えることのできる機会を毎回設けていく。

教科書 /Textbooks

指定せず（毎回配布資料を用いる）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時情報を提供する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回オリエンテーション
- 2回教育心理学の理論と方法
- 3回子どもの「学力」(1) 【関心・意欲】
- 4回子どもの「学力」(2) 【知識・理解】
- 5回子どもの「学力」(3) 【思考・判断】
- 6回子どもの「学力」(4) 【表現・技能】
- 7回教育測定・評価(1) 【測定学力、目標学力】
- 8回教育測定・評価(2) 【評価基準、テスト作成】
- 9回教師と授業づくり(1) 【教師の思考様式、教師の信念体系】
- 10回教師と授業づくり(2) 【学びの共同体、グラウンド・ルール】
- 11回学習環境と教育方法(1) 【学習集団編成、集団力学】
- 12回学習環境と教育方法(2) 【習熟度別学習、協働学習理論】
- 13回カリキュラムと学習材
- 14回発達障害
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況（学習態度、ミニレポート等）...30%
レポート...20%
学期末試験...50%
（ミニレポートは、毎回講義時間内（10分）に記述する）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育社会学【昼】

担当者名 /Instructor 作田 誠一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から教育に関わる諸現象を多角的に考察することで、教育制度や教育問題（いじめや非行等）を客観的に検討し、理解することが本講のテーマである。

- ・ 教育社会学および社会学の理論の基礎的な知見を学び、社会や教育の常識を問い直す。
- ・ 教育に関わる諸問題を多角的に考察することで、新たな知見を得る。
- ・ 教育に関わる諸制度の変遷や社会的な変動等を踏まえて、学校社会について理解する。

教科書 /Textbooks

なし。資料等については、授業中に適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- I.イリッチ,東洋・小沢周三訳,1977,『脱学校の社会』東京創元社
P.ブルデュー・J.-C.パスロン,宮島喬訳,1991,『再生産』藤原書店
P.ウィリス,山田潤・熊沢誠訳,1996,『ハマータウンの野郎ども』筑摩書房
E.デュルケム,麻生誠・山村健訳,2010,『道徳教育論』講談社
広田照幸・伊藤茂樹,2010,『教育問題はなぜまちがって語られるのか?』日本図書センター
酒井朗・多賀太・中村高康編著,2012,『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
第2回：教育社会学の対象と方法
第3回：子どもの社会化と家族・学校
第4回：学校という組織
第5回：学校社会と生徒文化
第6回：学校社会と教師文化
第7回：文化的再生産論にみる学校社会
第8回：少年非行と逸脱理論(1)-アノミー論と文化的接触理論
第9回：少年非行と逸脱理論(2)-コンフリクト理論とラベリング論
第10回：日本における少年非行の歴史とその特徴
第11回：いじめ現象の構造とその特徴
第12回：近代化とメリトクラシーの諸問題
第13回：グローバリゼーションと教育
第14回：情報化社会と教育
第15回：再帰的近代化における生徒の意識とその特徴
定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50%、日常の授業への取り組み30%、小レポート20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論 【昼】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「世界が100人の村だったら」【世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ】【非識字者・同性愛者の人権】【人権教育のスキル・技能】
- 第2回 いじめ差別①(現状認識)【いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)】【各種調査(教育白書・国際調査等)】
- 第3回 いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)【いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理】【文部科学省のいじめ定義】【道徳教育と人権教育の相違点】
- 第4回 いじめ差別③(解決への教育創造)【文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」】【金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」】【自尊感情と学力形成の相関関係】【学校文化と子どもの居場所づくり】
- 第5回 子どもの人権と児童虐待防止法【児童虐待の現状認識(新聞記事・教育白書等)】【教師の責務と教育・啓発の教育創造】
- 第6回 ものけ姫①(メッセージからの課題)【物語の時代背景と登場人物から課題の整理】【ハンセン病問題と国の隔離政策】【国家賠償と社会復帰】
- 第7回 ものけ姫②(メッセージからの課題)【女性差別の歴史】【学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える】
- 第8回 同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)【身分差別をつくったのは、誰?】【中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義】
- 第9回 同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)【身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?】【「賤民」身分にされたのは、どんな人々?】【一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義】
- 第10回 同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)【解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?】【一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚】
- 第11回 同和問題との出会い直し④(文学者と部落差別)【小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)】
- 第12回 同和問題との出会い直し⑤(結婚差別)【結婚差別の事例からの課題と解決への展望】【しきたり・ならわし・慣習との出会い直し】
- 第13回 同和問題との出会い直し⑥(人権文化の創造)【教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度】
- 第14回 同和問題との出会い直し⑦(国の施策)【1965年の同和対策審議会・答申の意義】【1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義】
- 第15回 同和問題との出会い直し⑧(人権文化のまちづくり)【各地の人権文化のまちづくりの現状】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(30%)及び学期末のレポートによる評価(70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の中で課題を出します

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、教員免許を取得するにあたって必要な教育方法・技術、教材と教具、指導方法を学び、授業の実践的指導力の基礎を養うことを目標とする。また近年の著しいICT(情報通信技術)の進展を踏まえ、PCやWebを活用した教材作成の方法・技術の修得の基礎についても概観する。さらに、模擬授業の実施及び評価等を通して、教育の方法と技術の実践的活用能力の基礎を育成し、各教科等の指導に最小限必要な資質について学ぶことを主なねらいとする。

教科書 /Textbooks

指定しない。必要な資料を適宜事業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 平成20年3月告示 東山書房 244円
 高等学校学習指導要領 平成21年3月告示東山書房 588円
 平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化2000円
 小川哲生他著 教育方法の理論と実践 明星大学出版部 1500円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
1. オリエンテーション【本授業の内容・進行・評価方法】
 2. 授業と教育方法【教育方法】
 3. 授業と教育技術【教育技術】
 4. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順【授業設計】
 5. 授業過程の分析と改善【授業過程】
 6. 授業実施の技術【授業技術】
 7. 授業の評価【授業評価】
 8. 教育における情報化社会の影響【情報化社会】
 9. 教育におけるICT(情報通信技術)の活用【ICT】
 10. 学習指導案の作成【学習指導案】
 11. 教材研究【教育メディアとその活用】
 12. 模擬授業【模擬授業】
 13. テストと学習内容の評価【テスト】
 14. 授業実践能力の改善と向上【教育の方法と技術の実践能力】
 15. 現代の教育課題と講義のまとめ【現代の教育課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

教材研究課題(20%)、模擬授業(30%)、試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教材研究、模擬授業等に関する課題の提出は必須の課題となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史と政治
			PLS110F

授業の概要 /Course Description

明治憲法体制の成立（1889年）から崩壊（1945年）までの日本政治の歩みを概説します。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らずに、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近現代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『児玉源太郎』・『桂太郎』（ともにミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

歴史と政治【夜】

履修上の注意 /Remarks

講義前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎【夜】

担当者名 /Instructor 杉原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			異文化理解の基礎	ANT110F

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いかもしれない。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。毎回最後の10-15分は指定するトピック（次回のテーマに関するもの）についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。

本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既存概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：グローバルでローカルな世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 家族は普遍的な概念か？

第3回 生殖医療の時代の家族・親族関係を考える

第4回 近代家族 / 伝統的家族？

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと文化

第7回 伝統について：構築主義と本質主義

第8回 文化相対主義の考え方

第9回 中間試験

第II部 文化と世界観

第10回 現代社会における儀礼と文化的な空間認識

第11回 宗教紛争と日常の中の宗教

第12回 不幸への対処としての呪術

第13回 中間試験の講評 / 政教分離

第14回 現代社会のなかの呪術

第15回 講義のまとめ：人権と文化の独自性

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 30%、期末試験 70% を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。

※受講者の数によっては中間試験はレポートになることもあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 出席ただけでは評価しません。講義に9割出席していても、偶然1回休んだ日の内容がテストに出て回答できなければ、結果として単位を落とすこともあります（ほかの日の内容が完全に理解できているならばそんなことはありませんが）。出席することより理解することを心がけてください。質問は歓迎します。
- ・ 中間試験の無断欠席者および授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ 受講者が多い場合は受講制限をします。第1回目は来てください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化（新カリのみ）」とビジョンII「現代社会と文化（旧カリ：文化と政治）」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学 【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。	
	コミュニケーション力			
			ことばの科学	LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最新の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』 大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生みだす本能(上)・(下)』 スティーヴン・ピンカー著、棕田 直子訳、NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ことばの科学 【夜】

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門 IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回：「地域研究における総合的認識」【総合化の意味】
- 第5回：「地域研究における総合的認識」【全体像の把握の意味】
- 第6回：「地域研究における総合的認識」【全体像把握の方法】
- 第7回：「地域研究における文化主義的アプローチ」【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第8回：「地域研究における文化主義的アプローチ」【オリエンタリズムとは】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義的アプローチとは】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として【基本的視点】
- 第14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として【人間関係】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		生活世界の哲学	
		PHR110F	

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ウェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ウェーバーと近代—合理化論のプロブレマティク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション【成績評価およびテスト日程について】
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか(1)【形式合理性】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか(2)【官僚制】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか(3)【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか(4)【物象化】
- 6回 「近代」とはいかなる時代だったのか(5)【啓蒙の逆説】
- 7回 中間のまとめ(確認テスト)
- 8回 生活世界論のはじまり(1)【ガリレオ・ガリレイと科学革命】
- 9回 生活世界論のはじまり(2)【フッサールの科学批判】
- 10回 生活世界論のひろがり【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1)【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2)【古代ギリシャにおける公と私】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1)【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2)【社会との確執】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%
(第7回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生活世界の哲学【夜】

履修上の注意 /Remarks

授業前に高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。初回の授業で確認テストの方法・日程に関する詳しい説明を実施するので、受講予定者は必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2回にわたって実施する試験は、いずれも難度の高いものであることをあらかじめ認識しておくこと。単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。黒板に板書した情報はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

日本の防衛【夜】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本の防衛
			PLS111F

授業の概要 /Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促したい。

なお、この授業の到達目標は、同分野における①総合的知識・理解の獲得、②課題発見・分析・解決力の獲得、③生涯学習力の獲得、に置かれている。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

日本の防衛【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2-3回 安全保障と防衛
安全保障を学ぶことの重要性、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム、安全保障の定義、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
- 第4回 わが国周辺の軍事的脅威(1)
有事の意識、三矢研究、有事の想定(国民保護「基本指針」)、わが国の地理的・地政学的特性、防空の基本(警戒・管制、領空と防空識別圏、領空侵犯対処とスクランブル、現況と今後)
- 第5回 わが国周辺の軍事的脅威(2)
海上警備の基本(空と海の違い、哨戒について、九州南西海域不審船事案)、北朝鮮の脅威について①(兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処)
- 第6回 わが国周辺の軍事的脅威(3)
北朝鮮の脅威について②(1993年ノドン発射、北朝鮮の保有する弾道ミサイルとノドンの重要性、1998年テポドン発射、弾道ミサイルと人工衛星、2006年ミサイル発射、米国のMD構想と日本のBMD)、2009年テポドン2発射と日本の対応、2012年ミサイル発射と日本の対応)
- 第7回 わが国周辺の軍事的脅威(4)
中国海空軍の脅威について(中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向と海上戦略、動的防衛力)ロシア軍の動向について(軍事再編の概況、極東の現況、ロシア海空軍の動向)
- 第8回 「平和主義」国の防衛(1)
いわゆる「軍隊のない国」はわが国の参考になるか、憲法9条と平和主義①(戦争放棄で放棄される「戦争」とは、自衛権について、「防衛戦争」と「防衛行動」、わが国が「自衛」で認められる範囲について)
- 第9回 「平和主義」国の防衛(2)
「戦力」と「防衛力」の違い、「必要最小限度の実力」と防衛力の限界、専守防衛とは何か、
- 第10回 「平和主義」国の防衛(3)
「防衛」の目的、攻撃の未然防止と「抑止」、「さらなる攻撃の阻止」と専守防衛、わが国の「拒否力」のあり方と動的防衛力、敵基地攻撃の可能性と限界)
- 第11回 国際平和協力
国際平和協力活動の枠組み、国際平和協法力について、主な取り組み、課題(武器使用基準、駆けつけ警護、集団的自衛権について)
- 第12回 海洋国家日本とシーレーン
シーレーンとは何か、シーレーン問題についての議論の推移、91年海自ペルシャ湾派遣の「目的」、海賊対処の重要性
- 第13回 防衛計画の大綱(1)
基盤的防衛力構想と51大綱、16大綱までの概略
- 第14回 防衛計画の大綱(2)
22大綱の特徴(基盤的防衛力構想からの離脱、動的防衛力とは何か、自衛隊の新体制と課題、わが国防衛はどこに向かってゆくのか)
- 第15回 予備

成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。
安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生命と環境【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命と環境
			BI0100F

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。そもそも生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、遺伝子や生物の多様性と進化、それに影響を与えてきた生命を取り巻く環境について広く学び、生命と環境に関する身近な課題を自ら発見・解決するための基礎的な力を身につける。また、生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方の大切さについて理解することを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2011年(羊土社)2940円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)903円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高・中尾)
- 2回 ミクロとマクロの世界(日高・中尾)【物質の単位】【自然科学】
- 3回 宇宙に生まれた物質(中尾)【元素】【原子】【超新星爆発】
- 4回 生命と分子のなりたち(日高)【DNA】【タンパク質】
- 5回 生命の誕生・細胞(日高)【細胞膜】【共生説】
- 6回 単細胞から多細胞生物へ(日高)【地球環境の変化と生物】
- 7回 生物の分類と系統(日高)【種】【進化】
- 8回 生殖と生命多様性(日高)【有性生殖】【減数分裂】
- 9回 遺伝子につけられた名前(日高)【突然変異】【遺伝学】
- 10回 放射能と放射線(日高)【放射性同位元素】
- 11回 科学と似非科学(日高・中尾)【血液型】【星座】
- 12回 太陽と地球の環境(中尾)【太陽活動】【地球温暖化問題】
- 13回 人類の起源(日高)【ミトコンドリア】【ゲノム】
- 14回 映画鑑賞(日高)
- 15回 質疑応答とまとめ(日高)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 小テスト(3回~4回実施) 40%
- 期末テスト(または期末レポート) 40%
- 授業中の課題・授業への参加 20%

生命と環境【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していない者は参考書を入手し、授業に備えること。
2学期開講「人間と生命」を合わせて受講すると理解がより深まるでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

情報社会への招待【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会への招待
			INF100F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

情報社会への招待【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ

環境問題概論 【夜】

担当者名
 /Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		環境問題概論 ENV100F	

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。本授業で基本的な環境に対する見方・考え方を身に付ける事によって、その後、環境問題に対し自立的に課題を発見し分析、解決することができる知識の充足を目指す。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション —環境問題を見る視点について—
- 第2回 沿岸海域の環境保全者としての漁業者 - 干潟の仕組み—
- 第3回 沿岸海域の環境保全者としての漁業者 - 海はだれのものか—
- 第4回 伝統的な農村部の生活と自然環境
- 第5回 農業の環境保全的機能と大規模集約型農業について
- 第6回 農業の可能性と第6次産業化
- 第7回 山を守る人々 - 守るために利用すること—
- 第8回 森林を焼き払う農業 —焼き畑農業は環境保全的か—
- 第9回 中間試験 (※中間試験の日程は前後する可能性があります)
- 第10回 日本人における自然観の変遷と考え方 - 環境倫理—
- 第11回 生物多様性と日本の草原
- 第12回 国際的枠組み —SATOYAMAイニシアティブの取り組み—
- 第13回 食物連鎖と地域内物質循環
- 第14回 なぜ環境問題は生じるのか - レポート試験の実施— (※レポート試験は日程が前後する可能性があります)
- 第15回 総括と復習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的参加姿勢：20%
 不定期に何回か実施する試験（レポート試験含む）：80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

環境問題概論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！技術編」です。
「映像情報および公式情報に基づくゲームの見直し作業」を通じて得られた知見をもとに、戦術理解の深化をキーワードに、大学生の武器である「頭（頭脳）」を使って「バレーボール」と真正面から向き合うための基礎知識・技術を習得してもらおうと思っています。バレーボールで試合に勝つためには、連続失点を少なくすること、連続得点を多くすることを考えたチーム作りが必要になりますが、今回、ここでは「連続得点をとる」をキーワードに、基本的な戦術の理解とともに映像等を基にしたデータ分析の基礎的な手法を学んでいきます。
作業は、座学と調査・実習を組み合わせながら、グループで行うことを予定しています。このプロセスを通じ、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題（ポイント）を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力を、みなさんには身につけ、高めてほしいと思います。

生涯学習力との関係で、今年度は、（財）日本バレーボール協会に有効に登録されているチーム/組織のメンバーのみを受講の対象とします。（選手登録、スタッフ登録いずれも可。1年生で登録予定の方も可。大学チーム、クラブチームは問いません。）

教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書等は、初回の授業時に、紹介します。
授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

教養基礎演習I【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス，受講者の確定
- 第2回 バレーボールとアナリストの役割，公式記録の見方

【連続得点をとるための分析軸I：サービス⇒レセプション（サービスによって先手を取る）】

- 第3回 戦術理解I：レセプションフォーメーション&サービス
- 第4回 ゲーム映像からの分析I①：フォーメーションのチェック
- 第5回 ゲーム映像からの分析I②：ローテーションごとに結果を整理（レセプションの評価）
- 第6回 分析結果の発表I：サービスの狙い目はどこか

【連続得点をとるための分析軸II：レセプション⇒アタック（相手チームの攻撃パターンを知る）】

- 第7回 戦術理解II：アタックフォーメーション
- 第8回 ゲーム映像からの分析II①：レセプション⇒攻撃（軌跡化）
- 第9回 ゲーム映像からの分析II②：レセプション⇒攻撃（選手ごとの特徴）
- 第10回 分析結果の発表II：どのような特徴がレセプションからの攻撃に見られるか

【連続得点をとるための分析軸III：ディグ⇒アタック（拾って攻撃につなげる）】

- 第11回 戦術理解III A：ブロックシステム，フロアディフェンスフォーメーション
- 第12回 ケーススタディIII A：チーム事情に応じたシステムを考えよう
- 第13回 戦術理解III B：アタック&ブロックフォローフォーメーション
- 第14回 ケーススタディIII B：高さを理解した攻撃を考えよう（2つの最高到達点の比較から）

- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。
具体的には、受講意識、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。総合的知識・理解については、分析に必要な理論や技術を習得し使いこなすことができるかどうか、人間の行動パターンを数値化してとらえることの意義を理解できているかどうかの観点から評価します。課題発見・分析・解決力については、実際のゲーム映像を分析することで、対象チームや選手個人の特徴を抽出するとともに、試合に勝つために必要なオリジナルの分析結果（解決案）を導き出すことができるかどうかの観点から評価します。生涯学習力については、競技としてのバレーボールとのかかわり方や授業や課題への取り組み姿勢といった観点から評価します。コミュニケーション力については、グループ作業へのかかわり方やプレゼンの状況といった観点から評価します。
ゼミへの参加と観点評価...100%（4つの観点・各25%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

生涯学習力との関係で、今年度は、（財）日本バレーボール協会に有効に登録されているチーム/組織のメンバーのみを受講の対象とします。（選手登録、スタッフ登録いずれも可。1年生で登録予定の方も可。大学チーム、クラブチームは問いません。）

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。

受講申請にあたってはこの点に注意してください。

最大でも12人を予定しています。

欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、グループでの作業に深刻な影響を与えることになります。参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

バレーボールが真に好きで、競技接点を持っており、得られた知見を、現在、そして将来にわたって、活かしてくれる人を募集します。
あなたの『バレーボール力』をさらに伸ばしてみませんか。

キーワード /Keywords

バレーボール アナリスト データ分析 各スキル・エリアの記号化 スキル評価の基準

現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。	
	コミュニケーション力			
			現代人のこころ	PSY003F

授業の概要 /Course Description

心理学というと、まずイメージされるのが「カウンセリング」というのが一般的です。カウンセリングは心理学の大切な一分野ですが、実は心理学のごく一部分に過ぎません。心理学は人間の一般的傾向（良い側面、悪い側面の両方）を、実験や調査などで客観的に把握し、日常生活や仕事などに応用することができる学問です。

人間は大きな可能性を持つとともに、弱くて不完全な存在です。それを受け入れ（自分についても他人についても）、問題が生じないように工夫をするために、心理学を活用してみましょう。そのためには、心理学の研究がどのように行われ、何が明らかにされているかという基礎的な理論を学び、考える力が必要です。自分の行動や気持ち（自分の中・誰かに対して・集団の中で）を振り返り、心理学の理論と照らし合わせて考えてみましょう。講義の大枠は暫定的に作っていますが、毎回終了時に感想や質問などのコメントを提出してもらい、それをもとに次回講義を展開していきます。

教科書 /Textbooks

資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介

現代人のこころ【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 【心理学的に効果のあるガイダンス】担当者の心理学や大学教育に対する考え方、講義の狙いや内容やルールとそれらの根拠を紹介し、良いコミュニケーション関係を作るための準備について心理学的に説明します。
- 2回 【人の心の一般的傾向と多様性】心を理論で捉えるとはどういうことか？心をどうやって測定するか？について学びましょう
- 3回 【コミュニケーションを共有という概念から紐解く】「わからない」「わかってももらえない」ということはなぜ起きるのか、なぜわかるのか？コミュニケーションを「共有」という概念から心理学的に紐解いてみましょう。
- 4回 【人から相談されてうまく答えられないという悩みに】相談というコミュニケーションにはどんな機能や効果があるのか？そもそもどうして人に相談したくなるのか？相手の問題解決を支援し心を軽くするのに役立つヒントについて心理学の理論で考えていきましょう。
- 5回 【ネットワークの中の私】私たちはたくさんの人とコミュニケーションし、支え合って暮らしています。そこから得られるもの、一方で人とのやり取りで感じるストレスについて、ソーシャルサポート理論から学び考えましょう。
- 6回 【自分らしさのなりたち】「私って何？」という疑問に、心理学はどこまで答えられるのでしょうか。「自分らしさ」を性格理論で紐解いて、「血液型と性格は関係あるのか？」ということについて考えましょう。
- 7回 【今ここにある私はどうやって私になったか】これまでの人生を振り返るワークを通じて、人が成長する過程と体験するもの、得られるもの、どうしても起きる苦しみについて、発達心理学の視点から学び考えましょう。
- 8回 【「やる気」がなげりや「その気」にさせる】「やる気」はどこから来るのか？やる気がない時、やる気のない人にどんな工夫をして「その気」にさせるのか、動機づけ理論から学び考えてみましょう。
- 9回 【人は思い込み、とらわれる】購入した商品の口コミを確認したことはありませんか？都合の良い情報ばかり集め、都合の悪い情報をシャットダウンしてしまう心について心理学の理論で学び考えてみましょう。
- 10回 【偏見はなぜ起きる？】偏見は「ワカラナイ」ものから自分を守るために発生してしまいます。自分の中にある偏見に向き合って、なぜそれが生まれるのか、偏見解消に何が有効か心理学的に考えましょう。
- 11回 【心の揺らぎと痛み】健やかな心とはどんな状態なのか？心が揺れるのはどんな時なのか？健やかな心を保つためにはどんな工夫ができるのかについて学び考えましょう。
- 12回 【集団の中の自分】私たちは様々な集団に属し、それに大きな影響を受けて生活しています。自分の心や行動への集団の影響について、集団で話し合いをすることでどんなことが起きるのか、実験を体験して集団の理論から考えてみましょう。
- 13回 【組織事故-なぜ起きるのか？どうやったら防げるのか？】様々な産業組織での事故は、個人の問題だけでなく、人との関わりの中で発生します。事例分析を通じて、なぜ事故が起きるのか、防ぐためにはどうすれば良いのか、を心理学理論を使って考えましょう。
- 14回 【言いたいことを言えていますか？】日常の対人関係において、言いたいことを言えなくて苦しくなったこと、「言えば良かった」と後悔したことはありませんか？言いたいことを言えない気持ち、どうやったらうまく言えるかについて、心理学的に学び考えましょう。
- 15回 まとめと振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

- 期末試験50%
中間試験(抜き打ち)50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

私語は他の受講生への迷惑行為なので厳禁です。※2回目の注意で退席してもらいます。
 評価は、試験の結果のみで行います。
 試験は、全て持ち込み可とします。
 講義で行ったこと、話したことは、全て試験の範囲に含まれます。(含まれないもの、雑談などは先に「これは試験に関係のないことですが」と断ります)
 欠席した場合は、配布物やノートを次の講義までに手に入れ、次の講義に差し障ることのないようにしてください。理解できない理由や配布資料を揃えていない理由に、「休んでいたから」という言い訳は通用しません。
 その他、評価や試験に関することを講義中に話したり、掲示したりします。「聞いていません。知りません」という言い訳は通用しません。
 前年度単位取得率: 57%
 S:7% A: 23% B: 13% C: 21% D: 21% -: 15%

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

☆過去受講生の皆さんからの、受講生の皆さんへのアドバイスを紹介しますので参考になさってください。
 「しっかり勉強したいという人には有益な講義。逆に単位が欲しいだけの人は【絶対に受講しない方が良い】」
 「理論がかなり専門的なので、はっきり言って初めはわけが分からないけれど、そこを越えれば、分かった瞬間の快感を味わうことができるし、講義のテーマである『わかるとは何か』を身を持って理解できる」
 「習った専門用語を使って話をすると頭が良くなったような気分になれる。でも一般の人には使い過ぎると変人扱いされるので注意」
 「心理学が生活に関連していることがわかる」
 「心理学が役に立つものだとわかる」
 「就活に使えるネタが集まる」
 「実験に基づく科学的な話なので、コミュニケーションという言葉から『心の交流』などをイメージして選択するのはやめた方が良い」
 「数字やグラフへの苦手意識が和らぐ」
 「出席を取らないけど、一回でも休んだらついていけなくなるので覚悟すべし」
 「何となく講義を聞いている人と『しっかり勉強するぞ』と思っている人とで、講義の価値がかなり変わる。内容は難しいけれどくじけずに質問すれば対応してもらえるので、とにかくわからなかったら質問すること。わからないままにしておくと、どんどん講義が辛くなる」
 「どんどん進むので少しでも良いから予習しておいた方が良い」
 「甘く見ていたら試験の時にひどい目にあう」

キーワード /Keywords

キーワード /Keywords

人間と生命【夜】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の基礎知識を獲得し、身近な問題との関わりを総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命科学に関する基礎知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	体や健康など、生命科学に関する身近な課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人間と生命
			BI0002F

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約60兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。それぞれの遺伝子はどのような働きをし、何をどこまで決めているのだろうか。細胞が作る社会とはどのようなもので、個体はどのように成り立っているのだろうか。人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2011年(羊土社)2940円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- 「こころ」は遺伝子でどこまで決まるのか 宮川剛著 2011年(NHK出版新書)819円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 細胞とその構成成分【糖】【脂質】
- 3回 生命活動の主役・タンパク質【タンパク質】【アミノ酸】
- 4回 遺伝子とは何をするもの【核酸】【DNA】
- 5回 遺伝子が働くしくみ【RNA】【遺伝子の発現】
- 6回 遺伝子でどこまで決まるか【ゲノム】【体質】
- 7回 体はどのように作られるか【発生】【細胞の分化】
- 8回 細胞はどのように増えるか【細胞分裂】【細胞周期】
- 9回 細胞と個体の寿命【染色体】【テロメア】
- 10回 細胞のコミュニケーション【受容体】【シグナル】
- 11回 細胞社会の反逆者【がん遺伝子】
- 12回 万能細胞とは何か【ES細胞】【iPS細胞】
- 13回 体を守るしくみ【ウイルス】【抗体】
- 14回 映画鑑賞
- 15回 質疑応答・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3-4回実施)40%
期末テスト(またはレポート)40%
授業中の課題・授業への参加 20%

人間と生命【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していない者は参考書を入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

現代正義論【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代正義論
			PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。
 まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房）
- 平井亮輔編『正義』（嵯峨野書院）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社）
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』（法律文化社）

現代正義論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリパタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、理解すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変に役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

社会学的思考 【夜】

担当者名 /Instructor 堤 圭史郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自らが帰属する社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			社会学的思考
			SOC002F

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、国内外の地域社会で生きる人々が抱える諸問題を社会的に解説していく力を身につけることにある。社会学とは、我々が生活している世界の中から、(1)「不思議」な社会現象を見つけだし、(2)その現象がいかなるものであるかを記述した上で、(3)なぜそのような「不思議」な社会現象が発生・存続しているのかを説明し、さらに(4)その社会現象が何らかの問題をはらんでいるものである場合には、その現象の発生・存続のメカニズムをふまえて、よりよいシステムを構想してゆく科学である。この授業では、まず、社会学に特徴的な社会現象の捉え方について社会学の古典的著作を例にとりあげながら紹介していく。ついで、「組織」、「家族」、「農山村」、「都市」、「階層」、「逸脱」、「国際化」といった社会の各領域に焦点をあて、社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。レジメ、資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『社会学がわかる事典』(森下伸也、日本実業出版社)
- 『社会学をつかむ』(西澤晃彦・渋谷望著、有斐閣)
- 『畏怖する近代』(左古輝人著、法政大学出版局)
- 『社会学』(長谷川公一、浜日出夫、藤村正之、町村敬志著、有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：本講義のテーマ、内容、構成の紹介
- 第2回：社会と個人、個人と社会(1)【E. デュルケム】
- 第3回：社会と個人、個人と社会(2)【M. ウェーバー】
- 第4回：集団と組織(1)【集団の諸類型、社会集団の構造と機能】
- 第5回：集団と組織(2)【官僚制】
- 第6回：家族(1)【社会変動と家族】
- 第7回：家族(2)【家族問題と社会問題】
- 第8回：階層と社会移動(1)【階級・階層の捉え方】
- 第9回：階層と社会移動(2)【社会移動と教育】
- 第10回：都市と農村(1)【都市化とコミュニティ】
- 第11回：都市と農村(2)【社会変動と都市問題】
- 第12回：逸脱と統制(1)【正常と異常 / 同調と逸脱】
- 第13回：逸脱と統制(2)【逸脱の捉え方】
- 第14回：グローバル化とエスニシティ
- 第15回：まとめと課題

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70%、小レポート30%。講義内容の理解度と、問題意識の明確さに注目し評価する。

社会学的思考 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障がい学【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する3つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		
			障がい学 SOW001F

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定である。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回：障害の捉え方【障害の種類と区別】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉症とは【自閉症】
- 第6回：文化モデル的作品DVDの視聴【文化モデル的作品】
- 第7回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第8回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第9回：日本の福祉制度現状【法的現状】
- 第10回：日本の福祉制度の現状【制度的現状】
- 第11回：日本の福祉制度の現状【雇用問題を事例として】
- 第12回：日本の福祉制度の課題【福祉制度の課題】
- 第13回：共生社会へ向けての課題【共生社会】
- 第14回：自己への問いとしての障がい学【自己への問い】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動論【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			市民活動論 RDE001F

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 枠組みの設定
 - 3回 民衆行動の分析①
 - 4回 民衆行動の分析②
 - 5回 市民運動の分析
 - 6回 市民の活動の展開 / 戦前 (上)
 - 7回 市民の活動の展開 / 戦前 (下)
 - 8回 市民の活動の展開 / 戦後 (上)
 - 9回 市民の活動の展開 / 戦後 (下)
 - 10回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (上)
 - 11回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (下)
 - 12回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (上)
 - 13回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (下)
 - 14回 市民活動の現在
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と倫理【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代社会と倫理との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の倫理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の倫理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と倫理
			PHR002F

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』（山内友三郎・塚崎智監訳）昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988年。
- 江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』勁草書房、2011年。
- 安彦一恵『「道徳的である」とはどういうことか—要説・倫理学原論』、世界思想社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
- 3回 現代における人命の価値（1）【生命の神聖説】
- 4回 現代における人命の価値（2）【積極的行為と消極的行為】
- 5回 現代における人命の価値（3）【最大幸福原理】
- 6回 現代における人命の価値（4）【自己意識】
- 7回 現代における人命の価値（5）【FLO】
- 8回 現代における差別の問題（1）【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題（2）【差別反対論】
- 10回 現代における差別の問題（3）【種差別の基礎】
- 11回 現代における差別の問題（4）【種差別の諸相】
- 12回 現代における公平性の意義（1）【世界の貧困】
- 13回 現代における公平性の意義（2）【公平主義】
- 14回 現代における公平性の意義（3）【援助義務論】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容の詳細と参考文献の紹介は、第1回もしくは第2回の授業時に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生命 義務論 功利主義 公平性

グローバル化する経済【夜】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
永田 公彦 / グローバル人材育成推進室, 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程, 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程
松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自立的に探求する姿勢が身につけている。	
	コミュニケーション力			
			グローバル化する経済	ECN001F

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション-グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易 【比較優位】【貿易保護】
- 3回 企業の海外進出と立地 【直接投資】
- 4回 企業の海外進出と立地 【人件費】【為替レート】
- 5回 ICT技術と経済のグローバル化 【コンピュータ・ネットワーク】
- 6回 市場の世界化と地域経済 【グローバル】
- 7回 グローバル化と地方自治体【自治体外交】【多文化共生】
- 8回 グローバル化の進展と国際会計ルール採用の意義 【IFRS】
- 9回 グローバル化とファイナンス 【アベノミクス】【金融市場】【外国人投資家】
- 10回 グローバル化時代の地域政策 【環境】【新産業】【地域振興】
- 11回 人と情報のボーダレス化 【多国籍組織】【ダイバーシティ】【世界同時情報共有】【ネットワーキング】
- 12回 グローバル化と異文化マネジメント 【グローバルノマド】【グローバル人事】
- 13回 景気の国際間波及メカニズム 【GDP】【三面等価】
- 14回 景気の国際間波及メカニズム 【需要変動】【乗数】
- 15回 まとめと総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

グローバル化する経済【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけましょう。授業ではプリントを多用します。学習支援フォルダにアップするので、予習・復習してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【夜】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会の動向と日本の関係について総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際社会に対する批判的省察をもとに、日本が直面する問題の分析を行い、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際社会と日本のあり方に関して課題を自ら発見し、解決していくために学び続けることができる。
	コミュニケーション力		
			国際社会と日本
			IRL004F

授業の概要 /Course Description

国際社会と日本のあり方と関係について、様々な視点から解説する。

教科書 /Textbooks

姜尚中編『ポストコロナリズム』（知の攻略 思想読本4）、作品社、2003（第3刷）、2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教科書の紹介、授業のガイダンス
- 2~3回 なぜ今、ポストコロナリズムなのか(1)(2) 【ポストコロナリズム】
- 4回 第ⅠV部の総論 姜尚中論文
- 5回 第ⅠⅠ部の総論 本橋哲也論文 【ポスト構造主義】
- 6回 第ⅠⅠ部の「近代」 松葉祥一論文 【カルチュラル・スタディーズ】【植民地主義】
- 7回 第ⅠⅠ部の「性・文化」 竹村・毛利論文 【フェミニズム】
- 8回 第ⅠⅠ部の「日本」 小森陽一論文 【自己植民地化】【近代主義】【ナショナリズム】
- 9回 第ⅠⅠ部の「第三世界」 小倉英敬論文
- 10回 第ⅠⅠ部の「国家」 巒田竜蔵論文 【オリエンタリズム】
- 11回 第ⅠⅠⅠ部の1、朴一・村井寛志論文
- 12回 第ⅠⅠⅠ部の2、趙慶喜論文 【アイデンティティ】【ジェンダー】
- 13回 第ⅠⅠⅠ部の3、高橋哲也論文 【過去の克服】
- 14回 第ⅠⅠⅠ部の4、野村浩也・鄭暎恵論文 【他者】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート2本~3本 80% 平常の学習状況 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習と復習、関連文献を自主的に読むこと

キーワード /Keywords

歴史の読み方I【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方 I HIS004F

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また、私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。具体的には、明治維新から敗戦までの一次史料を直接読み、さまざまな歴史認識の可能性を探っていきます。

教科書 /Textbooks

講義の中で適宜史料プリントを配布致します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○外務省編『日本外交文書』、○『山県有朋意見書』、○『原敬日記』、○『牧野伸顕日記』、○『木戸幸一日記』、○『西園寺公と政局』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 西南戦争【木戸孝允】
- 第3回 日清戦争【山県有朋】
- 第4回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第5回 韓国併合と「満州」経営【伊藤博文】【山県有朋】
- 第6回 辛亥革命【伊藤博文】【山県有朋】
- 第7回 政治家の肉筆書簡【田中義一】
- 第8回 政党政治(1)【原敬】【山県有朋】
- 第9回 政党政治(2)【牧野伸顕】
- 第10回 山東出兵と張作霖爆殺【牧野伸顕】
- 第11回 満州事変(1)【木戸幸一】【西園寺公望】
- 第12回 満州事変(2)【石原莞爾】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】
- 第14回 太平洋戦争【昭和天皇】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な取り組み... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義前に最低限高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

歴史の読み方I【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方II HIS005 F

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された児玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その「立憲主義的軍人」としての生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『児玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房、3000円）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。その他、講義中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 徳山殉難七士事件～佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱・西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平を使いこなす -
- 第8回 政治への関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 統帥権問題と明治国家の危機 -
- 第12回 児玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 立憲主義的軍人
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと（必須）。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

歴史の読み方II 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児玉源太郎 陸軍 統帥権 帷幄上奏 日露戦争 西南戦争 伊藤博文 山県有朋

人物と時代の歴史【夜】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師
乗口 眞一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史上著名な人物を通じて、歴史の流れを理解するために必要な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史上重要な人物を特定し、その人物が果たした歴史的役割を見出す能力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身の回りの歴史と著名人物に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		
			人物と時代の歴史
			HIS001 F

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
三人の教員が、イギリス・アメリカ・日本・の代表的な人物について、人物と時代について語る。まず、イギリスについては1980年代の自由競争主義、民営化、ビッグバンなどグローバル化の基礎を築いたマーガレット・サッチャーについて述べる。
次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔（リンカーン、ケネディー、クリントン大統領）について。
最後は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道（Bushido）が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていなかったとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰（アイヌや南方諸島に残る）や弥生信仰に代わって、聖徳太子（厩戸皇子）は仏教を大和（やまと）の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

教科書 /Textbooks

教科書 /Textbooks 資料を配付します。（新村）
口述講義（山崎）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』（BUSHIDO）
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』（文春文庫）
- 中村彰彦『保科正之』（中公新書）
- 山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国一産業革命からサッチャー改革まで』（ミネルヴァ書房、2008年）

人物と時代の歴史【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- イギリス、アメリカ、日本の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする
- 第1回 イギリスとはどんな国かー日英交流史ー
 - 第2回 サッチャー登場の歴史的背景ーイギリス病に悩むイギリス経済ー
 - 第3回 サッチャーと炭鉱ストライキ
 - 第4回 サッチャーと民営化政策
 - 第5回 サッチャーとNHS改革
 - 第6回 サッチャーとビッグバン
 - 第7回 サッチャーの大学改革と北九州市立大のカーディフ大学誘致合戦
 - 第8回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
 - 第9回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
 - 第10回 歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)
 - 第11回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
 - 第12回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
 - 第13回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り越えたり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
 - 第14回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
 - 第15回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ヨーロッパ道徳思想史【夜】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	ヨーロッパ道徳思想史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ヨーロッパ道徳思想史について課題を発見し、総合的に分析することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	ヨーロッパ道徳思想史に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			ヨーロッパ道徳思想史
			PHR005 F

授業の概要 /Course Description

西欧における道徳思想の変遷を哲学・文学・演劇・音楽・映画などを手がかりに読み解いてゆく。本授業は2年ごとに一部内容を入れ替える予定であり、古代を中心とするか、近代を中心とするかで議論のポイントが異なってくる。今年度は昨年度に引き続き、とくに近代以後の展開に力点を置く。15回の講義を通して、一定の世界史的教養を獲得するとともに、道徳的価値観の多様なありかたを理解することが可能となるだろう。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業時にそのつど指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 古代ギリシャ人の道徳【徳について】
- 3回 古代ギリシャ人の道徳【国について】
- 4回 ルネサンスの道徳観(1)【運命と技量について】
- 5回 ルネサンスの道徳観(2)【シェイクスピア『マクベス』】
- 6回 革命前夜の道徳観(1)【アンシャン・レジームの崩壊】
- 7回 革命前夜の道徳観(2)【『フィガロの結婚』解説前半】
- 8回 革命前夜の道徳観(3)【『フィガロの結婚』解説後半】
- 9回 理性の道徳(1)【フランス革命期の思想】
- 10回 理性の道徳(2)【ドイツ哲学】
- 11回 理性の道徳(3)【イギリス哲学】
- 12回 道徳の黄昏(1)【道徳の破壊】
- 13回 道徳の黄昏(2)【戦慄の美学】
- 14回 道徳の黄昏(3)【革命と権力】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業中に聞いたことのない日本語や英語に出会った場合は、かならず国語辞典もしくは英和辞典を引く癖をつけてほしい。最低でもこれらの辞典は自宅に常備しておくこと。
本講義と連関するテーマについて更なる理解を深めたい学生諸君には、同担当者によるビジョン科目「生活世界の哲学」の履修を推奨する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語などの迷惑行為に対しては厳しい態度で臨む。履修にあたっては真摯な受講を求めたい。とりわけ学習意欲に欠けていると見受けられる学生（授業中に下を向いてスマートフォンをいじっている、最後部の席に座って漫画を読んでいる、隣同士で始終しゃべっている、等々）には即刻退席を命じる。

キーワード /Keywords

日本史【夜】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	日本史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	日本史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	日本史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本史
			HIS110F

授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」や「日本人」について理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』（講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年）
- 大石直正ほか編『周縁から見た中世日本』（講談社、2001年 / 講談社学術文庫、2009年）
- 小熊英二『「日本人」の境界』（新曜社、1998年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本史を学ぶこととは
- 第2回 「鎖国」と「開国」
- 第3回 蝦夷地とアイヌ
- 第4回 近代化とアイヌ社会
- 第5回 琉球の形成と環シナ海世界
- 第6回 琉球から沖縄へ
- 第7回 対馬からみた中世・近世初期の日朝関係
- 第8回 近世における日朝関係と対馬
- 第9回 台湾をめぐる同化と異化
- 第10回 韓国併合と「日本人」
- 第11回 満洲国と「民族協和」
- 第12回 南洋群島と委任統治
- 第13回 「大日本帝国」の解体
- 第14回 「外国」になった沖縄
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験(持ち込み不可の論述問題)... 90%
ミニツツペーパー... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

出席確認を行う。出席回数が 2 / 3 未満の受講生については試験を受ける資格を付与しない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【夜】

担当者名 藤野 月子 / FUJINO TSUKIKO / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	東洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	東洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	東洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	東洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			東洋史
			HIS120F

授業の概要 /Course Description

本講義では、東アジアを中心としてその歴史的な変容を考察する。目標として、中国・朝鮮・日本をはじめとする東アジアの特異性について明らかにし、更には、それを通じて東アジアの今後の在り方を自らで模索出来る能力を養う事を旨とする。
一般的に中国の歴史といえば、単に中国国内のみの問題と捉える傾向があるかもしれない。しかし、古来から中国は近隣諸民族を吸収・同化しつつ、変容を繰り返しているのである。また、近隣諸民族もその影響を受けつつ、オリジナルな国家形成を行っているのである。つまり、東アジアにおいて両者を巡るこのようなかわり合いは相互に密接なものを有しているといえよう。
よって、ここでは具体的に、中国における古代文明の誕生から隋唐による世界帝国の形成・衰退までを、中国のみにとどまる事なく、東アジアという包括的な視座に置き、北アジア・西アジア・東南アジアの諸地域をも含みつつ、各時代の政治・経済・外交・文化・思想等の多角的な方面から理解する事を掲げる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。講義では毎回プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

堀敏一『中国通史 - 問題史としてみる - 』（講談社学術文庫 2000年 1260円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに - 講義のガイダンス・東洋史と中国 -
- 第2回 秦の始皇帝による統一 - 古代文明の誕生から中華思想の形成まで -
- 第3回 秦漢と匈奴 - 中国と北方遊牧騎馬民族との関係 -
- 第4回 中国の外交政策 - 羈縻・冊封・互市・和蕃公主の降嫁 -
- 第5回 前漢の政治と思想 - 儒教との関係 -
- 第6回 後漢の政治と思想 - 外戚と宦官 -
- 第7回 三国志の時代 - 三国の領土拡大と卑弥呼の朝貢 -
- 第8回 西晋による三国統一 - 西晋の内乱と近隣諸民族の動向 -
- 第9回 東晋南朝の社会 - 貴族とは -
- 第10回 五胡十六国北朝の時代 - 北中国における民族の融合 -
- 第11回 南北朝と朝鮮・日本 - 朝鮮・日本の中国外交 -
- 第12回 隋唐による統一 - 世界帝国の成立と政治制度 -
- 第13回 隋唐と朝鮮・日本 - 中国の朝鮮政策と白村江の戦い -
- 第14回 唐代の外交 - 唐の近隣支配体制と商業活動 -
- 第15回 安史の乱以降における唐の滅亡 - 世界帝国の衰退と東アジアへの影響 -

東洋史 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習態度... 30%・定期試験... 70%
双方向の講義が目的であるため、毎回、出席感想カードを配布・回収する。
平常の受講態度を見るため、授業中に予告なく小テストを実施する事も有り得る。
特に、講師及び他の学生の集中力を削ぐ行為(私語・音楽を聴く等)は授業妨害とみなし、これを強く禁止すると共に、違反する者には厳しい措置を取る。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習としては、参考書として紹介しているものをあらかじめ読んでおく。
復習としては、講義中に配布するプリントを見直しておく。
出来れば高校において世界史B及び日本史Bを履修している事が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

先入観に振り回されず、
今後の世界に大きな影響を与える事が確実な中国の歴史について学ぶ事は、
必要であると同時に大変有益です。

キーワード /Keywords

東アジア 北アジア 西アジア 東南アジア 中国 朝鮮 日本 政治 経済 外交 文化 思想

西洋史【夜】

担当者名 嶋谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	西洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	西洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	西洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	西洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			西洋史
			HIS130F

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシヤス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人文地理学【夜】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人文地理の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	人文地理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	人文地理の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	人文地理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		人文地理学	GE0110F

授業の概要 /Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 経済発展と人口移動(1) 【近世・近代日本の都市発展】
- 第3回 経済発展と人口移動(2) 【現代日本の都市発展】
- 第4回 農業立地と農村の変化(1) 【農業立地論】
- 第5回 農業立地と農村の変化(2) 【日本農村の構造的変化】
- 第6回 都市構造と都市システム(1) 【中心地理論】
- 第7回 都市構造と都市システム(2) 【都市の内部構造】
- 第8回 都市構造と都市システム(3) 【都市と郊外】
- 第9回 都市構造と都市システム(4) 【都市システム】
- 第10回 商業立地と流通システム(1) 【チェーンストアの配送】
- 第11回 商業立地と流通システム(2) 【大型店と商店街】
- 第12回 製造業の立地と集積(1) 【工業立地論】
- 第13回 製造業の立地と集積(2) 【空間分業】
- 第14回 製造業の立地と集積(3) 【産業集積の理論】
- 第15回 製造業の立地と集積(4) 【産業集積の実態】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学【夜】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と自然との関係性を地理学を通して理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	倫理観を自覚し、社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			土地地理学
			GE0111F

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面に生起する自然、人文の緒現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を学習・研究する場合、必ず必要になるのが地図です。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図を中心に学びます。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習も行って、地理学の研究手法を学ぶとともに、地理学的知見を高めることを目的とします。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。

人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。

地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。

倫理観を自覚し、社会において積極的に行動できる。

課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「日本列島地図の旅 付・地図の読み方入門」大沼一雄著 東洋選書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか
- 2回 地図の役割と地図の能力
- 3回 地図の歴史
- 4回 地図には、どのような種類があるか
- 5回 地図は、どのように作られるか
- 6回 地図記号と景観
- 7回 山の地形を地形図から描く1 (講義・実習)
- 8回 山の地形を地形図から描く2 (実習)
- 9回 地図を利用して地表を計測する
- 10回 地形図を利用して景観を読みとる1 (実習) 海岸砂丘の環境と土地利用を読む
- 11回 地形図を利用して景観を読みとる2 (実習) 歴史景観を読む
- 12回 リモートセンシングと空中写真の利用
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)
- 14回 衛星データを利用して地表の環境を調べる
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...40% 試験...60%

土地地理学 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参考書や配布する資料などを読んでおくにより理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【夜】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地誌の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地誌について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	地誌の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	地誌に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			地誌学
			GE0112F

授業の概要 /Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。本年度は、様々な空間スケールにおける地誌の諸相をテーマとする。世界地誌、日本地誌、身近な地域の地誌を通じて、それぞれの地域の知識を得るとともに、地誌学に様々な表現方法があることを習得してもらいたい。必要に応じて、講義内容に関係する時事的事項を扱う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 世界地誌(1) 世界の自然・人文環境
- 第3回 世界地誌(2) 東アジア
- 第4回 世界地誌(3) 東南アジア
- 第5回 世界地誌(4) 南アジア・西アジア
- 第6回 世界地誌(5) アフリカ
- 第7回 世界地誌(6) ヨーロッパ
- 第8回 世界地誌(7) アングロアメリカ
- 第9回 世界地誌(8) ラテンアメリカ
- 第10回 世界地誌(9) オセアニア
- 第11回 日本地誌(1) 日本の自然環境
- 第12回 日本地誌(2) 日本の人文環境
- 第13回 身近な地域の地誌(1) 北九州地域の地誌
- 第14回 身近な地域の地誌(2) 筑豊地域の地誌
- 第15回 身近な地域の地誌(3) 下関地域の地誌

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			メンタル・ヘルス I	PSY001F

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあっては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを大きな目的とする。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1．自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。（自己管理）2．現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる（思考判断）3．卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる（生涯学習）。以上の到達を目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書はない。適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房
 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

メンタル・ヘルスI【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）

- 1回 オリエンテーション，受講上の注意，講師自己紹介など。
- 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
- 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
- 4回 児童期の心の健康を知る 【勤勉性と劣等感】
- 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
- 6回 ライフスタイルの心理学【ライフスタイル】
- 7回 青年前期の心理【葛藤と感情】
- 8回 青年後期の同一性（アイデンティティ）の確立【こころの病】
- 9回 適応と社会参加の心理学【組織的メンタルヘルス】【こころの健康管理】
- 10回 こころと健康1【うつ病・神経症など】
- 11回 こころと健康2【自己受容・自己開示・あるがまま】
- 12回 成人期の心理【生きがい】【職場の人間関係】
- 13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
- 14回 健康な心と身体が行く末について。【老いと死の受容】
- 15回 まとめと今後の課題について【環境と健康】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身及び社会的健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルスII
			PSY002F

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な文化・人間性を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。時代は多文化共生の生き方を求めている。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」を勘案しながら、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域や平和や人権文化の視点から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1．自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。（自己管理）2．現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる（思考判断）3．卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる（生涯学習）。以上の到達を目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 特に設けない

メンタル・ヘルスII【夜】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 子安増生編「心が活きる教育に向かって...幸福感を紡ぐ心理学・教育学」ナカニシヤ出版
- ・ 古宮昇著「しあわせの心理学」ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
- 2回 心的態度と生き方のセルフチェック【自己分析のわな】
- 3回 暴力と非暴力1【ストーカーの心理】【児童虐待】
- 4回 暴力と非暴力2【戦争と平和】【非暴力コミュニケーション】
- 5回 人間の発達と自己形成【コフォート理論】
- 6回 ネガティブ感情への対応1...感情の働きについて【不安と憂鬱感情】
- 7回 ネガティブ感情への対応2...感情の目的について【怒りの感情】
- 8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
- 9回 他者理解について。他人の価値観を理解する【人権感覚】
- 10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。【感謝】
- 11回 心が軽くなるとは。森田療法や東洋の人間観から【あるがまま】
- 12回 ライフスタイルについて。平和志向や非暴力、DV防止、人権文化について。【人権・平和】
- 13回 働くとはどういう事か。心理的健康と社会的健康。【社会的健康】【キャリアプランと心の健康】
- 14回 地域や世界の心の健康を考える。【ワークライフバランス】【環境】【格差】
- 15回 まとめと今後の課題【ボランティア活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

自己の心の健康のみならず、他者や地域、国家や地球の環境にまで視野を拡大することを望みたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルス I	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障害の有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力を養うことを目指していく。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (実習) テーピングによる簡単な予防法
- 9回 運動の効果(身体的側面)
- 10回 (実習) レクリエーションスポーツ①(ベタンク・インディアカ)
- 11回 (実習) レクリエーションスポーツ②(風船バレー)
- 12回 (実習) レクリエーションスポーツ③(アルティメット)
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ処理【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1学期未修得者再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」 日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む） ... 50%

データ処理 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておく受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【夜】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 群・夜間主コース
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」 日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む） ... 50%

データ処理 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておく受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

情報表現【夜】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 /Credits 2単位 /Semester 1学期 / 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身に付けている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

情報表現【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション ロジカルシンキング マルチメディア スライドデザイン

経済地理学I【夜】

担当者名 /Instructor 杉浦 勝章 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 2単位
学期 /Semester 1学期 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地理的な経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地理的な経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自らの地域における地理的な経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	自らの地域における地理的な経済の諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済地理学 I

ECN242M

授業の概要 /Course Description

経済地理学Iは、基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。学生は、経済地理学Iを履修することによって、経済活動を空間や地域という観点から理解することの重要性を認識でき、立地論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる問題を発見し、その解決をはかることができるようになる。また企業活動が様々な経済活動を巻き込みながら地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を養う基礎的な知識を得ることができる。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 経済地理学とは 【経済地理学】、【地域構造論】
- 2回 地域構造論 【産業構造】、【産業配置】、【地域構造】
- 3回 産業構造の変化と地域構造 【産業構造】、【主導産業】、【地域構造】
- 4回 立地論の考え方、農業立地論 【立地論】、【チューネン】
- 5回 1～4回の復習とまとめ
- 6回 工業立地論 【輸送費】、【労働費】、【産業集積】
- 7回 工業立地の実際(1)・・・基礎素材型産業 【規模の経済】、【市場分割型立地】
- 8回 工業立地の実際(2)・・・加工組立型産業 【集積の経済】、【工程分業型立地】
- 9回 日本工業の地域的構成 【工場配置】、【産業政策】、【立地政策】
- 10回 5～9回の復習とまとめ
- 11回 地域間人口移動 【人口減少】、【人口移動】
- 12回 日本の経済地理(1)・・・中心地域 【三大都市圏】、【中枢管理機能】
- 13回 日本の経済地理(2)・・・周辺地域 【過疎問題】、【農林水産業】
- 14回 日本の経済地理(3)・・・中間地域 【高速交通体系】、【インフラ】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 20% 期末試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済地理学IIや地域経済I・IIなどを受講すると相互理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済地理学I 【夜】

キーワード /Keywords

立地論、企業立地、産業配置

経済地理学II 【夜】

担当者名 /Instructor 杉浦 勝章 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地理的な経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地理的な経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における地理的な経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	地域における地理的な経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済地理学II

ECN243M

授業の概要 /Course Description

経済地理学IIは、日本の都市、地域構造と立地政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。学生は、経済地理学Iで学習した内容をふまえて、オフィス立地を学習したうえで都市内・都市間システムの理論を学ぶことになる。これによって都市の構造や都市間の相互作用を系統的に学習でき、地域構造の成り立ちを深く認識できることになる。後半では立地のメカニズムをもとに政策的な活用策を検討する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】、【都市】、【地域】、【地域政策】
- 2回 商業立地論 【商業集積】、【モータリゼーション】、【ライフスタイル】
- 3回 中心地論 【クリスタラー】、【中心地】
- 4回 都市システム論 【都市】、【プレッド】、【情報】
- 5回 世界都市論とプロダクトサイクル論 【世界都市】、【中心と周辺】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 戦後の日本経済 【高度経済成長】、【円高】、【産業空洞化】
- 8回 日本の国土計画(1)・・・一全総・二全総 【全総】、【拠点開発方式】
- 9回 日本の国土計画(2)・・・三全総 【定住圏構想】、【テクノポリス】
- 10回 日本の国土計画(3)・・・四全総 【中枢管理機能】、【東京一極集中】
- 11回 日本の国土計画(4)・・・最近の国土計画 【グランドデザイン】、【国土形成計画】
- 12回 6～11回の復習とまとめ
- 13回 先進国の地域構造(1)・・・アメリカ、イギリス、ドイツ 【集中と分散】、【南北問題】、【地域開発】
- 14回 先進国の地域構造(2)・・・フランス、イタリア、韓国 【集中と分散】、【南北問題】、【地域開発】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 20% 期末試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済地理学Iや地域政策などを受講していると相互理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済地理学II【夜】

キーワード /Keywords

立地論、都市システム、立地政策

地域政策【夜】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域政策を検討するのに必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地域政策に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジカ）	●	地域の諸問題を発見し、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	地域の諸問題を発見し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域政策

ECN250M

授業の概要 /Course Description

日本の地域経済を考える上で、地域政策は大きな役割を果たしてきました。しかし公共投資の見直しや法律・制度の改変など、中央政府（国）を主体としたこれまでの地域政策は大きく転換しています。なぜそうした変化が生じているのでしょうか？またその結果、地域経済にどのような影響があるのでしょうか。この授業では、前半で戦後日本の地域政策の手法や特徴、問題点を学び、後半では地域の視点からの新しい政策の姿を探ります。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業のなかで、その都度提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 地域経済と地域問題
- 3回 日本の地域政策体系と政策手段
- 4回 特定地域総合開発計画
- 5回 全国総合開発計画（第一次、第二次）について
- 6回 全国総合開発計画（第三次、第四次）について
- 7回 国土のグランドデザインについて
- 8回 国土形成計画について
- 9回 地域政策の転換と今後の政策に必要なもの（ワークショップ）
- 10回 新産業育成と地域政策（環境産業を事例に）
- 11回 地域連携と地域政策
- 12回 地域づくりと地域政策（観光振興を事例に）
- 13回 地域づくりと地域政策（ソーシャルビジネスを事例に）
- 14回 地域政策と地域経営
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストもしくは小レポート... 20% 期末テスト... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域政策【夜】

キーワード /Keywords

地域政策、地域問題、新たな公共、地域経営

経営戦略論【夜】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 経営戦略の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経営戦略に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 経営戦略に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営戦略論

BUS213M

授業の概要 /Course Description

現代社会は企業によって成り立っており、企業経営の成否は死活問題です。それでは、企業は、他企業のひしめく市場の中で、どのように利益を上げ、生存を図っているのか。それを決定づける要因が経営戦略です。本講義では、「戦略とは何か」という理解に立ちながら、経営戦略に関する基本的な理論、実践について考察していきます。

教科書 /Textbooks

東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学（新版）』有斐閣、2008年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ジェイ・B・バーニー(岡田正大訳)『企業戦略論』(上・中・下)ダイヤモンド社、2003年(○)。
沼上幹+一橋MBA戦略ワークショップ『戦略分析ケースブック Vol.2』東洋経済新報社、2012年。
C.I.バーナード(山本保次郎・田杉競・飯野春樹訳)『[新訳]経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年(○)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 経営戦略とは? 【戦略という概念】【企業の営為と経営戦略】
- 第3回 経営戦略の基礎 【フォードとGM】【経営戦略の2つのレベル】【多角化戦略】
- 第4回 事業戦略 【マクドナルドとモスバーガー】【3つの基本戦略】
- 第5回 全社戦略① 【シャープ】【資源蓄積】【VRIO】
- 第6回 全社戦略② 【PPM】
- 第7回 全社戦略③ 【フジフィルム】【ドメイン】【事業創造】
- 第8回 事業戦略の発展① 【コストリーダーシップの発展】【トヨタ生産方式】
- 第9回 事業戦略の発展② 【コストリーダーシップ+差別化】【セブンイレブン】
- 第10回 事業戦略の発展③ 【市場創造】【ヤマト運輸】
- 第11回 全社戦略の発展① 【M&A】【垂直統合】【多角化】
- 第12回 全社戦略の発展② 【国際経営】【BOP】【ノキア】
- 第13回 全社戦略の発展③ 【株主戦略】【カゴメ】
- 第14回 経営戦略と倫理 【三菱ふそう】【意思決定】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト...80% 小レポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストを読み、事前に予習してください。
状況に応じて、臨機応変に進めていきたいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

経営戦略論 【夜】

キーワード /Keywords

意思決定 目的と環境 事業戦略 全社戦略

公共政策論【夜】

担当者名 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	公共政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が公共政策の課題であるか見極め、公共政策の基本的な分析能力を身につけ、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共政策論

PLC211M

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにある。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにした。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えている。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのである。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えている。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからである。受講者には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はどのような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通じてそうした問題意識をもつことを望む。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。毎回、プリント教材を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示する予定。とりあえず以下のものをあげておく。
秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』（有斐閣、2010年）
伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法』（東京大学出版会、2011年）
ユージン・バーダック著、白石賢司ほか訳『政策立案の技法-問題解決を「成果」に結び付ける8つのステップ』（東洋経済新報社、2012年）。
阿部彩『子どもの貧困-日本の不平等を考える』（岩波書店、2008年）
阿部彩『子どもの貧困II-解決策を考える』（岩波書店、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および受講者へのアンケート
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命（社会起業家論）
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策
- 4回 子どもの貧困（1）・・・貧困とは何か、子どもの貧困とは何か
- 5回 子どもの貧困（2）・・・日本における子どもの貧困を考える
- 6回 子どもの貧困（3）・・・子どもの貧困をどうするか、大学生の状況は？
- 7回 子どもの貧困（4）・・・比較の視座から考える子どもの貧困
- 8回 子どもの貧困（5）・・・解決策を考える
- 9回 循環型社会（1）・・・リサイクルは環境に優しいのか？
- 10回 循環型社会（2）・・・ペットボトルのリサイクル
- 11回 介護保険（1）・・・導入
- 12回 介護保険（2）・・・現状分析
- 13回 介護保険（3）・・・問題点とその検討
- 14回 介護保険（4）・・・介護保険の改革
- 15回 まとめ

公共政策論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50 %、授業貢献度など...50%。毎回講義の終了後、小用紙を配布し講義内容に対する質問・意見のある学生には、書いてもらい成績評価に加える。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回配付するレジュメ、参考資料、論文、新聞記事等をしっかり読んで、次の授業に参加すること。
本年度は授業内容（循環型社会の回数等）を変更する可能性があるため、第一回目の講義には必ず参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しないと何も始まりません。担当者もそれなりの準備をして授業にのぞみますので必ず授業に出席するようにしてください。

キーワード /Keywords

公共政策、社会起業家、子どもの貧困、循環型社会、リサイクル、介護保険

都市環境論 【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 都市環境（水・大気・廃棄物など）に関する体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 都市環境に関する政策課題を見極め、政策的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える都市環境の政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市環境論 PLC111M

授業の概要 /Course Description

回収された家庭からのゴミはどう処理されるのか？ また、街路樹の落ち葉の清掃、家庭からの排水の行方、水道水の水源など一般生活に必要な知識を私たちはもっていません。本授業では、基礎的な都市の環境保全や環境教育を学びます。中でも九州の学生に知っておいてほしいのは、環境問題や環境教育の原点とも言われる水俣病です。水俣病の問題がなぜいまだに解決を見ていないのか、歴史を紐解き、その中身をじっくり見る必要があります。また、ペットボトルに入ったミネラル・ウォーターが本当にうまいと感じるのか、感じるとすればなぜなのかなど実際に水を飲む「利き水大会」といった環境教育アクティビティを多用します。

「環境未来都市」北九州市に居住・通学する人間としての自覚を最終的には持つことができるようになってください。ここでは、私たちの日常生活を取り巻く都市生活環境についての知識を吸収し、きちんと理解し、「環境未来都市」北九州市に居住する市民としてそれにふさわしい生活態度や行動に連動させていくといった実践力を養います。これを起点として、私たちが持続可能な都市生活を続けるためにも本分野を生涯にわたって学習するという姿勢に連動することを望みます。

教科書 /Textbooks

特に指定しませんが、その都度資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 日本環境学会編集委員会編『新・環境科学への扉』有斐閣コンパクト、2001年
- * 多田満『レイチエル・カーソンに学ぶ環境問題』東京大学出版会、2011年
- * 北九州市環境局『北九州市の環境 平成24年度版』（北九州市役所HP掲載）
- * 原田正純『水俣学講義』日本評論社、2004年
- * 朝岡幸彦編『新しい環境教育の実践』高文堂出版社、2005年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「都市環境論」の授業内容とねらいの説明【環境意識】
- 第2回 環境目標の設定、環境教育とESD（持続可能な開発のための教育）
：簡単な環境意識度チェック 【ESD】
- 第3回 三宅ゼミの水俣研修旅行の記録報告と水俣について 【環境学習旅行】
- 第4回 水俣病とは？ 水俣学とは？ 多角的検証 【水俣病】
- 第5回 日本の環境政策の歴史と課題 【環境政策】
- 第6回 北九州市の環境の現状 【北九州市】
- 第7回 廃棄物管理 その原理と現状～一般廃棄物、産業廃棄物、3R 【廃棄物管理】
- 第8回 食と農～健康の源＝自らの食を見直そう 【食農】
- 第9回 下水処理をめぐって～下水処理の原理 【水質汚濁】
- 第10回 下水処理をめぐって～途上国インドのし尿処理問題 【途上国のし尿問題】
- 第11回 上水道 ：（アクティビティ＝きき水比べ） 【おいしい水】
- 第12回 大気汚染～汚染の原理と現状 【大気汚染】
- 第13回 大気汚染～身近な生活からの実験を通して 二酸化炭素吸収度の算定 【CO2計測】
- 第14回 環境保全・環境教育に取り組む人々＝エコツーリズムに関わろう！【エコツーリズム】
- 第15回 まとめ

都市環境論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む日常的な姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 期末試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

時々の小課題の実施

授業2回目に、エコライフ・チェックの調査結果に基づいて各自の環境目標を立ててもらうので、できるだけ2回目の授業の欠席は避けてください。また、北九州市の環境に興味のある受講生は、教養科目の北九州学（北九州市と環境）の同時受講も勧めておきます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境保全は楽しむことの中で実践できればいいと考えています。そのような方法も学びますので、他の機会にでも実践してください。

キーワード /Keywords

E S D (持続可能な開発のための教育)、各自の環境教育目標、環境教育アクティビティ

日本国憲法原論【夜】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法全体の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法学的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える憲法に関わる諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本国憲法原論

LAW120M

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのてがかりにしていただきたい。講義全体のキーワードは【立憲主義】と【民主主義】である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室（全訂第2版）』（日本評論社・2006年）
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法（第5版）』（岩波書店・2011年）
- 長谷部恭男『憲法（第5版）』（新世社・2011年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法の意義
- 第2回 憲法の展開
- 第3回 人権論① 【人権保障と人権制約】
- 第4回 人権論② 【裁判所による権利保障】
- 第5回 統治機構論① 【国民主権】
- 第6回 統治機構論② 【権力分立】
- 第7回 統治機構論③ 【日本の政治制度】
- 第8回 統治機構論④ 【日本の選挙制度】
- 第9回 平和主義論① 【憲法9条の制定・意義】
- 第10回 平和主義論② 【平和主義の現実と未来】
- 第11回 平和主義論③ 【憲法9条と裁判所】
- 第12回 地方自治 【新しい地方自治の姿と課題】
- 第13回 憲法保障 【憲法保障・憲法改正・憲法変遷】
- 第14回 日本憲法史 【大日本帝国憲法の興亡】
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

法学部1年生は昼間開講「日本国憲法原論」の受講を勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職論 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）、等に関する教職に関する基本的な知識を獲得し、教職についての理解を深め、教職についての課題を発見し、思考し、教職についての意欲や適性等を熟考し、「学生が教員としての適格性を持つためにどのような努力をしていけばよいのか」ということを含めて、進路選択に資する各種の機会の提供等の指導を受ける。

（以下、平成26年度以降入学生）

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし（授業中に適宜紹介する）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

（【】内はキーワード）

1回 学校教育と教職の意義	【学校教育】【教職】
2回 学校教育と教員の役割	【学校】【教育】【教員の役割】
3回 学校教育の「目的」	【教育目的論】
4回 学校教育の「内容」と「方法」	【教育課程】【教育課程の編成原理】
5回 教員の職務内容と生徒指導	【教員の職務】【生徒指導の伝統】
6回 キャリア教育と進路選択	【職業選択の基礎理論】【進路選択】
7回 教員の使命	【教育の論理】【生活の論理】
8回 「生きる力」と教員の資質と適格性	【青少年の意識】【愛と要求】
9回 「自主的な問題解決」と教員の役割	【自主性】【生徒の意識】
10回 「いのちの教育」と教員の役割	【生と死の教育課程】
11回 「身体教育」と教員の役割	【健康管理】【食教育】【排便教育】
12回 「喫煙防止」と教員の役割	【未成年者喫煙防止法】
13回 「掃除」と教員の役割	【学校掃除】【掃除の指導】
14回 「評価」「懲戒」と「体罰」の相違	【評価の種類】【体罰】
15回 教員の「資質」と「適格性」/まとめ	【指導】【管理】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストを含む） 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年				
対象入学年度 /Year of School Entrance	2003		2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○	○

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN:教育とは何か
- 2回 教育の関係:教育のモデル
- 3回 生涯にわたる発達と教育:生涯発達
- 4回 発達段階と発達課題:思春期・青年期
- 5回 家庭教育の課題:社会化
- 6回 教育思想①:諸外国の教育思想
- 7回 教育思想②:日本の教育思想
- 8回 教育史①:西洋教育史
- 9回 教育史②:日本教育史
- 10回 学校教育の機能:基礎集団としての学級
- 11回 学校教育の課題:学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育:教材・方法
- 13回 職業と教育:進路形成
- 14回 国際化と教育:言語・文化
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 10% 課題 30% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

配布したレジユメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。
また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著
『発達心理学 周りの世界とかがわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3)』
ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」
その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達の特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解①【発達障害の基本的理解】
- 第14回 児童生徒の心理と理解②【発達障害と思春期】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育指導論【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、「学習指導要領」に規定されている学校教育（中学校・高等学校の教育；参考のために小学校の教育も含む）における道徳教育の指導についての基本的な知識を獲得し、理解し、道徳教育についての基本的なスキルを獲得し、課題を発見し、思考し、学習指導案の作成について学習する。

教科書 /Textbooks

文部科学省『中学校学習指導要領』（平成20年）＜中学校教諭免許状の取得希望者＞、文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成21年）＜高等学校教諭免許状の取得希望者＞

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「学校教育」における道徳教育の構造	【学校教育の全領域
2回 「各教科」と道徳教育	【陶冶】【訓育】【教育活動全体を通じて行う指導】
3回 「特別活動」と道徳教育	【学級活動】【生徒会活動】【学校行事】
4回 「総合的な学習の時間」と道徳教育	【横断的・総合的な学習】【活動】
5回 道徳教育の目標と内容	【道徳の時間の指導内容】【全体計画】
6回 「道徳の時間」の計画と指導	【指導方法】
7回 学習指導案の内容と作成と指導	【学習指導案】【指導技術】
8回 「道徳の時間」と「モラルジレンマ」	【ジレンマ教材】【対立・葛藤】
9回 「道徳の時間」と「役割演技」	【動作化】【ロール・プレイ】
10回 「道徳の時間」と「アサーション」	【主張】
11回 「道徳の時間」と「エンカウンター」	【出会い】【構成的グループエンカウンター】
12回 「道徳の時間」と「作文」	【教育的リアリズム】【教育的ヒューマニズム】
13回 「道徳の時間」と「体験」	【自然体験】【社会体験】【家庭や地域社会との連携】
14回 「道徳の時間」の「模擬授業」	【道徳教育の評価】
15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストを含む）100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動論【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

1. 文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。
2. 学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画の作成方法を理解する。(特別活動の指導案の作成など)
3. 子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。
4. 生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説 「特別活動編」(平成20年9月)
高等学校学習指導要領 「特別活動」

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
高旗正人他編 「新しい特別活動指導論」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 特別活動の教育的意義
- 2回 学級活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章第1節他)
- 3回 学級活動の実際 その1 中学校の実践
- 4回 学級活動の実際 その2 高等学校の実践
- 5回 生徒会活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章2節他)
- 6回 学校行事の目標・内容と指導計画(テキスト第3章3節他)
- 7回 学校行事の実際 - 合唱コンクールの取り組み
- 8回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その1 対立解決プログラムについて
- 9回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その2 傾聴のスキル、アサーティブネス
- 10回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その3 ウイン・ウイン型の問題解決
- 11回 生徒の実態を捉えた学級経営と学級経営案
- 12回 学級の荒れを克服し、お互いを大切に作る人間関係を築く学級活動の取り組み
- 13回 困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
- 14回 指導計画の作成と内容の取扱い(テキスト第4章)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点(課題レポートなど) 期末試験 80点
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画の作成、学級活動の実際

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、各教科等を実際に指導する場面を想定し、学習指導案の作成や教材研究等を組み入れて、将来の高度情報社会に生きる生徒に必要な資質を養うための、教育方法についての基本的な知識を獲得し、理解し、教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）の理論と基本的なスキルを獲得するとともに、教育方法についての課題を発見し、思考する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし (授業中に適宜紹介する)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 「教育の方法」とは何か	【教育の方法の形態】【比喩・モデル】
2回 20世紀までの「教育の方法」の遺産	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「現代」の「教育の方法」	【連続と非連続】【現代化】
4回 「新しい時代」の教師の「指導技術」	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
5回 情報機器及び教材の活用	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
6回 「情報化社会」における生徒の指導	【情報化社会】【インターネット】
7回 「学習遅滞」の指導	【学習遅滞】【SHELLモデル】
8回 教師と生徒の「コミュニケーション」	【話す】【聞く】
9回 「学習規律」を育てる指導方法	【出席と参加】【学習規律】
10回 各教科指導の「具体的システム」	【学習指導要領】【学習のシステム】
11回 各教科指導の「構想」と「教材研究」	【授業の三角形モデル】【事前の教材解釈】
12回 各教科指導の「学習指導案」の作成	【指導】【学習活動】【指導上の留意点】
13回 各教科指導の「展開過程」における「指導技術」	【発問】【説明】【指示】【助言】
14回 各教科指導における「評価」	【授業評価】【自己評価】
15回 「模擬授業」 - 各教科指導に向けて -	【実践的な指導】【各教科の授業】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストを含む) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生徒・進路指導論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導に関する家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境等の何らかの要因による困難な課題を抱える子どもの自立を支援する生徒指導の取り組みについて学習すること。
- ④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。
- ⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
- 嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 (高文研)
- 文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
- 児美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
- キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 生徒指導の意義と原理(テキスト第1章他)
- 3回 教育課程と生徒指導(テキスト第2章他)
- 4回 学級活動・学校行事と生徒指導 - 中学校1年生の実践報告
- 5回 学級活動・学校行事と生徒指導 - 中学校3年生の実践報告
- 6回 生徒指導に関する法制度等(テキスト第7章他)
- 7回 生徒指導における家庭・地域・関係機関との連携(テキスト第8章他)
- 8回 我が子の非行と向き合う親たちの会の方の講演
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 11回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
- 12回 進路指導、キャリア教育における職場体験学習の意義を考える
- 13回 個別の課題を抱える生徒への指導 その1 (テキスト 第6章2節他)
- 14回 個別の課題を抱える生徒への指導 その2 養育環境に困難さを抱える生徒の問題(テキスト第6章10節他)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受け身的な受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。

生徒・進路指導論【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、激しい行動化を表出する生徒への指導、進路指導

教育相談【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談)、教育相談の学校体制、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談の基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

教科書 /Textbooks

春日井敏之・伊藤美奈子編 「よくわかる教育相談」 ミネルヴァ書房
文科省編 「生徒指導提要」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 教育相談の意義
- 2回 教育相談の担い手としての教師(テキスト 第1章 生徒指導提要第4章)
- 3回 子どもの発達課題と教育相談(テキスト 第2章)
- 4回 教育相談の基本的な理念について - 人間に内在する力への信頼、受容、共感的理解
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれた質問と直面化
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ体験
- 7回 子どもの「問題行動」と教育相談 その1 不登校問題など(テキスト 第3章)
- 8回 子どもの「問題行動」と教育相談 その2 摂食障害、性の問題行動など(テキスト 第3章)
- 9回 子どもの「問題行動」と教育相談 その3 薬物問題(外部講師)
- 10回 特別支援教育と教育相談(テキスト 第4章)
- 11回 予防・開発的取り組みと教育相談(テキスト 第5章)
- 12回 保護者への支援と教育相談(テキスト 第7章)
- 13回 教育相談の学校体制とスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどとの連携(テキスト第IX章)
- 14回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 文科省の通知(H25.10.15)内容と学生の体験報告を踏まえて
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%

なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストはできるだけ授業の前に読んでおくこと。

教育相談【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、予防・開発的教育相談、問題解決的教育相談

障害児の心理と指導 【夜】

担当者名 /Instructor 村上 太郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えながら考える。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児・者心理学について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第6回 視覚障害について
- 第7回 聴覚障害について
- 第8回 姿勢・運動の障害について
- 第9回 知的障害について
- 第10回 自閉症スペクトラム障害について
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「世界が100人の村だったら」【世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ】【非識字者・同性愛者の人権】【人権教育のスキル・技能】
- 第2回 いじめ差別①(現状認識)【いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)】【各種調査(教育白書・国際調査等)】
- 第3回 いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)【いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理】【文部科学省のいじめ定義】【道徳教育と人権教育の相違点】
- 第4回 いじめ差別③(解決への教育創造)【文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」】【金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」】【自尊感情と学力形成の相関関係】【学校文化と子どもの居場所づくり】
- 第5回 子どもの人権と児童虐待防止法【児童虐待の現状認識(新聞記事・教育白書等)】【教師の責務と教育・啓発の教育創造】
- 第6回 ものけ姫①(メッセージからの課題)【物語の時代背景と登場人物から課題の整理】【ハンセン病問題と国の隔離政策】【国家賠償と社会復帰】
- 第7回 ものけ姫②(メッセージからの課題)【女性差別の歴史】【学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える】
- 第8回 同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)【身分差別をつくったのは、誰?】【中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義】
- 第9回 同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)【身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?】【「賤民」身分にされたのは、どんな人々?】【一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義】
- 第10回 同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)【解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?】【一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚】
- 第11回 同和問題との出会い直し④(文学者と部落差別)【小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)】
- 第12回 同和問題との出会い直し⑤(結婚差別)【結婚差別の事例からの課題と解決への展望】【しきたり・ならわし・慣習との出会い直し】
- 第13回 同和問題との出会い直し⑥(人権文化の創造)【教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度】
- 第14回 同和問題との出会い直し⑦(国の施策)【1965年の同和対策審議会・答申の意義】【1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義】
- 第15回 同和問題との出会い直し⑧(人権文化のまちづくり)【各地の人権文化のまちづくりの現状】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(30%)及び学期末のレポートによる評価(70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の中で課題を出します

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯学習学【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、社会教育の法制度、国際的な生涯教育論の展開なども視野に入れつつ、生涯学習を支援・推進する制度・システムについて考えていきます。内容としては、生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、教育に関する法律・自治体行財政・施策、学校教育・家庭教育等との関連、並びに社会教育施設、専門的職員の役割、学習活動への支援等の基本を解説します。

授業のねらいは、生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門的職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的能力を養うことにあります。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- 雑誌『月刊 社会教育』国土社
- 雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会
- 雑誌『月刊 公民館』全国公民館連合会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回生涯学習・社会教育の意義
- 第2回 生涯学習ボランティア -学習への支援と学習成果の活用-
- 第3回社会教育と生涯学習関連の法制度
- 第4回社会教育施設と生涯学習施設 -管理運営と連携-
- 第5回生涯学習関連施策の動向 -社会教育の歴史と発展-
- 第6回学習者の特性と学習の継続発展-学習相談、サービス、学習情報の提供
- 第7回社会教育の内容・方法・形態-学級・講座の企画
- 第8回社会教育及び生涯学習関連の指導者とボランティア
- 第9回社会教育施設-公民館
- 第10回社会教育施設-博物館
- 第11回社会教育施設-図書館
- 第12回大都市における公民館-北九州市 -自治体行財政制度と施策立案・推進-
- 第13回図書館、博物館における学習・グループ活動
- 第14回成人教育の国際的動向 -日本の特質と学習権-
- 第15回住民の力量形成と地域づくり -家庭教育・学校教育・社会教育の連携-

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート...70% 課題レポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学芸員資格や社会教育主事資格として受講する場合、必修科目の基本科目としてこの授業を先に受講するか、他の関連科目とあわせて受講すると、資格科目の理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 2学期
授業形態 /Class Format 講義 クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、教員免許を取得するにあたって必要な教育方法・技術、教材と教具、指導方法を学び、授業の実践的指導力の基礎を養うことを目標とする。また近年の著しいICT(情報通信技術)の進展を踏まえ、PCやWebを活用した教材作成の方法・技術の修得の基礎についても概観する。さらに、模擬授業の実施及び評価等を通して、教育の方法と技術の実践的活用能力の基礎を育成し、各教科等の指導に最小限必要な資質について学ぶことを主なねらいとする。

教科書 /Textbooks

指定しない。必要な資料を適宜事業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 平成20年3月告示 東山書房 244円
高等学校学習指導要領 平成21年3月告示東山書房 588円
平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化2000円
小川哲生他著 教育方法の理論と実践 明星大学出版部 1500円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
1. オリエンテーション【本授業の内容・進行・評価方法】
 2. 授業と教育方法【教育方法】
 3. 授業と教育技術【教育技術】
 4. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順【授業設計】
 5. 授業過程の分析と改善【授業過程】
 6. 授業実施の技術【授業技術】
 7. 授業の評価【授業評価】
 8. 教育における情報化社会の影響【情報化社会】
 9. 教育におけるICT(情報通信技術)の活用【ICT】
 10. 学習指導案の作成【学習指導案】
 11. 教材研究【教育メディアとその活用】
 12. 模擬授業【模擬授業】
 13. テストと学習内容の評価【テスト】
 14. 授業実践能力の改善と向上【教育の方法と技術の実践能力】
 15. 現代の教育課題と講義のまとめ【現代の教育課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

教材研究課題(20%)、模擬授業(30%)、試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教材研究、模擬授業等に関する課題の提出は必須の課題となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords